茨城県教育財団文化財調査報告第346集

小　作　遺　跡

主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

平成２３年３月

茨城県竜ケ崎工事事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第346集

小作遺跡

財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第346集

小作（こさく）遺跡

主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

平成23年3月

茨城県竜ケ崎工事事務所
財団法人茨城県教育財団

遺跡全景（南上空から）

第242号土坑墨書土器出土状況

序

茨城県では，平成12年に茨城県長期総合計画を改定し，「愛されるいばらき」を実現するため，長期的な展望のもとに県土の基盤整備を行っています。特に道路網については，県土60分構想実現のための道路整備を推進しているところです。

その一環として，茨城県竜ケ崎工事事務所は，稲敷郡阿見追原地区において，首都圏中央連絡自動車道阿見東インターチェンジへのアクセスや周辺地域の交通渋滞解消等を目的として主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業を計画しました。しかしながら，その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である小作遺跡と根方遺跡，米根井向遺跡が所在し，記録保存の措置を講ずる必要があるため，当財団が茨城県竜ケ崎工事事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け，小作遺跡は平成21年２月から７月までの６か月間，根方遺跡は平成21年５月から９月までの５か月間にわたりこれを実施しました。米根井向遺跡については，平成20年６月から７月までの調査成果を当財団の『文化財調査報告』第333集で刊行しているところであります。

本書は，小作遺跡の調査成果を収録したもので，学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県竜ケ崎工事事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，阿見町教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，深く感謝申し上げます。

平成23年 3月

財団法人茨城県教育財団
理 事 長 稲 葉 節 生

例　　言

1　本書は，茨城県竜ケ崎工事事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成20・21年度に発掘調査を実施した，茨城県稲敷郡阿見町大字追原字道地台1970番地ほかに所在する小作（こさく）遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成21年２月１日～７月17日

整理　平成22年４月１日～平成23年３月31日

3　発掘調査は，調査課長池田晃一のもと，以下の者が担当した。

平成20年度

首席調査員兼班長	三谷　正	平成21年２月１日～３月31日
調　査　員	清水　哲	平成21年２月１日～３月31日
調　査　員	市川康弘	平成21年２月１日～３月31日（大成エンジニアリング株式会社）

平成21年度

首席調査員兼班長	成島一也	平成21年４月１日～７月17日
主任調査員	飯田浩彦	平成21年４月１日～７月17日
主任調査員	寺内久永	平成21年４月１日～５月10日
調　査　員	作山智彦	平成21年４月１日～７月17日
調　査　員	永井三郎	平成21年４月１日～７月17日

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長樫村宣行のもと，以下の者が担当した。

主任調査員	舟橋　理	平成22年５月１日～７月31日
調　査　員	清水　哲	平成22年４月１日～平成23年３月31日

5　本書の執筆分担は下記のとおりで，編集は清水が行った。

舟橋　理　　第１章～第３章第３節２

清水　哲　　第３章第３節３～第４節

6　本書の作成にあたり，古墳時代前期の土器については神奈川県立追浜高等学校教頭西川修一氏及び茨城大学准教授田中裕氏に，奈良時代・平安時代の集落については市立市川考古博物館学芸員山路直充氏にご指導いただいた。

7　第242号土坑から出土した墨書土器の鑑定については国立歴史民俗博物館館長平川南氏に依頼し，富山大学教授鈴木景二氏，京都府立総合資料館土橋誠氏の釈文案とそれらについての所見をいただき，その内容は第４章に掲載した。第537号土坑から出土した馬歯の分析については国立歴史民俗博物館教授西本豊弘氏に依頼し，考察は付章として巻末に掲載した。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋2,320ｍ，Y＝＋38,000ｍの交点を基準点（Ａ１a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40ｍ四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，４ｍ四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ…，西から東へ１，２，３…とし，「Ａ１区」「Ｂ２区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「Ａ１a1区」，「Ｂ２b2区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　　Ｐ－ピット　PG－ピット群　SB－掘立柱建物跡　SD－溝跡　SF－道路跡
　　SH－方形竪穴遺構　SI－竪穴住居跡　SK－土坑　SX－溜井跡　TP－陥し穴

遺物　　DP－土製品　G－ガラス製品　M－金属製品　Q－石器・石製品　T－瓦　TP－拓本記録土器

土層　　K－撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の１，各遺構の実測図は原則として60分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として３分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

□ 焼土・赤彩・施釉・朱墨　　□ 炉・火床面・繊維土器断面

□ 竈部材・粘土範囲・黒色処理　　□ 柱痕跡・柱あたり

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　■瓦　-・-・- 硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。計測値の単位はｍ，cm，kg，ｇで示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

6　竪穴住居跡の「主軸」は，炉・竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
概　要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 5
　第１節　調査に至る経緯 …… 5
　第２節　調査経過 …… 6
第２章　位置と環境 …… 7
　第１節　地理的環境 …… 7
　第２節　歴史的環境 …… 7
第３章　調査の成果 …… 12
　第１節　調査の概要 …… 12
　第２節　基本層序 …… 12
　第３節　遺構と遺物 …… 14
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 14
　　(1) 竪穴住居跡 …… 14
　　(2) 掘立柱建物跡 …… 22
　　(3) 陥し穴 …… 26
　　２　古墳時代の遺構と遺物 …… 29
　　(1) 竪穴住居跡 …… 29
　　(2) 土坑 …… 60
　　３　奈良時代の遺構と遺物 …… 61
　　(1) 竪穴住居跡 …… 61
　　(2) 掘立柱建物跡 …… 87
　　４　平安時代の遺構と遺物 …… 110
　　(1) 竪穴住居跡 …… 110
　　(2) 掘立柱建物跡 …… 169
　　(3) 方形竪穴遺構 …… 207
　　(4) 大形円形土坑 …… 220
　　(5) 円筒形土坑 …… 224
　　(6) 土坑 …… 235
　　(7) ピット …… 251

５　その他の遺構と遺物 …… 253
(1) 竪穴住居跡 …… 253
(2) 掘立柱建物跡 …… 254
(3) 道路跡 …… 263
(4) 溜井跡 …… 264
(5) 溝跡 …… 265
(6) 土坑 …… 268
ア　土坑 …… 268
イ　火を用いた痕跡がある土坑 …… 269
ウ　その他の土坑 …… 270
(7) ピット群 …… 290
(8) ピット …… 297
ア　縄文時代の可能性があるピット …… 297
イ　その他のピット …… 300
(9) 遺構外出土遺物 …… 326
第４節　まとめ …… 329
付　章 …… 353
写真図版 …… PL １～58
抄　録
付　図

小作遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

小作遺跡は，稲敷郡阿見町の北東部に位置し，霞ヶ浦の南方約２km，清明川左岸の北東方向へ延びるやせ尾根状の台地上を中心に広がっています。

今回，首都圏中央連絡自動車道（圏央道）へのアクセス道路である主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパスの建設に先立って，遺跡の記録保存を目的として，茨城県教育財団が発掘調査を実施しました。調査期間は，平成21年２月から７月までの６か月間で，面積は，9,476㎡でした。

調査の内容

調査区は，遺跡東端部の標高14～25ｍの斜面部から台地上にかけて位置しています。調査の結果，縄文時代，古墳時代，奈良時代，平安時代の集落跡が確認できました。ここでは，遺跡の中心的な時期となる古墳時代前期と奈良時代・平安時代の集落跡の概要を紹介します。

台地上に広がる竪穴住居跡と掘立柱建物跡

古墳時代前期（約 1,650 年前）の遺構は，竪穴住居跡 10 軒，土坑 1 基が確認できました。住居跡は，建物の向きや柱・炉の配置などから二時期に分けられます。出土した土師器は，東海地方や東京湾岸地域などの特徴が認められ，様々な地域から移動してきた人たちによって，集落が作られたことが分かりました。また，在地の弥生土器も出土しており，弥生文化を踏襲した集落との交流があった可能性があります。

一辺約９ｍの大形住居跡（第 30 号住居跡）

上総地方の平底甕

南武蔵地方の台付甕

刻目の装飾が付いている器台

東京湾岸地域の装飾壺

東海地方の特徴がみられる高坏

三角形や円形の透かし孔がある器台

奈良時代（約 1.300 年前）の遺構は，竪穴住居跡 8 軒，掘立柱建物跡 13 棟が確認でき，一辺６～７ｍの大形住居と桁行４間以上の大形建物を中心とした集落の構造が認められます。しかし，建物の向きや配置には規則性が無く，必要に応じて建て替えられていたようです。出土遺物は，銅鋺を真似た土師器坏や朱墨が付着した須恵器坏，硯に転用された須恵器蓋・盤などがあり，集落が作られた当初から社会的，経済的に優位な立場にあった集団であったことがうかがえます。

一辺約７ｍの大形住居跡（第 25 号住居跡）

南面に庇が付く大形建物跡（第 29 号掘立柱建物跡）

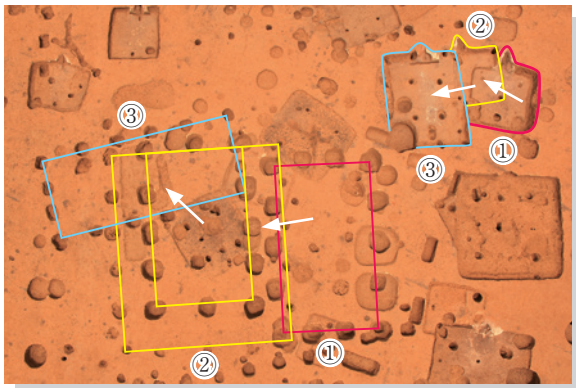
銅鋺を模倣した土師器坏

桜川市犬田神社前遺跡から出土した銅鋺

銅鋺は，７・８世紀頃に朝鮮半島からもたらされた仏教の道具です。当遺跡から出土した土師器坏は，これを真似て作られたもので，表面を丁寧に磨き，内面には金属の光沢を表現した渦状の模様が施されています。

平安時代（約 1.200 ～ 900 年前）の遺構は，竪穴住居跡 24 軒，掘立柱建物跡 16 棟，方形竪穴遺構 11 基，大形円形土坑１基，円筒形の土坑 11 基などが確認でき、主な遺物としては，多数の墨書土器や灰釉・緑釉陶器，土馬などが出土しています。

９世紀は，三面庇付建物に代表される大形の建物が出現し，その周囲には一辺４ｍ以下の住居や倉庫と考えられる建物が配置されています。10 世紀前半には，東壁に竈が設けられた住居や円筒形の土坑，「氷室状遺構」の考え方もある大形円形土坑なども現れます。10 世紀後半になると小形の住居しかみられなくなり，11 世紀前半以降，集落は他の場所へ移動したようです。



セットで建て替えられた大形建物跡と住居跡

三面庇付建物跡（第 19 号掘立柱建物跡）

墨書土器の出土状況

仮名文字が墨書された土師器坏

【鈴木景二氏釈文案】

□き見末

和（or 利）奈毛比

□□（天カ志カ）无（or 耳）

坏類と共に出土した土馬

土　馬

土馬は，平安時代のマツリの道具です。飢饉や長雨の際，水霊に祈るために捧げられたり，疫病や祟りを封じるため，その乗り物とされた馬をかたどって，故意に壊して捨てられたと考えられています。

墨書土器「寺」

灰釉陶器皿

灰釉陶器椀

調査の成果

① 古墳時代の住居跡から出土した土器は，前期初頭の３世紀後半に位置づけられます。当集落はこの地域に古墳文化をもたらした人々のムラと考えられ，弥生時代から古墳時代へ移り変わる時期の様子が明らかになりました。

② 奈良時代・平安時代の集落は，古代の稲敷地域（信太郡子方郷）における有力者の邸宅地と考えられます。国府へ赴く中央の役人などをもてなし，宴会や儀式なども執り行われた場所であったと推測できます。

③ 平安時代（10 世紀前半）の仮名文字が書かれた墨書土器は，地方への仮名文字の普及を知る上での一級資料です。文字の確定ができなかったため，全体の意味は分かりまんが，和歌の一部である可能性もあり，古代常陸国の雅な文化の一側面を現在に伝える希少な資料といえます。

第１章　調　査　経　緯

第１節　調査に至る経緯

平成 17 年４月８日，茨城県竜ケ崎土木事務所（現茨城県竜ケ崎工事事務所）長は，茨城県教育委員会教育長に対して，主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成 17 年５月 26 日に現地踏査を，平成 20 年 11 月 17・18 日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。試掘調査結果に基づき，茨城県教育委員会教育長は茨城県竜ケ崎土木事務所長あてに，事業地内に小作遺跡，根方遺跡，米根井向遺跡が所在すること，及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成 20 年 12 月 18 日，茨城県竜ケ崎土木事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第 94 条の規定に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。同日付けで，茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，茨城県竜ケ崎土木事務所長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成 20 年２月 26 日，茨城県竜ケ崎土木事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業（米根井向遺跡）に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成 20 年２月 26 日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県竜ケ崎土木事務所長あてに，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，あわせて調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。平成 20 年 12 月 19 日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県竜ケ崎工事事務所長及び財団法人茨城県教育財団理事長あてに，主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業に係る平成 20 年度埋蔵文化財発掘調査計画変更（小作遺跡の追加）についての協議書を提出した。平成 20 年 12 月 22 日財団法人茨城県教育財団理事長は茨城県教育委員会教育長に対して，発掘調査計画の変更について同意する旨の回答をした。平成 20 年 12 月 24 日，茨城県竜ケ崎工事事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに，発掘調査計画の変更について同意する旨の回答があった。財団法人茨城県教育財団は，茨城県竜ケ崎工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成 21 年２月１日から３月 31 日まで発掘調査を実施することになった。

さらに，継続調査が必要であることから，平成 21 年２月 19 日，茨城県竜ケ崎工事事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成 21 年２月 20 日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県竜ケ崎工事事務所長あてに，小作遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，あわせて調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。財団法人茨城県教育財団は，茨城県竜ケ崎工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成 21 年４月１日から７月 17 日まで発掘調査を実施することになった。

第2節　調　査　経　過

小作遺跡の調査は，平成21年２月１日から３月31日，平成21年４月１日から７月17日までの６か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。

期間 工程	２月	３月	４月	５月	６月	７月
調査準備 表土除去 遺構確認						
遺構調査						
遺物洗浄 注記 写真整理						
補足調査 撤収						

平成21年７月17日に土地引き渡し。

第2章　位　置　と　環　境

第1節　地 理 的 環 境

小作遺跡は，茨城県稲敷郡阿見町大字追原字道地台1970番地ほかに所在している。

阿見町は茨城県の南部に位置し，町の北東部は霞ヶ浦に面している。町域の地形は，稲敷台地の北東部にあたる洪積台地と，霞ヶ浦や清明川・桂川・乙戸川の沿岸の沖積低地に大別される。洪積台地の標高は南東部では30 m，西部で24 m前後となり，東から西へ向かって緩やかに傾斜している。また洪積台地は，各河川に開析され樹枝状に入り組んだ複雑な地形をなしている。

台地の地質は，古東京湾に堆積した成田層を基盤とし，シルト質の下層部と砂質の上層部からなっている。その上に細礫を含む細粒砂層からなる龍ヶ崎砂礫層が堆積している。さらには，凝灰質の常総粘土層，関東ローム層が順に堆積し表土に至っている。

当遺跡は阿見町の北東部，霞ヶ浦の南方約２㎞に位置し，霞ヶ浦に流入する清明川左岸の標高14～25 mの斜面部から台地上にかけて立地している。調査前の現況は畑地である。当遺跡の立地する台地は，南北に清明川支流の沖積低地があり，北は崖状，南は急勾配の斜面部となっている。また，東西にも浅い開析谷が入り込んでおり，台地上の平坦部は東西130 m，南北110 mの範囲で，沖積低地との比高差は13mである。今回の調査区はその中央部を南北に縦断している。

第2節　歴 史 的 環 境

阿見町は，旧石器時代から近世まで大小200以上の遺跡が確認されている[1)]。町内の遺跡は，北部の霞ヶ浦沿岸と清明川・桂川・乙戸川沿岸の洪積台地縁辺部に多く分布している。ここでは，当遺跡周辺の遺跡を中心に概観していく。

旧石器時代の遺跡は，清明川沿岸の台地上に立地している星合遺跡〈28〉，追原西遺跡〈18〉などが確認されている。星合遺跡は石器集中地点が３か所確認され，ナイフ形石器２点やスクレイパー１点，剥片20点などが出土しており[2)]，町内では数少ない貴重な遺跡である。

縄文時代の貝塚は，掛馬村境貝塚〈35〉，見留目貝塚〈31〉，島津貝塚群〈11〉，イタチ内貝塚〈13〉，宮平貝塚群〈16〉，浅間貝塚〈26〉，神田貝塚〈34〉などがあり，その分布から縄文海進時に現在の霞ヶ浦沿岸部や低地部にも海水が進入していたことがうかがえる。その他の縄文時代の遺跡としては，島津遺跡〈10〉，星合遺跡，中ノ台遺跡〈37〉，米根井向遺跡〈29〉，根方遺跡〈２〉などが挙げられる。当遺跡と谷を挟んだ対岸に位置する根方遺跡からは，中期後半の住居跡１軒が確認されている。また，当遺跡から北東約700 mの台地上に位置する宮平貝塚群からは中期前半の阿玉台式期の縄文土器片が多く出土しており，当遺跡との関連が注目される。

弥生時代の遺跡は15か所確認されている。当遺跡周辺では，島津遺跡，頭田遺跡〈９〉，西ノ入遺跡〈５〉，追原西遺跡，五斗蒔古墳〈19〉，米根井向遺跡などがある。島津遺跡では５軒，頭田遺跡では９軒，米根井向遺跡では１軒の後期の住居跡が確認されている。

古墳時代になると，遺跡数は急増する。当遺跡周辺の古墳は，古女子古墳群〈20〉，イタチ内古墳群〈12〉，後原古墳群〈21〉，若宮古墳群〈22〉，荒句古墳群〈23〉，長作古墳群〈24〉，入谷津古墳群〈27〉などが挙げら

れる。当遺跡と同じ台地上にある入谷津古墳群の１つである大塚古墳からは，石室として使用されたと思われる平石が確認されており，大規模な円墳であった可能性がある。また，入谷津１号墳は後期の円墳と報告されている[3)]。同時代の集落跡としては，星合遺跡，島津遺跡，梶内台遺跡〈８〉，道心台遺跡〈17〉，根方遺跡などが挙げられる。特に，当遺跡から南に約 1.8km離れた清明川対岸の台地上に位置する星合遺跡では，前期の住居跡３軒と後期初頭の住居跡 16 軒が調査され，竈導入期の住居跡が確認されている[4)]。

律令期になると当地域は信太郡子方郷に属しており，当遺跡から約 0.7kmのところに位置する諏訪寺院跡〈３〉，根方遺跡，星合遺跡，中ノ台遺跡，梶内台遺跡，道心台遺跡などが分布している。特に諏訪寺院跡は，奈良時代前期と推定される多くの布目瓦が出土しているばかりでなく，基壇状の遺構も現存していることから信太郡の郡寺の可能性が指摘されている[5)]。また，遺跡内に諏訪寺院跡が存在する根方遺跡からも，諏訪寺院のものと思われる素縁単弁八葉花文軒丸瓦が出土している。星合遺跡からは，平安時代の住居跡３軒，土坑墓や火葬墓と想定される土坑３基が確認されており，灰釉陶器などが出土している[6)]。中ノ台遺跡からは，10 世紀前後の住居跡２軒が確認されている[7)]。当遺跡から北西へ約１kmの梶内台遺跡からは９世紀の住居跡 13 軒確認され，竪穴状遺構９基，溝跡５条，鍛冶炉と考えられるタタラ状遺構が確認されている[8)]。道心台遺跡からは，鉄滓が多く出土していることから，遺跡近辺で鍛冶が行われていたことがうかがえる[9)]。当遺跡から北西に約 2.5kmには式内社である阿弥神社に隣接している竹来遺跡〈32〉があり，８世紀前葉から９世紀中頃にかけての集落跡が確認されている。清明川上流の宮脇遺跡では，２条の溝に区画された一角に版築遺構や掘立柱建物跡が確認され，蹄脚硯の一部が出土していることから，官衙的な性格が考えられている[10)]。町内の掛馬地区から当遺跡の所在する追原地区を通り，竹来遺跡付近にかけて古代の官道が通っていたとの推測がなされており[11)]，当遺跡は，古代信太郡の様相を解明する上でも重要な遺跡となっている。

中世の遺跡としては，島津城跡〈15〉や塙城跡〈25〉などの城館跡をはじめ，長泰寺院跡〈14〉，蔵福寺院跡〈４〉などが挙げられる。島津城跡は堀や土塁が残存し，長泰寺院跡と隣接していることから，同じ城内であったと推測することができる。また，掛馬館跡〈30〉にも堀や土塁が残存している。島津城と掛馬館は，筑波の小田氏の出城として築城されたが，時代の流れと共に土岐氏の支配を受けることとなる。

※　文中の〈　〉内の番号は，第１図及び表１中の該当遺跡番号と同じである。

註

１）　茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会　2001 年３月

２）　矢ノ倉正男・寺門千勝「阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書　星合遺跡・中ノ台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 137 集　1997 年９月

３）　阿見町史編さん委員会『阿見町史』阿見町　1983 年３月

４）　寺門千勝「星合遺跡における祭祀について」『研究ノート８号』茨城県教育財団　1999 年６月

５）　註３文献と同じ

６）　註２文献と同じ

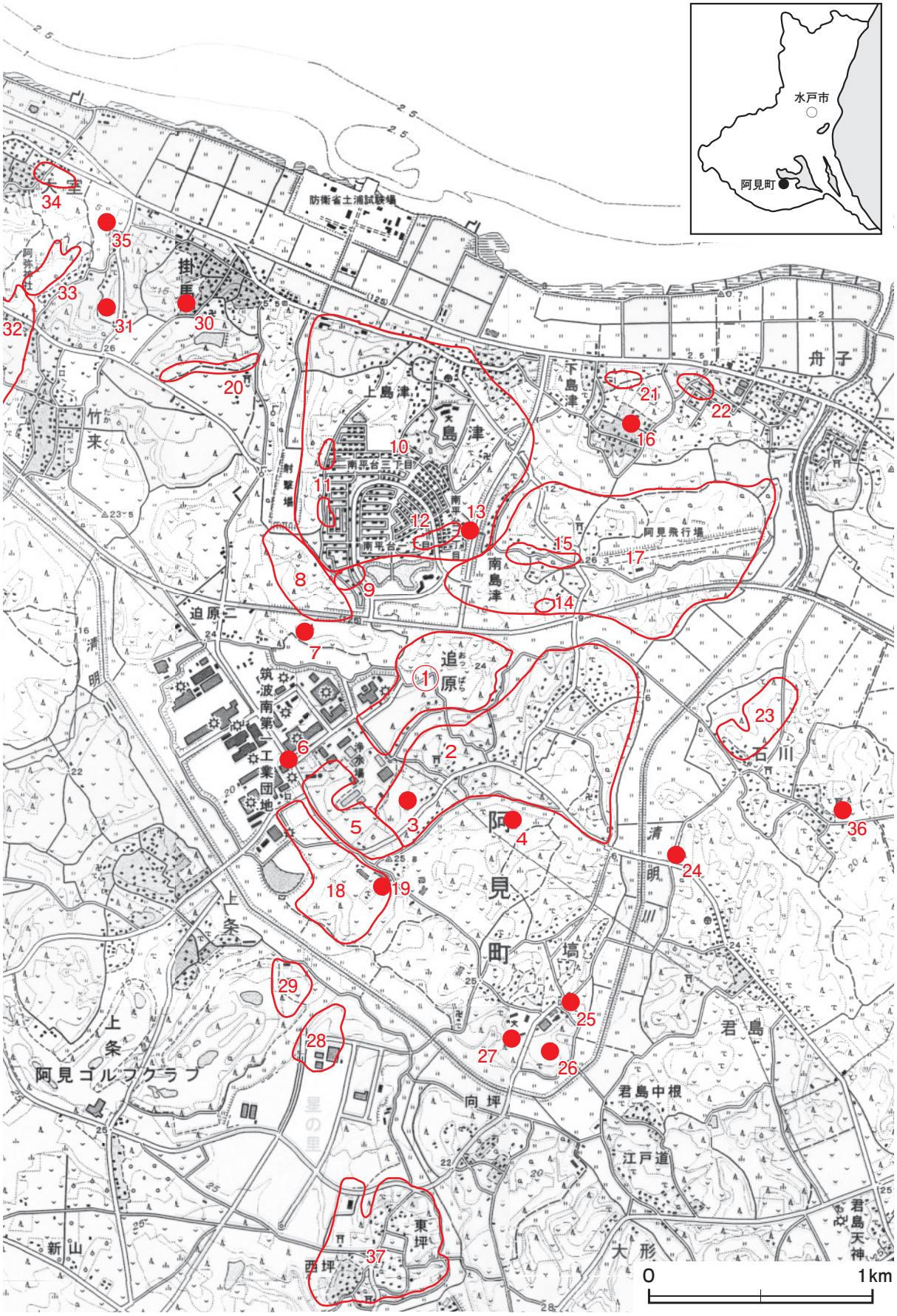
７）　註２文献と同じ

８）　高木國男『梶内台遺跡』阿見町教育委員会　1987 年 12 月

９）　註３文献と同じ

10）　宮脇遺跡第３次調査会『宮脇遺跡第３次調査報告書』阿見町教育委員会　1993 年９月

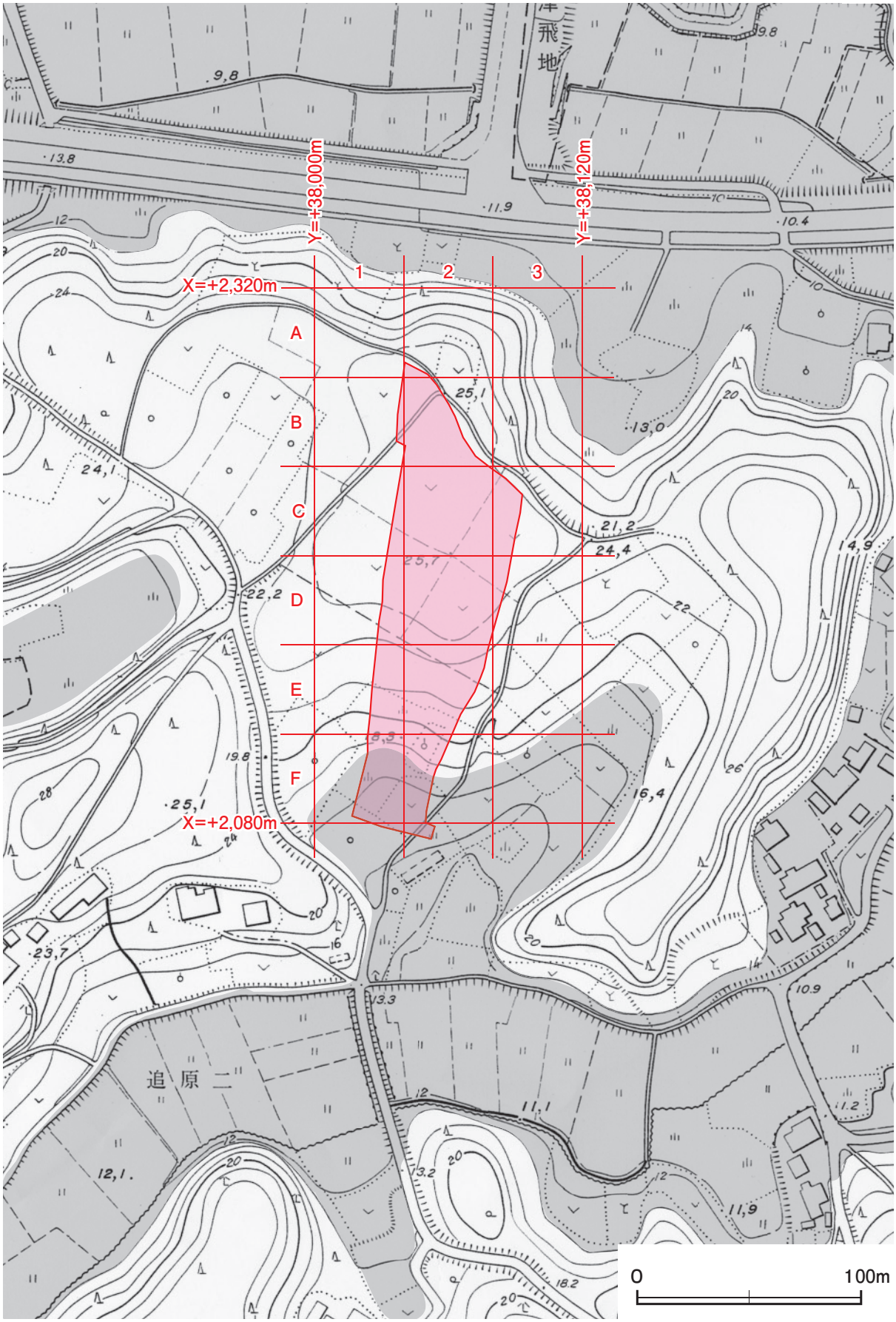
11）　註３文献と同じ



第１図　小作遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の１「土浦」「木原」「牛久」「江戸崎」）

表１　小作遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	小作遺跡		○	○	○	○			20	古女子古墳群				○			
2	根方遺跡		○		○	○			21	後原古墳群				○			
3	諏訪寺院跡					○			22	若宮古墳群				○			
4	蔵福寺院跡						○		23	荒句古墳群				○			
5	西ノ入遺跡			○	○				24	長作古墳群				○			
6	内堀遺跡						○		25	塙城跡						○	
7	烏瓜台遺跡				○	○			26	浅間貝塚		○					
8	梶内台遺跡				○	○			27	入谷津古墳群				○			
9	頭田遺跡		○	○	○		○		28	星合遺跡	○	○		○	○		
10	島津遺跡		○	○	○				29	米根井向遺跡		○	○	○			
11	島津貝塚群		○						30	掛馬館跡						○	
12	イタチ内古墳群				○				31	見留目貝塚		○					
13	イタチ内貝塚		○						32	竹来遺跡		○	○	○	○	○	
14	長泰寺院跡						○		33	竹来館跡						○	
15	島津城跡						○		34	神田貝塚		○		○			
16	宮平貝塚群		○						35	掛馬村境貝塚		○					
17	道心台遺跡				○	○			36	石川貝塚		○					
18	追原西遺跡		○	○	○				37	中ノ台遺跡		○			○		
19	五斗蒔古墳			○	○												



第２図　小作遺跡調査区設定図（阿見町都市計画図 2,500 分の１）

第３章　調　査　の　成　果

第１節　調 査 の 概 要

小作遺跡は，稲敷郡阿見町の北東部に位置し，清明川左岸の標高約 14 ｍの斜面部から標高約 25 ｍの台地上にかけて立地している。当遺跡の立地する台地は，南北に清明川支流の沖積低地があり，北は崖状，南は急勾配の斜面部となっている。また，東西にも浅い開析谷が入り込んでおり，台地上の平坦部は東西 130 ｍ，南北 110 ｍの範囲で，沖積低地との比高差は 13m である。今回の調査区はその中央部を南北に縦断している。調査面積は 9,476㎡で，調査前の現況は畑地である。

調査の結果，竪穴住居跡 49 軒（縄文時代４・古墳時代 12・奈良時代８・平安時代 24・時期不明１），掘立柱建物跡 39 棟（縄文時代３・奈良時代 13・平安時代 16・時期不明７），方形竪穴遺構 11 基（平安時代），陥し穴６基（縄文時代），大形円形土坑１基（平安時代），道路跡１条（時期不明），溜井跡１か所（時期不明），溝跡 18 条（時期不明），土坑 187 基（古墳時代１・平安時代 26・時期不明 160），ピット群５か所（時期不明），ピット 368 か所（平安時代２・時期不明 366）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に 76 箱出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢），弥生土器（広口壺），土師器（坏・高坏・椀・高台付椀・高台付皿・小皿・器台・壺・甕・台付甕・甑），須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・無台盤・瑤・短頸壺・横瓶・鉢・甕・甑・円面硯），灰釉陶器（椀・皿・瓶），緑釉陶器（椀），磁器（碗），土製品（土玉・管状土錘・紡錘車・土馬・支脚），石器・石製品（鏃・砥石），金属製品（鏃・鎌・刀子・斧・釘・閂・鉤・煙管）などである。また，草仮名文字で書かれた墨書土器も出土している。

第２節　基　本　層　序

台地上の平坦面および斜面部への傾斜変換点付近の２か所にテストピットを設定し，基本土層の観察を行った。

テストピット１

調査区中央部東端の台地上の平坦面（Ｃ３i3）に設定した。

第１層は，黒褐色を呈する現耕作土である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 16 ～ 24㎝である。なお，以下のローム層との層境が明瞭であることから，台地上は耕作によって削平されている。

第２層は，褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに強く，層厚は５～ 15㎝である。

第３層は，黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く，層厚は 14 ～ 24㎝である。

第４層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性･締まりともに強く，層厚は 40 ～ 50㎝である。

第５層は，灰黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く，層厚は 22 ～ 29㎝である。

第６層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く，層厚は 29 ～ 36㎝である。

第７層は，黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く，層厚は 24 ～ 33㎝である。

第８層は，明黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強く，層厚は下層が未掘のため不明である。なお，テストピット１の北西 13m に位置する第１号大形円形土坑の底部付近（標高 22.2m）で，常総粘土層が確認できた。

テストピット１周辺では，遺構は第２層の上面で確認できた。

テストピット２

調査区南部東端の台地上から斜面部への傾斜変換点付近（Ｅ２h7）に設定した。

第１層は，にぶい黄褐色を呈する現耕作土である。粘性・締まりともに弱く，層厚は 20 ～ 45cmである。

第２層は，褐色を呈する耕作土である。粘性は普通で，締まりが弱く，層厚は 10 ～ 20cmである。

第３層は，にぶい黄褐色を呈する耕作土である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 13 ～ 21cmである。

第４層は，にぶい黄褐色を呈するローム層の再堆積層で，耕作土からの漸移層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は５～ 17cmである。

第５層は，褐色を呈するロームの再堆積層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 10 ～ 17cmである。

第６層は，黄褐色を呈する常総粘土層への漸移層である。粘性･締まりともに強く，層厚は５～ 13cmである。

第７層は，褐色を呈する常総粘土層への漸移層である。粘性・締まりともに強く，層厚は８～ 17cmである。

第８層から第 11 層は，常総粘土層である。第８層は，灰白色を呈する粘土層で，締まりは強く，層厚は 13 ～ 24cmである。

第９層は，灰白色を呈する粘土層で，上部に酸化鉄が沈着している。砂質で締まりは強く，層厚は７～ 18cmである。

第 10 層は，淡黄色を呈する粘土層で，酸化鉄が沈着している。締まりは普通で，層厚は０～ 11cmである。

第 11 層は，灰オリーブ色を呈する粘土層で，酸化鉄が沈着している。締まりは弱く，層厚は 10 ～ 15cmである。

第 12 層から第 15 層は，成田層である。第 12 層は，灰黄色を呈する砂層で，酸化鉄が沈着している。締まりは普通で，層厚は５～ 17cmである。

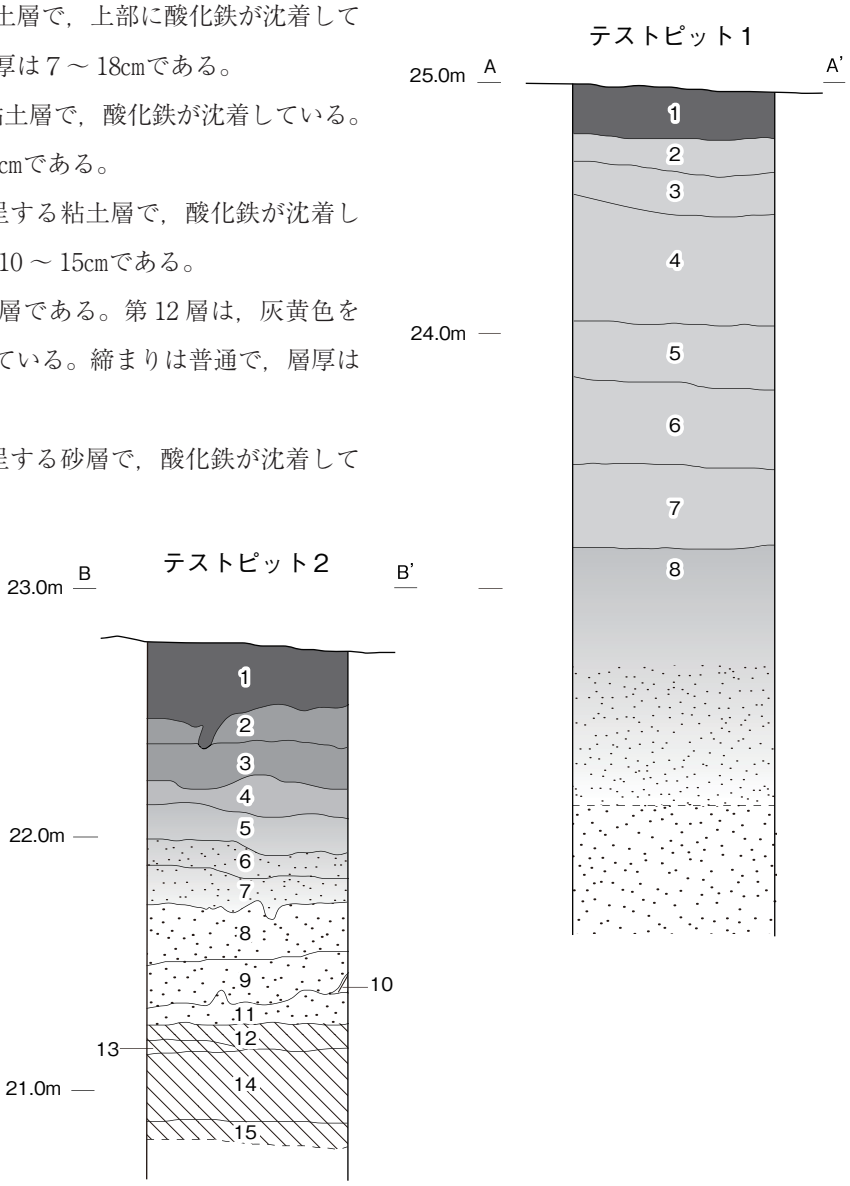
第 13 層は，灰オリーブ色を呈する砂層で，酸化鉄が沈着している。締まりは普通で，層厚は０～４cmである。

第 14 層は，浅黄色を呈する砂層で，酸化鉄が沈着している。締まりは普通で，層厚は 27 ～ 32cmである。

第 15 層は，にぶい黄色を呈する砂層で，酸化鉄が沈着している。締まりは弱く，層厚は８～ 13cmである。

第 15 層以下は３ｍ以上砂層が堆積している。

テストピット２周辺では，遺構は第４層の上面で確認できた。



第３図　基本土層図

第３節　遺 構 と 遺 物

１　縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴住居跡４軒，掘立柱建物跡３棟，陥し穴６基が確認できた。以下，遺構及び遺物について記述する。

⑴　竪穴住居跡

第 15 号住居跡（第４図）

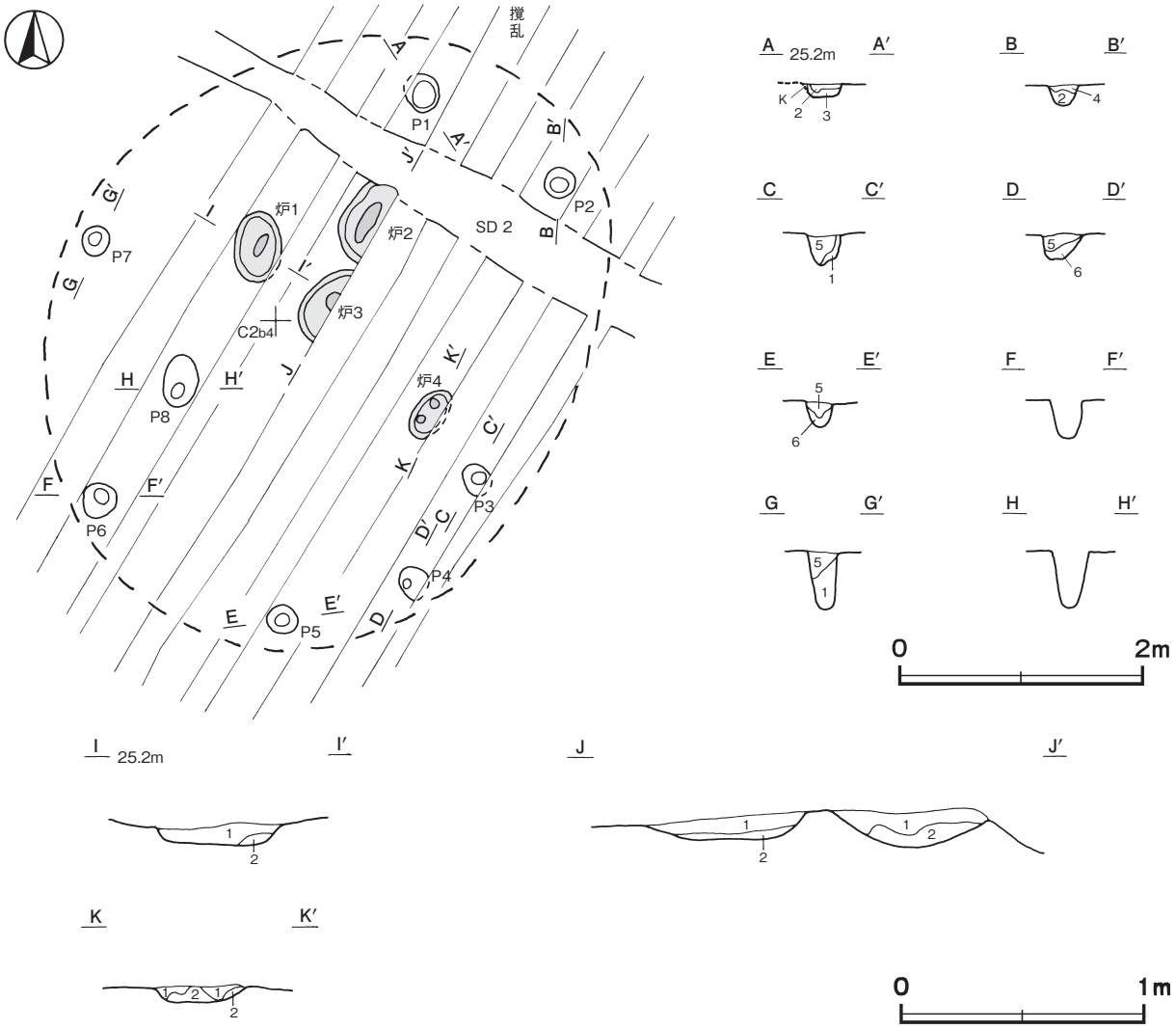
位置　調査区北部のＣ２c3 区，標高 24.9 ｍの平坦な台地上に位置している。

確認状況　炉，柱穴が露出した状態で確認した。

重複関係　第２号溝に掘り込まれている。

規模と形状　炉とピットの配置から長軸5.2 ｍ, 短軸4.2 ｍの楕円形と推定でき, 長軸方向はＮ－30°－Ｅである。

炉　４か所。炉１は中央部から北西寄りに付設された地床炉である。規模は長径 58cm，短径 38cm である。



第４図　第 15 号住居跡実測図

確認面から10cmくぼんでおり，炉床面は赤変硬化している。炉２は中央部から北寄りに付設された地床炉である。規模は撹乱のため長径70cm，短径30cmしか確認できなかった。確認面から15cmくぼんでおり，炉床面は赤変硬化している。炉３は中央部に付設された地床炉である。規模は撹乱のため長径68cm，短径24cmしか確認できなかった。確認面から11cmくぼんでおり，炉床面は赤変硬化している。炉４は中央部から南東寄りに付設された地床炉である。規模は長径46cmで，短径は撹乱のため22cmしか確認できなかった。確認面から７cmくぼんでおり，炉床面は赤変，硬化ともに弱い。

炉１土層解説

１	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量	
２	暗赤褐色	炭化粒子多量，焼土粒子中量	

炉２土層解説

１	赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量	
２	赤褐色	焼土粒子中量	

炉３土層解説

１	赤褐色	ローム粒子・炭化粒子中量，焼土ブロック少量	
２	にぶい赤褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	

炉４土層解説

１	褐色	炭化粒子中量，焼土ブロック少量	
２	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ７は深さ11～48cmで，配置から主柱穴である。Ｐ８は深さ49cmで，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

１	褐色	ローム粒子中量	
２	褐色	ロームブロック中量	
３	明褐色	ロームブロック中量	
４	褐色	ロームブロック少量	
５	黒褐色	ロームブロック少量	
６	暗褐色	ロームブロック少量	

所見　遺構の形状から縄文時代と考えられる。

第34号住居跡（第５・６図）

位置　調査区中央部のＣ３h1区，標高24.9ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第33号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.70ｍ，短軸3.88ｍの長方形で，長軸方向はＮ－43°－Ｗである。壁高は20～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ35～71cmで，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ48cmで，中央部に位置していることから補助的な柱穴と考えられる。Ｐ６・７は深さ49cm・42cmで，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

１	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・黒曜石片微量	
２	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・黒曜石片微量	
３	暗褐色	ロームブロック少量，黒曜石片微量	
４	褐色	ロームブロック微量	

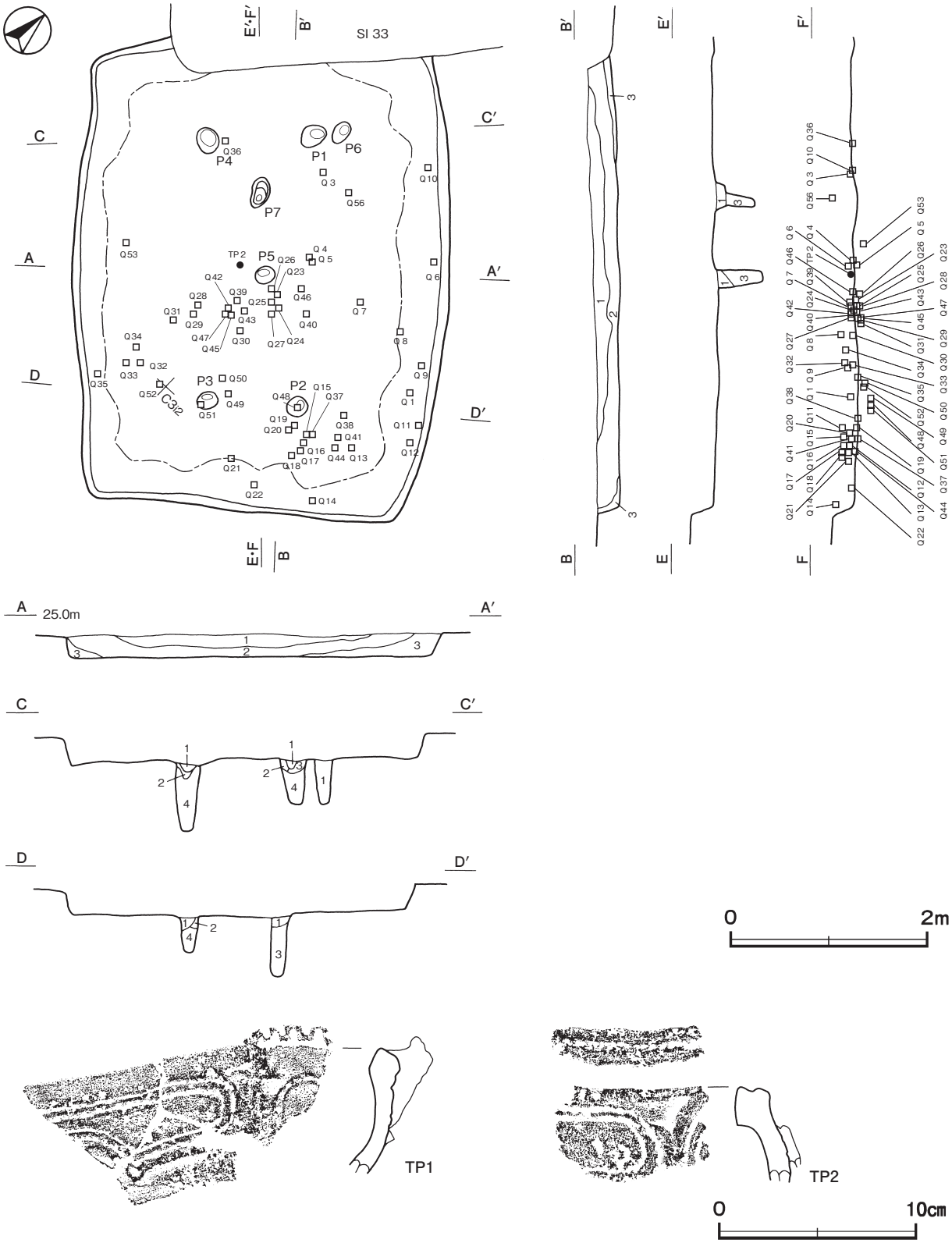
覆土　３層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

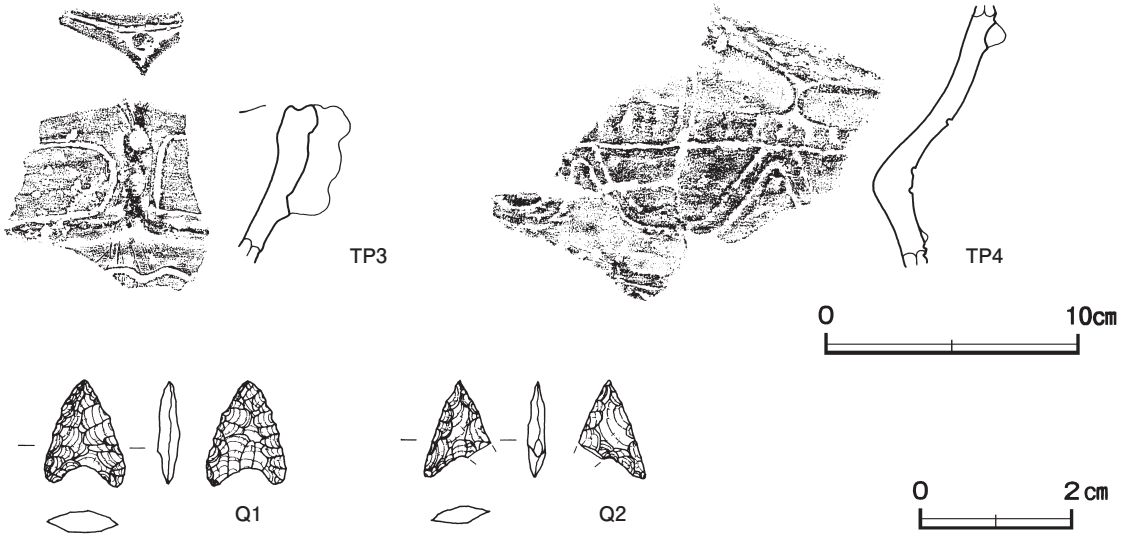
１	灰黄褐色	ロームブロック少量	
２	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	
３	暗褐色	ロームブロック少量	

遺物出土状況　縄文土器片128点（深鉢），石器２点（鏃），剥片55点（黒曜石）が出土している。また，混入した土師器片２点（甕），須恵器片１点（甕）も出土している。TP２は中央部の覆土下層，TP１・TP３・TP４は覆土中からそれぞれ出土している。Ｑ１～Ｑ57は，南半部の覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第５図　第 34 号住居跡・出土遺物実測図



第６図　第 34 号住居跡出土遺物実測図

第 34 号住居跡出土遺物観察表（第５・６図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	扇状把手　隆帯による楕円形区画文　区画内に複列の有節沈線文	覆土中	PL33
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による楕円形区画文　区画内に複列の有節沈線文	下層	PL33
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	山形状の突出部　長方形区画文　区画内に単列の有節沈線文	覆土中	PL33
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	普通	波状の複列の有節沈線文	覆土中	PL33

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 1	鏃	2.1	1.6	0.4	1.1	黒曜石	両面押圧剥離　凹基無茎鏃	下層	PL54
Q 2	鏃	2.0	(1.3)	0.4	(0.6)	安山岩	基部一部欠損　両面押圧剥離　凹基無茎鏃	覆土中	PL54

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	出土位置	番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	出土位置
Q 3 － 1	剥片	0.80	0.72	0.40	0.15	黒曜石	下層	Q 17	剥片	2.37	1.61	0.60	1.50	黒曜石	下層
Q 3 － 2	剥片	0.40	0.38	0.15	0.02	黒曜石	下層	Q 18	剥片	1.14	0.73	0.15	0.14	黒曜石	下層
Q 4	剥片	1.38	0.86	0.10	0.14	黒曜石	床面	Q 19	剥片	1.57	1.21	0.42	0.57	黒曜石	床面
Q 5	剥片	0.84	0.74	0.37	0.22	黒曜石	床面	Q 20	剥片	1.50	0.97	0.15	0.18	黒曜石	下層
Q 6	剥片	1.15	0.83	0.18	0.13	黒曜石	下層	Q 21	剥片	1.14	0.82	0.12	0.11	黒曜石	下層
Q 7	剥片	0.93	0.78	0.21	0.10	黒曜石	下層	Q 22	剥片	1.31	1.19	0.26	0.31	黒曜石	下層
Q 8	剥片	1.79	0.85	0.15	0.20	黒曜石	下層	Q 23 － 1	剥片	1.50	0.65	0.41	0.40	黒曜石	床面
Q 9	剥片	1.02	0.47	0.15	0.06	黒曜石	下層	Q 23 － 2	剥片	0.76	0.58	0.15	0.04	黒曜石	床面
Q 10	剥片	1.22	1.14	0.23	0.37	黒曜石	下層	Q 24	剥片	0.86	0.79	0.06	0.03	黒曜石	床面
Q 11	剥片	2.08	1.51	0.37	0.90	黒曜石	下層	Q 25	剥片	1.30	1.00	1.04	0.14	黒曜石	床面
Q 12	剥片	0.56	0.49	0.10	0.03	黒曜石	下層	Q 26	剥片	1.22	1.00	0.10	0.11	黒曜石	床面
Q 13	剥片	1.47	1.33	0.36	0.48	黒曜石	下層	Q 27	剥片	1.44	1.14	0.69	0.72	黒曜石	下層
Q 14	剥片	2.42	1.20	0.31	0.78	黒曜石	下層	Q 28	剥片	3.47	2.44	2.16	17.30	黒曜石	床面
Q 15	剥片	3.03	1.09	0.60	1.32	黒曜石	下層	Q 29	剥片	0.68	0.38	0.14	0.02	黒曜石	床面
Q 16	剥片	2.58	1.76	1.39	6.15	黒曜石	下層	Q 30 － 1	剥片	0.91	0.83	0.39	0.29	黒曜石	下層

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	出土位置	番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	出土位置
Q 30 － 2	剥片	1.05	0.89	0.38	0.24	黒曜石	下層	Q 46	剥片	0.62	0.56	0.04	0.02	黒曜石	床面
Q 31	剥片	1.48	0.92	0.45	0.49	黒曜石	床面	Q 47	剥片	0.58	0.39	0.06	0.02	黒曜石	床面
Q 32	剥片	1.56	0.93	0.80	0.88	黒曜石	下層	Q 48	剥片	0.71	0.53	0.51	0.20	黒曜石	床面
Q 33	剥片	2.47	1.28	1.54	3.24	黒曜石	下層	Q 49	剥片	1.92	1.42	0.43	0.76	黒曜石	床面
Q 34	剥片	2.26	1.90	0.45	1.42	黒曜石	下層	Q 50	剥片	0.33	0.31	0.13	0.02	黒曜石	床面
Q 35	剥片	0.63	0.57	0.29	0.12	黒曜石	床面	Q 51 － 1	剥片	2.70	1.45	1.15	4.72	黒曜石	床面
Q 36	剥片	1.47	1.44	0.63	1.20	黒曜石	下層	Q 51 － 2	剥片	1.88	1.57	0.28	0.77	黒曜石	床面
Q 37	剥片	0.87	0.43	0.11	0.03	黒曜石	床面	Q 52	剥片	0.52	0.32	0.04	0.01	黒曜石	床面
Q 38	剥片	0.27	0.21	0.04	0.01	黒曜石	床面	Q 53	剥片	1.88	1.05	0.24	0.33	黒曜石	床面
Q 39	剥片	0.35	0.20	0.07	0.01	黒曜石	下層	Q 54	剥片	1.90	1.57	0.28	0.88	黒曜石	下層
Q 40	剥片	0.95	0.62	0.16	0.08	黒曜石	下層	Q 55	剥片	2.08	1.36	0.33	0.65	黒曜石	下層
Q 41	剥片	0.59	0.09	0.08	0.03	黒曜石	下層	Q 56	剥片	1.22	0.43	0.16	0.07	黒曜石	下層
Q 42	剥片	0.65	0.42	0.11	0.03	黒曜石	床面	Q 57 － 1	剥片	1.07	1.00	0.18	0.19	黒曜石	下層
Q 43	剥片	0.35	0.26	0.20	0.02	黒曜石	床面	Q 57 － 2	剥片	0.85	0.65	0.10	0.07	黒曜石	下層
Q 44	剥片	1.49	0.09	0.47	0.53	黒曜石	下層	Q 57 － 3	剥片	0.67	0.61	0.07	0.04	黒曜石	下層
Q 45	剥片	0.65	0.50	0.09	0.02	黒曜石	床面								

第 40 号住居跡（第７図）

位置　調査区中央部のＤ２a8 区，標高 24.5 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 41 号住居，第 34・35 掘立柱建物，第 186 ～ 189 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.75 ｍで，短軸は第 41 号住居に掘り込まれているため 3.04 ｍしか確認できなかった。形状は不整円形と推定できる。壁高は６～ 10㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　５か所。深さは 28 ～ 45㎝で，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子少量
5　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量

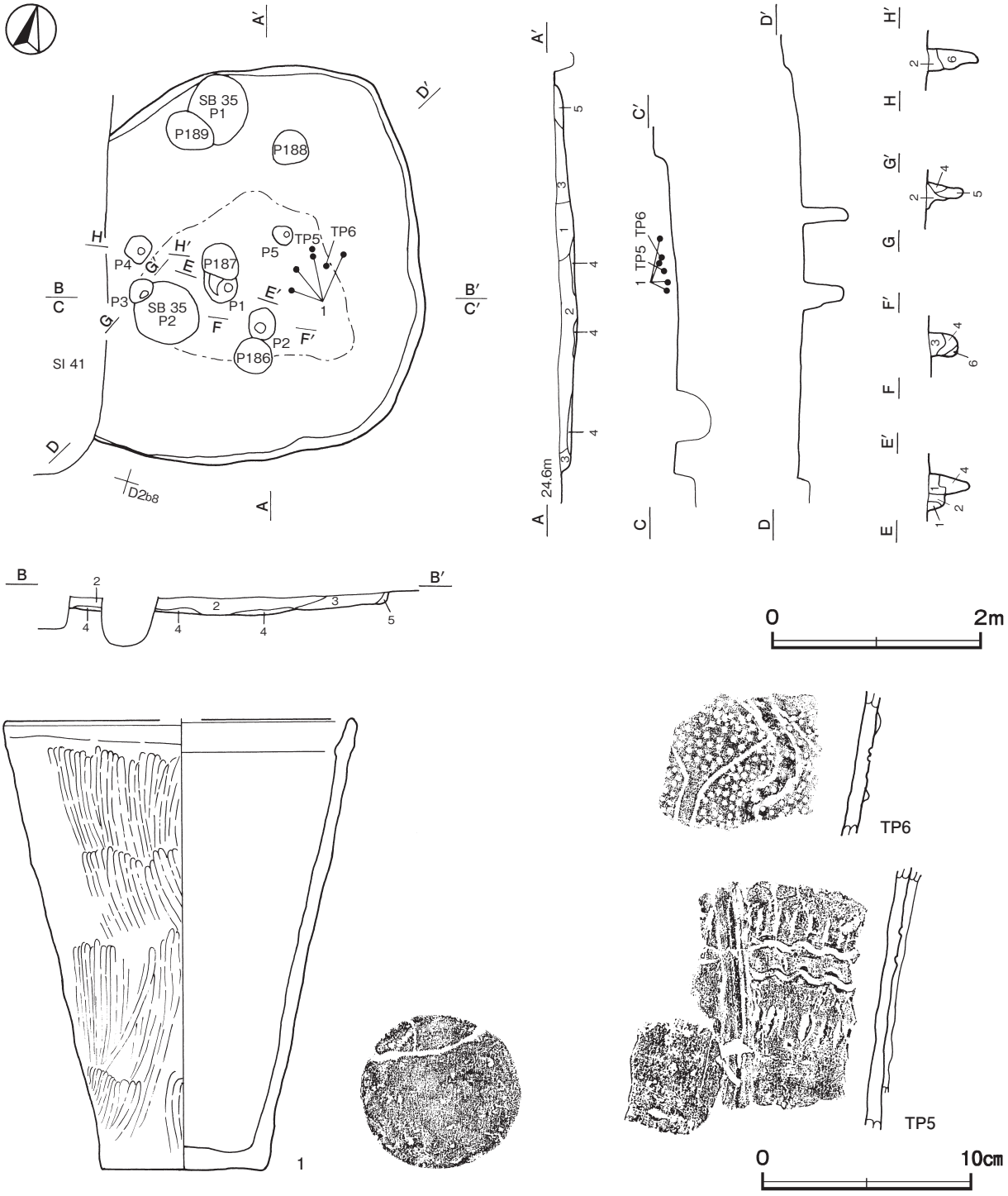
覆土　５層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子を含んでおり，ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 40 点（深鉢）が出土している。また，混入した土師器片１点（坏）も出土している。１・TP ５・TP ６は，中央部東寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第７図　第 40 号住居跡・出土遺物実測図

第 40 号住居跡出土遺物観察表（第７図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	［16.4］	21.6	7.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き	上層	40%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	普通	隆帯による懸垂文　円形竹管による刺突文	上層	PL33
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆帯による懸垂文　半裁竹管による平行波状沈線文　爪形文	上層	PL33

第 43 号住居跡（第８・９図）

位置　調査区中央部のＤ２a0 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第７・23・29 号掘立柱建物，第 90・91・93・94・196・197 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.25 m，短軸 3.36 mの不整楕円形で，長径方向はＮ－ 46°－Ｅである。壁高は 15 ～ 21cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 50 ～ 64cm で，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

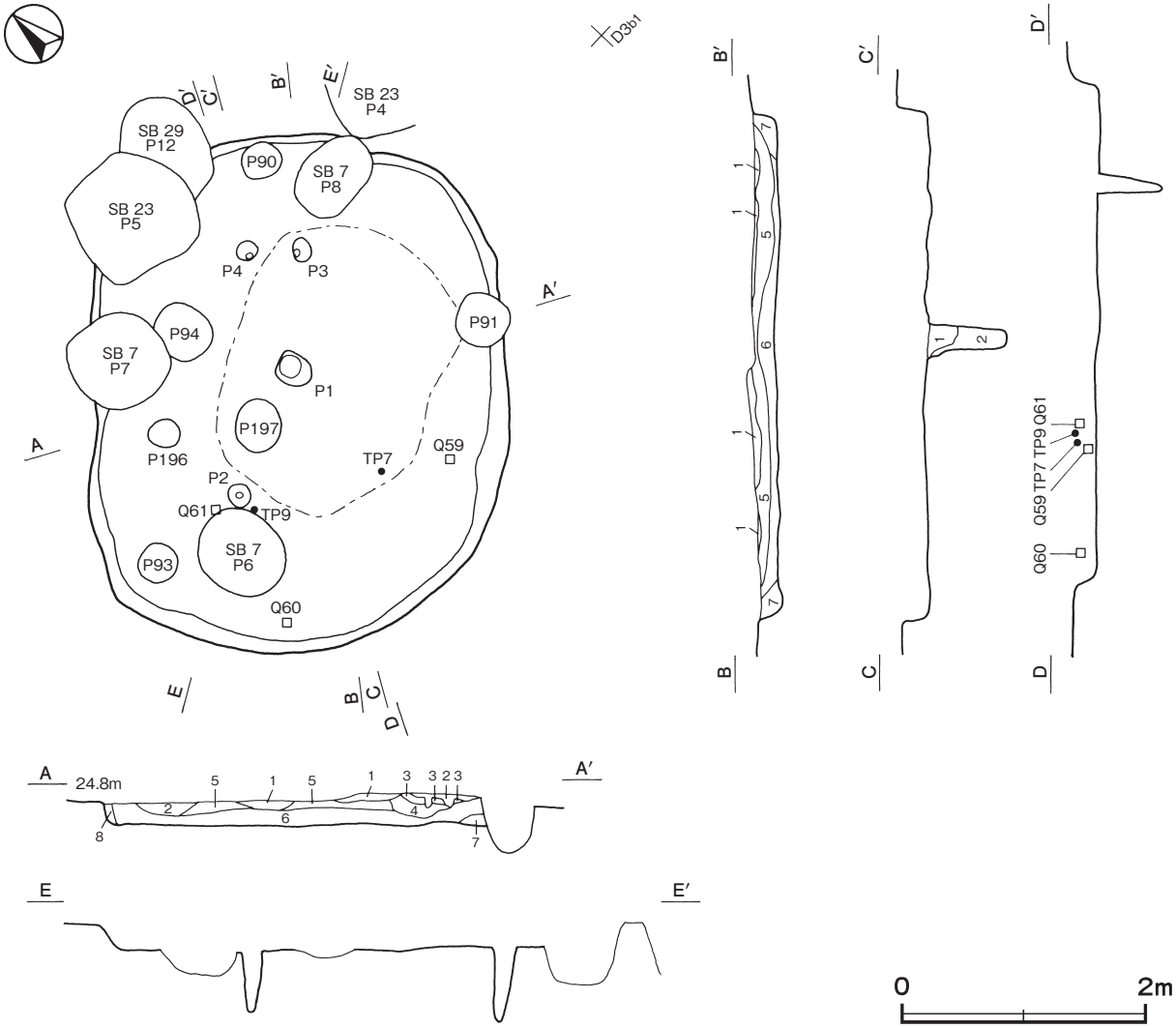
1	暗　褐　色	ローム粒子微量	2	褐　　色	ローム粒子微量

覆土　８層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗　褐　色	炭化粒子少量，ロームブロック微量
2	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量	6	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子少量	7	褐　　色	ロームブロック中量
4	暗　褐　色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	8	褐　　色	ロームブロック多量

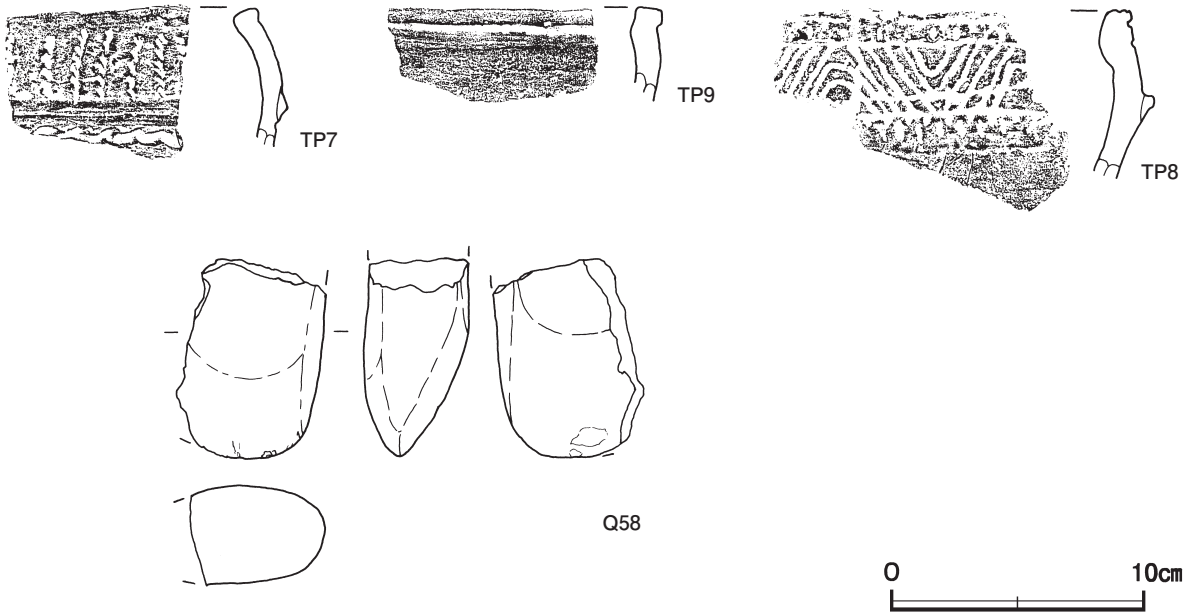
遺物出土状況　縄文土器片 118 点（深鉢），石器２点（磨製石斧，浮子），剥片４点（黒曜石）が出土している。



第８図　第 43 号住居跡実測図

また，混入した土師器片９点（坏６，高杯２，甕１）も出土している。Q 59 は南東部の覆土下層，Q 60 は南部の覆土中層，TP ７・TP ９，Q 61 は覆土上層，TP ８，Q 58・Q 62 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第９図　第 43 号住居跡出土遺物実測図

第 43 号住居跡出土遺物観察表（第９図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP ７	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	普通	隆帯による区画文　隆帯脇半裁竹管による押引文　区画内半裁竹管による縦位の有節沈線文	上層	PL33
TP ８	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口唇部隆帯貼付	覆土中	PL33
TP ９	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	キザミをもつ隆帯による区画文　有節沈線文	上層	PL33

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 58	磨製石斧	(7.9)	(5.9)	4.1	(252.8)	凝灰岩	刃部片　全面研磨	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	出土位置	番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	出土位置
Q 59	剥片	2.40	1.85	0.61	2.84	黒曜石	下層	Q 61	剥片	1.42	1.02	0.38	0.39	黒曜石	上層
Q 60	剥片	1.65	0.83	0.25	0.23	黒曜石	中層	Q 62	剥片	1.28	0.81	0.17	0.14	黒曜石	覆土中

表２　縄文時代　竪穴住居跡一覧表

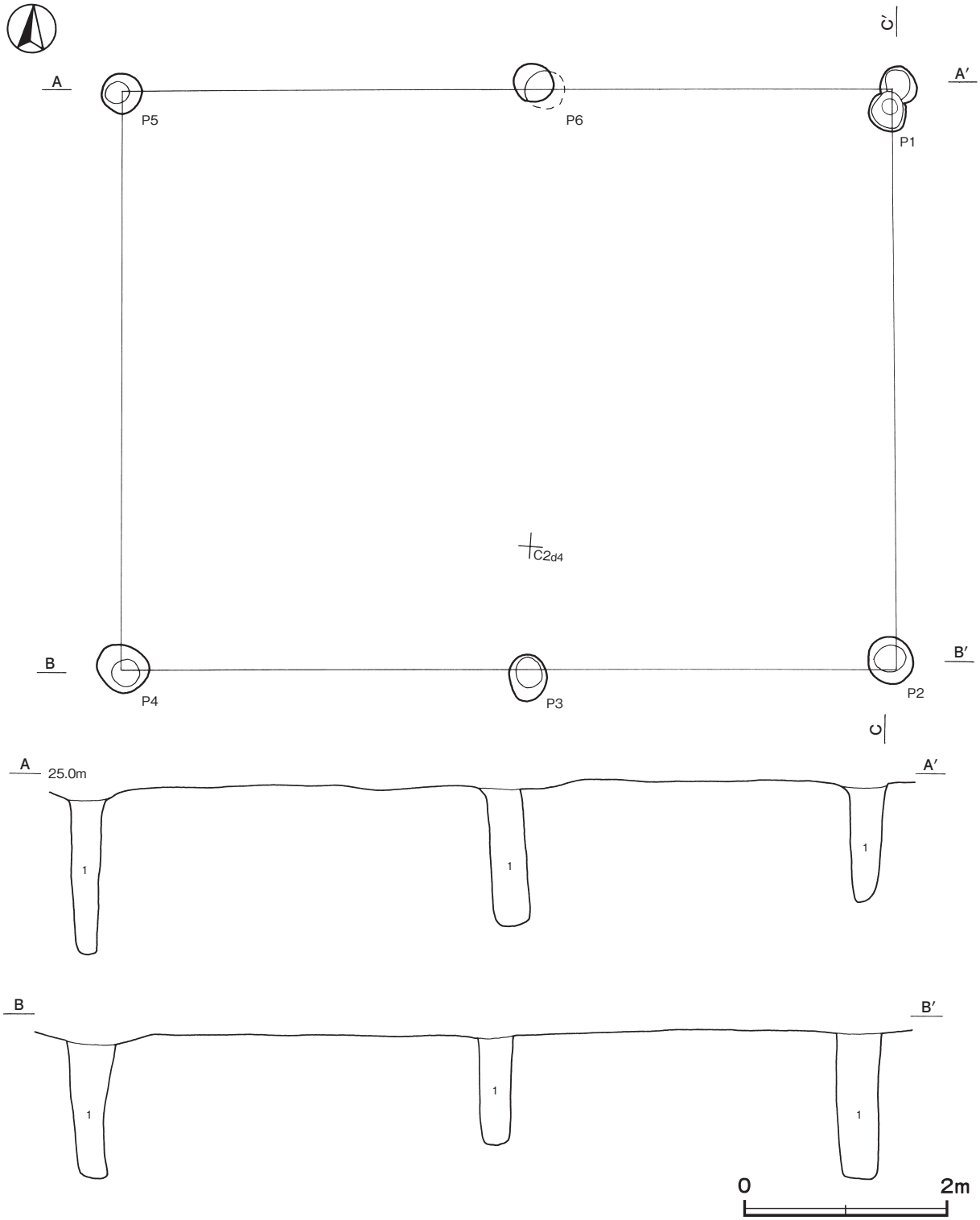
番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
15	C 2c3	N－30°－E	[楕円形]	[5.2 × 4.2]	－	－	－	7	－	1	炉４	－	－		縄文	本跡→ SD ２
34	C 3h1	N－43°－W	長方形	4.70 × 3.88	20～25	平坦	－	4	－	3	－	－	自然	縄文土器片，鏃，剥片	中期前葉	本跡→ SI33
40	D 2a8	－	[不整円形]	3.75 × (3.04)	6～10	平坦	－	－	－	5	－	－	人為	縄文土器片	中期前葉	本跡→ SI41，SB34･35 他
43	D 2a0	N－46°－E	不整楕円形	4.25 × 3.36	15～21	平坦	－	－	－	4	－	－	人為	縄文土器片，磨製石斧，浮子，剥片	中期前葉	本跡→ SB7･23･29 他

(2) 掘立柱建物跡

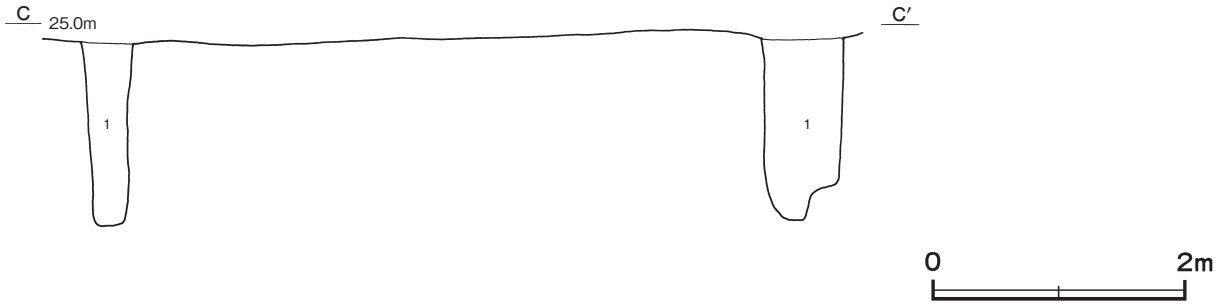
第 11 号掘立柱建物跡（第 10 ～ 12 図）

位置　調査区北部のＣ２b2 ～Ｃ２d4 区，標高 24.9 mの平坦な台地上に位置している。

規模と構造　桁行２間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 85°－Ｅの東西棟である。規模は桁行 7.62 m，梁行 5.69 mで，面積は 43.36㎡である。柱間寸法は，桁行が西妻から 3.55 m・4.07 mである。柱筋はほぼ揃っている。



第 10 図　第 11 号掘立柱建物跡実測図（1）



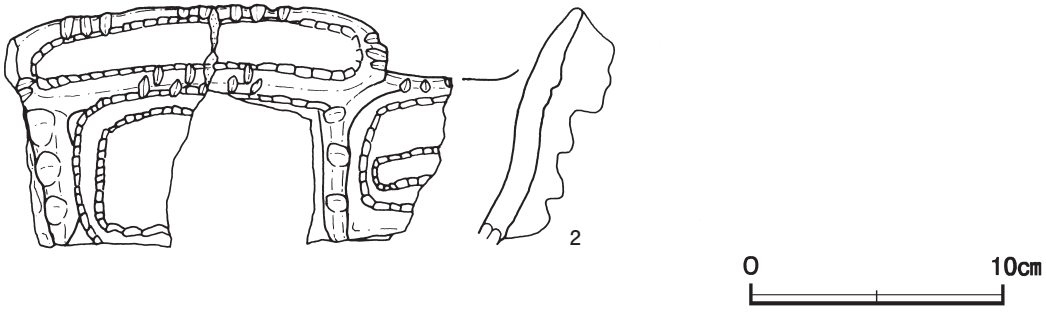
第 11 図　第 11 号掘立柱建物跡実測図（2）

柱穴　6 か所。平面形は円形もしくは楕円形で，長径 40 ～ 64㎝，短径 35 ～ 44㎝である。深さは 104 ～ 152cm で，断面形は長方形である。第 1 層は柱痕跡である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　暗　褐　色　ロームブロック少量（下層ほどロームブロックの含有量が多くなっている。）

遺物出土状況　縄文土器片 7 点（深鉢）が出土している。2 は，P 4 の柱痕跡から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）に比定できる。



第 12 図　第 11 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 11 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 12 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
2	縄文土器	深鉢	－	(9.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	扇状把手　キザミをもつ隆帯による楕円形区画文　区画内単列・複列の有節沈線文	P 4	PL33

第 12 号掘立柱建物跡（第 13・14 図）

位置　調査区北部のＣ２b8 ～Ｃ２d0 区，標高 24.7 m の台地縁辺部に位置している。

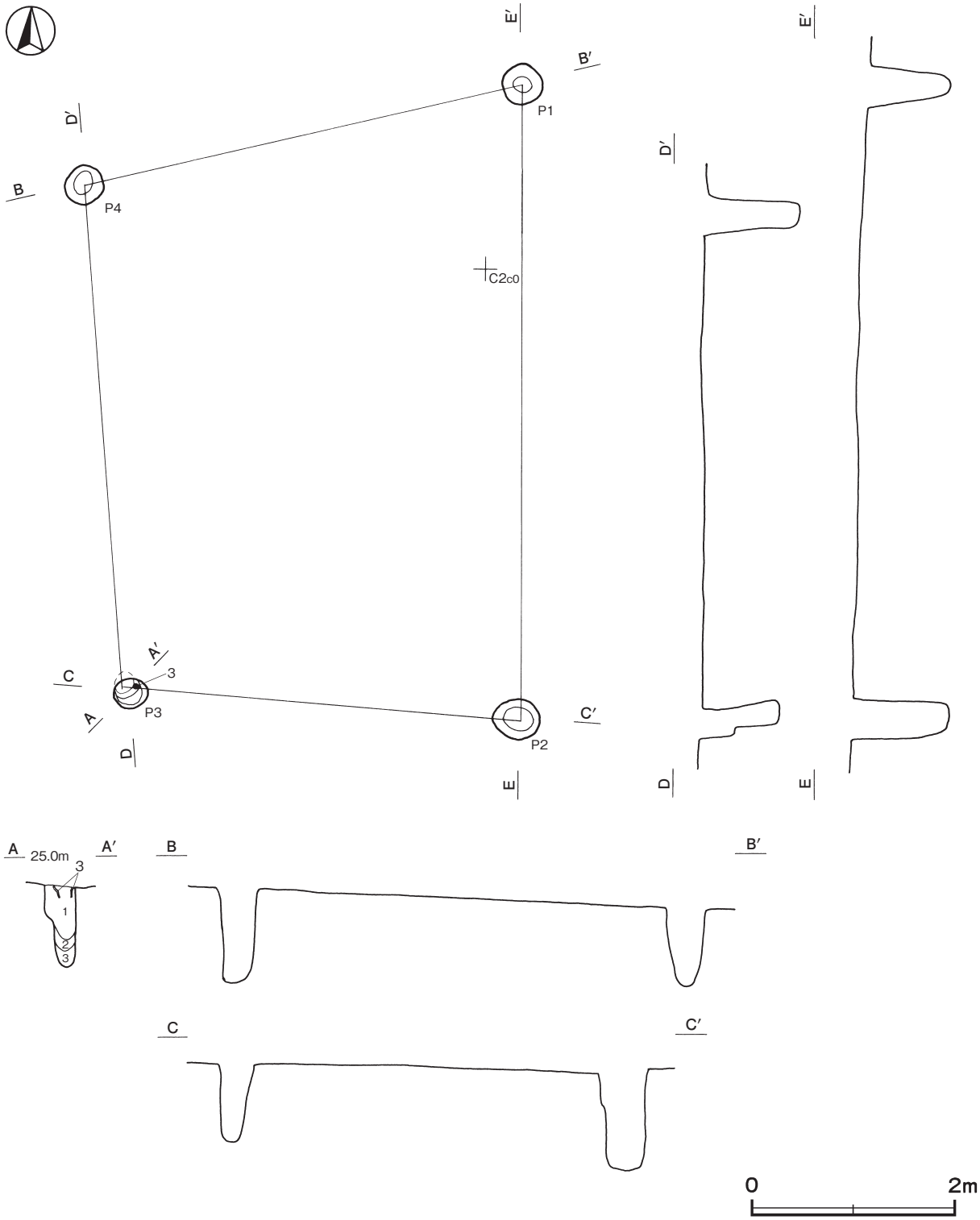
規模と構造　桁行 1 間，梁行 1 間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－３°－Ｗの南北棟である。規模は桁行 4.95 m・6.24 m，梁行 3.92 m・4.42 m で，面積は 23.31㎡である。柱筋は不揃いである。

柱穴　4 か所。平面形は円形または楕円形で，長径 34 ～ 49㎝，短径 36 ～ 40㎝である。深さは 78 ～ 95cm で，断面形は長方形または逆台形である。第 1 ～ 3 層は柱の抜き取り痕である。

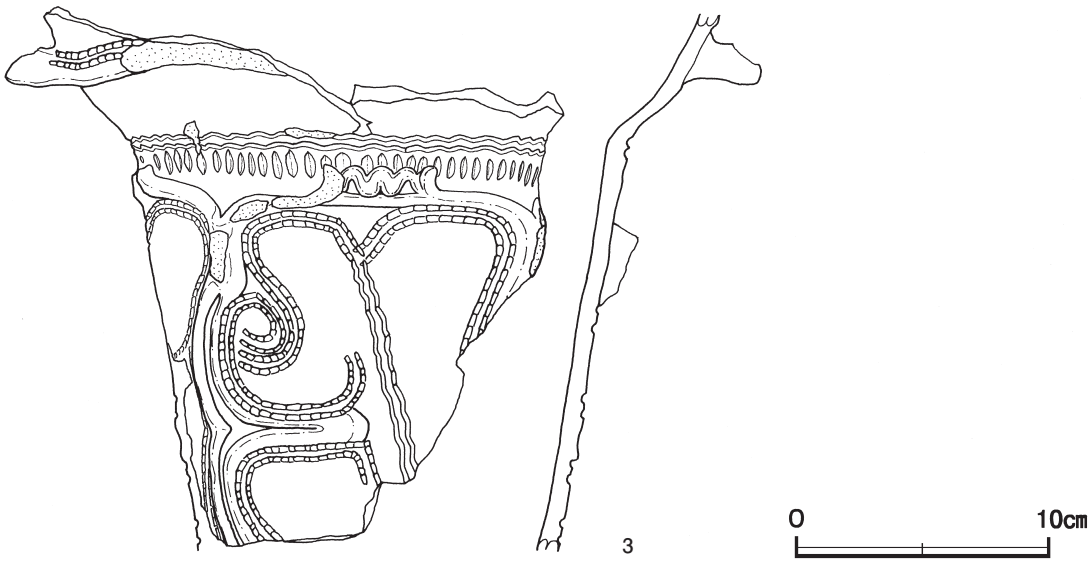
柱穴土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　縄文土器片 13 点（深鉢）が各柱穴から出土している。３は，Ｐ３の柱の抜き取り痕の上層から正位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）に比定できる。



第 13 図　第 12 号掘立柱建物跡実測図



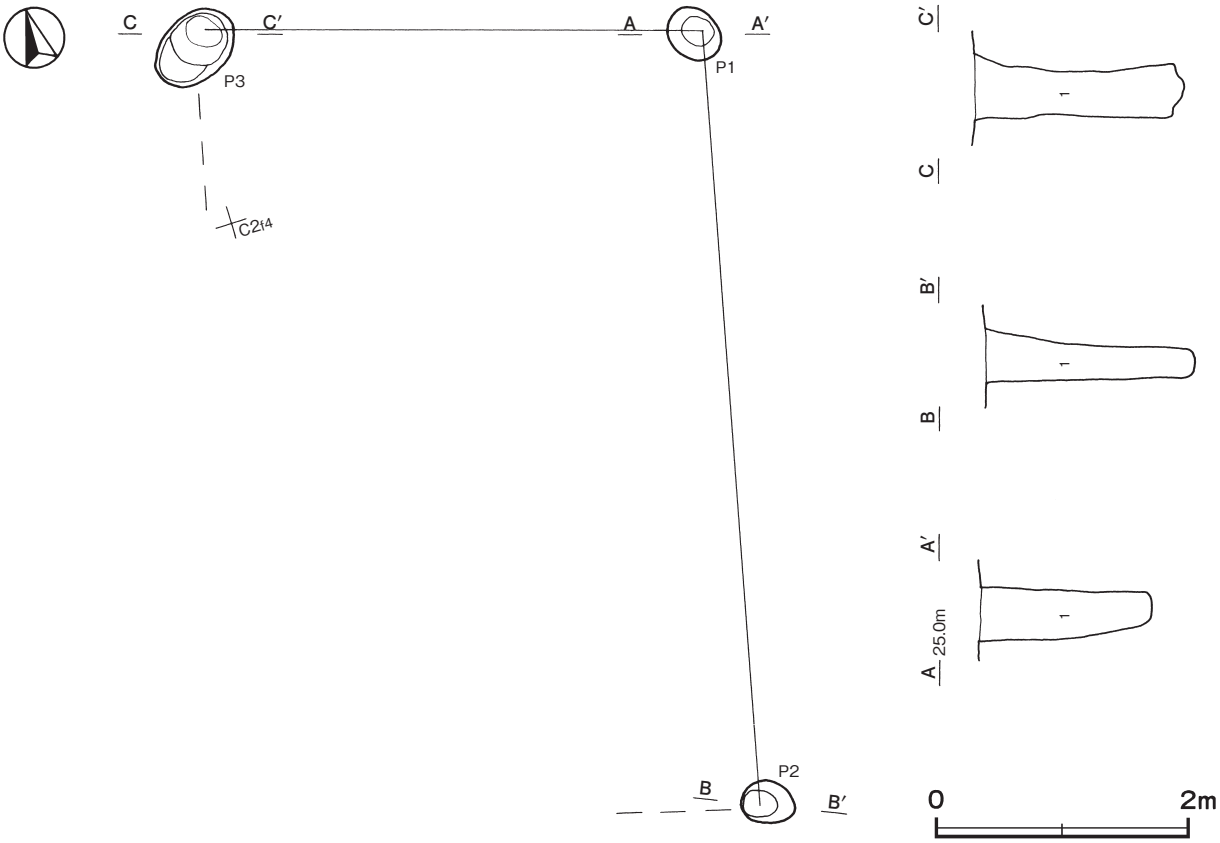
第 14 図　第 12 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 12 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 14 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
3	縄文土器	深鉢	－	(21.4)	－	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	隆帯による懸垂文　隆帯脇複列の有節沈線文	Ｐ３	20%　PL33

第 39 号掘立柱建物跡（第 15 図）

位置　調査区北部のＣ２e3 ～Ｃ２g4 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。



第 15 図　第 39 号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　耕作による攪乱のため柱穴は３か所しか確認できなかったが，桁行１間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－10°－Ｅの南北棟と推定できる。確認できた規模は桁行 6.12 m，梁行 3.98 mである。

柱穴　３か所。平面形は楕円形で，長径 44 ～ 72cm，短径 32 ～ 50cmである。深さは 138 ～ 166cm で，掘方の断面形は長方形または逆台形である。第１層は柱痕跡である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　暗　褐　色　ロームブロック少量（下層ほどロームブロックの含有量が多くなっている。）

所見　遺構の形状や覆土の状況が第 11･12 号掘立柱建物跡と類似していることから，中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

表３　縄文時代　掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁（間）	規模 桁×梁（m）	面積（㎡）	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
						桁間（m）	梁間（m）	構造	柱穴数	平面形	深さ（cm）			
11	C 2b2～C 2d4	N－85°－E	2×1	7.62×5.69	43.36	3.55～4.07	5.69	側柱	6	円形 楕円形	104～152	縄文土器片	中期前葉	
12	C 2b8～C 2d0	N－3°－W	1×1	6.24×4.42 4.95×3.92	23.31	4.95～6.24	3.92～4.42	側柱	4	円形 楕円形	78～95	縄文土器片	中期前葉	
39	C 2e3～C 2g4	N－10°－E	1×1	6.12×3.98	〔24.36〕	6.12	3.98	側柱	3	楕円形	138～166		中期前葉	

（3）陥し穴

第１号陥し穴（第 16 図）

位置　調査区中央部のＤ１g0 区，標高 24.1 mの平坦な台地上に位置している。

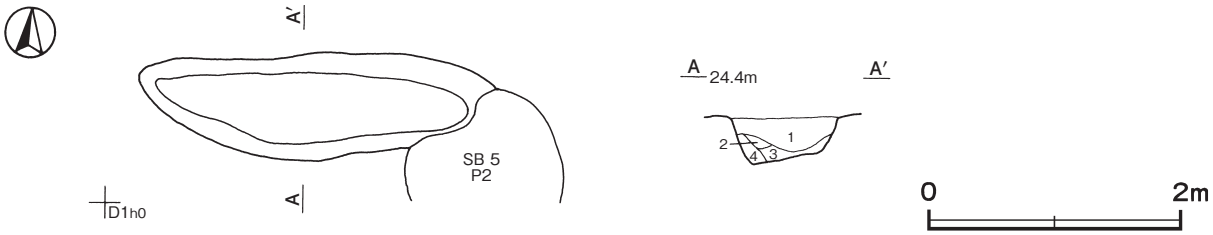
重複関係　第５号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長径 2.84 m，短径 0.83 mの楕円形で，長径方向はＮ－85°－Wである。深さは 35cmで，短径方向の断面は逆台形である。西壁は外傾して立ち上がっており，東壁は第５号掘立柱建物に掘り込まれているため立ち上がりの状況は確認できなかった。

覆土　４層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子多量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量
4　暗オリーブ褐色　ロームブロック多量

所見　遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。長径が等高線とほぼ平行に配置されている。



第 16 図　第１号陥し穴実測図

第２号陥し穴（SK36）（第 17 図）

位置　調査区北部のＢ２f3 区，標高 24.7 mの平坦な台地上に位置している。

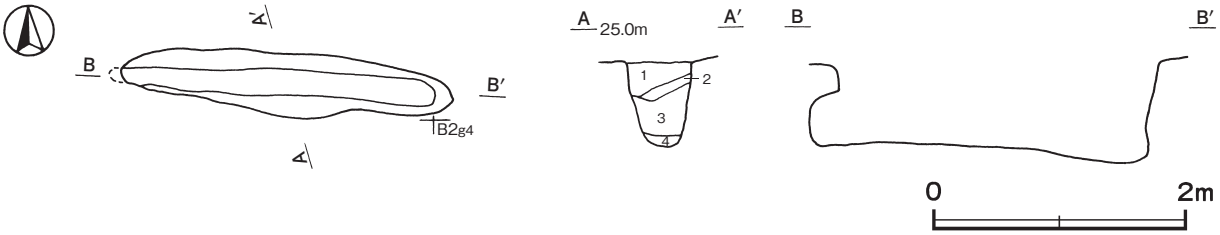
規模と形状　長径 2.64 m，短径 0.52 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 85 ˚－Ｗである。深さ 78cmで，短径方向の断面形は逆台形である。東壁は外傾し，西壁は内彎して立ち上がっている。

覆土　４層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

１	褐	色　ローム粒子多量	３	褐	色　ロームブロック少量
２	褐	色　ローム粒子中量	４	暗　褐	色　ロームブロック少量

所見　遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。長径が等高線とほぼ直交するように配置されている。



第 17 図　第２号陥し穴実測図

第３号陥し穴（SK199）（第 18 図）

位置　調査区北部のＣ２a3 区，標高 24.8 mの平坦な台地上に位置している。

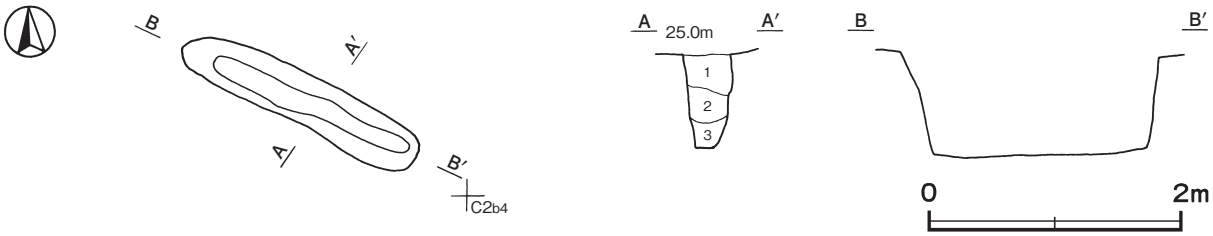
規模と形状　長径 2.05 m，短径 0.40 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 66 ˚－Ｗである。深さは 72cmで，短径方向の断面形は逆台形である。北西壁は外傾し，南東壁は直立している。

覆土　３層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

１	暗　褐	色　ローム粒子中量	３	暗　褐	色　ロームブロック多量
２	暗　褐	色　ロームブロック中量			

所見　遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。長径が等高線とほぼ平行に配置されている。



第 18 図　第３号陥し穴実測図

第４号陥し穴（SK133）（第 19 図）

位置　調査区北部のＣ２d4 区，標高 24.8 mの平坦な台地上に位置している。

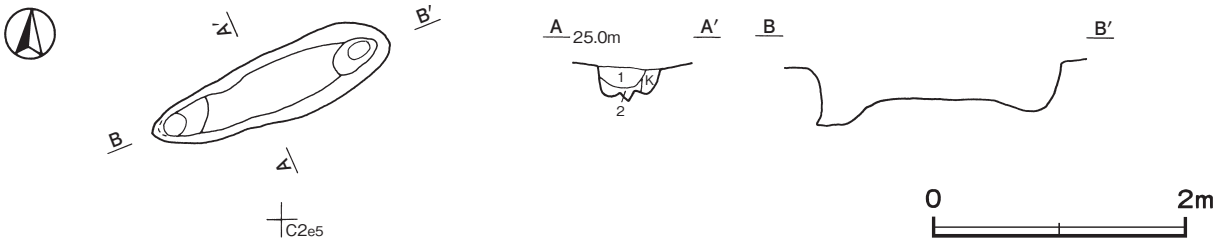
規模と形状　長径 2.00 m，短径 0.54 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 64 ˚－Ｅである。深さは 26cmで，短径方向の断面形はＵ字形である。南西壁は直立して，北東壁は外傾して立ち上がっている。南西壁・北東壁際には

それぞれピット状のくぼみがあり，深さはそれぞれ 20㎝・10㎝である。

覆土　２層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量　　2　暗　褐　色　ロームブロック少量

所見　遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。長径が等高線とほぼ直交するように配置されている。



第 19 図　第４号陥し穴実測図

第５号陥し穴（SK230）（第 20 図）

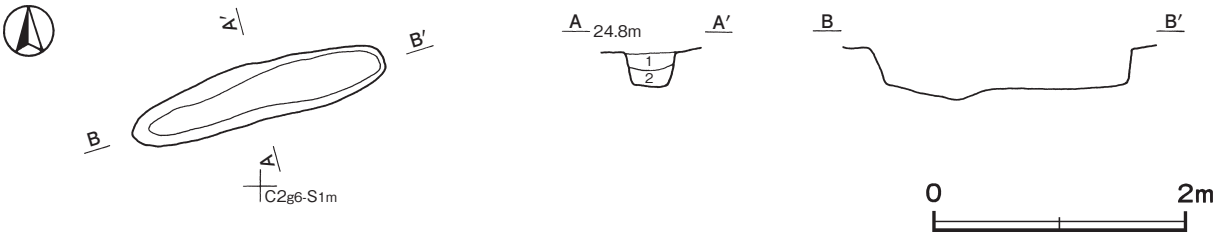
位置　調査区中央部のＣ２g5 区，標高 24.6 ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 2.08 ｍ，短径 0.45 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 72 ˚－Ｅである。深さは 30㎝で，短径方向の断面形は逆台形である。西壁は外傾して立ち上がっており，東壁は直立している。

覆土　２層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量　　2　暗　褐　色　ロームブロック多量

所見　遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。長径が等高線とほぼ直交するように配置されている。



第 20 図　第５号陥し穴実測図

第６号陥し穴（SK161）（第 21 図）

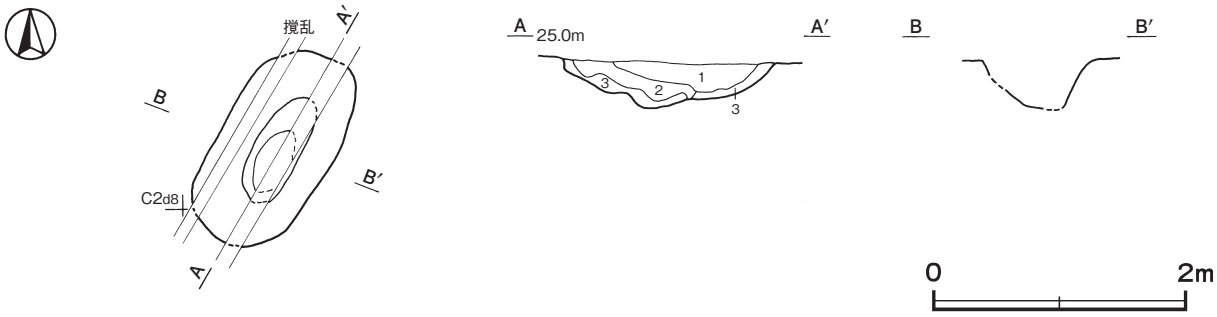
位置　調査区北部のＣ２d9 区，標高 24.8 ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 1.68 ｍ，短径 0.88 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 28 ˚－Ｅである。深さは 37㎝で，短径方向の断面形はＶ字形である。南北壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量　　3　褐　　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

所見　遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。長径が等高線とほぼ直交するように配置されている。



第 21 図　第６号陥し穴実測図

表４　縄文時代　陥し穴一覧表

番号	位　置	長径方向	平面形	規　模		覆土	断面	壁面	主な出土遺物	備　考 新旧関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	Ｄ１g0	N－85°－W	楕円形	2.84 × 0.83	35	自然	逆台形	外傾		本跡→ SB5
2	Ｂ２f3	N－85°－W	楕円形	2.64 × 0.52	78	自然	逆台形	外傾 内彎		
3	Ｃ２a3	N－66°－W	楕円形	2.05 × 0.40	72	自然	逆台形	直立 外傾		
4	Ｃ２d4	N－64°－E	楕円形	2.00 × 0.54	26	自然	U字形	直立 外傾		
5	Ｃ２g5	N－72°－E	楕円形	2.08 × 0.45	30	自然	逆台形	直立		
6	Ｃ２d9	N－28°－E	楕円形	1.68 × 0.88	37	自然	V字形	緩斜		

２　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴住居跡 12 軒と土坑１基が確認できた。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第 14 号住居跡（第 22・23 図）

位置　調査区北部のＣ２a2 区，標高 24.9 ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 4.65 ｍ，短軸 4.49 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 32°－Ｗである。壁高は 18 ～ 26cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，コーナー部付近を除いて踏み固められている。

炉　中央部から北西寄りに付設された地床炉である。規模は長径 92cm，短径 43cmの楕円形である。炉床部は床面から８cmくぼんでおり，赤変硬化している。

炉土層解説

１　黒　　色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量　　２　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 78 ～ 80cm で，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 15cmで，南東部の中央に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

１　黒　褐　色　ローム粒子少量　　３　褐　　色　ローム粒子少量
２　暗　褐　色　ローム粒子中量

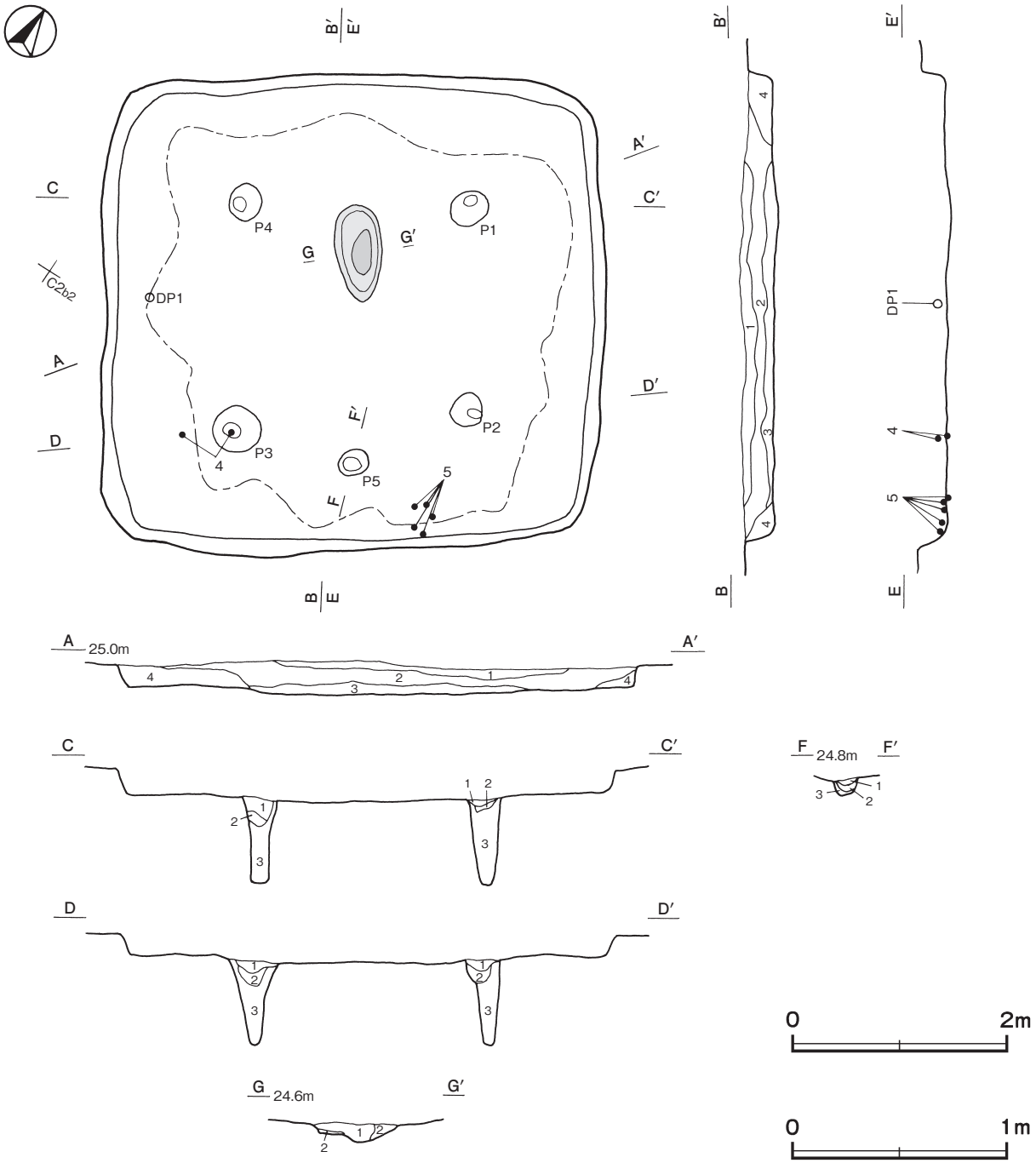
覆土　４層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

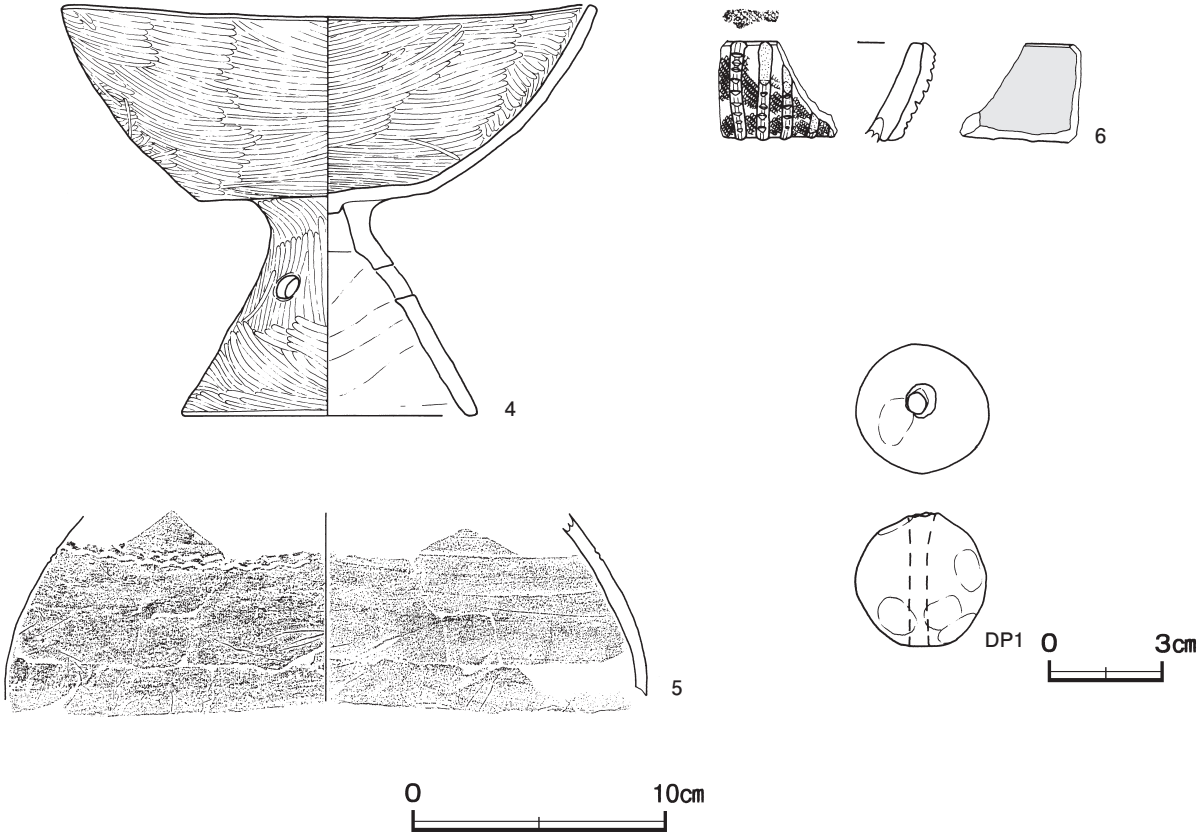
１	黒	色	ローム粒子少量	３	暗　褐　色	ロームブロック少量
２	黒　褐	色	ローム粒子中量	４	暗　褐　色	ローム粒子多量

遺物出土状況　弥生土器片 32 点（広口壺），土師器片 41 点（高杯１，器台 12，壺２，甕 26），土製品１点（土玉）が出土している。また，混入した縄文土器片 34 点（深鉢）も出土している。５は，南東部の床面から横位の状態で出土している。４は覆土中層やＰ３の覆土上層から出土した破片が接合している。，DP １は覆土下層，６は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期初頭（３世紀後半）に比定できる。



第 22 図　第 14 号住居跡実測図



第 23 図　第 14 号住居跡出土遺物実測図

第 14 号住居跡出土遺物観察表（第 23 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
4	土師器	高坏	20.6	16.0	11.4	長石・石英・雲母	橙	普通	坏部外・内面横位ヘラ磨き　脚部外面上位縦位・下位斜位のヘラ磨き　脚部内面ナデ　脚部円孔３か所	中層・Ｐ３	85%　PL34
5	土師器	壺	－	(7.1)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子	明赤褐	普通	S 字状結節文	床面	５％
6	土師器	壺	－	(3.9)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文 RL　キザミをもつ棒状浮文	覆土中	５％

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 1	土玉	3.6	3.5	0.8	37.0	長石・石英・赤色粒子	二方向からの穿孔　孔端部わずかに摩滅	下層	PL52

第 16 号住居跡（第 24 図）

位置　調査区中央部西端のＣ１c0 区，標高 23.9 ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 3.95 ｍで，西側が調査区域外へ延びているため短軸は 1.62 ｍしか確認できなかった。隅丸方形と推定でき，主軸方向はＮ－ 58°－Ｗである。壁高は 45 ～ 78cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

ピット　深さ 16cm で，南東壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

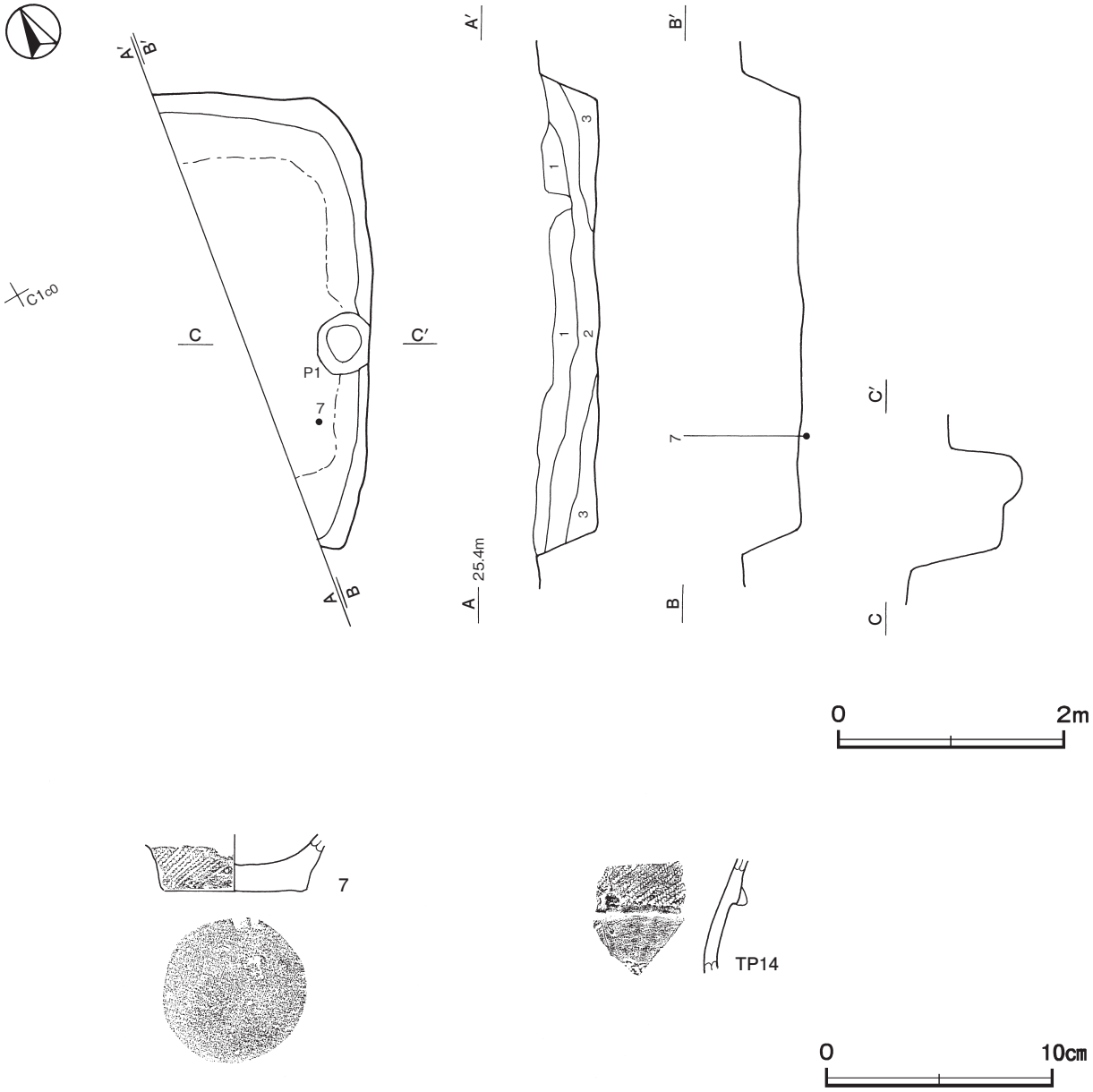
覆土　３層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　弥生土器片 24 点（広口壺），土師器片 19 点（甕 18，ミニチュア土器１）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片４点（深鉢），石器１点（浮子）も出土している。７は南東部の床面，TP14 は覆土中からそれぞれ出土している

所見　時期は，出土土器や主軸方向から前期初頭（３世紀後半）と考えられる。



第 24 図　第 16 号住居跡・出土遺物実測図

第 16 号住居跡出土遺物観察表（第 24 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
7	弥生土器	広口壺	－	(2.5)	6.2	長石・石英・雲母	橙	普通	付加条１種縄文	床面	5 %

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP14	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外面付加条１種縄文　貼瘤　頸部無文	覆土中	PL33

第 23 号住居跡（第 25・26 図）

位置　調査区中央部のＣ１j0 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 14 号掘立柱建物，第 414 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.63 m，短軸 3.30 mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 50 °－Ｅである。壁高は７～ 10cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，東側コーナー部や壁際を除いて踏み固められている。

炉　中央部から東寄りに付設された地床炉である。規模は長径 46cm，短径 34cm である。炉床部は床面と同じ高さを使用しており，赤変硬化している。

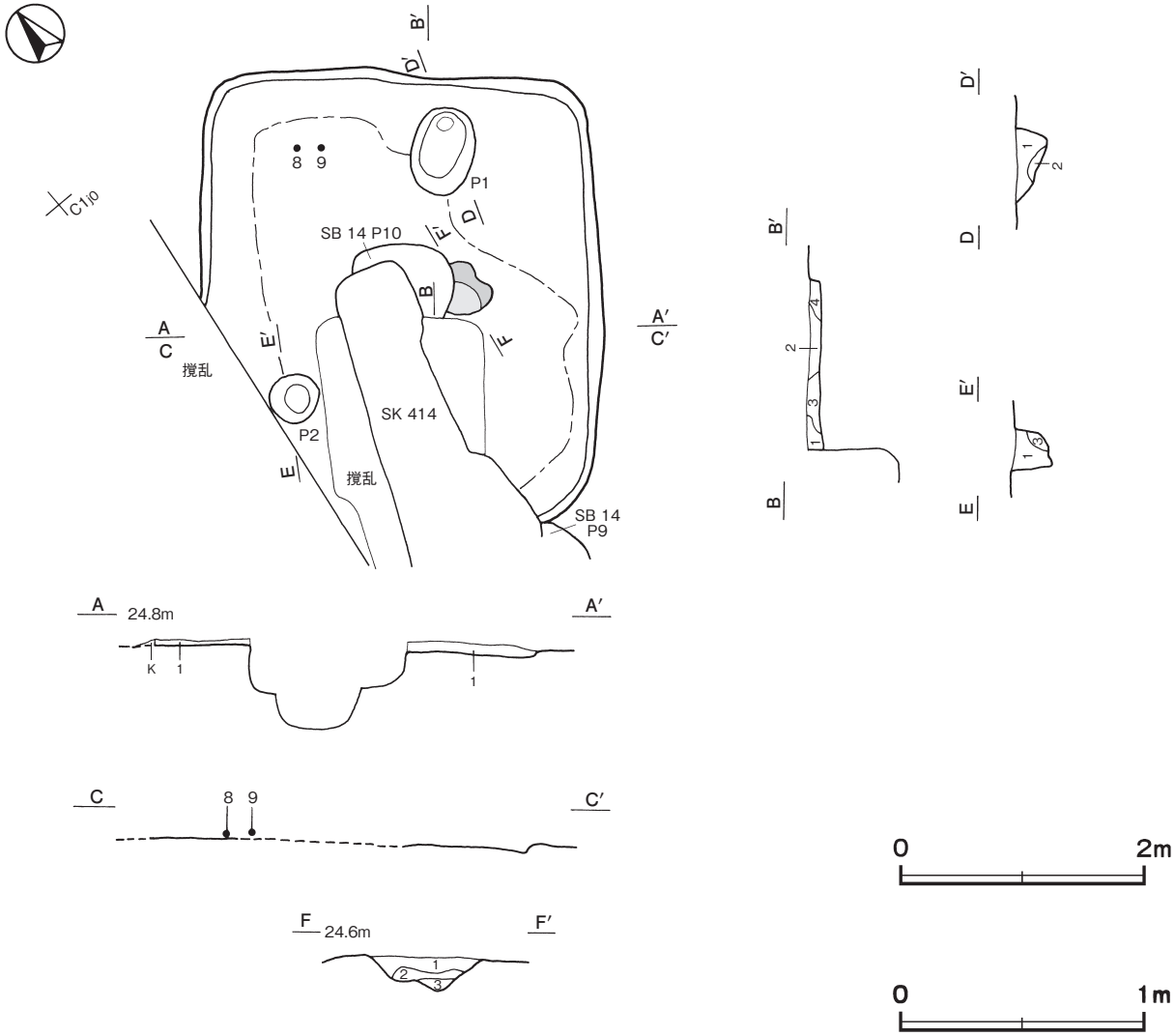
炉土層解説

１　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
２　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
３　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１・２は，ともに深さ 24cm で，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

１　黒　褐　色　ローム粒子少量
２　暗　褐　色　ローム粒子中量
３　黒　褐　色　ロームブロック少量



第 25 図　第 23 号住居跡実測図

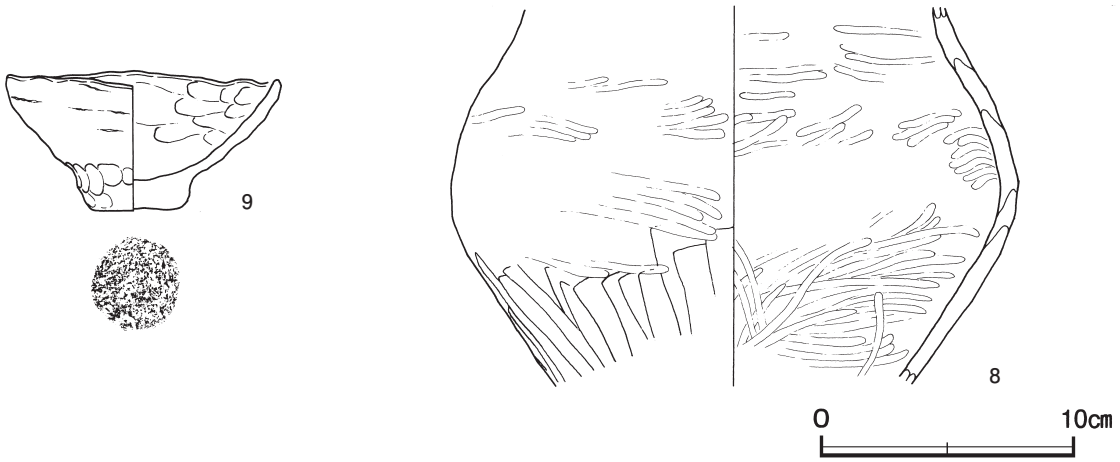
覆土　４層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　弥生土器片１点（広口壺），土師器片 47 点（高坏１，壺８，甕 37，手捏土器１）が出土している。また，混入した縄文土器９点（深鉢），土師器片６点（高台付椀），須恵器片７点（蓋１，甕６），瓦１点（丸瓦）も出土している。８は北部の床面，９は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期初頭（３世紀後半）に比定できる。



第 26 図　第 23 号住居跡出土遺物実測図

第 23 号住居跡出土遺物観察表（第 26 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
8	土師器	壺	－	(14.7)	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	外面上位ナデ後，横位のヘラ磨き　下位縦位のヘラナデ　内面ヘラ磨き	床面	20%
9	土師器	手捏土器	10.6	5.4	3.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面ナデ　指頭痕	下層	100%　PL34

第 26 号住居跡（第 27 ～ 29 図）

位置　調査区中央部のＣ２j4 区，標高 24.6 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 30・40 号掘立柱建物，第 984・1012 号土坑，第 204 ～ 207・210 ～ 217・219・220 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　長軸 7.98 ｍ，短軸 7.82 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 36 ゜－Ｗである。壁高は 13 ～ 26㎝で，外傾して立ち上がっている。南東壁の中央部に，長軸 3.12 ｍ，短軸 2.38 ｍの張り出し部が確認できた。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。

炉　２か所。炉１は，中央部から北東寄りに付設された地床炉である。規模は長径 68cm，短径 34cm である。炉床部は床面から３㎝くぼんでおり，炉床面は赤変硬化している。炉２は，中央部に付設された地床炉である。規模は長径 52cm，短径 38cm である。炉床部は床面から６㎝くぼんでおり，赤変硬化している。

炉１土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量

炉２土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 23 ～ 56cm で，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 18cmで，位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

貯蔵穴　３か所。貯蔵穴１は，張り出し部の中央に位置している。長軸 162cm，短軸 120cmの隅丸長方形で，深さ 33cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴２は，北コーナー部に位置している。一辺 74cmの隅丸方形で，深さ 13cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴３は，東コーナー部に位置している。長軸 89cm，短軸 75cmの隅丸長方形で，深さは 34cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴１土層解説
①　黒　褐　色　ロームブロック中量
②　黒　褐　色　ロームブロック微量

貯蔵穴２土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

貯蔵穴３土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

覆土　６層に分層できる。各層にロームの粒子やブロックを含んでいることから埋め戻されている。

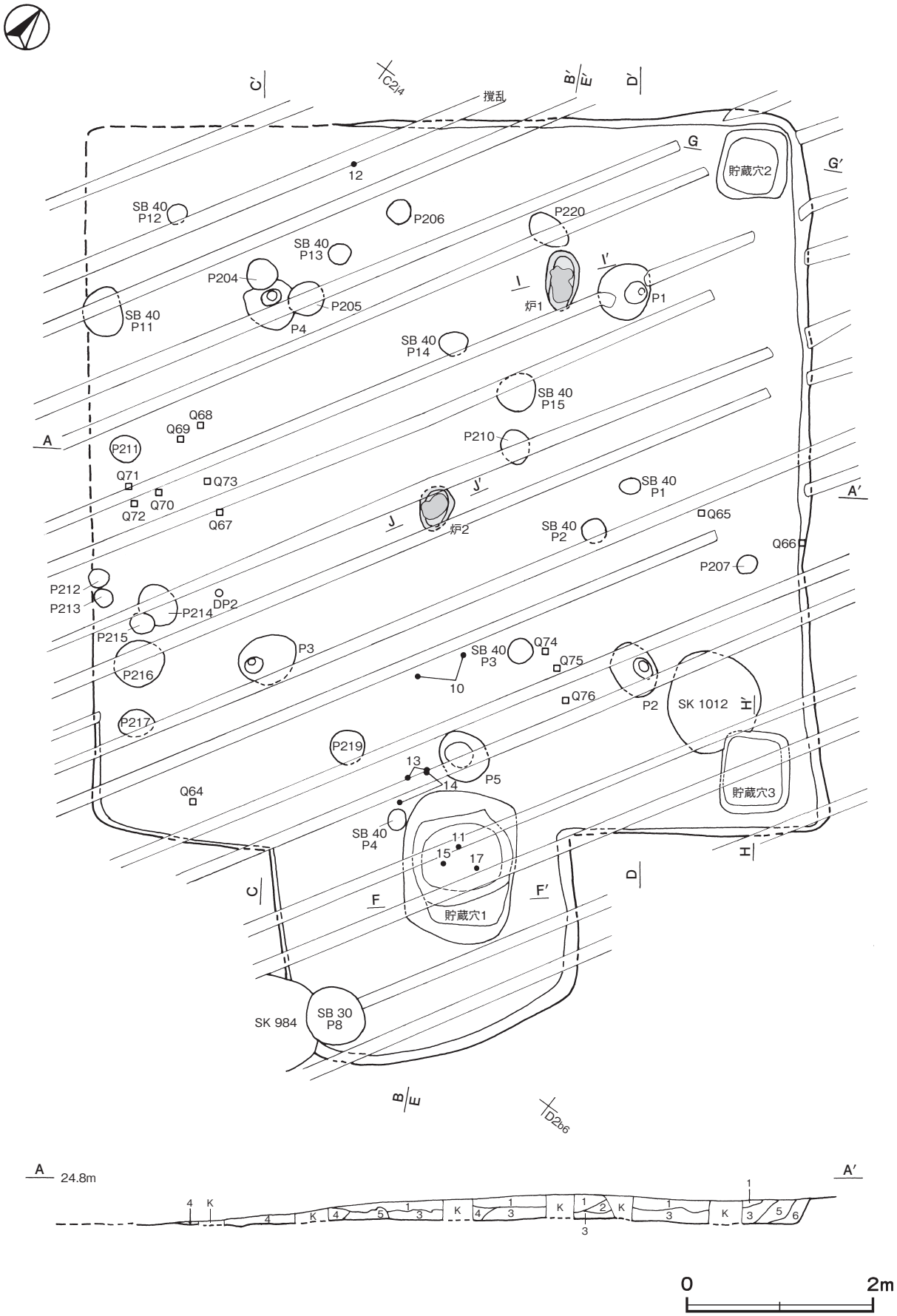
土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 175 点(椀 22, 高杯７, 甕 146), 須恵器片１点(瑳), 土製品１点(土玉), 剥片 13 点(滑石)が出土している。また，混入した縄文土器片２点（深鉢），土師器片 23 点（坏３，高台付椀２，壺 11，甕７），須恵器片 18 点（坏８，蓋２，甕８），鉄製品１点（釘）も出土している。11 は貯蔵穴１の覆土下層，15・17 は貯蔵穴１の底面からそれぞれ出土している。13・14 は南東部，DP ２は南西壁，Ｑ 64 ～Ｑ 76 は南半部の床面からそれぞれ出土しており，Ｑ 67 ～Ｑ 73 は南西壁際，Ｑ 74 ～Ｑ 76 はＰ２周辺からまとまって出土している。12 は北西壁際，10 は南東部の覆土下層，16・18 は覆土中からそれぞれ出土している。

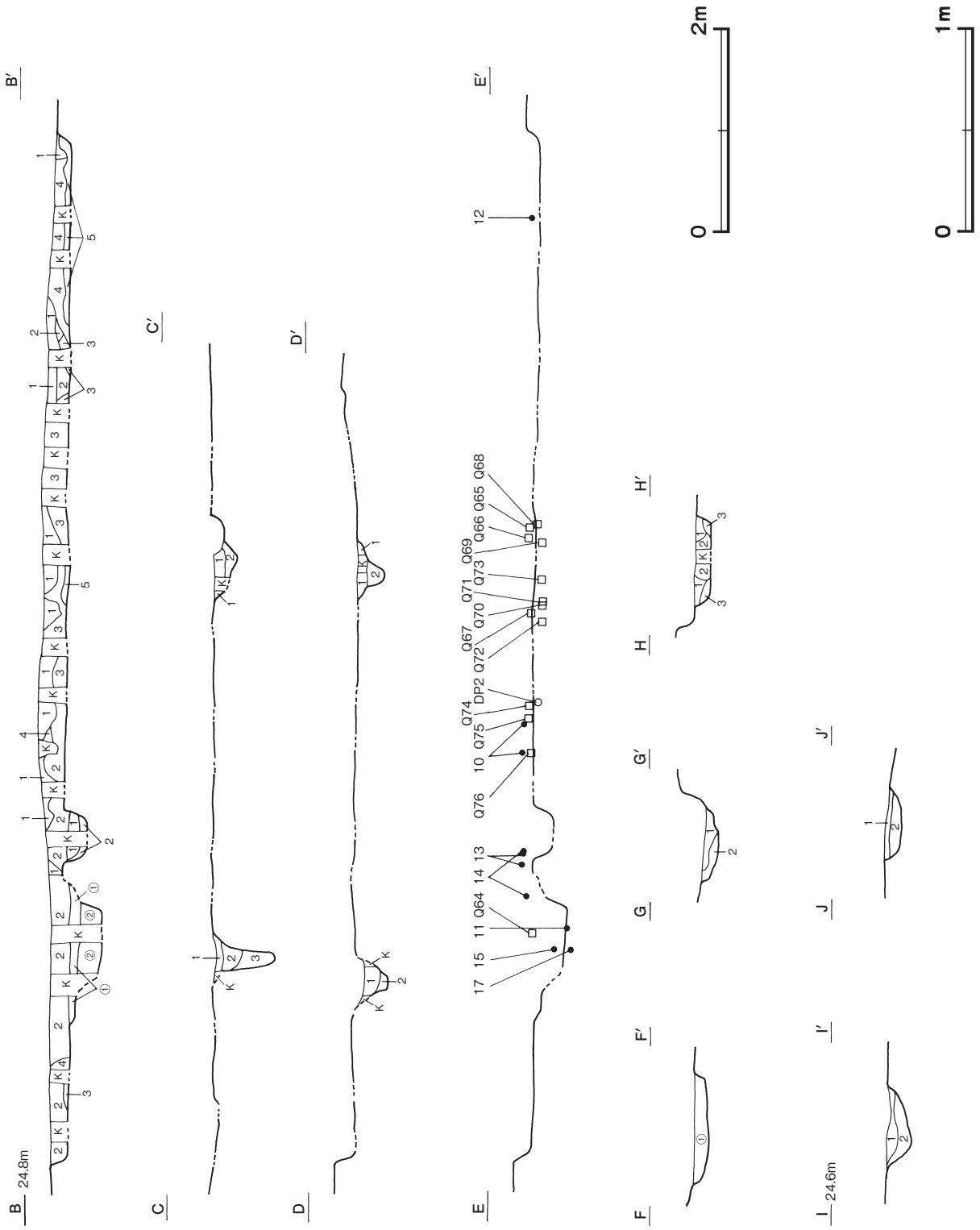
所見　時期は，出土土器から中期後葉（５世紀後葉）に比定できる。本跡は一辺約８ｍの大形住居で，南東壁に張り出し部をもっている。同様な住居形態は，牛久市中久喜遺跡や稲敷市堂ノ上遺跡などに類例がある。

第 26 号住居跡出土遺物観察表（第 29 図）

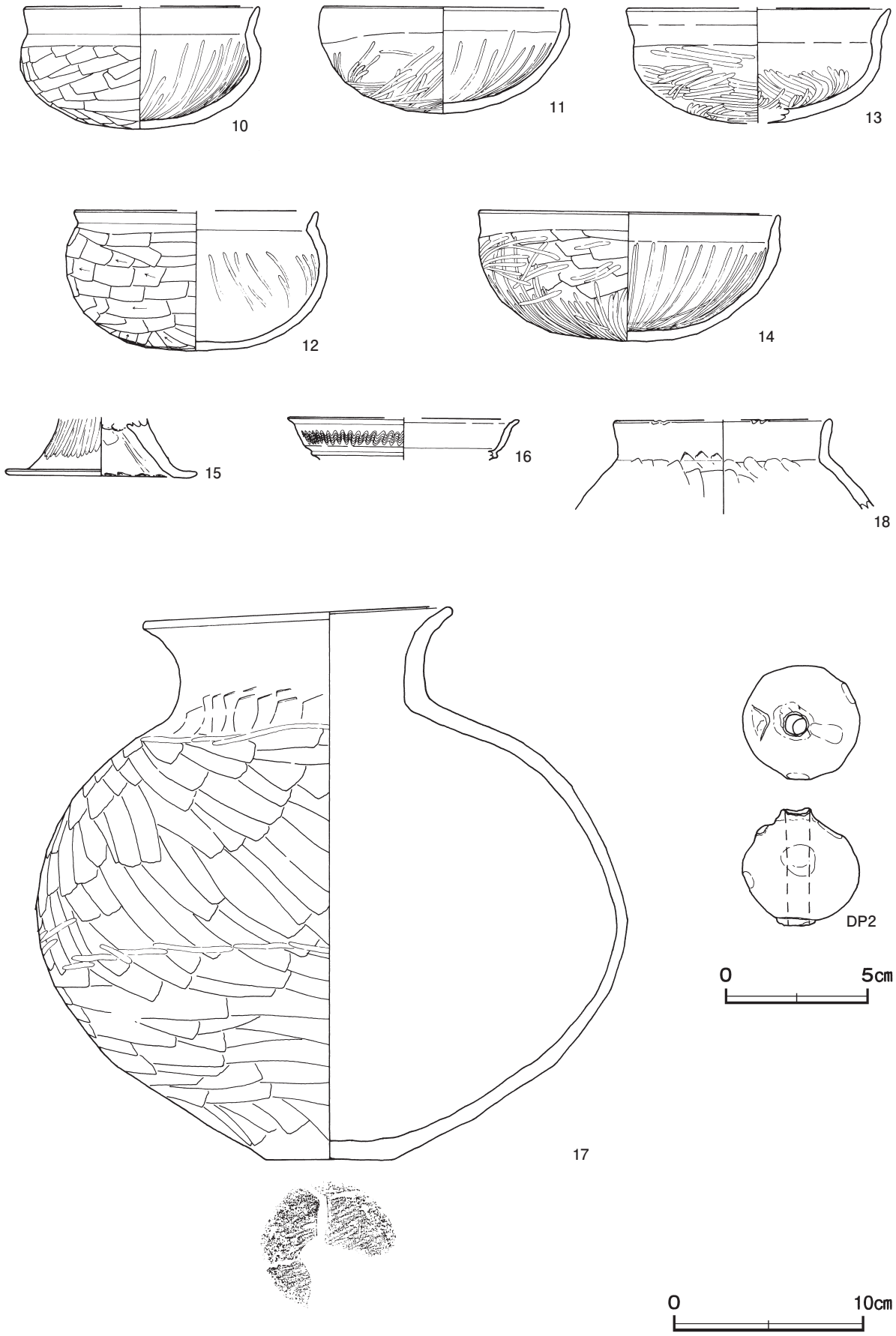
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
10	土師器	椀	［12.4］	6.5	－	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き	下層	40%　PL36
11	土師器	椀	12.8	5.6	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面ヘラ削り後，ヘラ磨き　内面放射状のヘラ磨き	貯蔵穴１	70%　PL36
12	土師器	椀	［12.8］	7.5	－	長石・石英・雲母	橙	普通	外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	下層	40%
13	土師器	椀	［13.8］	6.1	－	長石・石英	橙	普通	体部外・内面ヘラ磨き	床面	30%　PL36
14	土師器	椀	16.0	6.8	－	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ削り後，ヘラ磨き　内面放射状のヘラ磨き	床面	50%　PL36
15	土師器	高坏	－	(3.1)	9.8	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ磨き　内面ナデ	貯蔵穴１	10%



第 27 図　第 26 号住居跡実測図（1）



第 28 図　第 26 号住居跡実測図（2）



第 29 図　第 26 号住居跡出土遺物実測図

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
16	須恵器	瓶	［12.2］	（2.1）	－	長石・石英	灰	良好	口縁部櫛描き波状文	覆土中	5％　PL36
17	土師器	甕	16.2	29.5	6.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ	貯蔵穴１	85%　PL36
18	土師器	甕	［11.4］	（4.9）	－	長石・石英・針状鉱物	暗赤灰	普通	体部外面ヘラナデ　内面指頭痕	覆土中	5％

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 2	土玉	4.2	4.1	0.8	58.2	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部未調整	床面	PL52

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	出土位置	番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	出土位置
Q 64	剥片	1.38	0.89	0.20	0.33	滑石	床面	Q 76 － 4	剥片	1.30	0.79	0.37	0.42	滑石	床面
Q 65 － 1	石核	8.32	7.22	1.63	75.9	滑石	床面	Q 76 － 5	剥片	1.35	0.76	0.25	0.29	滑石	床面
Q 65 － 2	剥片	2.15	1.28	0.26	0.88	滑石	床面	Q 76 － 6	剥片	1.15	1.03	0.23	0.35	滑石	床面
Q 65 － 3	剥片	1.04	0.75	0.14	0.13	滑石	床面	Q 76 － 7	剥片	1.05	0.85	0.23	0.25	滑石	床面
Q 66	石核	6.37	6.32	2.05	94.2	滑石	床面	Q 76 － 8	剥片	1.13	0.55	0.23	0.17	滑石	床面
Q 67	剥片	0.63	0.45	0.11	0.04	滑石	床面	Q 76 － 9	剥片	0.91	0.78	0.24	0.23	滑石	床面
Q 68	剥片	1.06	0.65	0.18	0.18	滑石	床面	Q 76 － 10	剥片	0.98	0.76	0.17	0.15	滑石	床面
Q 69	剥片	1.86	1.35	0.32	1.02	滑石	床面	Q 76 － 11	剥片	1.20	0.62	0.34	0.31	滑石	床面
Q 70	剥片	1.50	0.78	0.22	0.28	滑石	床面	Q 76 － 12	剥片	1.32	0.61	0.36	0.32	滑石	床面
Q 71	剥片	0.61	0.50	0.07	0.02	滑石	床面	Q 76 － 13	剥片	1.20	0.62	0.33	0.20	滑石	床面
Q 72	剥片	2.87	1.18	0.52	2.32	滑石	床面	Q 76 － 14	剥片	1.05	0.64	0.22	0.21	滑石	床面
Q 73 － 1	剥片	2.41	1.30	0.57	2.12	滑石	床面	Q 76 － 15	剥片	0.85	0.64	0.18	0.13	滑石	床面
Q 73 － 2	剥片	1.98	0.90	0.28	0.56	滑石	床面	Q 76 － 16	剥片	1.01	0.60	0.15	0.13	滑石	床面
Q 74 － 1	剥片	0.86	0.65	0.11	0.07	滑石	床面	Q 76 － 17	剥片	0.85	0.47	0.20	0.10	滑石	床面
Q 74 － 2	剥片	0.97	0.59	0.19	0.12	滑石	床面	Q 76 － 18	剥片	0.71	0.62	0.21	0.11	滑石	床面
Q 75 － 1	剥片	1.05	0.45	0.20	0.13	滑石	床面	Q 76 － 19	剥片	0.67	0.50	0.18	0.08	滑石	床面
Q 75 － 2	剥片	0.80	0.51	0.23	0.12	滑石	床面	Q 76 － 20	剥片	0.66	0.59	0.09	0.06	滑石	床面
Q 76 － 1	剥片	1.43	0.90	0.30	0.58	滑石	床面	Q 76 － 21	剥片	0.72	0.39	0.23	0.08	滑石	床面
Q 76 － 2	剥片	1.41	0.85	0.30	0.41	滑石	床面	Q 76 － 22	剥片	0.58	0.43	0.15	0.08	滑石	床面
Q 76 － 3	剥片	1.40	0.73	0.35	0.48	滑石	床面	Q 76 － 23	剥片	0.80	0.31	0.10	0.05	滑石	床面

第 30 号住居跡（第 30 ～ 34 図）

位置　調査区中央部のＣ２i7 区，標高 24.9 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 896・905・906・959 号土坑を掘り込み，第 31・34 号掘立柱建物，第１・２号方形竪穴遺構，第 301・885・894・897・901・902・904・910・913 号土坑，第 158・349 号ピットに掘り込まれている。

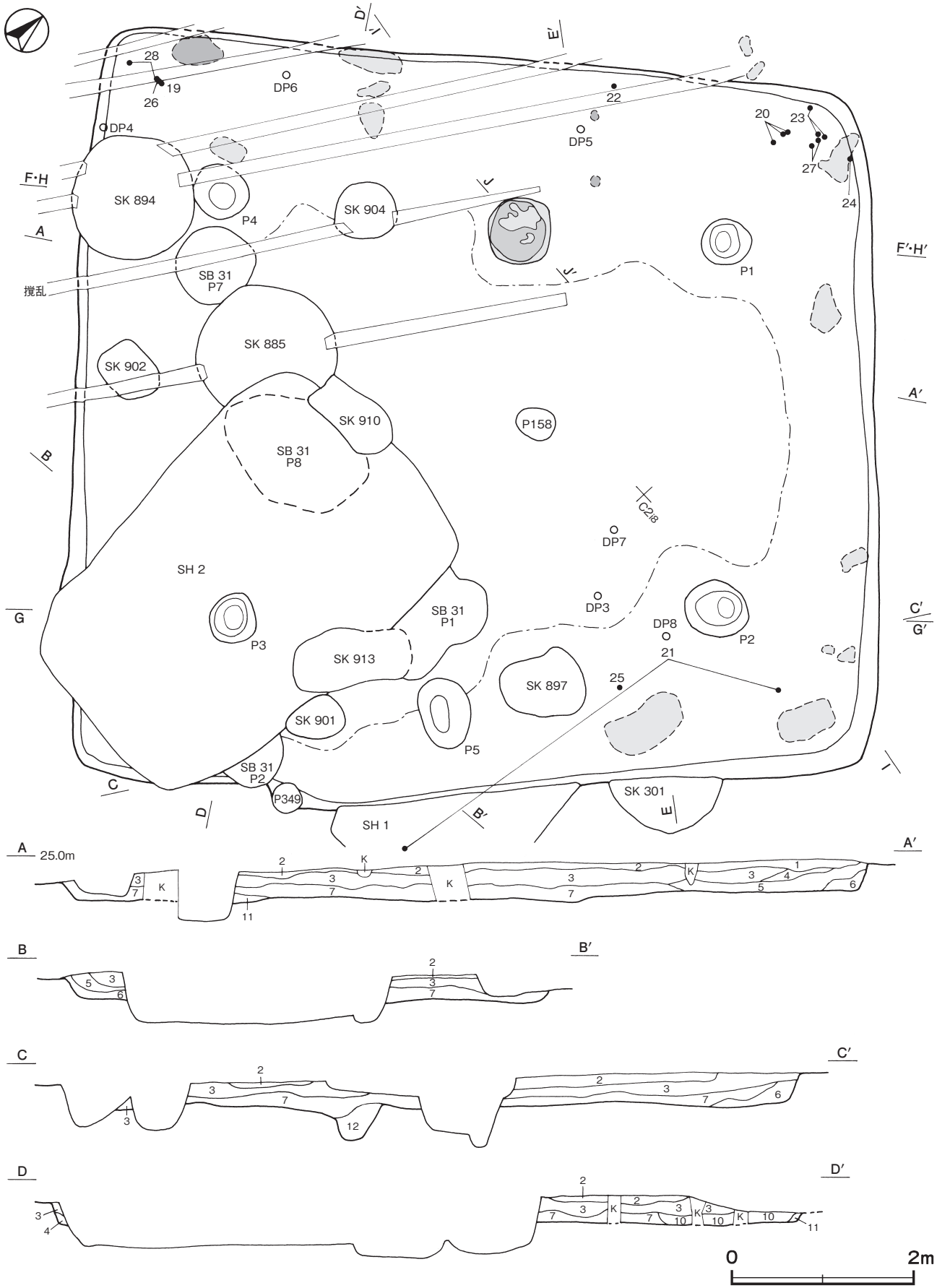
規模と形状　長軸 8.87 ｍ，短軸 8.36 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 46 ゜－Ｗである。壁高は 15 ～ 55cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。各壁際には焼土塊が確認できた。

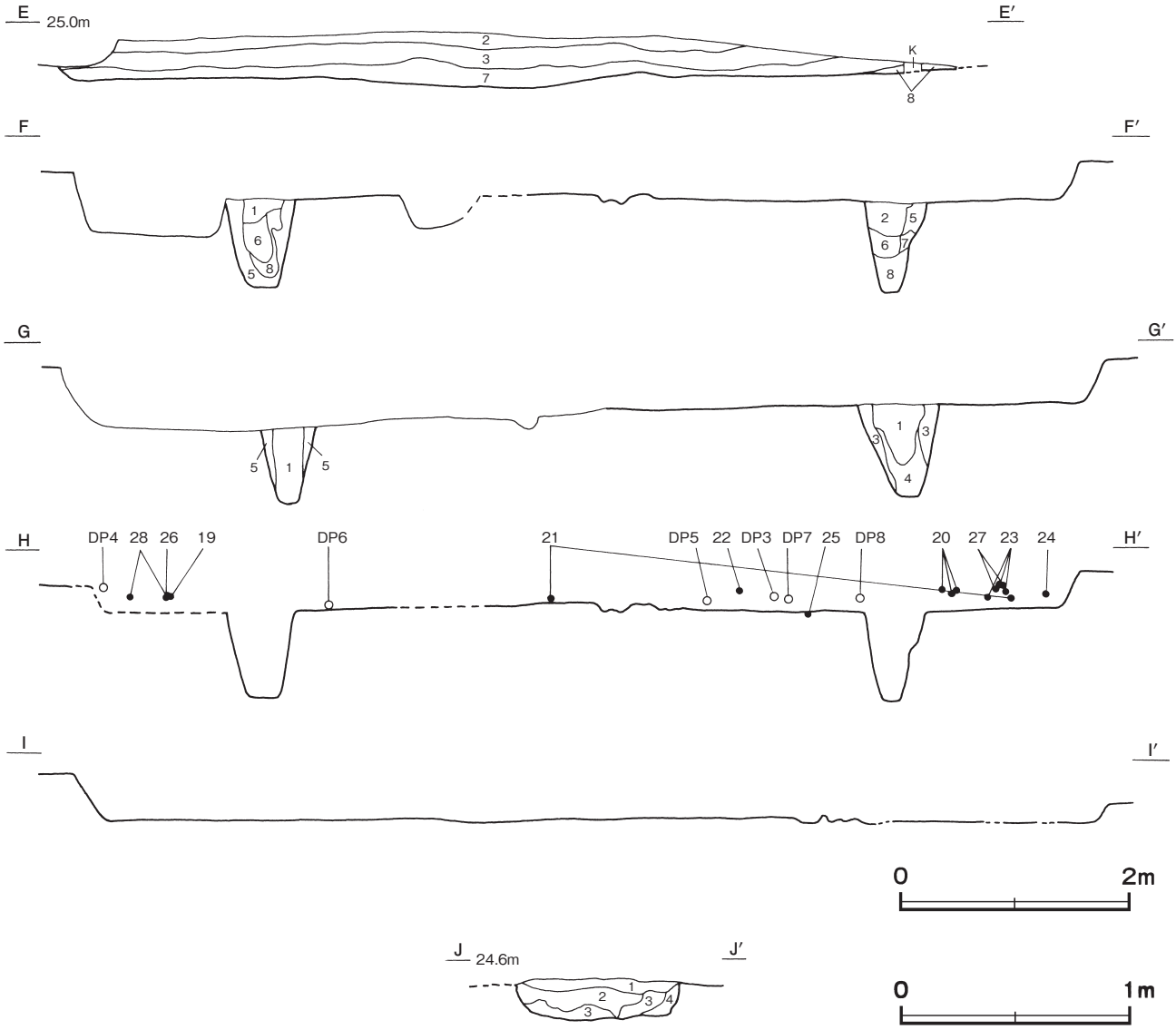
炉　中央部から北西寄りに付設された地床炉である。規模は長径 74cm，短径 70cm である。炉床部は床面と同じ高さを使用しており，赤変硬化している。

炉土層解説

１　赤　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
２　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
３　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
４　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量



第 30 図　第 30 号住居跡実測図（1）



第 31 図　第 30 号住居跡実測図（2）

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 66 ～ 80cm で，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 55cmで，南東壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

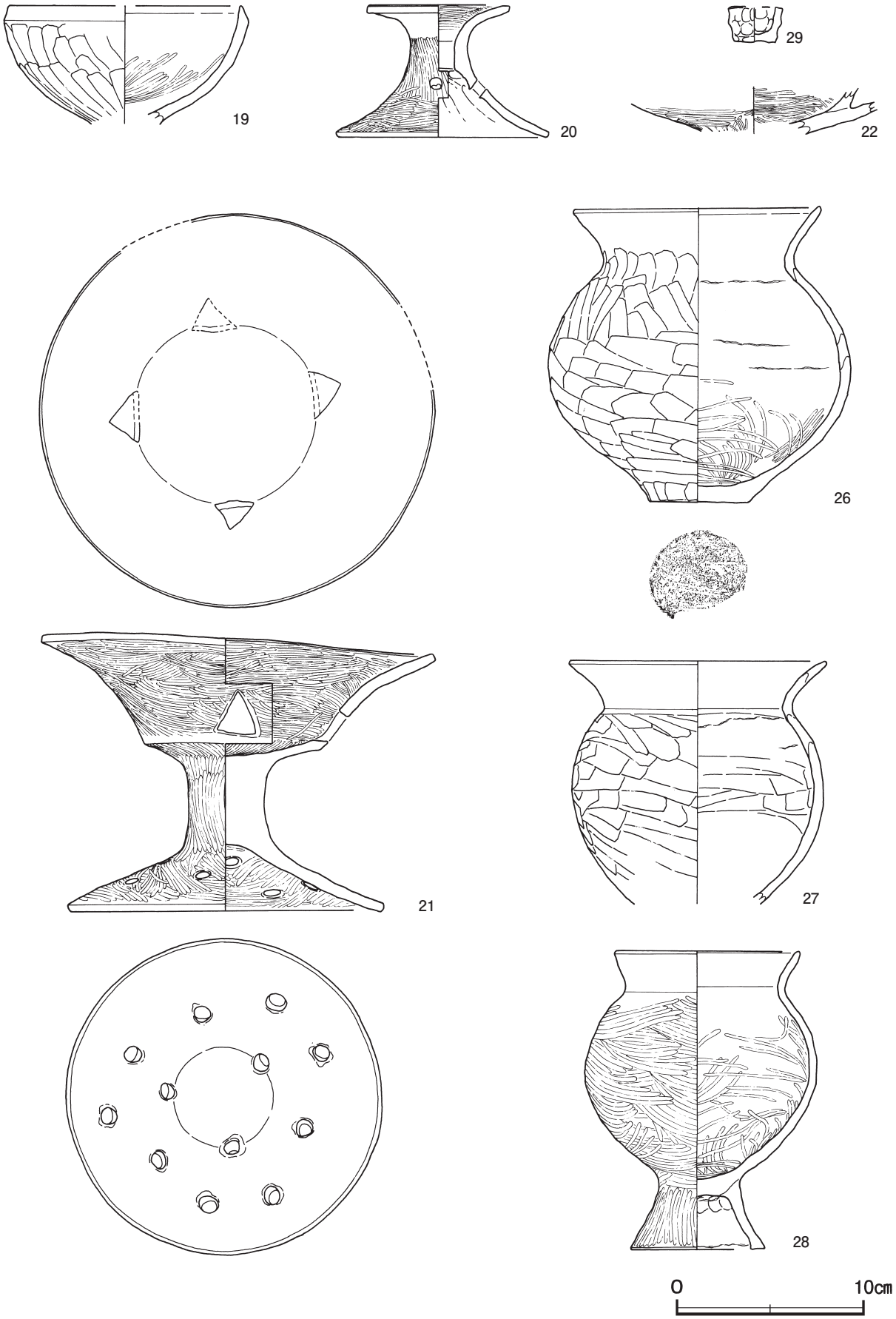
ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子少量

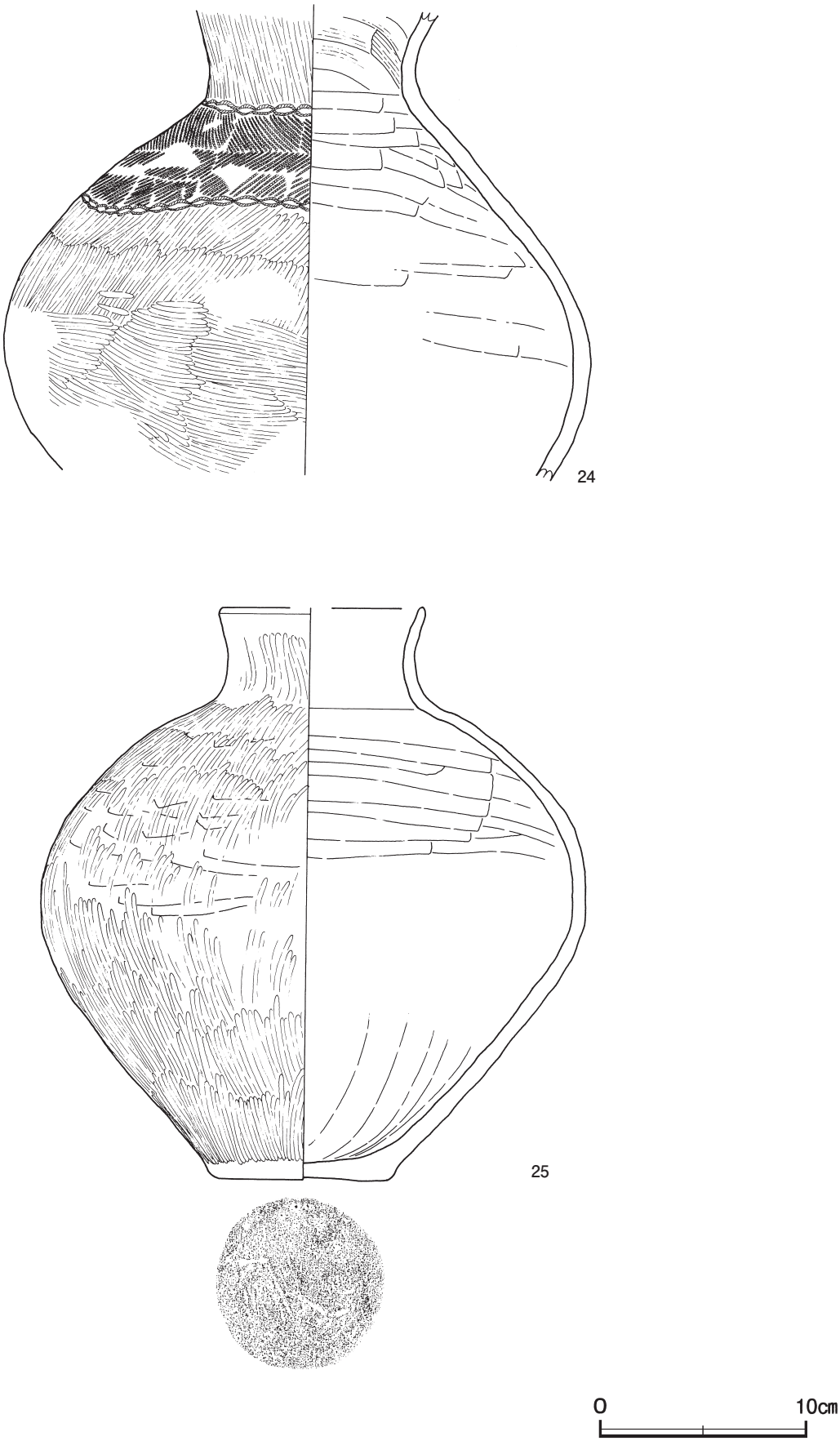
覆土　11 層に分層できる。第１～３層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。第３層以下は各層に含有物が含まれていることから埋め戻されている。第 12 層はＰ５の覆土である。

土層解説

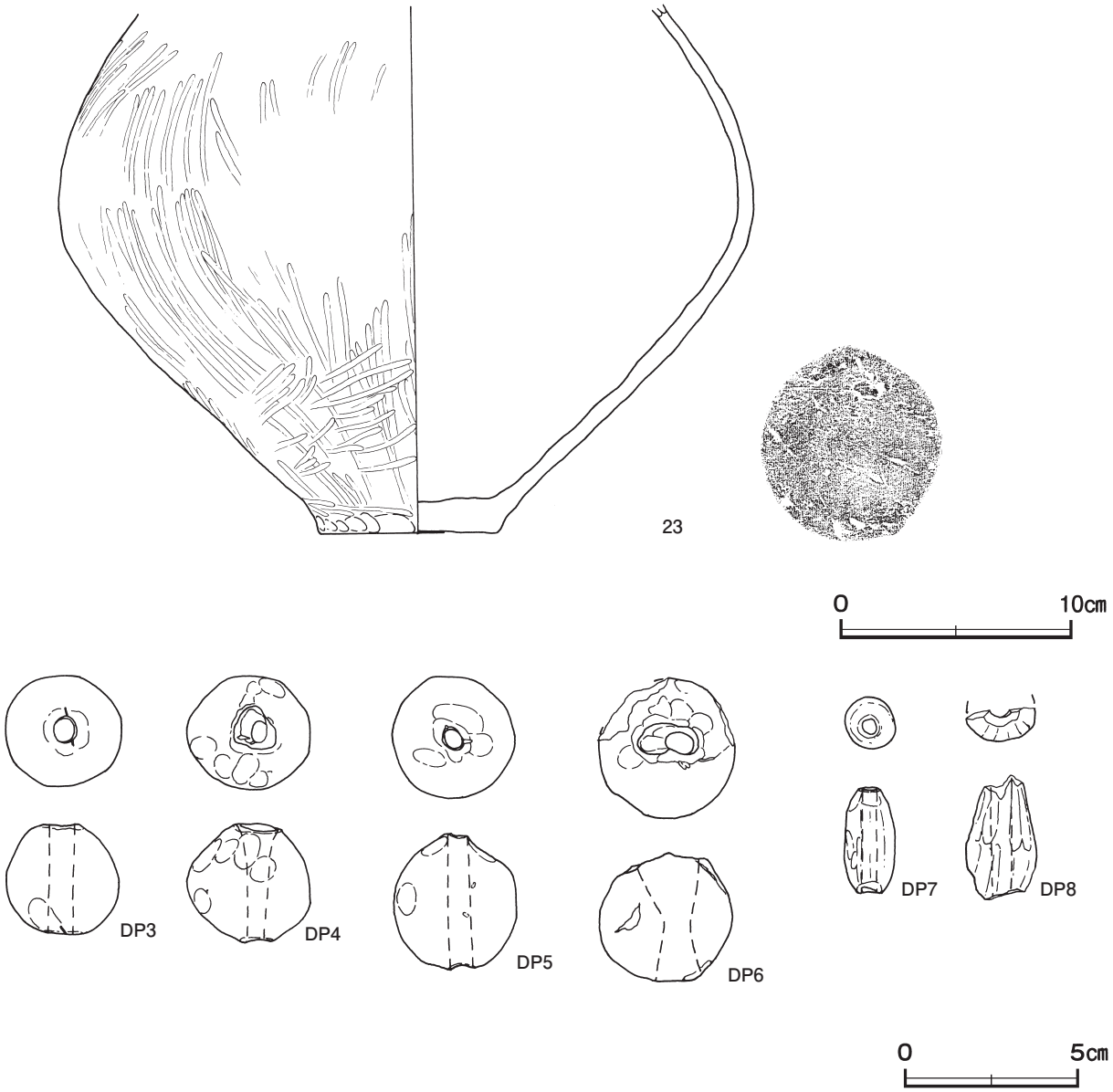
1　黒　褐　色　鉄滓中量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子微量
9　褐　　色　焼土ブロック・ロームブロック少量
10　褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
11　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
12　褐　　色　ロームブロック少量（Ｐ５）



第 32 図　第 30 号住居跡出土遺物実測図（1）



第 33 図　第 30 号住居跡出土遺物実測図（2）



第 34 図　第 30 号住居跡出土遺物実測図（3）

遺物出土状況　弥生土器片３点（広口壺），土師器片 541 点（高坏 10，器台６，坩４，壺８，甕 510，台付甕１，ミニチュア土器１，手捏土器１），土製品８点（土玉６，管状土錘２），粘土塊７点が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片 18 点（深鉢），土師器片 109 点（坏 48，高台付椀５，甕 56），須恵器片 99 点（坏 71，盤１，蓋３，鉢３，甕 19，甑２），剥片 11 点（黒曜石），瓦１点（平瓦），銅製品１点（銭貨），鉄滓 20 点（2097.7g）も出土している。25 は南東部，DP ６は北西壁際，28 は西コーナー部から横位の状態でそれぞれ床面から出土している。21 は東コーナー部，24 は北コーナー部，DP ５は北西部の覆土下層からそれぞれ出土している。19・26 は西コーナー部，23・27 は北コーナー部，22 は北西壁際，DP ３・DP ７は中央部，DP ８は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。なお，鉄滓については，出土層位が覆土上層であり，周辺から奈良時代の土師器や須恵器も出土していることから，後世に廃棄されたものである。

所見　時期は，出土土器から前期初頭（３世紀後半）に比定できる。壁際の床面から焼土塊が確認できたことから焼失住居である。また，一辺８ｍを超える大形住居であり，同時期の集落の中心的な建物と考えられる。

第 30 号住居跡出土遺物観察表（第 32 ～ 34 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
19	土師器	椀形高坏	［12.2］	（6.1）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	中層	30%
20	土師器	器台	7.4	7.0	11.0	長石・石英・針状鉱物	灰褐	普通	受け部内面横位のヘラ磨き　脚部外面上位縦位・下位横位のヘラ磨き　内面指頭痕　脚部円孔３か所	中層	70%　PL35
21	土師器	器台	20.7	14.6	16.6	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	坏部外・内面横位，脚柱部縦位，裾部外・内面斜位のヘラ磨き　坏部三角形透孔４か所　脚部円孔 12 か所	下層	90%　PL35
22	土師器	結合器台	－	（2.4）	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外・内面ヘラ磨き	中層	20%
23	土師器	壺	－	（22.4）	7.6	長石・石英・雲母	黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き	中層	50%
24	土師器	壺	－	（22.2）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面上位Ｓ字状結節文による区画　区画内羽状縄文　中位斜位・下位横位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	下層	50%　PL35
25	土師器	壺	［9.4］	27.4	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	床面	70%　PL35
26	土師器	甕	12.9	15.5	5.1	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラナデ　下位ナデ後，ヘラ磨き	中層	80%　PL35
27	土師器	甕	13.5	（12.8）	－	長石・石英	橙	普通	体部外・内面ヘラナデ	中層	40%
28	土師器	台付甕	9.5	15.7	7.1	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外・内面ヘラ磨き　脚部内面指頭痕	床面	95%　PL35
29	土師器	ミニチュア	［2.8］	1.9	［2.2］	石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面指頭痕	覆土中	20%

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 3	土玉	3.2	3.4	0.7	35.3	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部ナデ	中層	PL52
DP 4	土玉	3.4	3.6	1.0	36.0	長石・石英	二方向からの穿孔　孔端部わずかに摩滅　紐擦れ痕有り	覆土中	PL52
DP 5	土玉	3.9	3.6	0.7	44.3	長石・石英・赤色粒子	一方向からの穿孔　孔端部摩滅　紐擦れ痕有り	下層	PL52
DP 6	土玉	3.7	4.0	1.7	（49.3）	長石・石英・赤色粒子	二方向からの穿孔　端部摩滅	床面	PL52
DP 7	管状土錘	3.1	1.6	0.45	6.4	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部ナデ	中層	PL52
DP 8	管状土錘	（3.6）	（2.0）	［0.6］	（5.6）	長石・石英・雲母	一方向からの穿孔　孔端部ナデ	中層	

第 33 号住居跡（第 35・36 図）

位置　調査区中央部のＣ３g1 区，標高 24.9 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 34 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.64 m，短軸 3.44 mの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 46°－Ｗである。壁高は 15 ～ 26cmで，外傾して立ち上がっている。

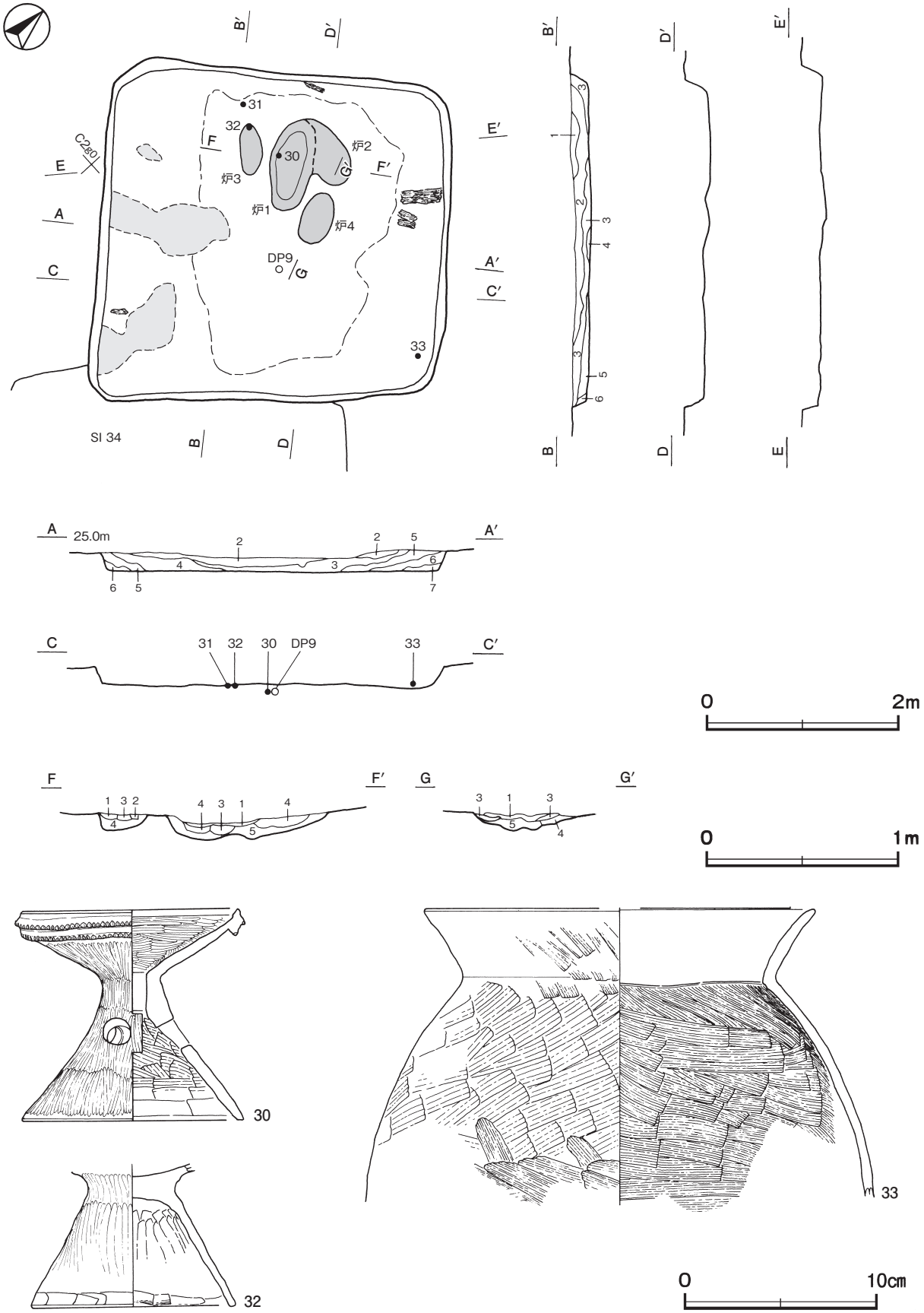
床　平坦で，中央部が踏み固められている。炭化材が北側，焼土塊が南側から出土している。

炉　４か所。炉１は，北部の中央に付設された地床炉である。規模は長径 100cm，短径 45cm である。炉床部は床面から６cmくぼんでおり，赤変硬化している。炉２は，北部の中央に付設された地床炉で，炉１に掘り込まれている。規模は長径 75cm，短径 41cm である。炉床部は床面と同じ高さを使用しており，赤変，硬化ともに弱い。炉３は，北部の中央に付設された地床炉である。規模は長径 52cm，短径 24cm である。炉床部は床面と同じ高さを使用しており，赤変硬化している。炉４は，中央部に付設された地床炉である。規模は長径 56cm，短径 34cm である。炉床部は床面と同じ高さを使用しており，赤変硬化している。炉の新旧関係は，炉床部の赤変硬化の状況や重複関係から，炉３・４が新しく，炉１，炉２の順に古い。

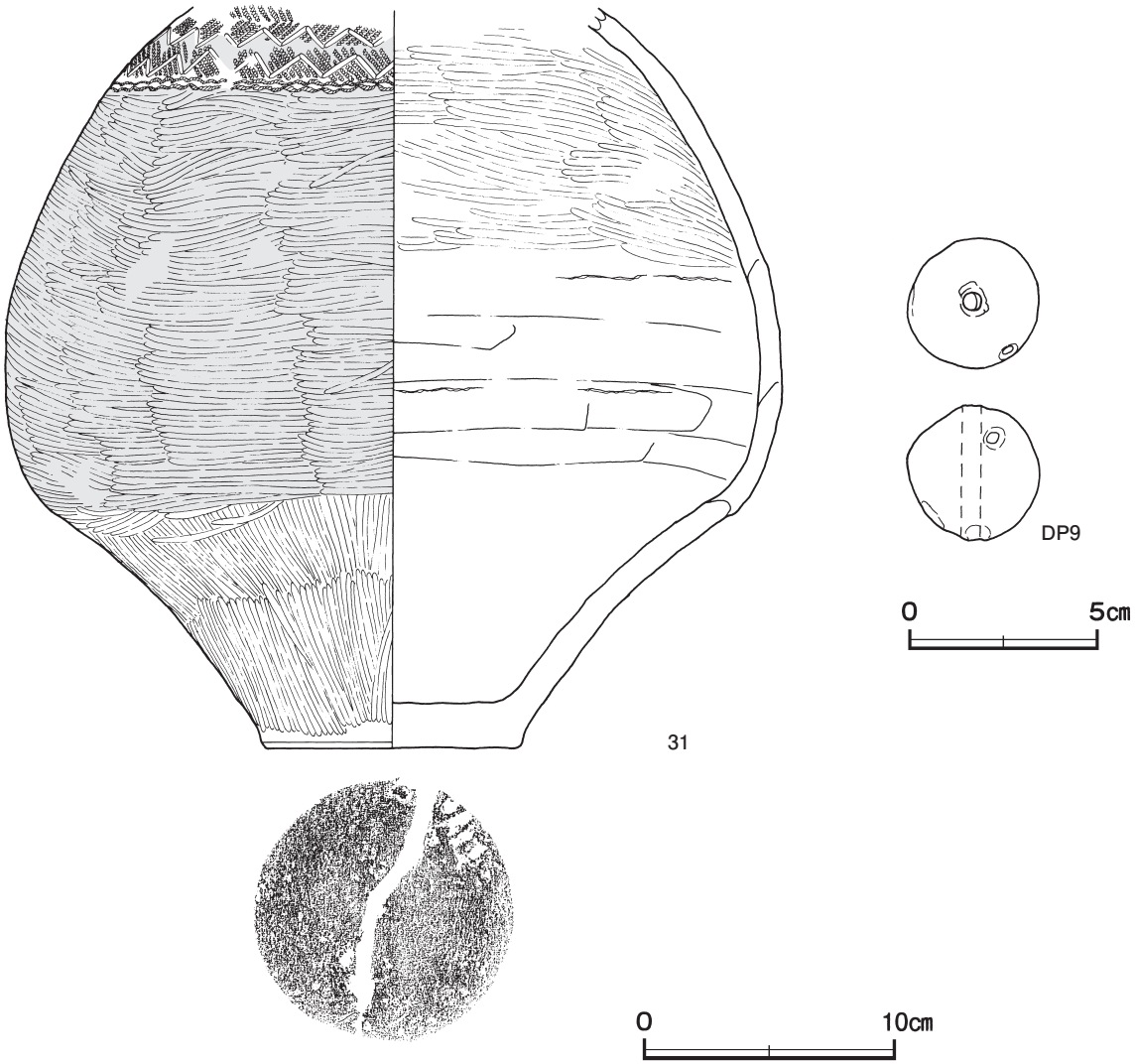
炉土層解説（各炉共通）

1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。



第 35 図　第 33 号住居跡・出土遺物実測図



第 36 図　第 33 号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1　灰　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　灰 黄 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　弥生土器片５点（広口壺），土師器片 239 点（高坏１，器台１，壺１，甕 235，台付甕１），土製品１点（土玉），粘土塊２点が出土している。また，混入した須恵器片２点（坏），剥片１点（黒曜石）も出土している。30 ～ 32・DP ９は中央部，33 は東コーナー部の床面からそれぞれ出土しており，30 は正位，32 は逆位の状態で，31・33 は破片が散在した状態でそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期初頭（３世紀後半）に比定できる。床面から炭化材や焼土塊が出土していることから焼失住居である。

第 33 号住居跡出土遺物観察表（第 35・36 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
30	土師器	器台	11.0	10.8	11.4	長石・石英	橙	普通	口縁部キザミをもつ２条の隆帯　外面縦位・坏部内面横位のヘラ磨き　脚部内面ハケ目　脚部円孔３か所	床面	100%　PL34
31	土師器	壺	－	(29.1)	10.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面上位羽状縄文施文後，波状沈線文　中位横位・下位縦位・内面横位のヘラ磨き　内面下半篦ナデ　赤彩	床面	60%　PL34

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
32	土師器	台付甕	－	(7.3)	10.3	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　外面下端・内面ヘラナデ	床面	30%
33	土師器	甕	[19.8]	(14.8)	－	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	体部外面条線の粗いハケ目　内面条線の細かいハケ目	床面	30%

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 9	土玉	3.6	3.5	0.5	40.0	長石・石英	一方向からの穿孔　穿孔ミス一か所　孔端部ナデ	床面	PL52

第 41 号住居跡（第 37・38 図）

位置　調査区中央部のＤ２c7 区，標高 24.5 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 40 号住居跡，第 1060 号土坑を掘り込み，第 42・77・79 号住居，第 30・34・35 号掘立柱建物，第７号方形竪穴遺構，第 338 号土坑などの 10 基の土坑，第 185 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.28 ｍ，短軸 4.69 ｍの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 13゜－Ｗである。壁高は 19 ～ 30cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。また，西壁から約 110cmの範囲が，床面から 14cmほど高くなっており，ベッド状施設と考えられる。

炉　中央部から北壁寄りに付設された地床炉である。規模は長径 120cm，短径 70cm である。炉床部は床面から５cmくぼんでおり，赤変硬化している。

炉土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
3　褐　　色　焼土粒子少量

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 28 ～ 56cm で，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 18cmで，南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７は深さ 14・16cmで，性格不明である。

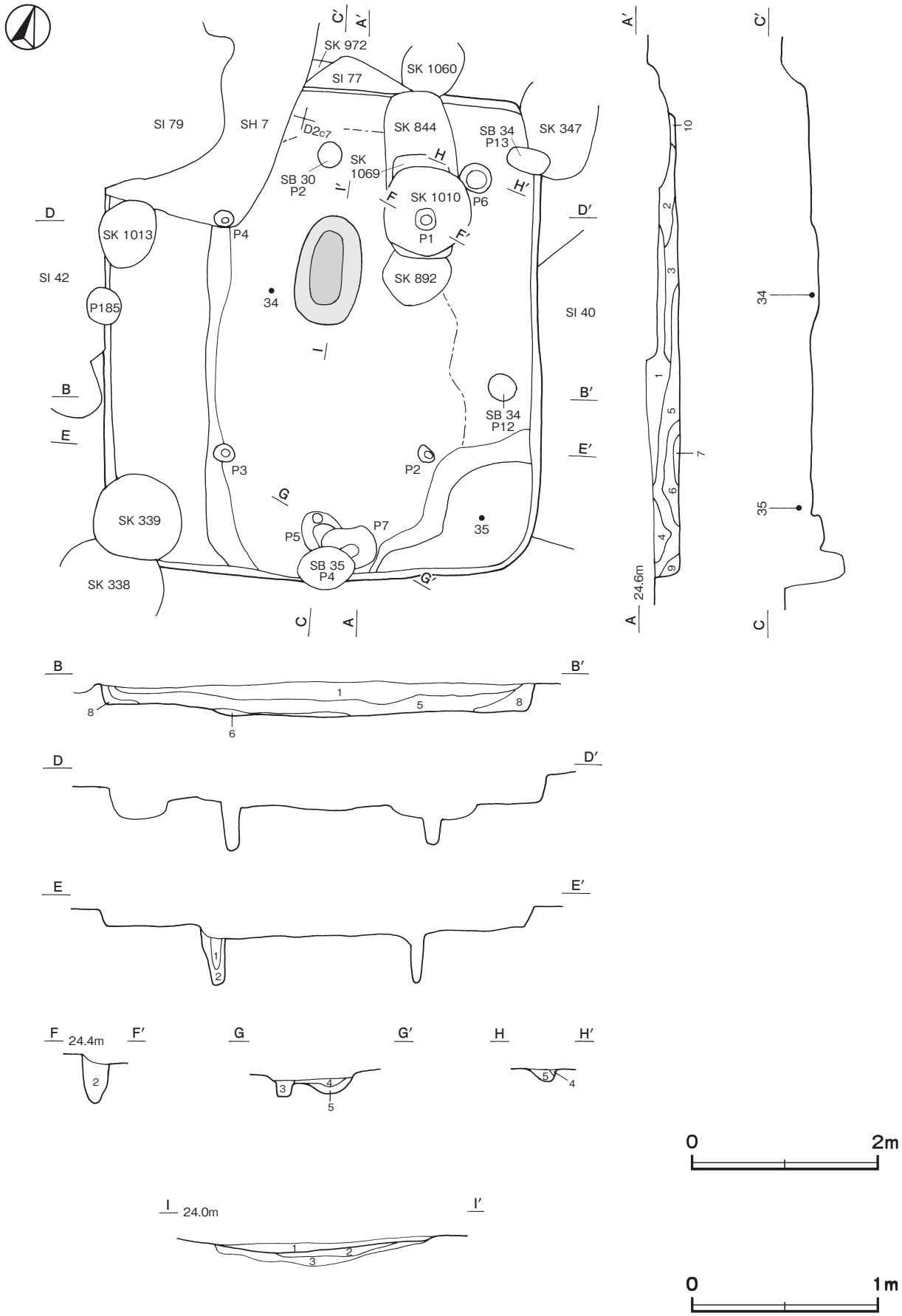
ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　　色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量
5　にぶい黄褐色　ローム粒子多量

覆土　10 層に分層できる。第１層は均質な黒色土であることから自然堆積で，第２～ 10 層はロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

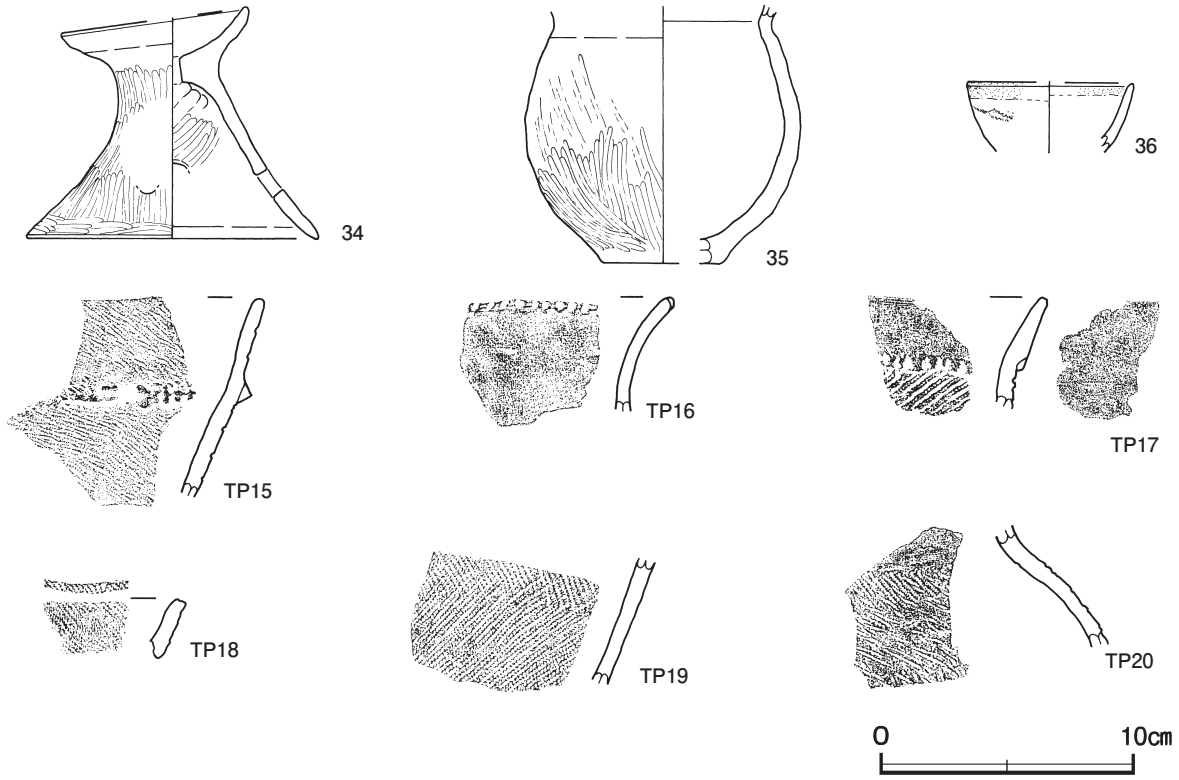
土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　灰　褐　色　ロームブロック少量
8　褐　　色　ロームブロック少量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量
10　灰　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　弥生土器片 58 点（広口壺），土師器片 199 点（高坏 11，椀１，器台 30，坩１，短頸壺１，甕 153，台付甕１，製塩土器１），土製品２点（土玉），粘土塊４点が出土している。また，混入した縄文土器片８点（深鉢），土師器片９点（坏７，高台付椀２），須恵器片３点（坏２，高台付坏１），剥片１点（黒曜石）も出土している。34 は中央部の床面，35 は南東コーナー部の床面から横位の状態でそれぞれ出土している。TP15 ～ TP20 は覆土中層から上層にかけて散在した状態で，36 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期初頭（３世紀後半）に比定できる。



第 37 図　第 41 号住居跡実測図



第 38 図　第 41 号住居跡出土遺物実測図

第 41 号住居跡出土遺物観察表（第 38 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
34	土師器	器台	［7.2］	9.0	11.4	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面ヘラ磨き　脚部円孔４か所	床面	80%　PL34
35	土師器	小形甕	－	（10.0）	［4.7］	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き	床面	50%
36	土師器	製塩土器	（6.4）	［2.7］	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面白色粒子（塩ヵ）付着	覆土中	５％

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP15	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	付加条一種縄文　口縁部下端貼瘤・刺突列	中層	PL33
TP16	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部キザミ	上層	PL33
TP17	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部下端刺突列	上層	PL33
TP18	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部縄文原体押圧　付加条一種縄文	中層	
TP19	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	羽状構成の付加条一種縄文	上層	
TP20	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	付加条一種縄文	上層	

第 55 号住居跡（第 39・40 図）

位置　調査区中央部のＤ２g8 区，標高 24.3 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 54・78 号住居，第 963・967・969・994 号土坑，第 180・181・191 ～ 195 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　第 54 号住居に掘り込まれているため，北西コーナー部と北東コーナー部の一部しか確認できなかった。柱穴の配置から一辺 4.4 ｍの方形と推定でき，南北軸方向はＮ－ 19°－Ｗである。壁高は 31 ～ 40cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。また，確認できた壁下には壁溝が巡っている。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ50～75cmで，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ27cmで，性格不明である。

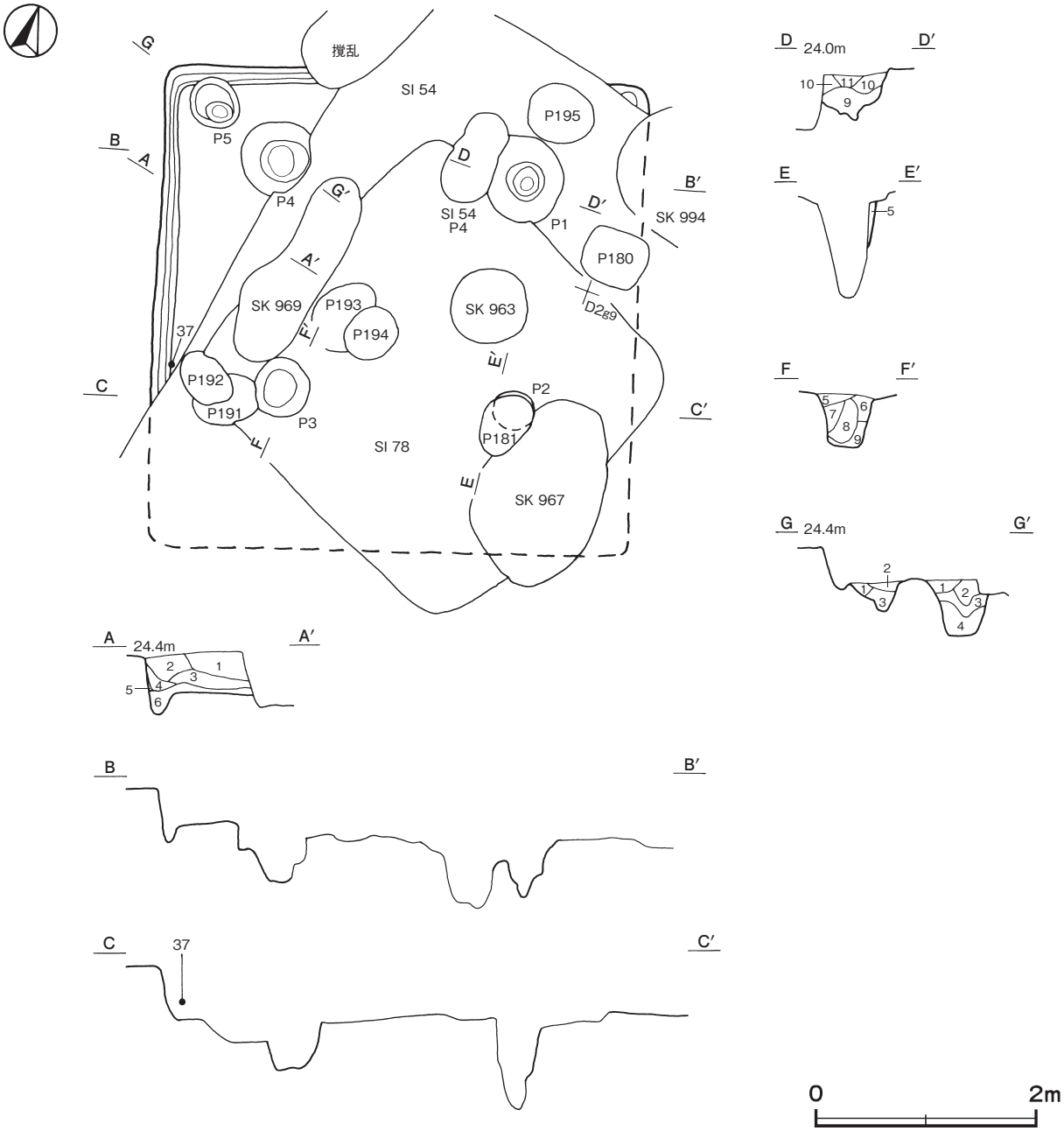
ピット土層解説（各ピット共通）

1　灰　褐　色　ローム粒子少量
2　にぶい褐色　ローム粒子少量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量
4　にぶい橙色　ローム粒子多量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　褐　　色　ロームブロック多量
9　明　褐　色　ロームブロック多量
10　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

覆土　６層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

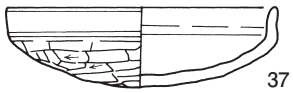
1　褐　　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量



第39図　第55号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片 93 点（坏 82, 甕 11），須恵器片 31 点（坏 19, 高台付坏 1，蓋 1，盤 1，高盤 1，甕 7，甑 1）が出土している。また，混入した縄文土器片 11 点（深鉢）も出土している。37 は西壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から 7 世紀中葉と考えられる。



第 40 図　第 55 号住居跡出土遺物実測図

第 55 号住居跡出土遺物観察表（第 40 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
37	土師器	坏	10.8	3.3	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り	下層	90%　PL36

第 62 号住居跡（第 41・42 図）

位置　調査区中央部のＤ２e6 区，標高 24.3 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 198 号ピットを掘り込み，第 63 号住居，第 19・20 号掘立柱建物，第 488 号土坑，第 347 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.88 m，短軸 4.40 mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 48°－Ｗである。壁高は３～６㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。

炉　中央部から北西寄りに付設された地床炉である。長径 75cm，短径 43cm の楕円形である。炉床部は，床面を深さ 11㎝の皿状に掘りくぼめた部分に暗褐色土の第２層を埋土して，床面と同じ高さを使用しており，赤変硬化している。

炉土層解説
1　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 60 ～ 70cm で，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 11㎝で，南東部の中央に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

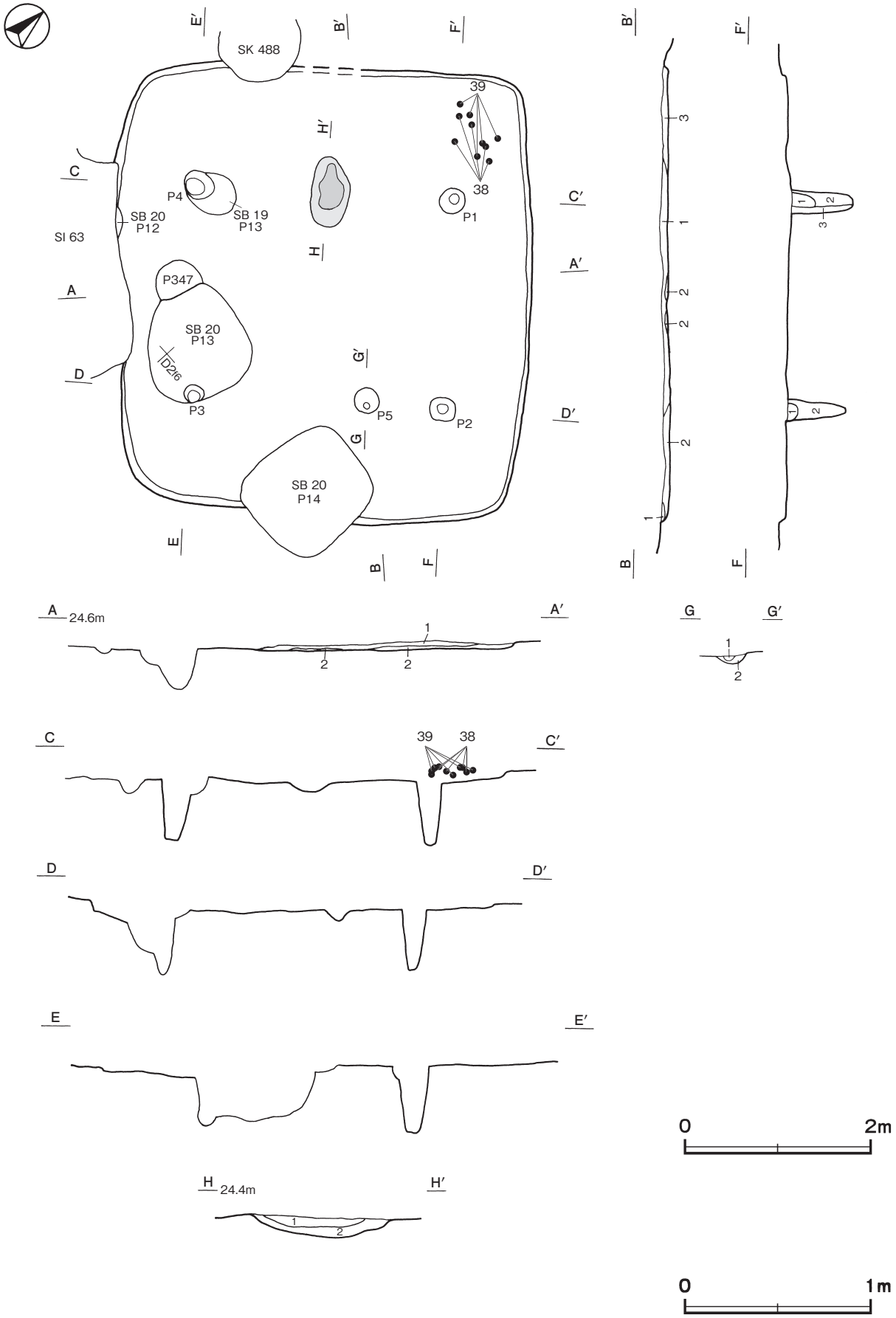
ピット土層解説（各ピット共通）
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

覆土　３層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

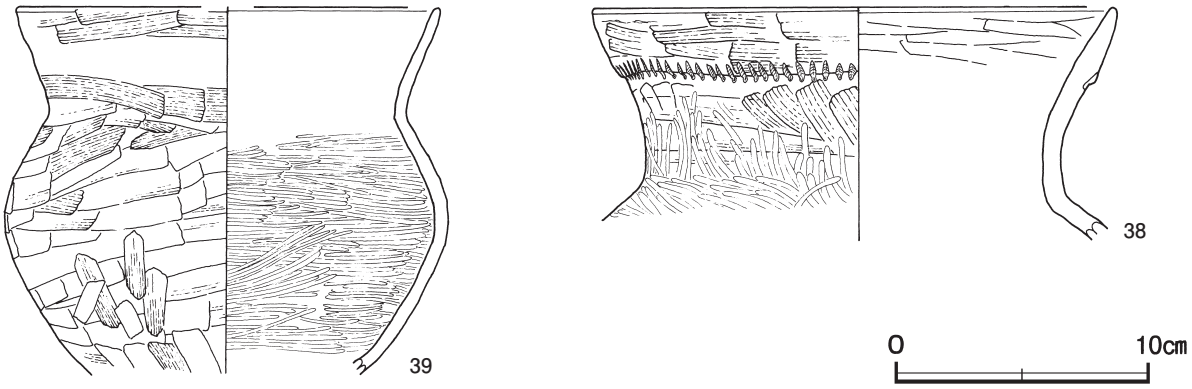
土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 22 点（壺 10, 甕 11, 台付甕 1）が出土している。また, 混入した縄文土器片２点（深鉢），土師器片１点（高台付椀），須恵器片２点（蓋，甕），石器１点（鏃）も出土している。38・39 は北コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期初頭（３世紀後半）と考えられる。



第 41 図　第 62 号住居跡実測図



第 42 図　第 62 号住居跡出土遺物実測図

第 62 号住居跡出土遺物観察表（第 42 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
38	土師器	壺	20.2	(9.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部ヘラナデ　口縁部下端ヘラ状工具による刻み目　体部縦位ヘラナデ後，ヘラ磨き	下層	30%　PL34
39	土師器	甕	[16.3]	(14.3)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	外部ヘラナデ　内部ヘラ磨き	下層	40%

第 64 号住居跡（第 43・44 図）

位置　調査区中央部のＤ２f4 区，標高 24.4 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 63 号住居，第 19・28 号掘立柱建物，第 610・979・1025 号土坑，第 199 ～ 202 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.70 m，短軸 4.22 mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 25 °－Ｗである。壁高は６～８㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。焼土塊や炭化材が中央部や西壁際から出土している。

炉　中央部から北寄りに付設された地床炉である。第 19 号掘立柱建物に掘り込まれているため，規模は長径 86cm，短径 44cm しか確認できなかった。炉床部は床面と同じ高さを使用しており，赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ロームブロック微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 51 ～ 60cm で，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 14㎝で，南東壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ 45㎝で，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

覆土　４層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

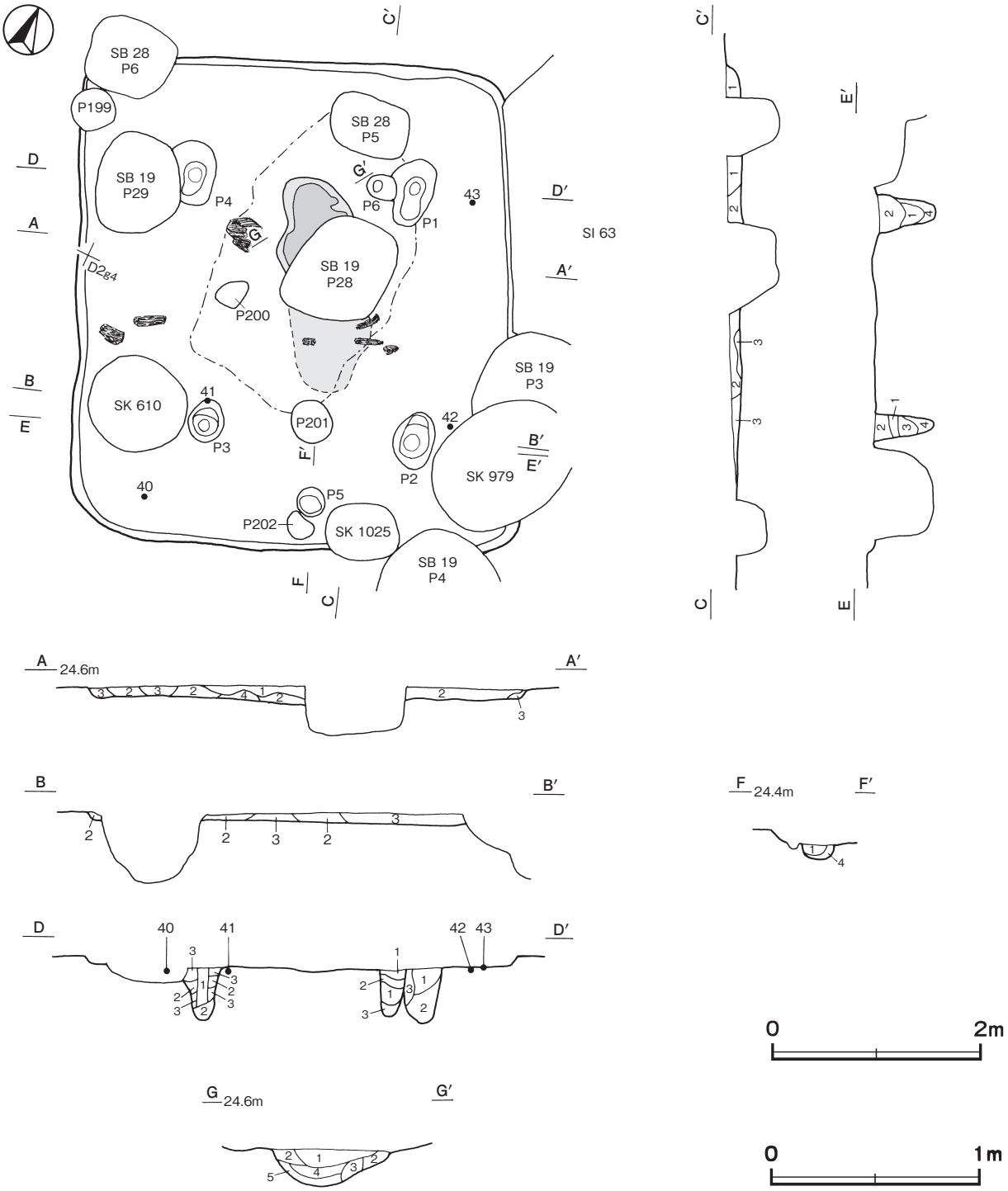
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック少量，炭化物微量
4　黒　　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

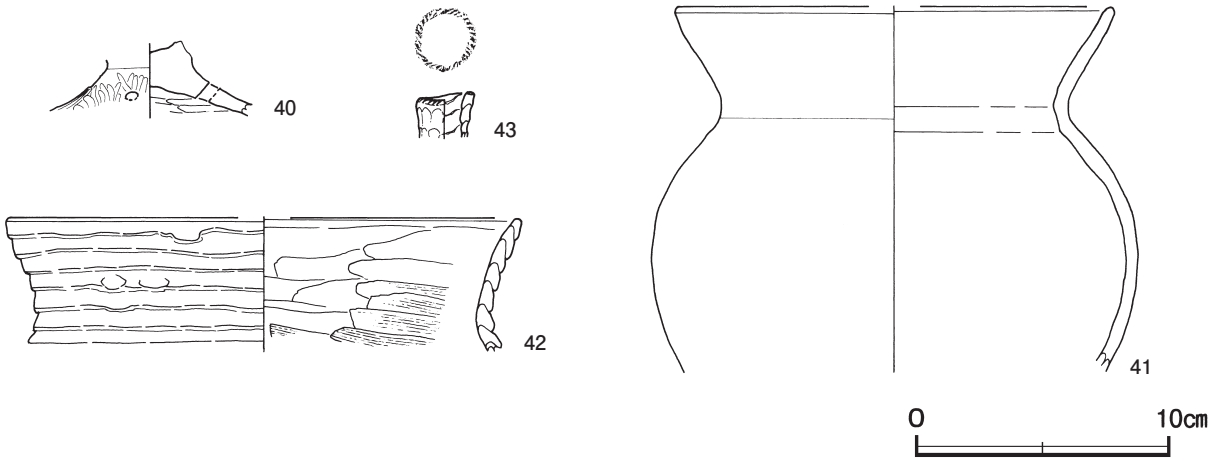
遺物出土状況　弥生土器片３点（広口壺），土師器片 61 点（高坏１，器台２，壺３，甕 53，ミニチュア土器

１点, 手捏土器１点), 粘土塊１点が出土している。また, 混入した縄文土器片８点（深鉢), 土師器片４点（坏), 須恵器片７点（坏１, 甕６）も出土している。40 ～ 42 は南半部, 43 は東壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期初頭（３世紀後半）に比定できる。床面から焼土塊や炭化材が出土していることから，焼失住居である。



第 43 図　第 64 号住居跡実測図



第 44 図　第 64 号住居跡出土遺物実測図

第 64 号住居跡出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
40	土師器	高坏	－	(2.9)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き　内面ハケナデ 脚部円孔４か所	床面	５％
41	土師器	甕	[17.0]	(14.3)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	摩滅のため調整不明瞭	床面	10%
42	土師器	甕	[19.8]	(5.3)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面輪積み痕　内面ヘラナデ	床面	５％　PL34
43	土師器	ミニチュア	2.3	(1.8)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	壺形　口縁部刻み　内面輪積み痕	床面	50%

第 68 号住居跡（第 45 図）

位置　調査区西端部のＤ１d8 区，標高 24.5 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 13 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　南北軸は 5.06 ｍで，東西軸は西側が調査区域外へ延びているため 2.42 ｍしか確認できなかった。隅丸長方形と推定でき，主軸方向はＮ－ 17°－Ｗである。壁高は６～ 25cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。中央部から南寄りの床面には焼土が堆積している。

炉　中央部から北壁寄りに付設された地床炉である。西側が調査区域外へ延びているため長径は 88cm，短径は 23cmしか確認できなかった。炉床部は床面と同じ高さを使用しており，赤変硬化している。

炉土層解説

① 赤　褐　色　焼土ブロック多量
② 黄　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子中量

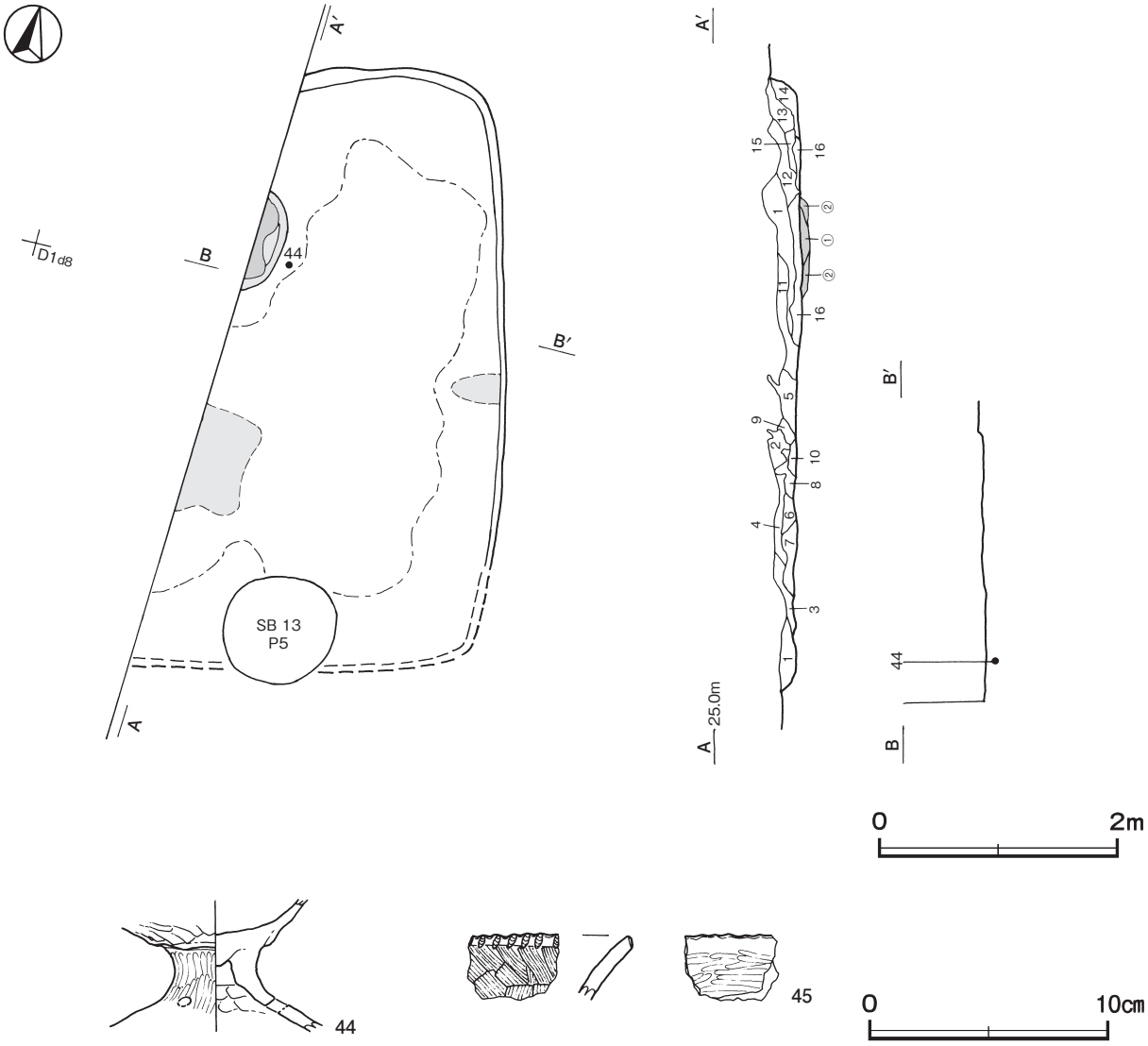
覆土　16 層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック微量
6　黒　　色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ロームブロック・炭化粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
10　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
11　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
12　黒　褐　色　ロームブロック少量
13　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック中量
15　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
16　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 15 点（高坏１, 壺１, 甕 13）が出土している。また, 混入した縄文土器片１点（深鉢），須恵器片２点（瓶，甕）も出土している。44 は炉周辺の床面から正位の状態で，45 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期初頭（３世紀後半）に比定できる。床面に焼土が堆積していることから焼失住居である。



第 45 図　第 68 号住居跡・出土遺物実測図

第 68 号住居跡出土遺物観察表（第 45 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
44	土師器	高坏	－	(5.2)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部外面・脚部内面ヘラナデ　脚部外面ヘラ磨き	床面	20%
45	土師器	甕	－	(2.7)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇部ヘラ状工具による刻み目　口縁部外面ハケ目　内面ヘラ磨き	覆土中	5 %

第 69 号住居跡（第 46・47 図）

位置　調査区西端部のＤ１g8 区，標高 24.2 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第５号掘立柱建物，第６号方形竪穴遺構，第 720 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北西・南東軸 4.95m で，西側が調査区域外へ延びているため，北東・南西軸は 5.12 m しか確認できなかった。平面形は隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 23゜－Ｗである。壁高は６～ 17cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部に付設された地床炉である。規模は，短径 64cmで，西側が調査区域外へ延びているため長径は 93 cmしか確認できなかった。炉床部は床面から７cmくぼんでおり，赤変硬化している。

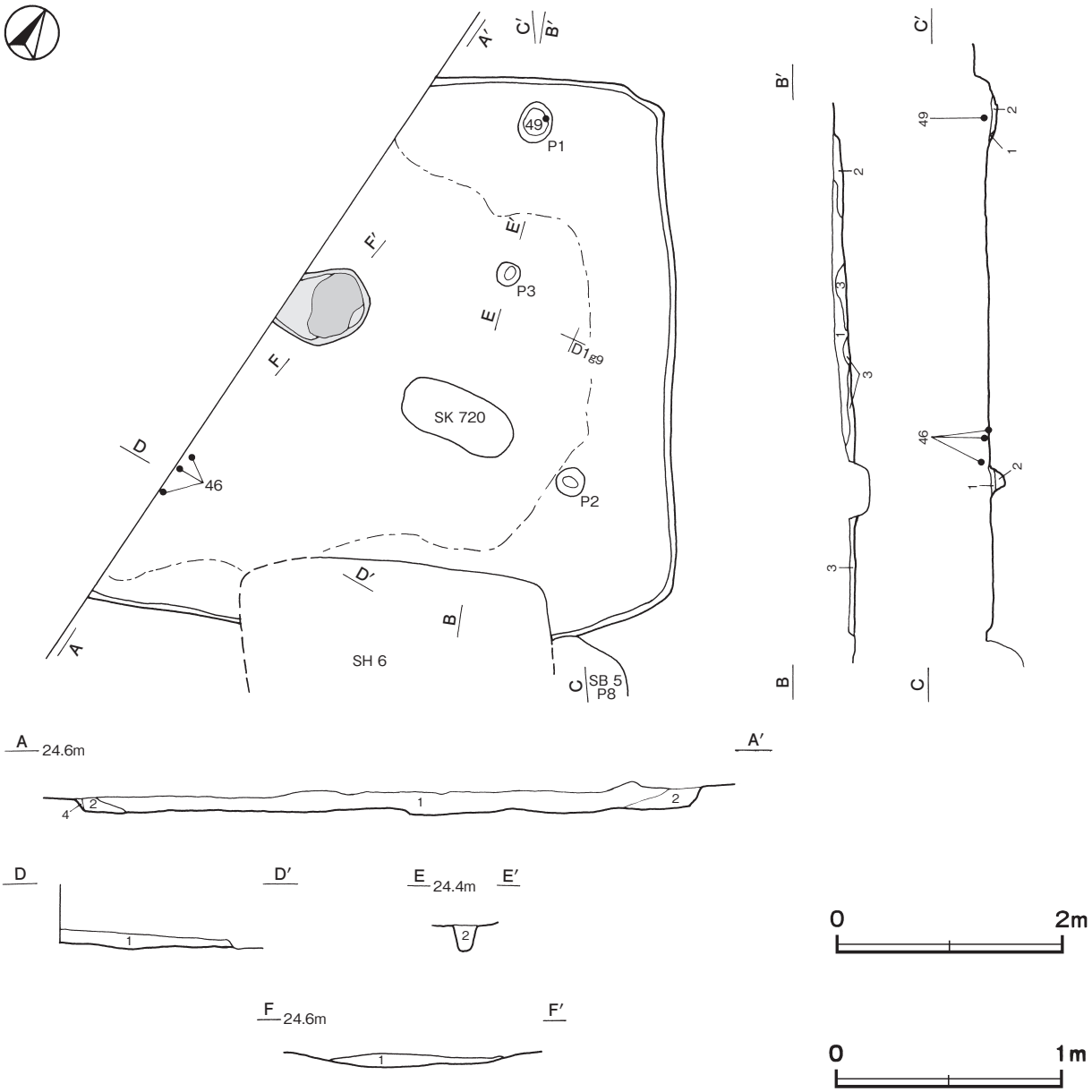
炉土層解説

１　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１・２は深さ８cm･13cm で，配置から主柱穴である。Ｐ３は深さ 23cmで，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

１　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量　　２　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量



第 46 図　第 69 号住居跡実測図

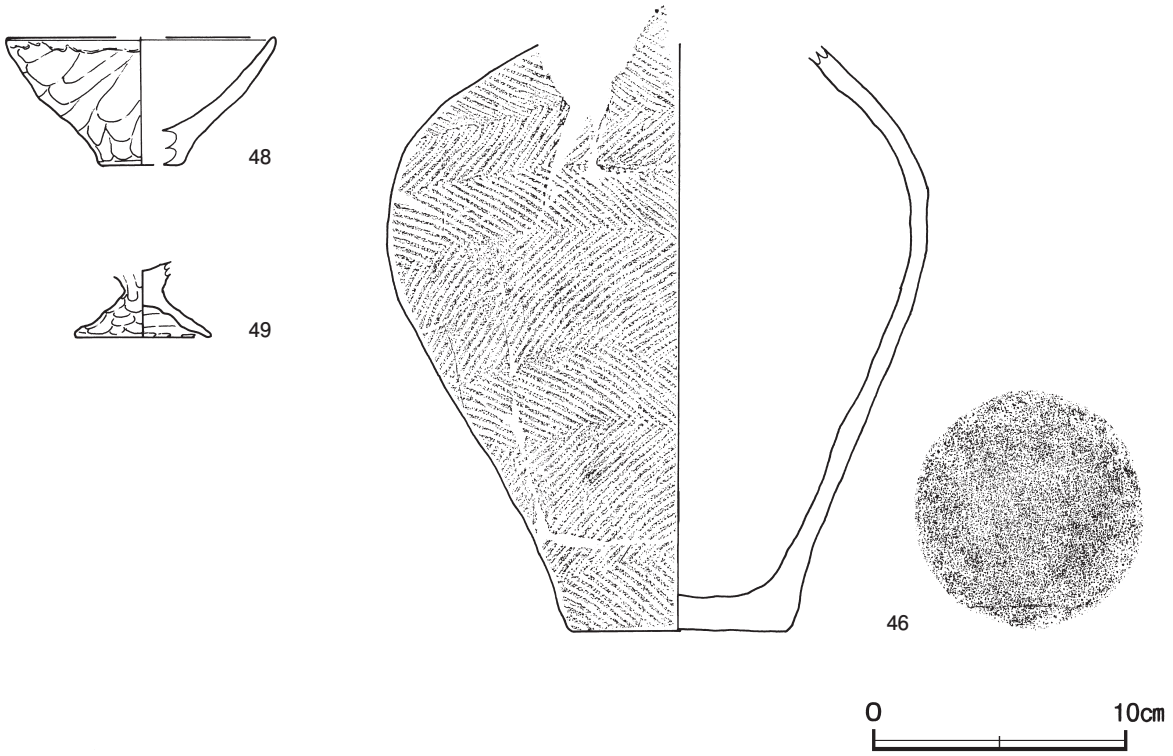
覆土　４層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから，自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　弥生土器片１点（広口壺），土師器片 49 点（高坏１，器台６，壺１，鉢１，甕 39，ミニチュア１），粘土塊１点が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片８点（深鉢），土師器片１点（高台付椀）も出土している。49 はＰ１の覆土上層，46 は南部の覆土下層，48 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期初頭（３世紀後半）と考えられる。



第 47 図　第 69 号住居跡出土遺物実測図

第 69 号住居跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
46	弥生土器	広口壺	－	(22.8)	8.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面羽状構成の付加条一種縄文	下層	70%　PL33
48	土師器	手捏土器	[10.4]	5.0	[3.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外・内面ナデ　指頭痕	覆土中	60%
49	土師器	ミニチュア	－	(3.0)	[5.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	高坏形　体部外・内面ナデ　指頭痕	Ｐ１	50%　PL34

表５　古墳時代　竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
14	Ｃ２a2	N－32°－W	隅丸方形	4.65 × 4.49	18～26	平坦	－	4	1	－	炉１	－	自然	弥生土器片，土師器片，土玉	３世紀後半	
16	Ｃ１c0	N－58°－W	[隅丸方形]	3.95 × (1.62)	45～78	平坦	－	－	1	－	－	－	自然	弥生土器片，土師器片	３世紀後半	
23	Ｃ１j0	N－50°－E	隅丸長方形	3.63 × 3.30	7～10	平坦	－	－	－	2	炉１	－	人為	弥生土器片，土師器片	３世紀後半	本跡→ SB14，SK414

番号	位置	平面形	主軸方向	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	内部施設 出入口	内部施設 ピット	内部施設 炉・竈	内部施設 貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
26	C２j4	N－36°－W	方形 張り出し部	7.98 × 7.82 3.12 × 2.38	13～26	平坦	－	4	1		炉２	3	人為	土師器片，須恵器片，土玉，滑石片	５世紀後葉	本跡→SB30・40 他
30	C２i7	N－46°－W	方形	8.87 × 8.36	15～55	平坦	－	4	1	－	炉１	－	自然 人為	弥生土器片，土師器片，土玉，管状土錘	３世紀後半	SK896 他→本跡→SB31・34，SH１・２他
33	C３g1	N－46°－W	隅丸方形	3.64 × 3.44	15～26	平坦	－	－	－	－	炉４	－	人為	弥生土器片，土師器片，土玉	３世紀後半	SI34→本跡
41	D２c7	N－13°－W	隅丸長方形	5.28 × 4.69	19～30	平坦	－	4	1	2	炉１	－	自然 人為	弥生土器片，土師器片，土玉	３世紀後半	SI40・SK1060→本跡→SI42・77・79，SB30・34・35，SH７他
55	D２g8	N－19°－W	［方形］	［4.40 × 4.40］	31～40	平坦	［全周］	4	－	1	－	－	人為	土師器片，須恵器片	７世紀中葉	本跡→SI54・78 他
62	D２e6	N－48°－W	隅丸長方形	4.88 × 4.40	３～６	平坦	－	4	1	－	炉１	－	自然	土師器片	３世紀後半	P198→本跡→SI63，SB19・20 他
64	D２f4	N－25°－W	隅丸長方形	4.70 × 4.22	６～８	平坦	－	4	1	1	炉１	－	人為	弥生土器片，土師器片	３世紀後半	本跡→SI63，SB19・28 他
68	D１d8	N－17°－W	［隅丸長方形］	5.06 ×（2.42）	６～25	平坦	－	－	－	－	炉１	－	人為	土師器片	３世紀後半	本跡→SB13
69	D１g8	N－23°－W	［隅丸長方形］	（5.12） × 4.95	６～17	平坦	－	2	－	1	炉１	－	自然	弥生土器片，土師器片	３世紀後半	本跡→SB５，SH６，SK720

(2)　土坑

第 721 号土坑（第 48 図）

位置　調査区中央部のＤ１g9 区，標高 24.2 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第６号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 0.90 m，短軸 0.78 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 61°－Ｅである。深さは 26cmで，底面は皿状であり，壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック少量
2　黒褐色　ロームブロック微量
3　黒褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　弥生土器片９点（広口壺），土師器片 11 点（高坏１，壺１，鉢１，甕８）が出土している。TP22・TP23 は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期初頭（３世紀後半）に比定できる。

第 48 図　第 721 号土坑・出土遺物実測図

第 721 号土坑出土遺物観察表（第 48 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP22	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部・頸部外面付加条一種縄文　口縁部下端貼瘤・刺突列	覆土中	PL33
TP23	土師器	鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	折り返し口縁	覆土中	

3　奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴住居跡８軒，掘立柱建物跡13棟が確認できた。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第18号住居跡（第49・50図）

位置　調査区北部のＣ２c7区，標高24.9ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸2.52ｍ，短軸2.18ｍの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－13°－Ｅである。壁高は５～12㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際まで踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで46cmで，燃焼部幅は28cmである。袖部は，地山を掘り残して基部とし，にぶい黄褐色粘土のブロックを含む第４層を積み上げて構築されている。火床部は床面から３㎝ほどくぼんでおり，火床面は赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっており，壁外への掘り込みは確認できなかった。

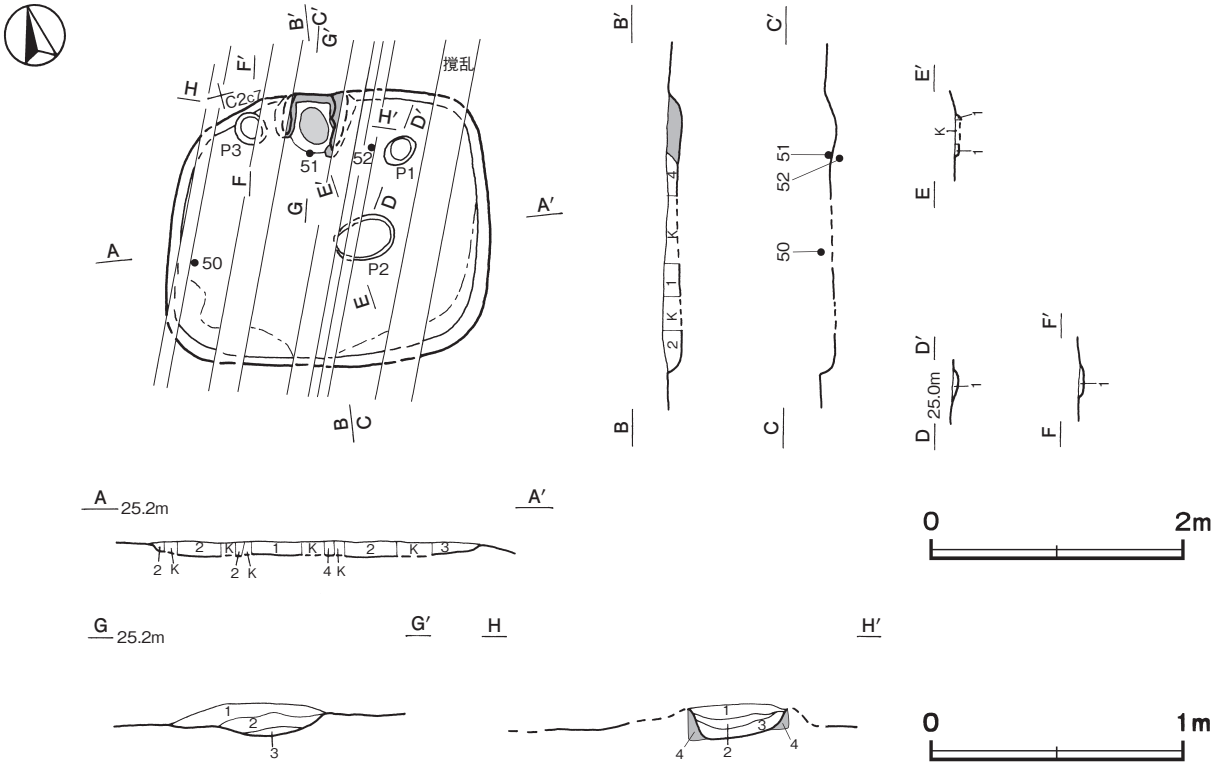
竈土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土ブロック中量，ロームブロック少量
2　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子中量

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ４～５cmで，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗　褐　色　ローム粒子中量



第49図　第18号住居跡実測図

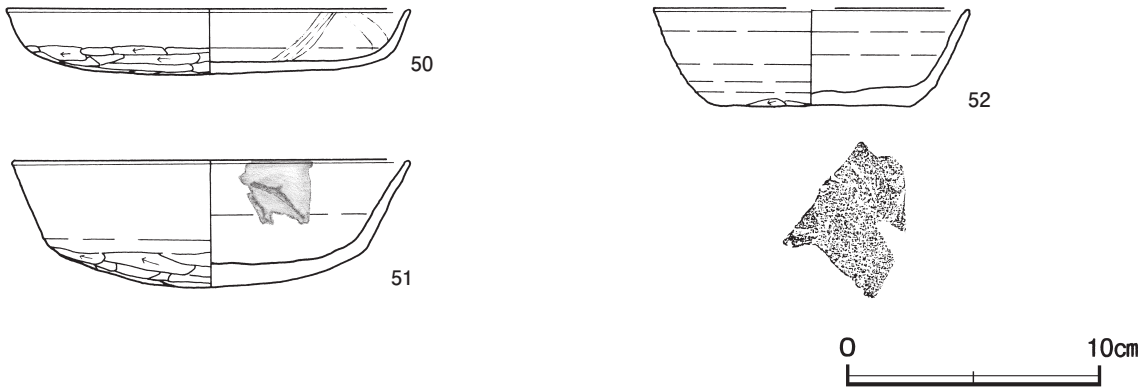
覆土　４層に分層できる。ロームのブロックや粒子を多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量
4　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量

遺物出土状況　土師器片６点（坏１，皿１，甕４），須恵器片２点（坏，甕），粘土塊１点が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片 21 点（深鉢），混入した陶器片１点（天目茶碗）も出土している。52 は北東部の床面，51 は竈周辺，50 は西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。



第 50 図　第 18 号住居跡出土遺物実測図

第 18 号住居跡出土遺物観察表（第 50 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
50	土師器	皿	15.9	2.6	－	長石･石英･雲母･赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面・底部ヘラ削り	下層	50%　PL37
51	土師器	坏	15.8	5.0	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部不定方向のヘラ削り　油煙付着	下層	90%　PL37
52	須恵器	坏	[12.4]	3.9	7.8	長石・石英・雲母	灰黄	良好	底部不定方向のヘラ削り	床面	10%

第 25 号住居跡（第 51 ～ 54 図）

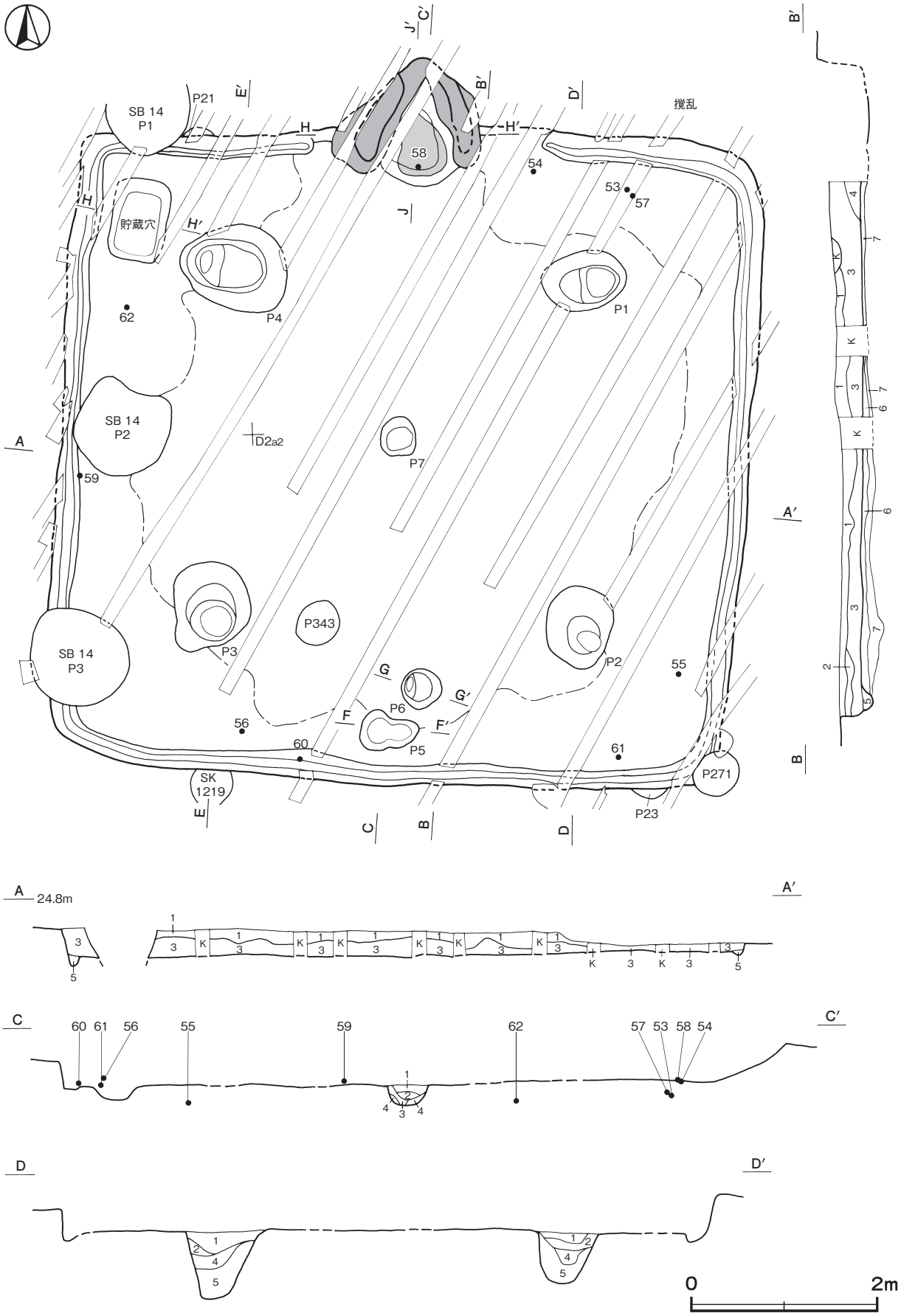
位置　調査区中央部のＣ２j2 区，標高 24.4 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 1219 号土坑，第 21 ～ 23 号ピットを掘り込み，第 14 号掘立柱建物，第 271・343 号ピットに掘り込まれている。

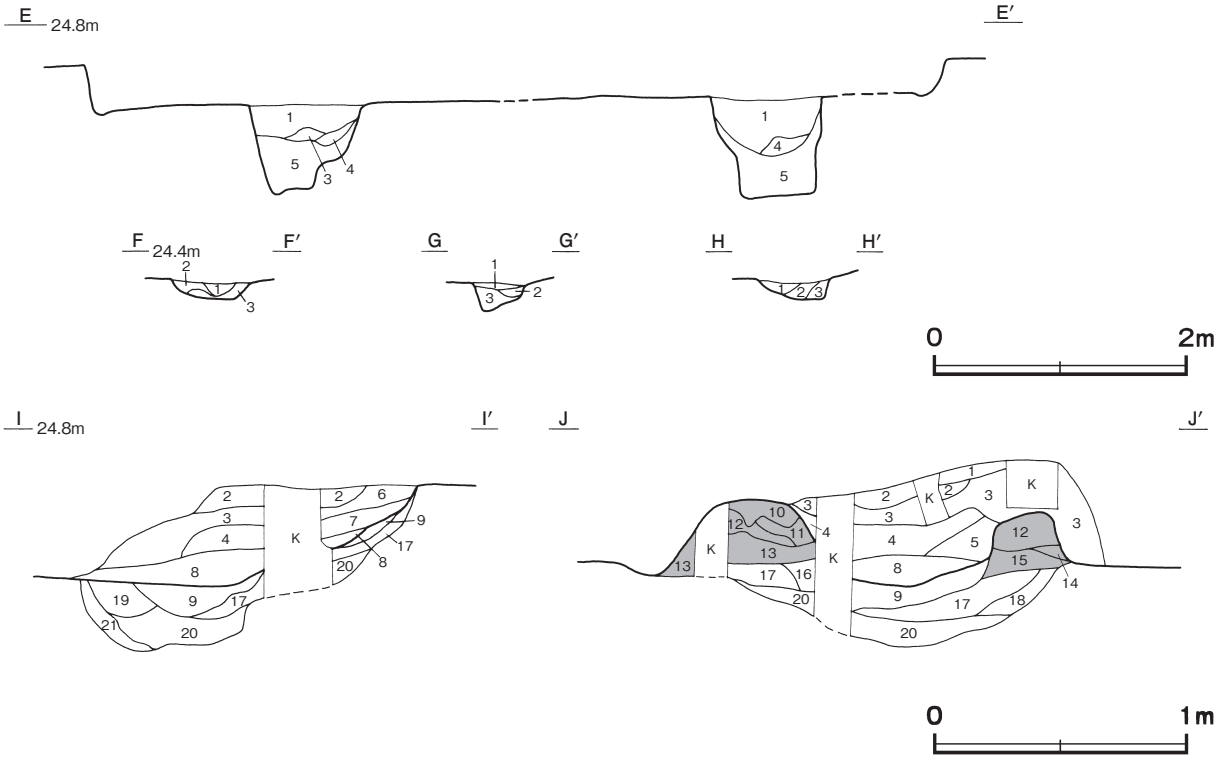
規模と形状　長軸 7.46 ｍ，短軸 7.1 ｍの方形で，主軸方向はＮ－６°－Ｅである。壁高は８～ 34cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は壁際を溝状に掘りくぼめた部分に，ロームブロックを多く含んだ第６・７層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 140cm で，燃焼部幅は 70cm である。袖部は，床面を深さ 30cmの皿状に掘りくぼめた部分に暗褐色土を主体とした第 16 ～ 21 層を埋土して，にぶい黄褐色粘土を主体とした第 10 ～ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から４cmくぼんでおり，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 75cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第 51 図　第 25 号住居跡実測図（1）



第 52 図　第 25 号住居跡実測図（2）

竈土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
5　黒　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量，ロームブロック・粘土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック微量
8　黒　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子・粘土粒子微量
9　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
10　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，焼土粒子少量，ロームブロック微量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，粘土ブロック中量
12　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子微量
13　暗　褐　色　粘土ブロック多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック多量
15　黒　褐　色　ロームブロック中量
16　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック少量
17　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
18　暗　褐　色　ロームブロック中量
19　黒　　色　炭化粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量
20　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，焼土粒子微量
21　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量

ピット　7か所。P 1 ～ P 4 は深さ 54 ～ 77cm で，配置から主柱穴である。P 5 ・ 6 は深さ 17cm・23cmで，南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P 7 は深さ 17cmで，中央部に位置していることから補助的な柱穴と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量・炭化粒子微量
3　黒　　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量

貯蔵穴　北西コーナー部に位置している。長軸 91cm, 短軸 60cmの長方形で, 深さは 17cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

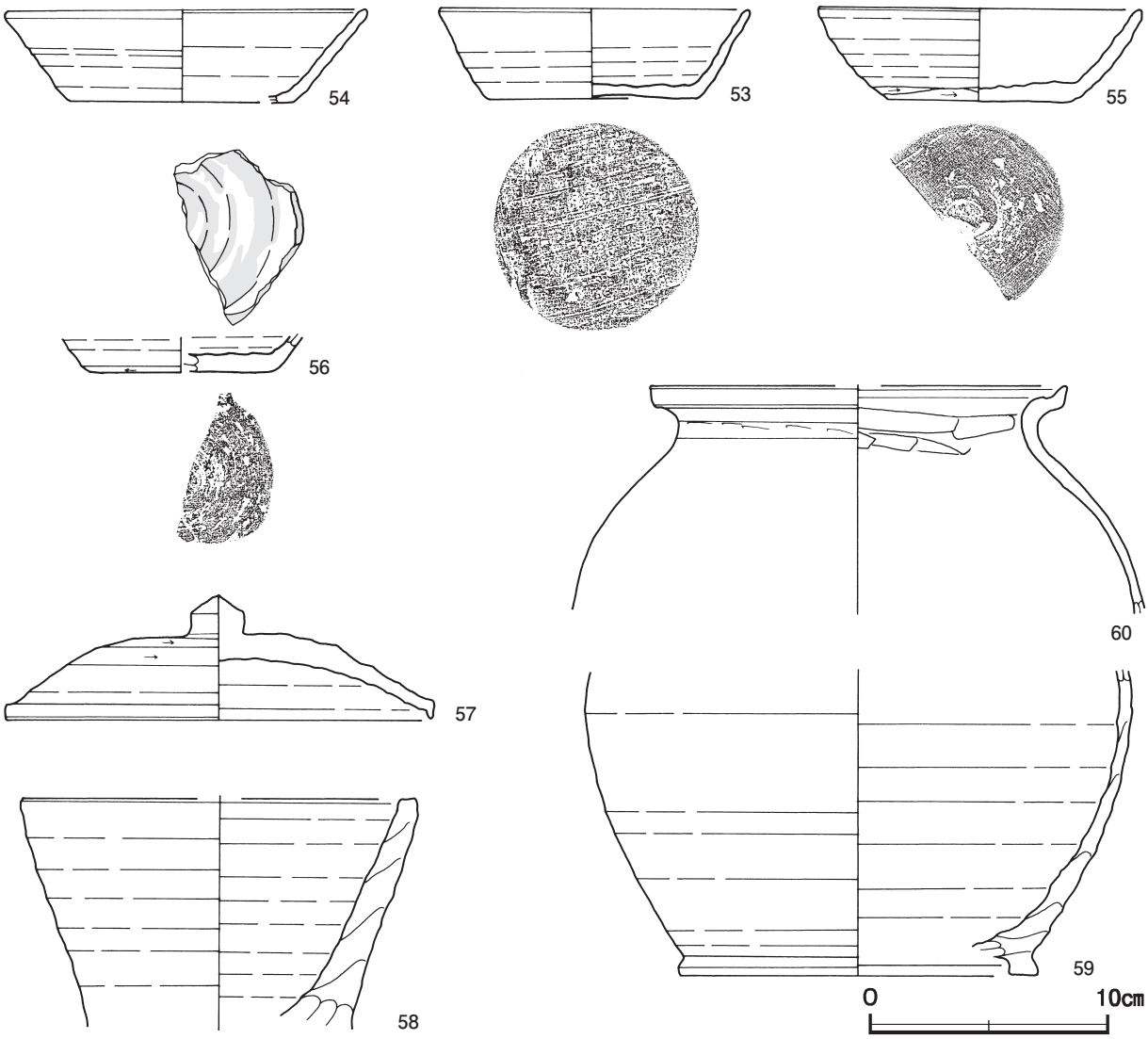
覆土　５層に分層できる。均質な黒褐色と暗褐色土が堆積していることから自然堆積である。第６・７層は貼床の構築土である。

土層解説

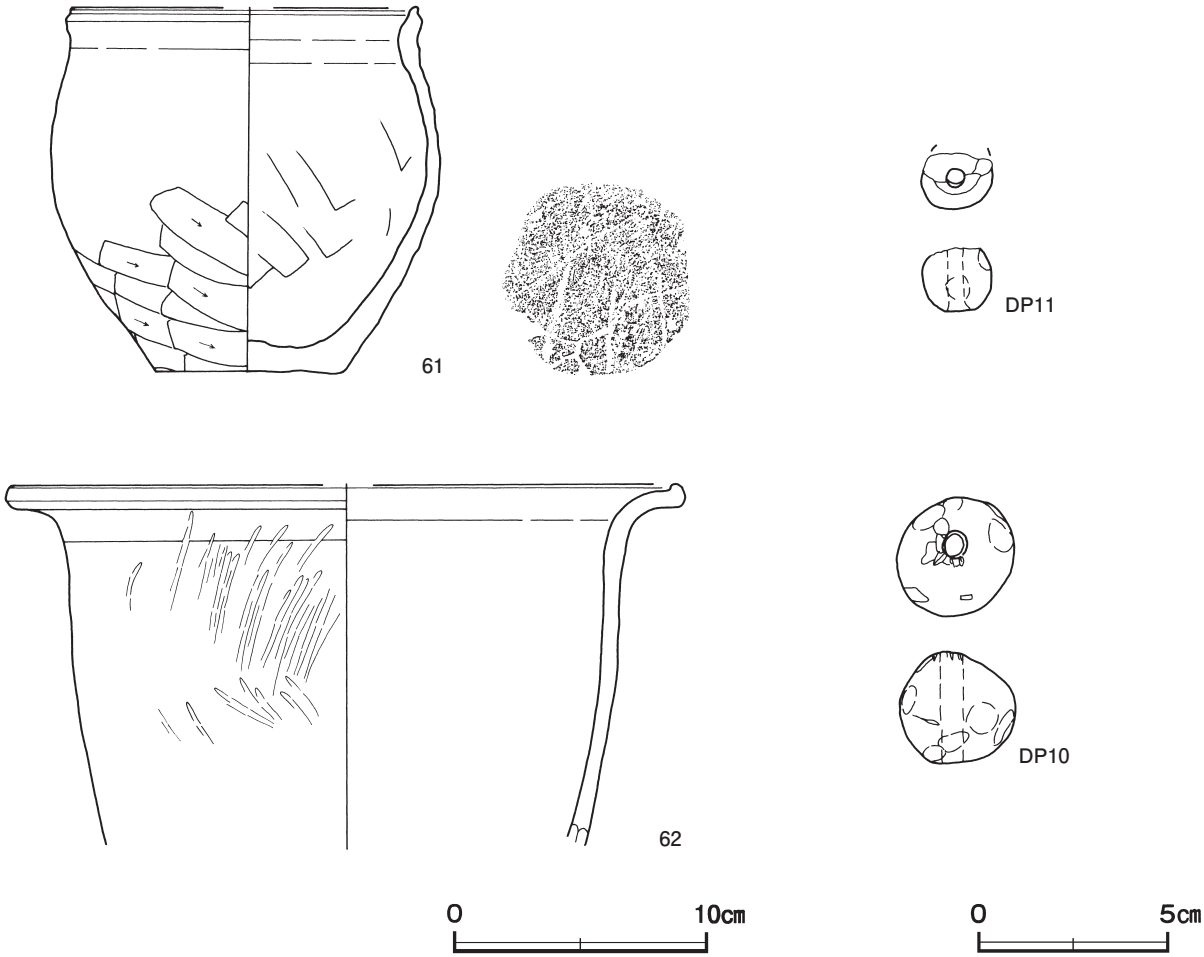
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　砂粒中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 995 点（坏 57，甕 928，小形甕１，甑９），須恵器片 223 点（坏 128，高台付坏２，盤２，蓋８，鉢３，瓶４，甕 76），土製品３点（土玉２，支脚１），粘土塊 31 点が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片 132 点（深鉢），弥生土器片 13 点（広口壺），土師器片 12 点（坏 10，高杯１，甕１），土製品４点（土器片錘），剥片１点（黒曜石），混入した陶器片２点（甕）も出土している。53･57 は北東部，55 は南東部，62 は西部の貼床構築土，58 は竈火床面，54 は竈右袖周辺，59 は西壁際，61 は南東部の床面，56･60 は南壁際，DP11 は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 53 図　第 25 号住居跡出土遺物実測図（1）



第 54 図　第 25 号住居跡出土遺物実測図（2）

第 25 号住居跡出土遺物観察表（第 53・54 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
53	須恵器	坏	13.0	3.9	8.8	長石・石英	灰黄	良好	底部一方向のヘラ削り	貼床構築土	100%　PL37
54	須恵器	坏	15.0	4.0	［9.4］	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部一方向のヘラ削り	床面	70%　PL37
55	須恵器	坏	13.4	3.9	7.8	長石・雲母	灰黄	良好	体部外面下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	貼床構築土	40%
56	須恵器	坏	－	（1.6）	［7.8］	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	底部回転ヘラ削り　内面朱墨痕	下層	10%
57	須恵器	蓋	17.7	5.2	－	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼付	貼床構築土	95%　PL37
58	須恵器	鉢	［16.6］	（9.8）	－	長石・石英	黄灰	良好	ロクロナデ	竈火床面	20%
59	須恵器	瓶	－	（12.9）	［15.0］	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	灰黄	良好	ロクロナデ　外面自然釉	床面	10%
60	土師器	甕	［17.2］	（9.6）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内面ヘラナデ	下層	10%
61	土師器	小形甕	［14.5］	13.5	7.4	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面下半ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部一方向のヘラ削り	床面	60%　PL37
62	土師器	甑	［26.4］	（14.3）	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面ヘラ磨き	貼床構築土	５%

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP10	土玉	2.9	3.2	0.7	23.2	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部摩滅　紐擦れ痕有り	覆土中	PL52
DP11	土玉	1.6	1.9	0.5	（3.1）	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部摩滅	下層	

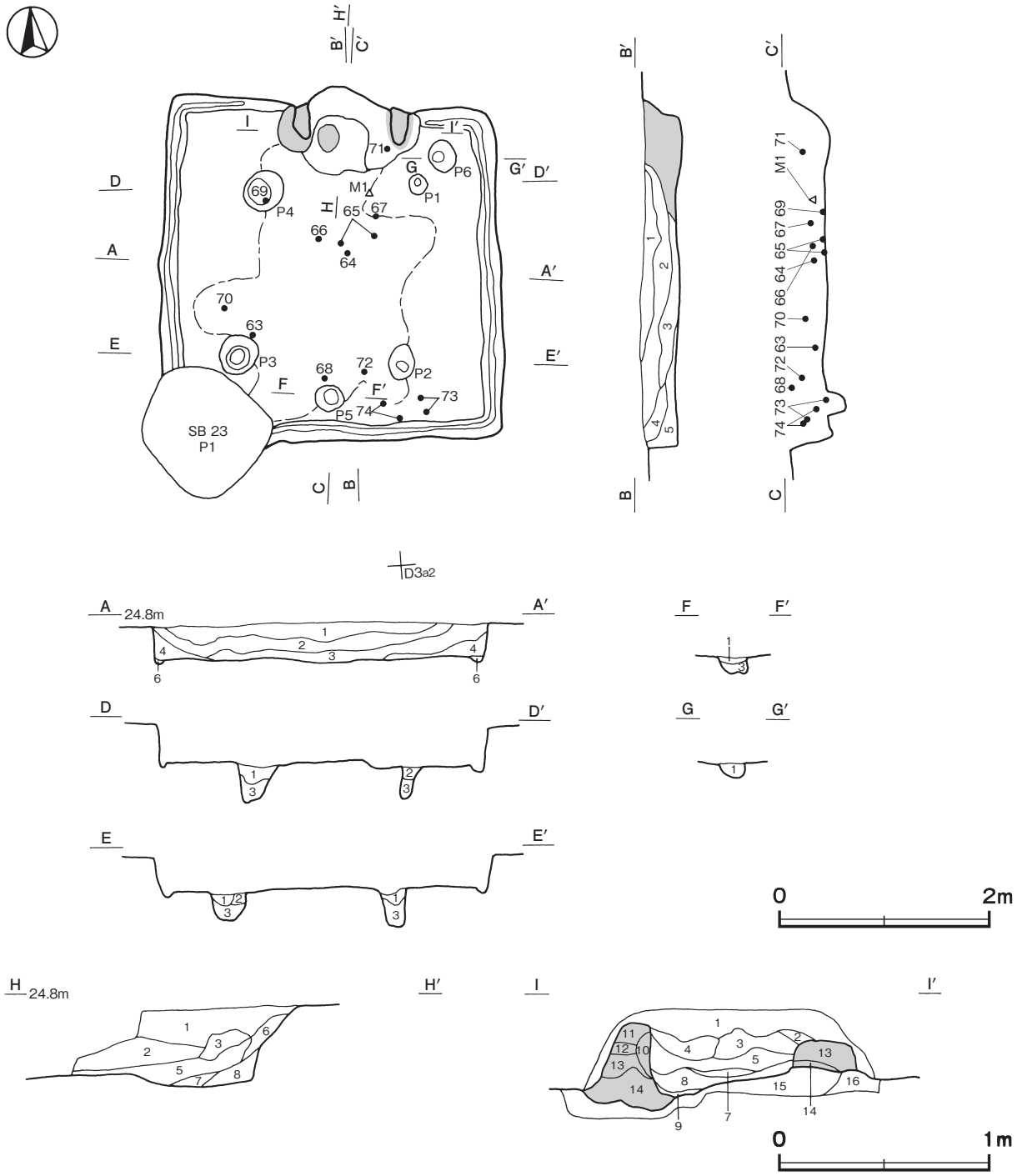
第 36 号住居跡（第 55 ～ 57 図）

位置　調査区中央部のＣ３j1 区，標高 24.7 mの平坦な台地上に位置している。

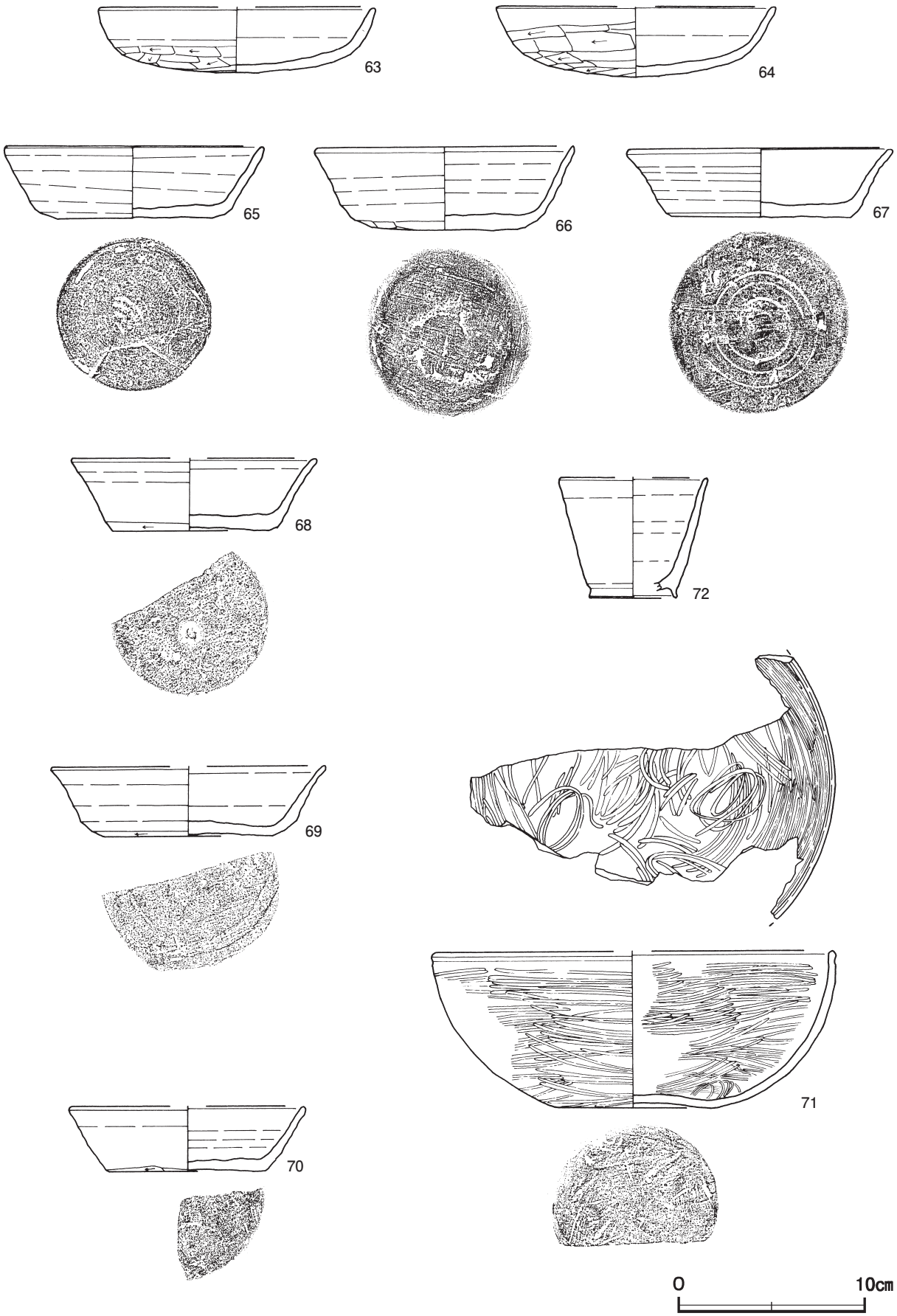
重複関係　第 29 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 23 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.27 m，短軸 3.14 mの方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｅである。壁高は 30 ～ 33cmで，ほぼ直立している。

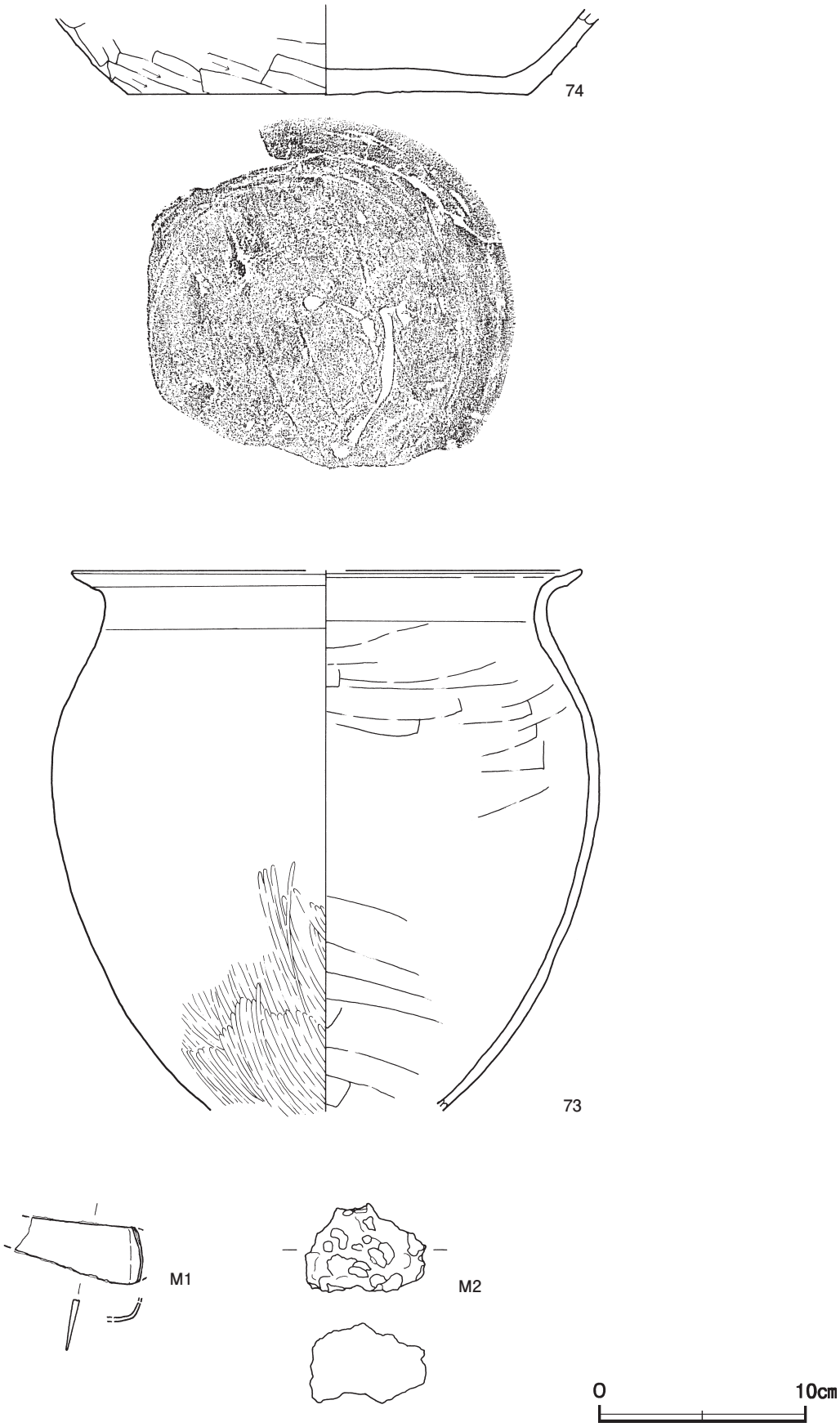
床　平坦で，竈前面から出入口施設付近にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。



第 55 図　第 36 号住居跡実測図



第 56 図　第 36 号住居跡出土遺物実測図（1）



第 57 図　第 36 号住居跡出土遺物実測図（2）

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで84cmで，燃焼部幅は55cmである。袖部は，床面を深さ５～13cmの不定形に掘りくぼめた部分にロームのブロックや粒子を多く含む第15・16層を埋土して，にぶい黄褐色粘土を主体とした第10～14層を積み上げて構築されている。火床部は床面から７cmくぼんでおり，火床面は赤変しており，硬化は弱い。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
3　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量
6　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土粒子少量
7　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物少量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量
9　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
10　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量
11　黄　褐　色　ロームブロック中量
12　黒　褐　色　ローム粒子中量
13　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
14　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土ブロック中量
15　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，黒褐色土ブロック少量
16　褐　　色　ロームブロック中量，黒褐色ブロック少量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ30～36cmで，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ18cmで，南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ14cmで，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子多量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量

覆土　６層に分層できる。第１層はロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。第２層以下は均質な黒褐色と暗褐色土が周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片722点（坏96，椀１，甕625），須恵器片159点（坏112，高台付坏１，蓋８，甕38），鉄製品１点（鎌），粘土塊６点，鉄滓１点（3.2g）が，覆土中層（第２層）の下部から覆土下層（第３層）にかけて出土している。また，流れ込んだ縄文土器片６点（深鉢），弥生土器片２点（広口壺）も出土している。65は中央部，73は南東部，74は南部，63は南西部，69は北西部の覆土下層，64・66・67は中央部，71・Ｍ１は北部，Ｍ２は南東部，68・72は南部，70は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。いずれも残存率が高く，斜位の状態で出土していることから住居廃絶後の凹地に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀前葉と考えられる。

第36号住居跡出土遺物観察表（第56・57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
63	土師器	坏	[14.6]	3.5	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位ヘラ削り　底部二方向のヘラ削り	下層	70%　PL38
64	土師器	坏	[15.0]	3.8	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	中層	40%
65	須恵器	坏	13.8	3.9	8.3	石英・雲母	褐灰	良好	底部回転ヘラ削り	下層	90%　PL38
66	須恵器	坏	14.0	4.5	8.8	石英・雲母	灰黄褐	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	中層	80%　PL38
67	須恵器	坏	14.1	3.8	9.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	底部回転ヘラ切り後，ナデ	中層	70%　PL37
68	須恵器	坏	[13.2]	3.9	8.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	良好	底部一方向のヘラ削り	中層	40%
69	須恵器	坏	[14.6]	3.8	9.0	長石・石英・雲母	灰黄	良好	底部一方向のヘラ削り	下層	40%
70	須恵器	坏	[12.4]	3.5	8.4	長石・石英	暗灰黄	良好	底部不定方向のヘラ削り	中層	20%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
71	土師器	椀	[21.2]	8.5	8.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部浅い沈線　体部外・内面ヘラ磨き　見込み部渦巻き状の暗文　底部一方向の手持ちヘラ削り	中層	30%　PL37
72	須恵器	高台付坏	[8.0]	6.5	[4.8]	長石・石英・雲母	灰黄	良好	外・内面ロクロナデ	中層	20%
73	土師器	甕	[24.8]	(26.2)	−	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ	下層	20%
74	須恵器	甕	−	(3.7)	[19.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラナデ	下層	5%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M1	鎌	(6.2)	3.5	0.3	(18.2)	鉄	刃部断面三角形　先端部欠損　基部折り返し	中層	PL55
M2	鉄滓	4.3	5.9	4.0	156.3	鉄	椀状滓	中層	

第54号住居跡（第58～61図）

位置　調査区中央部のD2g8区，標高24.3mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第55号住居跡，第190～195号ピットを掘り込み，第78号住居，第963・967・969・994号土坑，第180・181号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.45m，短軸6.25mの方形で，主軸方向はN－8°－Eである。壁高は22～38cmで，直立している。

床　平坦な貼床で，主柱穴の内側が踏み固められている。貼床は四隅を掘りくぼめて黒褐色土やロームブロックを多く含んだ第12～14層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。第994号土坑に掘り込まれているため，掘方の埋土しか確認できなかった。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，灰黄色粘土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・灰黄色粘土ブロック少量，焼土粒子微量

ピット　7か所。P1～P4は深さ56～62cmで，配置から主柱穴である。P5・6は深さ33cm・18cmで，南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ36cmで，性格不明である

ピット土層解説（各ピット共通）

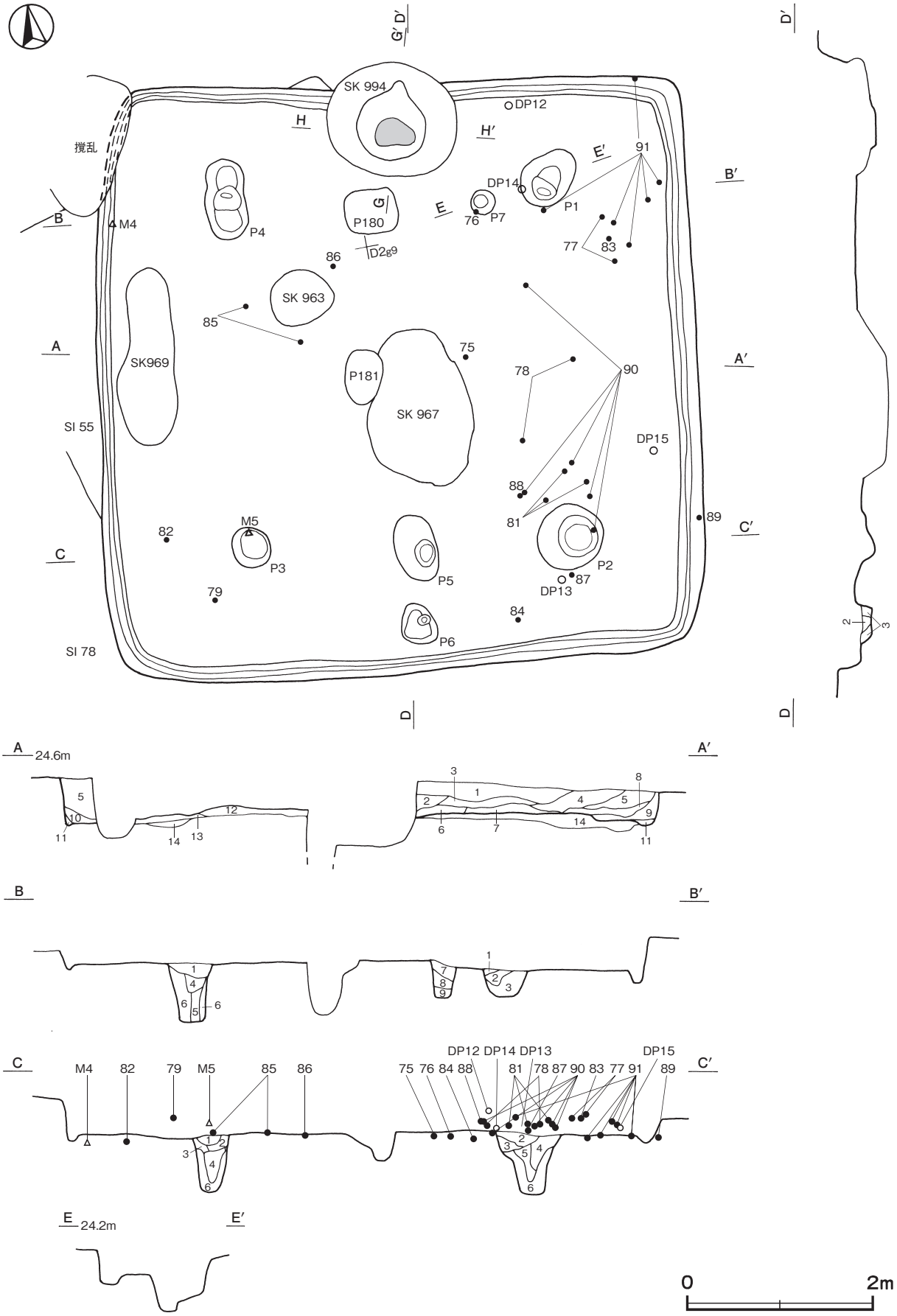
1　灰黄褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
2　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子少量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
8　褐　　色　ロームブロック少量
9　にぶい黄褐色　ローム粒子少量

覆土　11層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子を含んでいることから埋め戻されている。第12～14層は貼床の構築土である。

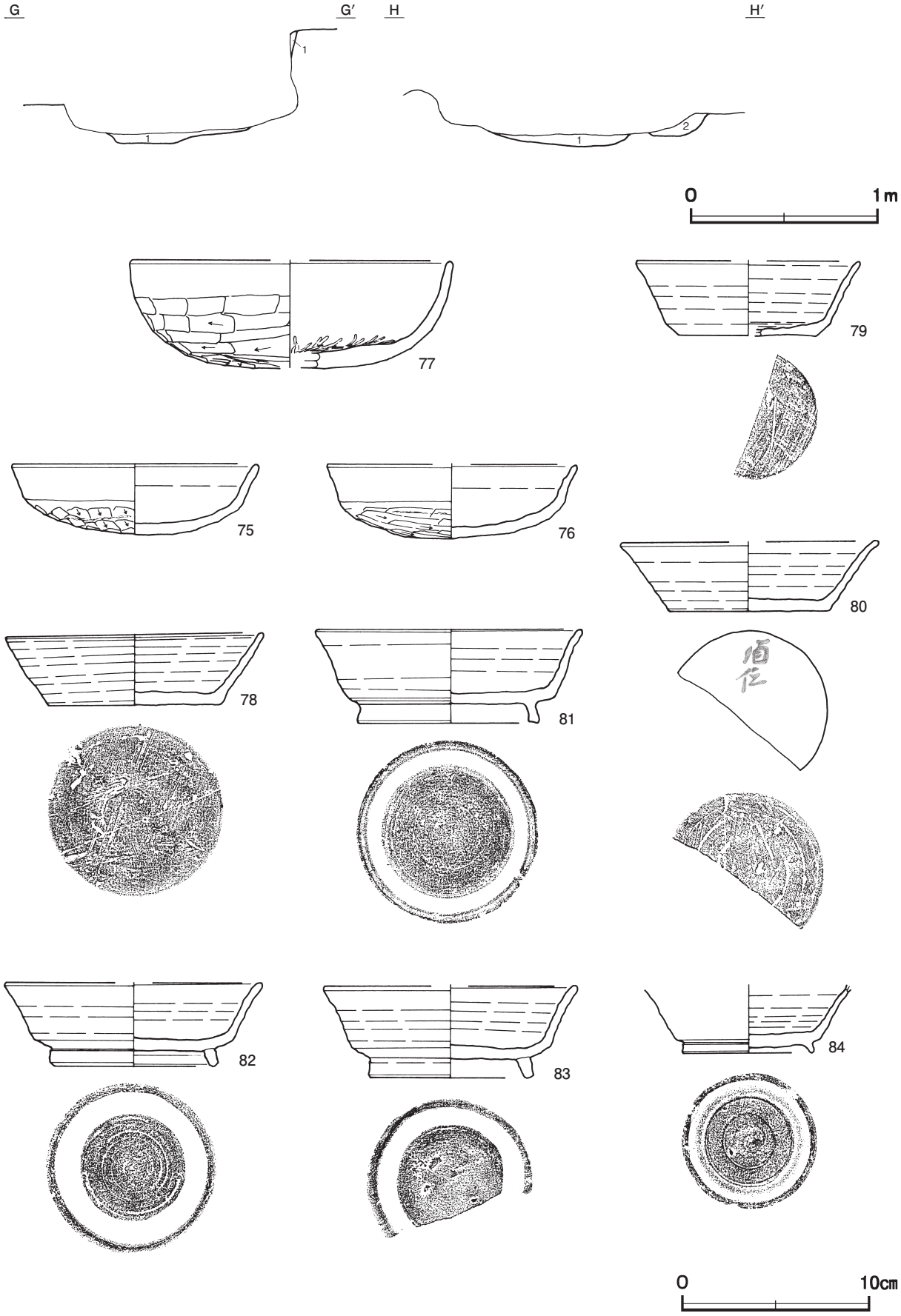
土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
10　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量
11　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
12　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
13　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
14　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

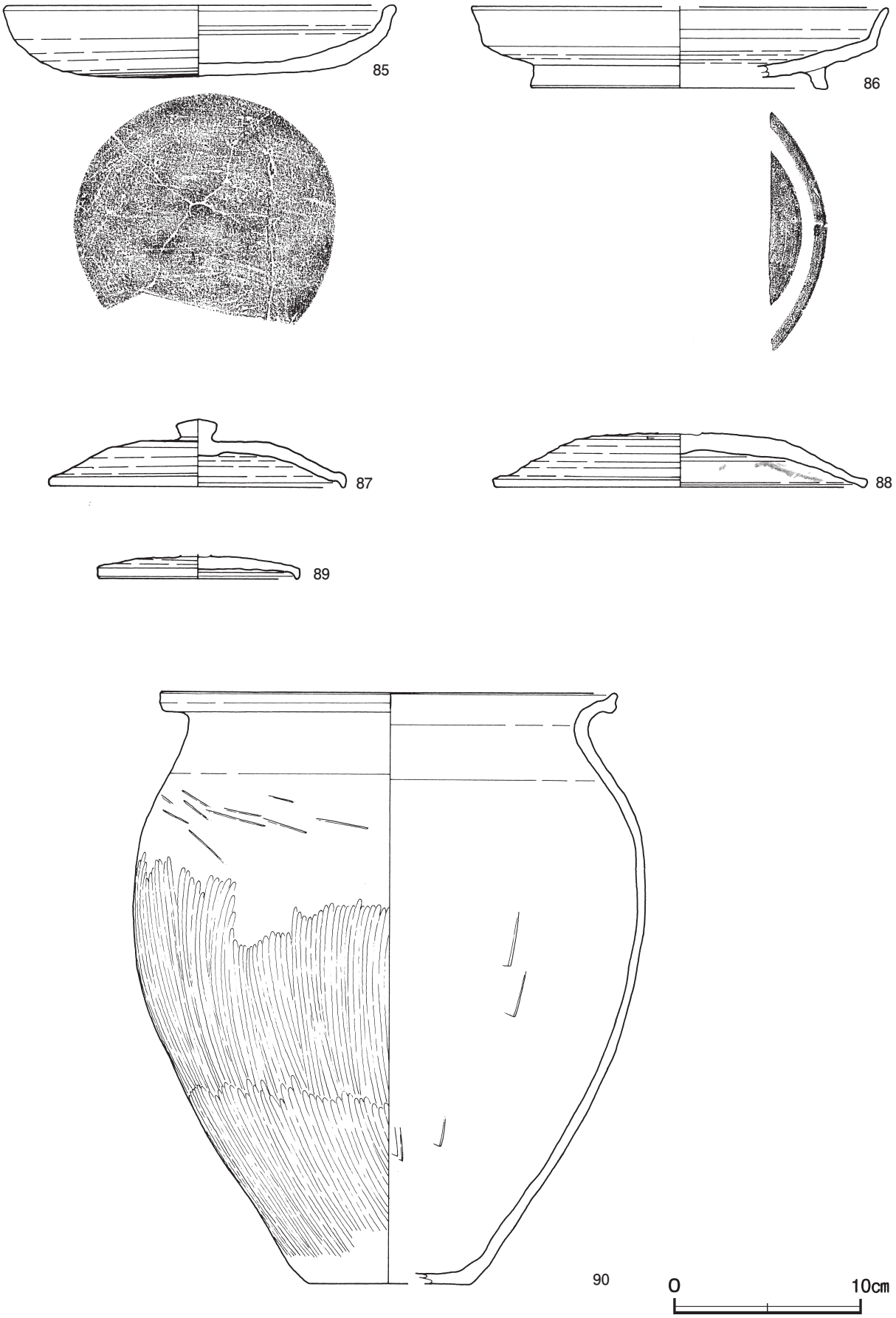
遺物出土状況　土師器片1580点（坏124，椀1，鉢1，甕1446，甑8），須恵器片311点（坏197，高台付坏7，蓋39，盤9，瓶1，甕56，甑2），土製品4点（土玉3，支脚1），鉄製品5点（刀子1，斧1，紡錘車軸部1，釘2）が，壁寄りの覆土中層から下層を中心に出土している。また，流れ込んだ縄文土器片33点（深鉢），



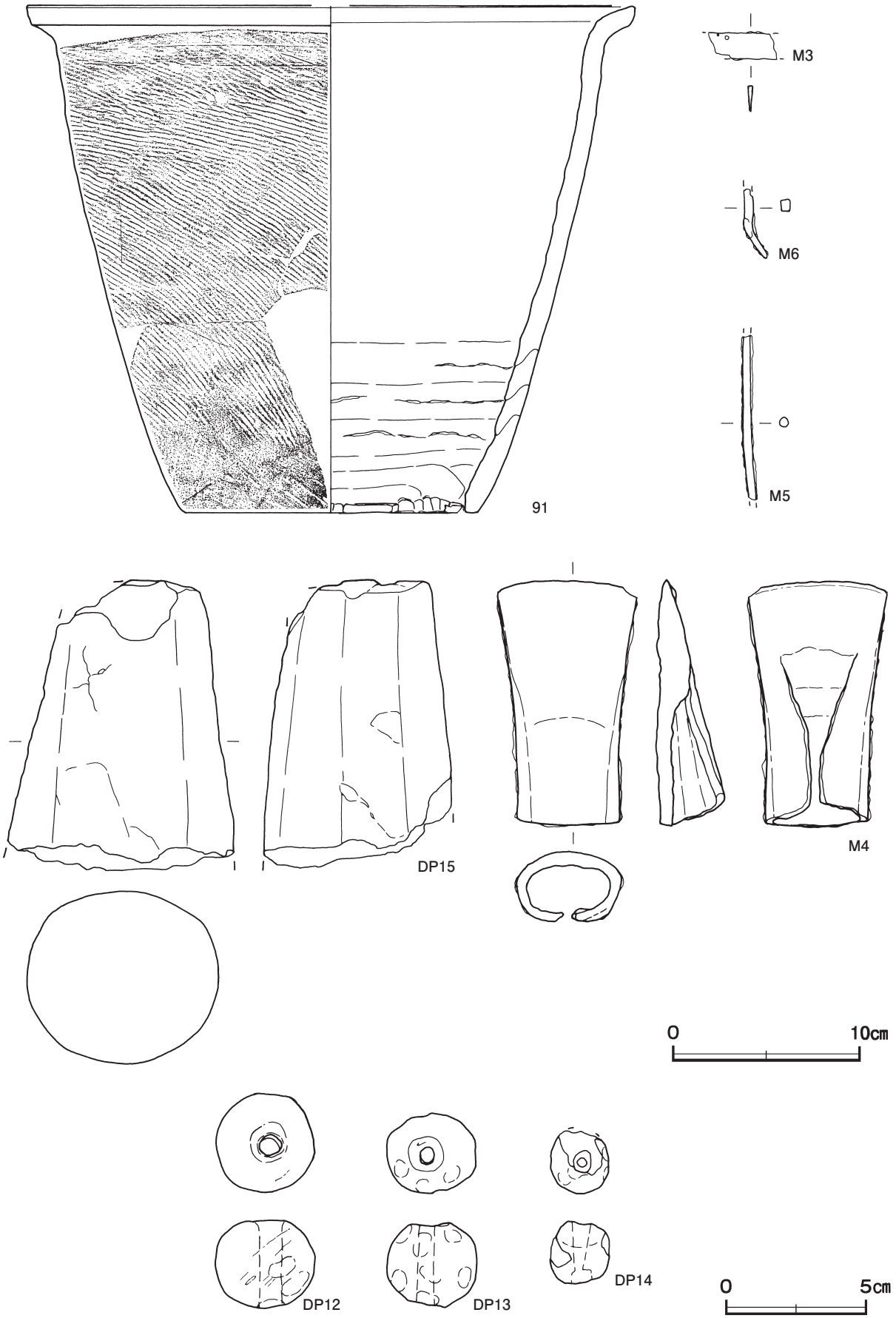
第 58 図　第 54 号住居跡実測図



第 59 図　第 54 号住居跡・出土遺物実測図



第60図　第54号住居跡出土遺物実測図（1）



第 61 図　第 54 号住居跡出土遺物実測図（2）

土製品１点（土偶），石器２点（鏃，磨製石斧），古墳時代の土師器片８点（坏）も出土している。75 は中央部，76 は北部，84 は南部の床面からいずれも正位の状態で出土している。86 は中央部，89 は東壁際，82 は南西部，85・Ｍ４は西部の覆土下層，78 は中央部，DP12・DP14 は北部，77・80・83・91 は北東部，81・87・88・90・DP13・DP15 は南東部，79・Ｍ５は南西部の覆土中層からそれぞれ出土しており，90・91 は破片が散在した状態で出土している。いずれも残存率が高く，斜位あるいは散在した状態で出土していることから，住居廃絶後の凹地に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。

第 54 号住居跡出土遺物観察表（第 59 ～ 61 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
75	土師器	坏	13.0	3.8	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面・底部ヘラ削り	床面	80%　PL38
76	土師器	坏	[13.2]	4.0	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面・底部ヘラ削り	床面	40%
77	土師器	坏	[17.0]	5.7	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面・底部ヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	中層	40%　PL38
78	須恵器	坏	13.7	3.9	9.2	長石・石英・雲母	灰	良好	体部外面下端回転ヘラ削り　底部二方向のヘラ削り	中層	95%　PL38
79	須恵器	坏	[12.0]	4.0	[7.4]	長石	黄灰	良好	底部一方向のヘラ削り	中層	30%
80	須恵器	坏	[13.6]	3.8	8.5	長石・石英・雲母	灰黄	良好	底部回転ヘラ切り後，二方向のヘラナデ 墨書「酒坏ヵ」	中層	30%　PL50
81	須恵器	高台付坏	14.0	4.9	9.6	長石・石英・ 針状鉱物	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後，高台貼付	中層	95%　PL38
82	須恵器	高台付坏	[13.4]	4.5	8.6	長石・石英・ 針状鉱物	灰	良好	底部回転ヘラ削り後，高台貼付　墨痕 転用硯	下層	60%
83	須恵器	高台付坏	[13.6]	4.9	8.6	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	灰	良好	底部回転ヘラ削り後，高台貼付	中層	45%
84	須恵器	高台付坏	－	(3.6)	7.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	底部回転ヘラ削り後，高台貼付	床面	50%
85	須恵器	無台盤	20.8	3.8	14.1	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	黄灰	良好	底部一方向のヘラ削り	下層	85%
86	須恵器	盤	[22.2]	4.4	[15.8]	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後，高台貼付	下層	30%
87	須恵器	蓋	15.8	3.6	－	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼付	中層	80%　PL38
88	須恵器	蓋	[19.8]	(2.9)	－	長石・石英・ 針状鉱物	灰	良好	天井部回転ヘラ削り　つまみ欠損　体部内面 墨痕　転用硯	中層	40%
89	須恵器	瓶蓋	10.6	(1.1)	－	長石・石英・ 針状鉱物	灰	良好	ロクロナデ　つまみ欠損	下層	60%　PL38
90	土師器	甕	24.3	32.0	[8.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面中位以下ヘラ磨き 内面ヘラナデ	中層	65%　PL38
91	須恵器	甑	[32.2]	27.3	[15.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	体部外面横位の平行叩き　下位斜方向のヘラ削り 内面上位無文叩き後，ロクロナデ　下位ヘラナデ	中層	30%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP12	土玉	3.1	3.6	0.8	35.6	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部摩滅	中層	PL52
DP13	土玉	3.1	3.2	0.7	27.0	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部ヘラ削り	中層	PL52
DP14	土玉	2.2	2.2	0.7	(8.0)	長石・石英	二方向からの穿孔　孔端部ナデ	中層	PL52

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP15	支脚	[8.5]	(12.0)	(15.5)	(1460)	白色粒子	ヘラ削り	中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｍ３	刀子	(3.6)	(1.5)	0.2	(3.0)	鉄	断面三角形	覆土中	
Ｍ４	斧	13.3	7.5	3.8	602	鉄	基部袋状	下層	PL55
Ｍ５	紡錘車	(8.8)	0.9	0.5	(8.1)	鉄	軸部ヵ　断面円形	中層	
Ｍ６	釘	(3.8)	1.3	0.7	(5.8)	鉄	先端部片　断面方形	覆土中	

第 57 号住居跡（第 62・63 図）

位置　調査区中央部のＤ２i8 区，標高 24.1 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 26 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 56 号住居，第 25・38 号掘立柱建物，第 565・1004・1061 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 6.52 ｍ，短軸 5.98 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 16゜－Ｅである。壁高は 10 ～ 30cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。北東部と南東部を除く壁下には壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 124cm で，燃焼部幅は 66cm である。袖部は，深さ 23cmの皿状に掘りくぼめた部分にロームブロックを多く含む第 17 ～ 20 層を埋土し，褐灰色砂質粘土やロームブロックを含む暗褐色土の第 13 ～ 16 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から６cmくぼんでおり，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 25cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量
3	極暗赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4	暗灰黄色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗赤褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量
6	極暗赤褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
7	暗赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
8	暗褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量
9	褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土粒子微量
10	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量
11	にぶい黄褐色	ロームブロック多量，焼土粒子微量
12	暗赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック微量
13	褐灰色	砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土粒子微量
14	暗褐色	ロームブロック中量，砂質粘土ブロック・焼土粒子微量
15	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック微量
16	暗褐色	ロームブロック多量
17	暗赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック微量
18	暗褐色	ロームブロック多量，焼土粒子微量
19	暗褐色	ロームブロック多量，焼土ブロック少量
20	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 47 ～ 50cm で，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 25cmで，南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７は深さ 19・20cmで，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量
3	にぶい褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	にぶい褐色	ロームブロック中量
5	褐色	ローム粒子多量
6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量

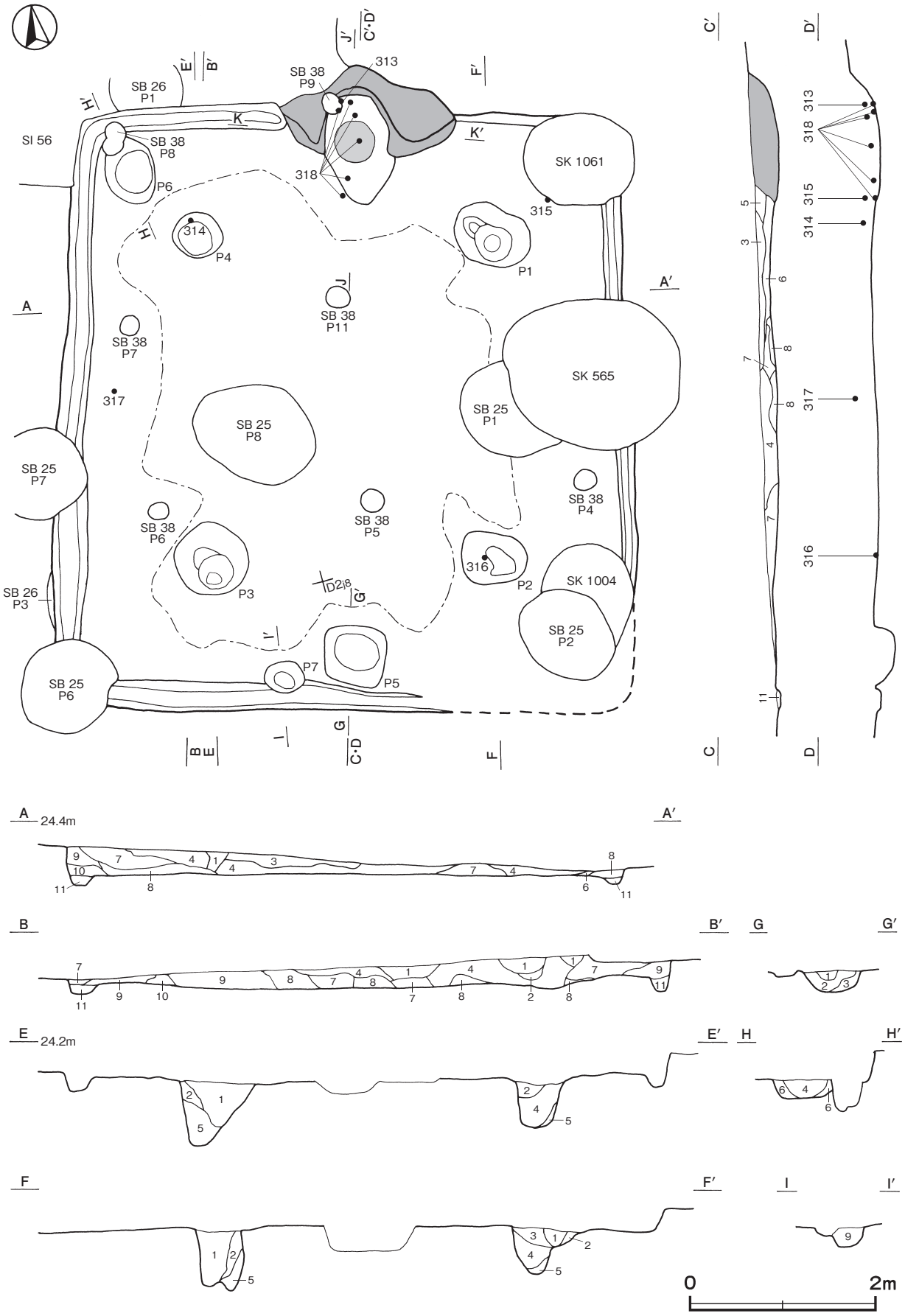
覆土　11 層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

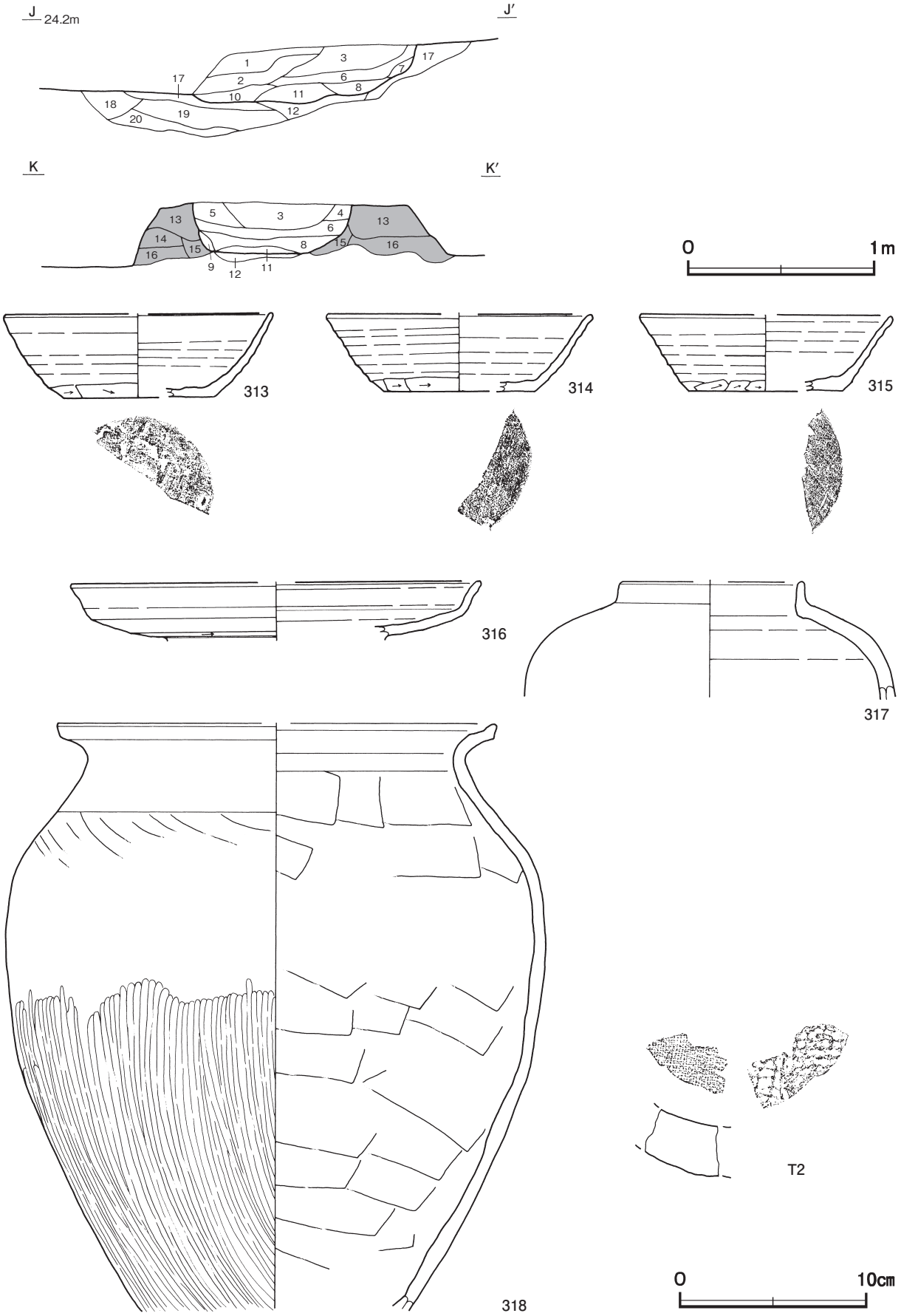
1	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
3	褐色	砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
4	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
6	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子中量
8	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
9	黒褐色	ロームブロック少量
10	暗褐色	ロームブロック中量
11	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 430 点（坏 30，甕 400），須恵器片 134 点（坏 107，盤４，蓋８，瓶２，甕 13），瓦１点（平瓦），鉄製品１点（釘），鉄滓２点（38.8g，4.2g），粘土塊１点が，北半部の覆土中層を中心に出土している。また，混入した縄文土器片 10 点（深鉢），剥片１点（安山岩）も出土している。316 はＰ２の埋土上層，318 は竈の覆土下層から床面にかけて散在した状態で，313 は竈の覆土中層，314 は北西部，315 は北東部，317 は西部，Ｔ２は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



第 62 図　第 57 号住居跡実測図



第 63 図　第 57 号住居跡・出土遺物実測図

第 57 号住居跡出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
313	須恵器	坏	［14.4］	4.5	［8.0］	長石	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	竈中層	40%
314	須恵器	坏	［14.2］	4.2	［8.1］	長石・雲母	灰	良好	体部下端ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	中層	20%
315	須恵器	坏	［13.4］	4.1	［8.4］	長石・石英	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	中層	20%
316	須恵器	盤	［22.2］	（3.0）	－	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	Ｐ２	20%
317	須恵器	短頸壺	［9.8］	（6.2）	－	長石	灰黄	良好	ロクロナデ　外面自然釉	中層	５％　PL39
318	土師器	甕	［23.7］	（31.7）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面上半・内面ヘラナデ　外面下半ヘラ磨き	竈下層～床面	40%　PL39

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
Ｔ２	平瓦	（4.3）	（4.0）	2.6	（44.2）	長石・石英・赤色粒子	凹面布目痕　凸面格子状叩き	中層	

第 61 号住居跡（第 64・65 図）

位置　調査区中央部のＤ２j5 区，標高 23.9 ｍの南側へ傾斜した台地縁辺部に位置している。

重複関係　第 27 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 33 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　東西軸 5.25 ｍで，南半部の床面が露出した状態で確認しており，硬化面の広がりや柱穴の配置から，南北軸は 5.5 ｍと推定できる。平面形は方形である。主軸方向はＮ－６°－Ｅである。壁高は８～ 12cmで，外傾して立ち上がっている。また，貼床を除去した後，古い段階の柱穴が確認できた。規模は主軸方向を同じくする一辺 3.8 ｍの方形と推定でき，床や竈は確認できなかった。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを多く含んだ第４～６層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 90cm で，燃焼部幅は 60cm である。袖部は，深さ 20cmの皿状に掘りくぼめた部分に黒褐色土や褐色土の第 19 ～ 22 層を埋土して，褐灰色砂質粘土を主体とした第 13 ～ 18 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から７cmくぼんでおり，火床面は赤変，硬化ともに弱い。煙道部は壁外に７cm掘り込まれ，火床部から彎曲して立ち上がっている。

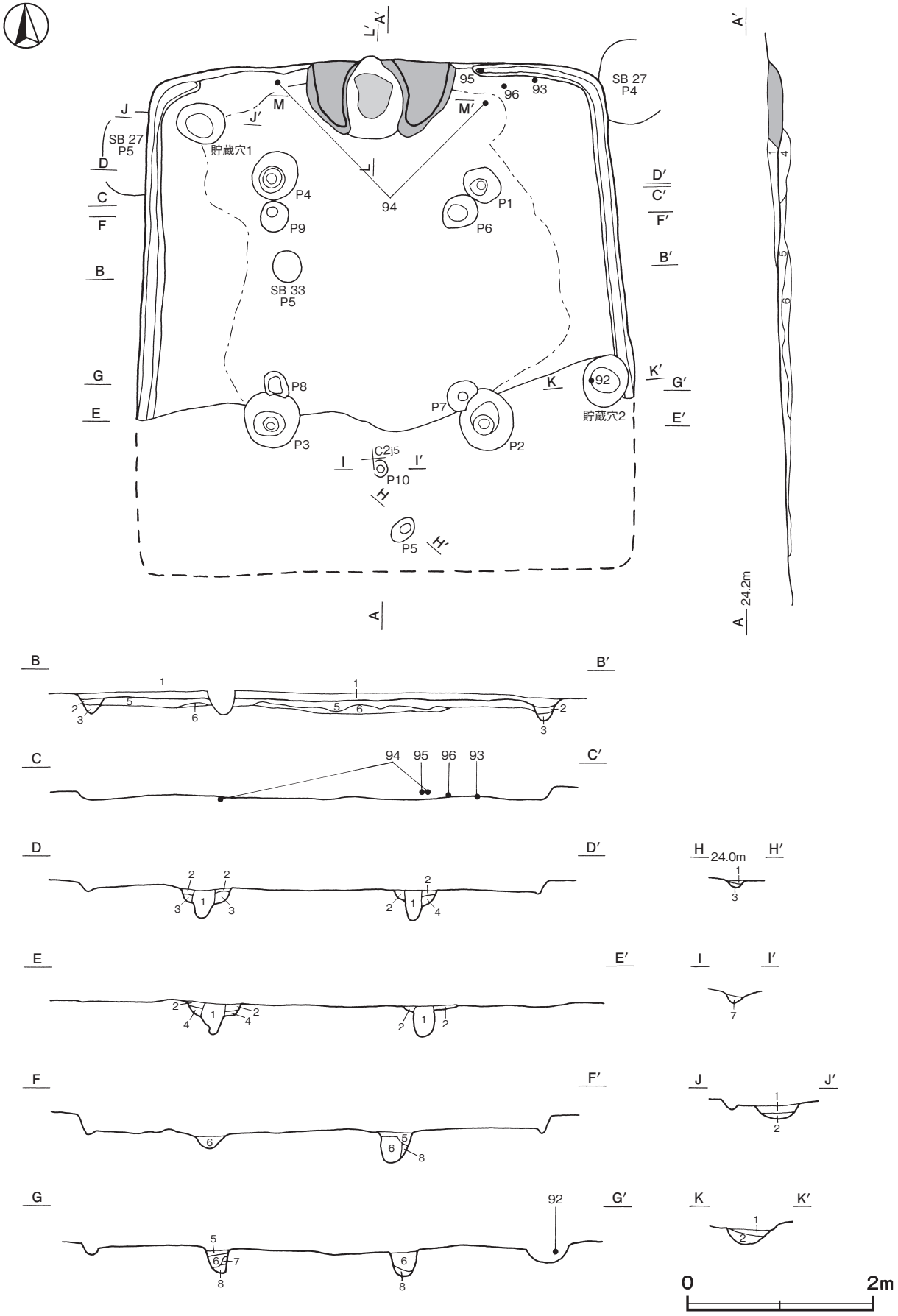
竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量
2　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
9　黒　　色　焼土ブロック微量
10　暗　褐　色　焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量
11　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量
12　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子微量
13　褐　灰　色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量
14　褐　灰　色　砂質粘土ブロック多量
15　褐　灰　色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック微量
16　黒　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量
17　黒　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック微量
18　暗　褐　色　ロームブロック中量
19　黒　褐　色　ロームブロック微量
20　褐　　色　ローム粒子多量
21　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量
22　褐　　色　ロームブロック中量

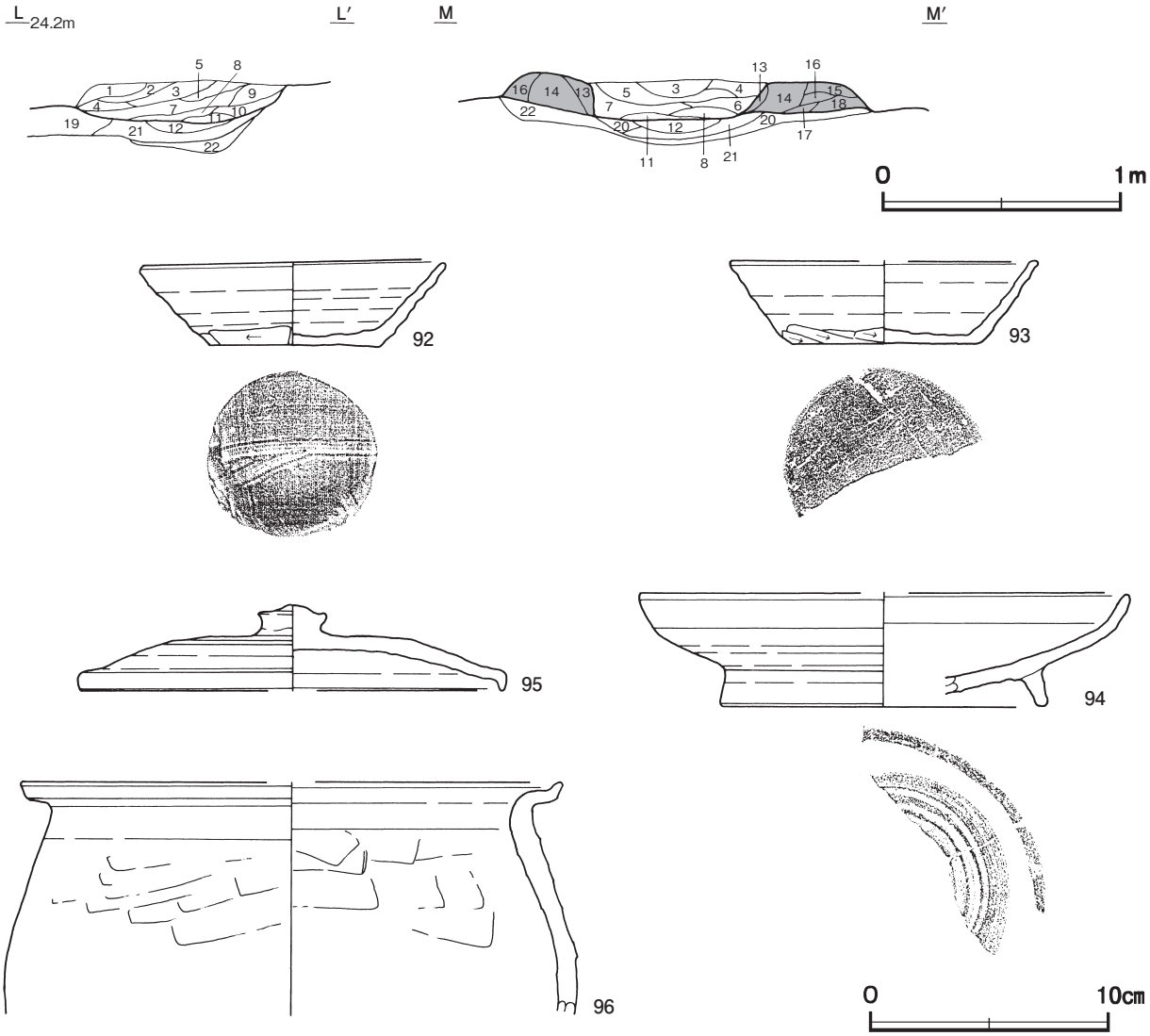
ピット　10 か所。Ｐ１～Ｐ５は床面，Ｐ６～Ｐ 10 は貼床構築土を除去した段階でそれぞれ確認できた。Ｐ１～Ｐ４は深さ 30 ～ 34cm，Ｐ６～Ｐ９は深さ 14 ～ 32cmで，主柱穴である。Ｐ５・10 はともに深さ９cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量
3　黒　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子多量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量



第 64 図　第 61 号住居跡実測図



第 65 図　第 61 号住居跡・出土遺物実測図

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は北西コーナー部に位置し，長径 51cm，短径 43cmの楕円形で，深さは 13cmである。底面は皿状で，壁は彎曲して立ち上がっている。貯蔵穴２は東壁際に位置し，長径 59cm，短径 48cmの楕円形で，深さは 16cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴１土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

貯蔵穴２土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量

覆土　３層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。第４～６層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 98 点（坏 42，甕 56），須恵器片 15 点（坏７，蓋２，皿１，盤１，甕４），粘土塊７点が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片 12 点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺）も出土している。

92 は貯蔵穴２の覆土下層，93 は北壁際の床面，94・95・96 は北壁際の覆土下層から散在した状態でそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。貼床構築土を除去した段階で古い主柱穴が確認できた。いずれも廃絶時の主柱穴より中央部寄りに位置していることから，住居を拡張して建て換えを行っている。

第 61 号住居跡出土遺物観察表（第 65 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
92	須恵器	坏	12.8	3.5	7.1	石英・雲母・針状鉱物	橙	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	貯蔵穴２	70%
93	須恵器	坏	［12.8］	3.5	7.8	長石・石英・雲母	浅黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	床面	45%
94	須恵器	盤	［20.6］	4.7	［13.8］	長石・石英・雲母・針状鉱物	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後，高台貼付	下層	45%
95	須恵器	蓋	［17.6］	3.6	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼付	下層	45%
96	土師器	甕	［22.6］	(9.8)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	下層	５%

第 72 号住居跡（第 66・67 図）

位置　調査区中央部東端のＤ３g1 区，標高 24.2 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 24 号掘立柱建物，第８・９号方形竪穴遺構，第 1190 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北東・南西軸は 6.40 ｍで，東側が調査区域外へ延びているため，北西・南東軸は 5.90 ｍしか確認できなかった。平面形は方形と推定でき，主軸方向はＮ－ 28°－Ｗである。壁高は 15 ～ 37㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。確認できた壁下には，壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 128cm で，燃焼部幅は 68cm である。袖部は地山を掘り残して基部とし，にぶい黄褐色粘土を主体とした第７～ 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から８㎝くぼんでおり，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 44㎝掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい黄褐色　粘土ブロック・焼土粒子少量，ロームブロック微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子中量，粘土ブロック少量
4　黒　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量
5　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量
7　にぶい黄褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量
9　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
10　褐　　色　粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
11　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　にぶい黄褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
13　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
14　褐　　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 54 ～ 78cm で，主柱穴である。

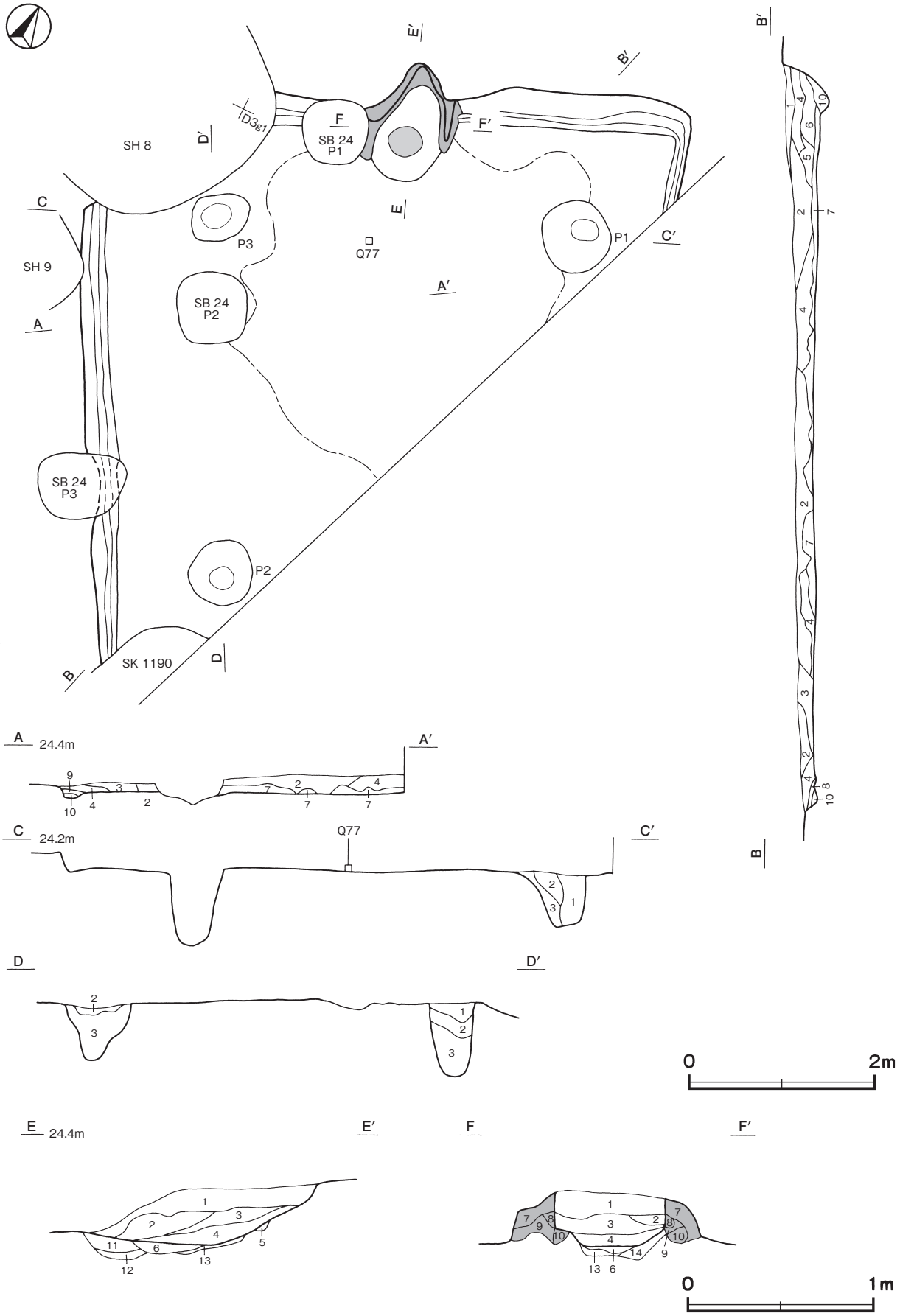
ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量

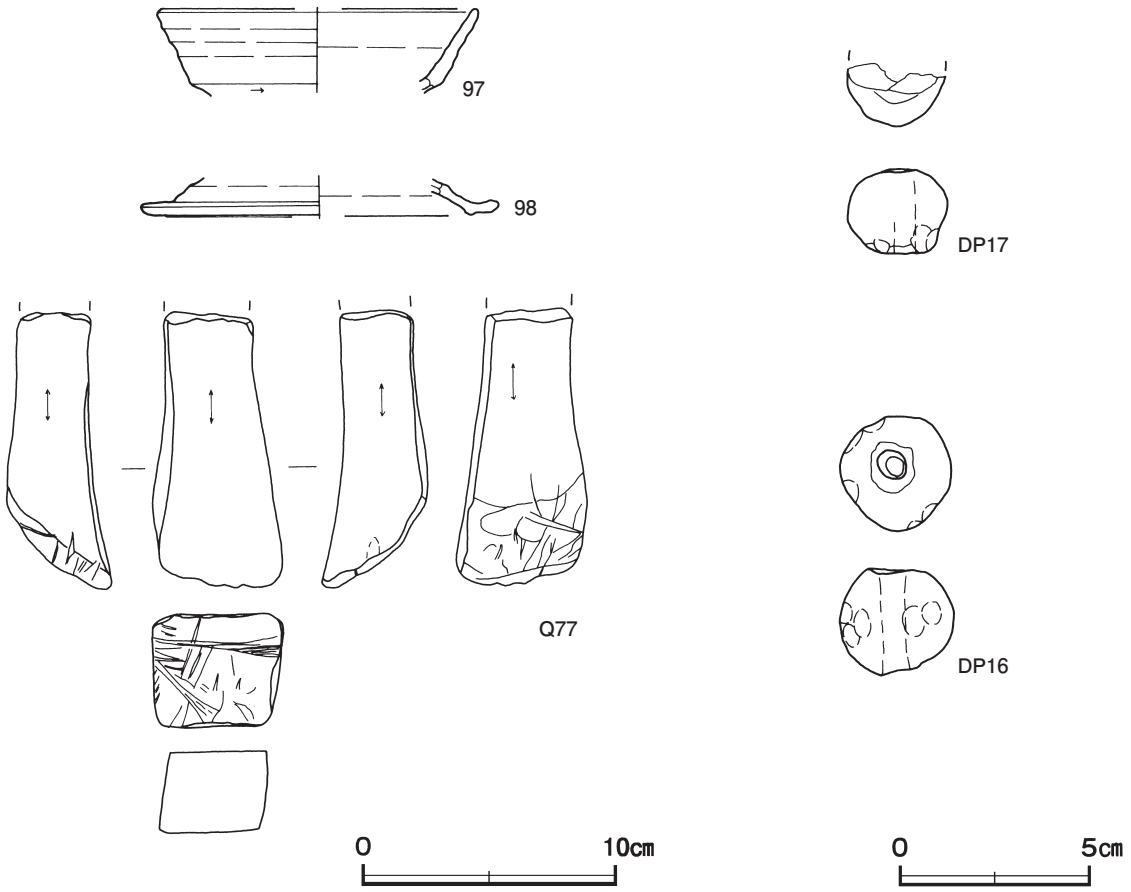
覆土　10 層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
4　暗　褐　色　炭化粒子少量，焼土ブロック微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック微量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量



第 66 図　第 72 号住居跡実測図



第 67 図　第 72 号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 195 点（甕 194, 甑 1), 須恵器片 19 点（坏 17, 高台付坏 1 , 甕 1), 土製品 2 点（土玉), 粘土塊 13 点，石製品 1 点（砥石）が出土している。また，混入した縄文土器 30 点（深鉢），古墳時代の土師器片 17 点（坏），陶器片 3 点（椀，甕，瓶）も出土している。Q 77 は北部の覆土下層，97・98，DP16・DP17 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。

第 72 号住居跡出土遺物観察表（第 67 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
97	須恵器	坏	[12.6]	(3.3)	－	石英・雲母	黄灰	良好	体部外面下端回転ヘラ削り	覆土中	20%
98	須恵器	蓋	[14.2]	(1.8)	－	石英・雲母	灰黄褐	良好	ロクロナデ	覆土中	5 %

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP16	土玉	2.8	3.0	0.8	23.7	長石・石英	二方向からの穿孔　孔端部ナデ	覆土中	PL52
DP17	土玉	(2.6)	(2.2)	(0.5)	(7.7)	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部ナデ	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 77	砥石	(10.9)	5.2	4.5	(251.5)	凝灰岩	砥面 5 面　下面荒研ぎ痕	下層	PL55

第 83 号住居跡（第 68・69 図）

位置　調査区中央部東端のＤ２j0 区，標高 23.6 ｍの南側へ緩やかに傾斜した台地縁辺部に位置している。

規模と形状　東側が調査区域外へ延びており，竈の火床面やピットが露出した状態で確認した。竈やピットの配置から一辺 6.5 ｍの方形と推定できる。主軸方向はＮ－ 10゜－Ｗである。

床　北西部の一部に硬化面が確認できた。

竈　北壁中央部に付設されている。火床面は赤変硬化している。

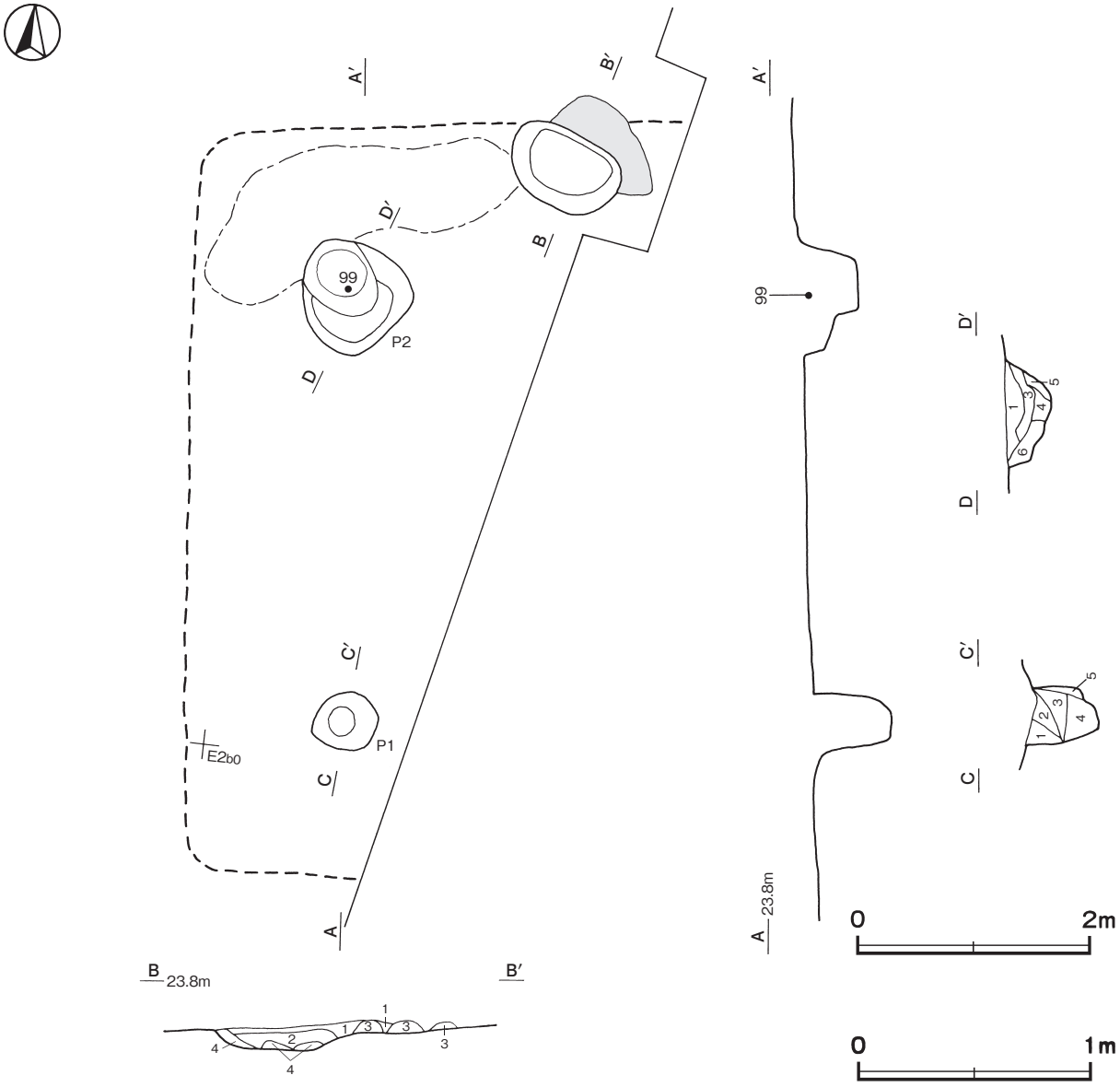
竈土層解説

1　明赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子少量
2　褐　　色　焼土ブロック・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量

ピット　２か所。Ｐ１・２は深さ 52cm・40cm で，配置から主柱穴である。

ピット土層解説（各ピット共通）

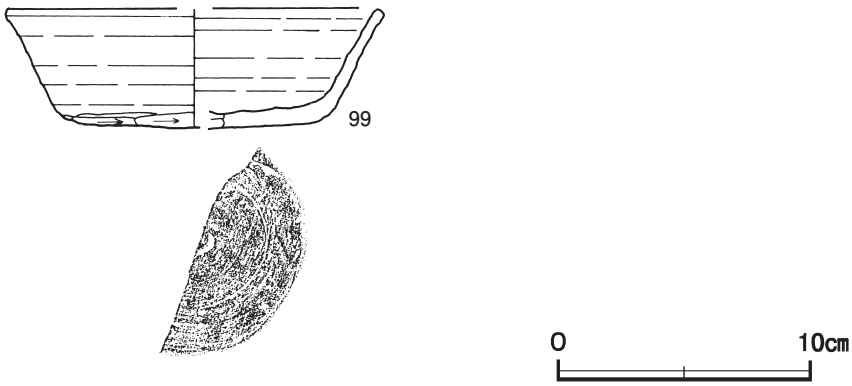
1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量



第 68 図　第 83 号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片 42 点（坏１，甕 41），須恵器片 10 点（坏４，蓋３，甕３），鉄製品１点（釘）が出土している。また，流れ込んだ古墳時代の土師器片１点（器台），石器１点（鏃）も出土している。99 はＰ２の柱抜き取り痕の上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。



第 69 図　第 83 号住居跡出土遺物実測図

第 83 号住居跡出土遺物観察表（第 69 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
99	須恵器	坏	［14.8］	4.7	［9.2］	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部外面下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ削り	Ｐ２	45％

表６　奈良時代　竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
18	Ｃ２c7	隅丸長方形	Ｎ－13°－Ｅ	2.52 × 2.18	5～12	平坦	－	－	－	3	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片	８世紀前葉	
25	Ｃ２j2	方形	Ｎ－6°－Ｅ	7.46 × 7.10	8～34	平坦	全周	4	2	1	竈１	1	自然	土師器片，須恵器片，土玉，支脚	８世紀中葉	SK1219P21～P23→本跡→SB14 他
36	Ｃ３j1	方形	Ｎ－7°－Ｅ	3.27 × 3.14	30～33	平坦	全周	4	1	1	竈１	－	人為自然	土師器，須恵器，鎌，鉄滓	８世紀前葉	SB29→本跡→SB23 他
54	Ｄ２g8	方形	Ｎ－8°－Ｅ	6.45 × 6.25	22～38	平坦	全周	4	2	1	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，土玉，支脚，刀子，斧，釘	８世紀中葉	SI55 他→本跡→SI78 他
57	Ｄ２i8	方形	Ｎ－16°－Ｅ	6.52 × 5.98	10～30	平坦	ほぼ全周	4	1	2	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片瓦片，釘，鉄滓	８世紀後葉	SB26→本跡→SI56，SB25･38 他
61	Ｄ２j5	方形	Ｎ－6°－Ｅ	[5.5] × 5.25	8～12	平坦	［全周］	新４旧４	新１旧１	－	竈１	2	不明	土師器片，須恵器片	８世紀後葉	SB27→本跡→SB33
72	Ｄ３g1	［方形］	Ｎ－28°－Ｗ	6.40 × (5.90)	15～37	平坦	［全周］	3	－	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，土玉，砥石	８世紀前葉	本跡→SB24，SH8･9 他
83	Ｄ２j0	［方形］	Ｎ－10°－Ｗ	[6.5 × 6.5]	－	平坦	－	2	－	－	竈１	－	－	土師器片，須恵器片，釘	８世紀前葉	

(2)　掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第 70 図）

位置　調査区中央部のＣ２g2～Ｃ２h3 区，標高 24.7 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第２号掘立柱建物跡を掘り込み，第 16 号掘立柱建物に掘り込まれている。

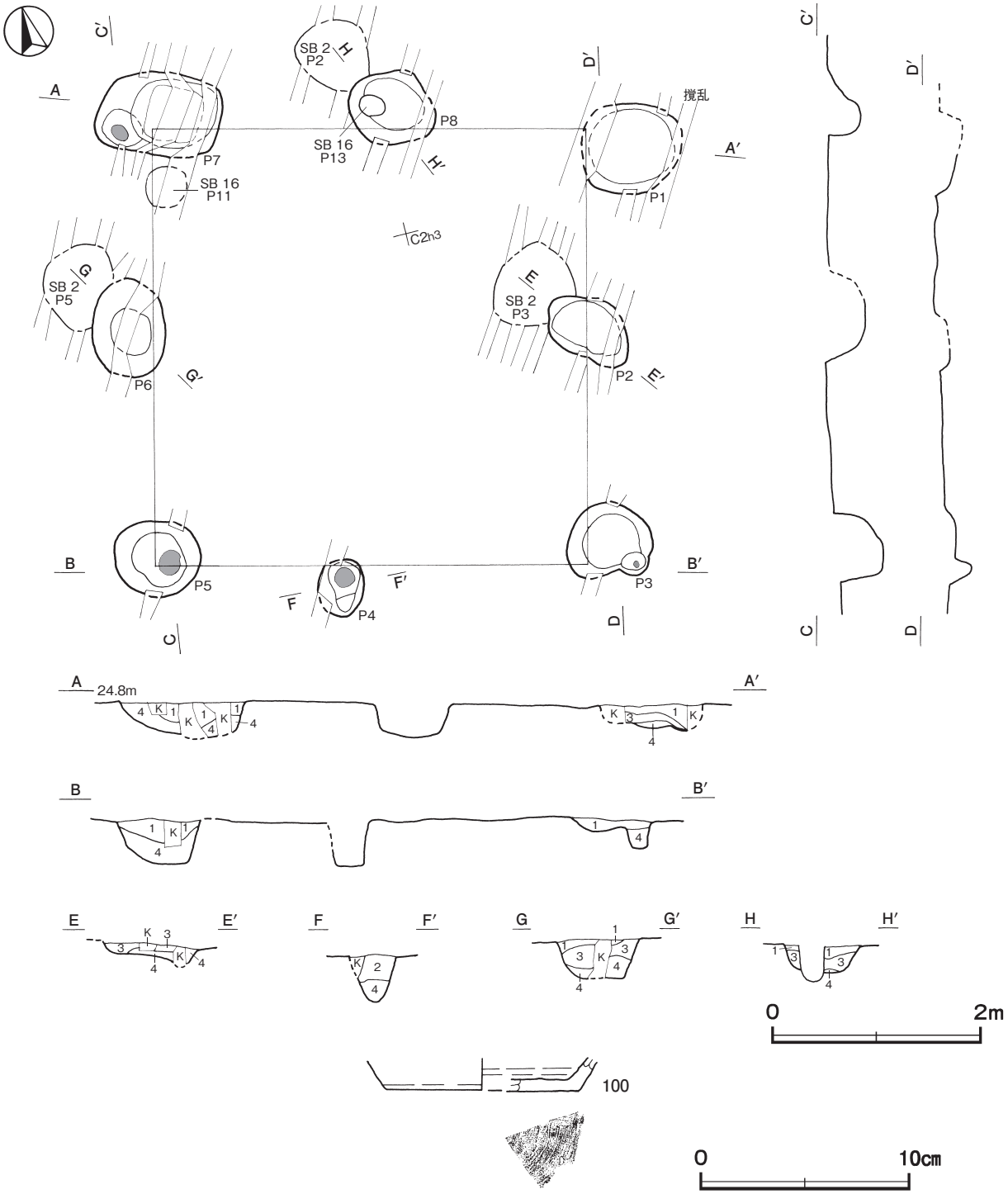
規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－15°－Ｅの南北棟である。規模は桁行 4.24 m，梁行 4.24 mで，面積は 17.98㎡である。柱間寸法は，南桁行が西妻から 1.82 m（６尺）・2.42 m（８尺）で，

北桁行と梁行は2.12 m（７尺）で等間隔に配置されている。柱筋はやや不揃いである。

柱穴　８か所。平面形は不整楕円形で，長径57～131cm，短径55～86cmである。深さは11～50cmで，掘方の断面形は浅いU字状または逆台形である。第１～４層は柱の抜き取り痕である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量



第70図　第１号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片10点（甕），須恵器片１点（坏）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片４点（深鉢），弥生土器片２点（広口壺）も出土している。100はＰ５の柱の抜き取り痕から出土している。

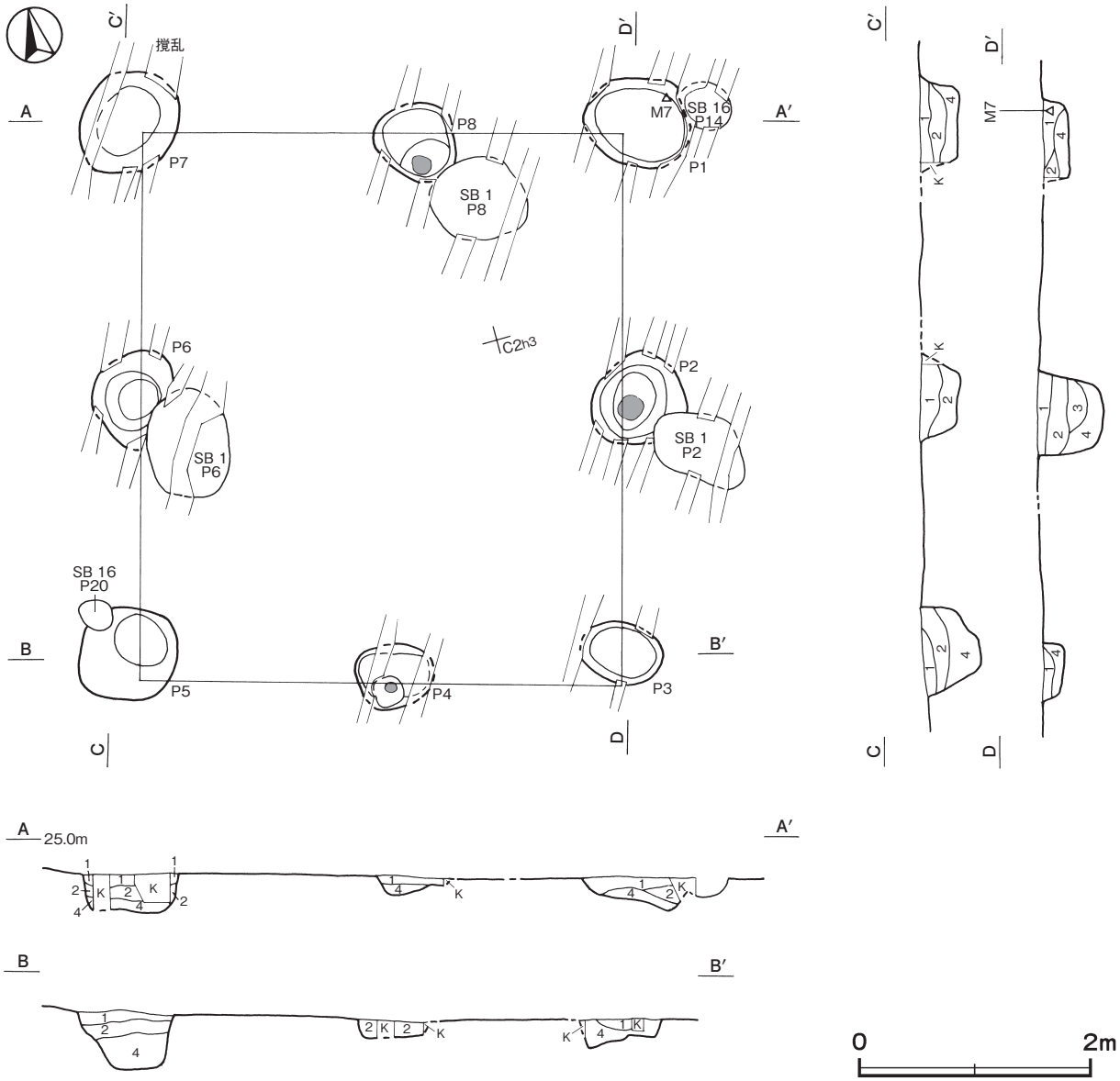
所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀後葉と考えられる。

第１号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
100	須恵器	坏	－	(1.6)	[9.2]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	Ｐ５	５％

第２号掘立柱建物跡（第71・72図）

位置　調査区中央部のＣ２g2～Ｃ２h3区，標高24.7ｍの平坦な台地上に位置している。



第71図　第２号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第19号ピットを掘り込み，第１・16号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－17°－Ｅの南北棟である。規模は桁行4.84ｍ，梁行4.24ｍで，面積は20.52㎡である。柱間寸法は，桁行が2.42ｍ（８尺），梁行が2.12ｍ（７尺）で等間隔に配置されている。柱筋はやや不揃いである。

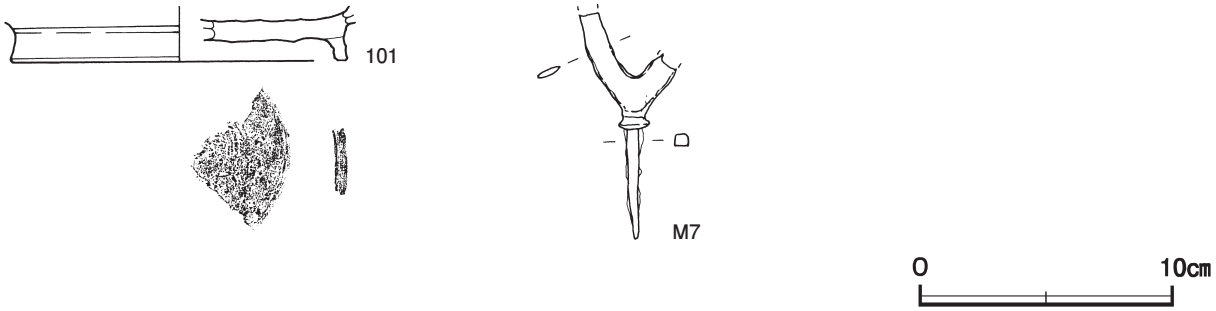
柱穴　８か所。平面形は楕円形で，長径75～92㎝，短径51～84㎝である。深さは20～56cmで，掘方の断面形は逆台形である。第１～４層は柱の抜き取り痕である。

土層解説（各柱穴共通）

１	黒	褐	色	ロームブロック中量	３	黒	褐	色	ロームブロック少量
２	暗	褐	色	ロームブロック中量	４	褐		色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片15点（坏３，甕12），須恵器片３点（高台付坏，盤，甕），鉄製品（鏃）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片６点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺）も出土している。101はＰ５，Ｍ７はＰ１の柱の抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀中葉と考えられる。



第72図　第２号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第２号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
101	須恵器	高台付坏	－	(2.2)	[13.2]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼付	Ｐ５	５％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｍ７	鏃	(9.0)	(3.9)	0.5	(11.1)	鉄	雁又鏃　基部断面方形	Ｐ１	PL55

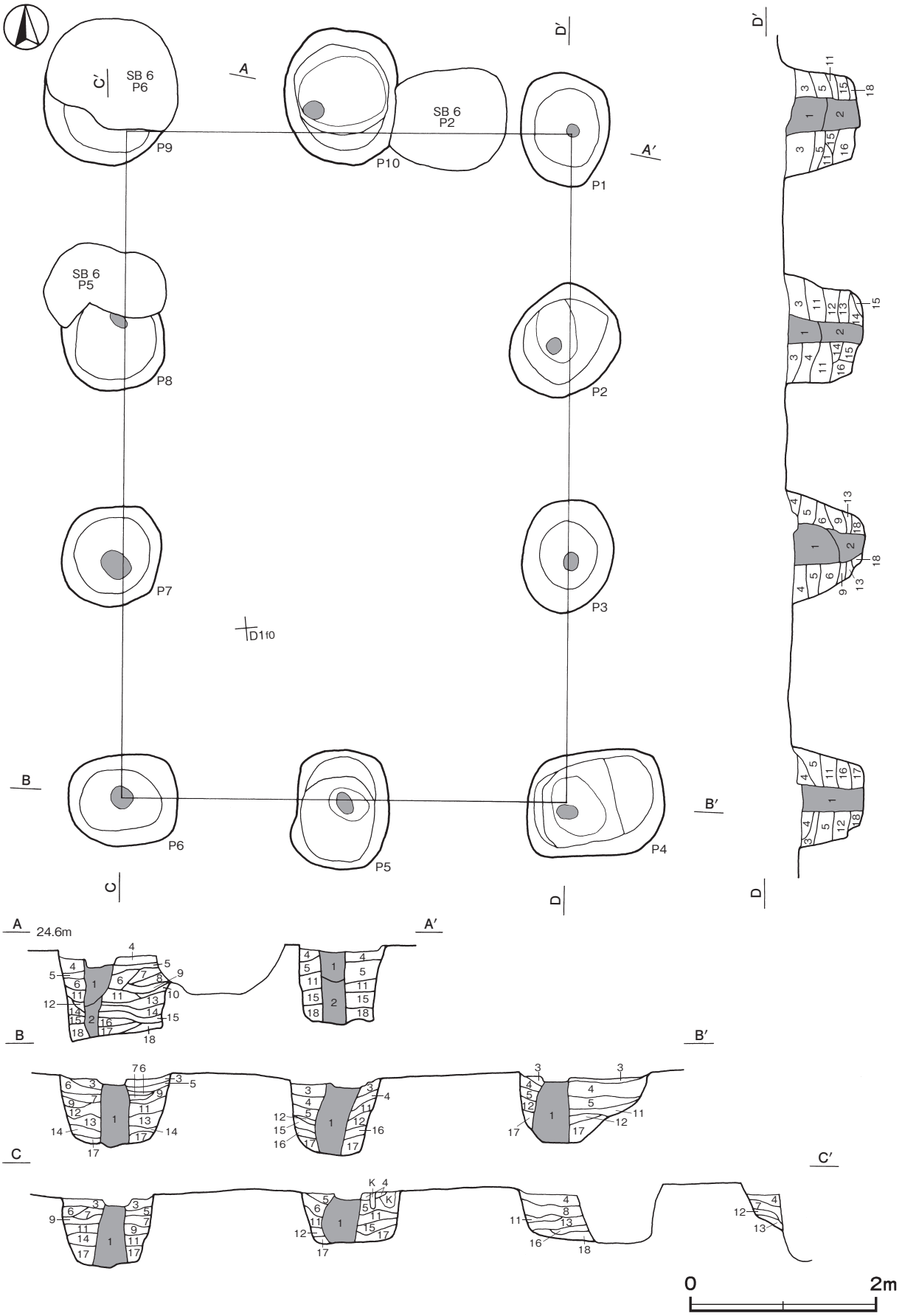
第４号掘立柱建物跡（第73・74図）

位置　調査区中央部のＤ１d9～Ｄ２f1区，標高24.4ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第６号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－５°－Ｅの南北棟である。規模は桁行7.27ｍ，梁行4.85ｍで，面積は35.26㎡である。柱間寸法は，桁行，梁行ともに2.42ｍ（８尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10か所。平面形は楕円形で，長径110～148㎝，短径95～114㎝である。深さは54～90cmで，掘方の断面形は逆台形である。第１・２層は柱痕跡，第３～18層は埋土で，版築状を呈している。



第 73 図　第 4 号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　　色　ロームブロック少量
5　黒　　色　ロームブロック微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック微量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量
9　黒　　色　ローム粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
11　灰黄褐色　ロームブロック多量
12　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ロームブロック多量
14　褐　　色　ロームブロック多量
15　黒　褐　色　ローム粒子少量
16　暗　褐　色　ローム粒子中量
17　暗　褐　色　ロームブロック少量
18　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 90 点（坏 21，甕 69），須恵器片 22 点（坏 10，甕 12），粘土塊２点が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片４点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺）も出土している。102 はＰ３の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀後葉と考えられる。

第 74 図　第４号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第４号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 74 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
102	須恵器	坏	［13.8］	（4.2）	－	石英・雲母・黒色粒子	灰	普通	ロクロナデ	Ｐ３	５％

第９号掘立柱建物跡（第 75・76 図）

位置　調査区南部のＦ１d8 ～ Ｆ１f9 区，標高 15.4 ｍの斜面部から低地部への傾斜変換点付近に位置している。

重複関係　第８号掘立柱建物，第 13 号溝に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 77°－Ｗの東西棟である。規模は桁行 6.36 ｍ，梁行 4.24 ｍで，面積は 26.97㎡である。柱間寸法は，桁行，梁行ともに 2.12 ｍ（７尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

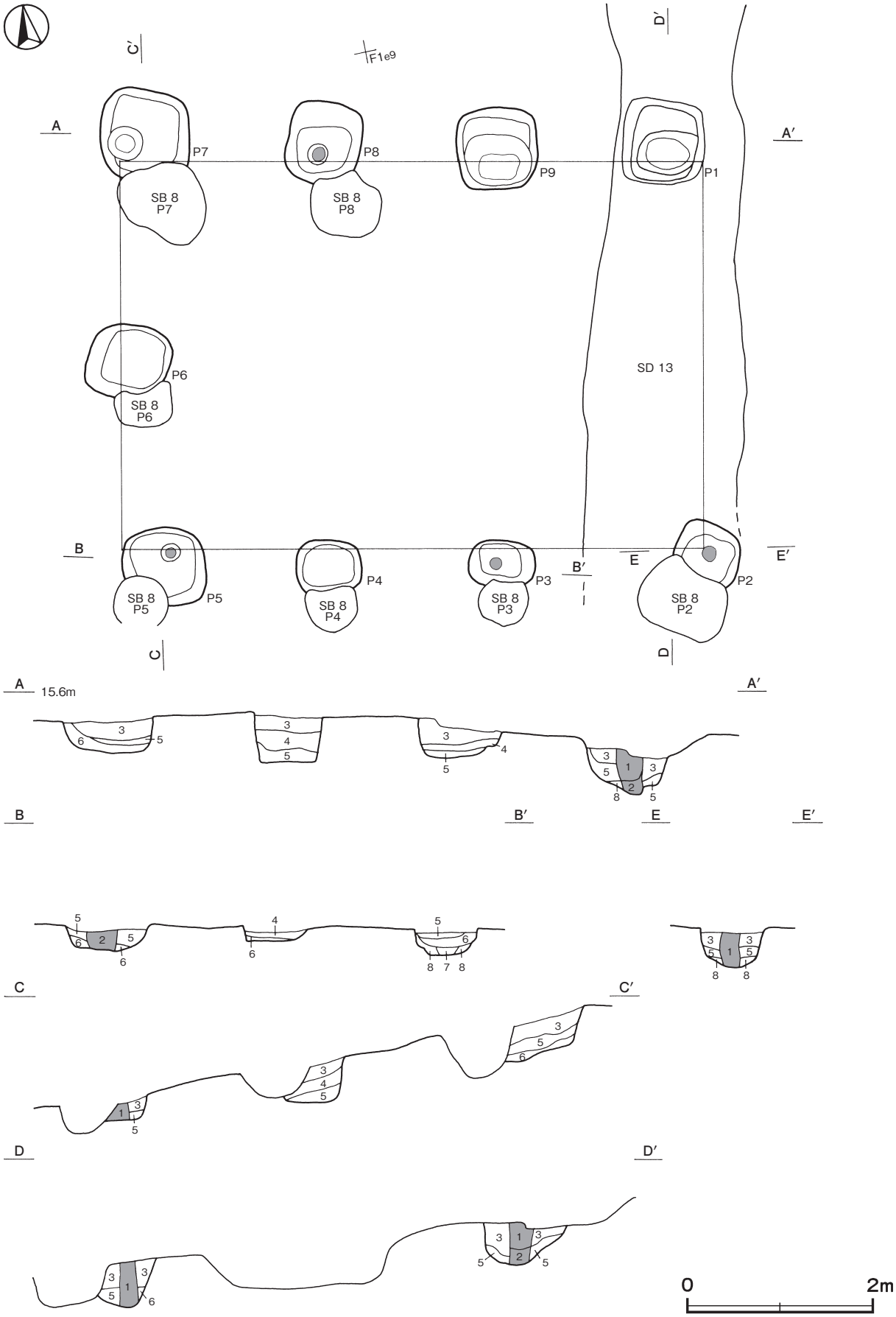
柱穴　９か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で，長軸 70 ～ 101㎝，短軸 60 ～ 97㎝である。深さは 16 ～ 64cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１・２層は柱痕跡，第３～８層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

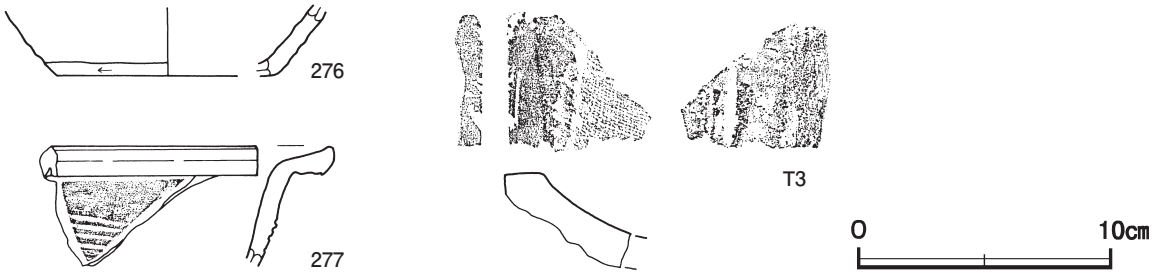
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
4　黒　褐　色　炭化物・焼土粒子微量
5　オリーブ黒色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
6　オリーブ黒色　ロームブロック少量
7　オリーブ黒色　ロームブロック微量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片 49 点（甕），須恵器片 24 点（坏９，盤１，鉢１，甕 13），瓦１点（平瓦）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢）も出土している。Ｔ３はＰ１，276 はＰ７，277 はＰ８の埋土からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀後葉と考えられる。



第 75 図　第 9 号掘立柱建物跡実測図



第 76 図　第９号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第９号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 76 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
276	須恵器	坏	－	(2.8)	[8.6]	長石・石英	褐灰	良好	底部下端回転ヘラ削り	Ｐ７	５％
277	須恵器	鉢	－	(4.7)	－	長石・石英	灰白	良好	体部横位の平行叩き	Ｐ８	５％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
Ｔ３	平瓦	(5.4)	(5.0)	(1.5)	(50.5)	長石・石英・赤色粒子	凹面布目痕　凸面格子状叩き	Ｐ１	

第 10 号掘立柱建物跡（第 77・78 図）

位置　調査区南部のＦ１e0 ～Ｆ２f1 区，標高 15.0 ｍの斜面部から低地部への傾斜変換点付近に位置している。

重複関係　第 12・14 号溝に掘り込まれている。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 82°－Ｗの東西棟である。規模は桁行 4.85 ｍ，梁行 4.24 ｍで，面積は 20.56㎡である。柱間寸法は，桁行が 2.42 ｍ（８尺）で，梁行は 2.12 ｍ（７尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

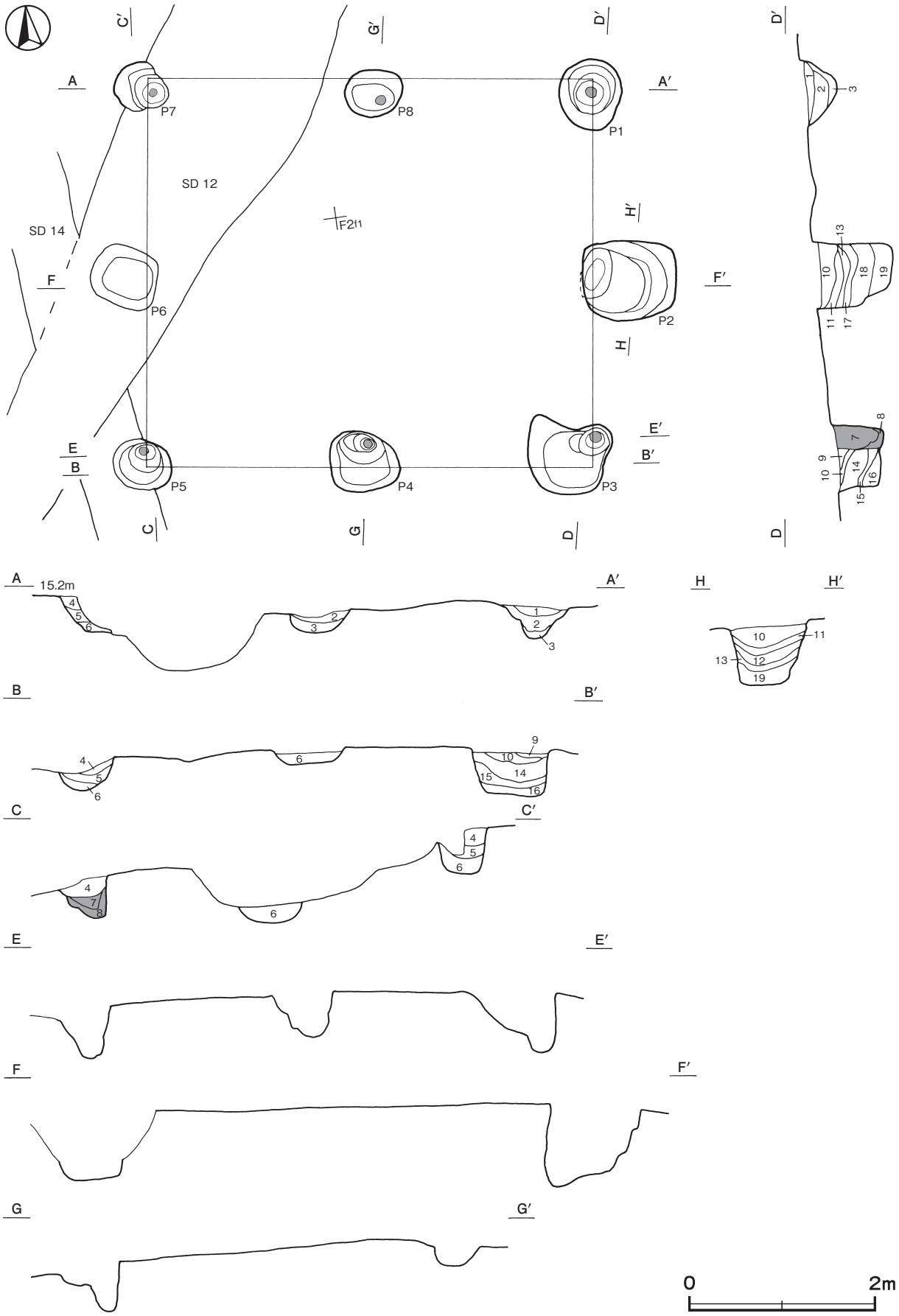
柱穴　８か所。平面形は，桁行のＰ１・３～Ｐ５・７・８は円形または楕円形で，長径 63 ～ 100㎝，短径 49 ～ 97㎝である。深さは 37 ～ 63cm で，掘方の断面形はＵ字状である。梁行中央のＰ２・６は隅丸長方形で，Ｐ２は長軸 100㎝，短軸 86㎝である。深さは 90cm で，掘方の断面形は逆台形である。Ｐ６は第 12 号溝に掘り込まれているため規模長軸 72㎝，短軸 62㎝，深さ 16㎝しか確認できなかった。第１～６層は柱の抜き取り痕，第７・８層は柱痕跡，第９～ 19 層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

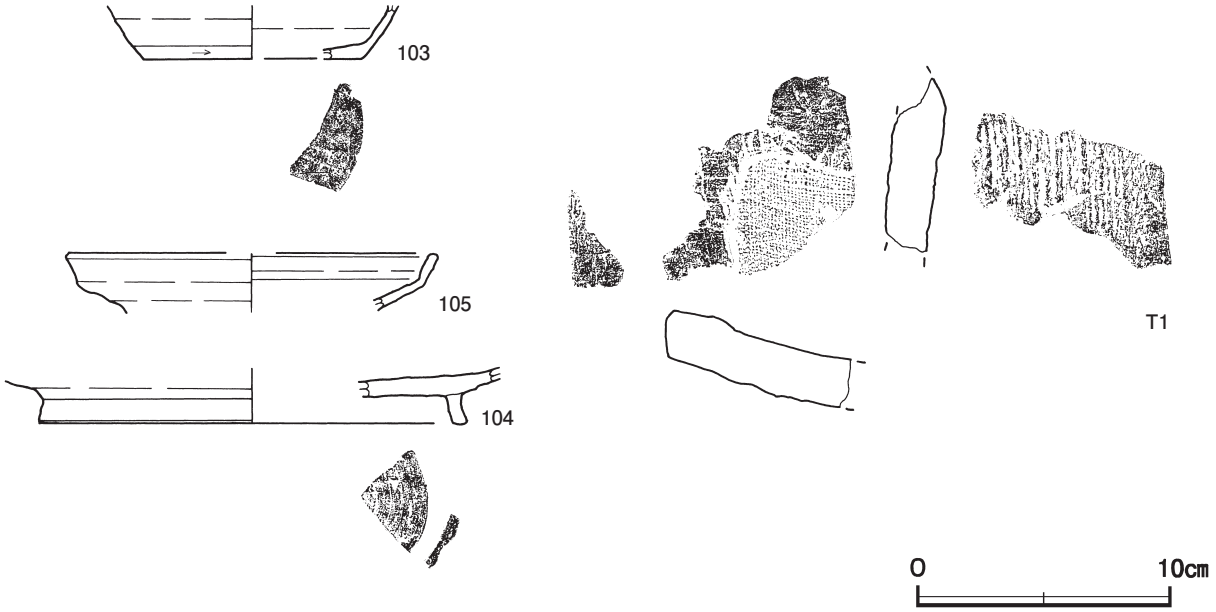
1　黒　褐　色　粘土ブロック・炭化粒子・砂少量，焼土ブロック微量
2　黒　　色　粘土ブロック少量
3　黒　褐　色　粘土ブロック中量
4　黒　褐　色　粘土ブロック・砂中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　粘土ブロック・砂多量
6　灰 黄 褐 色　粘土ブロック・砂中量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
8　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量，砂少量
9　暗　褐　色　粘土ブロック・砂中量
10　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・砂少量
11　黒　褐　色　粘土ブロック・砂少量，炭化物・焼土粒子微量
12　黒　褐　色　粘土ブロック多量
13　灰 黄 褐 色　粘土ブロック中量
14　灰 黄 褐 色　粘土ブロック多量　炭化粒子少量
15　灰　褐　色　粘土ブロック多量
16　黒　褐　色　粘土ブロック・砂中量
17　黒　褐　色　粘土ブロック・砂多量
18　黒　　色　粘土ブロック・砂中量
19　褐　　色　粘土ブロック多量

遺物出土状況　土師器片 26 点（坏 18，甕８），須恵器片 21 点（坏９，盤２，蓋２，甕８），瓦片１点（平瓦）が各柱穴から出土している。また，混入した弥生土器片１点（広口壺）も出土している。103，Ｔ１はＰ１の柱の抜き取り痕，104・105 はＰ２の埋土からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀中葉と考えられる。



第 77 図　第 10 号掘立柱建物跡実測図



第 78 図　第 10 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 10 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 78 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
103	須恵器	坏	－	(2.1)	[8.6]	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	Ｐ１	５％
104	須恵器	盤	－	(2.2)	[16.6]	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼付	Ｐ２	５％
105	須恵器	盤	[14.4]	(2.3)	－	長石・石英・雲母	灰黄	良好	ロクロナデ	Ｐ２	５％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
Ｔ１	平瓦	(6.9)	(7.5)	2.0	(117.5)	石英・黒色粒子	凹面布目痕　凸面縄叩き	Ｐ１	

第 18 号掘立柱建物跡（第 79 図）

位置　調査区中央部のＤ２b1 ～Ｄ２d2 区，標高 24.5 mの平坦な台地上に位置している。

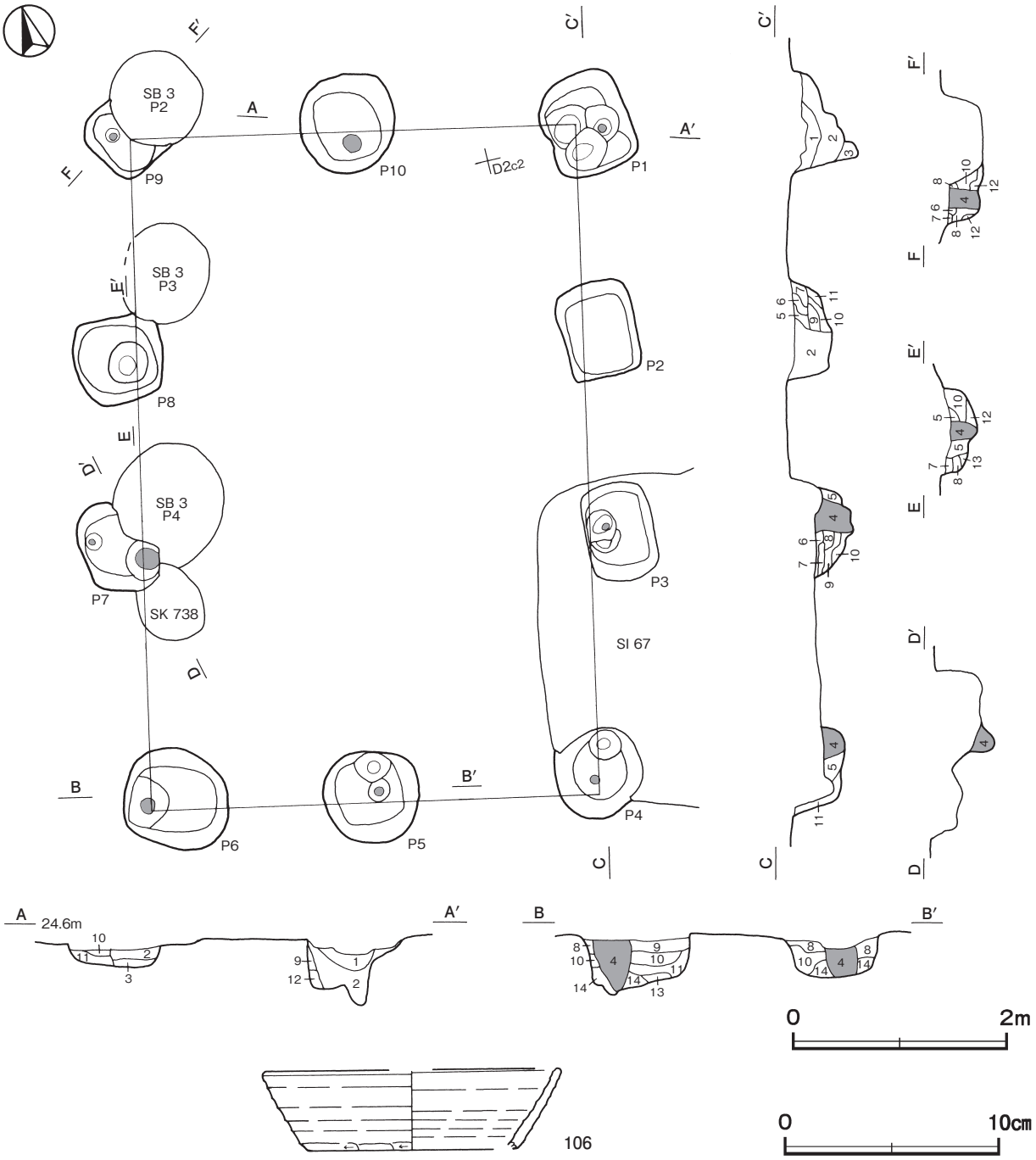
重複関係　第 67 号住居，第３号掘立柱建物，第 738 号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 12°－Ｅの南北棟である。規模は桁行 6.36 m，梁行 4.24 mで，面積は 26.96㎡である。柱間寸法は，桁行が北妻から 2.12 m（７尺）･1.66 m（5.5 尺），2.57 m（8.5 尺）で，梁行は 2.12 m（７尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10 か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で，長軸 88 ～ 105㎝，短軸 63 ～ 93㎝である。深さは 37 ～ 66cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１～３層は柱の抜き取り痕，第４層は柱痕跡，第５～ 14 層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量
7　黒　　色　ロームブロック微量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量
9　褐　　色　ロームブロック多量
10　黒　　色　ロームブロック少量
11　灰黄褐色　ロームブロック多量
12　暗　褐　色　ローム粒子中量
13　黒　　色　ローム粒子微量
14　黒　　色　ロームブロック中量



第 79 図　第 18 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 41 点（坏１，甕 40），須恵器片 13 点（坏８，甕４，鉢１）が各柱穴から出土している。また，流れ込んだ縄文土器片３点（深鉢）も出土している。106 はＰ５の埋土から出土している。

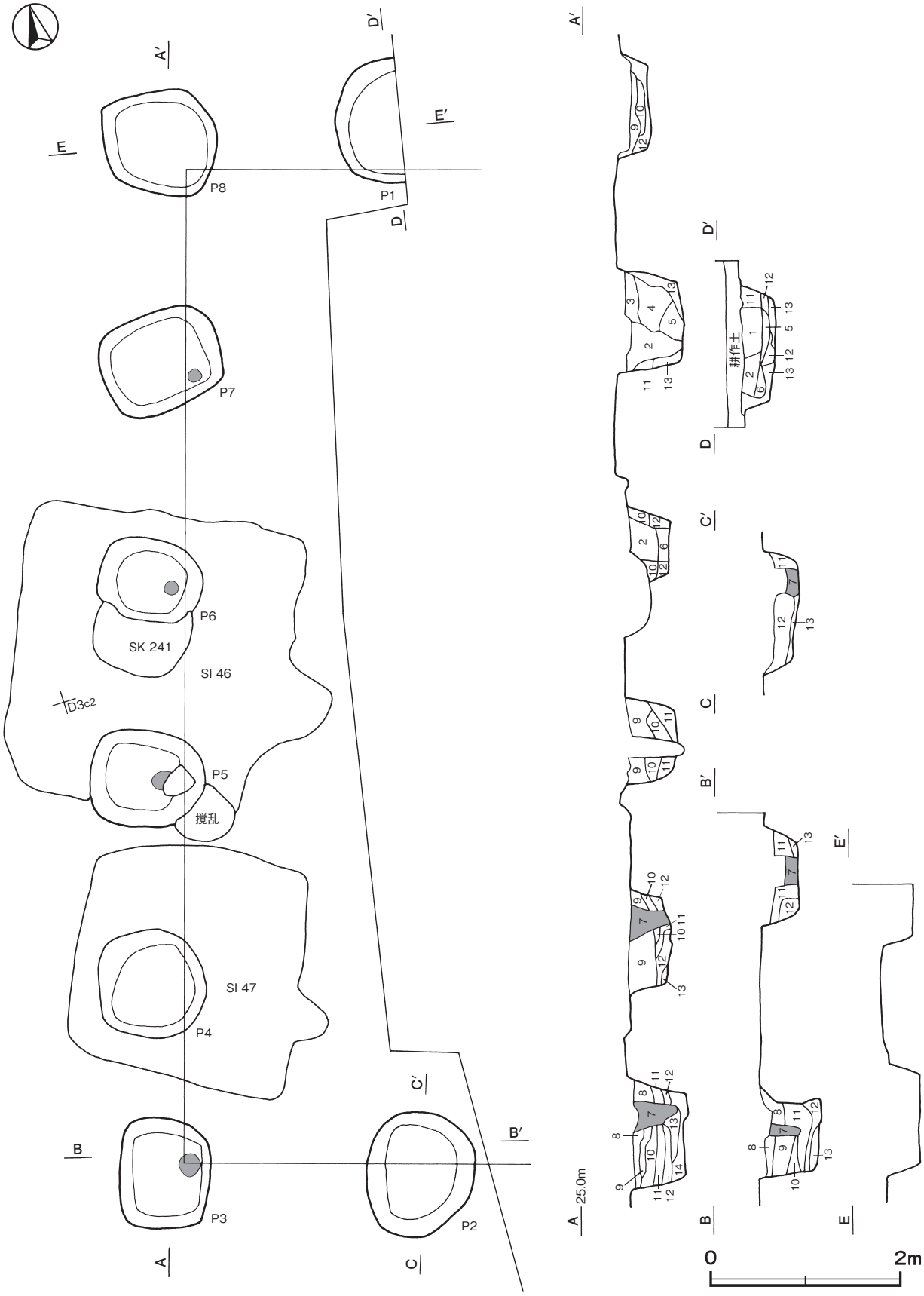
所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀中葉と考えられる。

第 18 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 79 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
106	須恵器	坏	［13.8］	3.7	［9.9］	石英・雲母	灰黄	良好	体部外面下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	Ｐ５	５％

第 22 号掘立柱建物跡（第 80・81 図）

位置　調査区中央部東端のＤ３a2 ～ d2 区，標高 24.5 mの平坦な台地上に位置している。



第 80 図　第 22 号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第46・47号住居，第241号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行５間で，梁行は東側が調査区域外へ延びているため１間しか確認できなかったが，２間以上の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－18°－Ｅの南北棟と推定できる。規模は，桁行10.61ｍで，梁行は2.42ｍしか確認できなかった。柱間寸法は，桁行2.12ｍ（７尺），梁行2.42ｍ（８尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

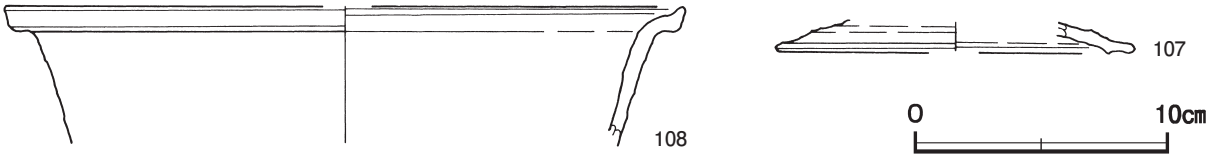
柱穴　８か所。平面形は隅丸長方形で，長軸118～133㎝，短軸95～112㎝である。深さは32～66cmで，掘方の断面形は逆台形である。第１～６層は柱の抜き取り痕，第７層は柱痕跡，第８～14層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　灰黄褐色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　にぶい黄褐色　ローム粒子多量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量
9　黄　褐　色　ローム粒子多量
10　黒　　色　ローム粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子中量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量
13　褐　　色　ローム粒子多量
14　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片41点（坏11，甕30），須恵器片13点（坏７，蓋２，甕４）が各柱穴から出土している。107はＰ５，108はＰ３の埋土からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀代と考えられる。



第81図　第22号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第22号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第81図）

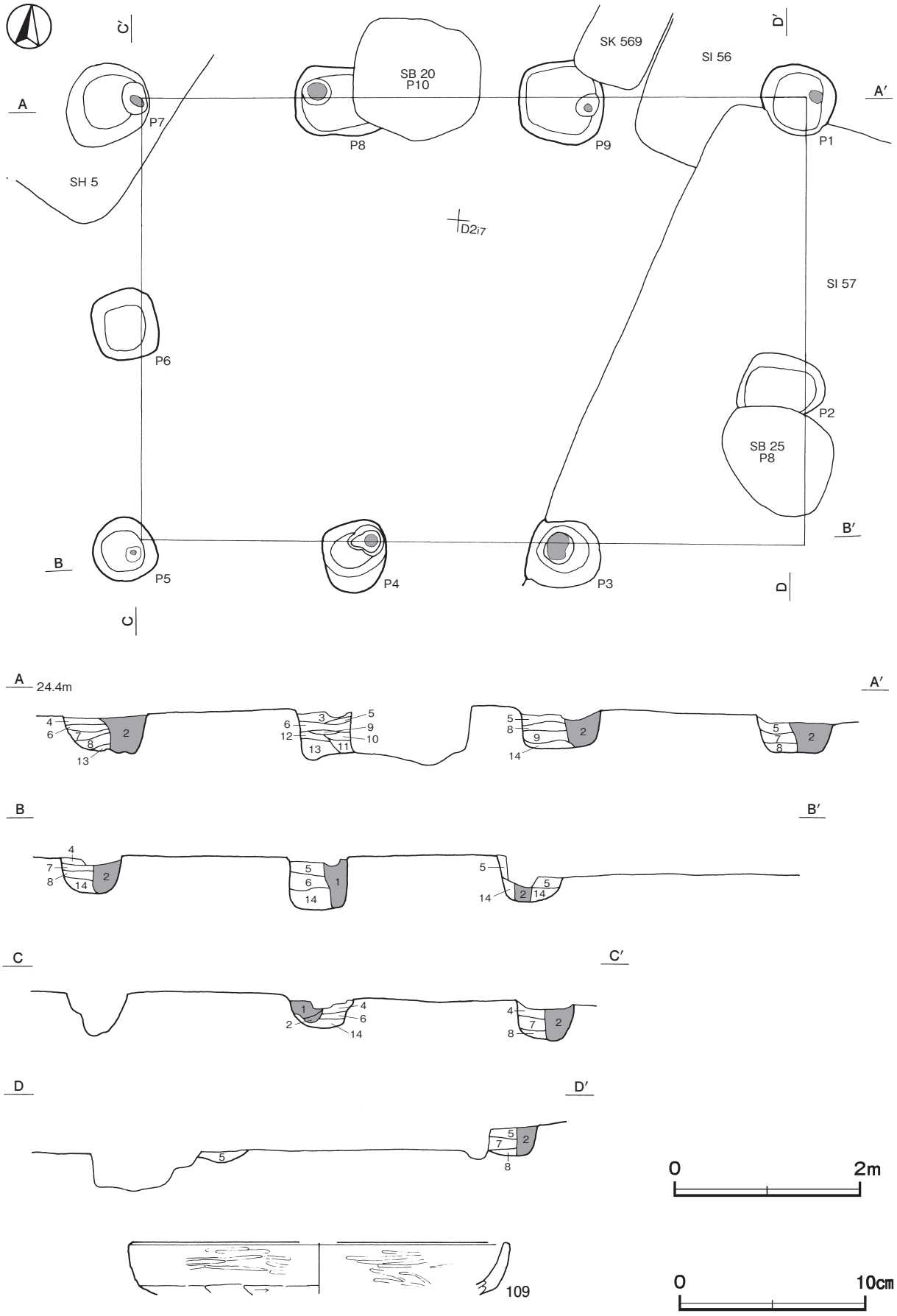
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備　考
107	須恵器	蓋	［14.0］	（1.2）	－	石英・雲母	灰黄	良好	天井部回転ヘラ削り	Ｐ５	５％
108	土師器	甑	［27.0］	（5.5）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ	Ｐ３	５％

第26号掘立柱建物跡（第82図）

位置　調査区中央部のＤ２h5～Ｄ２i8区，標高24.1ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第56･57号住居，第20･25号掘立柱建物，第５号方形竪穴遺構，第569号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－85°－Ｗの東西棟である。規模は桁行7.24ｍ，梁行4.85ｍで，面積は35.11㎡である。柱間寸法は，南桁行と西梁行が2.42ｍ（８尺）で均等に配置されている。北桁行は西妻から1.82ｍ（６尺）・3.03ｍ（10尺），2.42ｍ（８尺）で，東梁行は第57号住居に掘り込まれているため遺存状態が悪かったが，北平から3.33ｍ（11尺）の位置に柱穴が１か所確認できた。柱筋はほぼ揃っている。



第 82 図　第 26 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴　９か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で，長軸 69 ～ 95cm，短軸 64 ～ 95cmである。深さは 30 ～ 62cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１・２層は柱痕跡，第３～ 14 層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
9　黒　褐　色　炭化粒子中量
10　褐　　色　ロームブロック多量
11　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子中量
12　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック微量
13　暗　褐　色　炭化粒子多量
14　褐　　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師器片 10 点（坏２，甕８）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢），古墳時代の土師器片３点（坏２，甕１）も出土している。109 はＰ１の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀前半と考えられる。

第 26 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 82 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
109	土師器	坏	［20.0］	（2.8）	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ後，横位のヘラ磨き	Ｐ１	５％

第 27 号掘立柱建物跡（第 83 図）

位置　調査区中央部のＤ２i3 ～Ｄ２j5 区，標高 24.1 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 61 号住居，第 33 号掘立柱建物，第５号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と構造　桁行５間，梁行３間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 87°－Ｅの東西棟である。規模は桁行 9.09 m，梁行 4.85 mで，面積は 44.09㎡である。柱間寸法は，桁行が 1.82 m（６尺）で均等に配置されており，梁行は北平から 1.82 m（６尺），1.21 m（４尺），1.82 m（６尺）に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

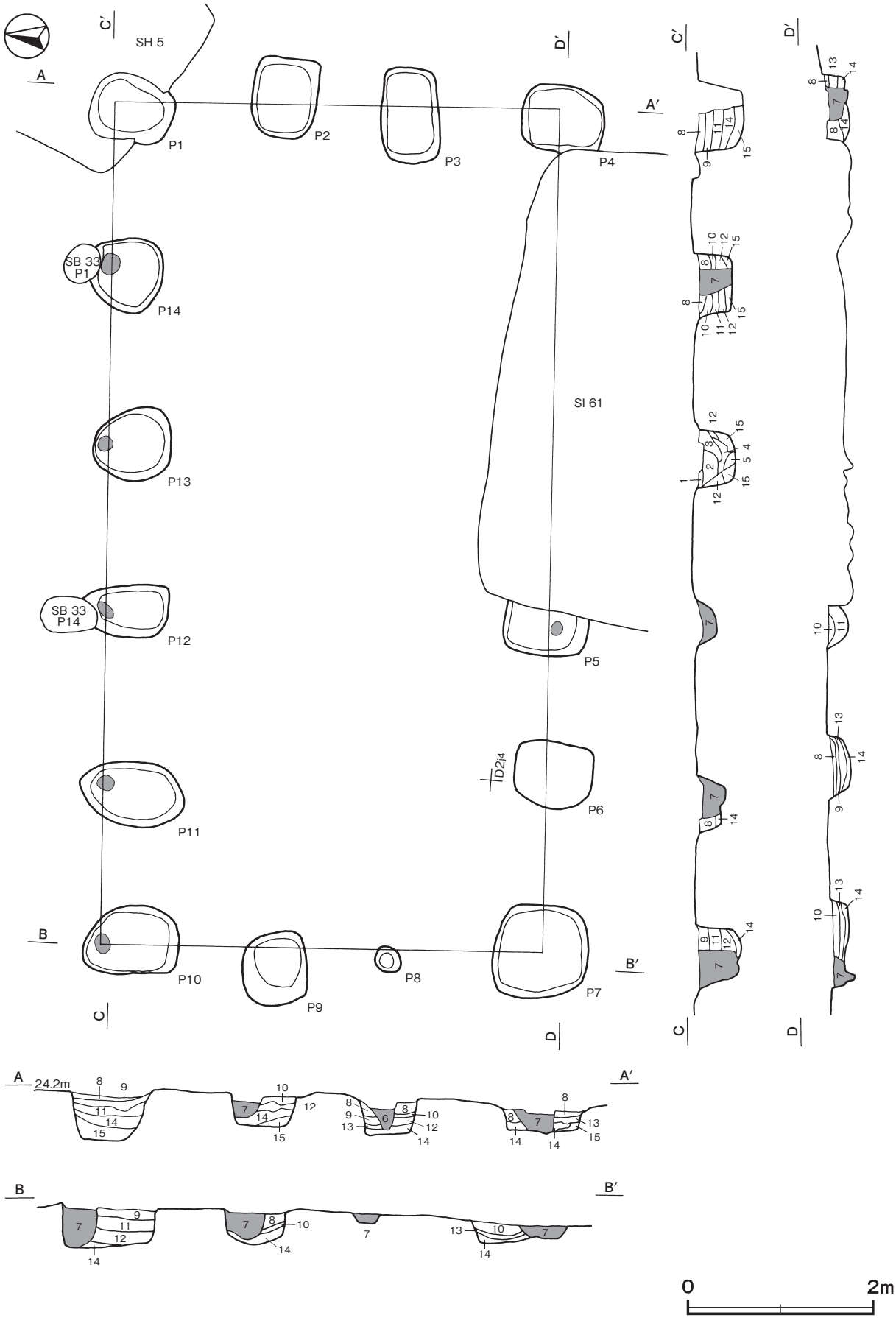
柱穴　14 か所。平面形は隅丸長方形または楕円形で，長軸・径 80 ～ 114cm，短軸・径 59 ～ 102cmである。深さは 18 ～ 43cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１～５層は柱の抜き取り痕，第６・７層は柱痕跡，第８～ 15 層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　砂質粘土ブロック微量
7　黒　褐　色　ローム粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量
9　黒　褐　色　ロームブロック多量
10　黒　　色　ローム粒子少量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量
12　暗　褐　色　ローム粒子中量
13　暗　褐　色　ローム粒子少量
14　暗　褐　色　ロームブロック多量
15　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 14 点（坏２，甕 12）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片４点（深鉢），古墳時代の土師器片１点（壺）も出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器甕の口縁部片は端部をつまみ上げた「常総型甕」の特徴がみられる。

所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀前半と考えられる。

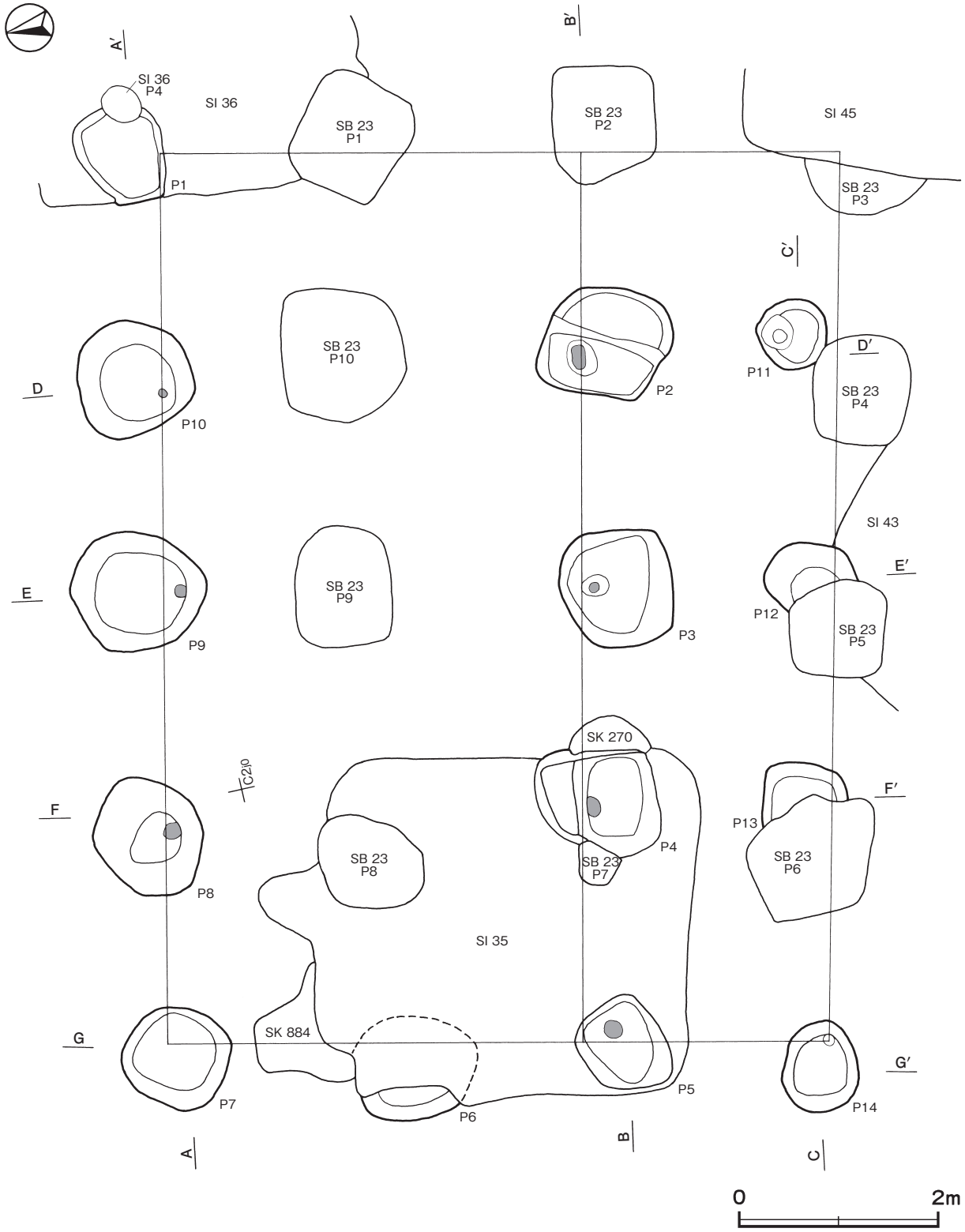


第 83 図　第 27 号掘立柱建物跡実測図

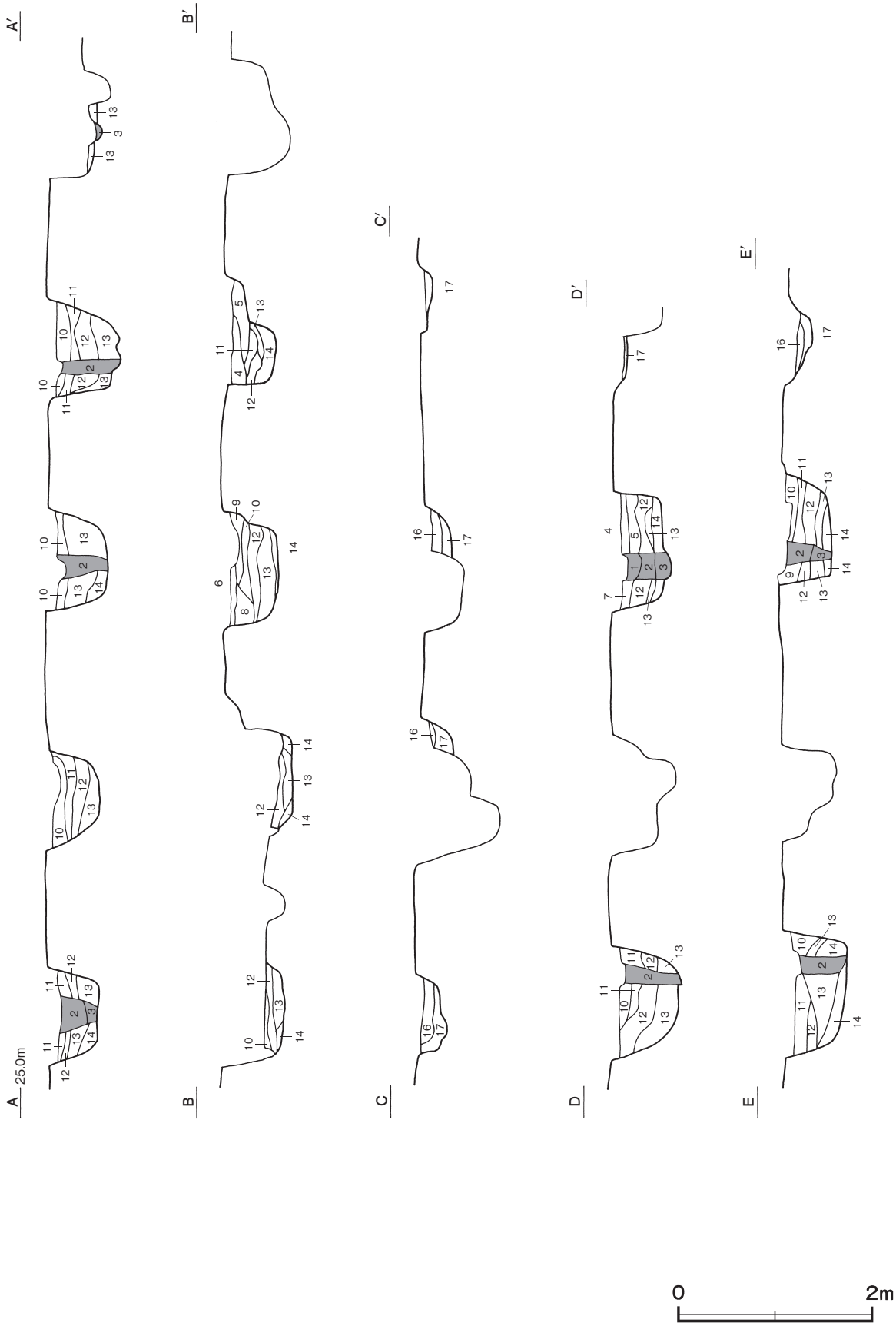
第 29 号掘立柱建物跡（第 84 ～ 86 図）

位置　調査区中央部のＣ２i9 ～Ｄ３a1 区，標高 24.8 mの平坦な台地上に位置している。

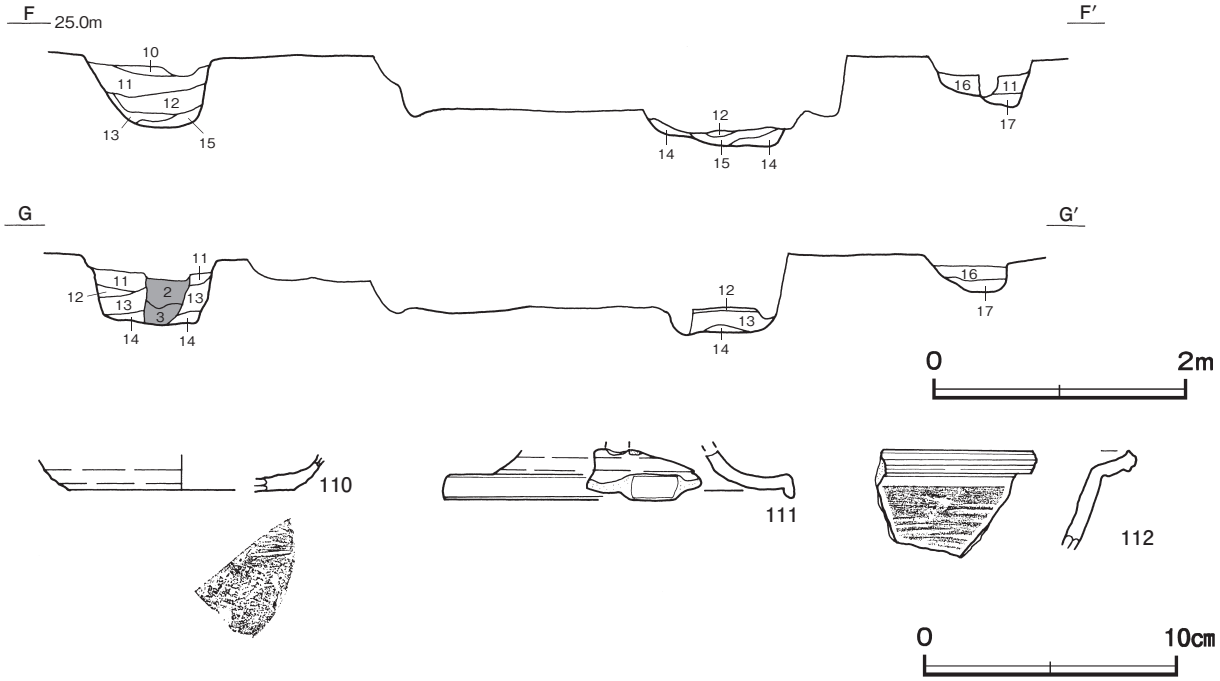
重複関係　第 43 号住居跡を掘り込み，第 35・36・45 号住居，第 23 号掘立柱建物，第 270・884 号土坑に掘り込まれている。



第 84 図　第 29 号掘立柱建物跡実測図（1）



第 85 図　第 29 号掘立柱建物跡実測図（2）



第 86 図　第 29 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造　桁行４間，梁行２間の身舎に南庇が付く側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 78°－Ｗの東西棟である。規模は身舎が桁行 9.09 m，梁行 4.54 mで，面積は 41.27㎡である。庇の出は 2.27 m（7.5 尺）で，庇を含めた梁行は 6.81 mで，面積は 61.9㎡である。柱間寸法は，桁行，梁行ともに 2.27 m（7.5 尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　14 か所。Ｐ１～Ｐ 10 は身舎の柱穴である。平面形は隅丸方形で，長軸 103 ～ 132㎝，短軸 95 ～ 115㎝である。深さは 54 ～ 70cm で，掘方の断面形は逆台形である。Ｐ 11 ～Ｐ 14 は庇の柱穴である。平面形は楕円形で，長径 68 ～ 95㎝，短径 68 ～ 78㎝である。深さは 13 ～ 38cm で，掘方の断面形は浅いＵ字状である。第１～３層は柱痕跡，第４～ 17 層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，砂質粘土ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
5　にぶい黄橙色　ロームブロック多量，砂質粘土ブロック少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　黄　褐　色　ロームブロック，黒色土ブロック多量
8　明　褐　色　ローム粒子多量
9　にぶい黄褐色　ローム粒子多量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量
11　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
12　黒　褐　色　ローム粒子中量
13　明　褐　色　ロームブロック多量
14　黒　褐　色　ロームブロック中量
15　黒　　色　ロームブロック多量
16　暗　褐　色　ローム粒子中量
17　褐　　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片 60 点（坏 12，甕 48），須恵器片 18 点（坏８，蓋３，盤１，高盤１，鉢１，甕４），鉄滓１点（11.2g）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺），古墳時代の土師器片１点（甕）も出土している。110 はＰ３，111 はＰ２，112 はＰ 14 の埋土から出土している。

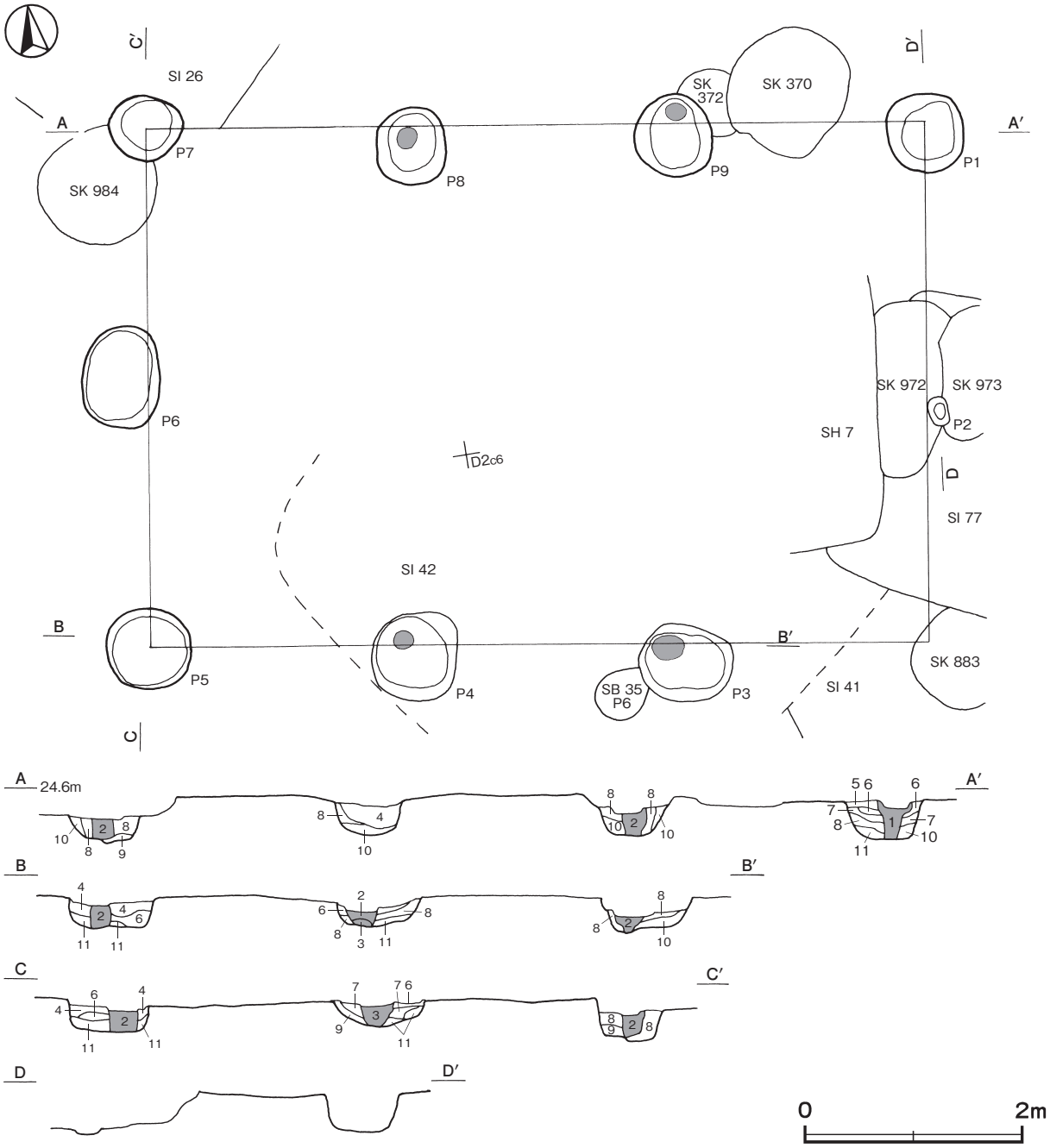
所見　時期は，出土土器や重複関係から８世紀前葉と考えられる。

第 29 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 86 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
110	須恵器	坏	－	(1.4)	[8.8]	長石・石英・雲母	灰褐	良好	底部不定方向のヘラ削り	P 3	5 %
111	須恵器	高盤	－	(1.9)	[13.8]	長石・石英・雲母	灰	良好	方形透孔	P 2	5 %
112	須恵器	鉢	－	(4.0)	－	石英・雲母	灰	良好	体部外面横位の平行叩き	P 14	5 %

第 30 号掘立柱建物跡（第 87・88 図）

位置　調査区中央部のＤ２b5 ～Ｄ２c7 区，標高 24.5 mの平坦な台地上に位置している。



第 87 図　第 30 号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第26・41号住居跡，第35号掘立柱建物跡を掘り込み，第42・77号住居，第7号方形竪穴遺構，第372・883・972・973・984号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N－82°－Wの東西棟である。規模は桁行7.27 m，梁行4.85 mで，面積は35.26㎡である。柱間寸法は，桁行，梁行ともに2.42 m（8尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

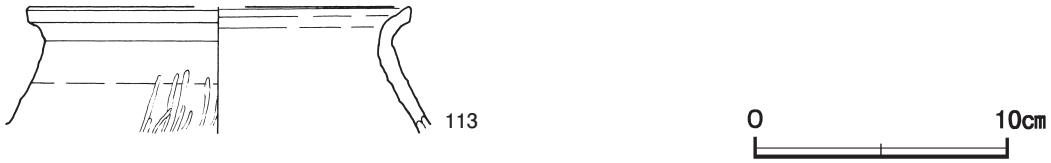
柱穴　9か所。平面形は円形または楕円形で，長径72～92㎝，短径58～85㎝である。深さは26～40cmで，掘方の断面形は逆台形である。第1～3層は柱痕跡，第4～11層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量
9　黒　褐　色　ローム粒子多量
10　暗　褐　色　ロームブロック多量
11　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片16点（坏1，甕15），須恵器片12点（坏8，瓶1，甕3）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片1点（深鉢）も出土している。113はP9の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から8世紀後半と考えられる。



第88図　第30号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第30号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
113	土師器	甕	［15.1］	（5.0）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部ヘラ磨き	P9	5％

第32号掘立柱建物跡（第89図）

位置　調査区中央部のD1a0～D2b1区，標高24.4 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3・14号掘立柱建物，第11号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と構造　桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N－12°－Eの南北棟である。規模は桁行4.55 m，梁行3.64 mで，面積は16.56㎡である。柱間寸法は，桁行が1.52 m（5尺），梁行が1.82 m（6尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

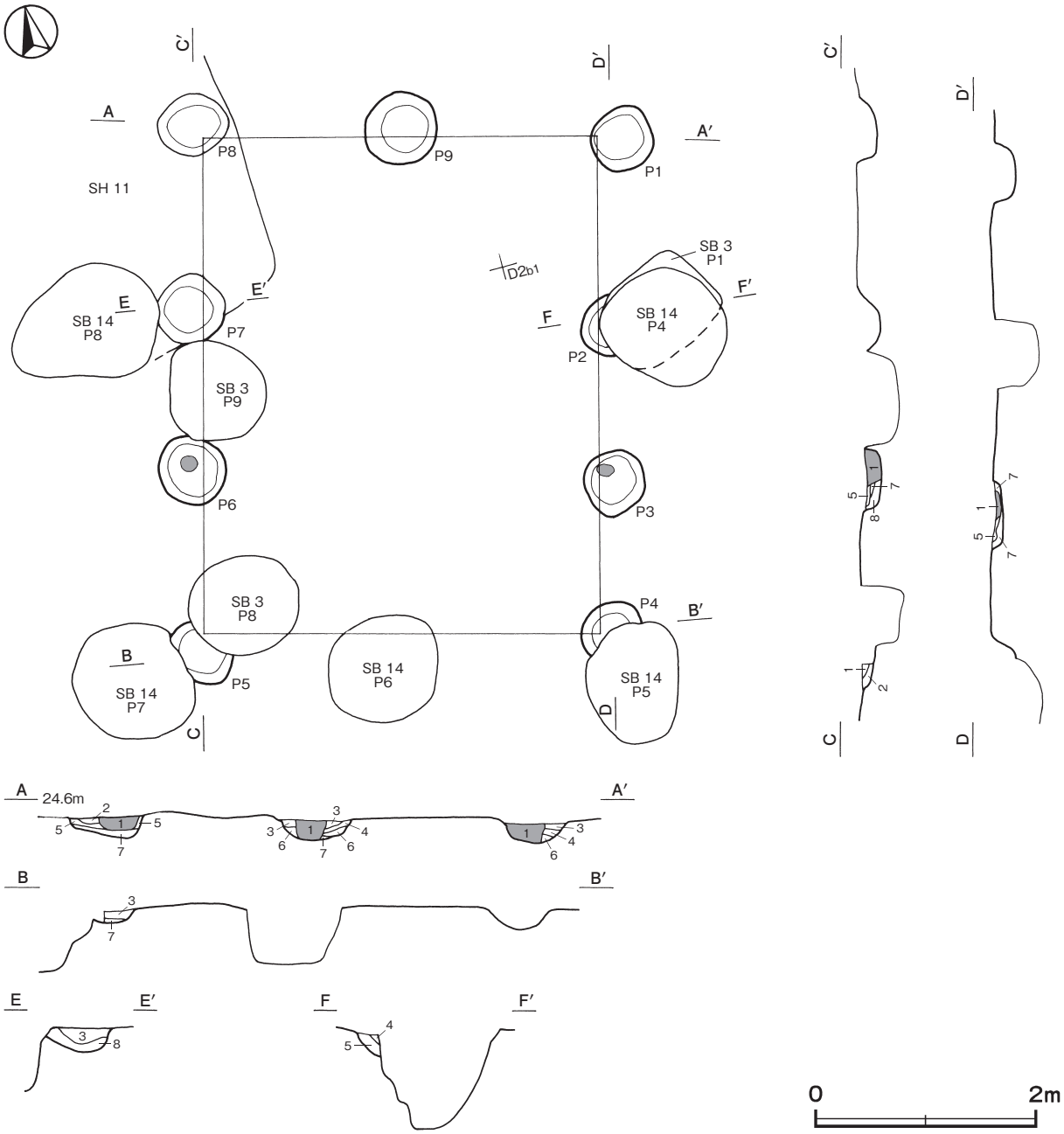
柱穴　9か所。平面形は円形で，長径59～65㎝，短径55～65㎝である。深さは10～20cmで，掘方の断面形は浅いU字状である。第1層は柱痕跡，第2～8層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　黒　　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片2点（甕）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，重複関係から8世紀前葉と考えられる。



第 89 図　第 32 号掘立柱建物跡実測図

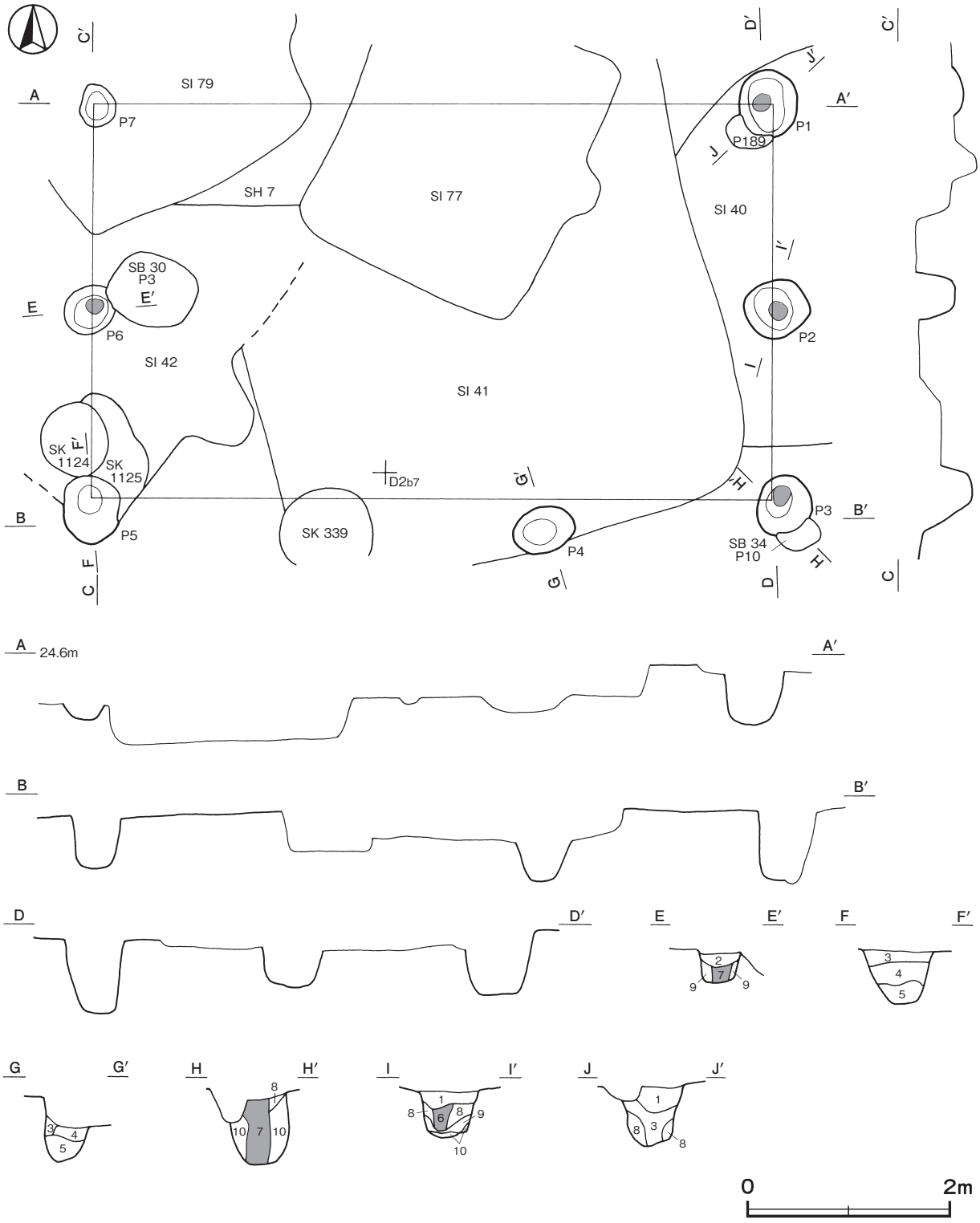
第 35 号掘立柱建物跡（第 90 図）

位置　調査区中央部のＤ２c6 ～Ｄ２b8 区，標高 24.5 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 40・41 号住居跡を掘り込み，第 42・77・79 号住居，第 30・34 号掘立柱建物，第７号方形竪穴遺構，第 1124・1125 号土坑，第 189 号ピットに掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 89°－Ｅの東西棟である。規模は桁行 6.82 m，梁行 3.94 mで，面積は 26.87㎡である。柱間寸法は，桁行が 2.27 m（7.5 尺），梁行が 1.97 m（6.5 尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　7か所。平面形は円形または楕円形で，長径53～68㎝，短径42～59㎝である。深さは36～74cmで，掘方の断面形は長方形または逆台形である。第1～5層は柱の抜き取り痕，第6・7層は柱痕跡，第8～10層は掘方への埋土である。



第90図　第35号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

1　灰黄褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，砂微量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
10　黒　　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片30点（坏６，甕24），須恵器片４点（坏２，蓋１，甕１），種子１点（桃）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片２点（深鉢），弥生土器片３点（広口壺），古墳時代の土師器片１点（壺）も出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，重複関係から８世紀前半と考えられる。

表７　奈良時代　掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁（間）	規模 桁×梁（m）	面積（㎡）	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
						桁間（m）	梁間（m）	構造	柱穴数	平面形	深さ（cm）			
1	C2g2～C2h3	N－15°－E	2×2	4.24×4.24	17.98	1.82～2.42	2.12	側柱	8	不整楕円形	11～50	土師器片，須恵器片	8世紀後葉	SB 2→本跡→SB16
2	C2g2～C2h3	N－17°－E	2×2	4.84×4.24	20.52	2.42	2.12	側柱	8	楕円形	20～56	土師器片，須恵器片，鏃	8世紀中葉	P19→本跡→SB 1・16
4	D1d9～D2f1	N－5°－E	3×2	7.27×4.85	35.26	2.42	2.42	側柱	10	楕円形	54～90	土師器片，須恵器片	8世紀後葉	本跡→SB 6
9	F1d8～F1f9	N－77°－W	3×2	6.36×4.24	26.97	2.12	2.12	側柱	9	隅丸方形 隅丸長方形	16～64	土師器片，須恵器片，瓦	8世紀後葉	本跡→SB 8,SD13
10	F1e0～F2f1	N－82°－W	2×2	4.85×4.24	20.56	2.42	2.12	側柱	8	楕円形 隅丸長方形	37～63	土師器片，須恵器片，瓦	8世紀中葉	本跡→SD12・14
18	D2b1～D2d2	N－12°－E	3×2	6.36×4.24	26.96	1.66～2.57	2.12	側柱	10	隅丸方形 隅丸長方形	37～66	土師器片，須恵器片	8世紀中葉	本跡→SI67,SB 3，SK738
22	D3a2～D3d2	N－18°－E	5×（1）	10.61×(2.42)	(25.67)	2.12	2.42	側柱	(8)	隅丸長方形	32～66	土師器片，須恵器片	8世紀代	本跡→SI46・47,SK241
26	D2h5～D2i8	N－80°－E	3×2	7.24×4.85	31.11	1.82～3.03	3.33	側柱	9	隅丸方形 隅丸長方形	30～62	土師器片	8世紀前半	本跡→SI56・57,SB20・25,SH 5,SK569
27	D2i3～D2j5	N－87°－E	5×3	9.09×4.85	44.09	1.82	1.21～1.82	側柱	14	隅丸長方形 楕円形	18～43	土師器片	8世紀前半	本跡→SI61,SB33，SH 5
29	C2f9～D3a1	N－78°－W	4×2	9.09×6.81	61.90	2.27	2.27	庇付	14	隅丸方形 楕円形	54～70 13～38	土師器片，須恵器片，鉄滓	8世紀前葉	SI43→本跡→SI35・36・45，SB23他
30	D2b5～D2c7	N－82°－W	3×2	7.27×4.85	35.26	2.42	2.42	側柱	9	円形 楕円形	26～40	土師器片，須恵器片	8世紀後半	SI26・41,SB35→本跡→SI42・77，SH 7他
32	D1a0～D2b1	N－12°－E	3×2	4.55×3.64	16.56	1.52	1.82	側柱	9	円形	10～20	土師器片	8世紀前葉	本跡→SB 3・14，SH11
35	D2c6～D2d8	N－89°－E	3×2	6.82×3.94	26.87	2.27	1.97	側柱	7	円形 楕円形	36～74	土師器片，須恵器片，種子	8世紀前半	SI40・41→本跡→SI42・77・79，SB30・34，SH 7他

4　平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴住居跡24軒，掘立柱建物跡16棟，方形竪穴遺構11基，大形円形土坑１基，円筒形土坑12基，土坑11基，ピット２基が確認できた。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

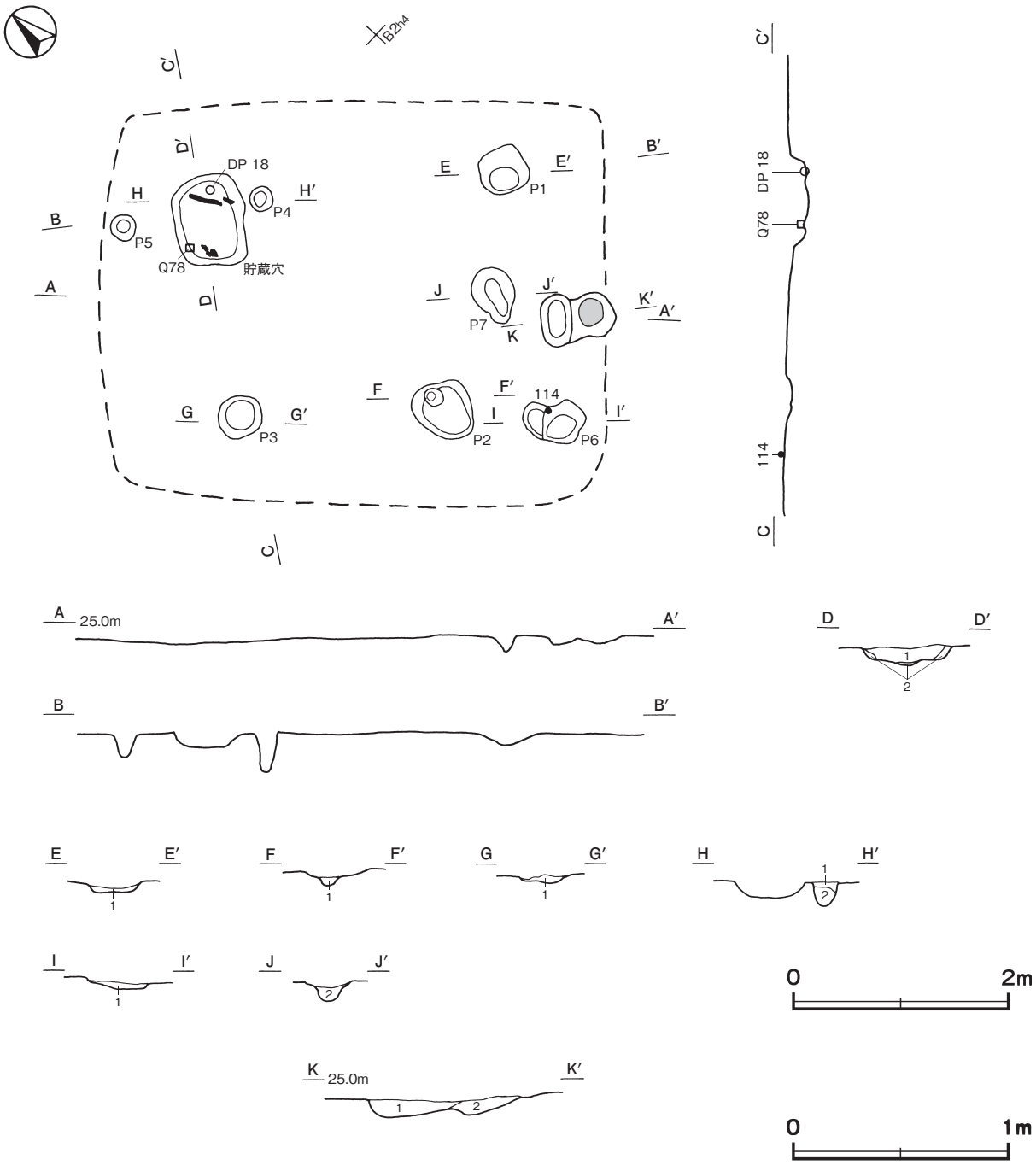
第12号住居跡（第91・92図）

位置　調査区北部のＢ２h3区，標高24.9ｍの平坦な台地上に位置している。

確認状況　削平を受けていたため，竈の火床部とピット，貯蔵穴が露出した状態で確認した。

規模と形状　竈の火床部やピット，貯蔵穴の配置から長軸4.7ｍ，短軸3.7ｍの長方形と推定でき，主軸方向はＮ－138°－Ｅである。

床　削平されていたため，硬化面は確認できなかった。



第 91 図　第 12 号住居跡実測図

竈　南東壁中央部に付設されている。火床部は床面から８㎝くぼんでおり，火床面は赤変硬化している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量

2　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック少量

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ６～24cm で，主柱穴である。Ｐ５は深さ 23㎝で，北西壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７は深さ 12・17㎝で，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

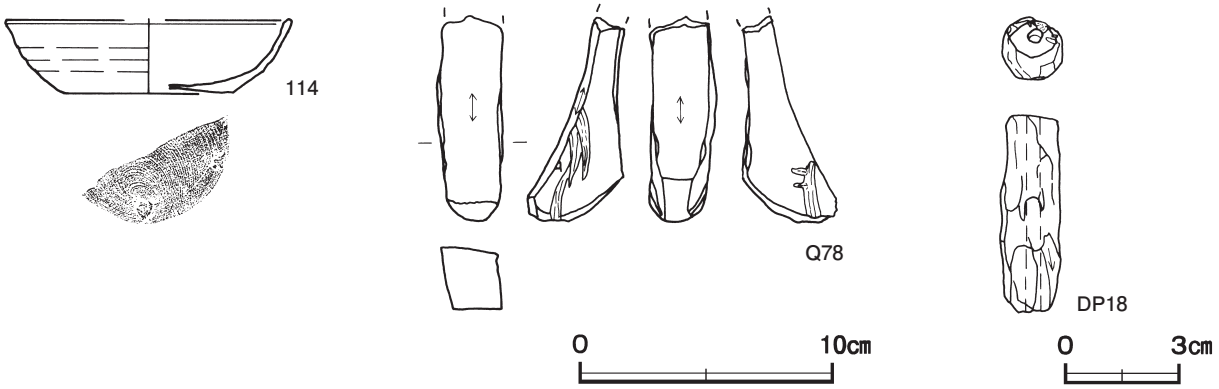
2　黒　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

貯蔵穴　北コーナー部に位置している。長軸 86cm，短軸 68cmの隅丸長方形である。深さは 17cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土上層から炭化材が３点出土しており，長さ 10 ～ 32cm，径４cmほどで，形状は棒状である。坑内で火を用いた痕跡は認められない。

貯蔵穴土層解説
１　黒　褐　色　炭化材中量，焼土ブロック・ローム粒子少量　　２　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 17 点（坏４，甕 13），土製品１点（管状土錘），石製品１点（砥石）が出土している。また，混入した須恵器片１点（甕）も出土している。114 はＰ６の覆土上層，DP18・Ｑ 78 は貯蔵穴の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀後葉に比定できる。貯蔵穴の覆土上層から炭化材が出土していることから，焼失住居の可能性がある。



第 92 図　第 12 号住居跡実測図出土遺物

第 12 号住居跡出土遺物観察表（第 92 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
114	土師器	坏	［11.2］	3.0	［6.6］	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	Ｐ６	30%

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP18	管状土錘	5.3	1.6	0.4	(12.3)	長石・石英・赤色粒子	外面・孔端部ヘラ削り	貯蔵穴下層	PL52

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Ｑ 78	砥石	(8.1)	3.8	2.6	(69.7)	凝灰岩	砥面２面　側面荒研ぎ痕	貯蔵穴下層	PL55

第 13 号住居跡（第 93・94 図）

位置　調査区北部のＣ１a0 区，標高 25.0 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　西側が調査区域外へ延びているため，北東・南西軸は 2.96 m，北西・南東軸は 2.07 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向はＮ－ 124°－Ｅである。壁高は 15 ～ 20cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈　南東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 113cm で，燃焼部幅は 48cm である。袖部は深さ 13cmの皿状に掘りくぼめた部分に暗褐色土の第９・10 層を埋土して，褐灰色砂質粘土を主体とした第７・８層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は赤変，硬化ともに弱い。煙道部は壁外に 66cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰黄褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・砂微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
5　黒　褐　色　焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量
6　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
7　褐　灰　色　砂質粘土ブロック多量
8　褐　　色　ロームブロック多量
9　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子・砂少量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量

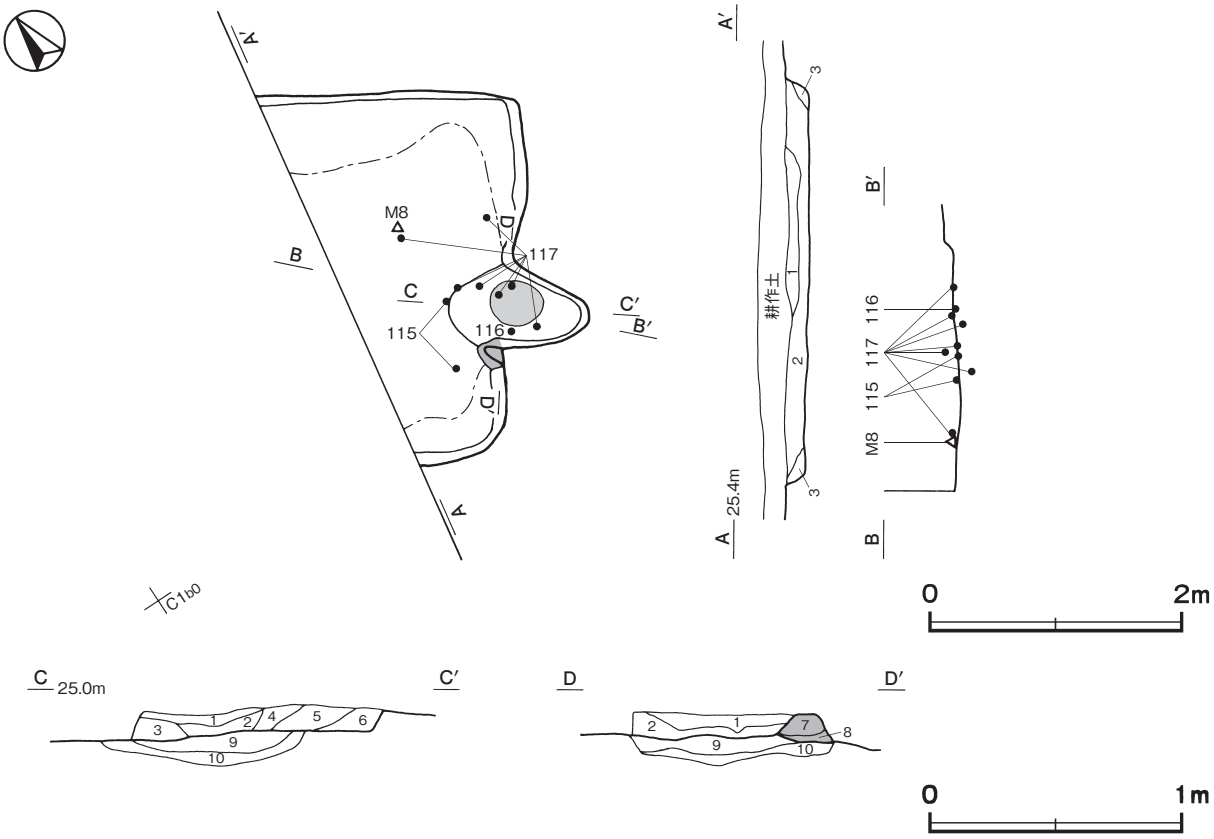
覆土　３層に分層できる。均質な黒色土や黒褐色土が堆積していることから自然堆積である。

土層解説

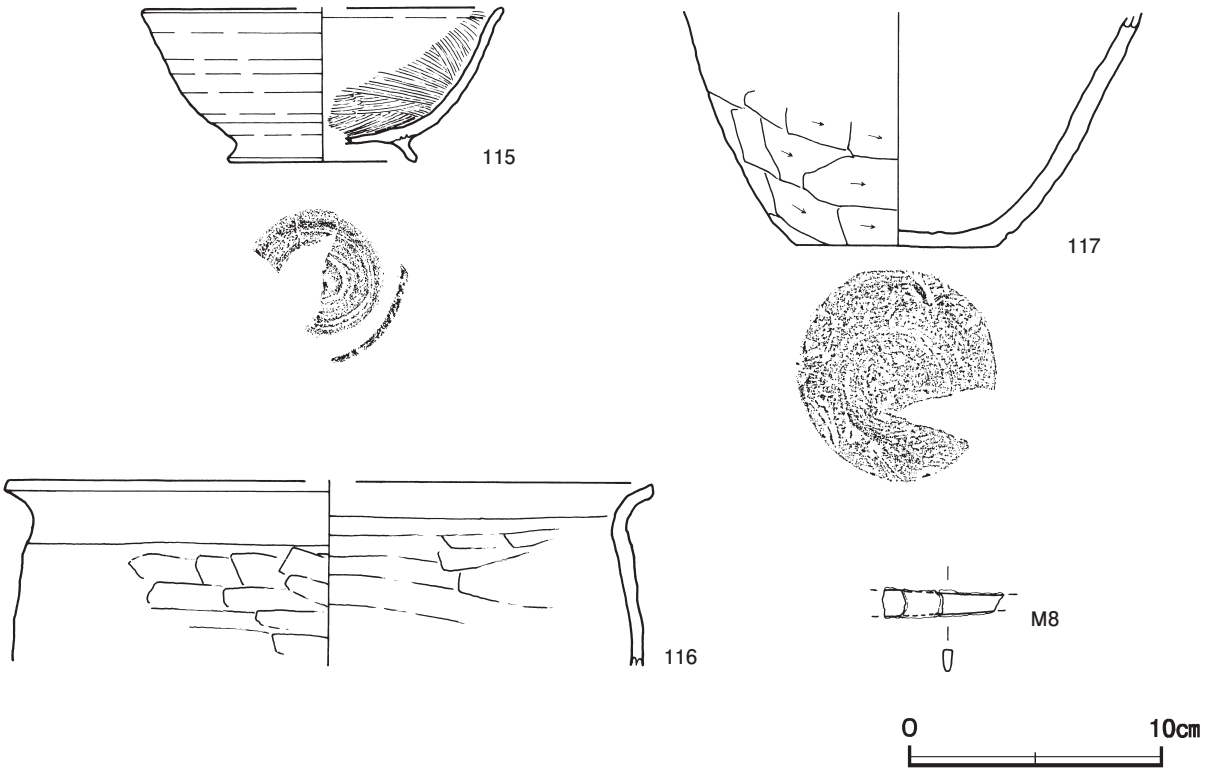
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 49 点（坏 16，高台付椀９，甕 24），土製品１点（支脚），鉄製品１点（刀子），粘土塊２点が出土している。また，流れ込んだ弥生土器片２点（広口壺），須恵器片 12 点（坏７，甕５）も出土している。116 は竈の覆土下層，117 は竈の覆土中層から竈前面の覆土下層にかけて散在した状態で，115 は竈周辺，Ｍ８は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。



第 93 図　第 13 号住居跡実測図



第 94 図　第 13 号住居跡出土遺物実測図

第 13 号住居跡出土遺物観察表（第 94 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
115	土師器	高台付椀	［14.2］	6.1	［7.2］	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り	下層	40%
116	土師器	甕	［25.5］	(7.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外・内面ヘラナデ	竈下層	10%
117	土師器	甕	－	(9.3)	7.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下位ヘラ削り	竈中層・下層	20%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M８	刀子	(4.8)	1.1	0.4	(4.9)	鉄	基部片　断面方形	下層	

第 19 号住居跡（第 95・96 図）

位置　調査区中央部のＣ１g0 区，標高 24.8 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 10 号方形竪穴遺構，第 887 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 4.38 ｍ，短軸 3.30 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 30°－Ｅである。壁高は 10 ～ 13cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。南コーナー部に長さ 138cm，幅 62cm，高さ 11cmで，三日月形の高まりがある。高まりは，粘土やロームのブロックを多量に含む黒褐色土と暗褐色土を積み上げて構築されている。出入口施設に関連する可能性があるが，ピットが確認できなかったため性格は不明である。

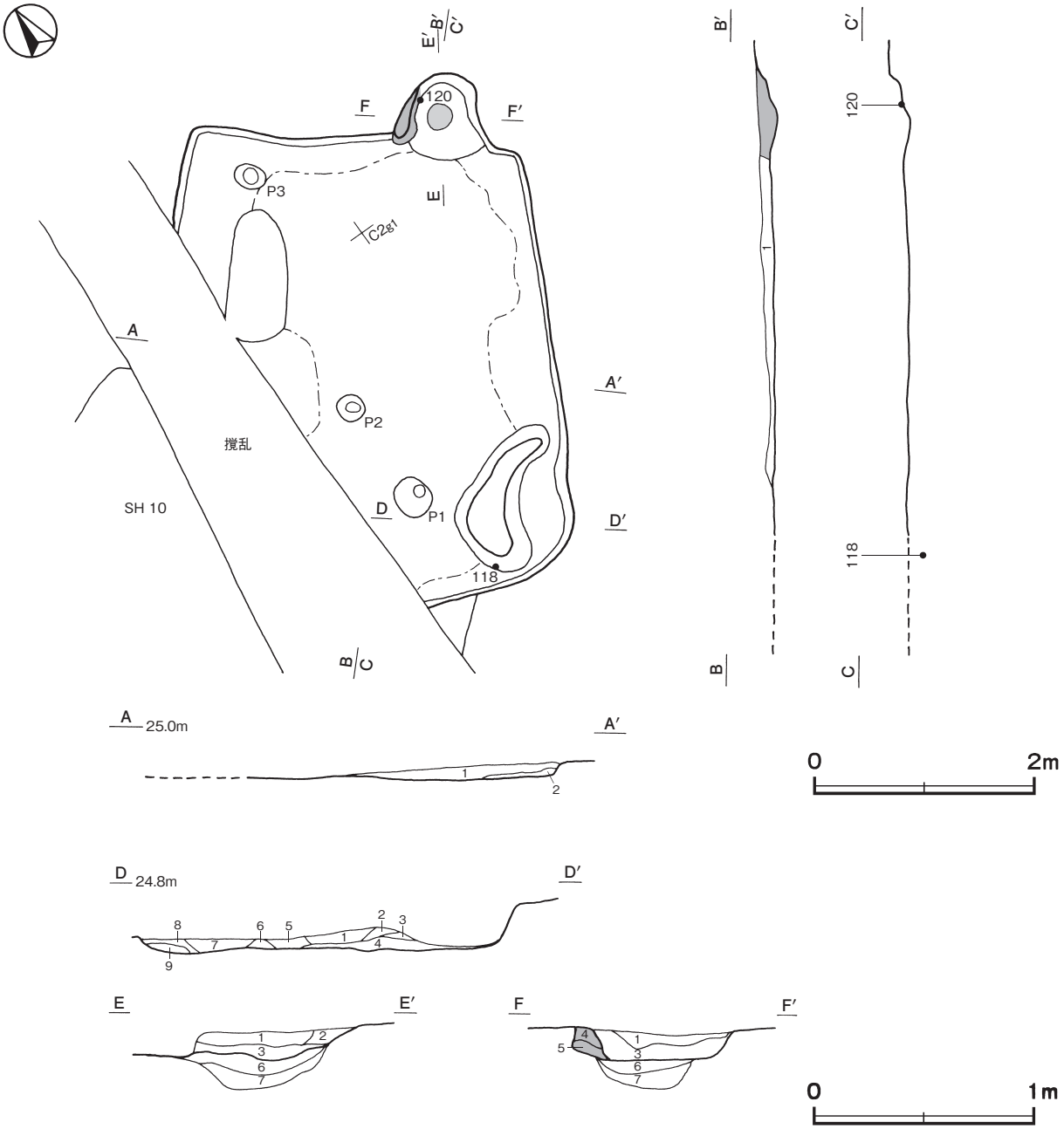
高まり土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量
3　黒　褐　色　粘土ブロック多量，ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量，粘土ブロック中量
5　黒　　色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子多量，粘土ブロック中量
7　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック多量，粘土ブロック少量
9　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子微量

竈　北東壁の東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで81cmで，燃焼部幅は62cmである。袖部は床面を深さ17cmの皿状に掘りくぼめて，焼土ブロックを多く含む暗赤褐色土と暗褐色土の第６・７層を埋土し，褐灰色砂質粘土を主体とした第４・５層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は赤変，硬化ともに弱い。煙道部は壁外に59cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰黄褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
4　褐　灰　色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子中量，ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量



第95図　第19号住居跡実測図

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 35 ～ 62cm で，性格不明である。

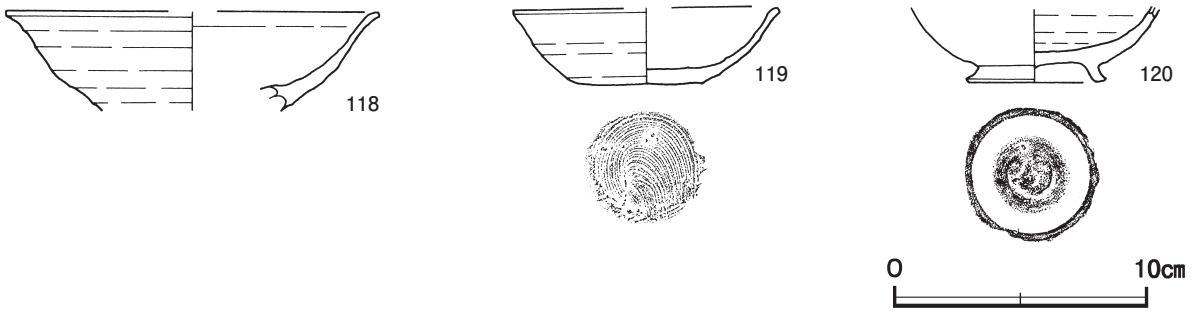
覆土　２層に分層できる。均質な黒褐色土が堆積していることから自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量　　2　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 52 点（坏 14，高台付椀２，甕 36）また，流れ込んだ縄文土器７点（深鉢），弥生土器片２点（広口壺），古墳時代の土師器片１点（壺），須恵器片５点（坏２，甕３），剥片２点（黒曜石）も出土している。118 は南コーナー部の高まりの構築土中，120 は竈の火床面から逆位の状態で，119 は北部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。



第 96 図　第 19 号住居跡出土遺物実測図

第 19 号住居跡出土遺物観察表（第 96 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
118	土師器	高台付椀	[14.8]	(3.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ	高まり構築土	20%
119	土師器	坏	[10.4]	3.0	4.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	30%
120	土師器	高台付椀	－	(2.9)	4.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後，高台貼付	竈火床面	20%

第 22 号住居跡（第 97 図）

位置　調査区中央部西端のＣ１i9 区，標高 24.7 ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　西側が調査区域外に延びているため，南北軸は 3.64 ｍで，東西軸は 1.05 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，南北軸方向はＮ－ 14°－Ｅである。壁高は 11 ～ 25cm で，直立している。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

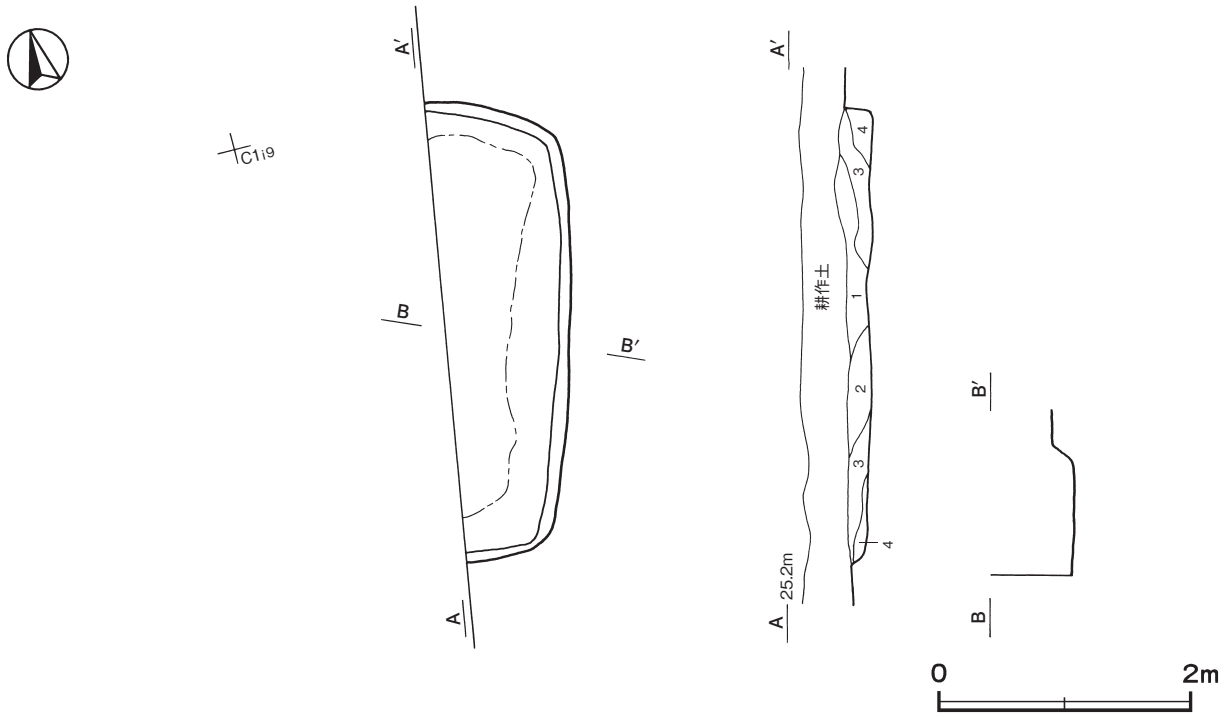
覆土　４層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子微量　　3　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量　　4　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 10 点（坏２，高台付皿５，甕類３）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片４点（深鉢），弥生土器片２点（広口壺）も出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器坏，高台付皿は内面に黒色処理が施されている。

所見　時期は，出土土器から９世紀後半と考えられる。



第 97 図　第 22 号住居跡実測図

第 35 号住居跡（第 98 ～ 100 図）

位置　調査区中央部のＣ２j9 区，標高 24.8 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 23・29 号掘立柱建物跡，第 270・884 号土坑，第 182・183 号ピットを掘り込んでいる。

規模と形状　一辺 3.57 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 12゜－Ｅである。壁高は 41 ～ 48cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 157cm で，燃焼部幅は 48cm である。袖部は地山を掘り残して基部とし，浅黄色砂質粘土を主体とした第 10・11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 63cm掘り込まれ，火床部から階段状に立ち上がっている。

竈土層解説

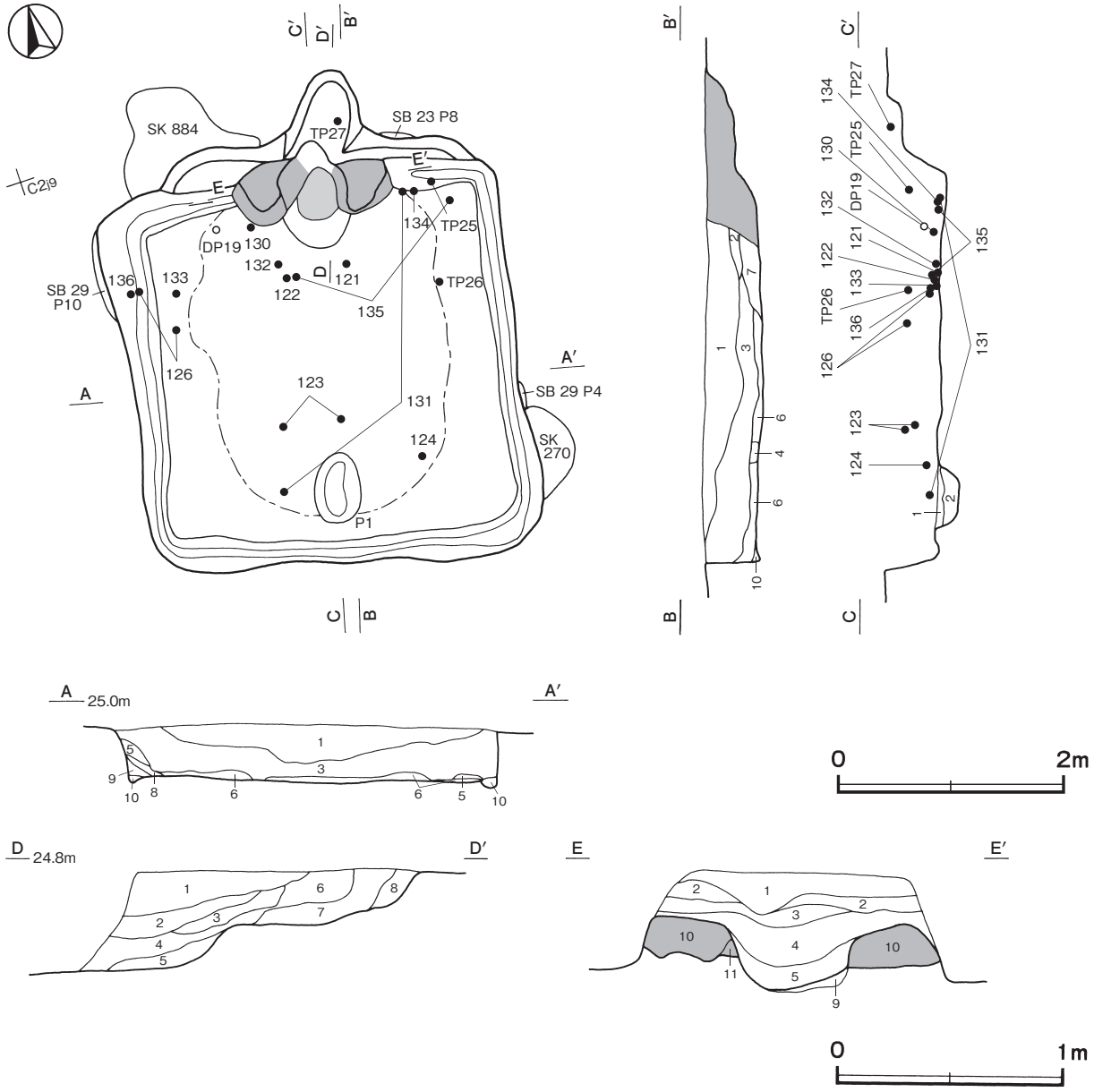
1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	
2	暗　褐　色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量	
3	黒　褐　色	炭化物中量，焼土ブロック・ローム粒子少量	
4	灰黄褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量	
5	黒　褐　色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	
6	暗　褐　色	焼土粒子中量	
7	暗赤褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子中量，砂質粘土ブロック少量	
8	にぶい黄褐色	炭化物・焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量	
9	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量	
10	浅　黄　色	砂質粘土ブロック多量，黒褐色土ブロック少量	
11	にぶい褐色	焼土ブロック中量	

棚状施設　竈の両側に設けられている。右側は幅 66cm，奥行 35cm，左側は幅 84cm，奥行 20cmで，床面からの高さはともに 23cmである。地山を掘り残して構築されている。

ピット　深さ 22cmで，位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	黒　褐　色	ローム粒子少量	
2	褐　　色	ロームブロック多量	



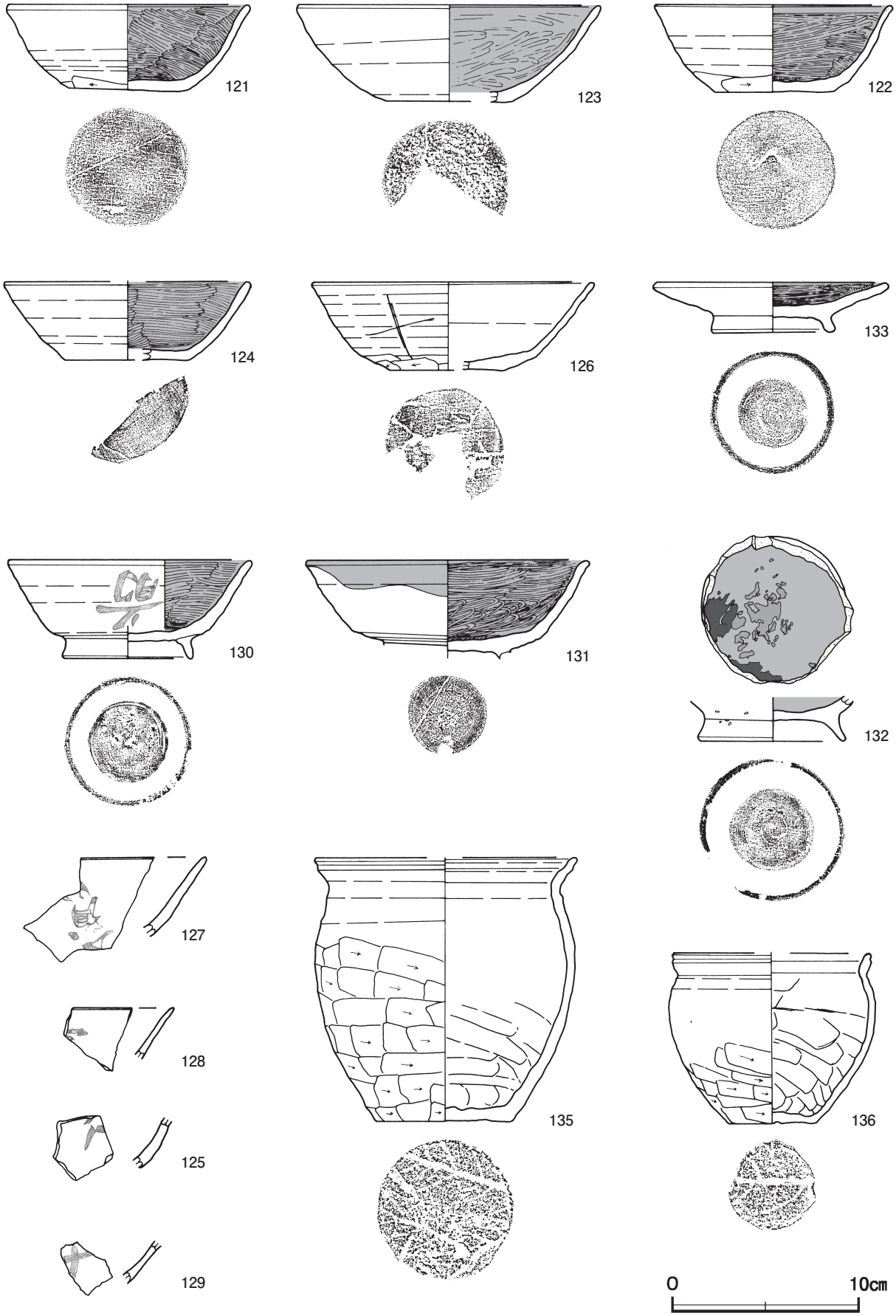
第 98 図　第 35 号住居跡実測図

覆土　10 層に分層できる。第 1 層は周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。第 2 ～ 10 層はロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

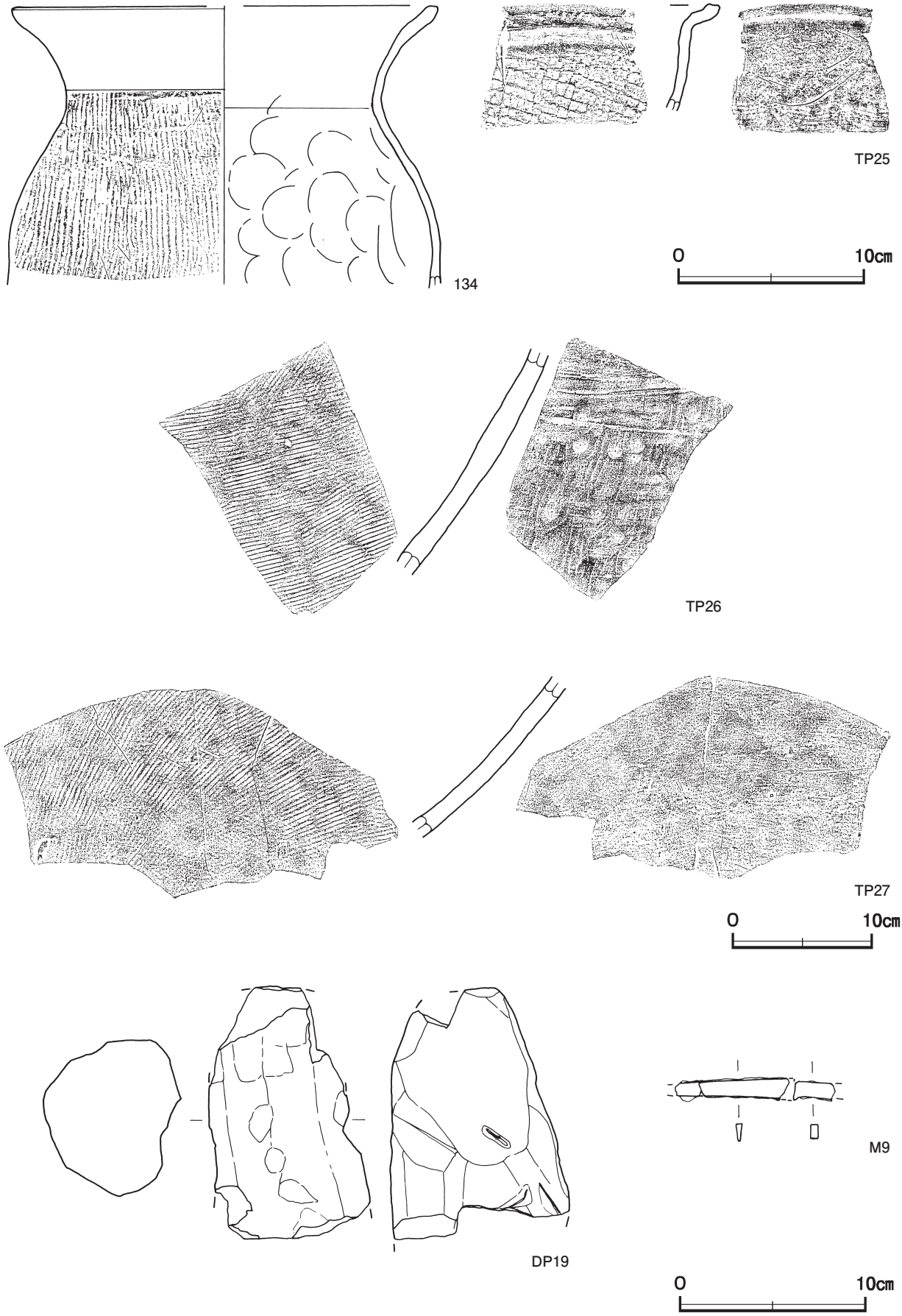
土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	
2	暗　褐　色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量	
3	灰　褐　色	ロームブロック中量，砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
4	明　褐　色	ロームブロック多量	
5	褐　　色	ロームブロック少量	
6	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	
7	灰 黄 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量	
8	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量	
9	暗　褐　色	ローム粒子少量	
10	暗　褐　色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量	

遺物出土状況　土師器片 353 点（坏 75，高台付椀 3，高台付皿 4，鉢 1，小形甕 3，甕 267），須恵器片 99 点（坏 45，蓋 4，鉢 1，瓶 1，甕 48），土製品 1 点（支脚），鉄製品 2 点（刀子），粘土塊 1 点，鉄滓 1 点（19.4g）が覆土下層を中心に散在した状態で出土している。また，流れ込んだ縄文土器片 3 点（深鉢），弥生土器片 2



第 99 図　第 35 号住居跡出土遺物実測図（1）



第 100 図　第 35 号住居跡出土遺物実測図（2）

点（広口壺），古墳時代の土師器片２点（器台，高坏）も出土している。121・130 は竈前面，133 は北西部の床面から，121・130 は正位，133 は逆位の状態でそれぞれ出土している。TP27 は竈の覆土上層，122・132・135 は北部，134 は北壁際，131 は北壁際と南部に破片が散在した状態で，129 は北西部，124・127 は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。125 は北東部，126・136 は北西壁際，DP19 は北西部の覆土中層，123 は中央部，TP25・TP26 は北東部の覆土上層，128・Ｍ９は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。

第 35 号住居跡出土遺物観察表（第 99・100 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
121	土師器	坏	13.0	4.7	6.2	長石・針状鉱物	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部不定方向のヘラ削り	床面	90%　PL40
122	土師器	坏	12.7	4.8	6.3	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 部不定方向のヘラ削り	下層	90%　PL40
123	土師器	坏	16.2	5.2	6.6	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部不定方向のヘラ削り	上層	60%　PL40
124	土師器	坏	[13.2]	4.2	[6.6]	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部不定方向のヘラ削り	下層	20%
125	土師器	坏	－	(2.7)	－	長石･石英･雲母･ 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部不定方向のヘラ削り　墨書「□」	中層	５%
126	須恵器	坏	15.0	4.8	6.1	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　刻書「十」	中層	60%　PL39
127	土師器	坏	－	(4.2)	－	長石	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「□有□」	下層	５%　PL51
128	土師器	坏	－	(2.8)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「□」	覆土中	５%
129	土師器	坏	－	(2.0)	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「十ヵ」	下層	５%
130	土師器	高台付椀	12.9	5.3	7.0	長石・雲母・ 針状鉱物	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「前」	床面	90% PL39・49
131	土師器	高台付椀	15.0	(5.4)	－	長石・石英・赤色 粒子・針状鉱物	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ削り後，高台貼付	下層	80%　PL39
132	土師器	高台付椀	－	(2.4)	7.6	長石･石英･雲母･ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ削り後，高台貼付 漆付着	下層	20%　PL39
133	土師器	高台付皿	12.6	2.7	6.6	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ削り後，高台貼付	床面	90%　PL39
134	須恵器	甕	[22.0]	(15.0)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面縦位の平行叩き　内面無文当て具痕	下層	20%
135	土師器	小形甕	[14.0]	14.2	7.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	下層	60%　PL39
136	土師器	小形甕	[10.6]	9.2	4.7	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中層	60%　PL39

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP25	須恵器	大甕	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部外面格子状叩き　内面同心円文当て具痕	上層	
TP26	須恵器	大甕	長石	黒褐色 にぶい黄橙	普通	体部外面横位の平行叩き　鉄釉　内面同心円文当て具痕 黄土釉	上層	
TP27	須恵器	大甕	長石・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面鉄釉　体部外面斜位の平行叩き　内面同心円文当て具痕，後ナデ	竈上層	

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP19	支脚	(4.0)	(9.5)	(13.6)	(734)	長石・石英・雲母	ヘラ削り	中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｍ９	刀子	(8.7)	1.3	0.5	(10.0)	鉄	刃部断面三角形　基部断面方形	覆土中	

第 37 号住居跡（第 101・102 図）

位置　調査区中央部東端のＣ３j3 区，標高 24.7 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 88 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　南北軸 2.68 ｍで，東側が調査区域外へ延びているため，東西軸は 1.83 ｍしか確認できなかった。

方形または長方形と推定でき，主軸方向はＮ－21°－Ｅである。壁高は５～10cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，竈前面から出入口施設付近にかけて踏み固められている。西・南壁下には壁溝が巡っている。

竈　北壁の調査区域際に焼土を含んだくぼみが確認でき，竈の痕跡と判断した。大半が調査区域外のため規模や袖部の状況は不明である。

ピット　３か所。Ｐ１は深さ13cmで，位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２・３は，深さ21・23cmで，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

１	黒　褐　色　ロームブロック少量	２	灰　褐　色　ロームブロック中量

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長径81cm，短径62cmの楕円形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土上層が踏み固められており，住居廃絶時には埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

１	黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	３	黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
２	にぶい褐色　ロームブロック多量	４	褐　　色　ローム粒子多量

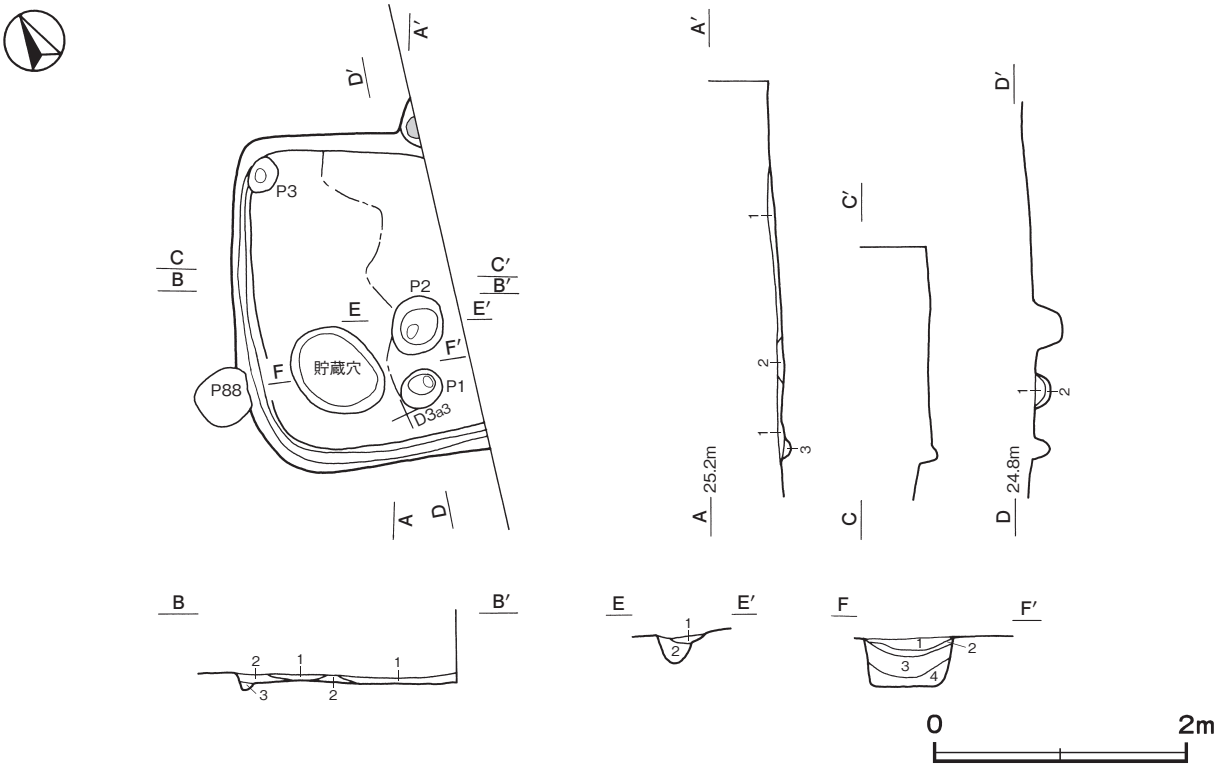
覆土　３層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

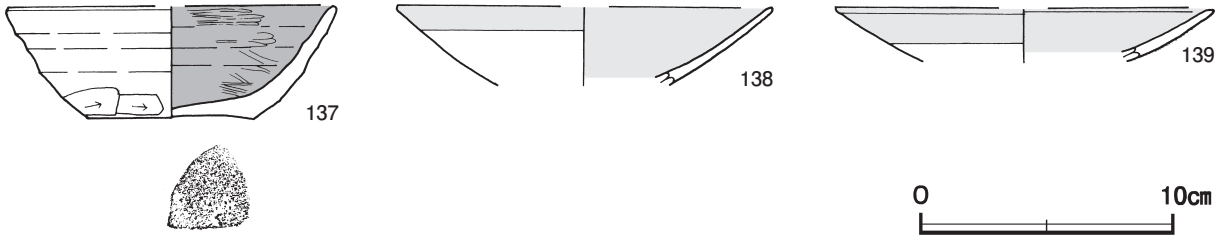
１	暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量	３	褐　　色　ロームブロック多量
２	褐　　色　ロームブロック中量		

遺物出土状況　土師器片39点（坏７，高台付椀４，甕28），須恵器片８点（坏２，蓋１，鉢１，甕４），灰釉陶器片２点（皿），鉄製品１点（釘）が出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢）も出土している。137は北西部の床面，138・139は貯蔵穴の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



第101図　第37号住居跡実測図



第 102 図　第 37 号住居跡出土遺物実測図

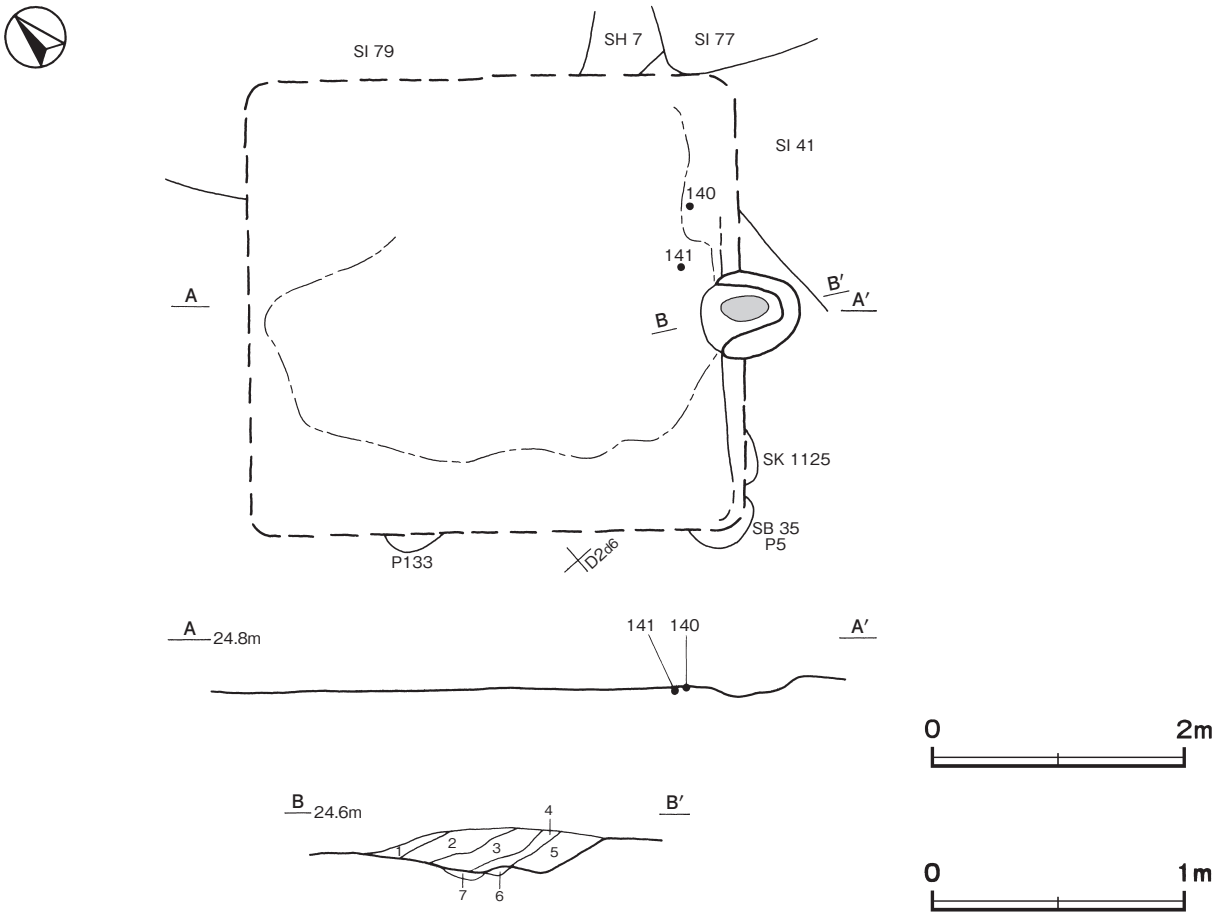
第 37 号住居跡出土遺物観察表（第 102 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
137	土師器	坏	[13.0]	4.4	6.4	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	床面	30%
138	灰釉陶器	Ⅲ	[14.8]	(3.1)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面上位・体部内面全面施釉	貯蔵穴	5％　PL57
139	灰釉陶器	Ⅲ	[14.8]	(2.1)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面上半・体部内面全面施釉	貯蔵穴	5％　PL57

第 42 号住居跡（第 103・104 図）

位置　調査区中央部のＤ２c6 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。

確認状況　削平を受けていたため，竈の火床部と床面が露出した状態で確認した。



第 103 図　第 42 号住居跡実測図

重複関係　第41・79号住居跡，第30・35号掘立柱建物跡，第7号方形竪穴遺構，第342・974・1013・1124・1125号土坑，第133・185号ピットを掘り込んでいる。

規模と形状　竈の火床部の位置や硬化面の広がりから，長軸3.90 m，短軸3.58 mの長方形と推定できる。主軸方向はN－132°－Eである。

床　ほぼ平坦で，竈の前面が踏み固められている。

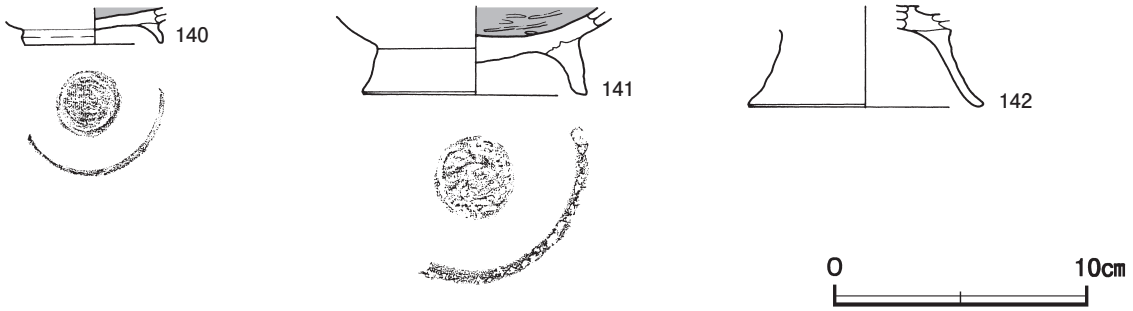
竈　南東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで78cmで，燃焼部幅は38cmである。火床部は床面から8㎝くぼんでおり，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に47㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
6　赤　褐　色　焼土粒子多量
7　暗　褐　色　炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片53点（坏9，高台付椀1，足高高台付椀2，甕41），粘土塊1点が出土している。また，流れ込んだ須恵器片2点（坏，甕）も出土している。140は東壁際，141は竈前面の床面，142は竈の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から10世紀後葉に比定できる。



第104図　第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表（第104図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
140	土師器	高台付椀	－	(1.4)	[5.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部ロクロナデ後，高台貼付	床面	5％
141	土師器	高台付椀	－	(3.5)	[9.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後，高台貼付	床面	10％
142	土師器	足高高台付椀	－	(4.0)	[9.2]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ	竈下層	5％

第45号住居跡（第105～106図）

位置　調査区中央部のD3b1区，標高24.7 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第7・23号掘立柱建物跡，第1131号土坑を掘り込み，第242・247号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.83 m，短軸3.42 mの方形で，主軸方向はN－110°－Eである。壁高は5～10cmで，外傾して立ち上がっている。

床　貼床で，北側が４㎝ほど高くなっており，中央部が踏み固められている。貼床は，南部を深く掘りくぼめて，ロームブロックを含んだ暗褐色土の第５層を埋土して構築されている。東壁を除く壁下には壁溝が巡っている。中央部と南・西壁際の床面には焼土が堆積している。

竈　東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 92cm で，燃焼部幅は 42cm である。袖部は地山を掘り残して基部とし，焼土ブロックやローム粒子を含んだ第７層で構築されている。火床部は床面から６㎝くぼんでおり，火床面の赤変硬化は弱い。煙道部は壁外に 47㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

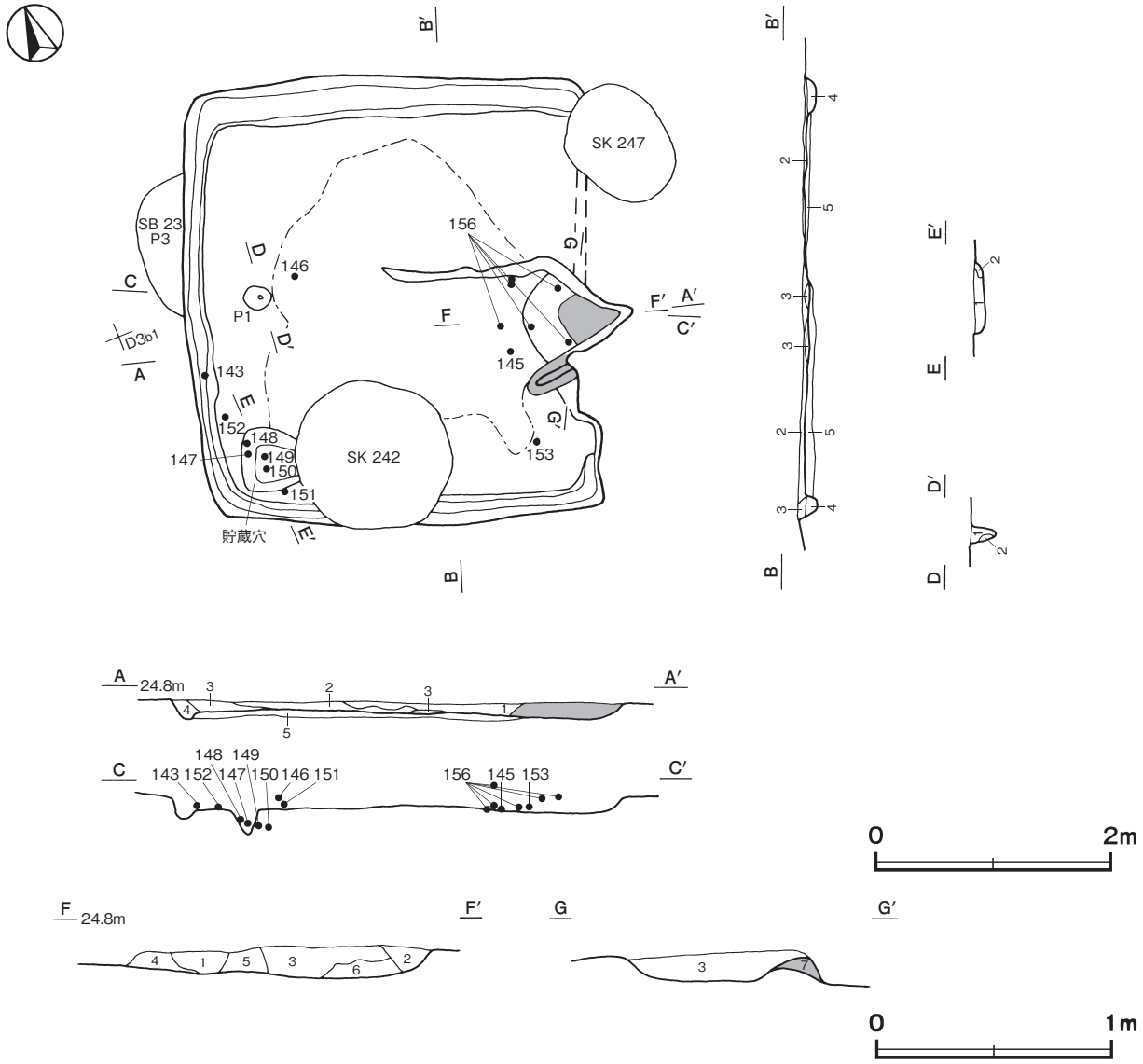
竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量
2　灰　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック・粘土ブロック少量
3　にぶい赤褐色　ロームブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック少量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子少量
5　明赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック多量
6　赤　褐　色　焼土ブロック多量
7　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量

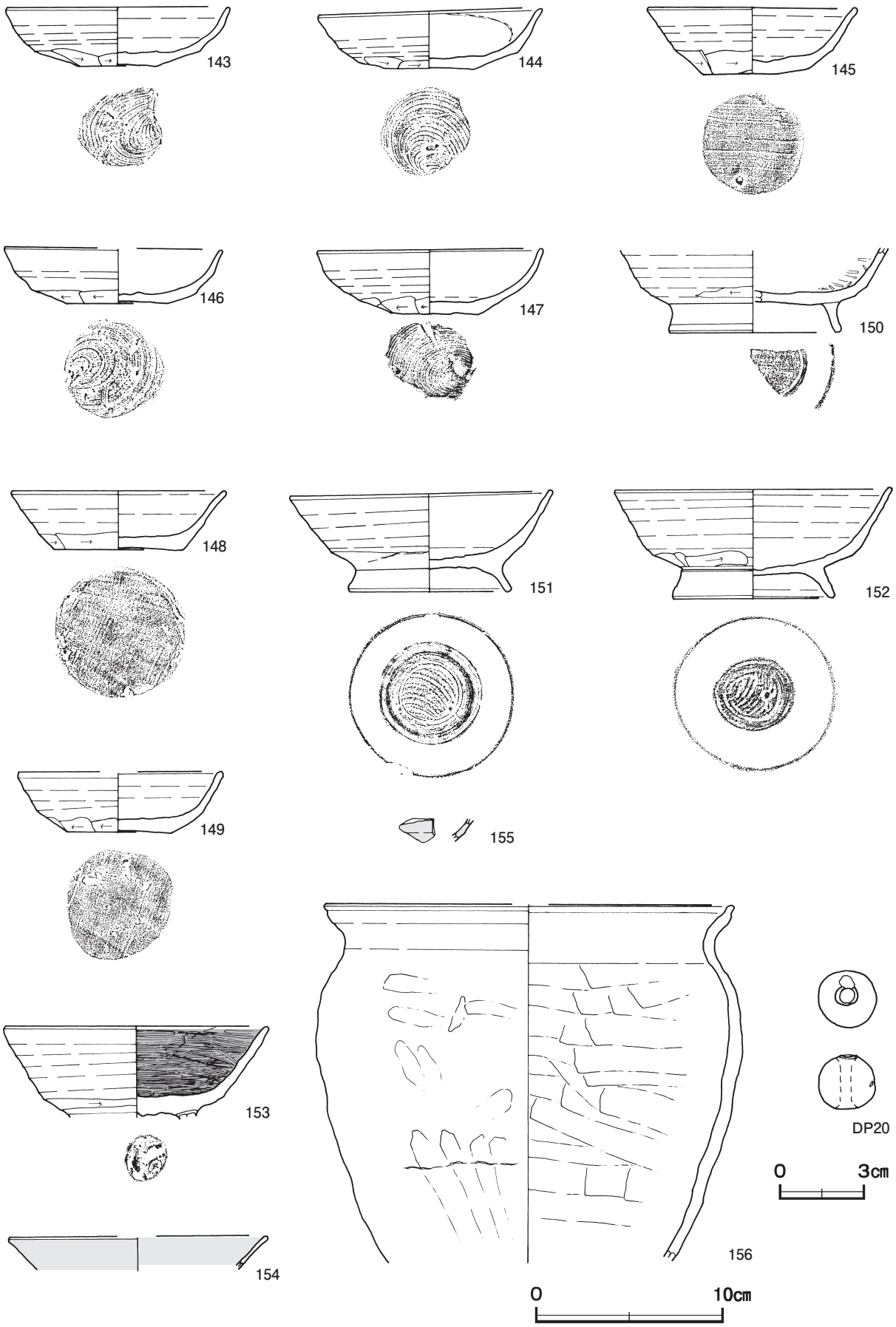
ピット　深さ 24cm で，西壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量



第 105 図　第 45 号住居跡実測図



第 106 図　第 45 号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。南北軸56cmで，東側が第242号土坑に掘り込まれているため，東西軸は41cmしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，深さは10cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黄　褐　色　ローム粒子中量

覆土　４層に分層できる。各層にロームや焼土のブロックを含んでいることから埋め戻されている。第５層は貼床の構築土である。

土層解説

1　灰黄褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片219点（坏117，高台付椀６，甕類96），須恵器片27点（坏10，蓋６，甕11），灰釉陶器片１点（椀），緑釉陶器片２点（皿），土製品１点（土玉），粘土塊４点，鉄滓１点（7.6g）が，覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。また，混入した石器１点（浮子），剥片１点（黒曜石）も出土している。147～150は貯蔵穴の底面から正位や斜位の状態で，143は西壁際，145は竈前面，151は南西コーナー部，152は南西部，153は南東部の床面，156は竈周辺の覆土下層から床面にかけて，146は西部の覆土下層，144・154・155・DP20は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉に比定できる。床面に焼土が堆積していることから，焼失住居である。

第45号住居跡出土遺物観察表（第106図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
143	土師器	坏	12.0	3.2	4.4	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り	床面	100%　PL40
144	土師器	坏	12.0	3.3	4.3	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り	覆土中	100%　PL40
145	土師器	坏	11.1	3.7	5.6	長石・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	床面	95%　PL40
146	土師器	坏	[11.5]	3.1	5.2	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り	下層	40%
147	土師器	坏	12.1	3.7	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り	貯蔵穴	98%　PL40
148	土師器	坏	11.4	3.2	7.0	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	貯蔵穴	95%　PL40
149	土師器	坏	[10.8]	3.3	5.6	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	貯蔵穴	70%　PL40
150	土師器	高台付椀	－	(4.5)	[9.0]	石英・雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部一方向のヘラ削り後，高台貼付	貯蔵穴	５%
151	土師器	高台付椀	13.8	5.5	8.8	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転糸切り後，高台貼付	床面	80%　PL40
152	土師器	高台付椀	14.6	5.9	8.6	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転糸切り後，高台貼付	床面	70%　PL41
153	土師器	高台付椀	14.0	(5.1)	－	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後，高台貼付	床面	95%　PL41
154	緑釉陶器	椀	[13.8]	(1.8)	－	長石・石英	浅黄橙	普通	外・内面施釉	覆土中	５%　PL58
155	緑釉陶器	椀	－	(1.3)	－	長石	灰白	良好	外・内面施釉	覆土中	５%
156	土師器	甕	[21.6]	(19.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面上半ナデ　指頭痕　下半ヘラ削り　内面ヘラナデ	下層～床面	10%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP20	土玉	2.0	2.0	0.5	(6.3)	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部ナデ	覆土中	PL52

第 46 号住居跡（第 107 図）

位置　調査区中央部のＤ３b2 区，標高 24.7 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 22 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 241 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.16 ｍ，短軸 2.95 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 118 ゜－Ｅである。壁高は１～３㎝で，立ち上がりの状況は不明である。

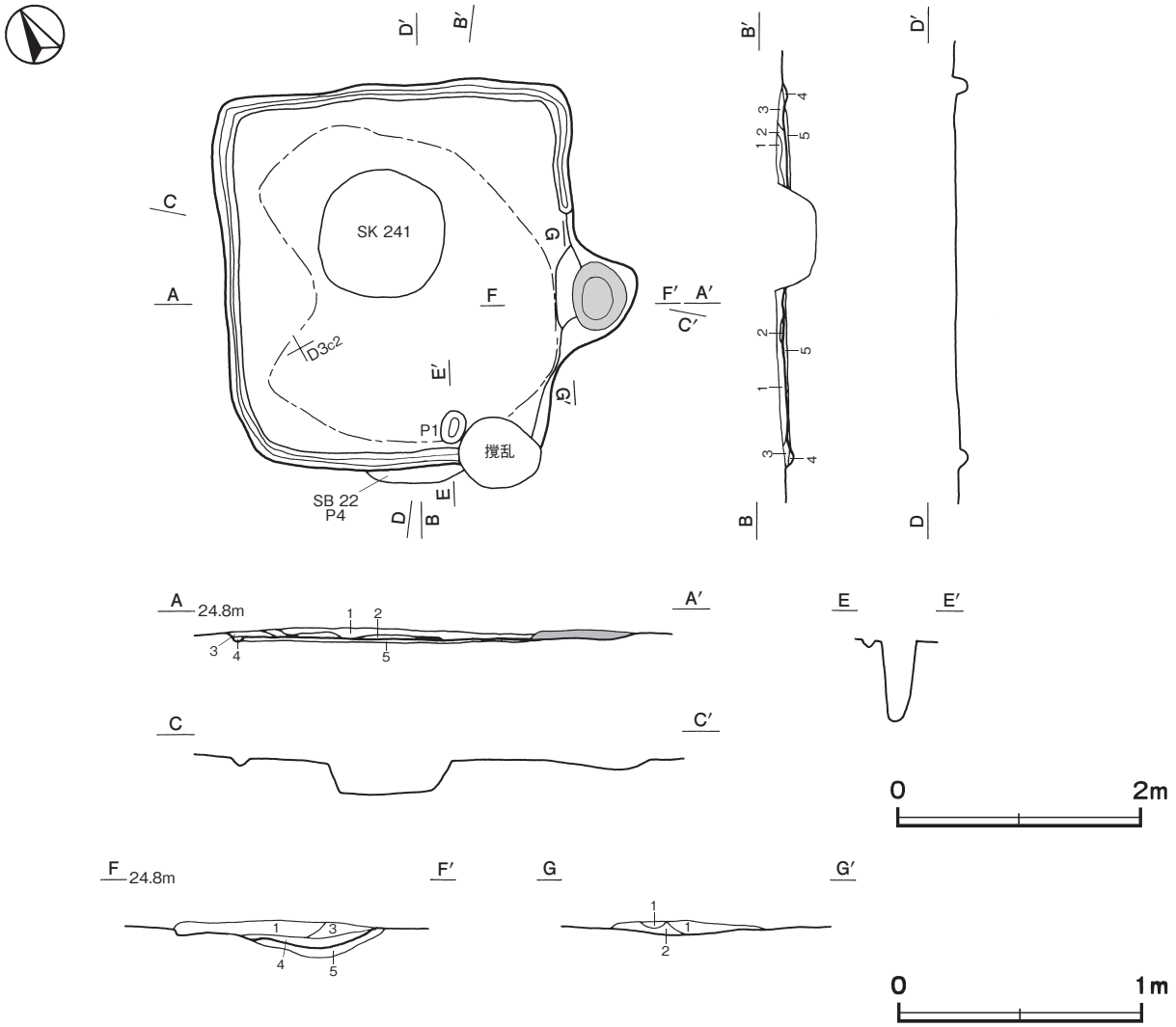
床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，平坦に掘りくぼめた部分に暗褐色土の第５層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈　東壁中央部に付設されており，火床部が露出した状態で確認した。規模は焚口部から煙道部まで 68cm で，燃焼部幅は 58cm である。火床部は床面から３㎝くぼんでおり，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 53㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

ピット　深さ 58cm で，南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。



第 107 図　第 46 号住居跡実測図

覆土　４層に分層できる。各層にロームや焼土のブロックを含んでいることから埋め戻されている。第５層は貼床の構築土である。

土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック微量	4	褐	色	ローム粒子中量
2	灰	褐	色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量	5	暗	褐	色	ロームブロック中量
3	褐		色	ロームブロック少量				

遺物出土状況　土師器片 38 点（坏 18，高台付椀２，甕 18），粘土塊１点が出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢），剥片１点（黒曜石），摩滅した須恵器片６点（坏３，甕３）も出土している。いずれも細片のため図示できない。土師器の供膳具類は内面に黒色処理が施されている。

所見　時期は，竈の位置や出土土器から 10 世紀前半と考えられる。

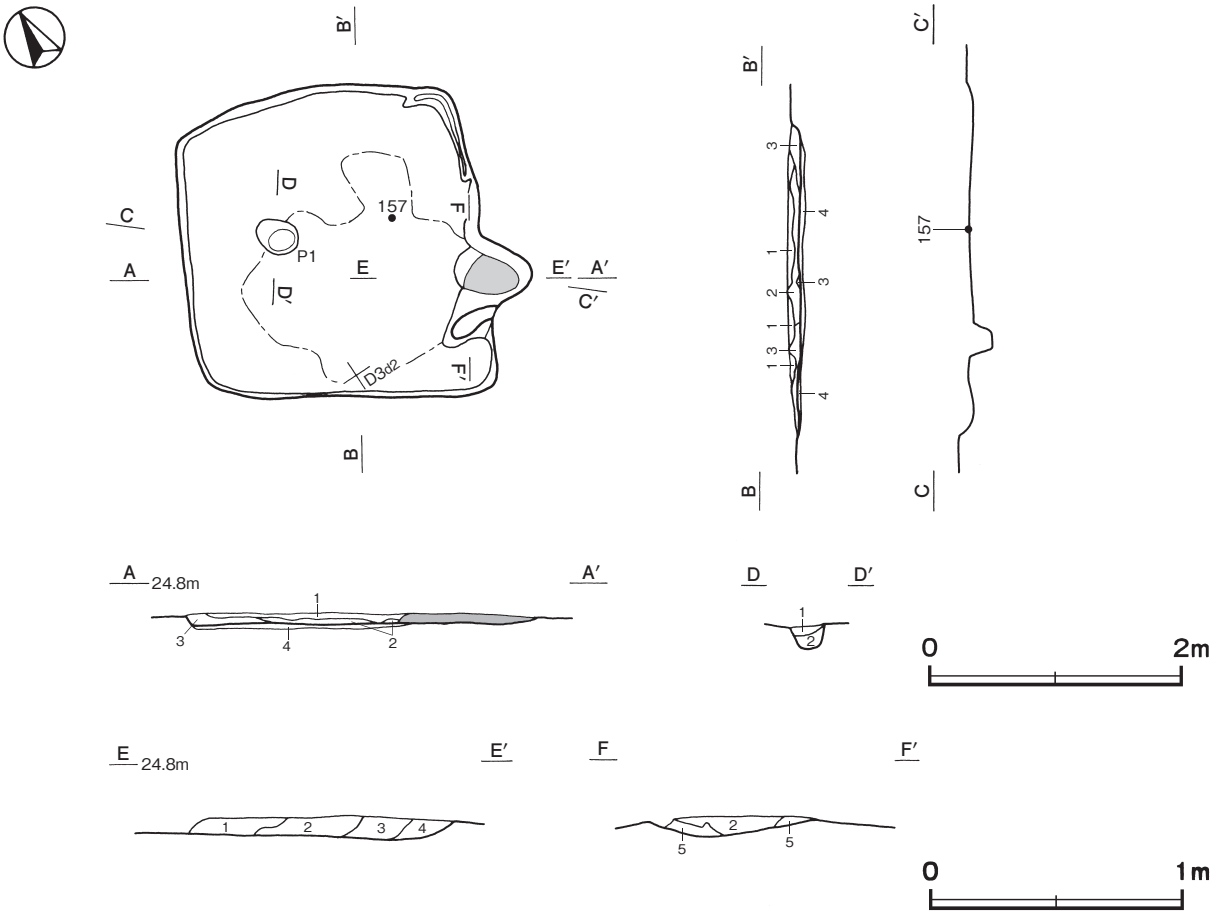
第 47 号住居跡（第 108・109 図）

位置　調査区中央部のＤ３c2 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 22 号掘立柱建物跡，第 869 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 2.48 m，短軸 2.37 mの方形で，主軸方向はＮ－ 120°－Ｅである。壁高は４～ 12cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦な貼床で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。貼床はローム粒子を含んだ暗褐色土の第４層を埋土して構築されている。東コーナー部の壁下には壁溝が確認できた。



第 108 図　第 47 号住居跡実測図

竈　南東壁中央部の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで64cmで，燃焼部幅は37cmである。袖部は地山を掘り残した基部しか確認できなかった。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面の赤変硬化は弱い。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

ピット　深さ17cmで，西側の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

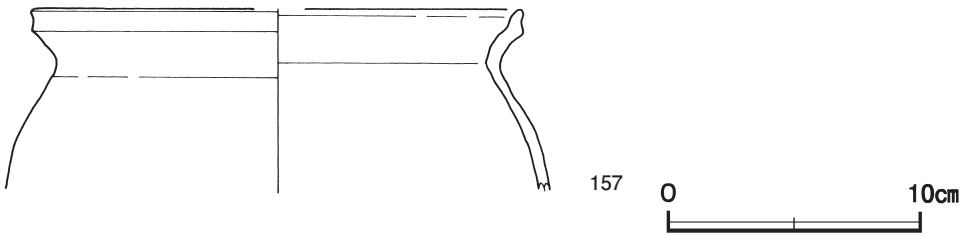
覆土　３層に分層できる。各層にロームや焼土のブロックを含んでいることから埋め戻されている。第４層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2　灰　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，砂少量

遺物出土状況　土師器片64点(坏９，足高高台付椀２，甕53)が出土している。また，混入した須恵器片18点(坏６，瓶１，甕11）も出土している。157は竈前面の床面から出土している。

所見　時期は，竈の位置や出土土器から10世紀後半と考えられる。



第109図　第47号住居跡出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表（第109図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
157	土師器	甕	[19.4]	(7.2)	－	長石・石英・雲母	褐	普通	外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	５％

第48号住居跡（第110～113図）

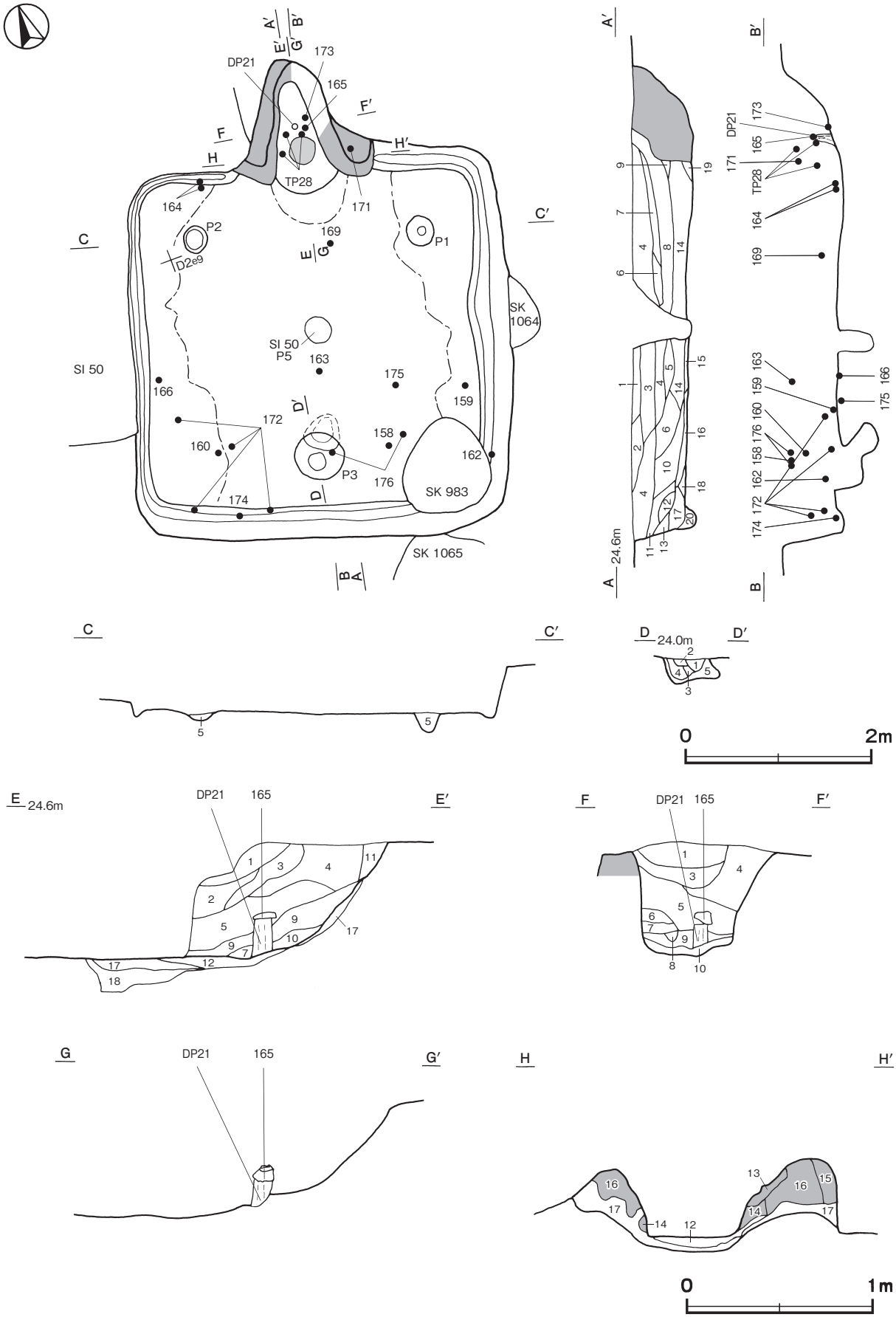
位置　調査区中央部のＤ２e9区，標高24.4ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第1065号土坑を掘り込み，第50号住居，第983・1064号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.21ｍ，短軸4.14ｍの方形で，主軸方向はＮ－17°－Ｅである。壁高は53～58cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで137cmで，燃焼部幅は57cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，灰黄色砂質粘土を主体とした第13～16層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用している。火床面は赤変硬化しており，煙道部寄りには支脚（DP21）が据えら



第 110 図　第 48 号住居跡実測図

れている。火床面の上部には灰層の第10層が堆積しており，層厚は7㎝である。煙道部は壁外に102㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
4　灰　褐　色　砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　焼土ブロック微量
6　灰　白　色　砂質粘土ブロック多量，ローム粒子少量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，粘土ブロック・ローム粒子少量
8　明赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック多量
9　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量
10　にぶい褐色　灰多量，焼土粒子少量
11　暗　褐　色　ローム粒子多量
12　明赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子多量
13　オリーブ褐色　焼土粒子中量
14　明赤褐色　ロームブロック多量
15　にぶい黄褐色　炭化粒子・砂少量
16　灰　黄　色　ローム粒子中量，砂少量
17　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
18　暗　褐　色　炭化粒子多量

ピット　3か所。P1・2は深さ20・9㎝で，配置から主柱穴である。P3は深さ30㎝で，北壁は内彎して立ち上がっている。南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
2　灰　褐　色　砂質粘土ブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　灰黄褐色　砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　20層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

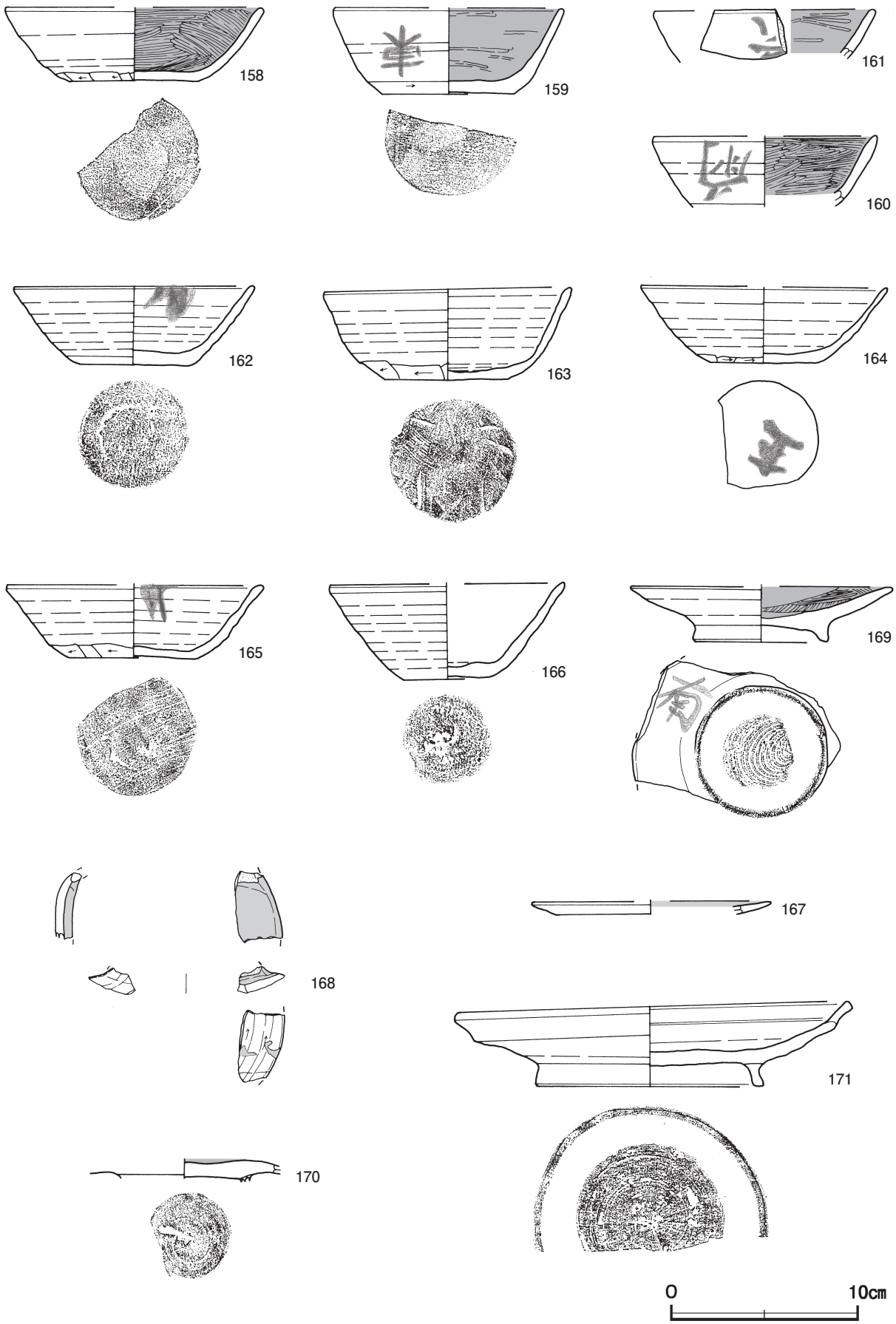
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量
8　黒　褐　色　砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子少量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
12　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
13　褐　　色　ロームブロック少量
14　灰　褐　色　砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
15　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
16　にぶい褐色　ロームブロック中量
17　暗　褐　色　ロームブロック微量
18　黒　褐　色　炭化粒子少量
19　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量
20　褐　　色　ローム粒子中量，砂質粘土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片848点（坏205, 高台付椀25, 皿2, 高台付皿4, 甕612), 須恵器片245点（坏73, 盤2, 高盤1，鉢13，甕152，甑4），灰釉陶器片2点（皿，耳皿），土製品1点（支脚），粘土塊9点が，全体の覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土している。また，混入した縄文土器片1点（深鉢），古墳時代の土師器片1点（器台）も出土している。175は中央部の床面，173は竈の覆土下層，165・171・TP28は竈の覆土上層，159は東壁際，162は南東壁際，164は北西壁際，166は西壁際，172は南西部，174は南壁際の覆土下層，168は北西部，169は北部の覆土中層，158・176は南部，160・167・170は南西部，161・163は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

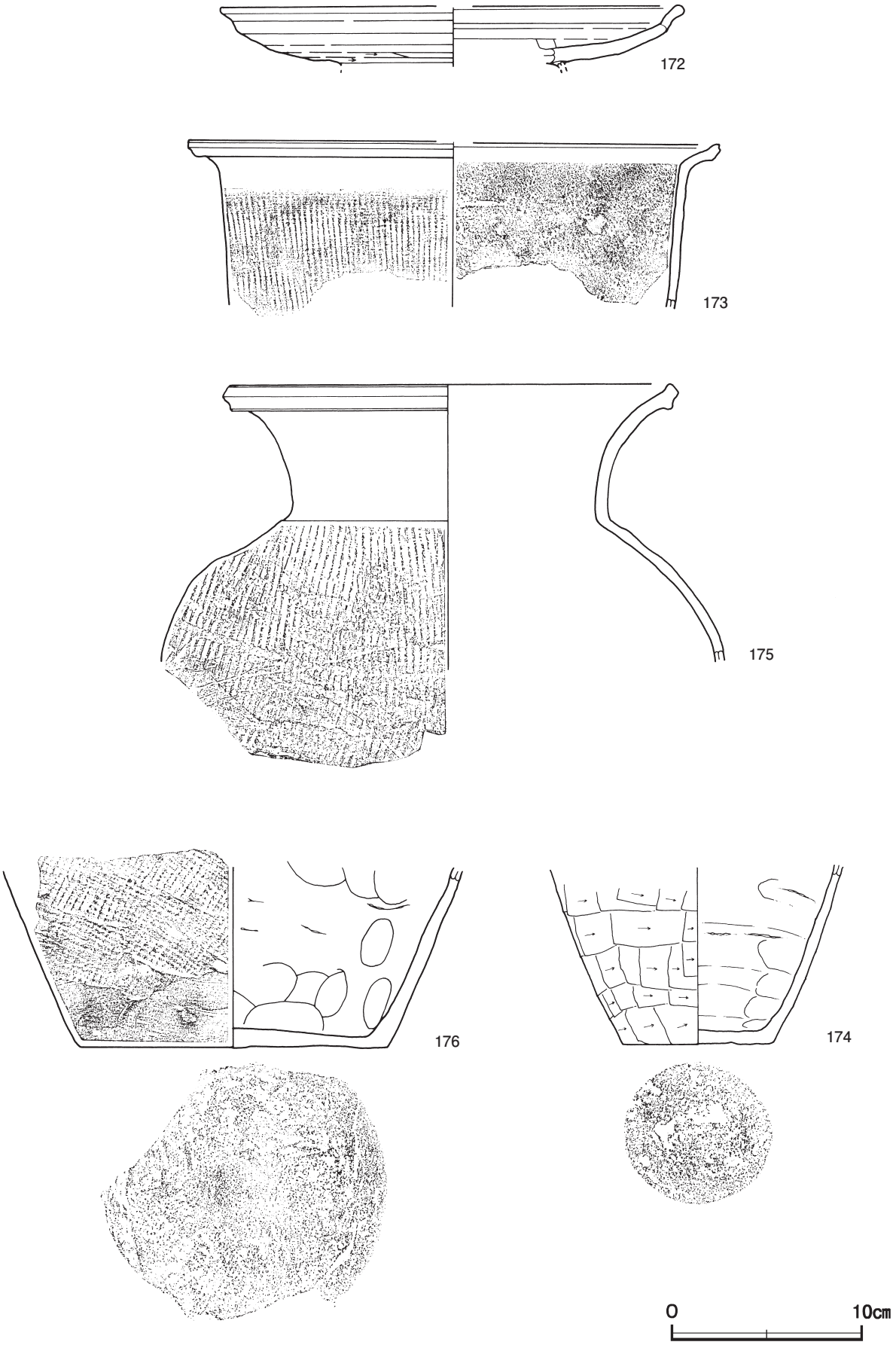
所見　時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。

第48号住居跡出土遺物観察表（第111～113図）

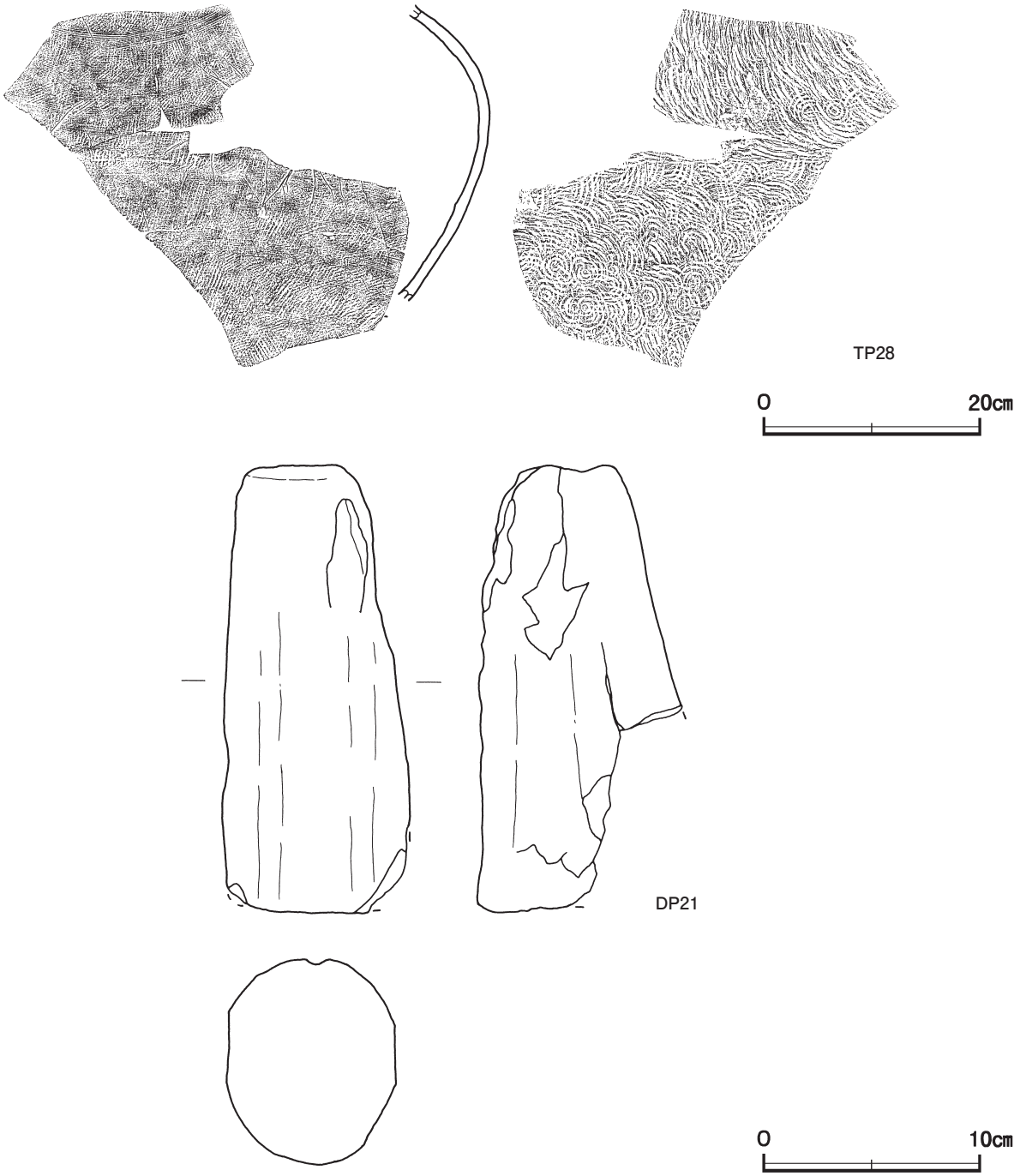
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
158	土師器	坏	[13.8]	4.0	7.0	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部回転糸切り後，一方向のヘラ削り	上層	60%　PL41
159	土師器	坏	[12.3]	4.6	7.3	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り　墨書「東」	下層	50% PL41・50
160	土師器	坏	[12.0]	(3.7)	－	長石・石英	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き 墨書「前」	上層	10%　PL51
161	土師器	坏	[11.7]	(2.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き 墨書「□」	上層	5％
162	須恵器	坏	12.8	4.4	5.8	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部回転糸切り後， 周縁部不定方向のヘラ削り　油煙	下層	100% PL41



第 111 図　第 48 号住居跡出土遺物実測図（1）



第 112 図　第 48 号住居跡出土遺物実測図（2）



第 113 図　第 48 号住居跡出土遺物実測図（3）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
163	須恵器	坏	13.2	4.9	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	不良	体部下端手持ちヘラ削り　底部不定方向のヘラ削り	上層	70%　PL41
164	須恵器	坏	[13.2]	4.1	6.0	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	不良	体部下端手持ちヘラ削り　底部不定方向のヘラ削り　墨書「主」	下層	60%
165	須恵器	坏	[13.6]	3.9	6.8	長石・石英・雲母	黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　油煙付着	竈上層	40%　PL41
166	須恵器	坏	[12.6]	5.1	4.7	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	不良	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後，周縁部一方向のヘラ削り	下層	55%
167	灰釉陶器	皿	[12.8]	(0.7)	－	黒色粒子	灰オリーブ	良好	外・内面施釉	上層	5％　PL58
168	灰釉陶器	耳皿	－	(1.4)	－	黒色粒子	灰オリーブ	良好	外・内面施釉	中層	5％　PL58
169	土師器	高台付皿	[14.0]	3.0	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，高台貼付　墨書「南」	中層	50%　PL50

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
170	土師器	高台付皿	－	(1.0)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ削り後，高台貼付	上層	10%
171	須恵器	盤	20.9	4.7	12.3	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後，高台貼付	竈上層	50%　PL41
172	須恵器	盤	[24.2]	(3.2)	－	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	下層	45%
173	須恵器	鉢	[27.8]	(8.7)	－	長石・石英	黄灰	良好	体部外面縦位の平行叩き	竈下層	10%
174	土師器	甕	－	(9.5)	8.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	下層	40%
175	須恵器	甕	23.5	(14.7)	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面格子状叩き　下端ヘラ削り　内面無文当て具痕	床面	30%　PL41
176	須恵器	甕	－	(9.5)	16.4	長石・石英・雲母	明赤褐	不良	体部斜位の平行叩き　下端ヘラ削り	上層	10%

番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP28	須恵器	大甕	長石・石英・黒色粒子	灰黄	良好	外面斜位の格子状叩き後，カキ目　内面同心円文当て具痕	竈上層	

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP21	支脚	4.0	(8.4)	20.7	(1220)	長石・雲母・赤色粒子	ヘラ削り	竈火床面	PL53

第 49 号住居跡（第 114 ～ 118 図）

位置　調査区中央部のＤ２e8 区，標高 24.4 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 50 号住居跡を掘り込み，第 893・912 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 6.05 m，短軸 4.85 mの長方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁高は 27 ～ 30cmで，外傾して立ち上がっている。

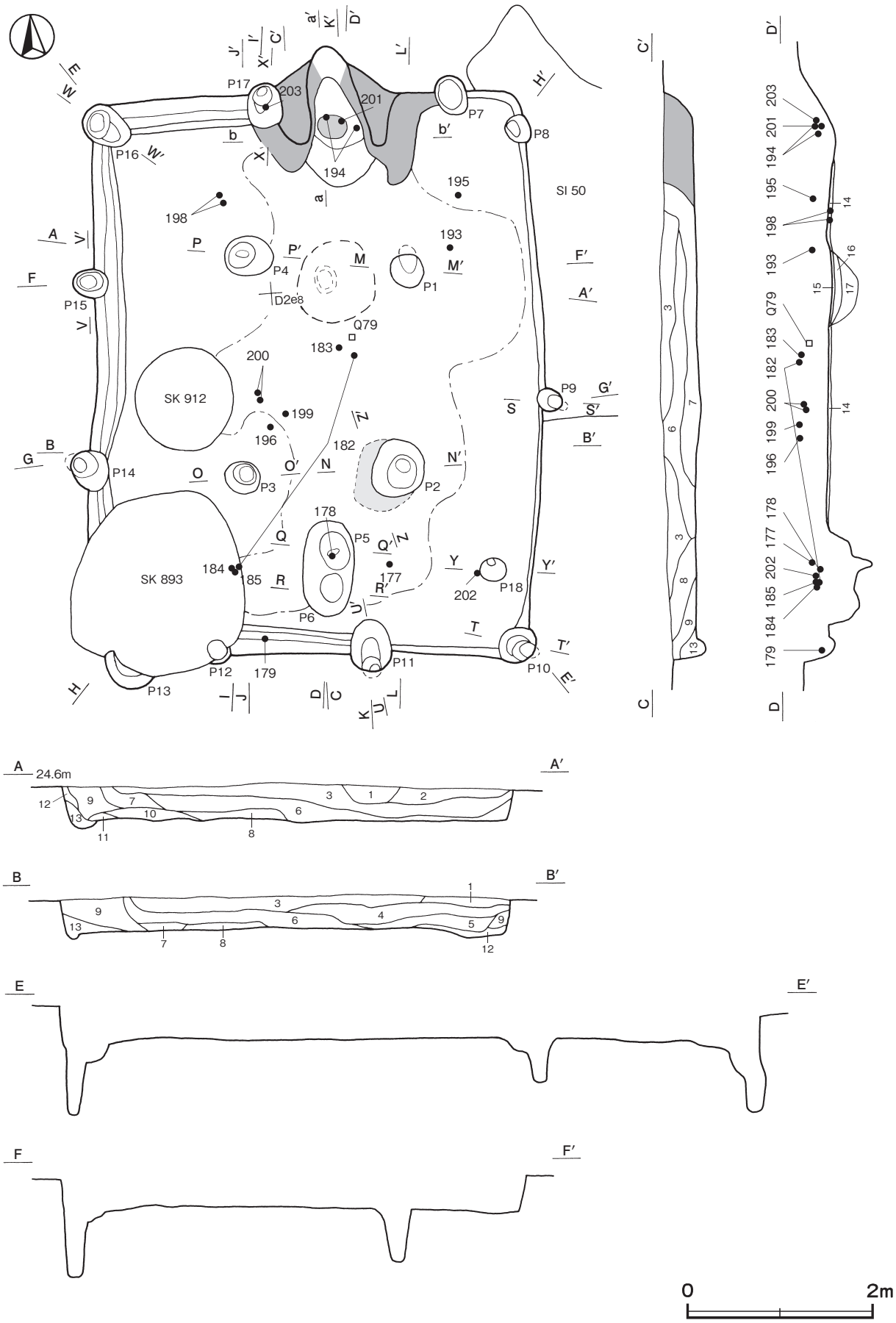
床　平坦な貼床で，竈前面から出入口施設付近にかけて踏み固められている。貼床は，中央部を土坑状に掘りくぼめて，全体に灰黄褐色砂質粘土を主体とした第 14 ～ 17 層を埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 151cm で，燃焼部幅は 63cm である。袖部は，にぶい赤褐色土の第 19 層を床面と同じ高さまで埋土し，灰黄褐色砂質粘土や黒褐色土を主体とした第 12 ～ 17 層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 48cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

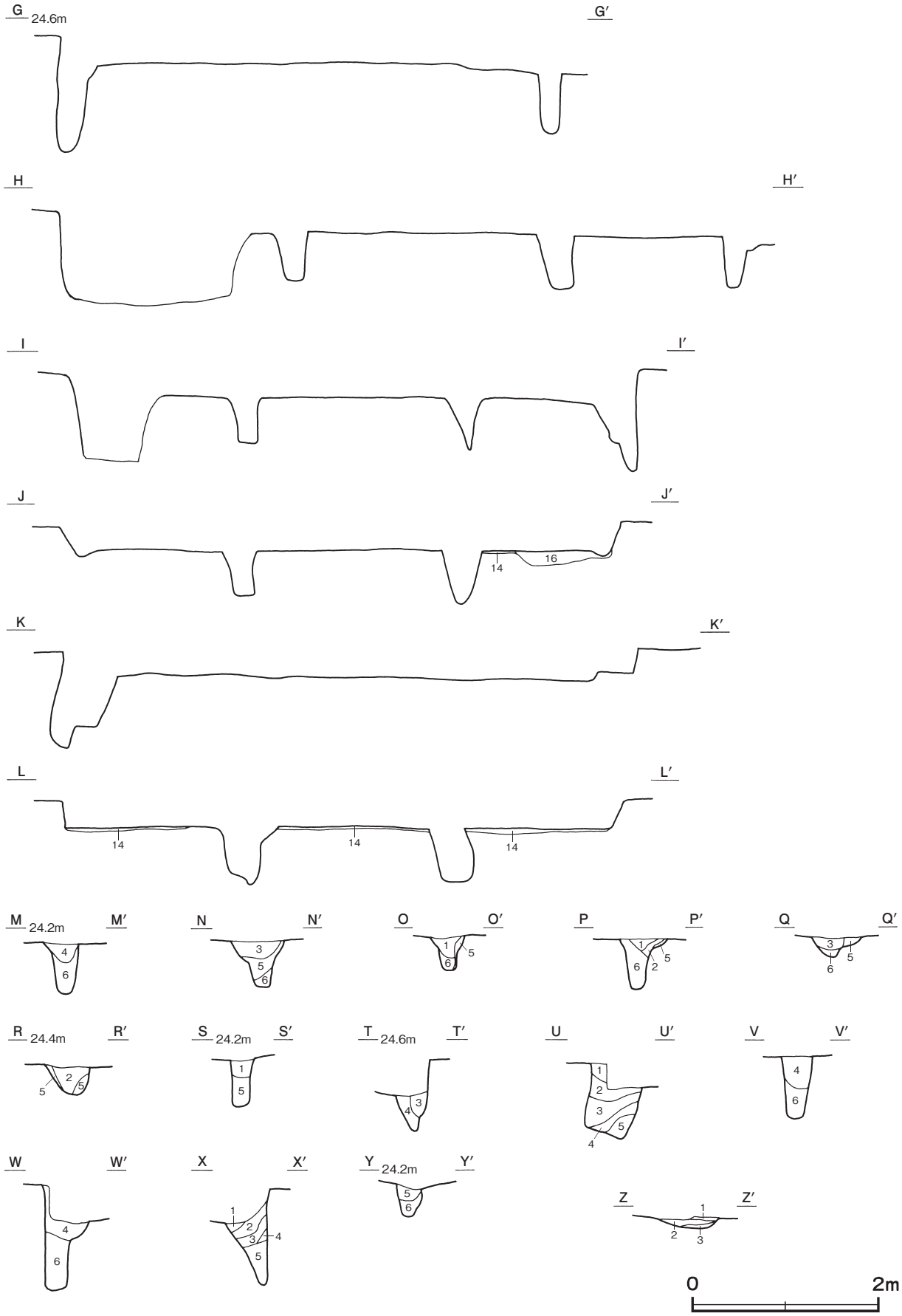
竈土層解説

1　灰黄褐色　砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　灰黄褐色　ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量
5　黒褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
6　黒褐色　炭化粒子多量，焼土粒子少量
7　灰黄褐色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック微量
8　黒褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・砂質粘土ブロック微量
9　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
10　黒褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
11　黒　　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　灰黄褐色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
13　黒褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
14　灰黄褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量，ロームブロック微量
15　黒褐色　ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
16　灰黄褐色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量
17　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
18　暗褐色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
19　にぶい褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量

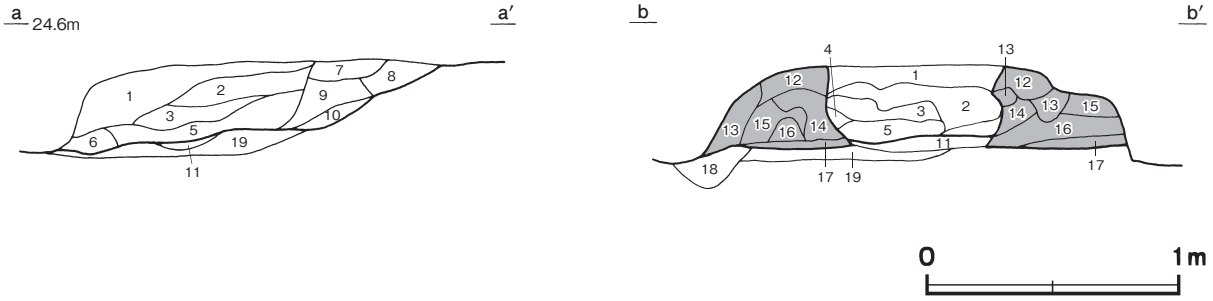
ピット　18 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 36 ～ 53cmで，配置から主柱穴である。Ｐ５・６は深さ 19・26cmで，南壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７～Ｐ 17 は深さ 48 ～ 75cmで，壁柱穴である。柱間距離はＰ８～Ｐ 10 が 3.0 m･2.7 mで，Ｐ 11 ～Ｐ 17 が 0.9 ～ 2.0 mである。Ｐ 18 は深さ 36cmで，性格不明である。



第 114 図　第 49 号住居跡実測図（1）



第 115 図　第 49 号住居跡実測図（2）



第 116 図　第 49 号住居跡実測図（3）

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　にぶい褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量

覆土　13 層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第 14 ～ 17 層は貼床の構築土である。

土層解説

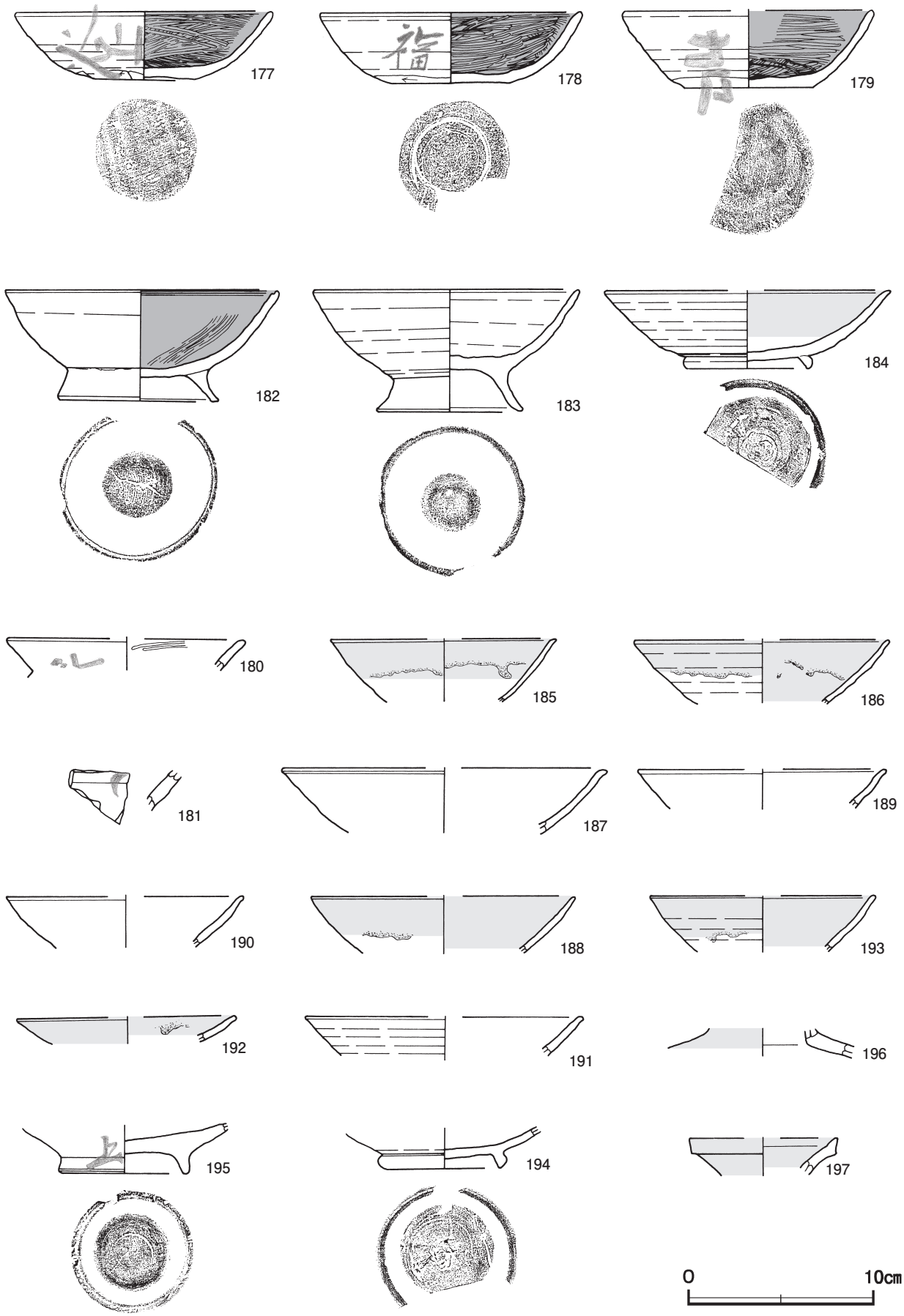
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　にぶい褐色　ローム粒子中量，砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
10　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
11　明　褐　色　ロームブロック中量
12　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
13　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
14　暗　褐　色　砂質粘土ブロック多量，ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
15　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
16　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
17　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 930 点（坏 440, 高台付椀 30, 高台付皿２, 鉢１, 甕 456, 羽釜１), 須恵器片 392 点（坏 124, 高台付坏 22, 蓋 10, 皿２, 盤８, 高盤３, 鉢４, 瓶１, 甕 217, 円面硯１), 灰釉陶器片 17 点（椀 10, 皿１, 瓶６), 鉄製品３点（釘，鎌，不明), 石製品１点（砥石）が，全体の覆土上層から中層にかけて出土している。197 は北部，198 は北西部の床面，194・201・203 は竈の覆土中層，M 11 は北東部の覆土下層，182 は南部の覆土下層と中央部の覆土上層から出土した破片が接合している。193・195 は北東部，177・178・184・185・202 は南部，179 は南壁際，186 は南東部，M 10 は北西部の覆土中層，183･196･199･200 は中央部の覆土上層，180・181・192 は南西部，187・188 は北東部，189・190・191 は北西部，204・M 12 は南東部，Q 79 は中央部の覆土中からそれぞれ出土している。

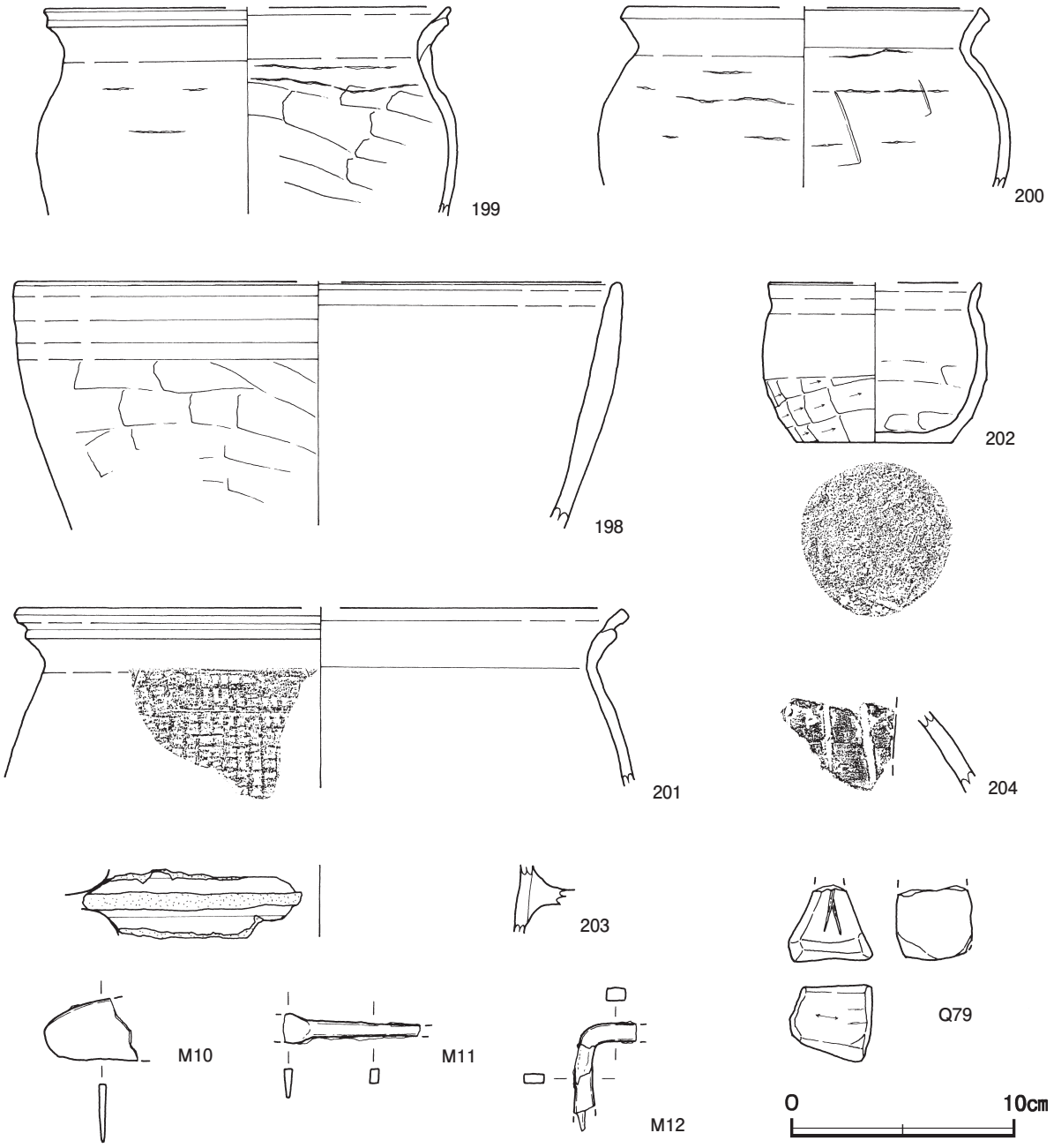
所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀末葉に比定できる。

第 49 号住居跡出土遺物観察表（第 117・118 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
177	土師器	坏	13.8	3.8	5.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り　墨書「谷上」	中層	85% PL42・49
178	土師器	坏	14.2	3.8	6.2	長石･石英･雲母･黒色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り　墨書「福」	中層	85% PL42・49
179	土師器	坏	[13.6]	4.1	[6.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後，不定方向のヘラ削り　墨書「加」	中層	40%　PL50
180	土師器	坏	[12.6]	(1.7)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「福ヵ」	覆土中	５%



第 117 図　第 49 号住居跡出土遺物実測図（1）



第 118 図　第 49 号住居跡出土遺物実測図（2）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
181	土師器	坏	－	(2.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「□」	覆土中	5％
182	土師器	高台付椀	14.5	6.1	8.5	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	内面刷毛状工具によるナデ　底部回転糸切り後，高台貼付	上層・下層	95％　PL42
183	土師器	高台付椀	14.4	6.6	8.0	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	底部ロクロナデ後，高台貼付	上層	95％　PL42
184	灰釉陶器	椀	[15.4]	4.2	[6.4]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後，三日月高台貼付　内面上半施釉　釉は非常に薄い	中層	40％　PL42
185	灰釉陶器	椀	[12.0]	(3.4)	－	長石・黒色粒子	褐灰	良好	体部外・内面上半施釉	中層	5％　PL57
186	灰釉陶器	椀	[13.6]	(3.4)	－	黒色粒子	灰白	良好	体部外面上半・内面施釉	中層	5％　PL57
187	灰釉陶器	椀	[17.4]	(3.5)	－	長石・黒色粒子	灰黄褐	良好	釉不鮮明	覆土中	5％　PL57
188	灰釉陶器	椀	[14.2]	(3.1)	－	長石・黒色粒子	灰	良好	体部外面上半・内面施釉	覆土中	5％　PL57
189	灰釉陶器	椀	[13.1]	(2.1)	－	長石・黒色粒子	灰	良好	釉不鮮明	覆土中	5％　PL57
190	灰釉陶器	椀	[12.4]	(2.8)	－	黒色粒子	灰白	良好	釉不鮮明	覆土中	5％　PL57

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
191	灰釉陶器	椀	［14.8］	(2.1)	－	長石・石英・黒色粒子	灰黄	良好	釉不鮮明	覆土中	5％　PL57
192	灰釉陶器	椀	［11.8］	(1.4)	－	長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	体部外面上半・内面施釉	覆土中	5％　PL57
193	灰釉陶器	椀	［12.0］	(3.0)	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰オリーブ・灰	良好	体部外面上半・内面施釉	中層	5％　PL57
194	灰釉陶器	皿	－	(2.3)	6.2	長石	灰黄	普通	釉不鮮明　底部回転ヘラ切り後，三日月高台貼付	竈中層	45％　PL57
195	土師器	高台付皿	－	(2.7)	6.7	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，高台貼付　墨書「上」	中層	60％
196	灰釉陶器	長頸瓶	－	(1.6)	－	黒色粒子	灰黄	良好	外面施釉	上層	5％　PL57
197	灰釉陶器	長頸瓶	［8.0］	(2.0)	－	黒色粒子	褐灰	良好	外・内面施釉	床面	5％　PL57
198	土師器	鉢	［27.0］	(11.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	床面	10％
199	土師器	甕	［18.2］	(9.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ	上層	10％
200	土師器	甕	［16.0］	(8.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ヘラナデ　輪積み痕	上層	10％
201	須恵器	甕	［27.0］	(8.1)	－	長石・石英・雲母	灰黄	良好	体部外面格子状叩き	竈中層	5％
202	土師器	小形甕	［9.6］	7.2	7.1	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積み痕	中層	60％
203	土師器	羽釜	－	(3.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	鍔部片	竈中層	5％
204	須恵器	円面硯	－	(3.8)	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	方形透かしヵ　縦位の沈線２条	覆土中	5％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 79	砥石	(3.5)	3.8	3.5	(42.4)	凝灰岩	砥面３面　側面荒研ぎ痕	覆土中	PL55

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 10	鎌	(4.2)	(2.9)	0.3	(11.7)	鉄	断面三角形	中層	
M 11	刀子	(6.2)	(1.4)	0.4	(10.2)	鉄	基部片　刃部欠損　断面方形	下層	
M 12	閂	(5.0)	(2.7)	0.7	(9.6)	鉄	断面方形　U字状	覆土中	PL56

第 50 号住居跡（第 119 ～ 121 図）

位置　調査区中央部のＤ２d8 区，標高 24.4 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 48 号住居跡を掘り込み，第 49 号住居に掘り込まれている。

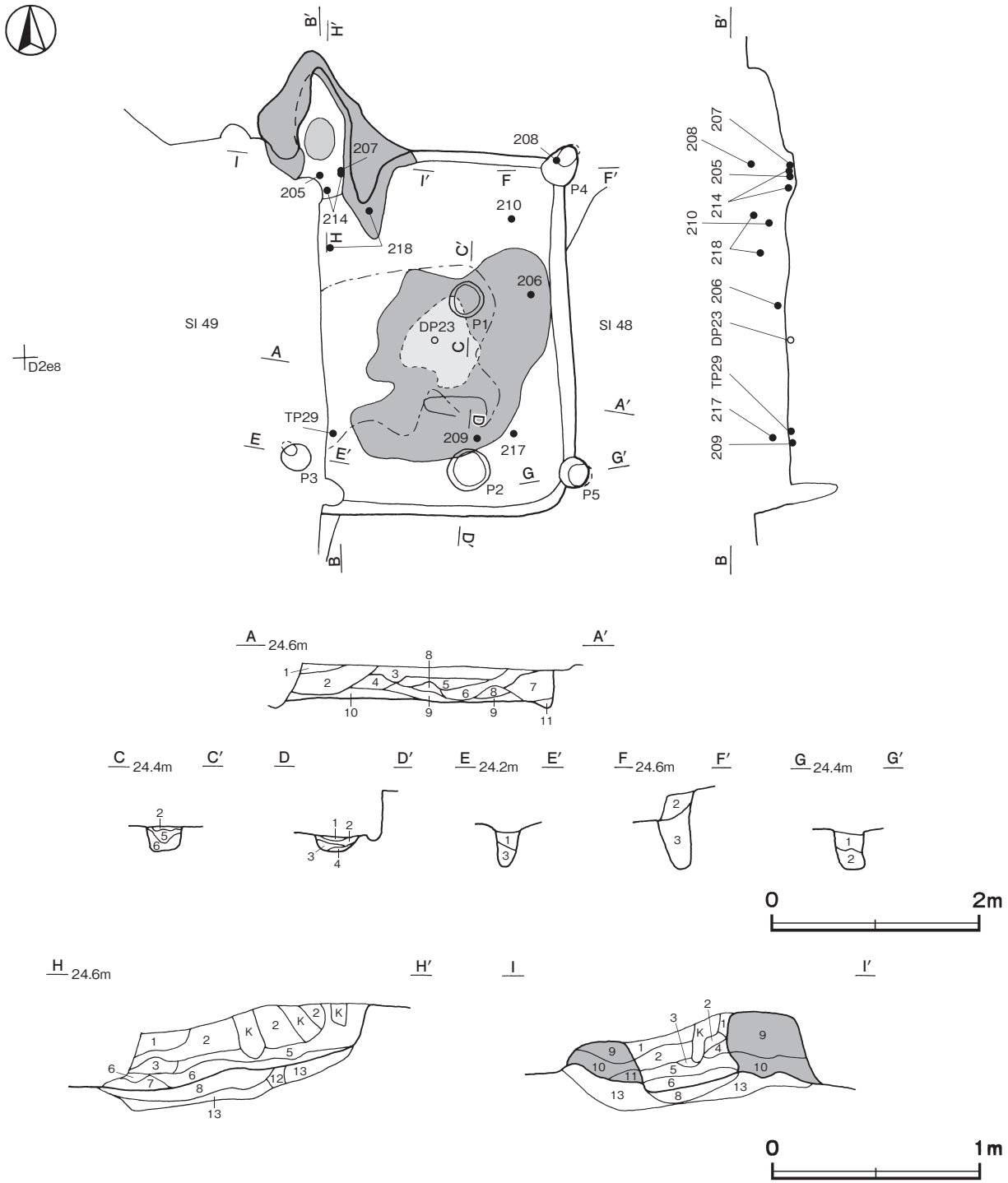
規模と形状　南北軸 3.50 ｍで，西側が第 49 号住居に掘り込まれているため，東西軸は 3.31 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁高は 30 ～ 34cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。中央部から東部にかけて焼土や砂質粘土のブロックが広がっている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 118cm で，燃焼部幅は 48cm である。袖部は，深さ８cmの皿状に掘りくぼめた部分に焼土ブロックを多く含む第 12・13 層を埋土して，その上部ににぶい黄褐色砂質粘土を主体とした第９～ 11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 75cm掘り込まれ，奥壁は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量
3　にぶい橙色　砂質粘土ブロック中量
4　灰黄褐色　砂質粘土ブロック多量
5　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土粒子微量
6　灰黄褐色　灰中量，焼土ブロック少量
7　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量
9　にぶい橙色　砂質粘土ブロック多量
10　にぶい赤褐色　砂質粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
11　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量
12　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子少量
13　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，砂質粘土ブロック少量

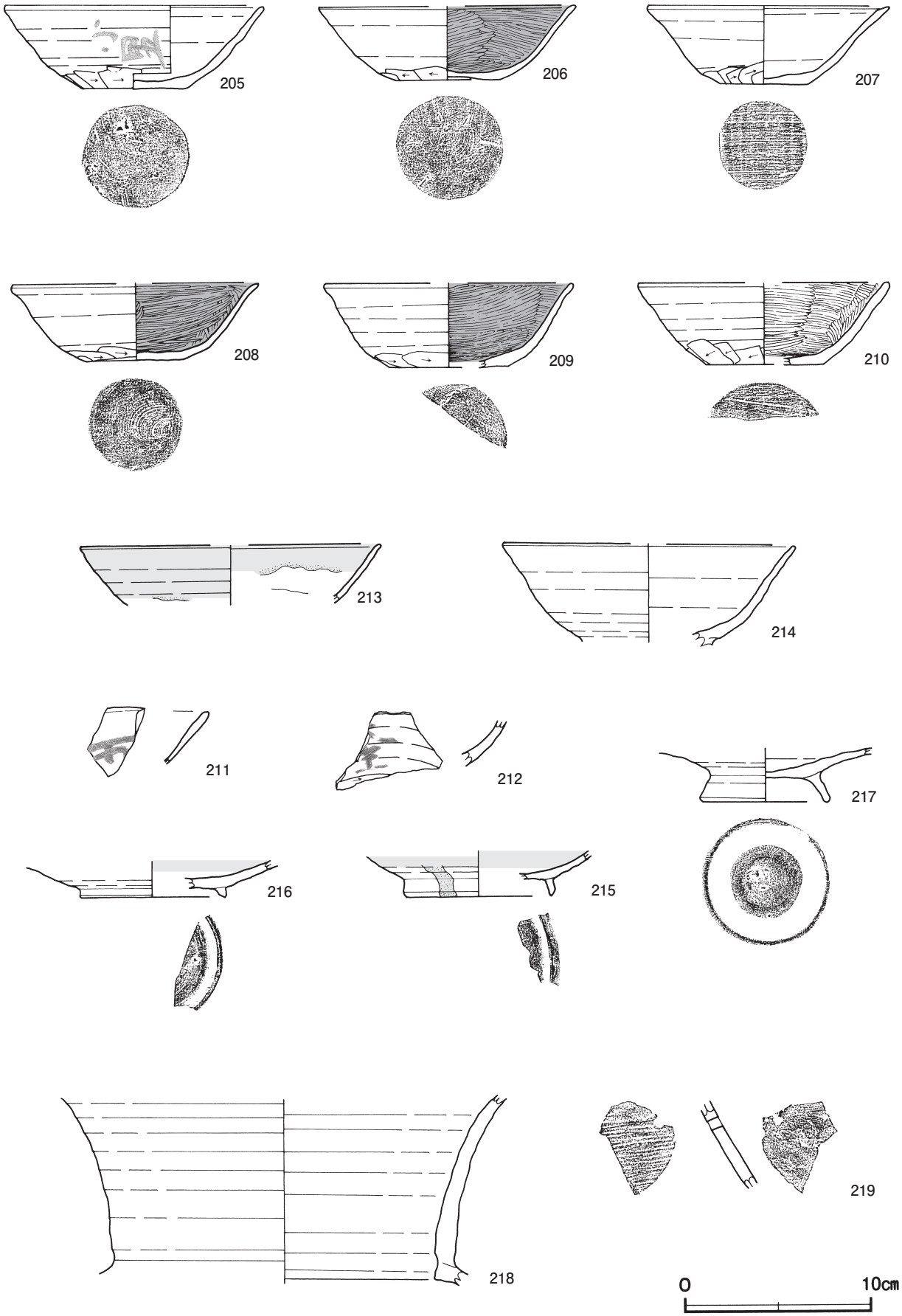


第 119 図　第 50 号住居跡実測図

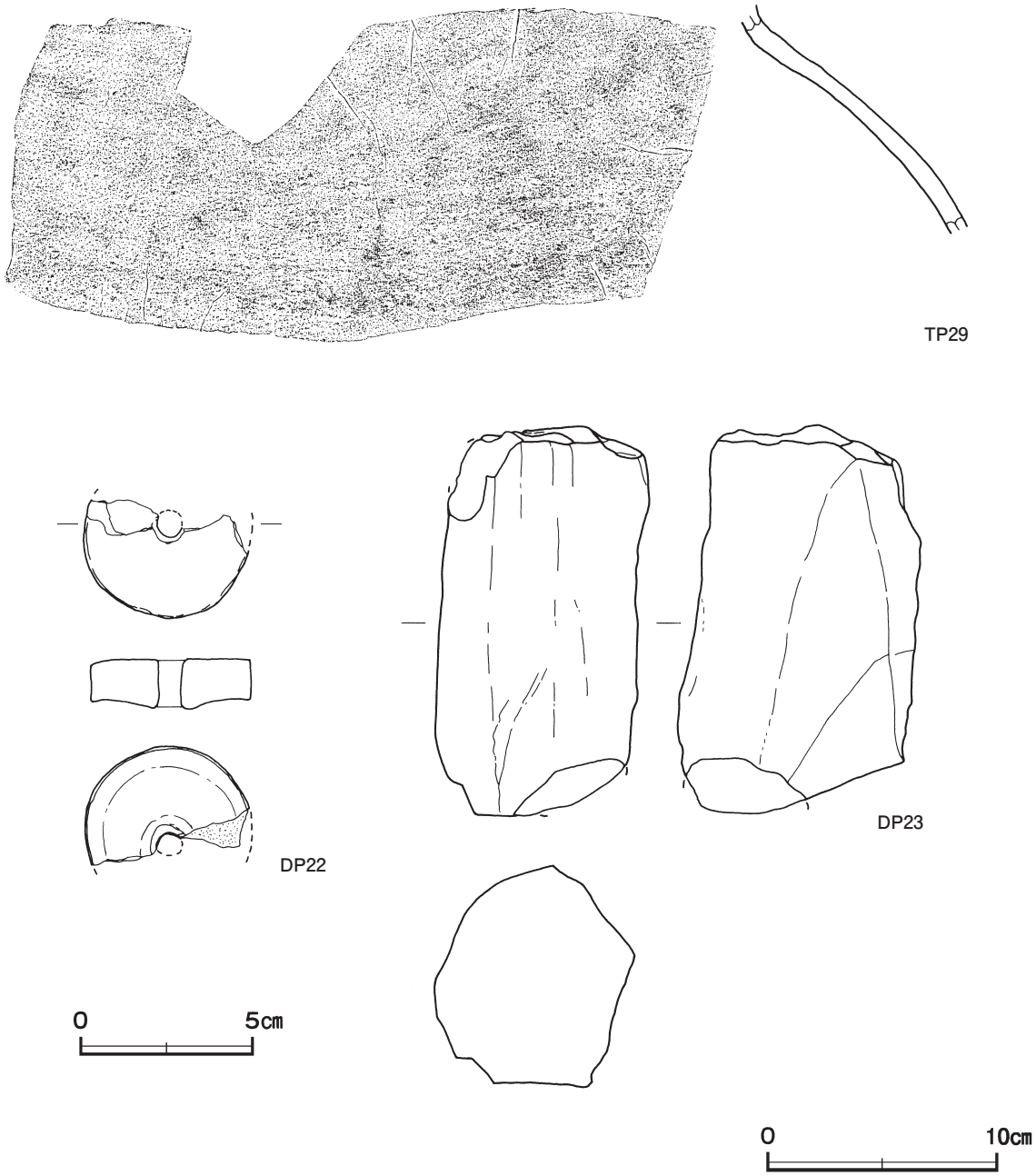
ピット　５か所。Ｐ１・２は深さ 23・16cm で，配置から主柱穴である。Ｐ３は深さ 37cmで，南壁際に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ４・５は深さ 46・38cmで，コーナー部に位置していることから，補助的な柱穴と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　灰　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　灰　褐　色　ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，砂質粘土ブロック微量
6　にぶい褐色　ロームブロック・砂質粘土ブロック多量



第 120 図　第 50 号住居跡出土遺物実測図（1）



第 121 図　第 50 号住居跡出土遺物実測図（2）

覆土　11 層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
5　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
6　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
9　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
10　褐　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック少量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 965 点（坏 306，高台付椀 21，皿 37，高台付皿 1，鉢 6，甕 594），須恵器片 228 点（坏 23，盤 1，瓶 1，甕 189，甑 14），灰釉陶器片 5 点（椀 4，皿 1），土製品 2 点（紡錘車，支脚），鉄製品 1 点（釘）が覆土上層を中心に出土している。また，混入した縄文土器片 1 点（深鉢），弥生土器片 2 点（広

口壺），古墳時代の土師器片１点（器台）も出土している。205・207・214 は火床部から，205 は逆位，214 は正位の状態で，209 は南東部，TP29 は南部，DP23 は中央部の床面からそれぞれ出土している。206 は東部の覆土下層，210 は北東部，217 は南東部の覆土中層，208 は北東コーナー部，218 は北部，211・212・213・215・219・DP22 は北半部，216 は南半部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀後葉に比定できる。

第 50 号住居跡出土遺物観察表（第 120・121 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
205	須恵器	坏	13.8	4.5	5.7	雲母・針状鉱物	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　墨書「小里」	竈火床面	100%　PL42
206	土師器	坏	[13.8]	4.0	5.6	長石・石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，周縁部不定方向のヘラ削り	下層	60%　PL42
207	須恵器	坏	13.2	4.3	4.8	長石・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	底部手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈火床面	60%　PL42
208	土師器	坏	[13.4]	4.1	5.0	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	底部手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，周縁部一方向のヘラ削り	上層	60%　PL42
209	土師器	坏	[13.6]	4.5	[6.4]	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	底部手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部不定方向のヘラ削り	床面	40%
210	土師器	坏	[13.4]	4.4	[6.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	底部手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部一方向のヘラ削り	中層	25%
211	土師器	坏	－	(2.9)	－	長石	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き　墨書「□」	上層	５%
212	土師器	坏	－	(2.5)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「□全」	上層	５%　PL51
213	灰釉陶器	椀	[16.2]	(3.2)	－	長石	灰	良好	外・内面上半施釉	上層	５%　PL58
214	土師器	高台付椀	[15.4]	(5.5)	－	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	ロクロナデ	竈火床面	５%
215	灰釉陶器	椀	－	(2.4)	[7.8]	長石	灰	良好	外・内面露胎	上層	５%　PL58
216	灰釉陶器	皿	－	(1.9)	[7.7]	長石	灰白	良好	外・内面露胎　内面上半施釉	上層	５%　PL58
217	土師器	高台付皿	－	(2.9)	6.8	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後，高台貼付	中層	60%
218	須恵器	甕	－	(10.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙・暗褐	不良	外・内面鉄釉	上層	20%
219	須恵器	甕	－	(4.7)	－	赤色粒子	にぶい褐	普通	外面平行叩き　穿孔一か所	上層	５%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP29	須恵器	大甕	長石・石英	灰黄褐	良好	ロクロナデ	床面	

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP22	紡錘車	1.5	[4.9]	0.7	(24.4)	長石・石英	一方向からの穿孔　ナデ	上層	PL53

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP23	支脚	－	10.5	17.0	(1020)	長石・石英	ヘラ削り	床面	PL53

第 51 号住居跡（第 122 図）

位置　調査区中央部のＤ１e0 区，標高 24.3 ｍの平坦な台地上に位置している。

確認状況　削平を受けていたため，竈の火床部とピットが露出した状態で確認した。

規模と形状　竈とピットの配置から長軸 4.8 ｍ，短軸 4.3 ｍの方形と推定でき，主軸方向はＮ－ 35°－Ｗである。

床　削平されていたため，硬化面は確認できなかった。

竈　北西壁中央部に付設されている。火床部は長径 70cm，短径 42cm の赤変した部分しか確認できなかった。

竈土層解説

１　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
２　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子中量
３　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化粒子少量
４　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

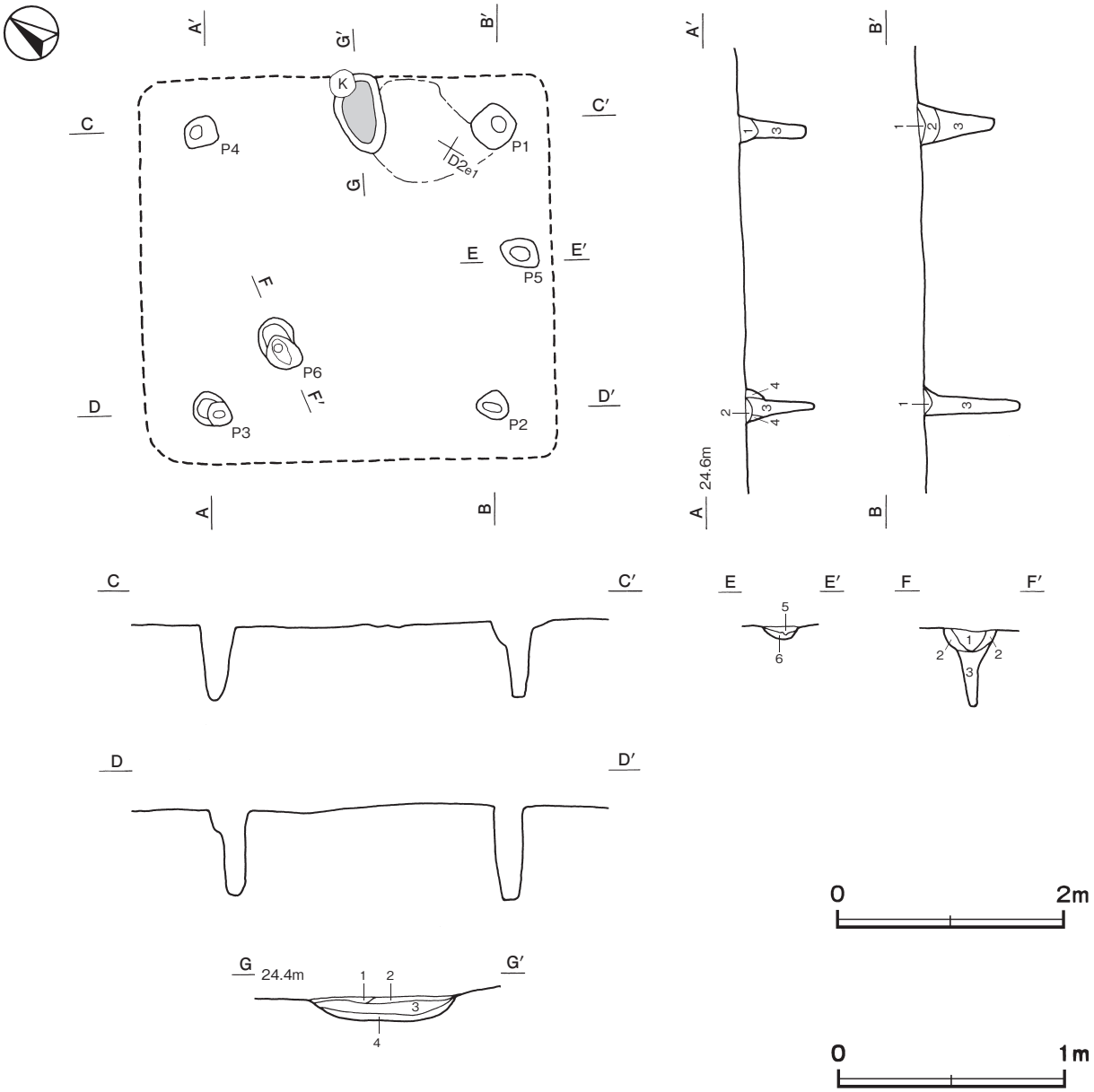
ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は確認面からの深さ 66 ～ 83cm で，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 11cmで，東壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ 68cmで，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　灰　褐　色　ロームブロック中量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片 13 点（坏３，甕 10），須恵器片１点（坏）が各ピットの覆土中から出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢）も出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器坏は内面に黒色処理が施されている。

所見　時期は，出土土器から９世紀後半以降の平安時代と考えられる。



第 122 図　第 51 号住居跡実測図

第 56 号住居跡（第 123 図）

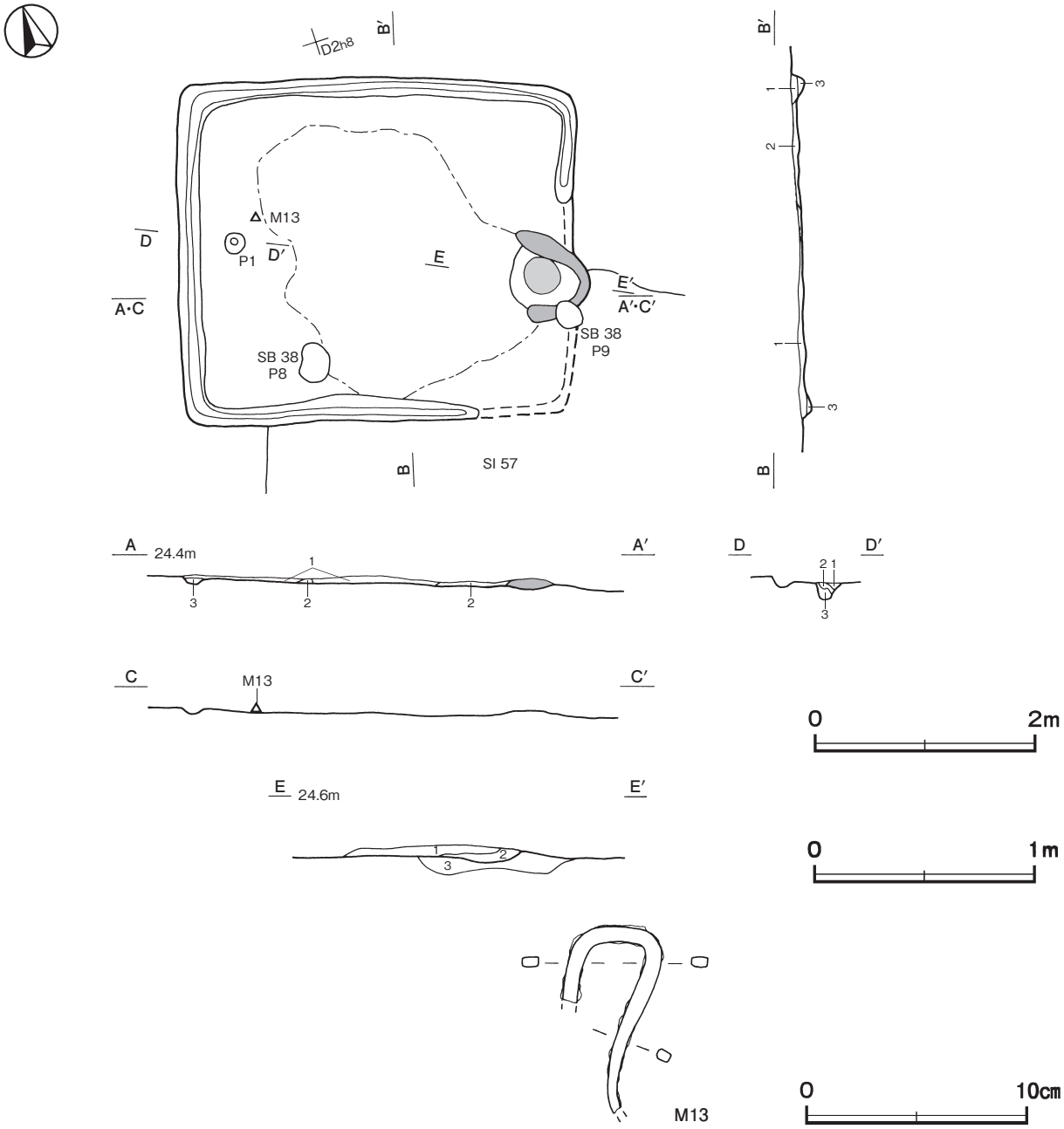
位置　調査区中央部のＤ２h7 区，標高 24.2 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　57 号住居跡，第 26 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 38 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.56 ｍ，短軸 3.12 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 107 °－Ｅである。壁高は４～７㎝で，立ち上がりの状況は不鮮明である。

床　平坦で，コーナー部を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈　東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 53㎝で，燃焼部幅は 47cm である。袖部は，床面と同じ高さの地山ににぶい黄褐色砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に８㎝掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。



第 123 図　第 56 号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説
1　暗 赤 灰 色　焼土ブロック・炭化粒子中量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック多量，ロームブロック・砂質粘土ブロック中量

ピット　深さ 15cm で，西壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1　にぶい黄褐色　ローム粒子多量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

覆土　３層に分層できる。各層にローム粒子を多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 25 点（坏 16，甕９），須恵器片７点（坏４，甕３），鉄製品２点（閂，不明）が出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢）も出土している。M 13 は西部の床面から出土している。土器片はいずれも細片のため図示できないが，土師器坏は内面に黒色処理が施されている。

所見　時期は，出土土器から９世紀後半以降の平安時代と考えられる。

第 56 号住居跡出土遺物観察表（第 123 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 13	閂	(8.6)	(4.6)	0.5	(21.2)	鉄	U字状　先端部欠損　一部彎曲　断面方形	床面	PL56

第 63 号住居跡（第 124 図）

位置　調査区中央部のＤ２f5 区，標高 24.4 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 62・64 号住居跡，第 19・20・28 号掘立柱建物跡，第 962 号土坑，第 198・348 号ピットを掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 4.27 m，短軸 4.13 mの方形で，主軸方向はＮ－ 24゜－Ｅである。壁高は４～９㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。床面には焼土塊が散在している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 90cm で，燃焼部幅は 57cm である。袖部は，深さ８㎝の皿状に掘りくぼめた部分に，焼土ブロックを含んだ第２層や暗褐色土の第３・４層を埋土し，黄褐色砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 53㎝掘り込まれており，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

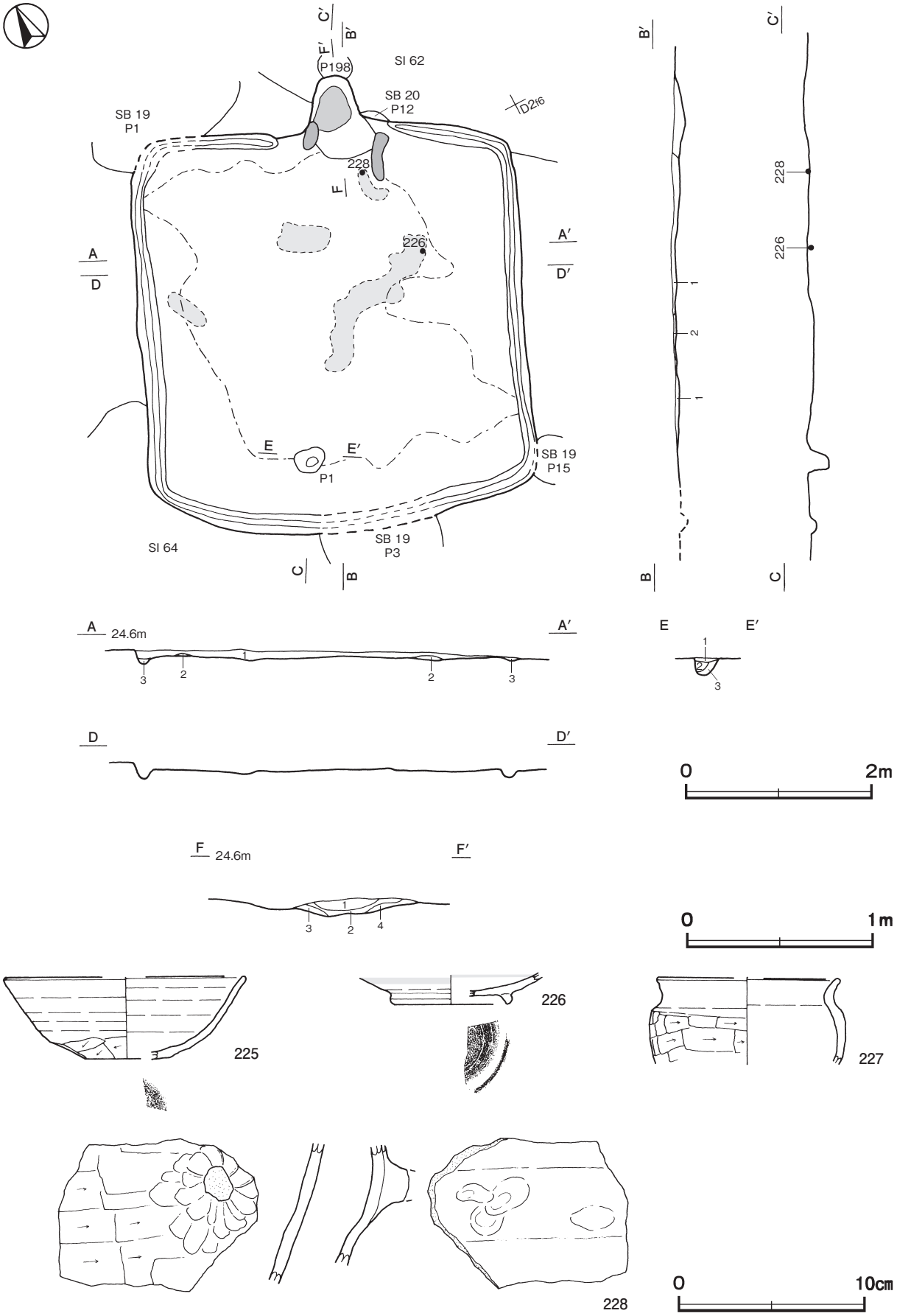
竈土層解説
1　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量
2　褐　　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　深さ 18cm で，南壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

覆土　３層に分層できる。均質な黒色土が堆積していることから自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量



第 124 図　第 63 号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 45 点（坏 14，高台付椀３，甕 26，小形甕１，甑１），須恵器片 40 点（坏５，鉢３，甕 32），灰釉陶器片１点（皿）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片３点（深鉢）も出土している。227 は竈の掘方の埋土，226 は東部，228 は竈前面の床面，225 は竈の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 10 世紀前葉と考えられる。

第 63 号住居跡出土遺物観察表（第 124 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
225	須恵器	坏	［13.0］	4.4	［4.5］	赤色粒子	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部不定方向のヘラ削り	竈覆土中	20%
226	灰釉陶器	皿	－	（1.4）	［6.0］	長石	灰黄	良好	外・内面露胎	床面	10%　PL58
227	土師器	小形甕	［8.7］	（4.6）	－	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り	竈掘方	20%
228	土師器	甑	－	（7.5）	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後，把手貼付　内面ヘラナデ	床面	５%

第 67 号住居跡（第 125・126 図）

位置　調査区中央部のＤ２d2 区，標高 24.5 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 18 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.91 ｍ，短軸 3.10 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 17°－Ｅである。壁高は 21 ～ 25cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，竈前面から出入口施設付近にかけて踏み固められている。北側と南西コーナー部を除く壁下には，壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 78cm で，燃焼部幅は 66cm である。袖部は，深さ７cmの皿状に掘りくぼめた部分に暗褐色土の第 11 層を埋土し，ロームや砂質粘土のブロックを含む黒褐色土の第７～ 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用している。火床面は赤変硬化しており，煙道部寄りには支脚（DP25）が据えられている。煙道部は壁外に 56cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　砂質粘土ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック多量
4　暗　褐　色　焼土粒子多量，炭化物少量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量
7　黒　褐　色　砂質粘土粒子多量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量

ピット　４か所。Ｐ１は深さ 33cmで，南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２～Ｐ４は深さ 27 ～ 37cm で，補助的な柱穴と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量

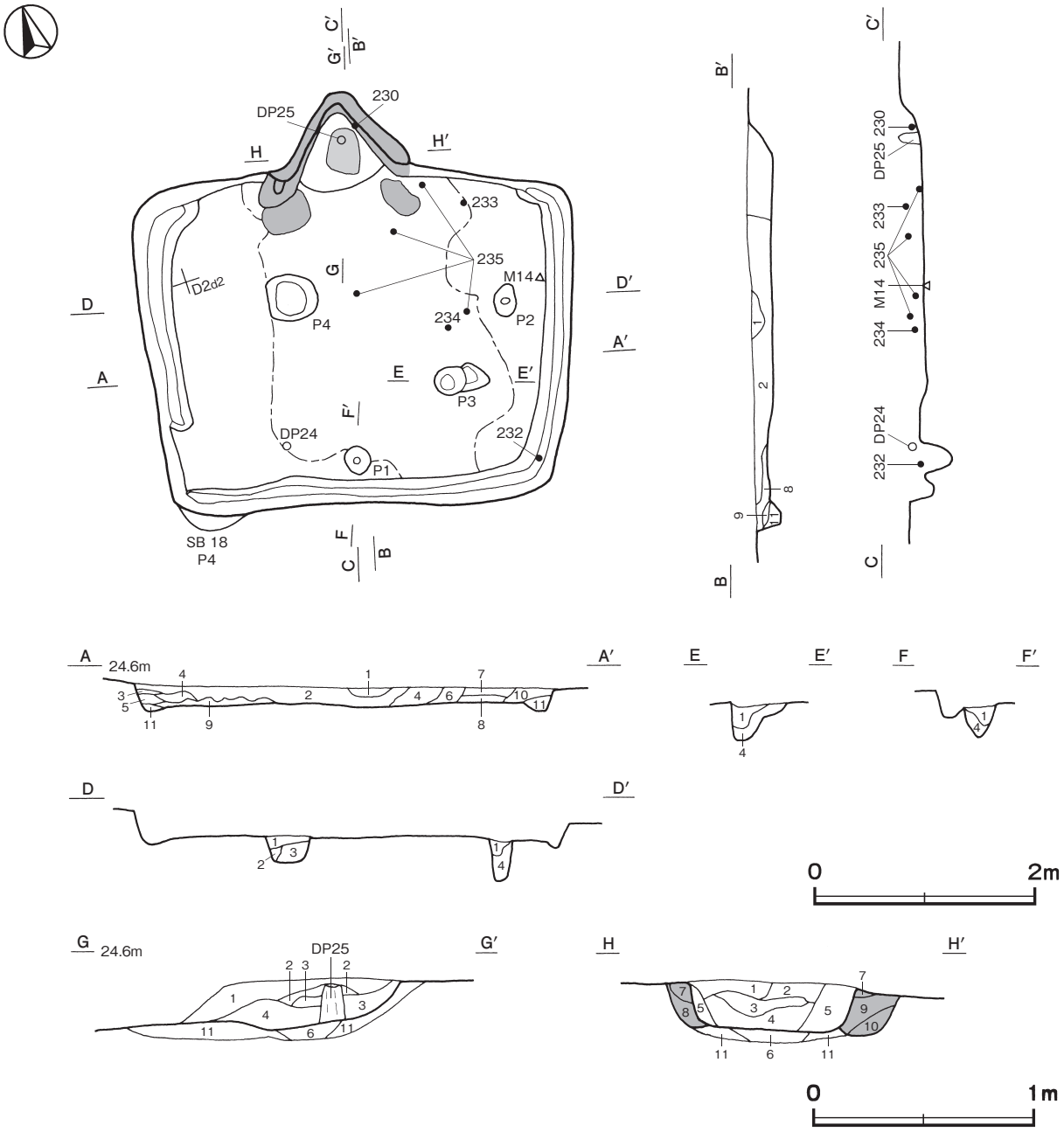
覆土　11 層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

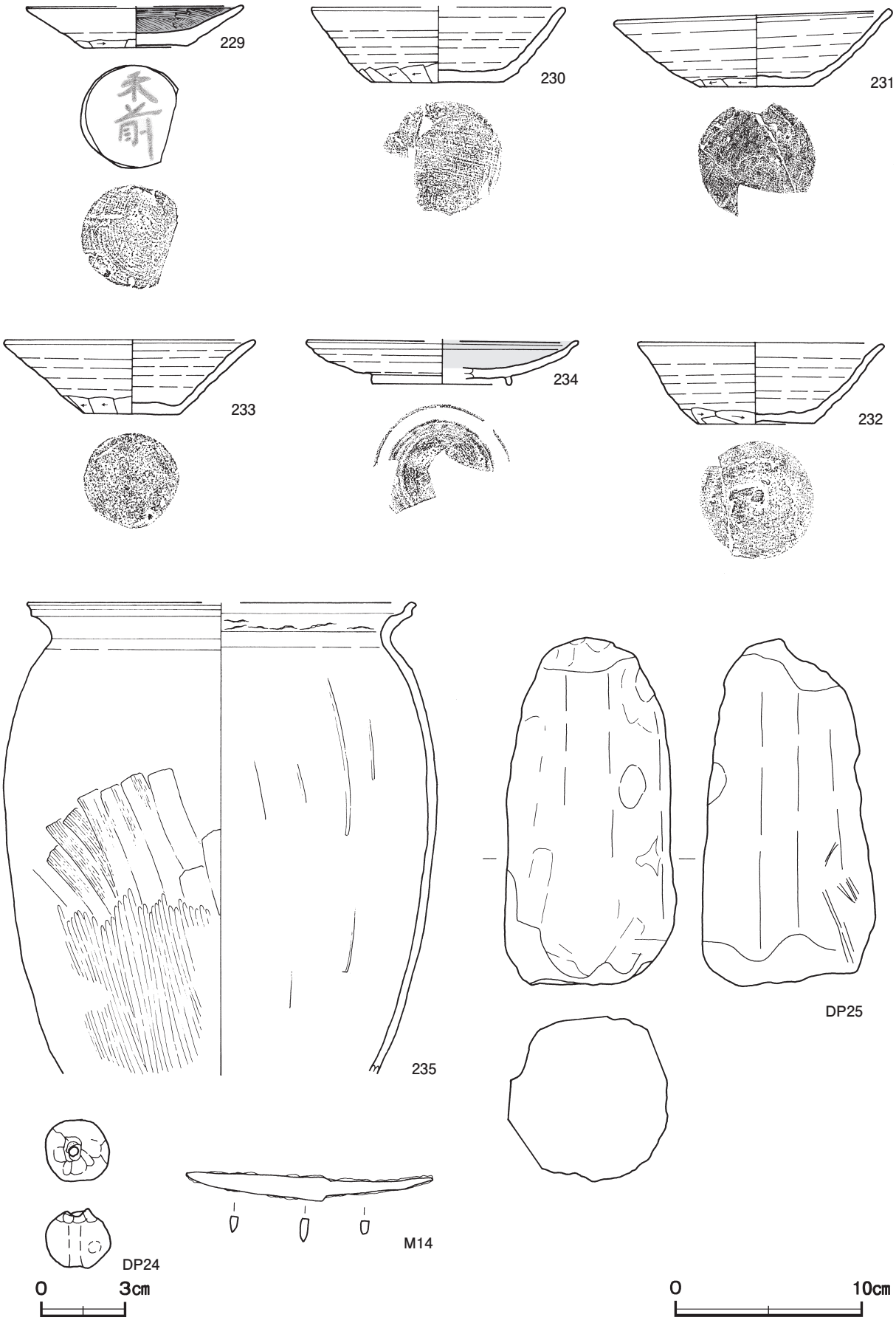
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，砂質粘土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　黒　　色　ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック多量
10　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 194 点（坏 36，高台付椀 1，皿 4，甕 153），須恵器片 40 点（坏 4，鉢 5，甕 31），灰釉陶器片 1 点（皿），鉄製品 1 点（刀子），土製品 2 点（土玉，支脚），粘土塊 2 点が出土している。また，混入した縄文土器片 3 点（深鉢），弥生土器片 2 点（広口壺），古墳時代の土師器片 1 点（器台）も出土している。230 は竈の火床面，M 14 は東壁際の床面，232 南東コーナー部，DP24 は南部の覆土下層，229・231 は竈の覆土上層，233 は北東部，234 は東部，235 は北部や東部の覆土上層から散在した状態でそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 125 図　第 67 号住居跡実測図



第 126 図　第 67 号住居跡出土遺物実測図

第 67 号住居跡出土遺物観察表（第 126 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
229	土師器	皿	［11.4］	2.2	5.7	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き 底部不定方向のヘラ削り　墨書「木前」	竈上層	30% PL43・50
230	須恵器	坏	［13.4］	4.1	7.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈火床面	70%　PL43
231	須恵器	坏	14.8	4.2	6.2	長石・石英・雲母	黒	不良	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後，周縁部一方向のヘラ削り	竈上層	50%　PL43
232	須恵器	坏	12.9	4.5	6.4	長石・石英・雲母	黒	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り	下層	50%　PL43
233	須恵器	坏	13.2	4.1	5.2	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後，周縁部一方向のヘラ削り	上層	60%　PL43
234	灰釉陶器	皿	［14.4］	2.3	［7.3］	長石・黒色粒子	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼付　外面上半・内面全面施釉	上層	45%　PL42
235	土師器	甕	［20.8］	(25.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下半ヘラ削り　内面ヘラナデ	上層	25%

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP24	土玉	2.2	2.3	0.6	10.2	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部未調整	下層	PL52

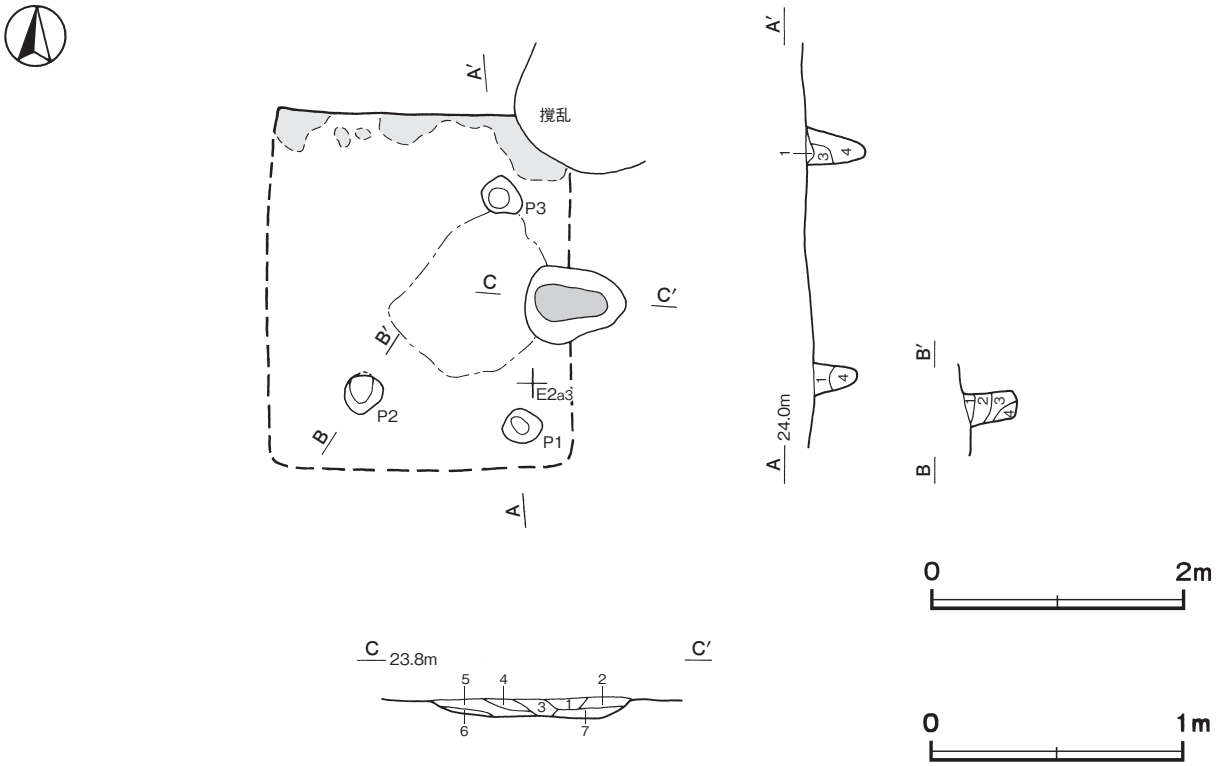
番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP25	支脚	［5.4］	9.1	18.5	(1240)	長石・石英・雲母	ヘラ削り	竈火床面	PL53

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 14	刀子	13.3	1.5	0.45	15.5	鉄	刃部断面三角形　基部断面方形	床面	PL55

第 71 号住居跡（第 127 図）

位置　調査区中央部のＤ２j2 区，標高 23.7 ｍの平坦な台地上に位置している。

確認状況　削平を受けていたため，竈の火床部や床面，ピットが露出した状態で確認した。



第 127 図　第 71 号住居跡実測図

規模と形状　竈やピットの配置，床面の焼土層の広がりから長軸 2.8 m，短軸 2.4 mの長方形と推定できる。主軸方向はＮ－ 91゜－Ｅである。

床　平坦で，竈前面が踏み固められている。北壁際に焼土が堆積している。

竈　東壁中央部に付設されている。長径 80㎝，短径 60㎝の火床部しか確認できなかった。火床部は床面から８㎝くぼんでおり，火床面は赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量	4	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量	5	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量	6	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
			7	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 35 ～ 48cm で，配置から主柱穴である。柱の抜き取り痕の上層に焼土が堆積している。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量，ロームブロック微量	3	暗褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片５点（坏２，高台付椀１，甕２），須恵器片１点（鉢），土製品１点（支脚）が竈やピットの覆土中から出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢），石器１点（鏃）も出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器坏，高台付椀は内面に黒色処理が施されている。

所見　時期は，出土土器から９世紀後半以降の平安時代と考えられる。床面の北壁際や主柱穴の柱の抜き取り痕の上層に焼土が堆積していることから，焼失住居である。

第 74 号住居跡（第 128 図）

位置　調査区南部のＦ１a8 区，標高 17.5 mの斜面部に位置している。

確認状況　斜面部のため南側の掘り込みがローム層まで達していなかったことから，竈と北東コーナー部しか確認できなかった。

重複関係　第 11 Ａ・Ｂ号溝に掘り込まれている。

規模と形状　東西軸は 3.28 m，南北軸は 2.50 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向はＮ－３゜－Ｅである。壁高は４～８㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。北東部の壁下には壁溝が確認できた。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 107cm で，燃焼部幅は 55cm である。袖部は，地山を掘り残した基部だけが確認できた。火床部は床面から６㎝高くなっており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 53㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

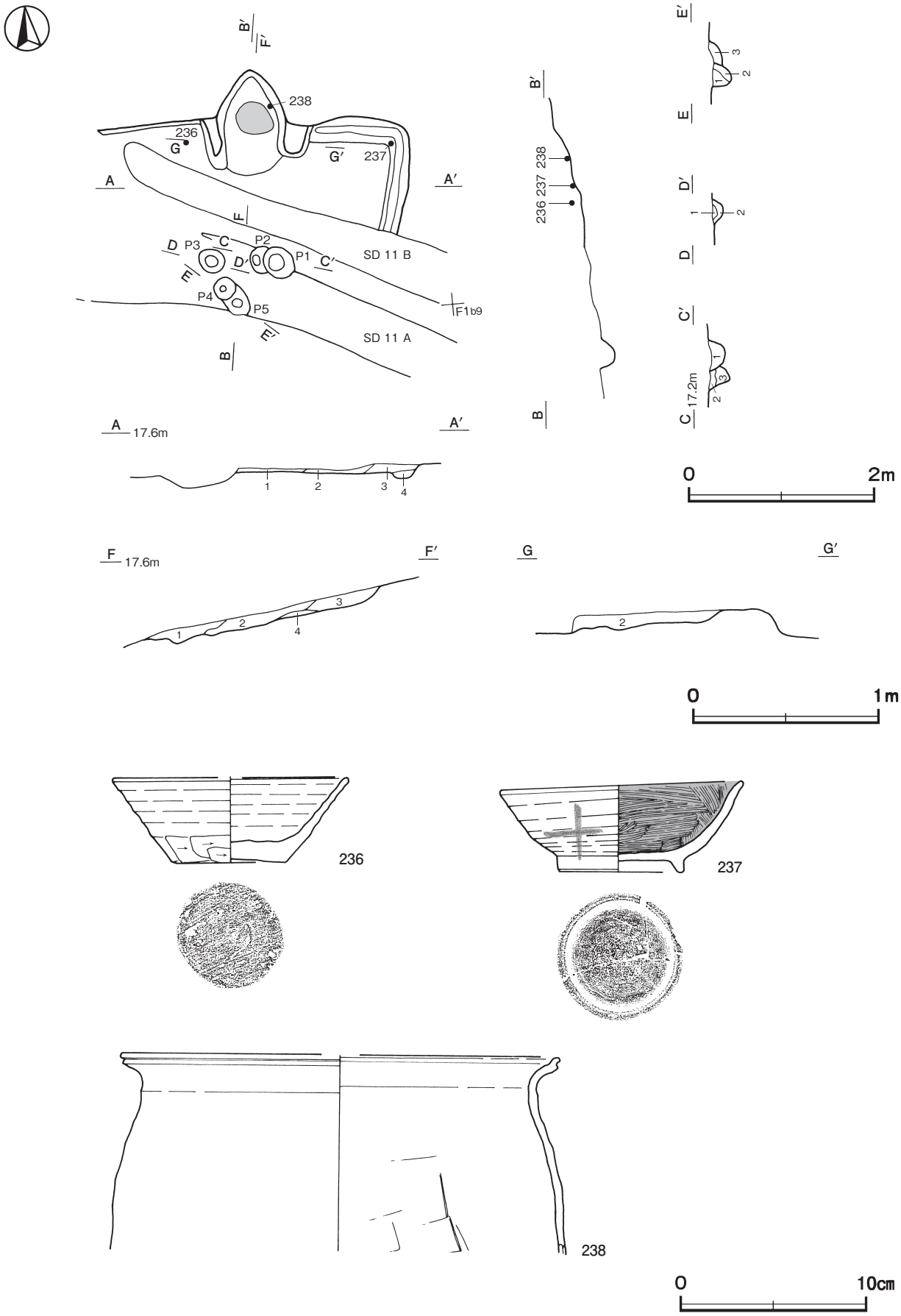
竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量	3	灰褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，砂質粘土ブロック微量	4	黒色	炭化物多量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ５は深さ 10 ～ 21cm で，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量	3	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量			



第 128 図　第 74 号住居跡・出土遺物実測図

覆土　４層に分層できる。各層に焼土や砂質粘土のブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
3　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
4　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片 27 点（高台付椀１, 甕 26), 須恵器片 19 点（坏 11, 盤１, 甕７）が出土している。また，混入した縄文土器片２点（深鉢）も出土している。238 は竈の覆土下層，237 は北東コーナー部壁際，236 は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。

第 74 号住居跡出土遺物観察表（第 128 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
236	須恵器	坏	［12.6］	4.6	5.7	長石・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	下層	40%
237	土師器	高台付椀	13.2	5.0	6.7	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後, 高台貼付　墨書「十」	下層	85% PL45・49
238	土師器	甕	［23.6］	（10.6）	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ヘラナデ	竈下層	10%

第 75 号住居跡（第 129 図）

位置　調査区南部西端のＦ１a7 区，標高 17.8 ｍの斜面部に位置している。

確認状況　斜面部のため南側の掘り込みがローム層まで達していなかったことから，北東コーナー部の一部しか確認できなかった。調査区域境の土層観察の結果，上部の黒色土層中に床面と南壁の立ち上がりが確認できた。

重複関係　第 11 Ａ・Ｂ号溝に掘り込まれている。

規模と形状　調査区域境の土層観察から南北軸は 5.10 ｍと推定でき，西側が調査区域外へ延びているため，東西軸は 2.11 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，南北軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁高は５～ 50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦な貼床で，硬化面は確認できなかった。貼床は，黒色土が地山となった南半部を深く掘りくぼめて，第 10 層を埋土して構築されている。

ピット　深さ 16cm で，性格不明である。

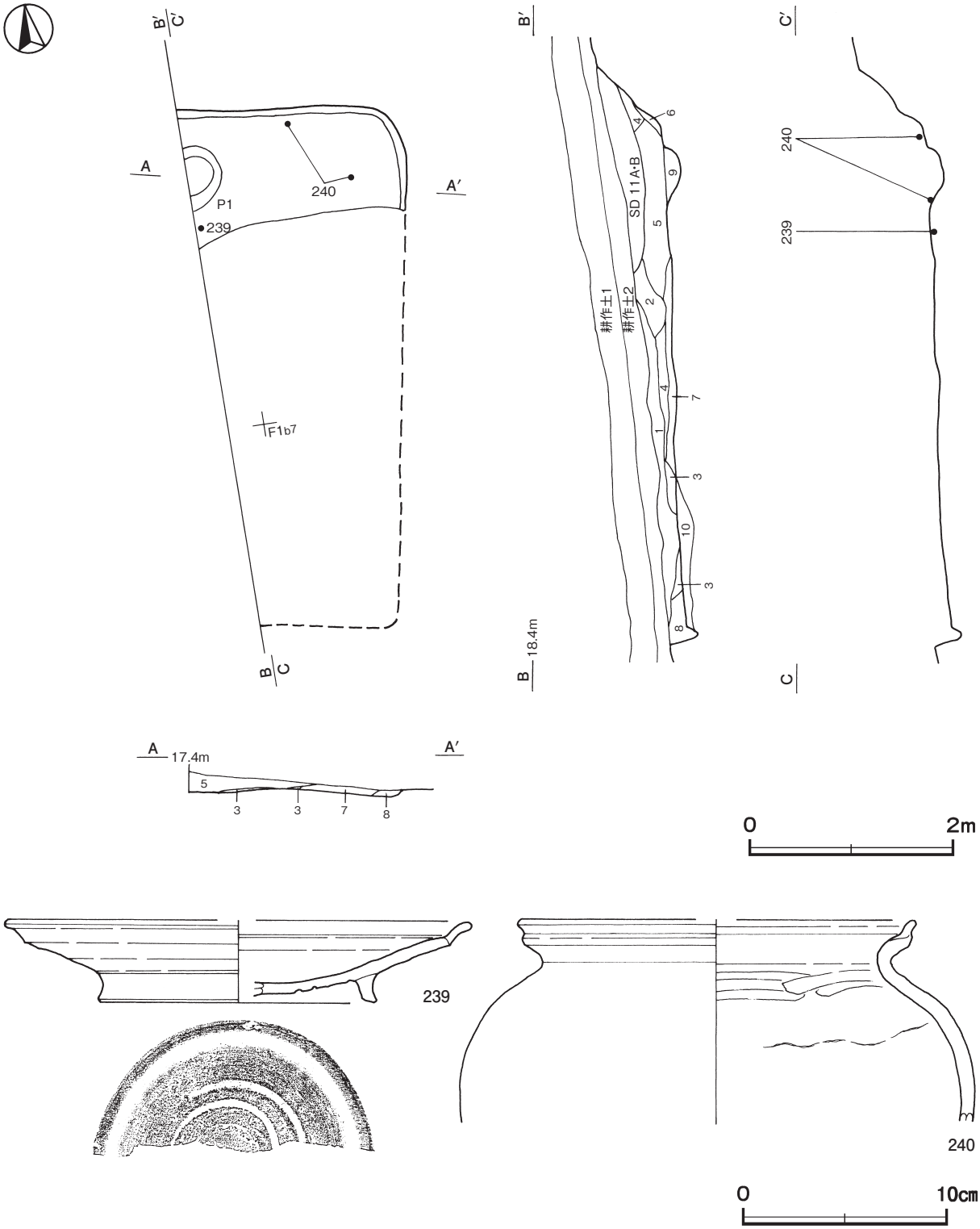
覆土　８層に分層できる。各層に焼土や砂質粘土のブロックを含んでいることから埋め戻されている。第９層はピット１の覆土，第 10 層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，炭化物少量
3　にぶい褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
4　黒　褐　色　砂質粘土ブロック少量，炭化物微量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量
6　にぶい褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　褐　灰　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量（ピット１）
10　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片 66 点（坏３, 甕類 63), 須恵器片６点（坏２, 高台付坏１, 盤１, 甕２）が出土している。239 は西部の床面から正位で，240 は北東部の覆土下層から散在した状態でそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。



第 129 図　第 75 号住居跡・出土遺物実測図

第 75 号住居跡出土遺物観察表（第 129 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
239	須恵器	盤	[22.5]	4.1	[13.5]	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	底部回転ヘラ切り後，高台貼付	床面	30%　PL45
240	土師器	甕	[19.2]	(9.9)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ヘラナデ	下層	30%

第 77 号住居跡（第 130 図）

位置　調査区中央部のＤ２c7 区，標高 24.5 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 41 号住居跡，第 30・35 号掘立柱建物跡，第７号方形竪穴遺構，第 844・882・883・892・972・973・1010・1060・1069 号土坑を掘り込んでいる。

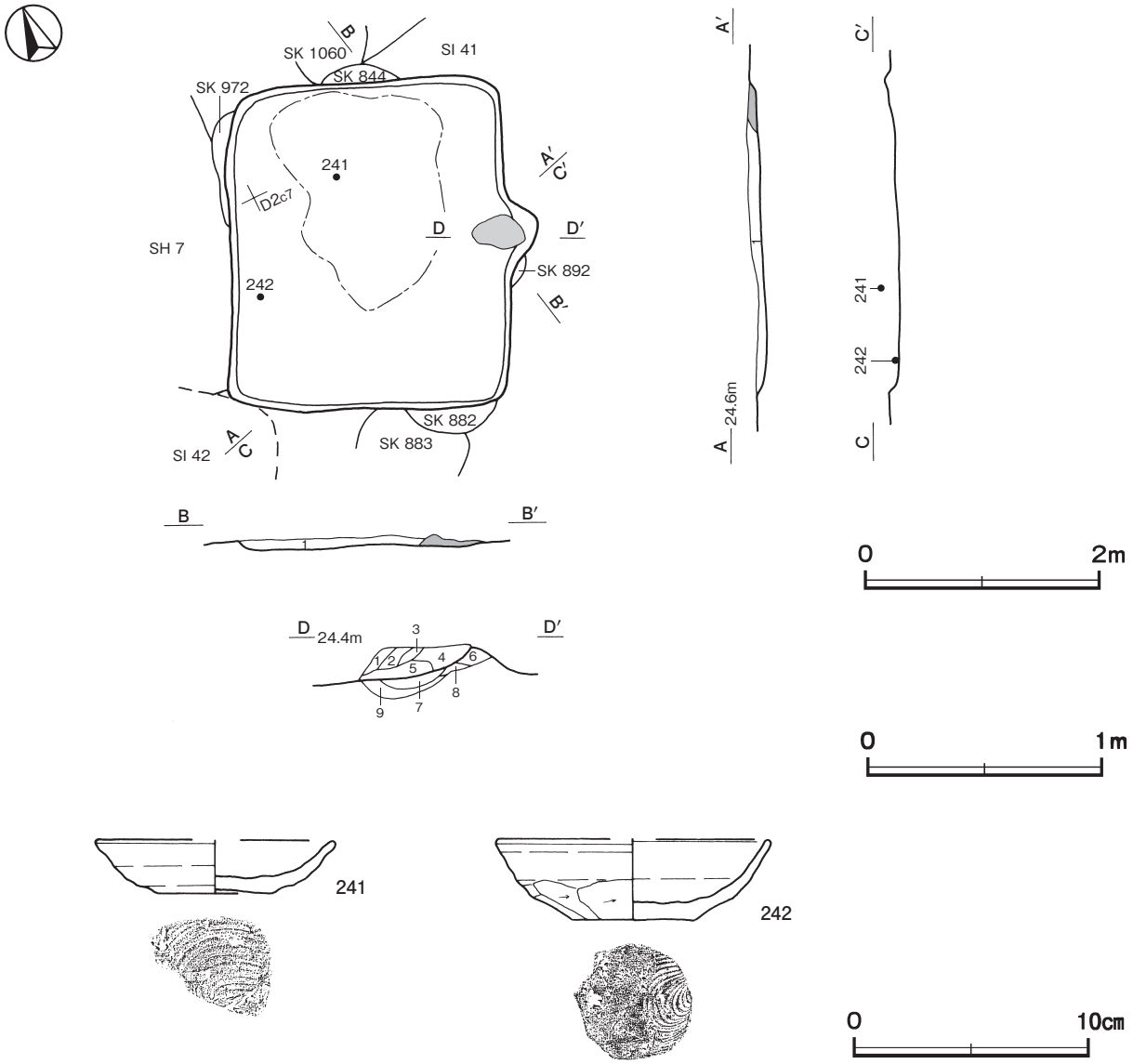
規模と形状　長軸 2.79 ｍ，短軸 2.38 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 116°－Ｅである。壁高は７～９㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，北部から中央部にかけて踏み固められている。

竈　東壁中央部に付設されている。遺存状態が悪いため，火床部と煙道部の掘り込みしか確認できなかった。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 23㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　焼土粒子少量
7　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量
8　にぶい褐色　焼土粒子中量
9　黒　褐　色　焼土ブロック中量



第 130 図　第 77 号住居跡・出土遺物実測図

覆土　単一層である。均質な黒色土が堆積していることから自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 152 点（坏 49，高台付椀 19，小皿２，甕 82）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点（深鉢），弥生土器片５点（広口壺），須恵器片 12 点（坏６，盤１，甕５），剥片１点（瑪瑙）も出土している。242 は西壁際の床面，241 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 11 世紀前葉に比定できる。

第 77 号住居跡出土遺物観察表（第 130 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
241	土師器	坏	[10.0]	2.3	4.8	長石･石英･雲母･針状鉱物	にぶい橙	普通	底部静止糸切り	上層	40%
242	土師器	小皿	[11.6]	3.5	5.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り	床面	50%

第 78 号住居跡（第 131・132 図）

位置　調査区中央部のＤ２g8 区，標高 24.4 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 54・55 号住居跡，第 963・967 号土坑，第 181・191 ～ 194 号ピットを掘り込み，第 969 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.50 ｍ，短軸 3.24 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 114 ゜－Ｅである。壁高は 14 ～ 24cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，コーナー部を除いて踏み固められている。

竈　南東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 90cm で，燃焼部幅は 50cm である。袖部は床面と同じ高さの地山に，灰黄褐色砂質粘土や黒色土の第 15・16 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から５㎝くぼんでいる。火床面は赤変硬化しており，煙道部寄りから４点の土師器坏，高台付椀（246・248・250・251）が，逆位に重ねられた状態で出土している。下部に焼土化した粘土塊（第 13・14 層）が確認できたことから，支脚として転用されている。煙道部は壁外に 42cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
2　にぶい赤褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量
3　暗　褐　色　焼土ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量
7　暗　褐　色　焼土粒子中量，砂質粘土ブロック微量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　黒　褐　色　砂質粘土ブロック微量
10　黒　褐　色　焼土粒子少量
11　黒　褐　色　焼土粒子微量
12　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
13　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
14　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
15　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
16　黒　褐　色　砂質粘土ブロック・焼土粒子微量

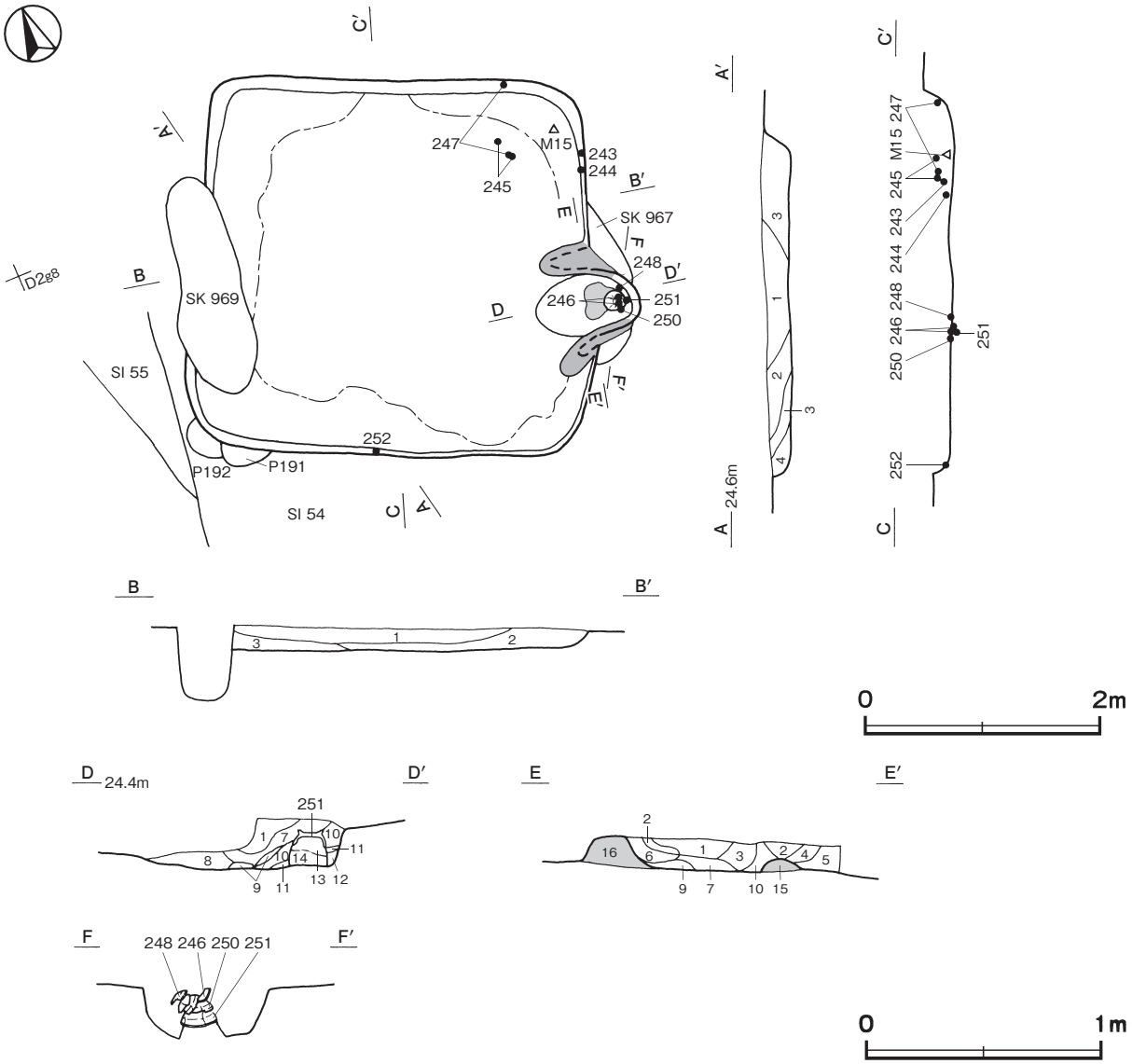
覆土　４層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　砂質粘土ブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片 261 点（坏 124，高台付椀７，甕 129，甑１），須恵器片 45 点（坏 16，蓋３，鉢４，甕 22），鉄製品１点（紡錘車軸部）が，東部の覆土中層を中心に出土している。また，流れ込んだ縄文土器片

８点（深鉢７，注口土器１）も出土している。246・248・250・251 は竈の火床面から逆位に重ねられた状態で出土しており，支脚として転用されている。252 は南西壁際の覆土下層，243･244･M 15 は東コーナー部壁際，245・247 は東部の覆土中層，249 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



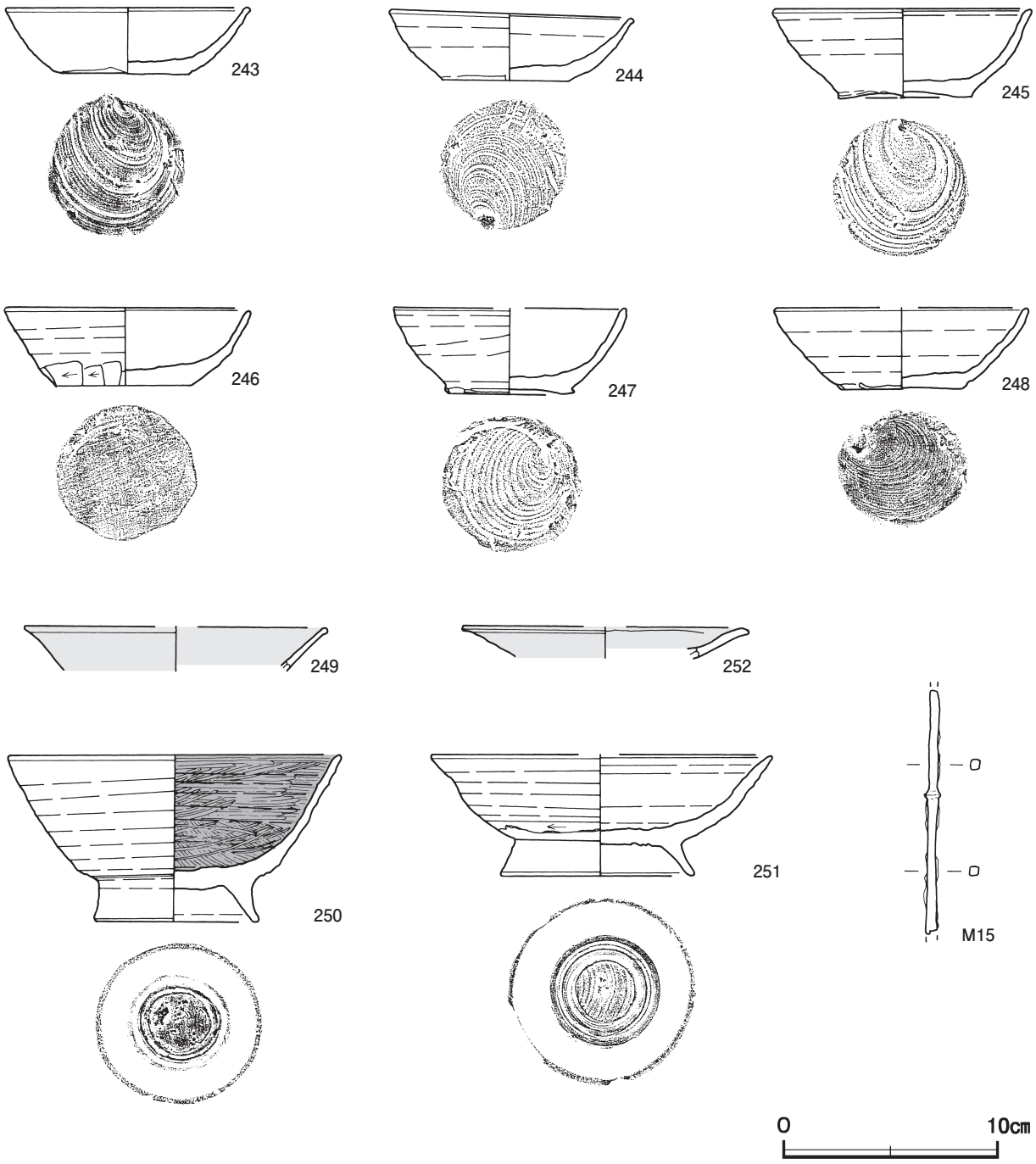
第 131 図　第 78 号住居跡実測図

第 78 号住居跡出土遺物観察表（第 132 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
243	土師器	坏	11.2	3.1	6.0	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	中層	90%　PL43
244	土師器	坏	11.3	2.9	5.8	長石・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	中層	100%　PL43
245	土師器	坏	12.0	4.2	6.2	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部静止糸切り	中層	90%　PL43
246	土師器	坏	11.4	3.7	6.5	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈火床面	70%　PL43
247	土師器	坏	[10.8]	4.0	5.8	長石・石英・針状鉱物	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	中層	70%　PL43
248	土師器	坏	[12.1]	3.7	6.0	長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	竈火床面	60%　PL44

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
249	灰釉陶器	椀	[14.1]	(2.1)	−	長石・石英	浅黄	良好	外・内面施釉	覆土中	5％　PL58
250	土師器	高台付椀	15.4	7.9	7.4	長石・雲母・黒色粒子・針状鉱物	明褐	良好	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，高台貼付	竈火床面	95％　PL44
251	土師器	高台付椀	[15.8]	5.6	8.8	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転糸切り後，高台貼付	竈火床面	45％　PL44
252	灰釉陶器	皿	[13.4]	(1.3)	−	長石・石英	黄灰	良好	外・内面施釉	下層	5％　PL58

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 15	紡錘車	(11.4)	0.8	0.5	(11.2)	鉄	軸部　関部から上位断面方形　下位断面円形	中層	PL55



第 132 図　第 78 号住居跡出土遺物実測図

第 79 号住居跡（第 133・134 図）

位置　調査区中央部のＤ２b6 区，標高 24.5 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 35 号掘立柱建物跡，第７号方形竪穴遺構，第 974 号土坑を掘り込み，第 42 号住居に掘り込まれている。

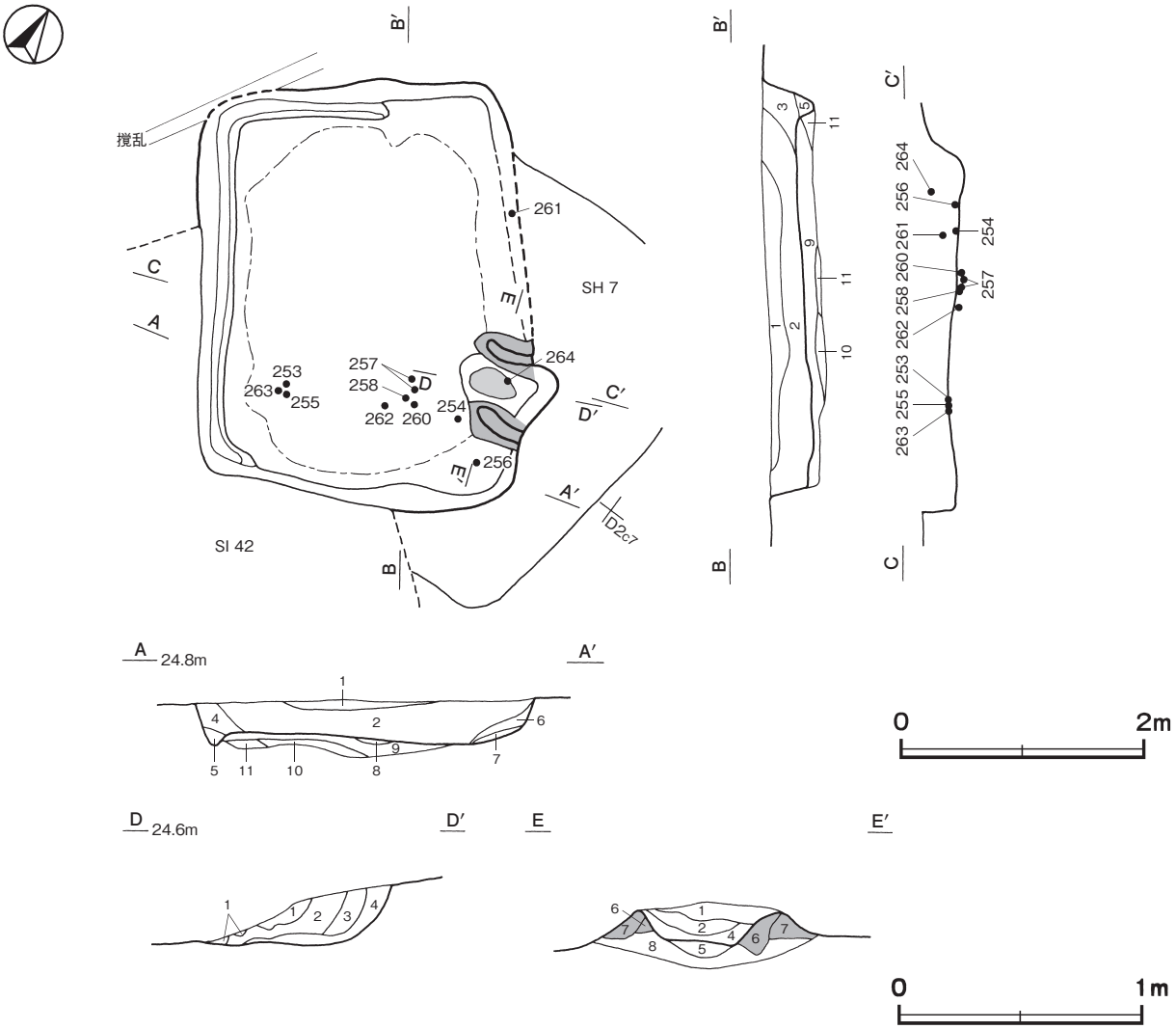
規模と形状　長軸 3.50 ｍ，短軸 2.60 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 52°－Ｅである。壁高は 30 ～ 41㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は，平坦に掘りくぼめた部分に砂質粘土ブロックや焼土粒子を多く含む第８～ 11 層を埋土して構築されている。西側の壁下には壁溝が確認できた。

竈　北東壁中央部から東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 78cm で，燃焼部幅は 39cm である。袖部は，深さ 10㎝の皿状に掘りくぼめた部分に暗褐色土の第８層を埋土して，にぶい橙色砂質粘土を主体とした第６・７層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 22㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黄　褐　色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量
3　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
6　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　にぶい橙色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子中量
8　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量



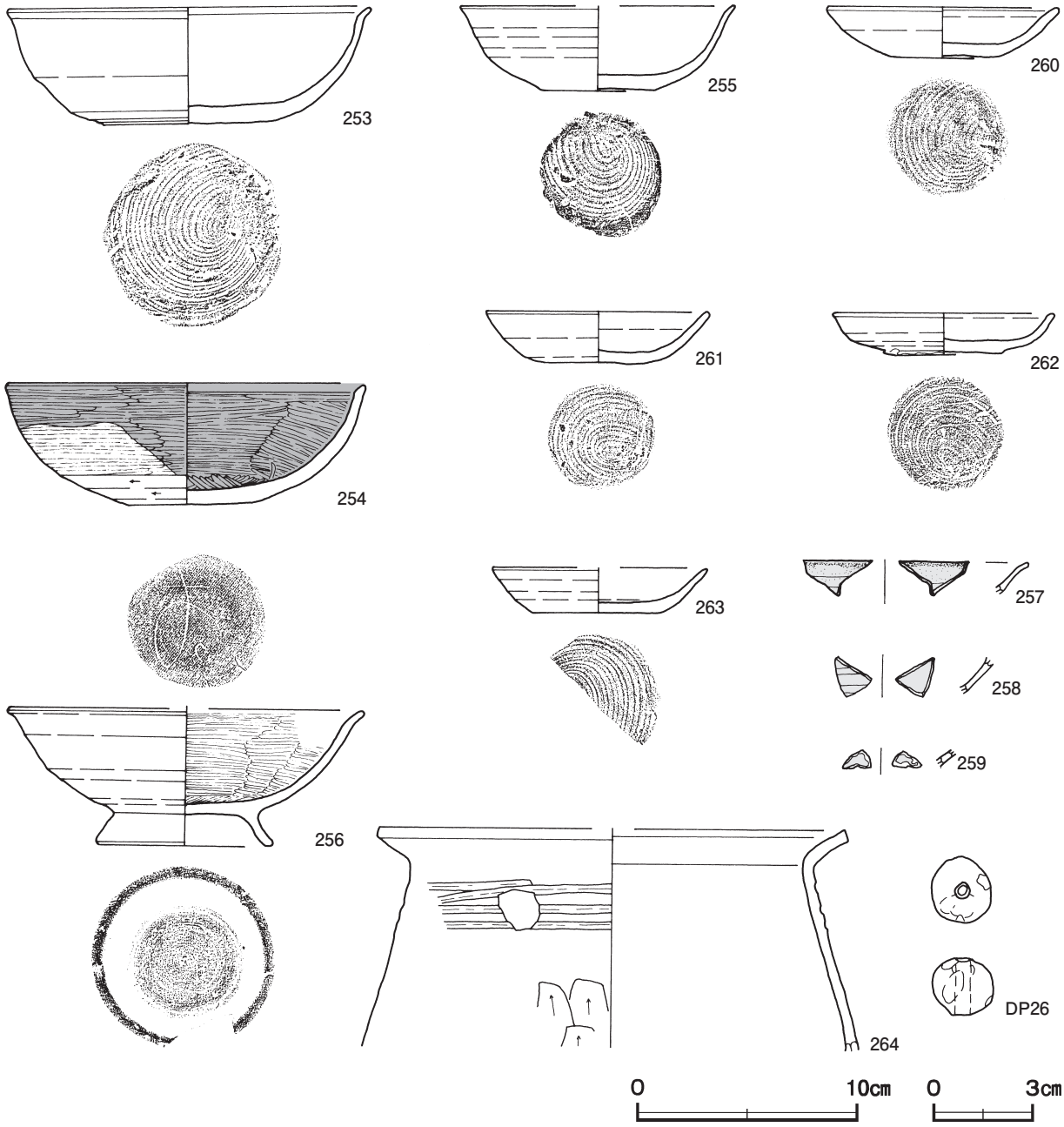
第 133 図　第 79 号住居跡実測図

覆土　７層に分層できる。ロームや焼土のブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。第８～11層は貼床の構築土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　焼土ブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，砂質粘土ブロック少量
7　暗　褐　色　炭化物・焼土粒子少量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物中量
9　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量
10　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
11　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片 639 点（坏 203, 高台付椀 29, 小皿６, 甕 400, 置き竈１）, 灰釉陶器片３点（椀２, 瓶１）, 緑釉陶器片３点（皿），土製品１点（土玉），鉄製品１点（釘），粘土塊２点が竈周辺から南部にかけての床面を中心に出土している。また，混入した縄文土器片２点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺），古墳時代の土



第 134 図　第 79 号住居跡出土遺物実測図

師器片４点（壺２，甕２），須恵器片 101 点（坏 35，高台付坏２，鉢２，甕 62），剥片１点（黒曜石）も出土している。259 は南部の貼床構築土，253・255・263 は南部，254・256・257・258・260・262 は竈周辺の床面，264 は竈の覆土上層，261 は北東壁際，DP26 は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。

第 79 号住居跡出土遺物観察表（第 134 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
253	土師器	坏	16.5	5.3	7.1	長石・雲母・針状鉱物	橙	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部回転糸切り	床面	80%　PL44
254	土師器	坏	16.1	5.6	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　外・内面ヘラ磨き　底部回転糸切り	床面	95%　PL44
255	土師器	坏	［12.5］	3.9	5.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	床面	50%　PL44
256	土師器	高台付椀	［16.0］	6.3	7.4	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	良好	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，高台貼付　箆書「ゐ」	床面	45%　PL44・49
257	緑釉陶器	椀	－	(1.5)	－	長石・石英	灰白	良好	外・内面施釉	床面	５％　PL58
258	緑釉陶器	皿	－	(1.5)	－	長石・石英	白灰	良好	外・内面施釉	床面	５％　PL58
259	緑釉陶器	皿	－	(0.7)	－	長石・石英	灰白	良好	外・内面施釉	貼床構築土	５％　PL58
260	土師器	小皿	10.6	2.3	4.8	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	床面	100%　PL44
261	土師器	小皿	10.0	2.4	4.6	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	上層	100%　PL44
262	土師器	小皿	10.2	2.0	5.3	長石・雲母・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	床面	70%　PL44
263	土師器	小皿	［9.8］	2.1	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	床面	40%
264	土師器	甕	［21.3］	(10.0)	－	長石・雲母	にぶい橙	良好	体部上位ヘラ状工具による沈線　下半ヘラ削り	竈上層	20%

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP26	土玉	1.8	2.0	0.4	(6.1)	長石	一方向からの穿孔　孔端部摩滅　紐擦れ痕有り	上層	PL52

第 81 号住居跡（第 135・136 図）

位置　調査区中央部のＤ２c3 区，標高 24.2 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 479 号土坑を掘り込み，第 960 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.61 ｍ，短軸 3.42 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 10°－Ｅである。壁高は 25cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，壁際まで踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 80cm で，燃焼部幅は 57cm である。袖部は床面と同じ高さの地山に，灰褐色砂質粘土を主体とした第 11 ～ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から３㎝くぼんでいる。火床面は赤変硬化しており，煙道部寄りには支脚（DP27）が据えられている。煙道部は壁外に 20㎝掘り込まれ，火床部から彎曲して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　にぶい褐色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・ローム粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子多量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子多量，焼土ブロック微量
8　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
9　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10　赤　褐　色　焼土ブロック多量
11　褐　灰　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
12　褐　灰　色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量
13　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量
14　黒　褐　色　砂質粘土ブロック少量，ロームブロック微量
15　黒　褐　色　ロームブロック少量
16　暗　褐　色　ロームブロック中量
17　黒　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量
18　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量
19　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量

ピット　深さ24cmで，南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

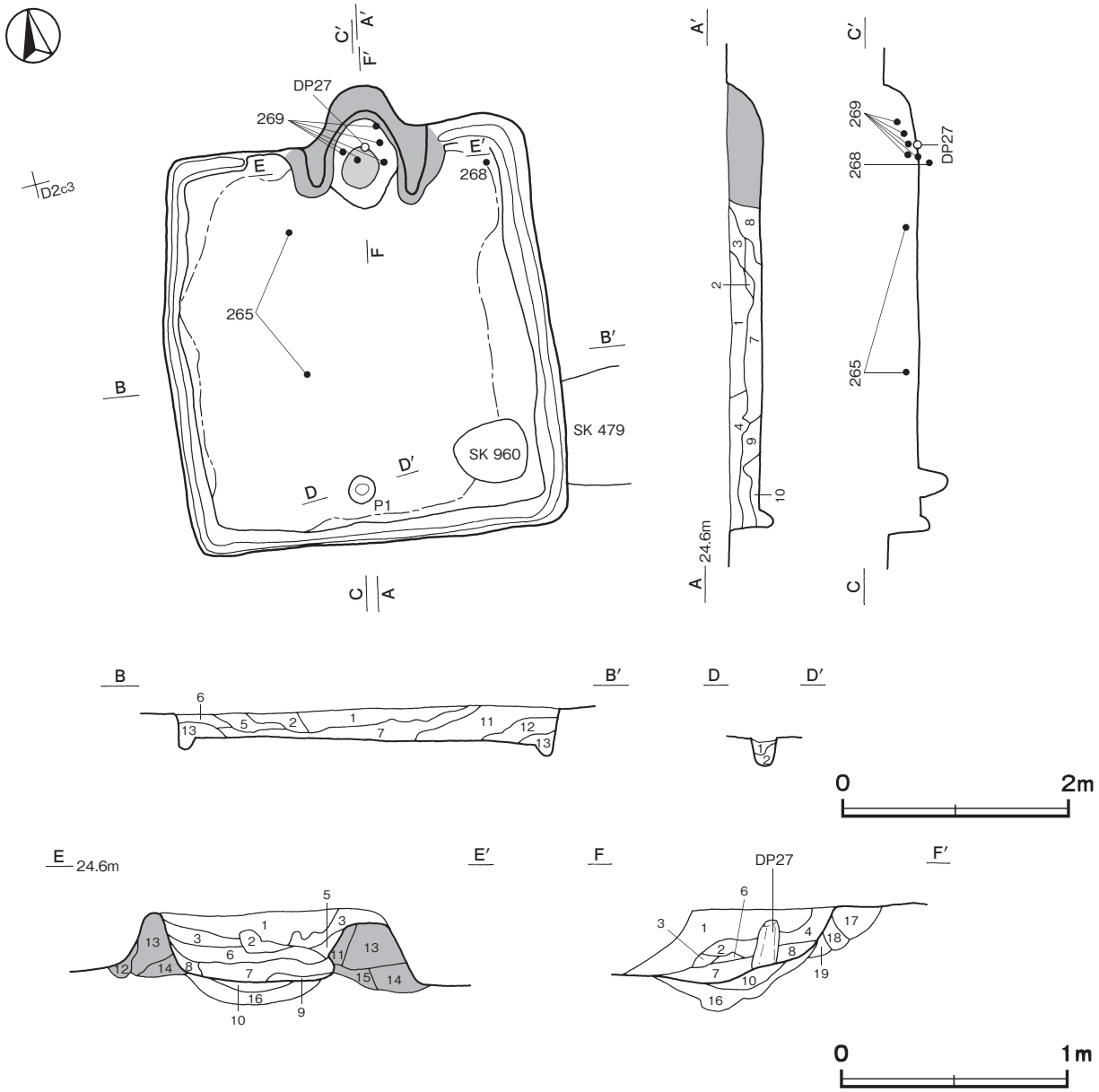
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量

覆土　13層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

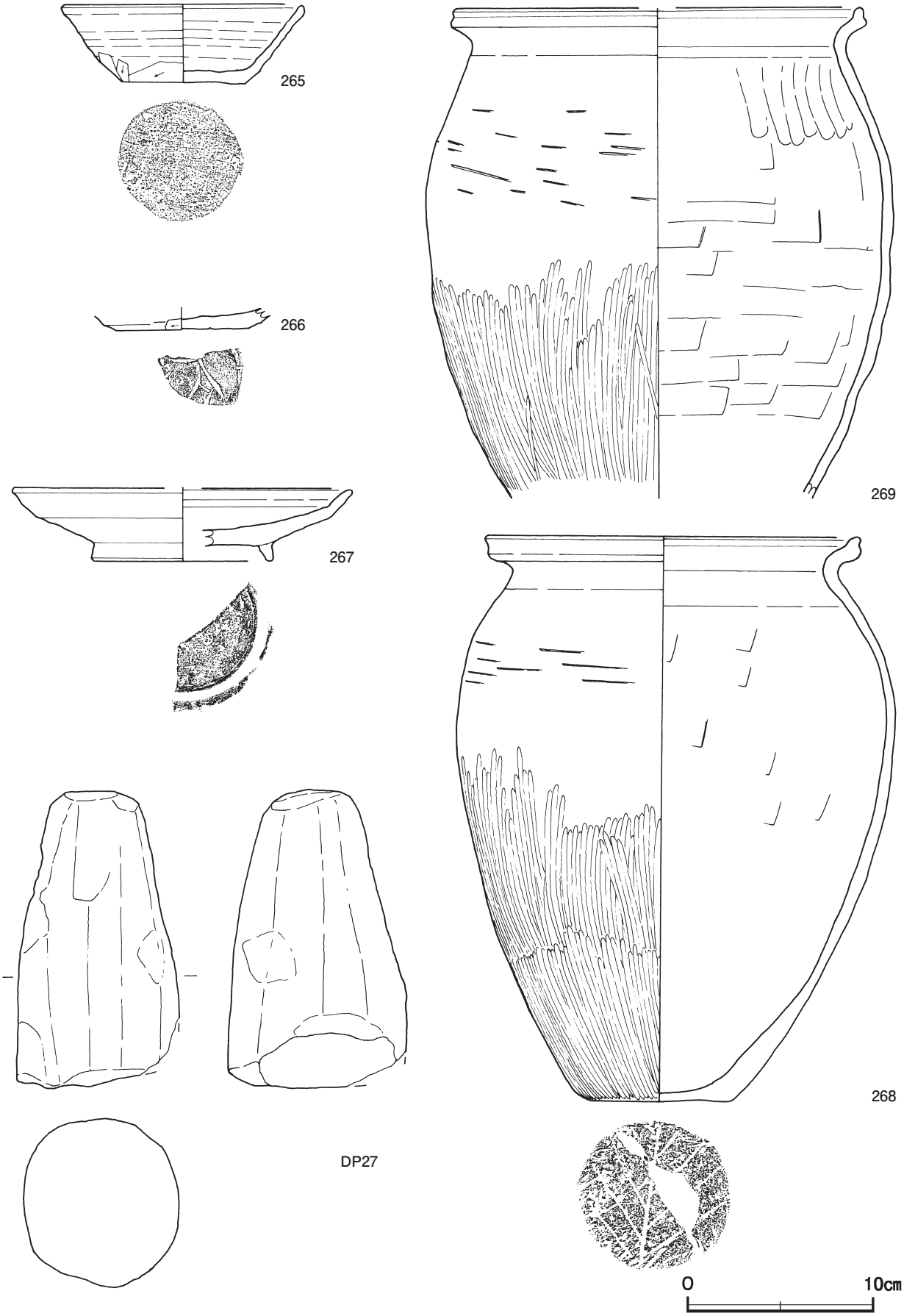
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
5　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
10　黒　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量
11　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
13　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片127点（坏11，甕116），須恵器片52点（坏41，高台付坏1，盤1，瓶1，甕8），土製品1点（支脚），粘土塊1点が出土している。また，混入した縄文土器片9点（深鉢），弥生土器片2点（広口壺）も出土している。268は北東コーナー部の床面から横位の状態で，269は竈の覆土中層から破片が散在



第135図　第81号住居跡実測図



第 136 図　第 81 号住居跡出土遺物実測図

した状態で，265 は中央部の覆土下層，267 は竈の覆土中，266 は北西部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。

第 81 号住居跡出土遺物観察表（第 136 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
265	須恵器	坏	12.9	4.3	6.5	長石・石英・礫	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部不定方向のヘラ削り	下層	60%　PL45
266	須恵器	坏	－	(1.2)	[7.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部不定方向のヘラ削り　篦書「□」	覆土中	５%
267	須恵器	盤	[18.2]	3.9	[9.6]	長石・石英・雲母	灰黄	不良	底部回転ヘラ削り後，高台貼付	竈覆土中	40%
268	土師器	甕	20.0	30.6	8.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面上半・内面ヘラナデ　外面下半ヘラ磨き	床面	90%　PL45
269	土師器	甕	[21.7]	(26.5)	－	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面上半・内面ヘラナデ　外面下半ヘラ磨き	竈中層	40%

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP27	支脚	4.8	(9.6)	16.1	(967)	長石	ヘラ削り	竈火床面	PL53

表８　平安時代　竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備　考 重複関係（古→新）
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
12	B 2 h3	[長方形]	N－138°－E	[4.70 × 3.70]	－	平坦	－	4	1	2	竈１	1	－	土師器片，管状土錘，砥石	10 世紀後葉	
13	C 1 a0	[方形・長方形]	N－124°－E	2.96 × (2.07)	15～20	平坦	－	－	－	－	竈１	－	自然	土師器片，支脚，刀子	10 世紀中葉	
19	C 1 g0	[長方形]	N－30°－E	4.38 × 3.30	10～13	平坦	－	－	－	3	竈１	－	自然	土師器片	10 世紀後葉	SH10，SK887 →本跡
22	C 1 i9	[方形・長方形]	N－14°－E	3.64 × (1.05)	11～25	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器片	９世紀後半	
35	C 2 j9	方形	N－12°－E	3.57 × 3.57	41～48	平坦	－	－	1	－	竈１	－	自然人為	土師器片，須恵器片，支脚，刀子，鉄滓	９世紀後葉	SB23･29,SK270･884,P182･183 →本跡
37	C 3 j3	[方形・長方形]	N－21°－E	2.68 × (1.83)	5～10	平坦	一部	－	1	2	竈１	1	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，釘	９世紀後葉	本跡→ P88
42	D 2 c6	[長方形]	N－132°－E	[3.90 × 3.58]	－	平坦	－	－	－	－	竈１	－	－	土師器片	10 世紀後葉	SI41･79，SB30･35，SH ７他→本跡
45	D 3 b1	方形	N－110°－E	3.83 × 3.42	5～10	段差	ほぼ全周	－	1	－	竈１	1	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，緑釉陶器片，土玉，鉄滓	10 世紀前葉	SB ７･23，SK1131 →本跡→ SK242･247
46	D 3 b2	方形	N－118°－E	3.16 × 2.95	1～3	平坦	全周	－	1	－	竈１	－	人為	土師器片	10 世紀前半	SB22→本跡→SK241
47	D 3 c2	方形	N－120°－E	2.48 × 2.37	4～12	平坦	一部	－	1	－	竈１	－	人為	土師器片	10 世紀後半	SB22･SK869 →本跡
48	D 2 e9	方形	N－17°－E	4.21 × 4.14	53～58	平坦	全周	2	1	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，支脚	９世紀中葉	SK1065 →本跡→ SI50,SK983・1064
49	D 2 e8	長方形	N－5°－E	6.05 × 4.85	27～30	平坦	－	4	2	13	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，釘，鎌，砥石	９世紀末葉	SI50 →本跡 → SK893･912
50	D 2 d8	[方形・長方形]	N－2°－E	3.52 × (3.31)	30～34	平坦	－	2	1	2	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，紡錘車，支脚，釘	９世紀後葉	SI48 →本跡→ SI49
51	D 1 e0	[方形]	N－35°－W	[4.80 × 4.30]	－	平坦	－	4	1	1	竈１	－	－	土師器片，須恵器片	平安	
56	D 2 h7	長方形	N－107°－E	3.56 × 3.12	4～7	平坦	[全周]	－	1	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，鬥	平安	SI57,SB26 →本跡 → SB38
63	D 2 f5	方形	N－24°－E	4.27 × 4.13	4～9	平坦	全周	－	1	－	竈１	－	自然	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片	10 世紀前葉	SI62･64,SB19･20･28,SK962,P198･348 →本跡
67	D 2 d2	長方形	N－17°－E	3.91 × 3.10	21～25	平坦	ほぼ全周	－	1	3	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，土玉，支脚，刀子	９世紀中葉	SB18 →本跡
71	D 2 j2	[長方形]	N－91°－E	[2.80 × 2.40]	－	平坦	－	3	－	－	竈１	－	－	土師器片，須恵器片，支脚	平安	
74	F 1 a8	[方形・長方形]	N－3°－E	(3.28 × 2.50)	4～8	平坦	一部	－	－	5	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片	９世紀中葉	本跡→ SD11A･B
75	F 1 a7	[方形・長方形]	N－5°－E	[5.10] × (2.11)	5～50	平坦	－	－	－	1	－	－	人為	土師器片，須恵器片	９世紀前葉	本跡→ SD11A･B
77	D 2 c7	長方形	N－116°－E	2.79 × 2.38	7～9	平坦	－	－	－	－	竈１	－	自然	土師器片	11 世紀前葉	SI41,SB30･35,SH7 他→本跡
78	D 2 g8	方形	N－114°－E	3.50 × 3.24	14～24	平坦	－	－	－	－	竈１	－	自然	土師器片，須恵器片，紡錘車	10 世紀前葉	SI54･55 他→本跡→ SK969
79	D 2 b6	長方形	N－52°－E	3.50 × 2.60	30～41	平坦	一部	－	－	－	竈１	－	人為	土師器片，灰釉陶器片，緑釉陶器片，土玉，釘	10 世紀中葉	SB35,SH7,SK974 →本跡→ SI42
81	D 2 c3	方形	N－10°－E	3.61 × 3.42	25	平坦	全周	－	1	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，支脚	９世紀前葉	SK479 →本跡 → SK960

(2)　掘立柱建物跡

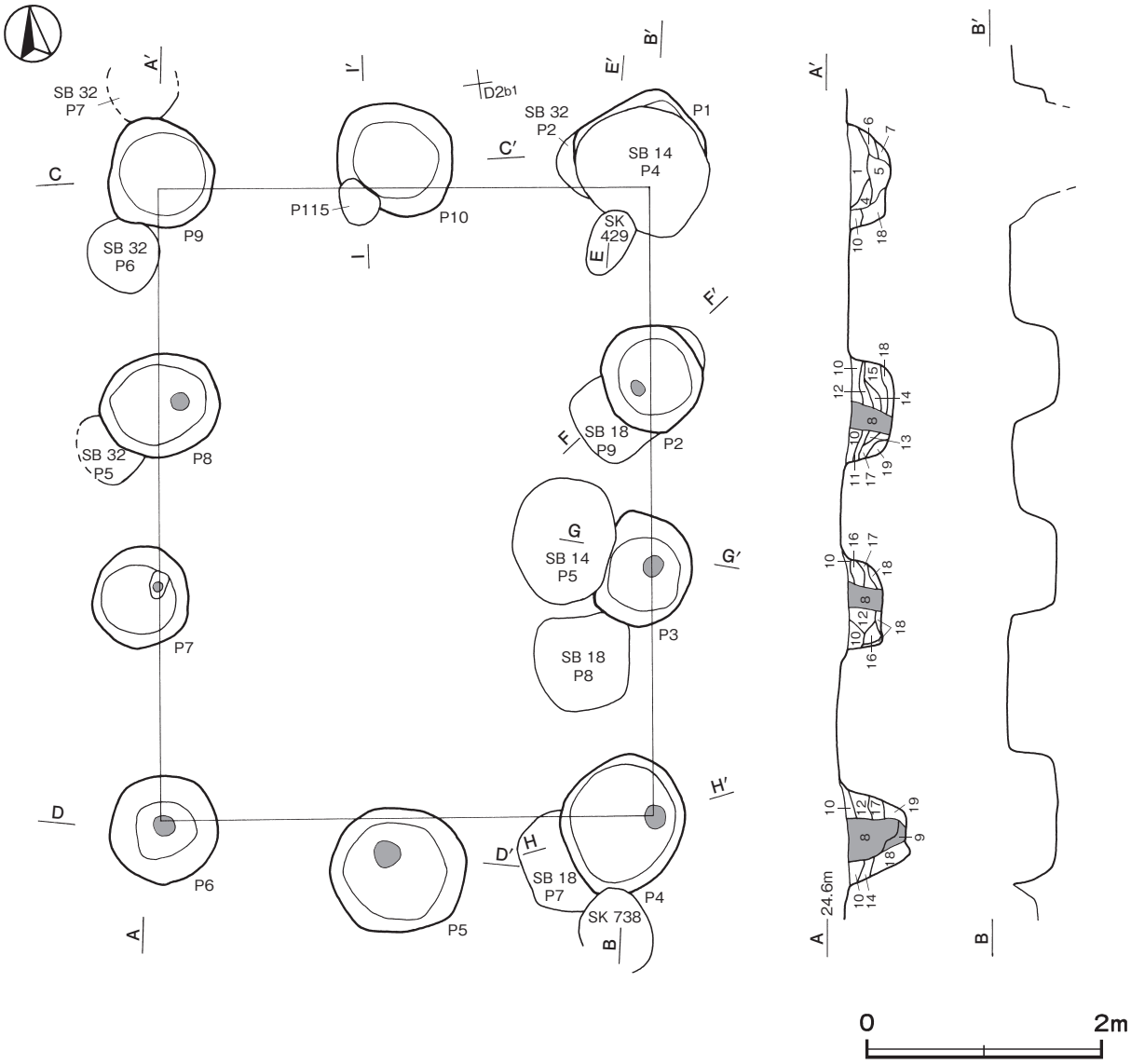
第３号掘立柱建物跡（第 137・138 図）

位置　調査区中央部のＤ１b0 ～Ｄ２c1 区，標高 24.5 mの平坦な台地上に位置している。

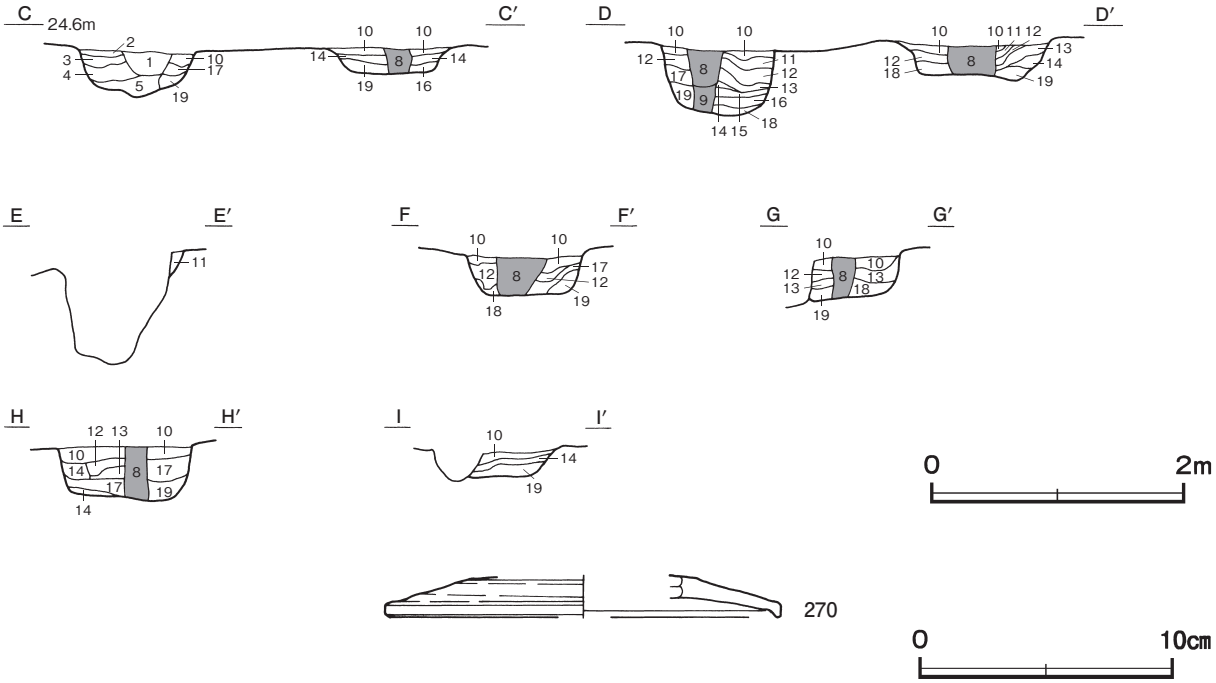
重複関係　第 18・32 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 14 号掘立柱建物，第 429・738 号土坑，第 115 号ピットに掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－８°－Ｅの南北棟である。規模は桁行 5.45 m，梁行 4.24 mで，面積は 23.11㎡である。柱間寸法は，桁行が 1.82 m（６尺），梁行が 2.12 m（７尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10 か所。平面形は円形で，径 81 ～ 120㎝である。深さは 25 ～ 60cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１～７層は柱の抜き取り痕，第８・９層は柱痕跡，第 10 ～ 19 層は掘方への埋土である。



第 137 図　第３号掘立柱建物跡実測図



第 138 図　第３号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　黒　　色　ロームブロック中量
5　黒　　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　極 暗 褐 色　ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ローム粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック中量
10　黒　褐　色　ローム粒子中量
11　黒　褐　色　ロームブロック微量
12　暗　褐　色　ローム粒子中量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
14　灰 黄 褐 色　ローム粒子中量
15　黒　褐　色　ロームブロック少量
16　黒　　色　ロームブロック少量
17　黒　褐　色　ローム粒子少量
18　褐　　色　ロームブロック多量
19　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 38 点（坏１，甕 37），須恵器片 15 点（坏６，蓋１，甕８）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片 12 点（深鉢 11，浅鉢１），古墳時代の土師器片１点（甕）も出土している。270 はＰ４の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀前葉と考えられる。

第３号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 138 図）

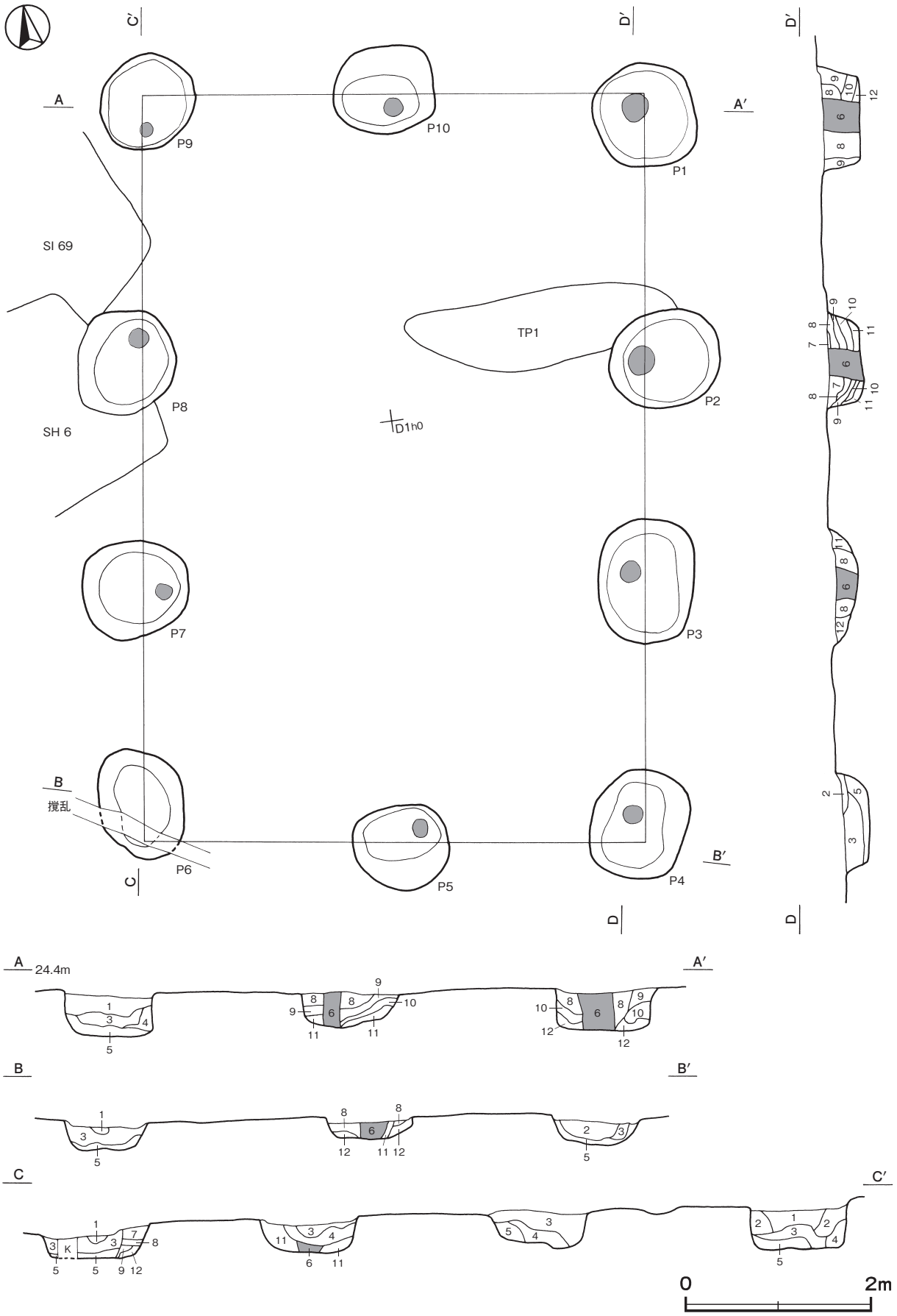
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
270	須恵器	蓋	[15.4]	(1.6)	－	長石・石英	褐灰	良好	天井部回転ヘラ削り	Ｐ４	10%

第５号掘立柱建物跡（第 139・140 図）

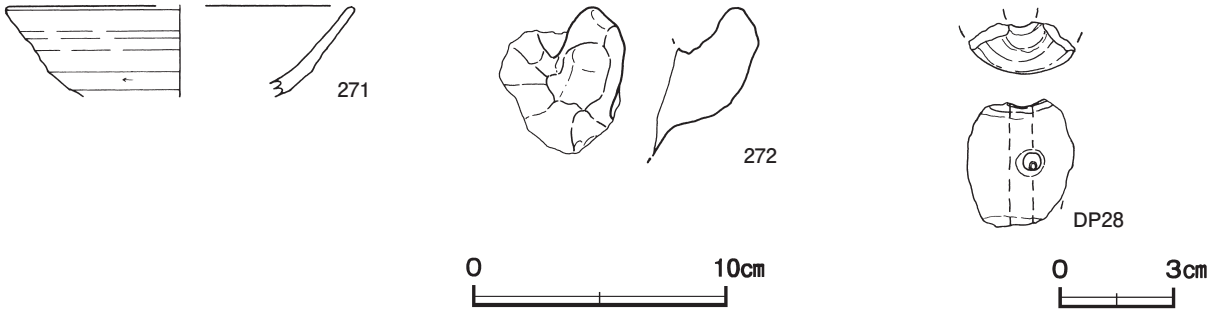
位置　調査区中央部のＤ１g9 ～Ｄ１i0 区，標高 24.2 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 69 号住居跡，第１号陥し穴を掘り込み，第６号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－６°－Ｅの南北棟である。規模は桁行 8.18 ｍ，梁行 5.45 ｍで，面積は 44.59㎡である。柱間寸法は，桁行，梁行ともに 2.73 ｍ（９尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。



第 139 図　第 5 号掘立柱建物跡実測図



第 140 図　第５号掘立柱建物跡出土遺物実測図

柱穴　10 か所。平面形は不整楕円形で，長径 102 ～ 134cm，短径 91 ～ 107cmである。深さは 17 ～ 43cm で，掘方の断面形は長方形または逆台形である。第１～５層は柱の抜き取り痕，第６層は柱痕跡，第７～ 12 層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　褐　　色　ロームブロック多量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量
9　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量
10　黒　　色　ロームブロック微量
11　灰 黄 褐 色　ロームブロック多量
12　黒　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 70 点（坏 11，高台付椀１，甕 53，甑５），須恵器片 22 点（坏 14，甕８），土製品１点（土玉）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片６点（深鉢），弥生土器片３点（広口壺），粘土塊１点，剥片２点（滑石）も出土している。271・272 はＰ 10 の埋土，DP28 はＰ８の柱の抜き取り痕からぞれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉と考えられる。

第５号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 140 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
271	土師器	高台付椀	[13.8]	(3.6)	－	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	Ｐ 10	20%
272	土師器	甑	－	(5.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	把手片　指頭痕	Ｐ 10	５％

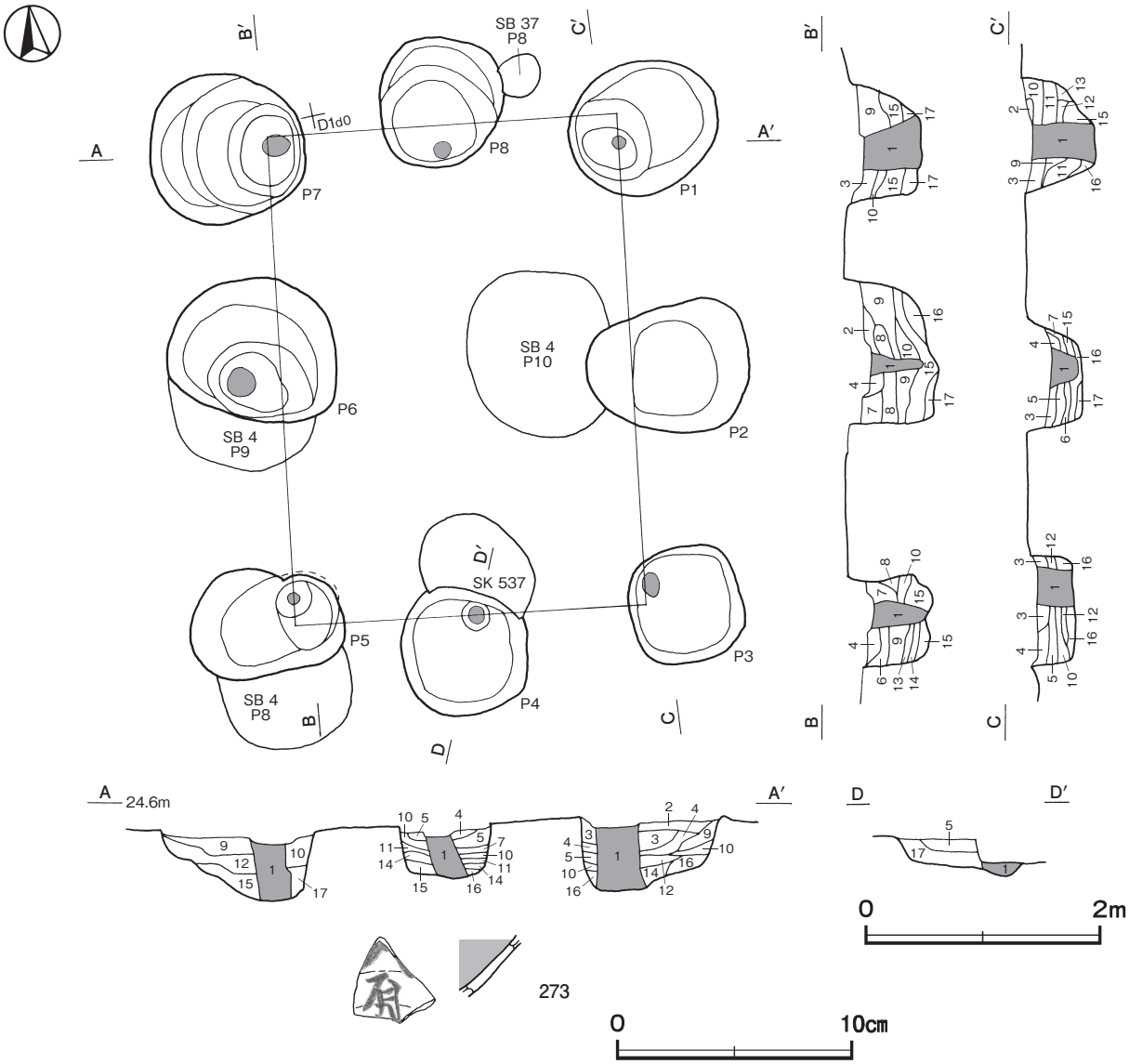
番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP28	土玉	(3.4)	(2.8)	(0.5)	(10.6)	長石・石英・赤色粒子	一方向からの穿孔　穿孔ミス１か所　孔端部ナデ	Ｐ８	

第６号掘立柱建物跡（第 141 図）

位置　調査区中央部のＤ１c9 ～Ｄ１e0 区，標高 24.4m の平坦な台地上に位置している。

重複関係　第４号掘立柱建物跡を掘り込み，第 37 号掘立柱建物，第 537 号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－７°－Ｅの南北棟である。規模は桁行 4.24 m，梁行 3.04 mで，面積は 12.89㎡である。柱間寸法は桁行が 2.12 m（７尺），梁行が 1.52 m（５尺）の均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。



第 141 図　第 6 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴　8 か所。平面形は隅丸方形または楕円形で，長軸・径 99 ～ 145cm，短軸・径 93 ～ 125cmである。深さは 50 ～ 83cm で, 掘方の断面形は逆台形である。第 1 層は柱痕跡, 第 2 ～ 17 層は埋土で, 版築状を呈している。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　灰 黄 褐 色　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック多量
6　灰 黄 褐 色　ローム粒子少量
7　黒　　色　ロームブロック少量
8　黒　　色　ロームブロック多量
9　黒　褐　色　ロームブロック多量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量
11　黒　褐　色　ロームブロック中量
12　暗　褐　色　ロームブロック多量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量
14　黒　　色　ローム粒子中量
15　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
16　黒　褐　色　ローム粒子多量
17　黒　　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片 45 点（坏 7，甕 38），須恵器片 7 点（坏 4，甕 3）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片 16 点（深鉢），弥生土器片 2 点（広口壺），剥片 1 点（黒曜石）も出土している。273 は P 1 の埋土から出土している。

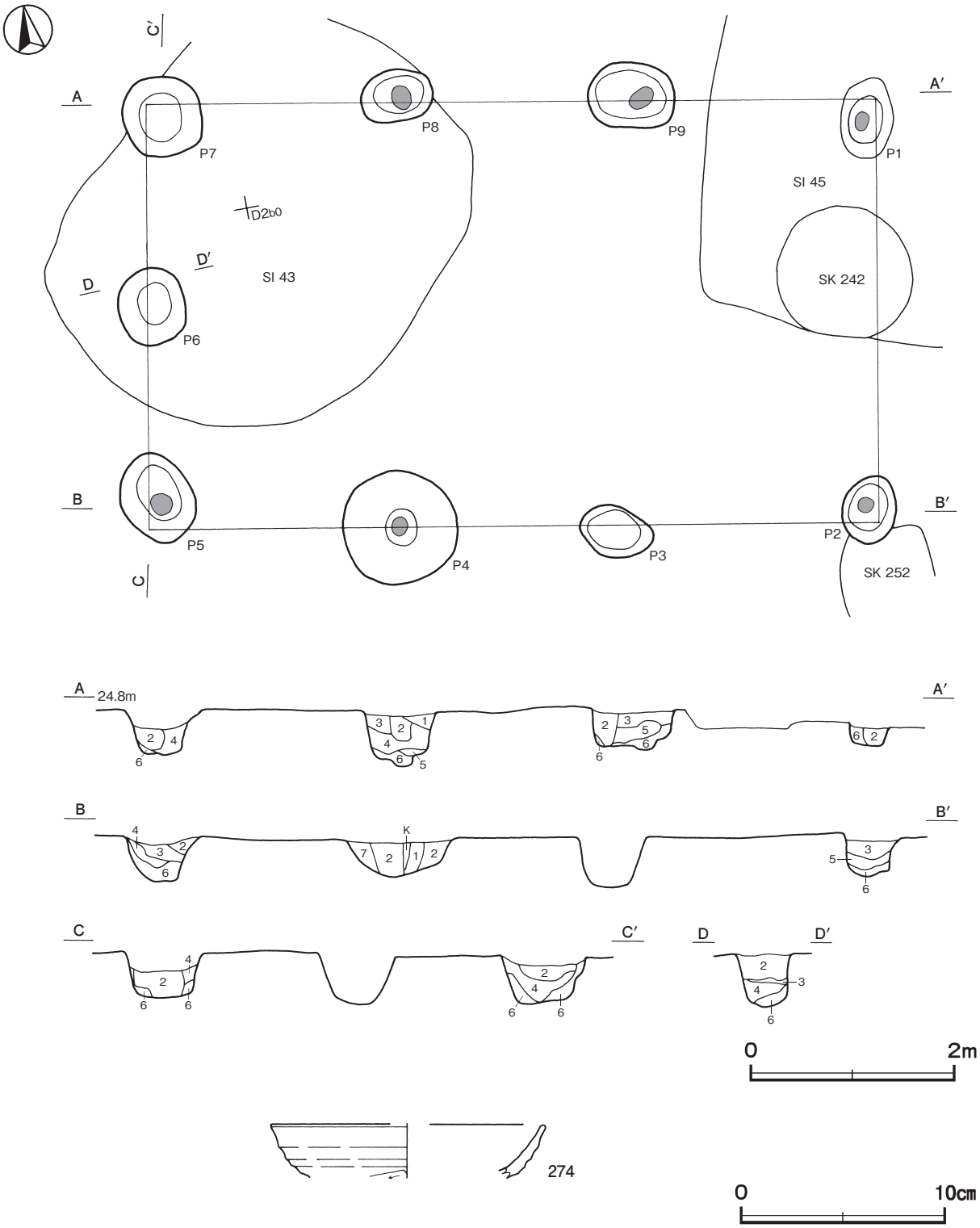
所見　時期は，出土土器や重複関係から 9 世紀後半と考えられる。

第６号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 141 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
273	土師器	坏	－	(2.6)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「□原ヵ」	Ｐ１	５％　PL51

第７号掘立柱建物跡（第 142 図）

位置　調査区中央部のＤ２a9 ～Ｄ３c1 区，標高 24.7 ｍの平坦な台地上に位置している。



第 142 図　第７号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係　第43号住居跡，第252号土坑を掘り込み，第45号住居，第242号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向N－80°－Wの東西棟である。規模は桁行7.26 m，梁行4.24 mで，面積は30.78㎡である。柱間寸法は，桁行が2.42 m（８尺），梁行が2.12 m（７尺）で，均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　９か所。平面形は円形または楕円形で，長径68～112㎝，短径52～110㎝である。深さは28～58cmで，掘方の断面形は逆台形またはU字状である。第１～７層は柱の抜き取り痕である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子多量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量
5　黒　褐　色　ロームブロック多量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量
7　黒　褐　色　ロームブロック多量・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片36点（坏８，甕28），須恵器片６点（坏２，甕４），鉄滓１点（17.0g）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片７点（深鉢６，浅鉢１），弥生土器片１点（広口壺），古墳時代の土師器片３点（器台１，甕２），土製品１点（土器片円盤）も出土している。274はＰ６の柱の抜き取り痕から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から10世紀前葉と考えられる。

第７号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第142図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
274	土師器	坏	[13.4]	(2.6)	－	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	Ｐ６	５％

第８号掘立柱建物跡（第143図）

位置　調査区南部のＦ１e8～Ｆ１f9区，標高15.2 mの斜面部から低地部への傾斜変換点付近に位置している。

重複関係　第９号掘立柱建物跡を掘り込み，第13号溝に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向N－75°－Wの東西棟である。規模は桁行6.36 m，梁行4.24 mで，面積は26.97㎡である。柱間寸法は，桁行，梁行ともに2.12 m（７尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

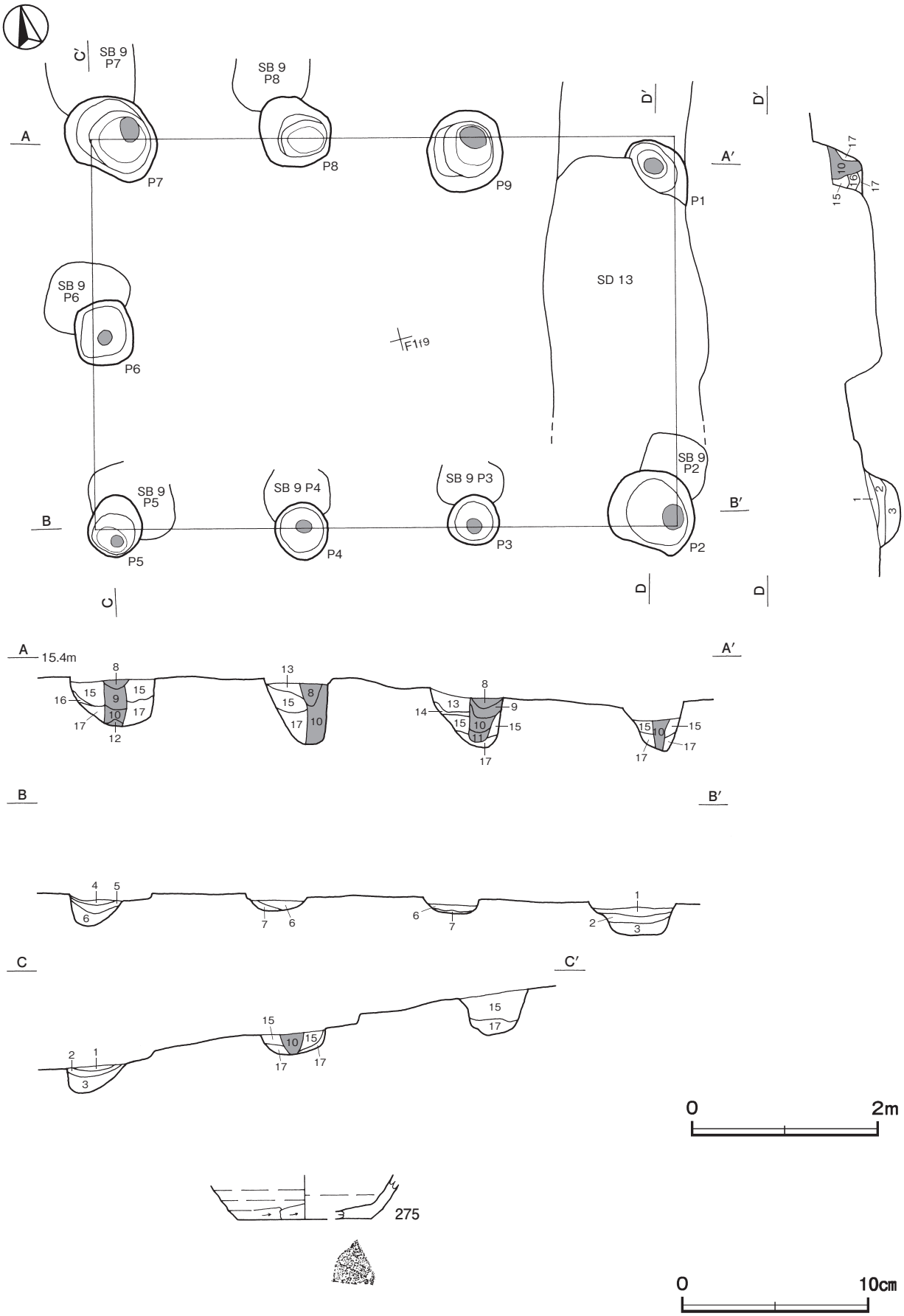
柱穴　９か所。平面形は隅丸長方形または円形で，長軸・径55～100㎝，短軸・径55～80㎝である。深さは14～70cmで標高の高い北平側が深く，掘方の断面形はU字状である。第１～７層は柱の抜き取り痕，第８～12層は柱痕跡，第13～17層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　暗　褐　色　粘土ブロック・砂中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　粘土ブロック多量，炭化粒子微量
3　灰黄褐色　粘質土ブロック多量
4　黒　褐　色　粘土ブロック多量，砂中量
5　暗　褐　色　粘土ブロック・砂中量，炭化物微量
6　黒　褐　色　砂中量，炭化粒子微量
7　にぶい黄褐色　粘質土ブロック・砂中量
8　暗　褐　色　炭化粒子・焼土粒子・砂微量
9　黒　褐　色　粘土ブロック多量，砂微量
10　黒　褐　色　粘土粒子・砂多量
11　黒　褐　色　粘土ブロック多量，砂少量
12　暗灰黄色　粘土ブロック多量，黒色土ブロック中量
13　暗　褐　色　粘土ブロック・砂中量
14　黒　褐　色　粘土ブロック・砂少量
15　黒　褐　色　粘土ブロック・砂多量
16　黒　褐　色　粘土ブロック・砂微量
17　灰黄褐色　粘土ブロック・砂多量

遺物出土状況　土師器片15点（甕），須恵器片12点（坏７，瓶２，甕３）が各柱穴から出土している。また，混入した弥生土器片１点（広口壺）も出土している。275はＰ６の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀前葉と考えられる。



第 143 図　第８号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

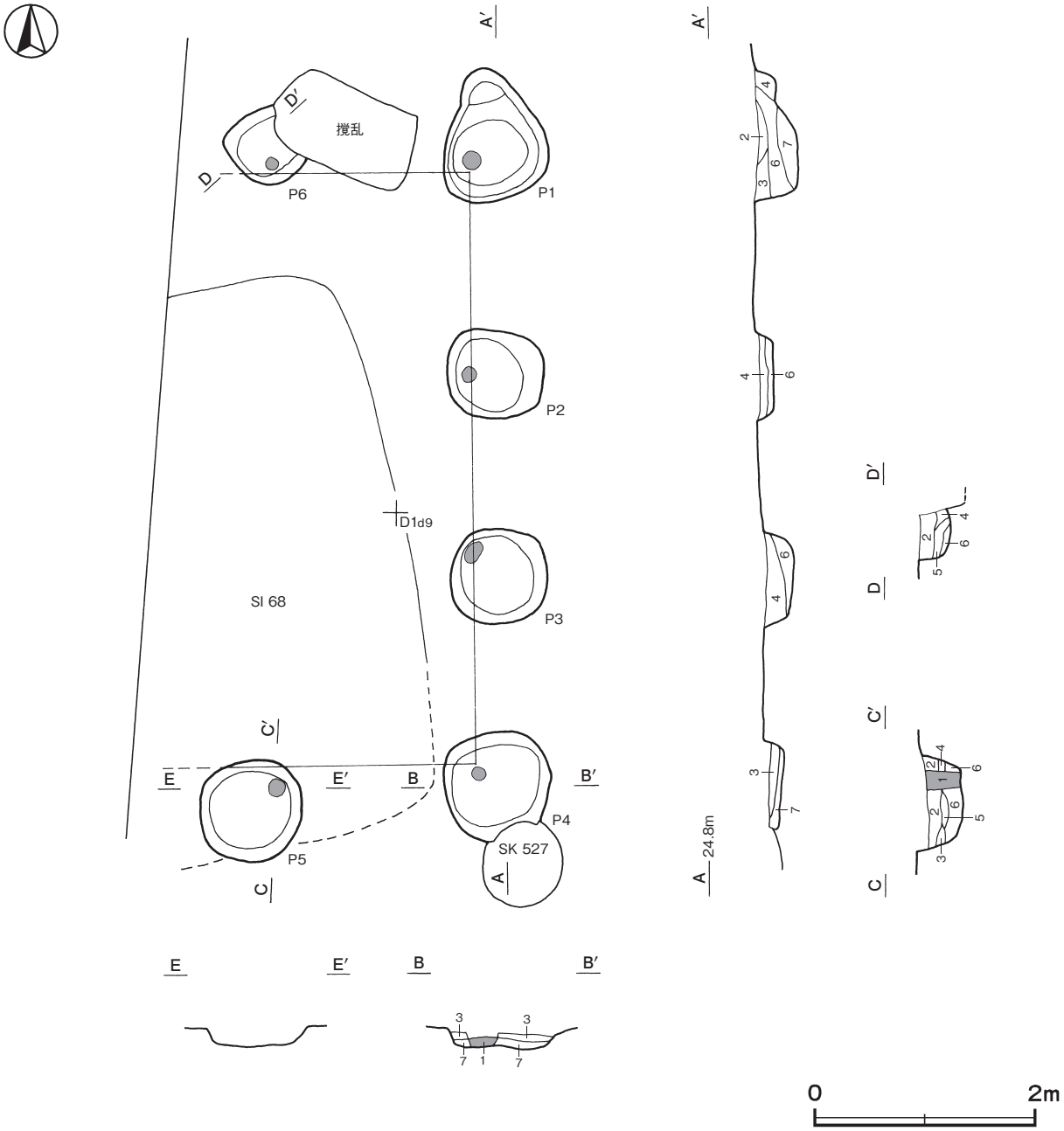
第８号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 143 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
275	須恵器	坏	－	(1.8)	[7.2]	長石	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	Ｐ６	５％

第 13 号掘立柱建物跡（第 144・145 図）

位置　調査区中央部西端のＤ１c8 ～Ｄ１d9 区，標高 24.4 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 68 号住居跡を掘り込み，第 527 号土坑に掘り込まれている。



第 144 図　第 13 号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　桁行３間で，梁行は西側が調査区域外へ延びているため１間しか確認できなかったが，２間以上の側柱建物跡であり，桁行方向Ｎ－０°の南北棟と推定できる。規模は桁行 5.46 ｍで，梁行は 1.82 ｍしか確認できなかった。柱間寸法は桁行，梁行ともに 1.82 ｍ（６尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

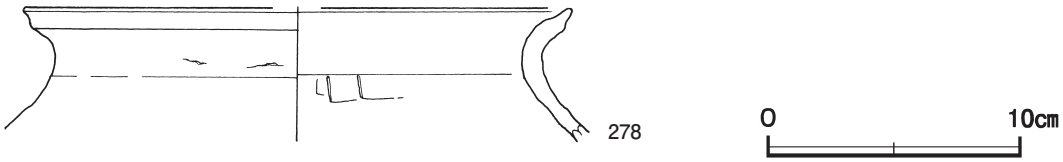
柱穴　６か所。平面形は円形または楕円形で，長径 88 ～ 120㎝，短径 69 ～ 95㎝である。深さは 13 ～ 56cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１層は柱痕跡，第２～７層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量
6　黒　　色　ロームブロック少量
7　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片８点（高台付椀１，甕７），須恵器片３点（坏１，甕２）が各柱穴から出土している。また，混入した弥生土器片１点（広口壺）が出土している。278 はＰ１の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前半と考えられる。



第 145 図　第 13 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 13 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 145 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
278	土師器	甕	［21.8］	(5.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	Ｐ１	５％

第 14 号掘立柱建物跡（第 146 ～ 148 図）

位置　調査区中央部のＣ１i0 ～Ｄ２c1 区，標高 24.5 ｍの平坦な台地上に位置している。

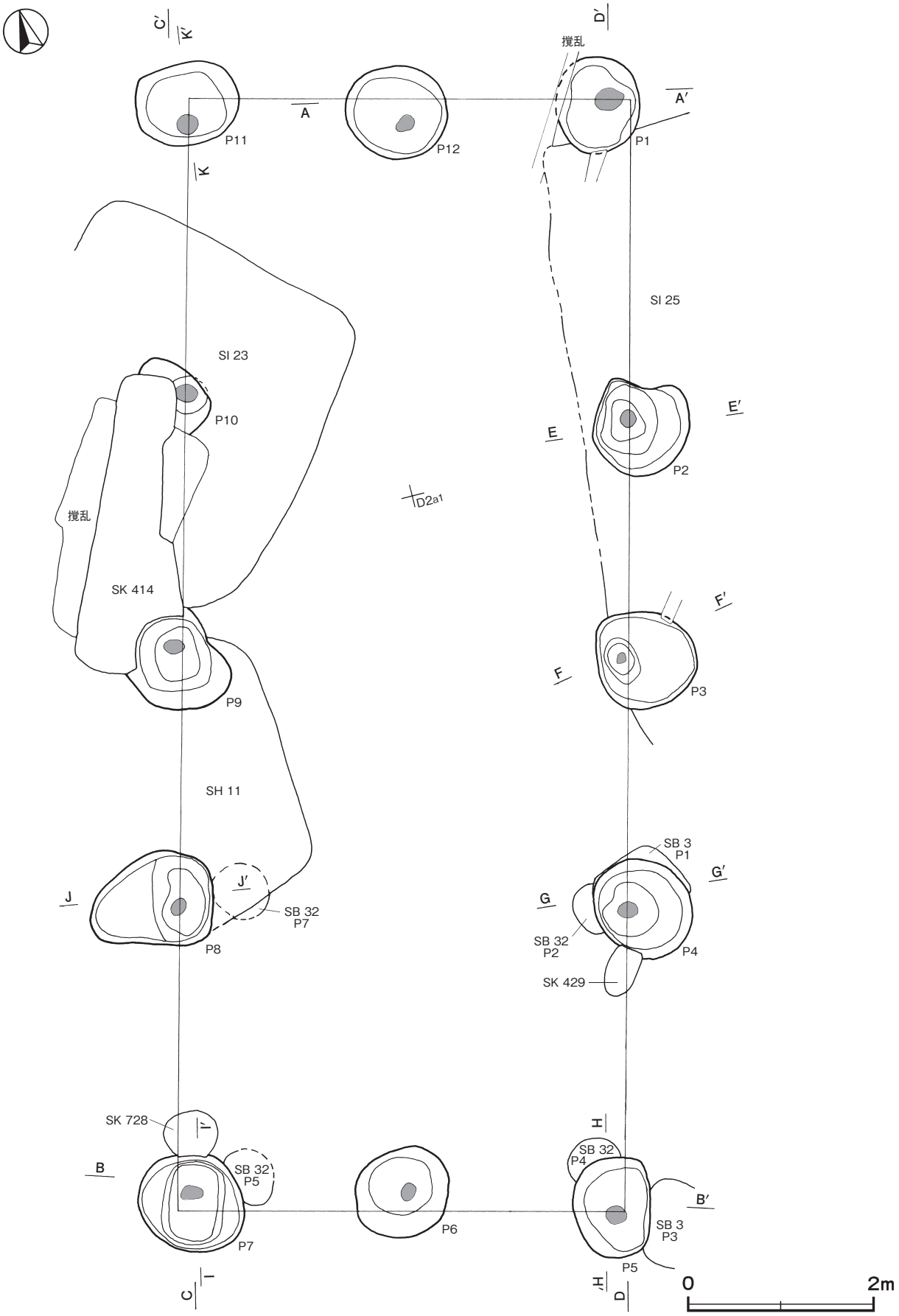
重複関係　第 23・25 号住居跡，第３・32 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 11 号方形竪穴遺構，第 414・429・728 号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行４間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 13°－Ｅの南北棟である。規模は桁行 12.12 ｍ，梁行 4.85 ｍで，面積は 58.78㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から 3.33 ｍ（11 尺）･2.73 ｍ（９尺）･2.73 ｍ（９尺）・3.33 ｍ（11 尺）で，梁行は 2.42 ｍ（８尺）の均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

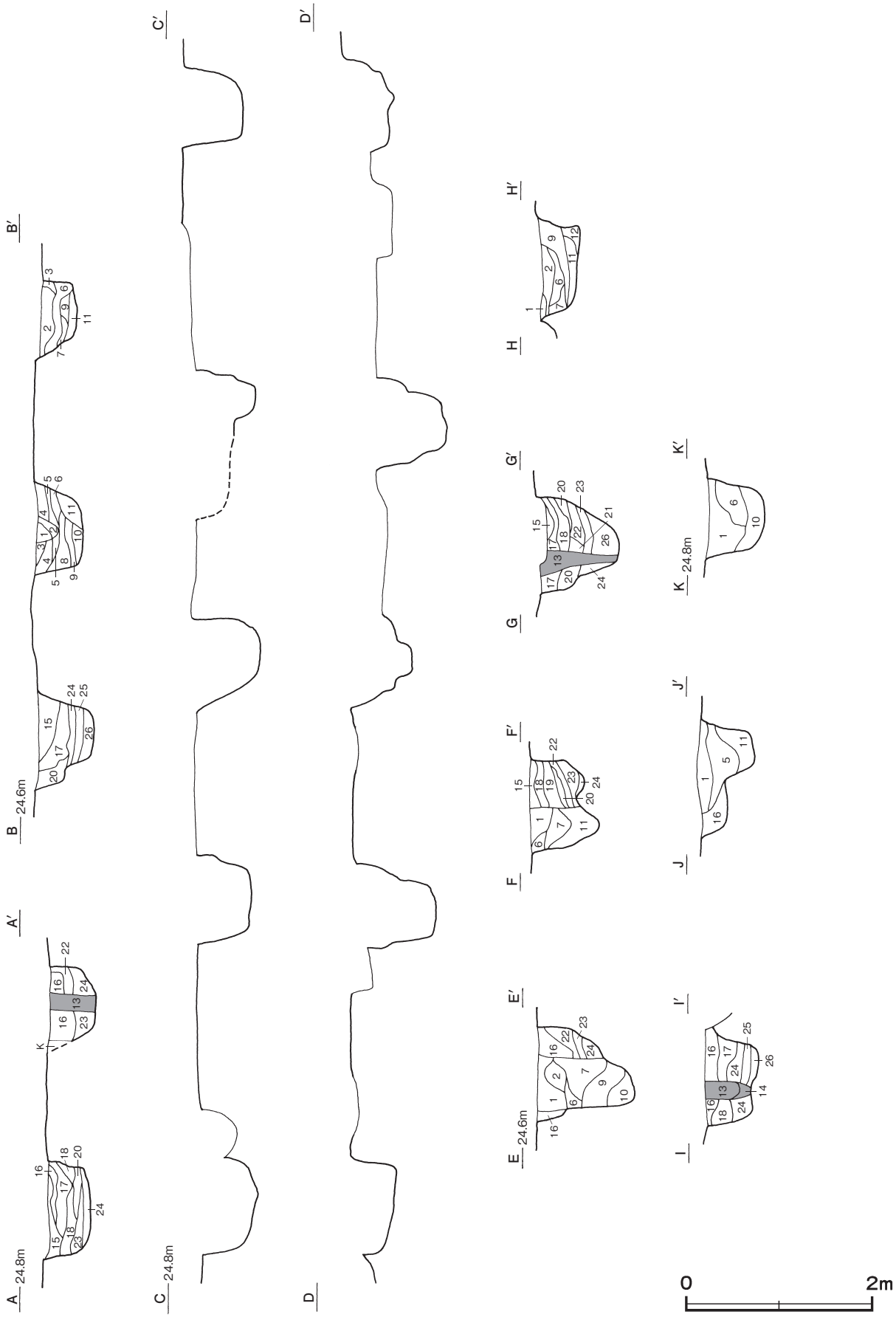
柱穴　12 か所。平面形は不整円形または楕円形で，長径 103 ～ 138㎝，短径 88 ～ 110㎝である。深さは 42 ～ 86cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１～ 12 層は柱の抜き取り痕，第 13・14 層は柱痕跡，第 15 ～ 26 層は掘方への埋土で，版築状を呈している。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子微量
8　灰 黄 褐 色　ロームブロック多量
9　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子多量



第 146 図　第 14 号掘立柱建物跡実測図（1）

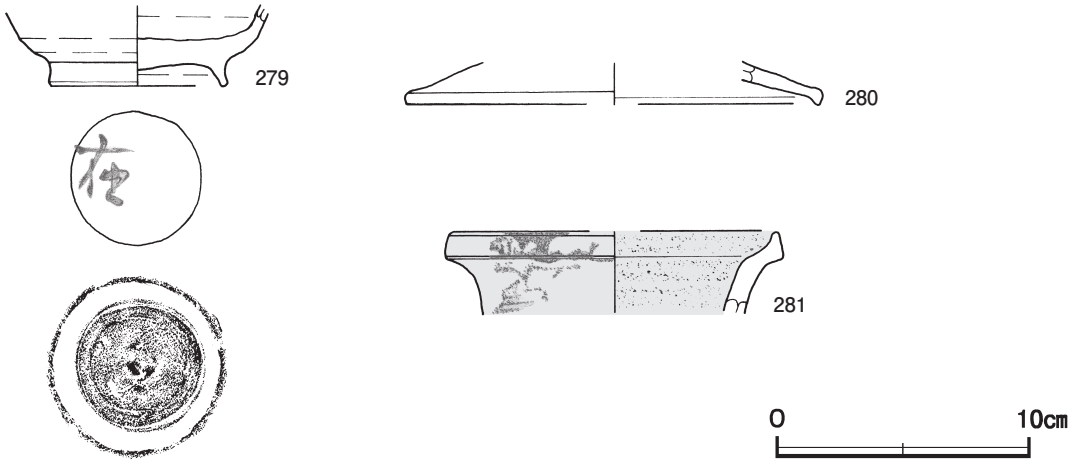


第 147 図　第 14 号掘立柱建物跡実測図（2）

11　黒　　色　ロームブロック中量
12　黒　　色　ロームブロック微量
13　黒　　色　ローム粒子少量
14　暗　褐　色　ロームブロック微量
15　暗　褐　色　ローム粒子中量
16　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
17　暗　褐　色　ロームブロック少量
18　褐　　色　ローム粒子多量
19　極暗褐色　ローム粒子少量
20　暗　褐　色　ロームブロック中量
21　黒　褐　色　ロームブロック微量
22　黒　褐　色　ロームブロック中量
23　褐　　色　ロームブロック多量
24　黒　褐　色　ロームブロック少量
25　黒　　色　ロームブロック少量
26　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片 52（坏 11，甕 41），須恵器片 30 点（坏 19，高台付坏１，高盤１，甕９）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片 20 点（深鉢），古墳時代の土師器片２点（高坏），土製品１点（土器片円盤），石製品１点（石皿），剥片１点（黒曜石）も出土している。281 はＰ１の埋土，279・280 はＰ 11 の柱の抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀中葉と考えられる。



第 148 図　第 14 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 14 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 148 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
279	須恵器	高台付坏	－	(2.9)	6.9	長石・石英	浅黄	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼付　墨書「在」	Ｐ 11	60％
280	須恵器	蓋	[16.4]	(1.8)	－	長石	黄灰	良好	ロクロナデ	Ｐ 11	５％
281	灰釉陶器	長頸瓶	[13.0]	(3.2)	－	黒色粒子	灰白	良好	外・内面施釉	Ｐ１	５％

第 19 号掘立柱建物跡（第 149 ～ 151 図）

位置　調査区中央部のＤ２e3 ～Ｄ２h5 区，標高 24.4 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 62・64 号住居跡，第 20 号掘立柱建物跡，第 980 号土坑を掘り込み，第 63 号住居，第 28 号掘立柱建物，第 979・1009・1025 号土坑，第 184 号ピットに掘り込まれている。

規模と構造　桁行４間，梁行２間の身舎に，東・西・南面に庇が付く側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－３°－Ｅの南北棟である。中央の側柱の柱筋上に２本の間仕切柱が配置されている。規模は身舎が桁行 9.70 ｍ，梁行 6.06 ｍで，面積は 58.78㎡である。庇の出は東・西面が 2.12 ｍ（７尺），南面が 2.42 ｍ（８尺）で，庇を含めた桁行は 12.12 ｍ，梁行は 10.20 ｍで，面積は 123.62㎡である。身舎の柱間寸法は，桁行が北妻から 2.73 ｍ（９

尺）・2.42 m（８尺），2.42 m（８尺），2.12 m（７尺），梁行が 3.03 m（10 尺）で均等に，間仕切柱穴が西平から 1.82 m（６尺），2.42 m（８尺），1.82 m（６尺）で配置されている。柱筋はほぼ揃っている。庇の柱間寸法は，2.12 m（７尺）～ 3.03 m（10 尺）で不均等である。柱筋は東・西面はほぼ揃っており，南面はやや不揃いである。

柱穴　29 か所。Ｐ１～Ｐ 12 は身舎の柱穴である。平面形は隅丸長方形で，長軸 112 ～ 190㎝，短軸 109 ～ 135㎝である。深さは 72 ～ 85cm で，掘方の断面形は長方形である。Ｐ 13 ～Ｐ 27 は庇の柱穴である。平面形は円形または楕円形で，長径 47 ～ 116㎝，短径 42 ～ 90㎝である。深さは 12 ～ 66cm で，掘方の断面形はＵ字状または逆台形である。Ｐ 28・29 は間仕切柱の柱穴である。平面形は隅丸方形と楕円形で，長軸・径 107・100㎝，短軸・径 92・82㎝である。深さは 48・26cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１～６層は柱の抜き取り痕，第７・８層は柱痕跡，第９～ 22 層は掘方への埋土で，版築状を呈している。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　黒　　色　ローム粒子中量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量
9　褐　灰　色　ロームブロック中量
10　黒　褐　色　ローム粒子中量
11　極 暗 褐 色　ローム粒子中量
12　褐　　色　ローム粒子多量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量
14　にぶい黄褐色　ローム粒子多量
15　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量
16　暗　褐　色　ローム粒子少量
17　褐　　色　ロームブロック多量
18　灰 黄 褐 色　ロームブロック多量
19　黒　　色　ローム粒子少量
20　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
21　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量
22　極 暗 褐 色　ロームブロック中量

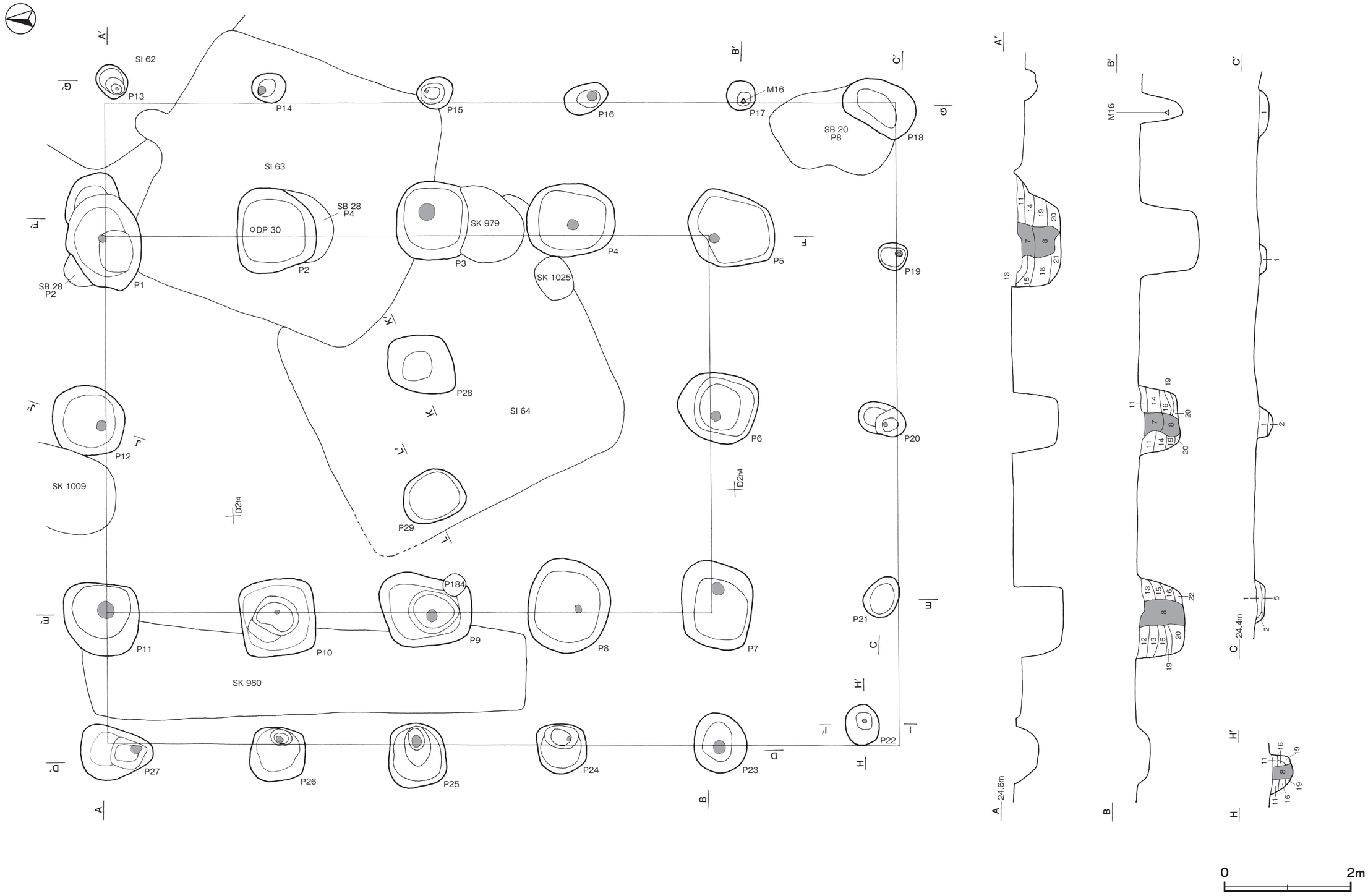
遺物出土状況　土師器片 156 点（坏 49，皿２，甕 105），須恵器片 78 点（坏 40，蓋５，瓶１，甕 32），灰釉陶器片１点（瓶），土製品３点（土玉１，紡錘車２），石製品１点（砥石），鉄製品４点（釘）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片 10 点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺），古墳時代の土師器片１点（壺），剥片１点（黒曜石）も出土している。282･362･DP31 はＰ１，286 はＰ６，Ｍ 17･Ｍ 18 はＰ７，TP30 はＰ８，Ｑ 81 はＰ 10，285・DP29 はＰ 11 の埋土からそれぞれ出土している。283 はＰ１とＰ 25 の埋土から出土した破片が接合している。284・TP31・DP30 はＰ２，Ｍ 16 はＰ 17，Ｍ 19 はＰ 24 の柱の抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀後葉に比定できる。

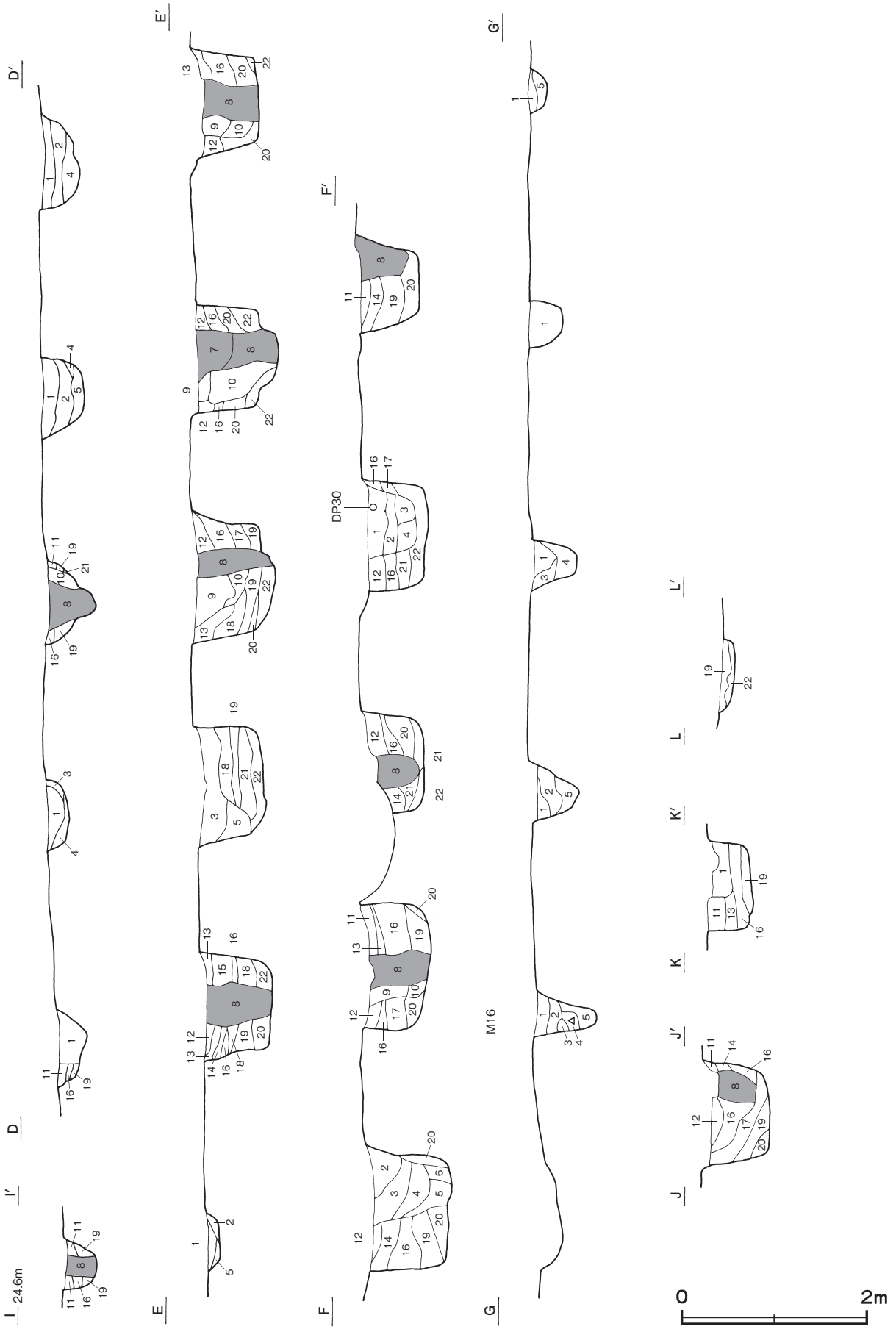
第 19 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 151 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
282	土師器	坏	[14.8]	(3.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	内面ヘラ磨き	Ｐ１	５％
283	須恵器	坏	[13.6]	(3.5)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り　油煙付着	Ｐ１・25	５％
284	土師器	皿	[12.0]	(2.0)	－	赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き	Ｐ２	５％
285	須恵器	高盤	－	(4.3)	[9.4]	長石・雲母	灰	良好	脚部内面ヘラナデ	Ｐ 11	10%
286	灰釉陶器	瓶	[10.2]	(1.5)	－	長石	灰白	普通	外・内面施釉	Ｐ６	５％
362	土師器	坏	[13.2]	(2.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「福」	Ｐ１	10%　PL51

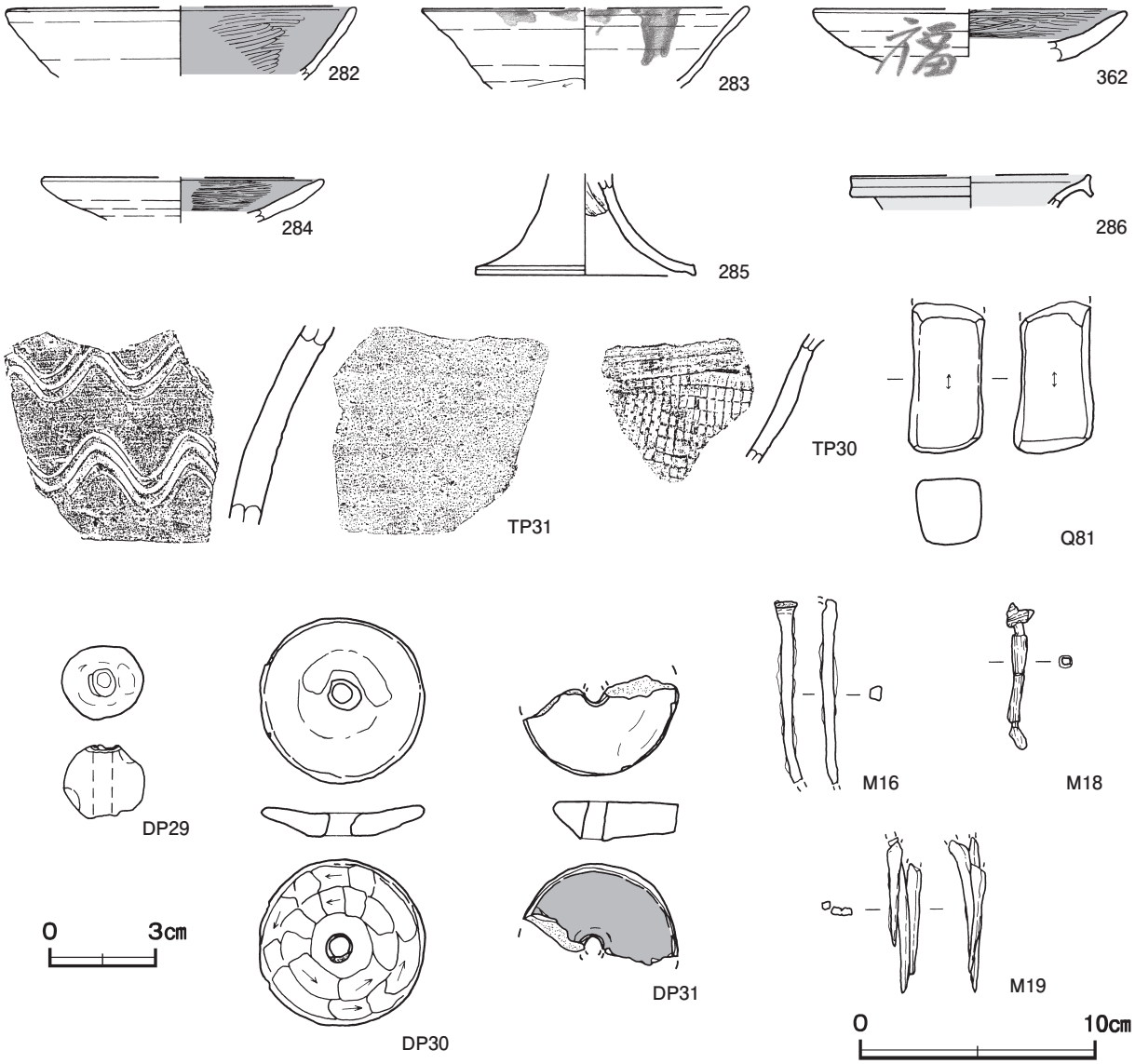
番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP30	須恵器	鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面格子状叩き	Ｐ８	
TP31	須恵器	大甕	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	櫛歯状工具による２列の波状文	Ｐ２	



第 149 図　第 19 号掘立柱建物跡実測図（1）



第 150 図　第 19 号掘立柱建物跡実測図（2）



第 151 図　第 19 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP29	土玉	2.0	2.3	0.6	9.8	長石	一方向からの穿孔　孔端部ナデ	P 11	PL52
DP30	紡錘車	1.3	7.0	1.4	44.5	長石･石英･雲母･赤色粒子	ナデ	P 2	PL53
DP31	紡錘車	1.7	[6.8]	1.1	(48.2)	長石・石英	上面ナデ　下面ヘラ削り　上面黒色処理	P 1	PL53

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 81	砥石	(6.5)	3.3	2.8	(101.9)	砂岩	砥面５面　被熱痕	P 10	PL55

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 16	釘	(7.9)	(0.8)	0.6	(14.0)	鉄	断面方形	P 17	PL56
M 17	釘	(4.6)	0.8	0.6	(3.4)	鉄	断面方形　細片のため計測のみ	P 7	
M 18	釘	6.2	1.2	0.6	3.5	鉄	断面方形　木質遺存	P 7	PL56
M 19	釘	(6.8)	(1.6)	1.6	(6.4)	鉄	先端部片　３本融着　断面方形	P 24	PL56

第 20 号掘立柱建物跡（第 152 ～ 154 図）

位置　調査区中央部のＤ２e5 ～Ｄ２h6 区，標高 24.3 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 62 号住居跡，第 26 号掘立柱建物跡，第５号方形竪穴遺構，第 580・962 号土坑を掘り込み，第 63 号住居，第 19 号掘立柱建物，第３・４号方形竪穴遺構，第 347・348 号ピットに掘り込まれている。

規模と構造　桁行４間，梁行３間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－４°－Ｅの南北棟である。規模は桁行 10.30 ｍ，梁行 6.36 ｍで，面積は 65.50㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から 2.73 ｍ（９尺）･2.42 ｍ（８尺）･2.42 ｍ（８尺）・2.73 ｍ（９尺）で，梁行は 2.12 ｍ（７尺）の均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　14 か所。平面形は隅丸長方形で，長軸 111 ～ 200㎝，短軸 100 ～ 131㎝である。深さは 55 ～ 100cm で，掘方の断面形は逆台形である。Ｐ２・３・５・６・８～Ｐ 11 の底面には柱の当たりが２か所確認でき，建て替えが行われている。第１～６層は柱の抜き取り痕や柱痕跡，第７～ 16 層は建て替え後の掘方への埋土，第 17 ～ 21 層は建て替え前の掘方への埋土で，版築状を呈している。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，砂質粘土ブロック・炭化物少量
3　褐　灰　色　ロームブロック微量
4　灰 黄 褐 色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　極 暗 褐 色　ロームブロック少量
7　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
8　灰　褐　色　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量
10　黒　褐　色　ロームブロック中量，砂質粘土ブロック少量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量，砂質粘土ブロック微量
12　黒　褐　色　ロームブロック微量
13　黒　褐　色　ロームブロック多量，砂質粘土ブロック少量
14　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
15　暗　褐　色　ロームブロック中量
16　黒　　色　ローム粒子微量
17　黄　褐　色　ロームブロック多量
18　黒　褐　色　ロームブロック少量
19　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量
20　黒　　色　ローム粒子少量
21　黒　褐　色　ローム粒子中量
22　黒　　色　ロームブロック微量

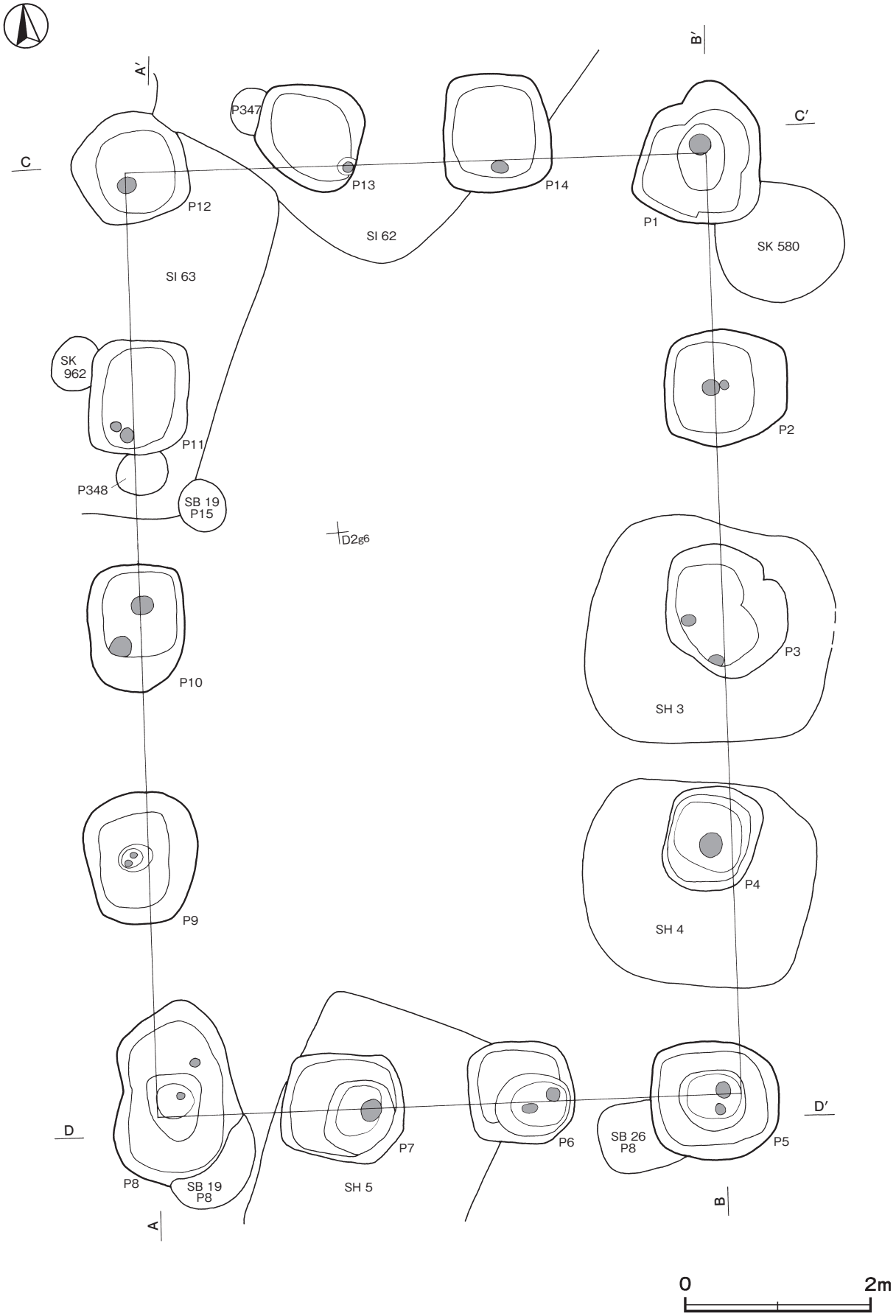
遺物出土状況　土師器片 168 点（坏 30，高台付椀１，甕 136，甑１），須恵器片 91 点（坏 34，高台付坏２，盤２，高盤２，蓋 10，鉢５，甕 36），粘土塊２点，鉄滓１点（25.7g）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片 11 点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺），古墳時代の土師器片１点（高坏），石器１点（鏃）も出土している。288 はＰ６，290 はＰ７，TP32 はＰ９，289 はＰ 10 の埋土，287・291 はＰ１の柱の抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見　最終的に廃絶した時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。柱穴の土層や底面の柱の当たりの状況から，建て替えが行われている。

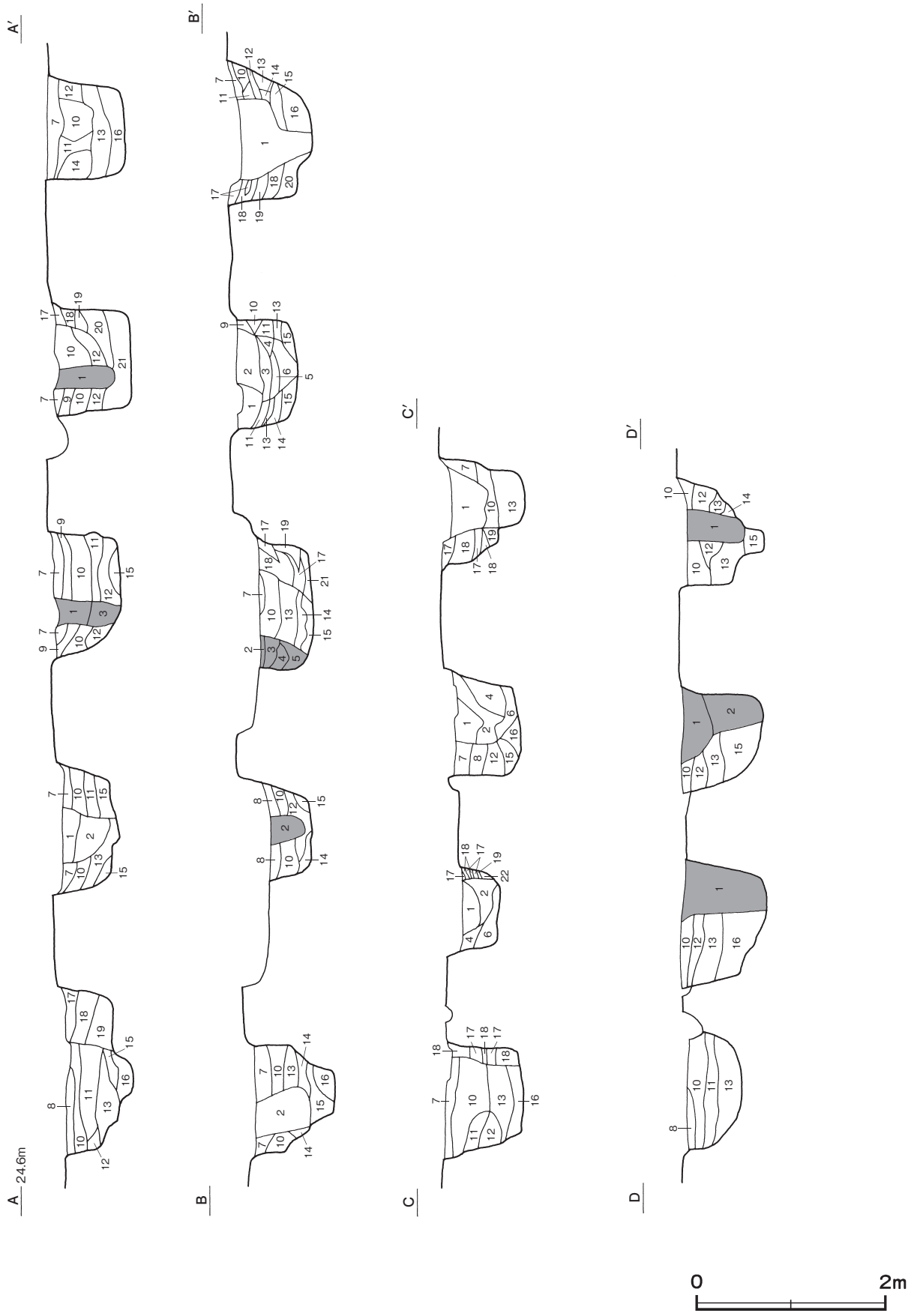
第 20 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 154 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
287	土師器	坏	［12.8］	4.0	［7.0］	長石	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り	Ｐ１	10%
288	須恵器	坏	［13.3］	(3.9)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	Ｐ６	10%
289	須恵器	坏	－	(3.2)	［7.0］	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	Ｐ 10	５％
290	土師器	高台付椀	－	(2.8)	［7.8］	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	Ｐ７	10%
291	須恵器	蓋	［13.8］	(1.8)	－	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	Ｐ１	５％

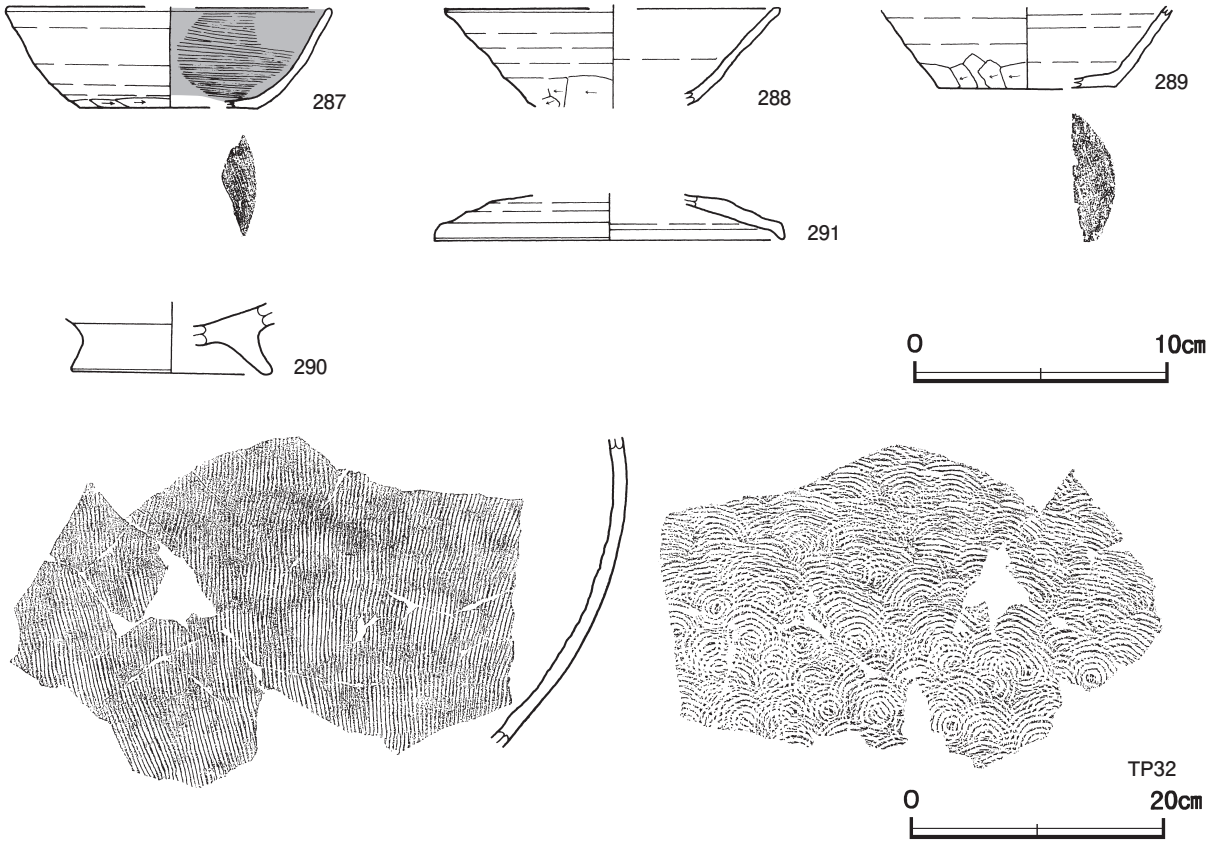
番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP32	須恵器	大甕	長石・石英	灰黄	良好	外面縦位の平行叩き	Ｐ９	



第 152 図　第 20 号掘立柱建物跡実測図（1）



第 153 図　第 20 号掘立柱建物跡実測図（2）



第 154 図　第 20 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 23 号掘立柱建物跡（第 155・156 図）

位置　調査区中央部のＣ２j9 ～Ｄ３a1 区，標高 24.7 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 36・43 号住居跡，第 29 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 35・45 号住居に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 78°－Ｗの東西棟である。規模は桁行 7.27 m，梁行 4.85 mで，面積は 35.25㎡である。柱間寸法は桁行，梁行ともに 2.42 m（８尺）の均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

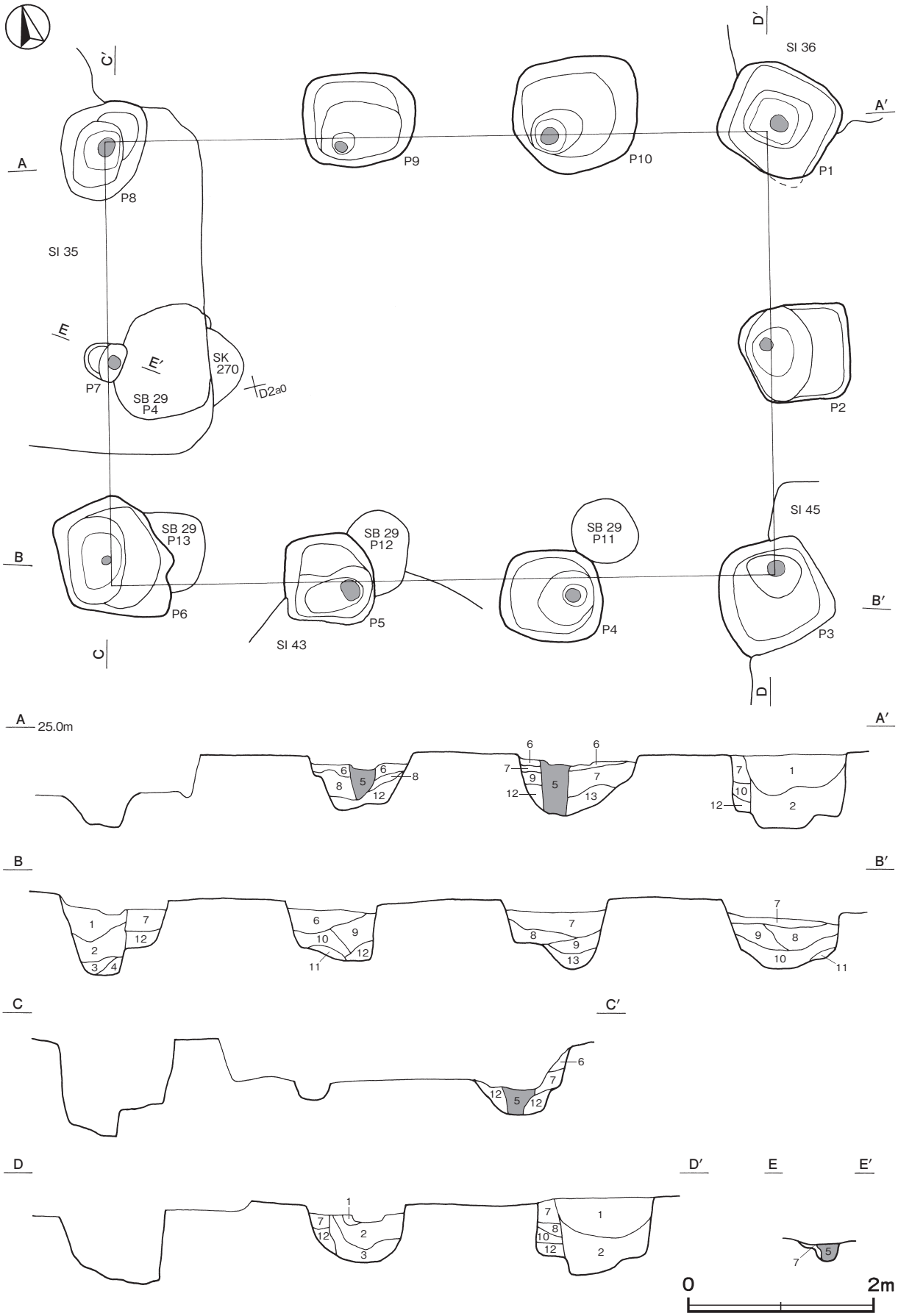
柱穴　10 か所。平面形は隅丸方形で，長軸 98 ～ 137㎝，短軸 96 ～ 127㎝である。深さは 62 ～ 90cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１～４層は柱の抜き取り痕，第５層は柱痕跡，第６～ 13 層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

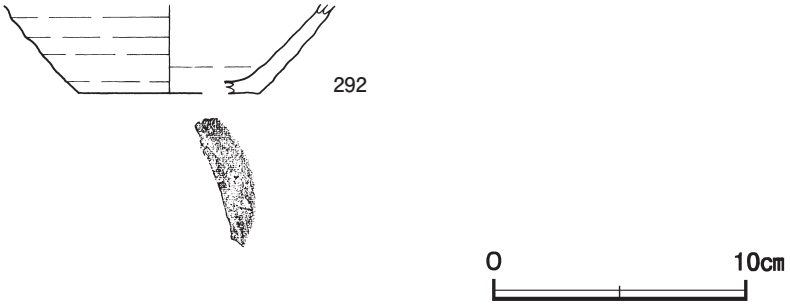
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子多量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ローム粒子中量
11　黒　褐　色　ロームブロック中量
12　褐　　色　ローム粒子多量
13　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片 73 点（坏８，甕 65），須恵器片 20 点（坏 15，蓋１，瓶１，甕３）が各柱穴から出土している。また，流れ込んだ縄文土器片７点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺），古墳時代の土師器片１点（壺）も出土している。292 はＰ 10 の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀前半と考えられる。



第 155 図　第 23 号掘立柱建物跡実測図



第 156 図　第 23 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 23 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 156 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
292	須恵器	坏	－	(3.5)	[7.2]	長石・石英	暗灰黄	良好	底部一方向のヘラ削り	P 10	5％

第 24 号掘立柱建物跡（第 157・158 図）

位置　調査区中央部のＤ２f0 ～Ｄ３h1 区，標高 24.2 ｍの平坦な台地上に位置している。

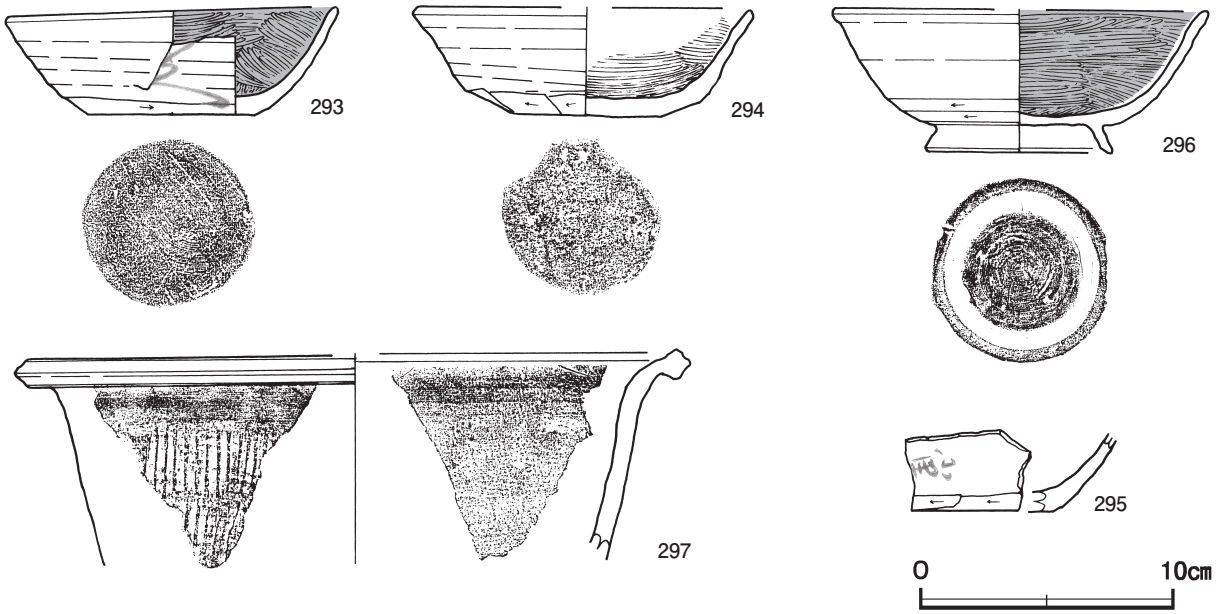
重複関係　第 72 号住居跡を掘り込み，第８・９号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 12°－Ｅの南北棟である。規模は桁行 7.27 ｍ，梁行 4.24 ｍで，面積は 30.82㎡である。柱間寸法は桁行が 2.42 ｍ（８尺），梁行が 2.12 ｍ（７尺）の均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

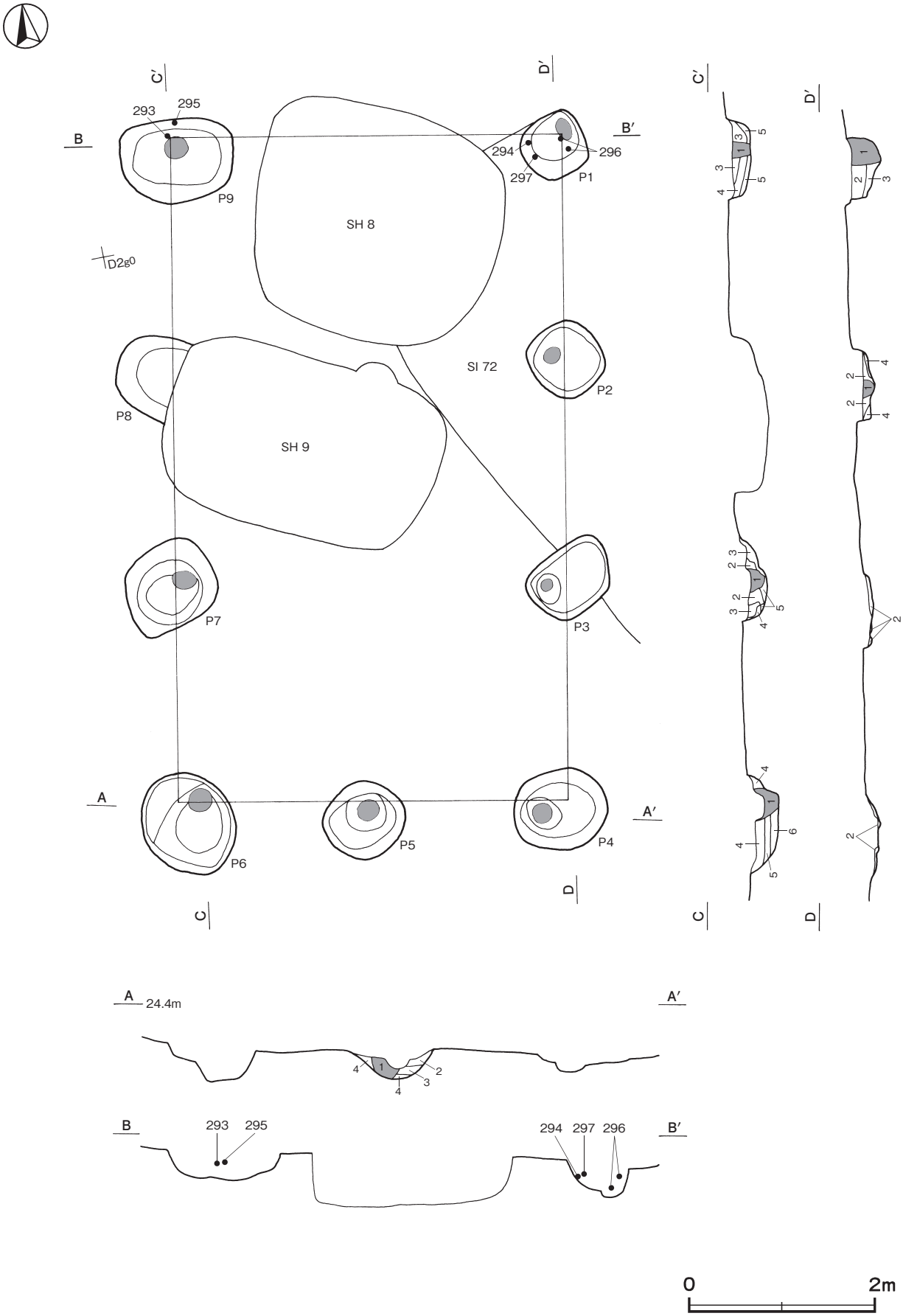
柱穴　９か所。平面形は隅丸方形または楕円形で，長軸・径 80 ～ 122㎝，短軸・径 73 ～ 99㎝である。深さは 22 ～ 36cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１層は柱痕跡，第２～６層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
5　黒　褐　色　炭化粒子多量，ロームブロック微量
6　灰　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量



第 157 図　第 24 号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第 158 図　第 24 号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 66 点（坏 12，高台付椀５，皿３，甕 46），須恵器片 13 点（坏７，鉢２，甕３，甑１）が各柱穴から出土している。293・295 はＰ９，294・296・297 はＰ１の埋土からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀後葉に比定できる。

第 24 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 157 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
293	土師器	坏	13.0	4.3	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部一方向のヘラ削り　墨書「□」	Ｐ９	80% PL45・50
294	土師器	坏	[13.4]	4.3	5.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部不定方向のヘラ削り	Ｐ１	70%
295	土師器	坏	－	(3.1)	－	黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　墨書「小里ヵ」	Ｐ９	10%　PL51
296	土師器	高台付椀	[14.8]	5.7	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，高台貼付	Ｐ１	50%
297	須恵器	鉢	[26.0]	(8.3)	－	長石・石英・雲母	灰黄	良好	体部縦位の平行叩き　内面無文当て具痕	Ｐ１	５%

第 25 号掘立柱建物跡（第 159・160 図）

位置　調査区中央部のＤ２i7 ～Ｄ２j8 区，標高 24.0 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第57号住居跡，第26号掘立柱建物跡，第1004号土坑を掘り込み，第565号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 86°－Ｗの東西棟である。規模は桁行 5.45 ｍ，梁行 5.45 ｍで，面積は 29.70㎡である。柱間寸法は，西梁行が北平から 2.42 ｍ（８尺）・3.03 ｍ（10 尺），東梁行と桁行は 2.73 ｍ（９尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

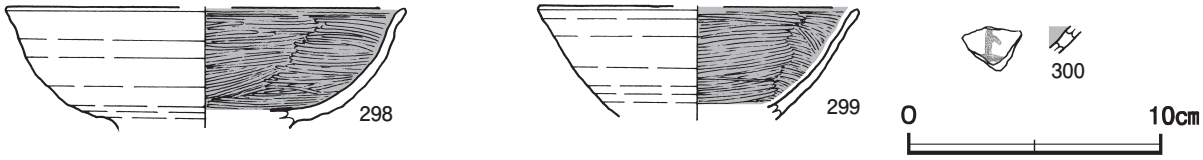
柱穴　８か所。平面形は円形または楕円形で，長径 90 ～ 140㎝，短径 73 ～ 104㎝である。深さは 22 ～ 59cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１層は柱の抜き取り痕，第２層は柱痕跡，第３～ 10 層は埋土で，版築状を呈している。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

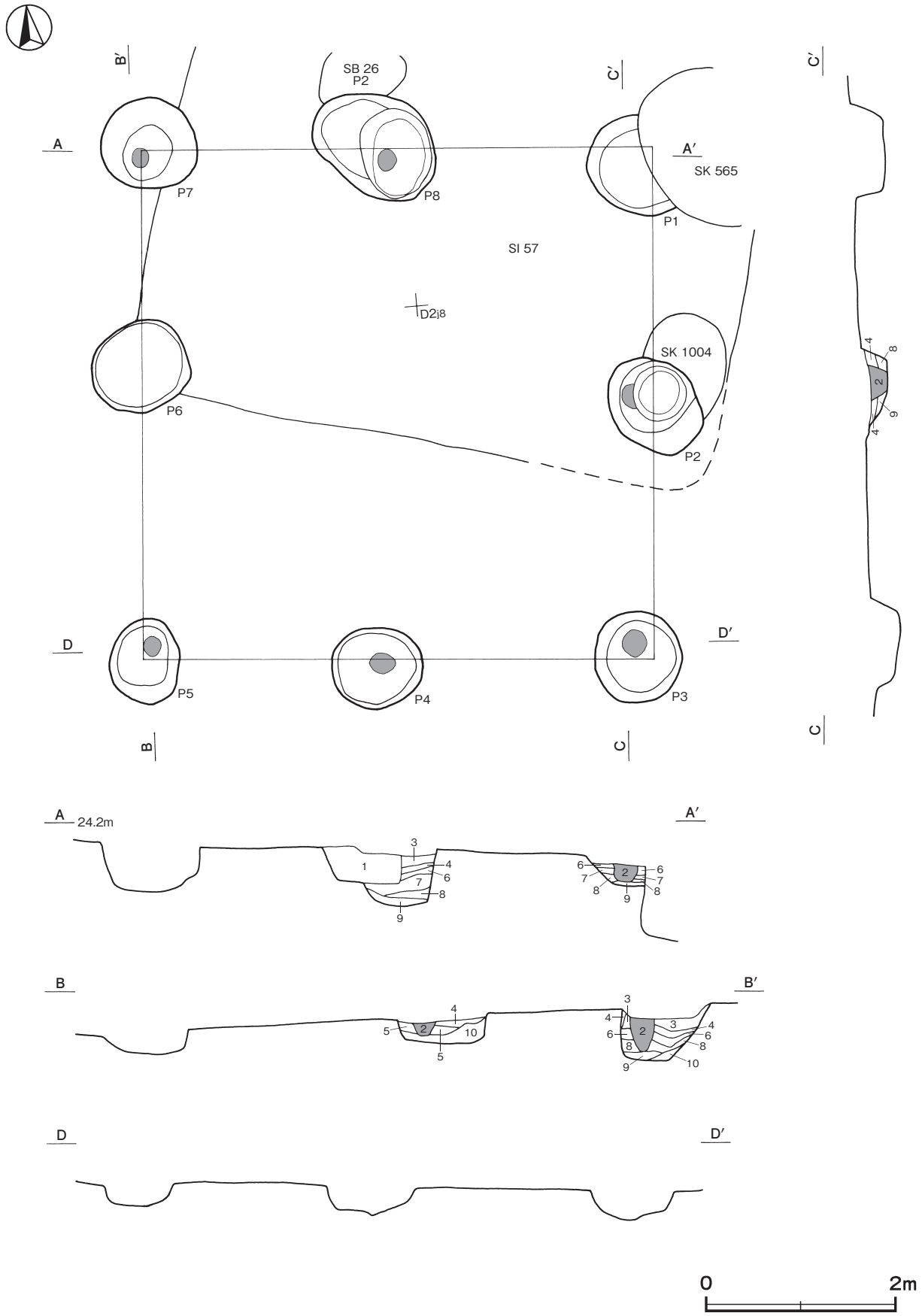
1　灰　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
5　暗　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 70 点（坏 10，甕 60），須恵器片 18 点（坏 16，鉢１，甕１）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片６点（深鉢５，浅鉢１），土製品１点（土器片錘）も出土している。299 はＰ６，300 はＰ７，298 はＰ８の埋土からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 10 世紀中葉と考えられる。



第 159 図　第 25 号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第 160 図　第 25 号掘立柱建物跡実測図

第 25 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 159 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
298	土師器	高台付椀	［15.8］	（4.6）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き	Ｐ８	50％
299	土師器	高台付椀	［12.8］	（4.5）	－	長石・石英	明黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き	Ｐ６	５％
300	土師器	坏	－	（1.1）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「上ヵ」	Ｐ７	５％

第 28 号掘立柱建物跡（第 161 ～ 163 図）

位置　調査区中央部のＤ２e2 ～Ｄ２f5 区，標高 24.3 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 64 号住居跡，第 19 号掘立柱建物跡，第 980 号土坑を掘り込み，第 63 号住居，第 1006・1009 号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行５間，梁行３間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 85°－Ｅの東西棟である。東妻から２か所目の側柱穴の柱筋上に間仕切柱穴２か所が配置されている。規模は桁行 12.12 ｍ，梁行 5.15 ｍで，面積は 62.42 ㎡である。柱間寸法は桁行が 2.42 ｍ（８尺）の均等に，梁行と間仕切柱穴は北平から 1.82 ｍ（６尺），1.52 ｍ（５尺），1.82 ｍ（６尺）に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　18 か所。Ｐ１～Ｐ 16 は身舎の柱穴である。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で，長軸 83 ～ 105㎝，短軸 54 ～ 88㎝である。深さは 40 ～ 68cm で，掘方の断面形は逆台形である。Ｐ 17･18 は間仕切柱の柱穴である。平面形は楕円形で，長径 93･113㎝，短径 63･72㎝である。深さは 18･12cm で，掘方の断面形は逆台形である。第１～３層は柱痕跡，第４～ 13 層は埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

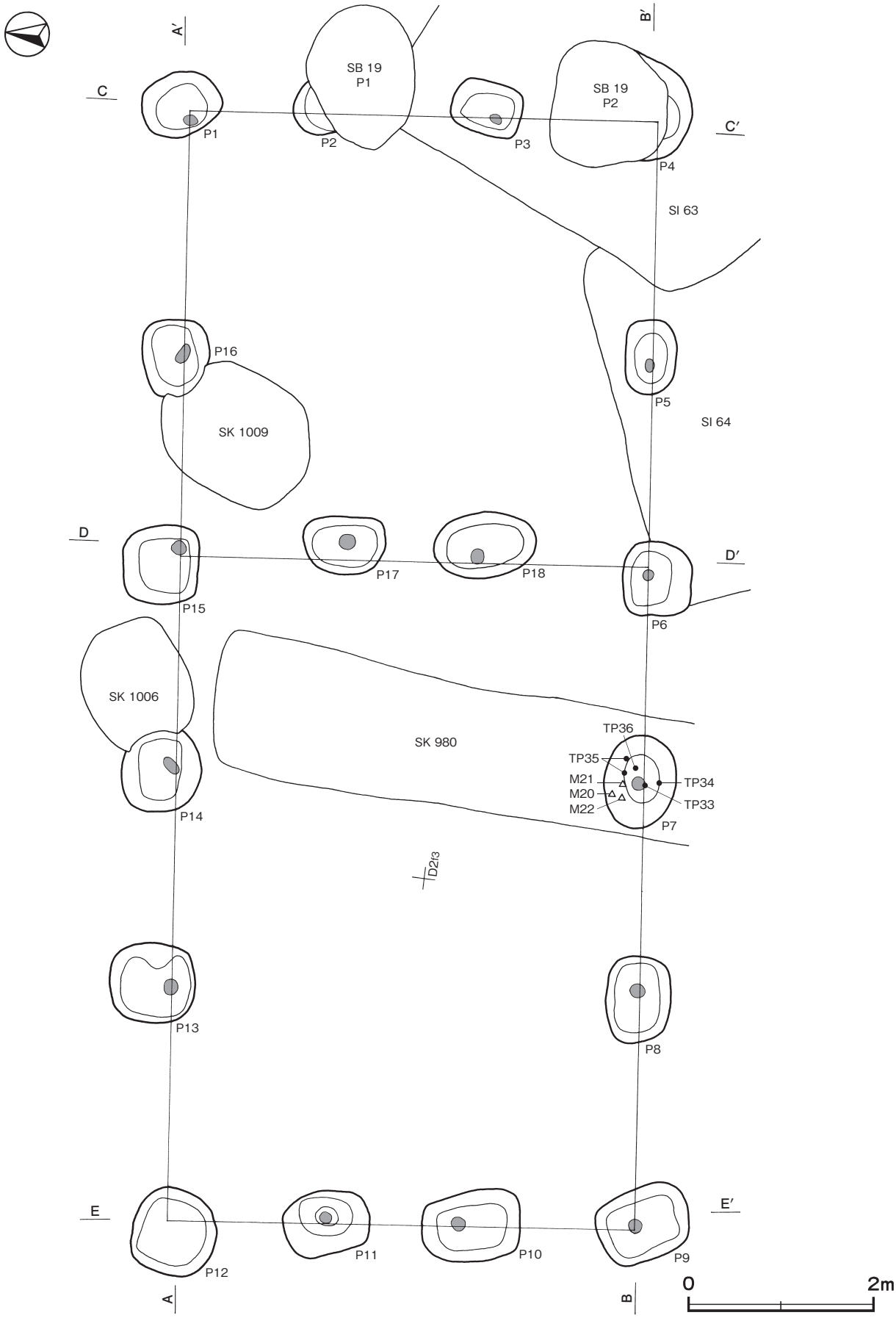
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子多量
4　黒　　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック多量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量
10　黒　褐　色　ロームブロック多量
11　黒　褐　色　ロームブロック中量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量
13　黒　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 18 点（坏６，高台付椀１，皿２，甑９），須恵器片 19 点（坏４，甕 15），緑釉陶器１（皿），鉄製品４点（釘）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢）が出土している。303 はＰ３，301 はＰ６，TP33 ～ TP36，Ｍ 20 ～Ｍ 22 はＰ７，302 はＰ 16 の埋土からそれぞれ出土している。

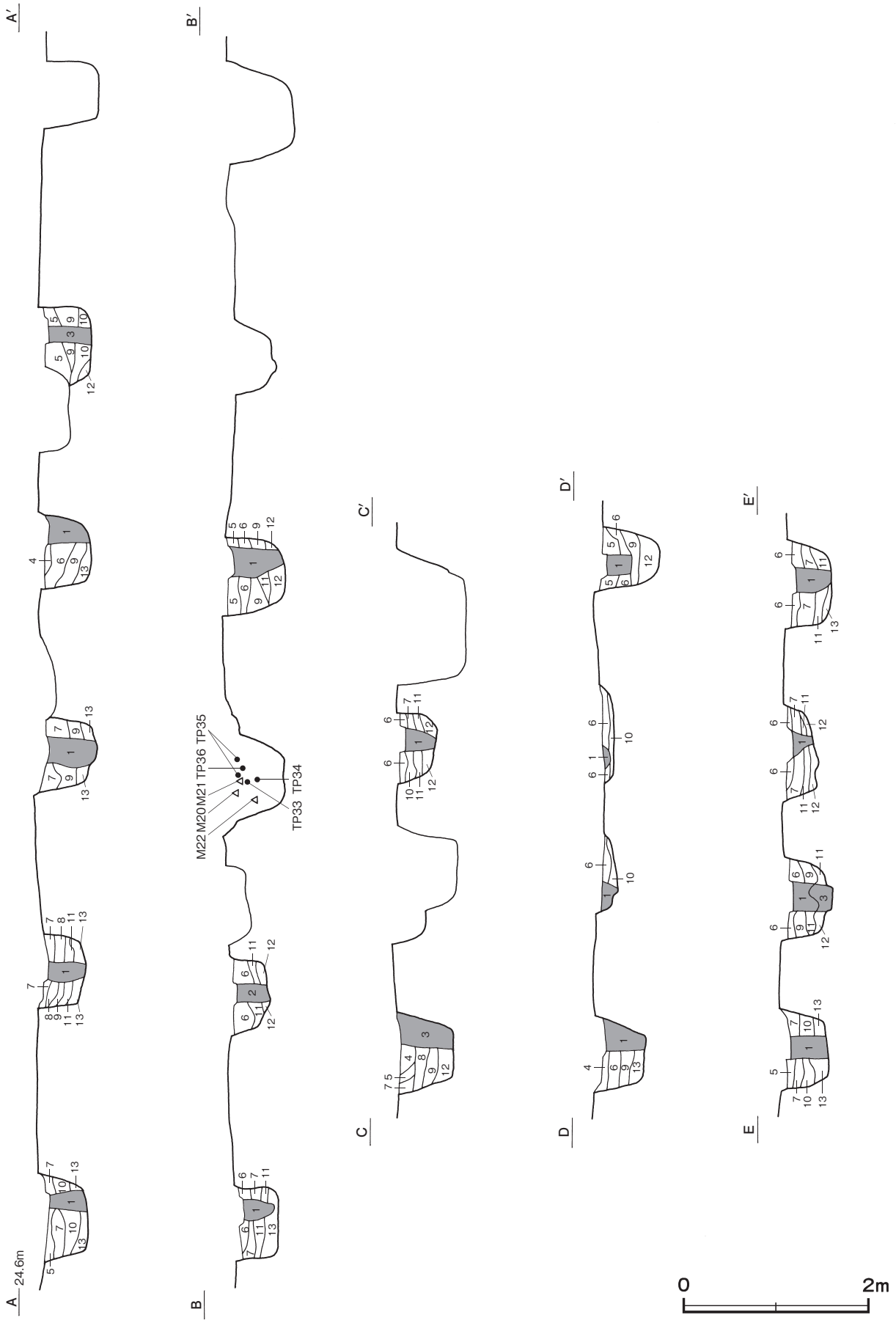
所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀後葉と考えられる。

第 28 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 163 図）

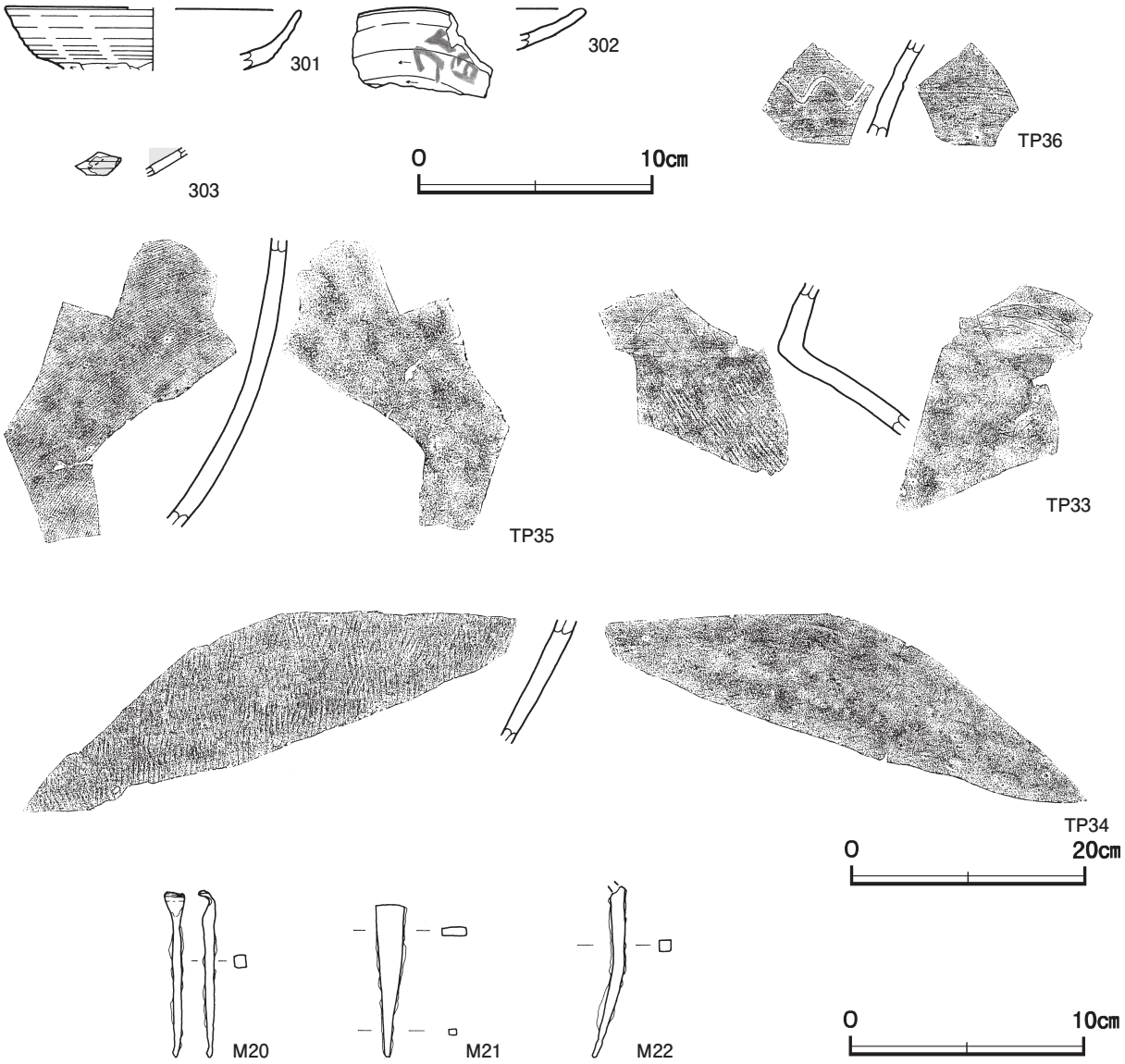
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
301	土師器	坏	［12.6］	（2.7）	－	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	Ｐ６	10％
302	土師器	坏	－	（1.7）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「□」	Ｐ 16	10％　PL51
303	緑釉陶器	皿	－	（1.0）	－	長石・黒色粒子	灰黄	良好	段皿　外・内面施釉	Ｐ３	５％



第 161 図　第 28 号掘立柱建物跡実測図（1）



第 162 図　第 28 号掘立柱建物跡実測図（2）



第 163 図　第 28 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

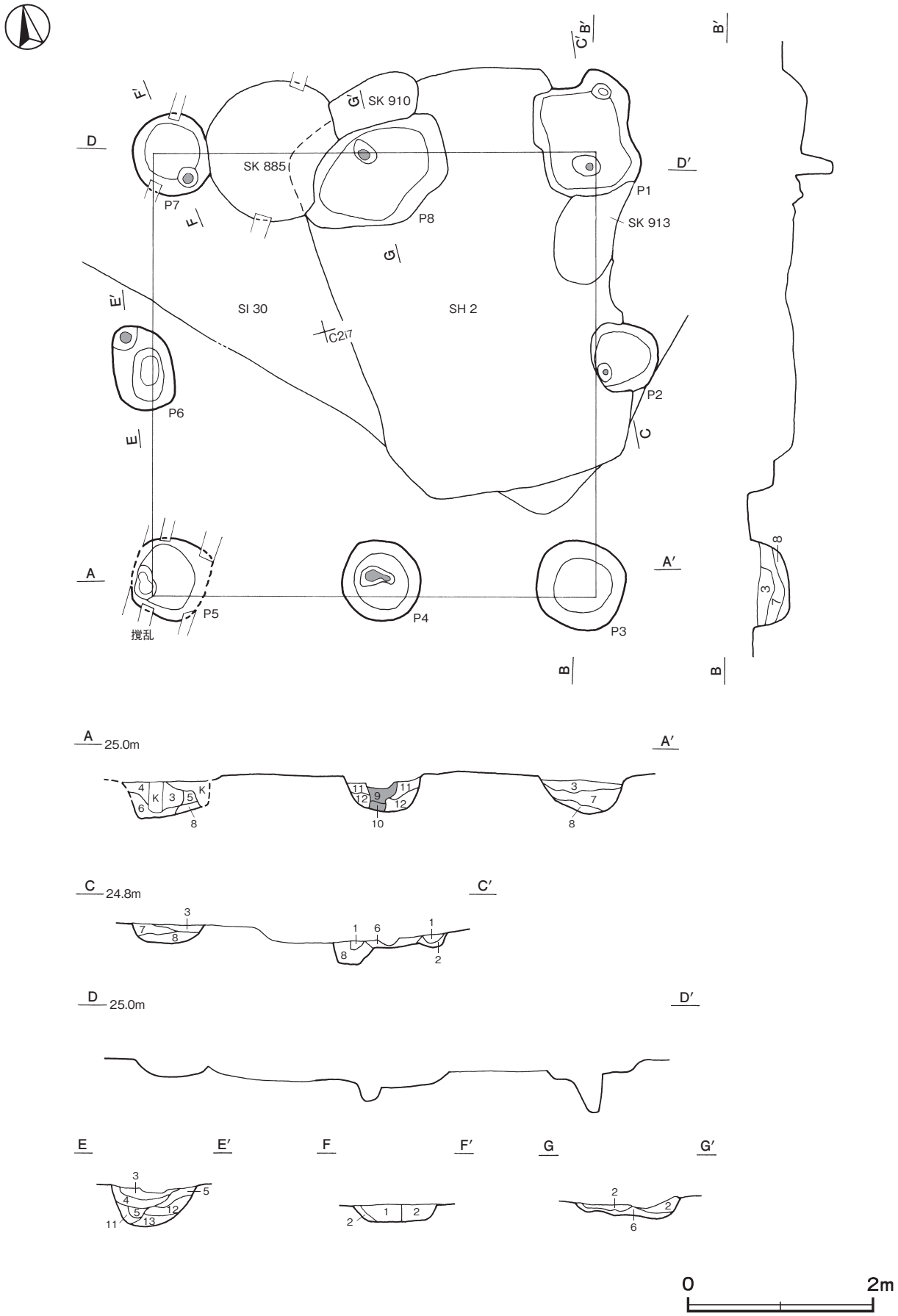
番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP33	須恵器	大甕	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部外面斜位の平行叩き　内面同心円文当て具痕	P 7	
TP34	須恵器	大甕	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部外面縦位の平行叩き　内面同心円文当て具痕	P 7	
TP35	須恵器	大甕	長石・石英	灰	良好	体部外面斜位の平行叩き　内面無文当て具痕	P 7	
TP36	須恵器	大甕	長石・石英・黒色粒子	暗灰	良好	波状沈線文	P 7	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 20	釘	7.1	0.8	0.5	9.2	鉄	断面方形	P 7	PL56
M 21	釘	6.5	1.4	0.4	8.5	鉄	三角形状　断面長方形	P 7	PL56
M 22	釘	(7.3)	1.5	0.5	(1.7)	鉄	頭部折り返し部欠損　断面方形	P 7	PL56

第 31 号掘立柱建物跡（第 164 図）

位置　調査区中央部のＣ２i6 ～ Ｃ２j7 区，標高 24.7 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 30 号住居跡を掘り込み，第２号方形竪穴遺構，第 885・910・913 号土坑に掘り込まれている。



第 164 図　第 31 号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－75°－Ｗの東西棟である。規模は桁行 4.85 m，梁行 4.85 mで，面積は 23.52㎡である。柱間寸法は，桁行，梁行ともに 2.42 m（８尺）で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　８か所。Ｐ１・８は柱の抜き取りによって形状が変形しており，平面形が不整方形で，長軸 1.34・1.70 m，短軸 1.05・1.15 mである。深さは 50・66m で，掘方の断面形は逆台形である。Ｐ２～Ｐ７は，平面形は円形または楕円形で，長径 81 ～ 104㎝，短径 64 ～ 100㎝である。深さは 40 ～ 58cm で，掘方の断面形はＵ字状である。第１～８層は柱の抜き取り痕，第９・10 層は柱痕跡，第 11 ～ 13 層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　黒　褐　色　ローム粒子多量
8　黒　褐　色　ロームブロック多量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量
11　暗　褐　色　ロームブロック多量
12　黒　褐　色　ロームブロック少量
13　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片６点（坏２，甕４），須恵器片４点（坏）が各柱穴から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀前半と考えられる。

第 34 号掘立柱建物跡（第 165・166 図）

位置　調査区中央部のＣ２i7 ～Ｄ２d9 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 30･41 号住居跡，第 35 号掘立柱建物跡，第１・２号方形竪穴遺構，第 102 号ピットを掘り込み，第 347・349・913 号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行７間，梁行３間の側柱建物跡で，各側柱の柱筋上に２か所の間仕切柱穴がそれぞれ配置されている。桁行方向Ｎ－２°－Ｗの南北棟である。規模は桁行 17.27 m，梁行 5.76 mで，面積は 99.48㎡である。柱間寸法は桁行が 2.42 m（８尺）の均等に，梁行と間仕切柱穴は西平から 1.21 m（４尺），3.33 m（11 尺），1.21 m（４尺）に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

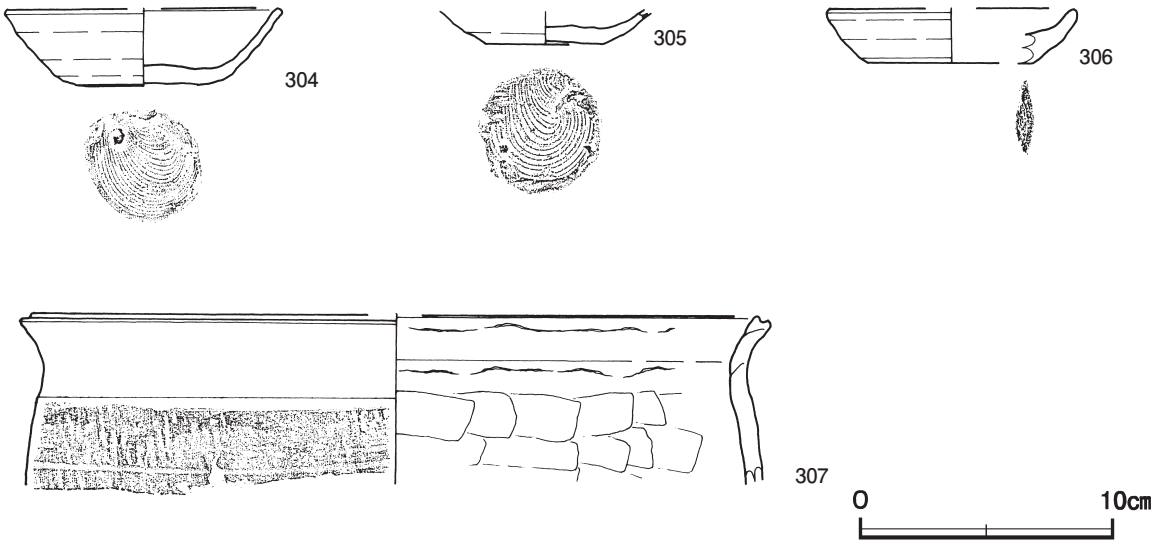
柱穴　28 か所。Ｐ１～Ｐ 17 は身舎の柱穴で，平面形は円形または楕円形で，長径 38 ～ 76㎝，短径 22 ～ 60㎝である。深さは 12 ～ 46cm で，掘方の断面形はＵ字状である。Ｐ 18 ～Ｐ 29 は間仕切柱の柱穴で，平面形は円形または楕円形で，長径 34 ～ 60㎝，短径 32 ～ 58㎝である。深さは 12 ～ 47cm で，掘方の断面形はＵ字状である。第１～８層は柱の抜き取り痕である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ロームブロック少量
8　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 16 点（坏２，高台付椀１，皿２，小皿２，甕９）が各柱穴から出土している。また，混入した須恵器片 11 点（坏８，甕２，甑１）も出土している。304・305 はＰ 14，306 はＰ 25，307 はＰ９の柱の抜き取り痕から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 11 世紀代と考えられる。



第 165 図　第 34 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 34 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 165 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
304	土師器	坏	［11.0］	3.0	4.6	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	Ｐ 14	40%
305	土師器	坏	－	（1.4）	4.8	長石･石英･雲母･赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	Ｐ 14	50%
306	土師器	小皿	［9.8］	2.1	［6.6］	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	Ｐ 25	５％
307	土師器	甕	［28.8］	（6.7）	－	長石・雲母	橙	普通	体部外面格子状叩き	Ｐ９	10%

第 36 号掘立柱建物跡（第 167・168 図）

位置　調査区中央部のＥ２a6 ～Ｅ２c8 区，標高 23.7 ｍの南側へ緩やかに傾斜した台地縁辺部に位置している。

規模と構造　桁行４間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 65°－Ｗの東西棟である。規模は桁行 8.48 ｍ，梁行 6.06 ｍで，面積は 51.39㎡である。北平及び東妻の中央部の柱穴が確認できなかったが，柱間寸法は桁行が 2.12 ｍ（７尺），梁行が 3.03 ｍ（10 尺）で均等に配置されていると推定できる。柱筋はほぼ揃っている。

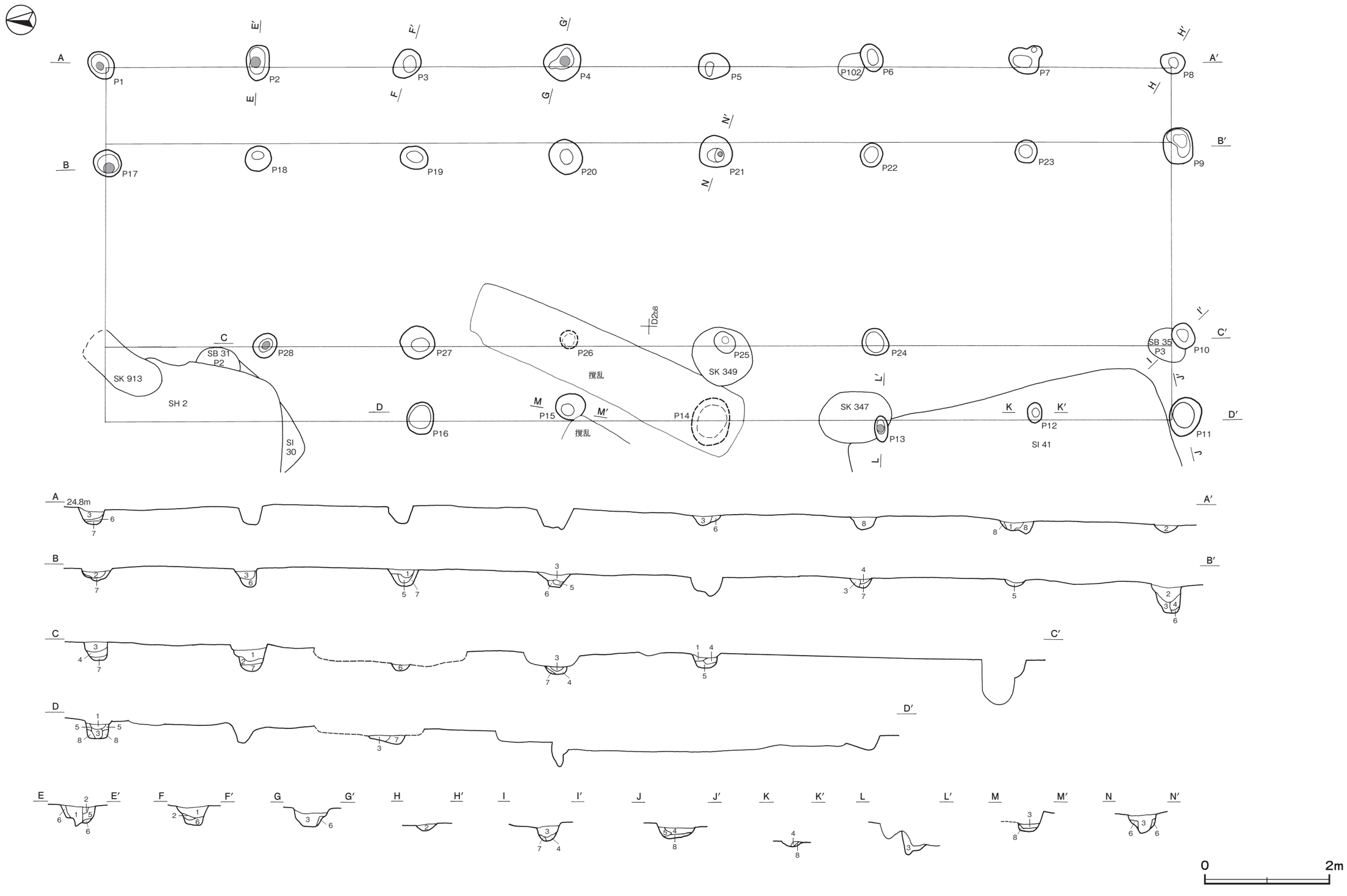
柱穴　10 か所。平面形は円形または楕円形で，長径 30 ～ 53㎝，短径 27 ～ 43㎝である。深さは 13 ～ 52cm で，掘方の断面形はＵ字状である。第１・２層は柱の抜き取り痕，第３層は柱痕跡，第４～６層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

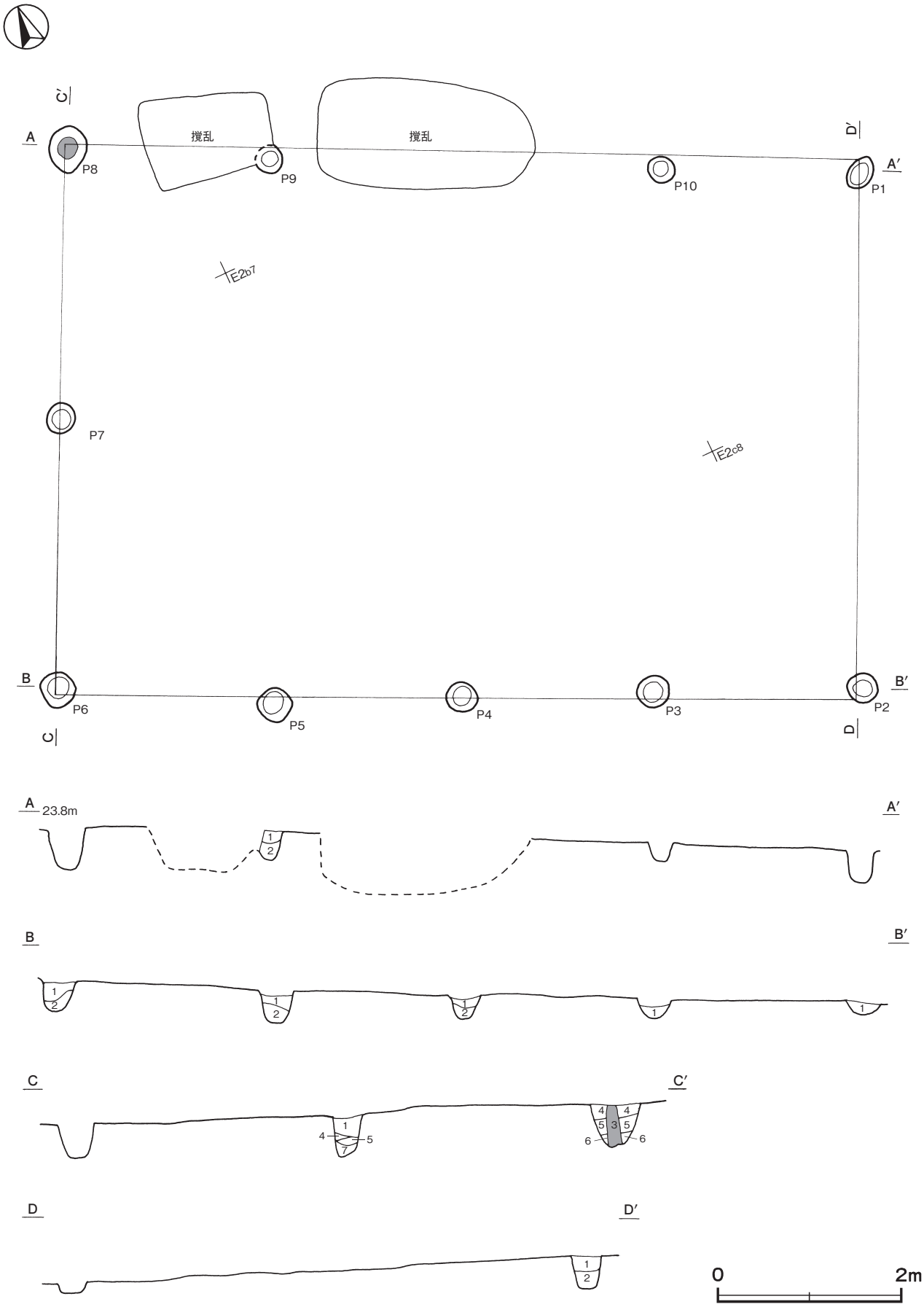
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片 134 点（坏 44，高台付椀３，甕 87），須恵器片 25 点（坏 14，甕 11）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢）も出土している。308・309 はＰ１，DP32 はＰ７の柱の抜き取り痕からそれぞれ出土している。

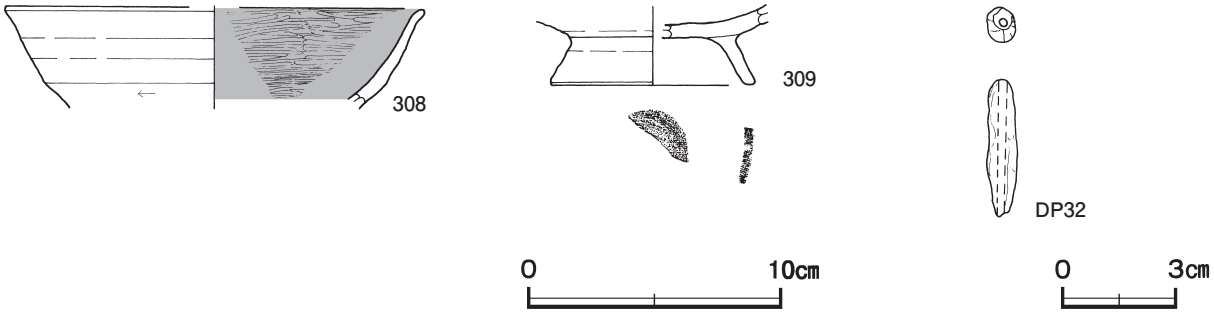
所見　時期は，出土土器や重複関係から 10 世紀前葉と考えられる。



第 166 図　第 34 号掘立柱建物跡実測図



第 167 図　第 36 号掘立柱建物跡実測図



第 168 図　第 36 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 36 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 168 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
308	土師器	高台付椀	［16.5］	（4.0）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き	Ｐ１	５％
309	土師器	高台付椀	－	（3.1）	［8.0］	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，高台貼付	Ｐ１	10％

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP32	管状土錘	3.6	0.9	0.2	2.2	長石・石英	ナデ	Ｐ７	PL52

表９　平安時代　掘立柱建物跡一覧表

番号	位 置	桁行方向	柱 間 数 桁×梁（間）	規　模 桁 × 梁（m）	面 積 （㎡）	柱間寸法		柱　穴				主な出土遺物	時期	備　考 重複関係（古→新）
						桁間（m）	梁間（m）	構造	柱穴数	平面形	深さ（cm）			
3	D1b0～D2c1	N－8°－E	3 × 2	5.45 × 4.24	23.11	1.82	2.12	側柱	10	円形	25～60	土師器片，須恵器片	9 世紀前葉	SB18･32 →本跡→ SB14, SK429･738,P115
5	D1g9～D1i0	N－6°－E	3 × 2	8.18 × 5.45	44.59	2.73	2.73	側柱	10	不整楕円形	17～43	土師器片，須恵器片，土玉	10 世紀前葉	SI69,TP1 →本跡→ SH6
6	D1c9～D1e0	N－7°－E	2 × 2	4.24 × 3.04	12.89	2.12	1.52	側柱	8	隅丸方形 楕円形	50～83	土師器片，須恵器片	9 世紀後半	SB4 →本跡→ SB37,SK537
7	D2a9～D3c1	N－80°－W	3 × 2	7.26 × 4.24	30.78	2.42	2.12	側柱	9	円形　楕円形	28～58	土師器片，須恵器片，鉄滓	10 世紀前半	SI43,SK252 →本跡 → SI45,SK242
8	F1e8～F1f9	N－75°－W	3 × 2	6.36 × 4.24	26.97	2.12	2.12	側柱	9	隅丸長方形 円形	14～70	土師器片，須恵器片	9 世紀前葉	SB9 →本跡→ SD13
13	D1c8～D1d9	N－0°	3 ×（1）	5.46 ×（1.82）	（9.93）	1.82	1.82	側柱	6	円形　楕円形	13～56	土師器片，須恵器片	10 世紀前半	SI68 →本跡→ SK527
14	C1i0～D2c1	N－13°－E	4 × 2	12.12 × 4.85	58.78	2.73～3.33	2.42	側柱	12	不整円形 楕円形	42～86	土師器片，須恵器片	9 世紀中葉	SI23･25,SB 3･32 →本跡 → SH11,SK414･429･728
19	D2e3～D2h5	N－3°－E	5 × 4	12.12 × 10.20	123.62	2.12～2.73	3.03	三面庇	29	隅丸長方形 隅丸方形 楕円形　円形	12～85	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，土玉，紡錘車，砥石，釘	9 世紀後葉	SI62･64,SB20,SK980 →本跡→ SI63,SB28 他
20	D2e5～D2h6	N－4°－E	4 × 3	10.30 × 6.36	65.50	2.42～2.73	2.12	側柱	14	隅丸長方形	55～100	土師器片，須恵器片，鉄滓	9 世紀中葉	SI62,SB26,SH5,SK580･962 →本跡 →SI63，SB19，SH 3･4 他
23	C2j9～D3a1	N－78°－W	3 × 2	7.27 × 4.85	35.25	2.42	2.42	側柱	10	隅丸方形	62～90	土師器片，須恵器片	9 世紀前半	SI36･43,SB29 →本跡→ SI35･45
24	D2f0～D3h1	N－12°－E	3 × 2	7.27 × 4.24	30.82	2.42	2.12	側柱	9	隅丸方形 楕円形	22～36	土師器片，須恵器片	9 世紀後葉	SI72 →本跡→ SH 8・9
25	D2f7～D2j8	N－86°－W	2 × 2	5.45 × 5.45	29.70	2.73	2.42～3.03	側柱	8	円形　楕円形	22～59	土師器片，須恵器片	10 世紀中葉	SI57,SB26,SK1004 → 本跡→ SK565
28	D2e2～D2f5	N－85°－E	5 × 3	12.12 × 5.15	62.42	2.42	1.52～1.82	側柱	18	隅丸方形 隅丸長方形 楕円形	12～68	土師器片，須恵器片，緑釉陶器，釘	9 世紀後葉	SI64,SB19,SK980 →本跡 → SI63,SK1006･1009
31	C2i6～C2j7	N－75°－W	2 × 2	4.85 × 4.85	23.52	2.42	2.42	側柱	8	円形　楕円形 不整方形	40～66	土師器片，須恵器片	9 世紀前半	SI30 →本跡→ SH 2，SK885･910･913
34	C2i7～D2d9	N－2°－W	7 × 3	17.27 × 5.76	99.48	2.42	1.21～3.33	側柱	28	円形　楕円形	12～47	土師器片	11 世紀代	SI30･41，SB35，SH 1・2,P102 →本跡→ SK347･349･913
36	E2a6～E2c8	N－65°－W	4 × 2	8.48 × 6.06	51.39	2.12	3.03	側柱	10	円形　楕円形	13～52	土師器片，須恵器片	10 世紀前葉	

(3) 方形竪穴遺構

一辺が2mを超える規模で，平面形が方形または長方形の遺構である。竈や柱穴をもたないことから，竪穴住居跡と区別して方形竪穴遺構とした。今回の調査では，11基が確認できた。以下，遺構と遺物の特徴について解説する。

第1号方形竪穴遺構（SI28）（第169図）

位置　調査区中央部のC 2i8区，標高24.8 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第30号住居跡，第897号土坑を掘り込み，第34号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.28 m，短軸1.98 mの長方形で，長軸方向はN－5°－Wである。壁高は13～31cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。

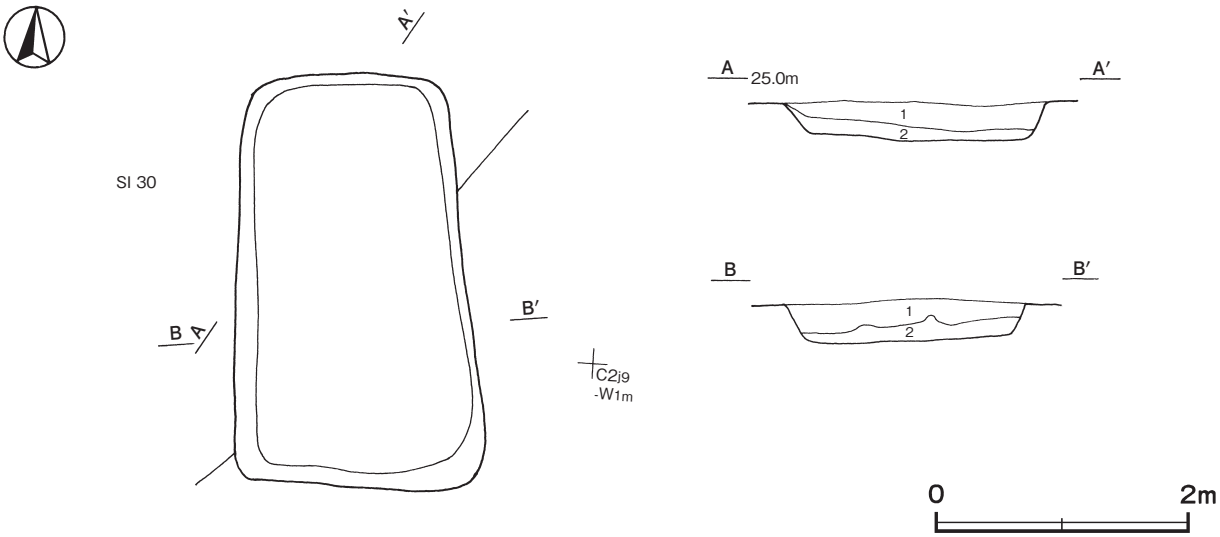
覆土　2層に分層できる。均質な極暗褐色土が堆積していることから自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量　　2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片117点（坏48，甕類69），須恵器片19点（坏8，蓋1，甕10），鉄製品1点（釘）が出土している。また，混入した陶器片4点（碗）も出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器坏は，内面に黒色処理が施されている。

所見　時期は，出土土器から平安時代と考えられる。



第169図　第1号方形竪穴遺構実測図

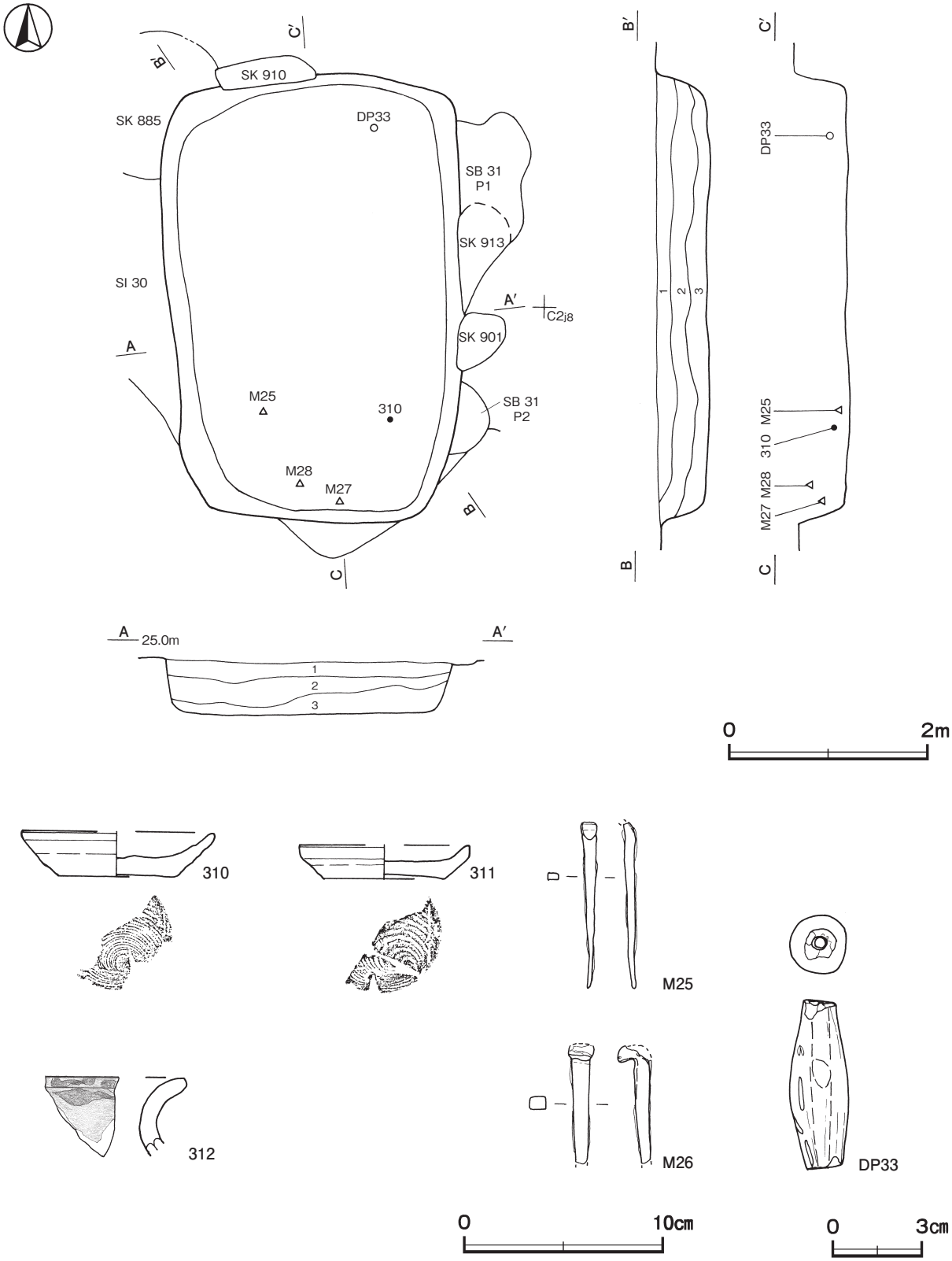
第2号方形竪穴遺構（SI31）（第170図）

位置　調査区中央部のC 2i7区，標高24.8 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第30号住居跡，第31号掘立柱建物跡，第885号土坑を掘り込み，第34号掘立柱建物，第901・910・913号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.49 m，短軸 2.99 mの長方形で，長軸方向はN－4°－Eである。壁高は 50 ～ 55cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。



第 170 図　第２号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

覆土　３層に分層できる。均質な黒褐色土が堆積していることから自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 365 点（坏 156，高台付椀９点，小皿 12，甕 187 点，甑１点），灰釉陶器片３点（椀２，瓶１），土製品１点（管状土錘），石製品１点（砥石），鉄製品５点（釘），粘土塊１点，鉄滓５点（27.5g）が全体の覆土中層を中心に出土している。また，流れ込んだ縄文土器片２点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺），須恵器片 50 点（坏 23，高台付坏１，蓋２，瓶２，甕 22），剥片２点（黒曜石），混入した陶器片３点（瓶１，甕２）も出土している。310 は南東部，M 25・M 27 は南部の覆土下層，311 は北東部，DP33 は北壁際，M 26 は北西部，M 28 は南壁際の覆土中層，312 は南東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 11 世紀前葉と考えられる。

第２号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 170 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
310	土師器	小皿	［9.6］	2.3	［5.7］	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	下層	30％
311	土師器	小皿	［8.4］	1.7	［6.0］	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	中層	40％
312	灰釉陶器	長頸瓶	－	（3.9）	－	長石・石英	灰オリーブ	良好	外・内面施釉	上層	５％

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP33	管状土錘	5.7	2.0	0.5	（20.5）	長石・石英・赤色粒子	孔端部ヘラ削り	中層	PL52

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 25	釘	（8.4）	0.9	0.6	（7.5）	鉄	頭部折り返し部欠損　断面方形	下層	
M 26	釘	（6.0）	1.3	0.7	（19.9）	鉄	断面方形	中層	PL56
M 27	釘	（3.4）	1.1	0.5	（2.9）	鉄	断面方形　細片のため計測のみ	下層	
M 28	釘	（3.5）	0.7	0.5	（2.6）	鉄	断面方形　細片のため計測のみ	中層	

第３号方形竪穴遺構（SI58）（第 171 図）

位置　調査区中央部のＤ２g6 区，標高 24.3 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 20 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 110 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　長軸 2.59 m，短軸 2.44 mの隅丸方形で，長軸方向はＮ－ 80゜－Ｗである。壁高は 10 ～ 25cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

ピット　Ｐ１は深さ 27cm で，性格不明である。

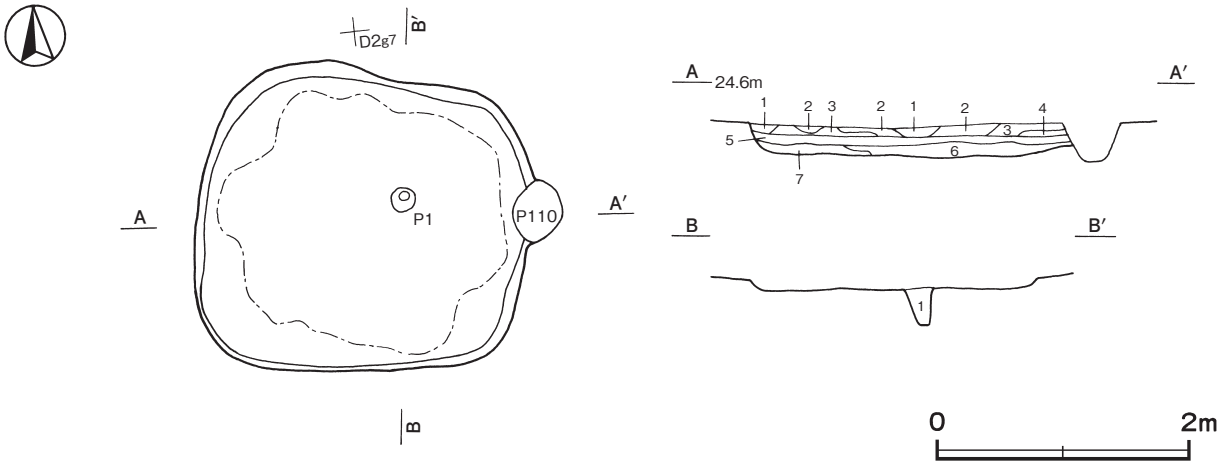
ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量

覆土　７層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量
7　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 56 点（坏 27，高台付椀２，皿５，甕 22），須恵器片 30 点（坏８，蓋３，鉢１，甕 16，甑２），粘土塊２が出土している。また，混入した縄文土器片６点，弥生土器片１点（広口壺），古墳時代の土師器片１点（器台）も出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器の供膳具類（坏，高台付椀，皿）は内面に黒色処理が施されたものがみられる。

所見　時期は，重複関係や遺構の形状から 10 世紀代と考えられる。



第 171 図　第３号方形竪穴遺構実測図

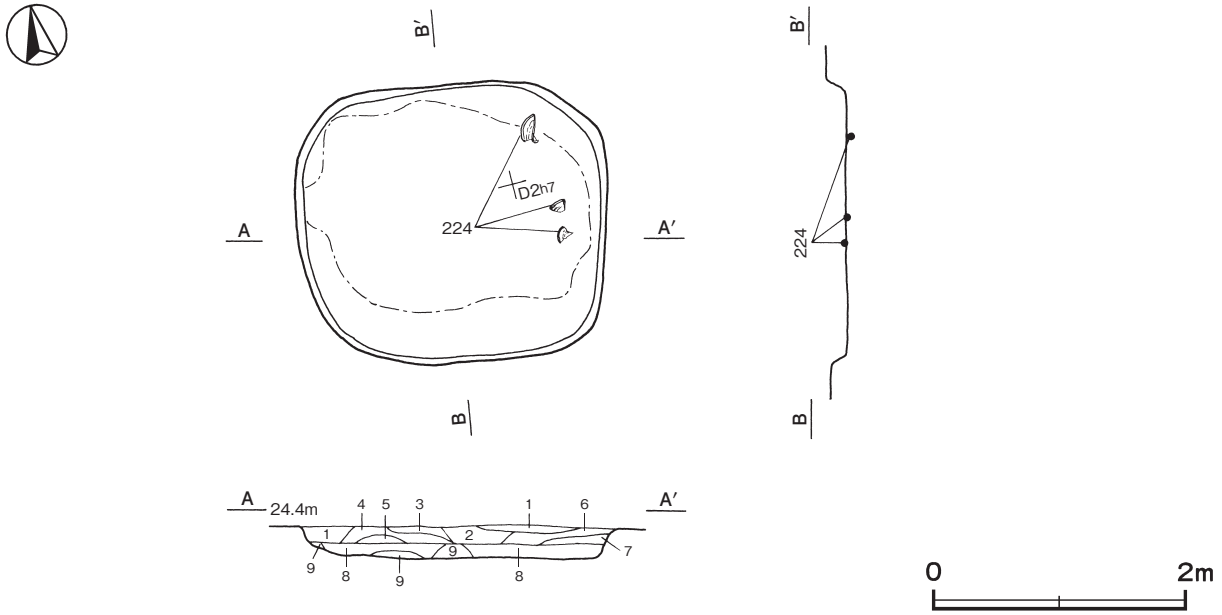
第４号方形竪穴遺構（SI59）（第 172・173 図）

位置　調査区中央部のＤ２h6 区，標高 24.3 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 20 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 2.48 m，短軸 2.18 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 77°－Ｗである。壁高は 15 ～ 23㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。



第 172 図　第４号方形竪穴遺構実測図

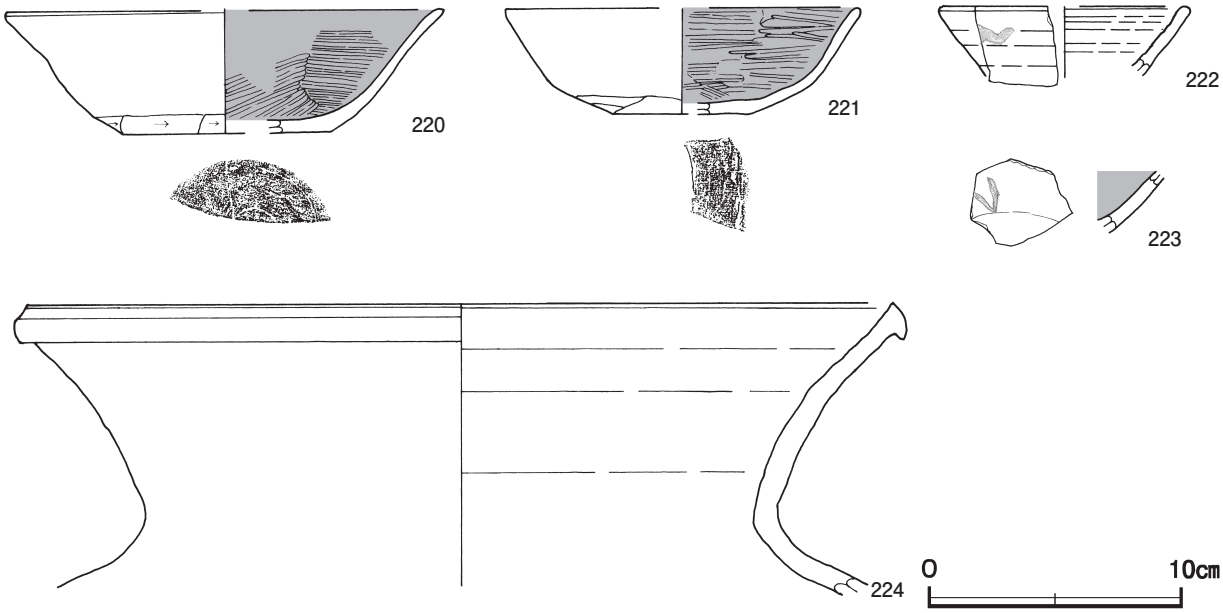
覆土　９層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 66 点（坏 56，甕 10），須恵器片 31 点（坏６，高台付坏１，甕 24），粘土塊１点が出土している。また，混入した縄文土器片３点（深鉢）も出土している。224 は東部の覆土下層から出土している。220 ～ 223 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀後葉と考えられる。



第 173 図　第４号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第４号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 173 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
220	土師器	坏	［17.1］	4.9	［8.2］	石英･赤色粒子	橙	普通	底部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	20%
221	土師器	坏	［14.0］	4.2	［5.4］	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り	覆土中	10%
222	土師器	坏	［9.6］	（2.7）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「□」	覆土中	５％
223	土師器	坏	－	（2.4）	－	長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「□」	覆土中	５％
224	須恵器	大甕	34.2	（11.2）	－	長石・石英	灰	良好	ロクロナデ	下層	10%

第５号方形竪穴遺構（SI60）（第 174 図）

位置　調査区中央部のＤ２h5 区，標高 24.2 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 26・27 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 20 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 2.92 ｍ，短軸 2.31 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 27゜－Ｅである。壁高は１～７㎝で，立ち上がりの状況は不鮮明である。

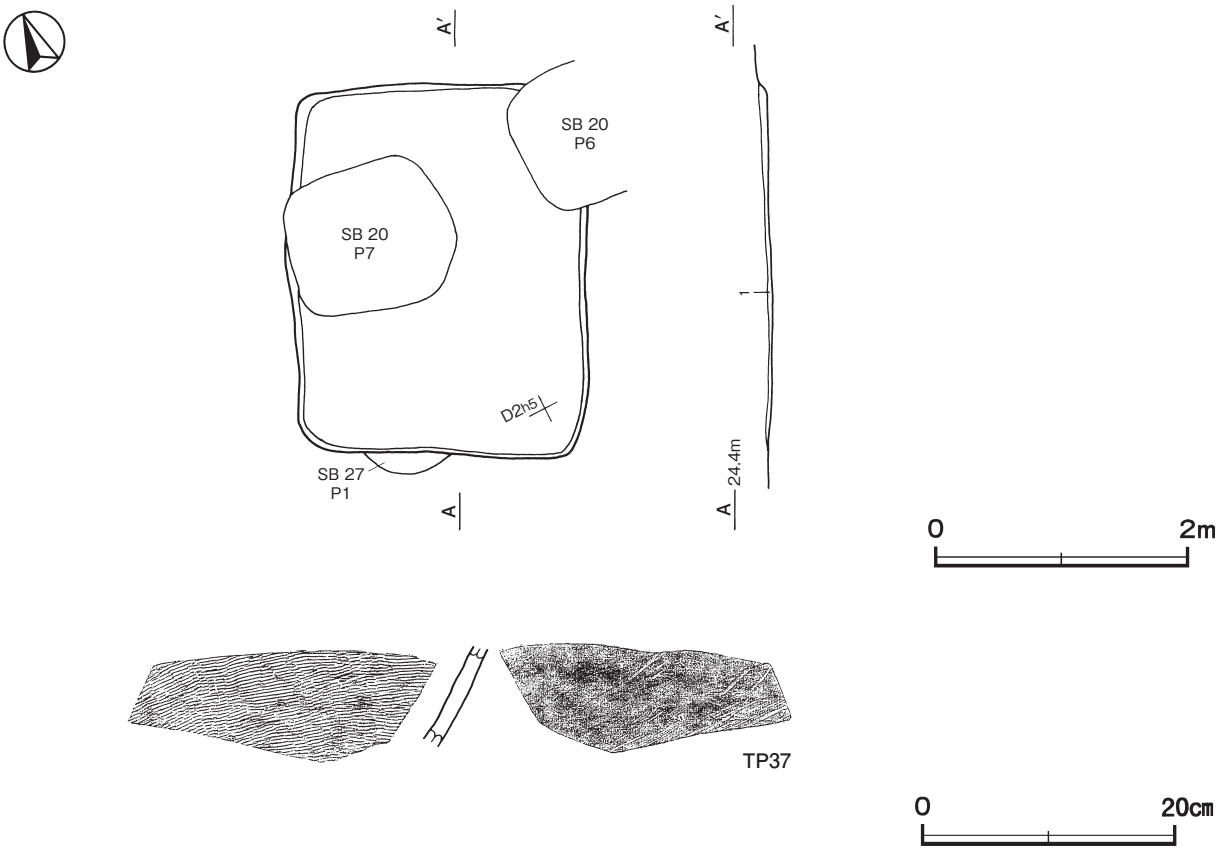
床　平坦で，硬化面は確認できなかった。

覆土　単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 22 点（坏３，甕 19），須恵器片６点（甕）が出土している。また，流れ込んだ弥生土器片１点（広口壺）も出土している。TP37 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀前葉と考えられる。



第 174 図　第５号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第５号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 174 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP37	須恵器	大甕	黒色粒子	黄灰	良好	体部外面横位の平行叩き　内面ヘラナデ	覆土中	

第６号方形竪穴遺構（SI70）（第 175 図）

位置　調査区中央部のＤ１g9 区，標高 24.2 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 69 号住居跡，第５号掘立柱建物跡，第 721 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　西側の床面が露出した状態で確認した。硬化面の広がりから長軸は 2.70 ｍと推定でき，短軸 2.28 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 69 ゜－Ｅである。壁高は５～８㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。北壁際には灰黄褐色砂質粘土や黒褐色土がブロック状に堆積しており，その下部には焼土や炭化物を多く含む深さ10cmの土坑が確認できた。ただし，火を使用した痕跡などが確認できなかったため，性格不明である。

床面土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
2　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　炭化物中量，焼土ブロック・ローム粒子少量

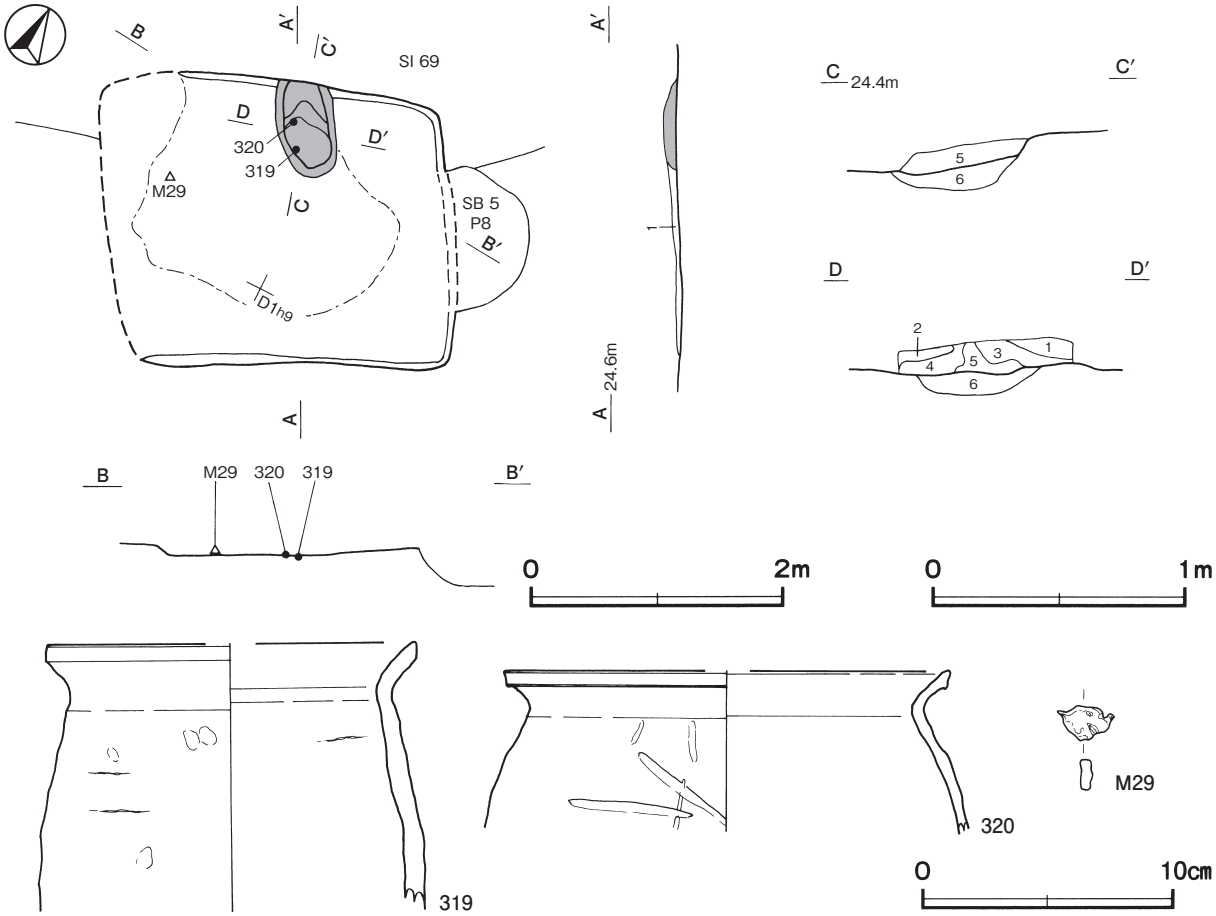
覆土　単一層である。均質な黒褐色土であることから自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片49点（坏5，甕44），須恵器片1点（坏），銅滓1点（5.0g）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片7点（深鉢），弥生土器片4点（広口壺），古墳時代の土師器片17点（器台7，壺8，鉢1，甕1）も出土している。M 29は西部の床面，319･320は北壁際のブロック土層中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第175図　第6号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第6号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第175図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
319	土師器	甕	[14.8]	(10.6)	－	長石・石英	橙	普通	外・内面輪積み痕	ブロック土層	10%
320	土師器	甕	[17.8]	(6.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面ヘラナデ	ブロック土層	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 29	銅滓	1.4	2.2	0.5	(5.0)	銅	刃部断面三角形　先端部欠損　基部断面方形	床面	

第７号方形竪穴遺構（SI82）（第 176・177 図）

位置　調査区中央部のＤ２b6 区，標高 24.5 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 41 号住居跡，第 30・35 号掘立柱建物跡，第 972・974 号土坑を掘り込み，第 42・77・79 号住居に掘り込まれている。

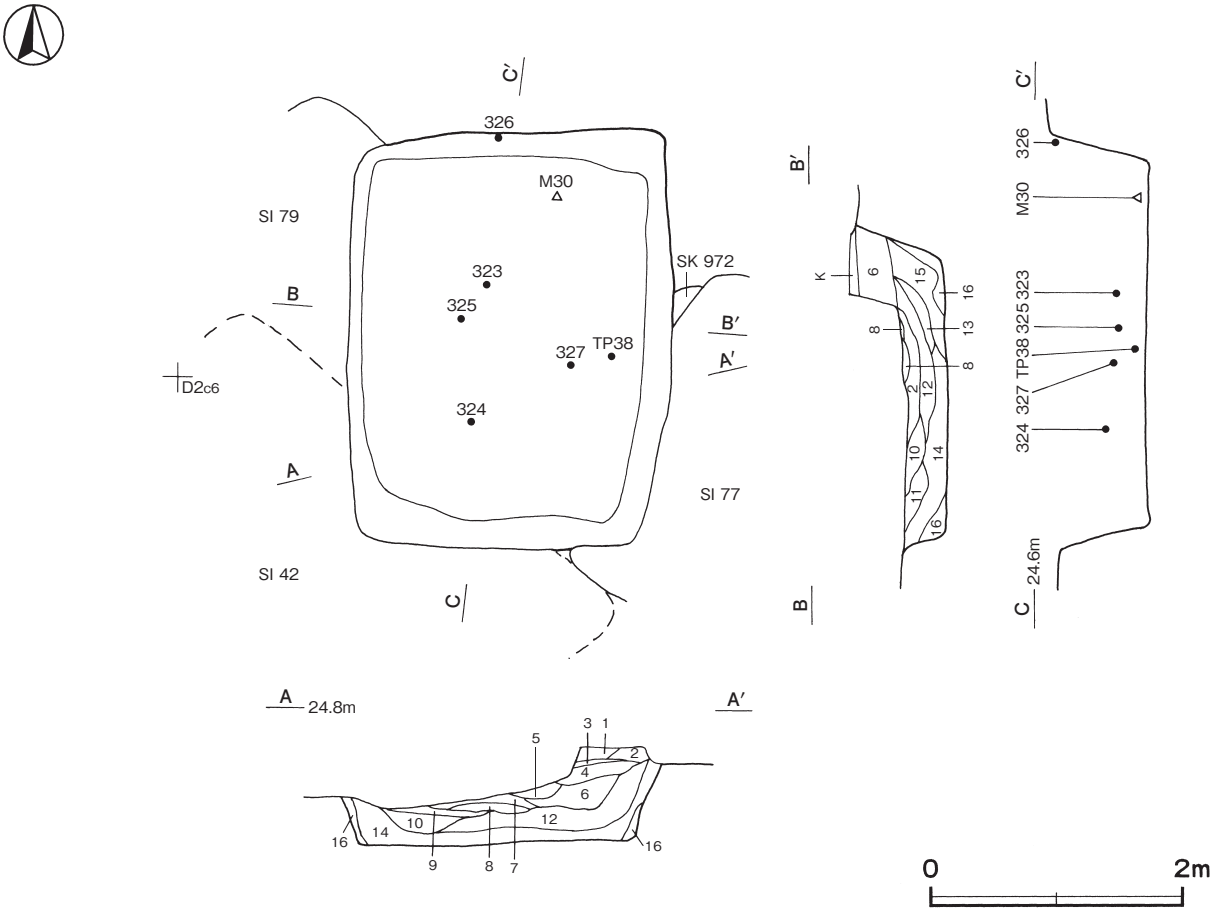
規模と形状　長軸 3.30 ｍ，短軸 2.53 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－６°－Ｅである。壁高は 76 ～ 83㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。

覆土　16 層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

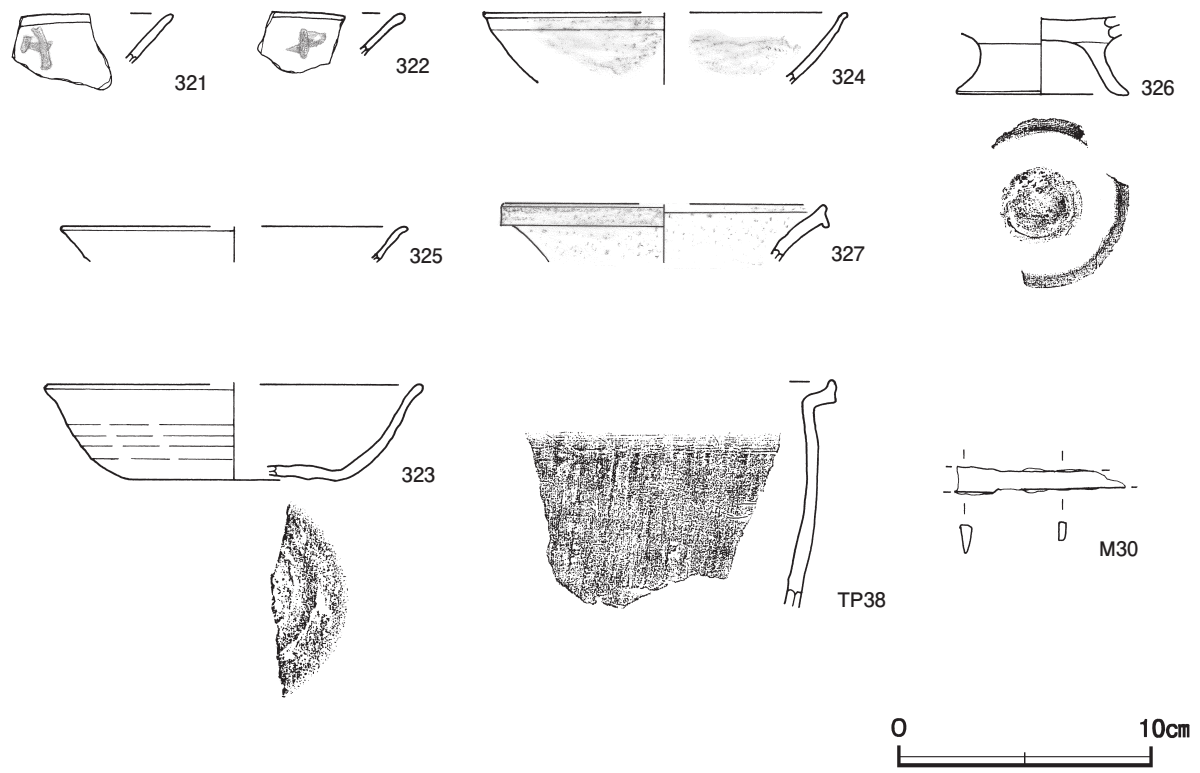
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量
5　黒　　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
7　暗　褐　色　炭化物・焼土粒子中量，ローム粒子少量
8　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土ブロック少量
9　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　炭化粒子微量
12　にぶ黄橙色　砂質粘土ブロック多量
13　暗　褐　色　砂質粘土ブロック多量
14　暗　褐　色　炭化粒子微量
15　黒　褐　色　ローム粒子少量
16　黒　褐　色　ローム粒子中量



第 176 図　第７号方形竪穴遺構実測図

遺物出土状況　土師器片 321 点（坏 111，高台付椀 16，甕 191，甑３），須恵器片 101 点（坏 48，盤２，鉢１，甕 50），灰釉陶器片４点（椀１，瓶３），緑釉陶器片１点（椀），鉄製品１点（刀子），粘土塊５点，種子１点（桃）が，北部から中央部にかけての覆土上層から中層を中心に出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢），剥片１点（黒曜石），弥生土器片４点（広口壺），古墳時代の土師器片１点（高杯），陶器片３点（甕）も出土している。321・322 は北西部，TP38 は東部，M 30 は北部の覆土下層，323 ～ 325･327 は中央部の覆土中層，326 は北壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や覆土の堆積状況から 10 世紀前葉に比定できる。



第 177 図　第７号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第７号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 177 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
321	土師器	坏	－	(2.0)	－	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	内面ヘラ磨き　墨書「□」	下層	５％
322	土師器	坏	－	(1.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「十ヵ」	下層	５％
323	須恵器	坏	[14.8]	3.8	[8.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	中層	30％
324	灰釉陶器	椀	[14.2]	(2.8)	－	長石・石英	灰黄褐	良好	外・内面施釉	中層	５％　PL58
325	緑釉陶器	椀	[13.6]	(1.4)	－	長石	にぶい黄橙	良好	外・内面施釉	中層	５％　PL58
326	土師器	高台付椀	－	(3.1)	6.9	長石･石英･雲母･赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，高台貼付	上層	10％
327	灰釉陶器	瓶	[12.7]	(2.2)	－	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	良好	外・内面施釉	中層	５％　PL58

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP38	須恵器	鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面縦位の平行叩き	下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 30	刀子	(6.7)	1.4	0.4	(6.2)	鉄	刃部片　断面三角形	下層	

第８号方形竪穴遺構（SK981）（第 178 図）

位置　調査区中央部のＤ２g0 区，標高 24.2 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 72 号住居跡，第 24 号掘立柱建物跡，第 24 号ピットを掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 2.68 ｍ，短軸 2.50 ｍの隅丸方形で，長軸方向はＮ－ 60°－Ｗである。壁高は 43 ～ 57㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。

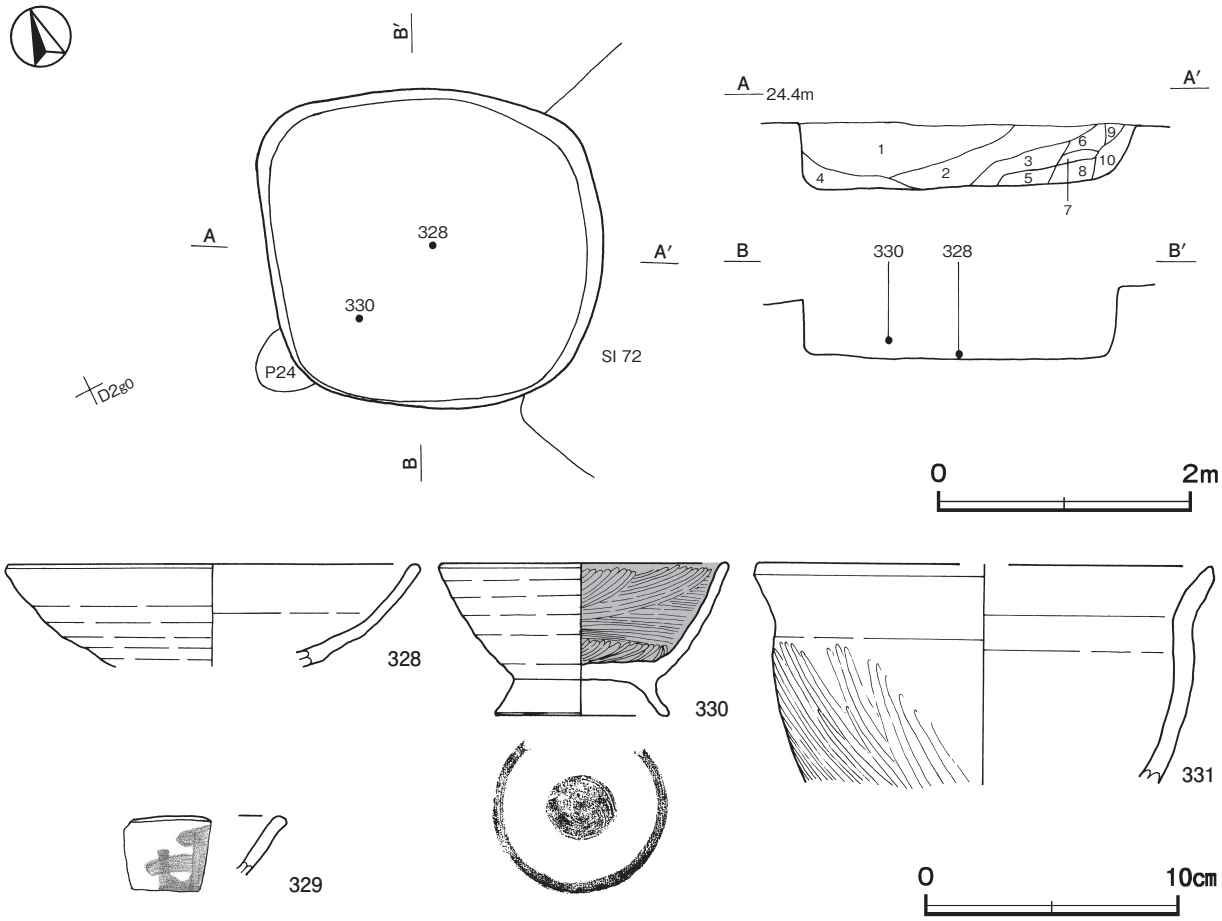
覆土　10 層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量	
2	褐　　色	ロームブロック少量	
3	暗　褐　色	ローム粒子少量	
4	黒　褐　色	ローム粒子中量	
5	黒　褐　色	ローム粒子微量	
6	暗　褐　色	ローム粒子中量	
7	黒　褐　色	焼土ブロック少量	
8	暗　褐　色	ロームブロック中量	
9	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
10	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	

遺物出土状況　土師器片 198 点（坏 23，椀 25，高台付椀３，高台付皿１，甕 145，甑１）が，覆土上層から中層を中心に出土している。また，混入した縄文土器片 18 点（深鉢），須恵器片 29 点（坏 11，鉢２，甕 16），土製品１点（支脚）が出土している。328 は中央部の覆土中層，330 は南西部の覆土上層，329・331 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 178 図　第８号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第８号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 178 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
328	土師器	坏	16.2	(4.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ	中層	45%
329	土師器	椀	－	(2.4)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　墨書「井ヵ」	覆土中	５％
330	土師器	高台付椀	11.4	6.1	6.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　底部ナデ後，高台貼付	上層	70%　PL45
331	土師器	甕	[18.0]	(8.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土中	５％

第９号方形竪穴遺構（SK982）（第 179 図）

位置　調査区中央部のＤ２g0 区，標高 24.2 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 24 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 2.98 ｍ，短軸 1.90 ｍの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 60゜－Ｗである。壁高は 26 ～ 36㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。

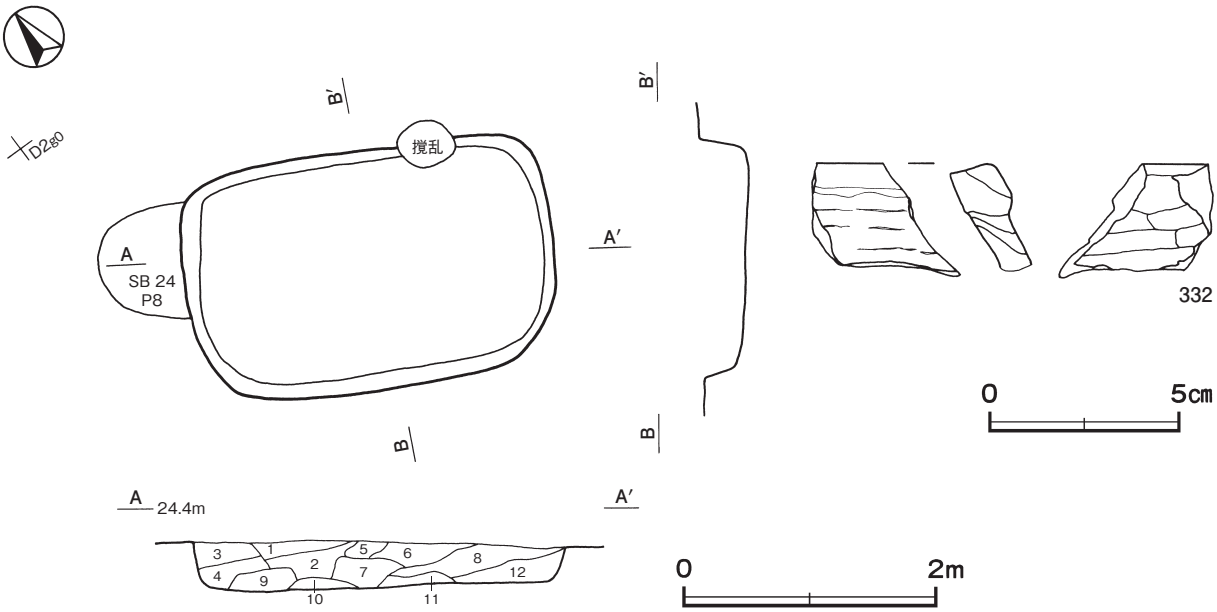
覆土　12 層に分層できる。ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量
9　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子微量
10　黒　　色　ローム粒子微量
11　黒　　色　ローム粒子少量
12　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片 78 点（坏 17，高台付椀 6，甕 54，置き竈１）が出土している。また，混入した縄文土器片 22 点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺），須恵器片 30 点（坏６，高台付坏１，蓋１，鉢１，甕 21），灰釉陶器片１点（椀）が出土している。332 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀後半と考えられる。



第 179 図　第９号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第９号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 179 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
332	土師器	置き竈	－	(4.5)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ヘラナデ	覆土中	５％

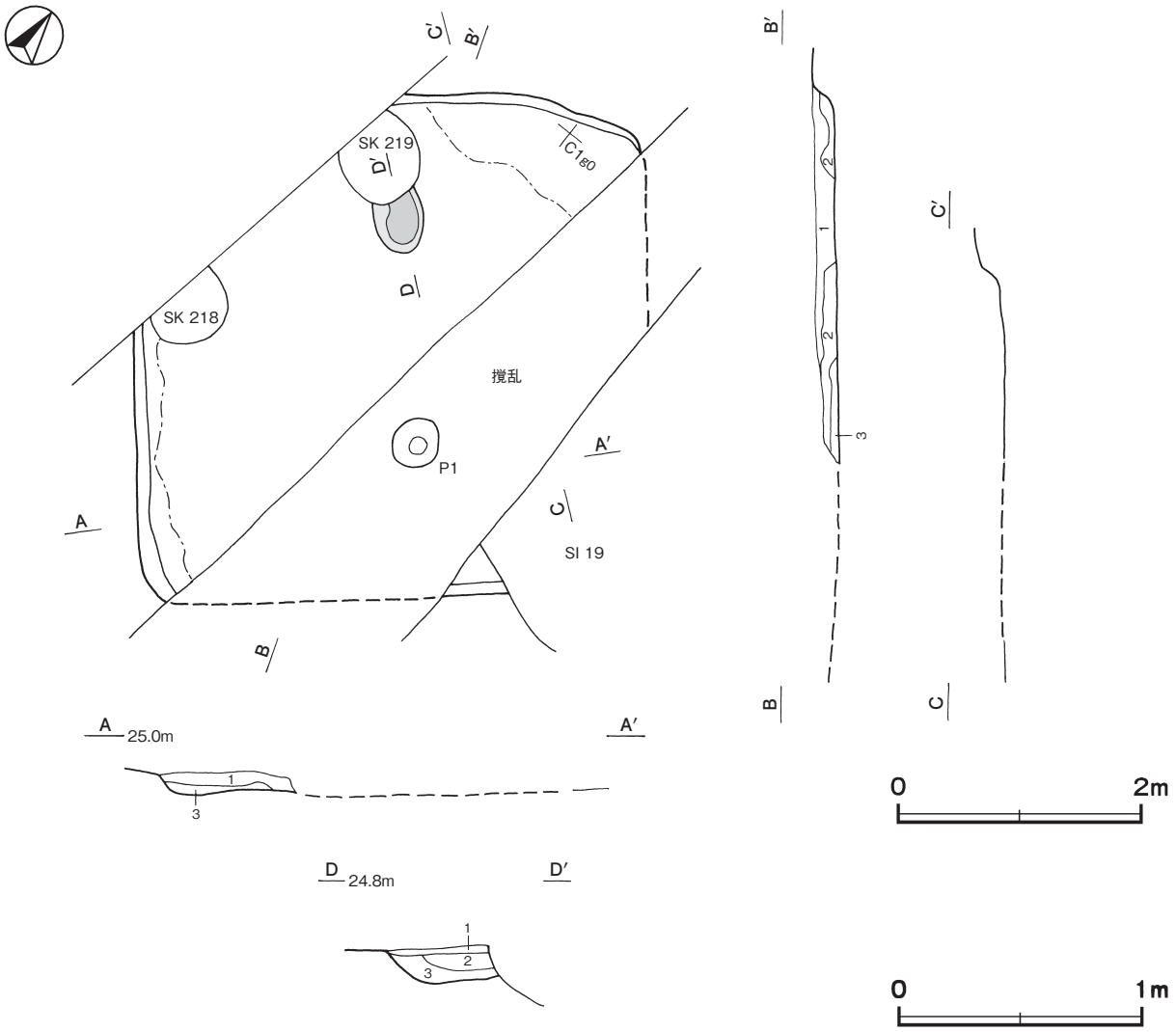
第 10 号方形竪穴遺構（SI21）（第 180 図）

位置　調査区中央部西端のＣ１g9 区，標高 24.8 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 19 号住居，第 218・219 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西側は調査区域外へ延びており，中央部より東側は撹乱を受けているため，北東･南西軸 4.22 ｍ，北西・南東軸 4.16 ｍしか確認できなかった。一辺 4.3 ｍの方形と推定でき，北西・南東軸方向はＮ－ 40°－Ｗである。壁高は 15 ～ 20㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。



第 180 図　第 10 号方形竪穴遺構実測図

炉　北西側の中央部に付設された地床炉である。北西側を第219号土坑に掘り込まれているため，長径は52cmしか確認できなかったが，短径42cmの楕円形である。炉床部は床面から３㎝くぼんでおり，炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

１	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	
２	暗 赤 褐 色	焼土ブロック多量，ロームブロック少量，炭化粒子微量	
３	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子少量	

ピット　深さ37cmで，性格不明である。

覆土　３層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

１	黒　褐　色	ローム粒子少量
２	暗　褐　色	ロームブロック少量
３	暗　褐　色	ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片５点（坏１，甕類４），瓦１点（平瓦）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片４点（深鉢）も出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器坏は内面に黒色処理が施されており，土師器甕は外面に粗いヘラ削り調整がみられる。

所見　時期は，出土土器から10世紀代と考えられる。

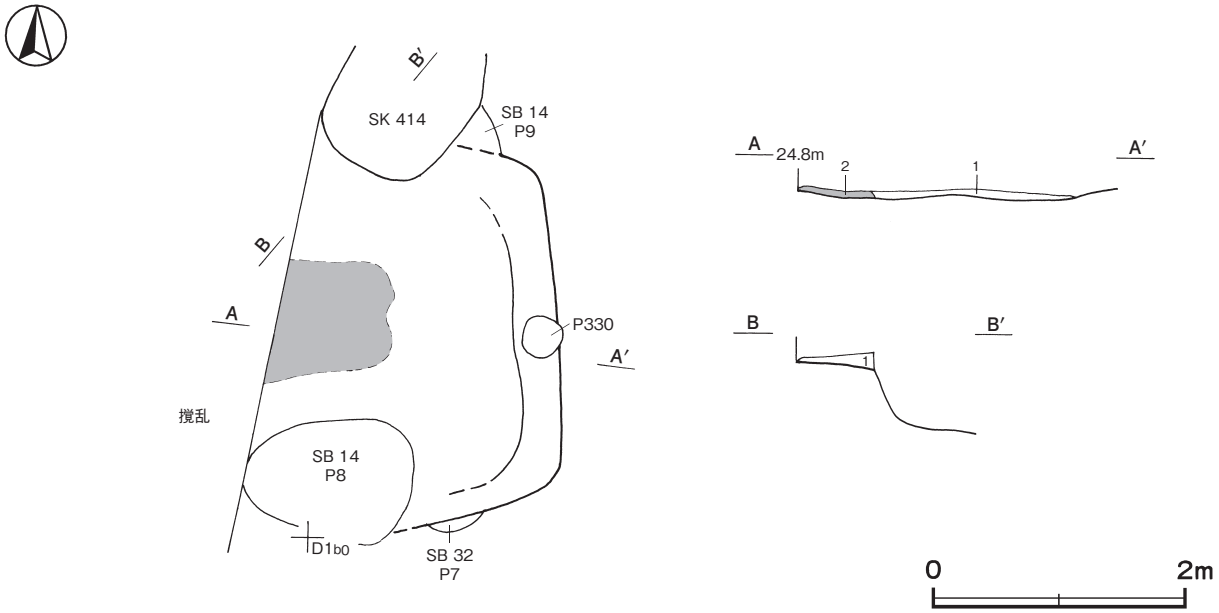
第11号方形竪穴遺構（SI24）（第181･182図）

位置　調査区中央部のＤ１a0区，標高24.7ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第14・32号掘立柱建物跡を掘り込み，第414号土坑，第330号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　西部が撹乱を受けており，北・南部は遺構の重複が激しいため，東西軸2.52ｍ，南北軸2.82ｍしか確認できなかった。東壁の状況から平面形は隅丸方形または隅丸長方形と推定でき，南北軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁高は５㎝で，緩やかに傾斜して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。中央部には長さ93㎝，幅88㎝の範囲に，厚さ５㎝の褐灰色粘土が広がっている。



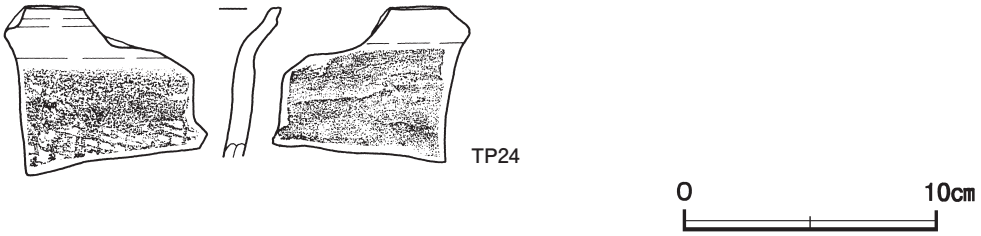
第181図　第11号方形竪穴遺構実測図

覆土　単一層で，均質な黒色土層であることから自然堆積である。第２層は床面に堆積している粘土層である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量　　2　褐　灰　色　粘土ブロック多量，ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 16 点（坏４，甕 12），須恵器片２点（蓋，鉢）が出土している。TP24 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後半と考えられる。



第 182 図　第 11 号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第 11 号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 182 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP24	須恵器	鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面格子状叩き	覆土中	

表 10　平安時代　方形竪穴遺構一覧表

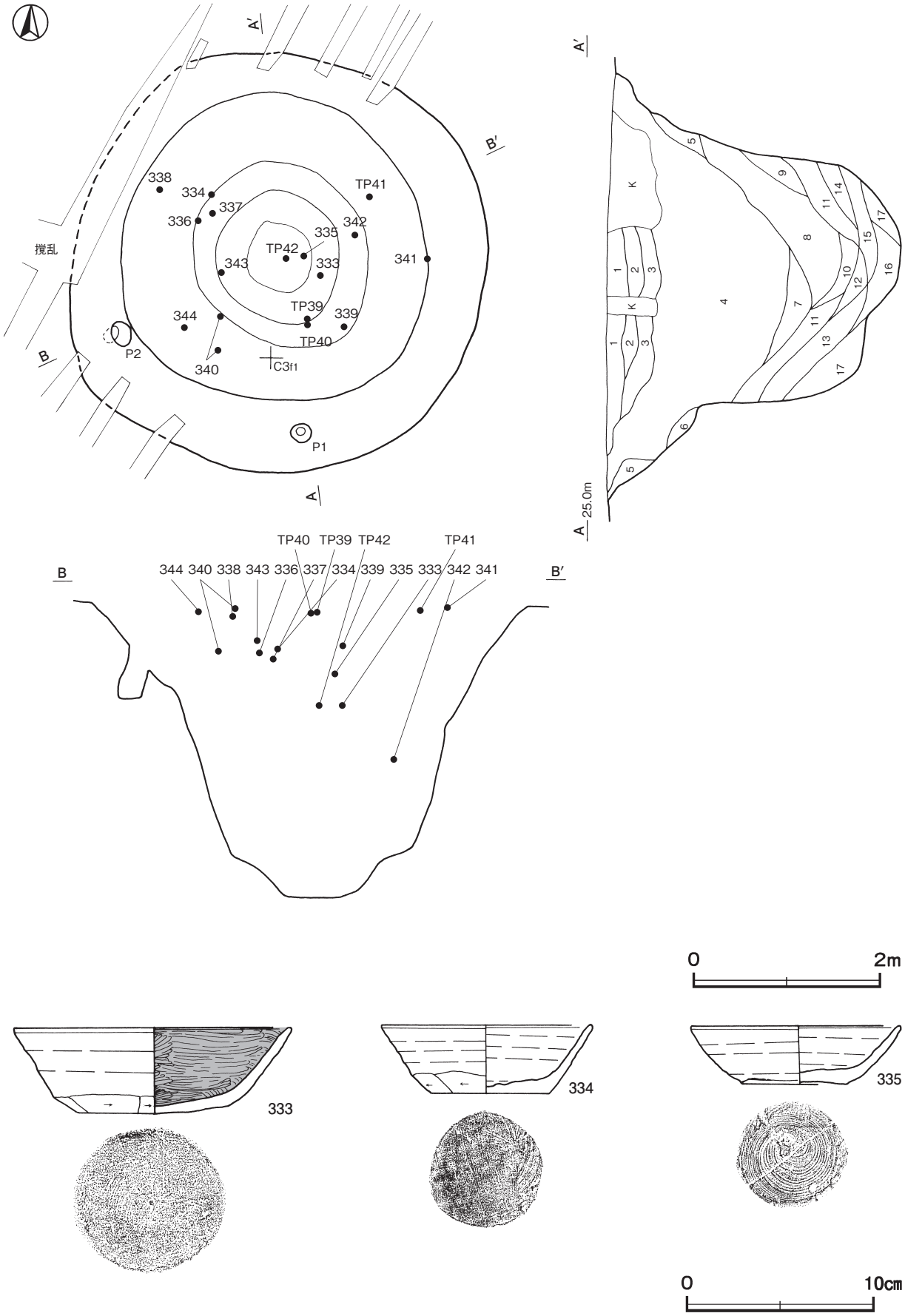
番号	位置	長径方向	平面形	規　　模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備　　考 新旧関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）						
1	C 2i8	N－5°－W	長方形	3.28 × 1.98	13 ～ 31	平坦	外傾	自然	土師器片，須恵器片，釘	平安時代	SI30,SK897 →本跡→ SB34
2	C 2i7	N－4°－E	長方形	4.49 × 2.99	50 ～ 55	平坦	外傾	自然	土師器片，灰釉陶器片，管状土錘，砥石，釘，鉄滓	11 世紀前葉	SI30,SB31,SK885 →本跡→ SB34,SK901・910・913
3	D 2g6	N－80°－W	隅丸方形	2.59 × 2.44	10 ～ 25	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	10 世紀代	SB20 →本跡→ P110
4	D 2h6	N－77°－W	隅丸長方形	2.48 × 2.18	15 ～ 23	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	9 世紀後葉	SB20 →本跡
5	D 2h5	N－27°－E	長方形	2.92 × 2.31	1 ～ 7	平坦	－	－	土師器片，須恵器片	9 世紀前葉	SB26・27 →本跡→ SB20
6	D 1g9	N－69°－E	長方形	[2.70] × 2.28	5 ～ 8	平坦	外傾	自然	土師器片，須恵器片	10 世紀後半	SI69, SB 5 ,SK721 →本跡
7	D 2b6	N－6°－E	長方形	3.30 × 2.53	76 ～ 83	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，緑釉陶器片，刀子	10 世紀前葉	SI41,SB30・35 他→本跡→ SI42・77・79
8	D 2g0	N－60°－W	隅丸方形	2.68 × 2.50	43 ～ 57	平坦	外傾	人為	土師器片	10 世紀前葉	SI72,SB24,P24 →本跡
9	D 2g0	N－60°－W	隅丸長方形	2.98 × 1.90	26 ～ 36	平坦	直立	人為	土師器片	10 世紀後半	SB24 →本跡
10	C 1g9	N－40°－W	［方形］	[4.30 × 4.30]	15 ～ 20	平坦	外傾	自然	土師器片，瓦	10 世紀代	本跡→ SI19,SK218・219
11	D 1a0	N－4°－W	［隅丸方形 隅丸長方形］	[2.82 × 2.52]	5	平坦	緩斜	自然	土師器片，須恵器片	9 世紀後半	SB14・32 →本跡→ SK414, P330

(4) 大形円形土坑

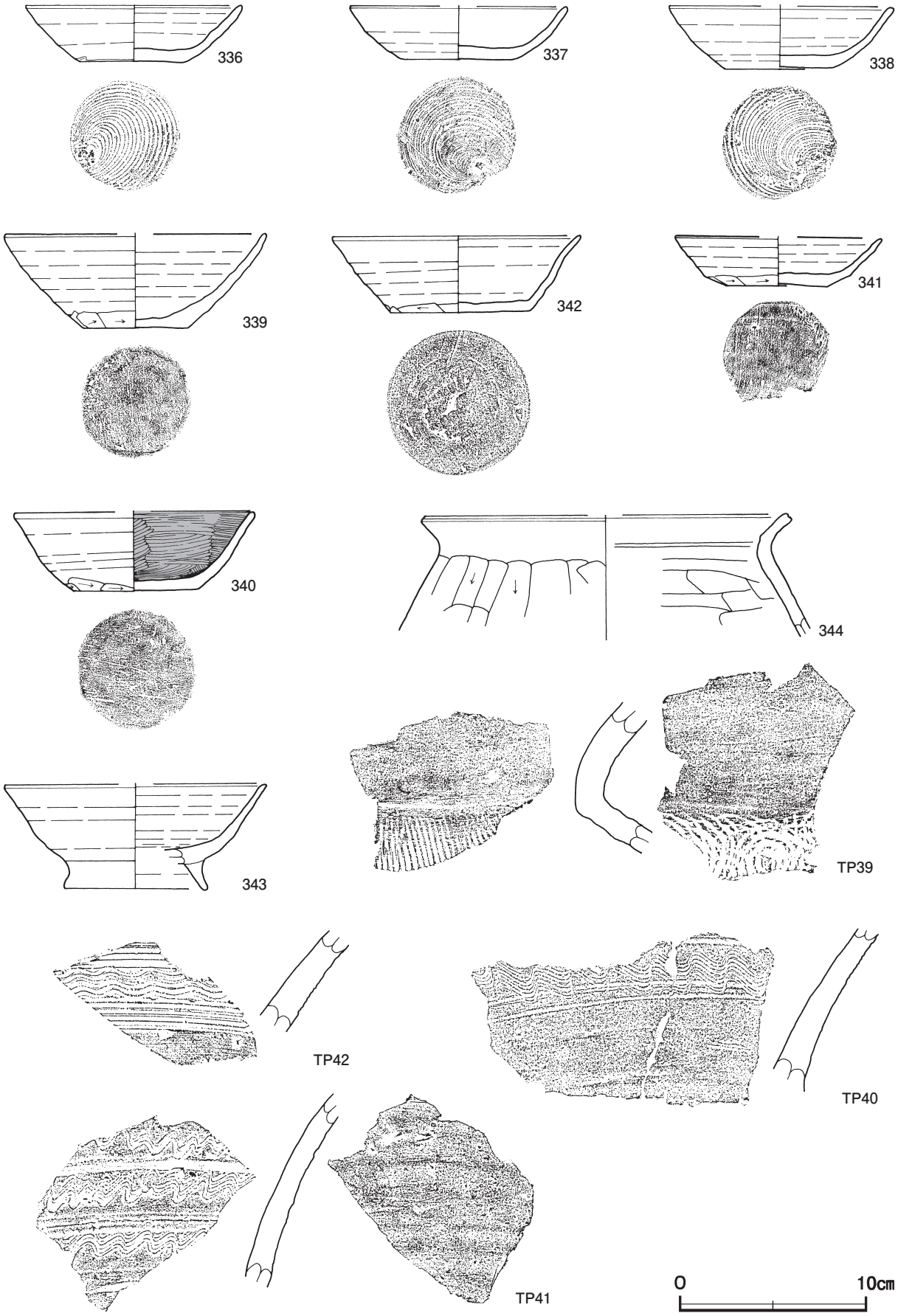
逆円錐台状に掘り込まれた大形の土坑で，底面に小穴を有している。今回の調査では，１基が確認できた。以下，遺構と遺物の特徴について解説する。

第１号大形円形土坑（SK171）（第 183・184 図）

位置　調査区北部のＣ３e1 区，標高 24.8 ｍの台地縁辺部に位置している。



第 183 図　第 1 号大形円形土坑・出土遺物実測図



第184図　第1号大形円形土坑出土遺物実測図

規模と形状　開口部は径4.60～4.78ｍの円形，底面は径1.90～2.11mの楕円形である。深さは264～277cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面の中央部に径135～143cmの円形で，深さ38cmの穴が設けられている。底面は皿状で，壁は緩やかに傾斜している。

ピット　２か所で，確認面からの深さ48cmの南壁と深さ46cmの南東壁に設けられており，地表面に対して垂直方向に掘り込まれている。長径24・28cm，短径20・21cmの楕円形で，深さ56・45cmである。上屋施設に関連する柱穴の可能性もあるが，その構造は不明である。

覆土　17層に分層できる。第１～３層と第５～17層は，ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。第４層は均質な黒褐色土で，層厚140cmにわたって堆積していることから自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物中量，焼土ブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　灰 黄 褐 色　ロームブロック多量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック中量
10　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　褐　　色　ロームブロック多量
12　褐　　色　ローム粒子中量
13　暗　褐　色　ロームブロック多量
14　褐　　色　ロームブロック多量，粘土ブロック中量
15　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
16　黒　褐　色　ロームブロック少量
17　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片488点（坏130，高台付椀６，甕352），須恵器片55点（坏２，蓋１，盤３，甕22，大甕27）が覆土中層を中心に出土している。また，流れ込んだ縄文土器片106点（深鉢），古墳時代の土師器片３点（器台１，壺２），石器１点（鏃）も出土している。333～344，TP39～TP42はいずれも覆土中層から出土しており，廃絶後の凹地状になった部分に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉には埋没しており，それ以前に機能していたと推測できる。

第１号大形円形土坑出土遺物観察表（第183・184図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
333	土師器	坏	14.7	4.6	8.2	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り後，周縁部不定方向のヘラ削り	中層	100%　PL46
334	土師器	坏	11.4	3.8	6.1	長石・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り後，一方向のヘラ削り	中層	100%　PL46
335	土師器	坏	11.2	3.1	5.5	長石	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	中層	85%　PL46
336	土師器	坏	11.4	3.1	5.7	長石・雲母・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	中層	80%　PL46
337	土師器	坏	[11.6]	2.9	6.4	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	中層	60%　PL46
338	土師器	坏	[12.0]	3.4	5.9	石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	中層	50%
339	土師器	坏	[14.0]	5.1	5.8	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	中層	50%
340	土師器	坏	[12.8]	4.2	6.2	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部一方向のヘラ削り	中層	40%
341	土師器	坏	[11.0]	2.6	5.4	長石・石英・雲母	黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り後，一方向のヘラ削り	中層	25%
342	須恵器	坏	13.5	4.1	7.7	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り後，周縁部一方向のヘラ削り	中層	95%　PL46
343	土師器	高台付椀	[14.0]	5.7	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	中層	20%
344	土師器	甕	[19.5]	(6.5)	－	長石・雲母・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中層	５%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP39	須恵器	大甕	長石・石英	灰	良好	体部外面縦位の平行叩き　内面同心円文当て具痕	中層	
TP40	須恵器	大甕	長石・石英	黄灰	良好	櫛歯状工具による波状文	中層	
TP41	須恵器	大甕	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	櫛歯状工具による３列の波状文　３列の沈線文	中層	
TP42	須恵器	大甕	長石・石英	灰	良好	櫛歯状工具による波状文・平行沈線文	中層	

(5) 円筒形土坑

径 1.2 m前後，深さ 30cm以上の円筒形に掘り込まれた土坑である。今回の調査では，11 基が確認できた。以下，遺構と遺物の特徴について解説する。

第 242 号土坑（第 185 図）

位置　調査区中央部のＤ３b1 区，標高 24.7 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 45 号住居跡，第７号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　径 1.33 ～ 1.37 mの円形である。深さは 85cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。

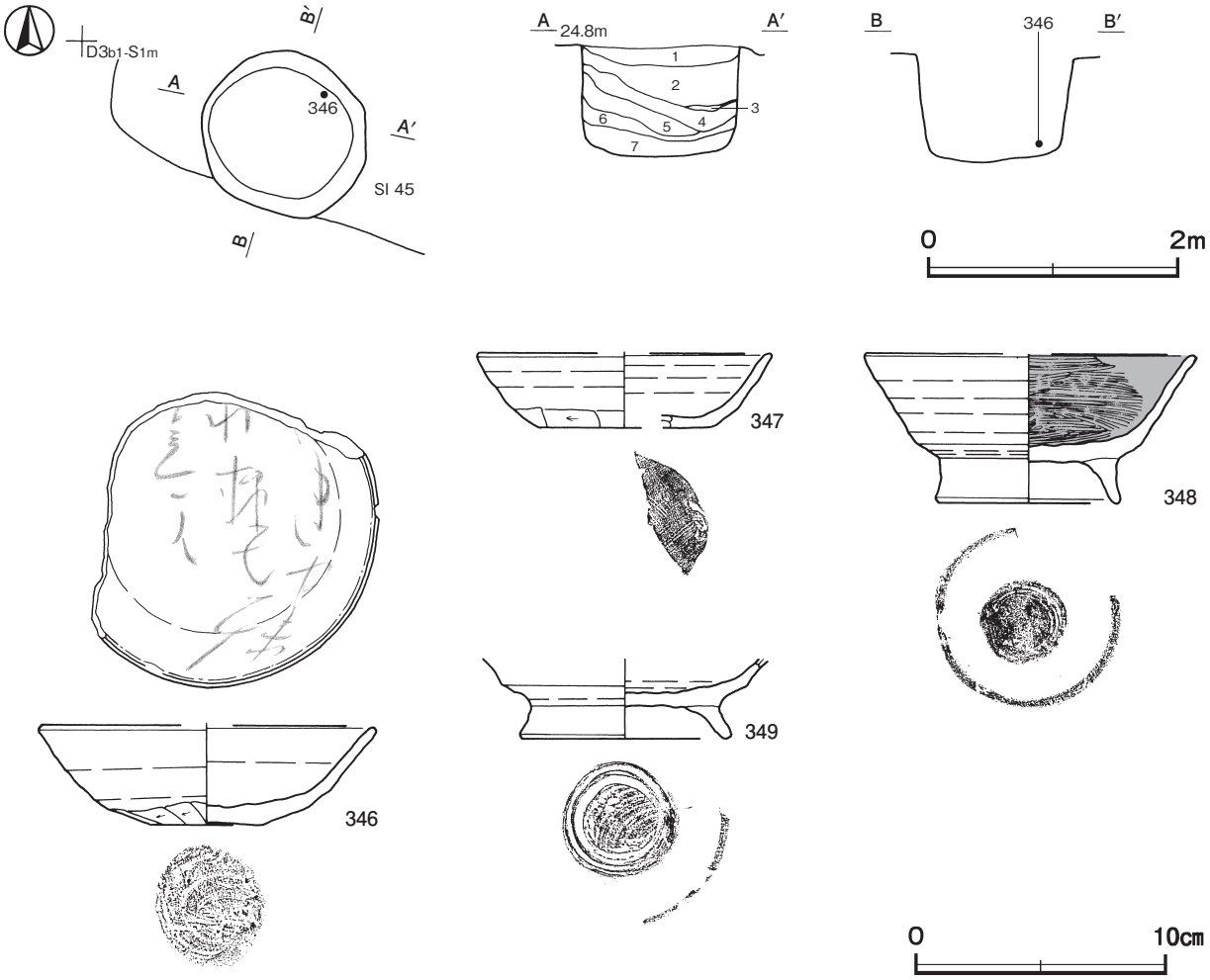
覆土　７層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	5	黒　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
2	灰 黄 褐 色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量	6	褐　　色	ロームブロック多量
3	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	7	褐　　色	ローム粒子多量，焼土ブロック微量
4	にぶい黄褐色	ロームブロック多量，焼土粒子微量			

遺物出土状況　土師器片 34 点（坏 17，高台付椀５，甕 12），須恵器片 10 点（坏７，甕３）が出土している。346 は北壁際の覆土下層から斜位の状態で，348 は中央部の覆土中層から逆位の状態でそれぞれ出土しており，埋め戻す際に投棄されたと考えられる。347・349 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 185 図　第 242 号土坑・出土遺物実測図

第 242 号土坑出土遺物観察表（第 185 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
346	土師器	坏	［13.6］	4.0	4.5	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	橙	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り 墨書「□きみま　わなもひ　□□む」	下層	80% PL45・51
347	土師器	坏	［11.8］	3.0	［6.8］	長石・雲母・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部不定方向のヘラ削り	覆土中	５％
348	土師器	高台付椀	［13.0］	6.0	7.0	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部一方向のヘラ削り後，高台貼付	中層	40%　PL45
349	土師器	高台付椀	－	(3.2)	［8.4］	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り後，高台貼付	覆土中	30%　PL45

第552号土坑（第186図）

位置　調査区中央部のＤ２f9 区，標高 24.4 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 1065 号土坑，第 345 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　径 1.38 ～ 1.50 mの不整円形である。深さは 36cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。

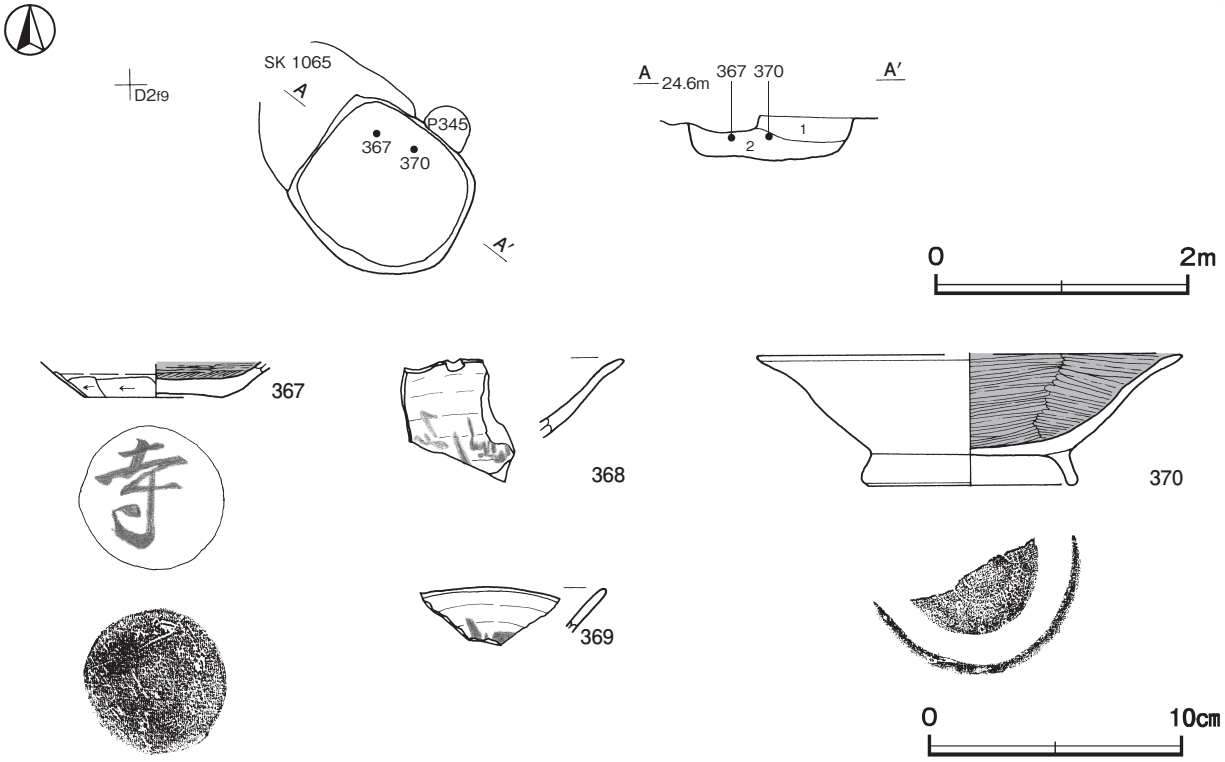
覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量　　2　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 99 点（坏 55，高台付椀２，甕 42），須恵器片 23 点（坏 11，甕 12）が出土している。367・370 は北部の覆土下層から，いずれも逆位の状態で出土している。368・369 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 186 図　第 552 号土坑・出土遺物実測図

第 552 号土坑出土遺物観察表（第 186 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
367	土師器	坏	－	(1.3)	5.6	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部不定方向のヘラ削り　墨書「寺」	下層	50%　PL51
368	土師器	坏	－	(3.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　墨書「□□」	覆土中	5％　PL51
369	土師器	坏	－	(1.8)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　墨書「□」	覆土中	5％
370	土師器	高台付椀	[16.8]	5.2	8.0	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後，高台貼付	下層	40%

第 561 号土坑（第 187 図）

位置　調査区中央部のＤ２i9 区，標高 24.0 ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　径 1.64 ～ 1.67 ｍの円形である。深さは 72㎝で，底面は平坦であり，壁は直立している。底面の北壁寄りには，長径 41㎝，短径 34㎝の不整楕円形で，深さ 34㎝のピットが確認できた。性格は不明である。

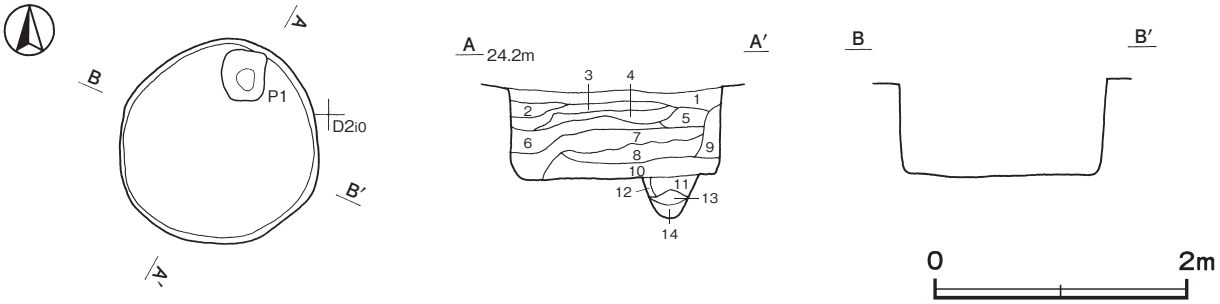
覆土　10 層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第 11 ～ 14 層はピットの覆土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　灰 黄 褐 色　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック多量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量
9　極 暗 褐 色　ロームブロック中量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量
11　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
12　褐　　色　ローム粒子多量
13　暗　褐　色　ローム粒子少量
14　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片 90 点（坏 28，高台付椀５，皿１，甕 56），須恵器片 20 点（坏５，鉢１，甕 14）が出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器の供膳具類（坏，高台付椀，皿）は内面に黒色処理が施されている。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前半と考えられる。



第 187 図　第 561 号土坑実測図

第 565 号土坑（第 188 図）

位置　調査区中央部のＤ２i8 区，標高 23.9 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 57 号住居跡，第 25 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　径 1.68 ～ 1.83 ｍの円形である。深さは 97㎝で，底面は平坦であり，壁は内傾して立ち上がっている。底面には焼土塊や炭化材が散在している。

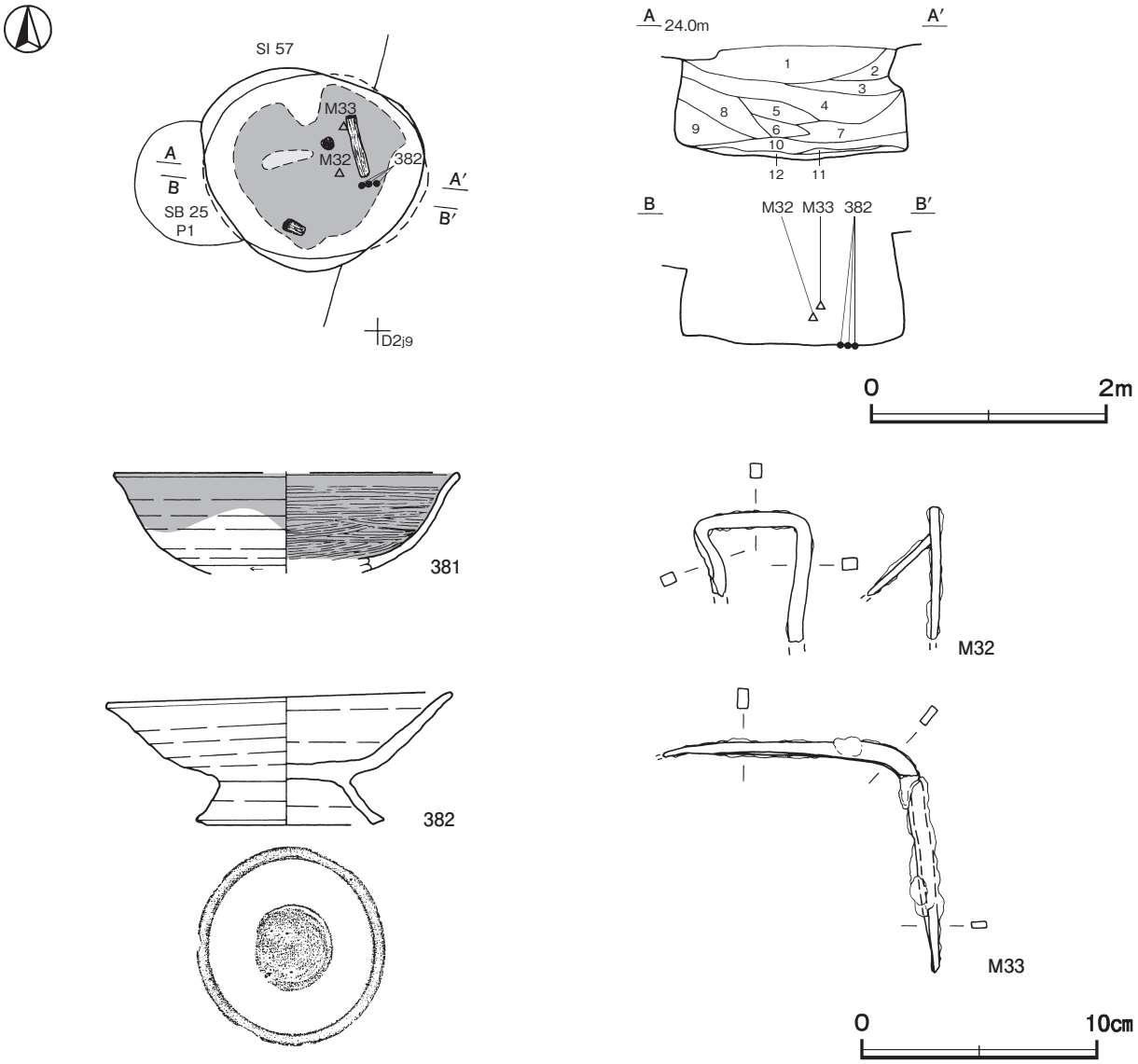
覆土　12 層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第 12 層は底面に堆積している炭化物層である。

土層解説

1　灰　褐　色　ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック・灰白色粘土少量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，灰白色粘土ブロック・炭化粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，灰白色粘土ブロック少量
10　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗　褐　色　炭化物多量，焼土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片 176 点（坏 68, 足高高台付椀 8 , 皿 1 , 甕 98, 小形甕 1), 須恵器片 50 点（坏 18, 蓋 1 , 瓶 2 , 甕 29), 鉄製品 2 点（閂，鉤）が覆土下層から底面にかけて出土している。382 は東部の底面から，M 32 は中央部，M 33 は北部の覆土中層，381 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。底面から焼土塊や炭化材，鉄製品の閂や鉤が出土していることから，焼却した建物の廃材を本跡に廃棄したものと考えられる。



第 188 図　第 565 号土坑・出土遺物実測図

第 565 号土坑出土遺物観察表（第 188 図）

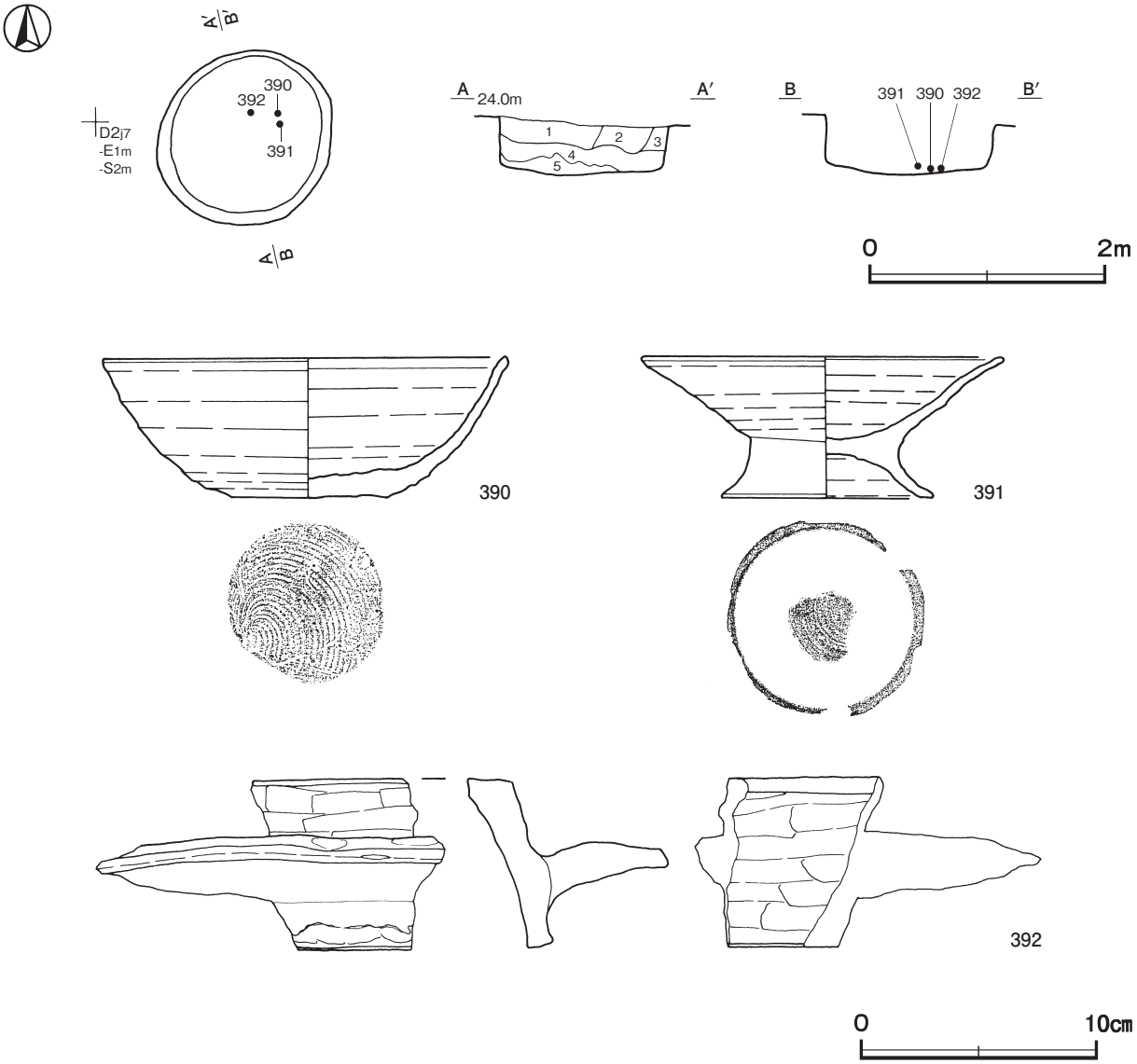
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
381	土師器	坏	［14.6］	（4.2）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土中	20%
382	土師器	足高高台付椀	14.5	5.6	7.0	長石・石英	橙	普通	底部ナデ後，高台貼付	底面	80%　PL47

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 32	閂	（5.7）	5.2	0.5	（11.8）	鉄	U字状　断面長方形	中層	PL56
M 33	鉤	（12.0）	9.9	0.4	（18.7）	鉄	解錠部欠損　断面長方形	中層	PL56

第 690 号土坑（第 189 図）

位置　調査区中央部のＤ２j7 区，標高 23.8 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　平面形は径 1.45 ～ 1.55 mの円形である。深さは 44cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。



第 189 図　第 690 号土坑・出土遺物実測図

覆土　５層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子を多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子少量
4　黒　　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師器片 78 点（坏 34，高台付椀 13，足高高台付椀１，甕 29，置き竈１），須恵器片８点（坏３，鉢１，甕４）が出土している。390 ～ 392 は中央部の底面からそれぞれ出土しており，390・391 は逆位で重ねられた状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。

第 690 号土坑出土遺物観察表（第 189 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
390	土師器	坏	17.0	5.9	6.5	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	底面	90%　PL47
391	土師器	高台付椀	15.1	6.1	8.7	長石	橙	普通	底部回転糸切り後，高台貼付	底面	80%　PL47
392	土師器	置き竈	－	7.2	－	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外・内面ヘラナデ　鍔部ナデ　指頭痕	底面	５％

第 771 号土坑（第 190 図）

位置　調査区中央部のＤ２g1 区，標高 24.3 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 772 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　径 1.33 ～ 1.42 ｍの円形である。深さは 36㎝で，底面は平坦であり，壁は直立している。

覆土　７層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

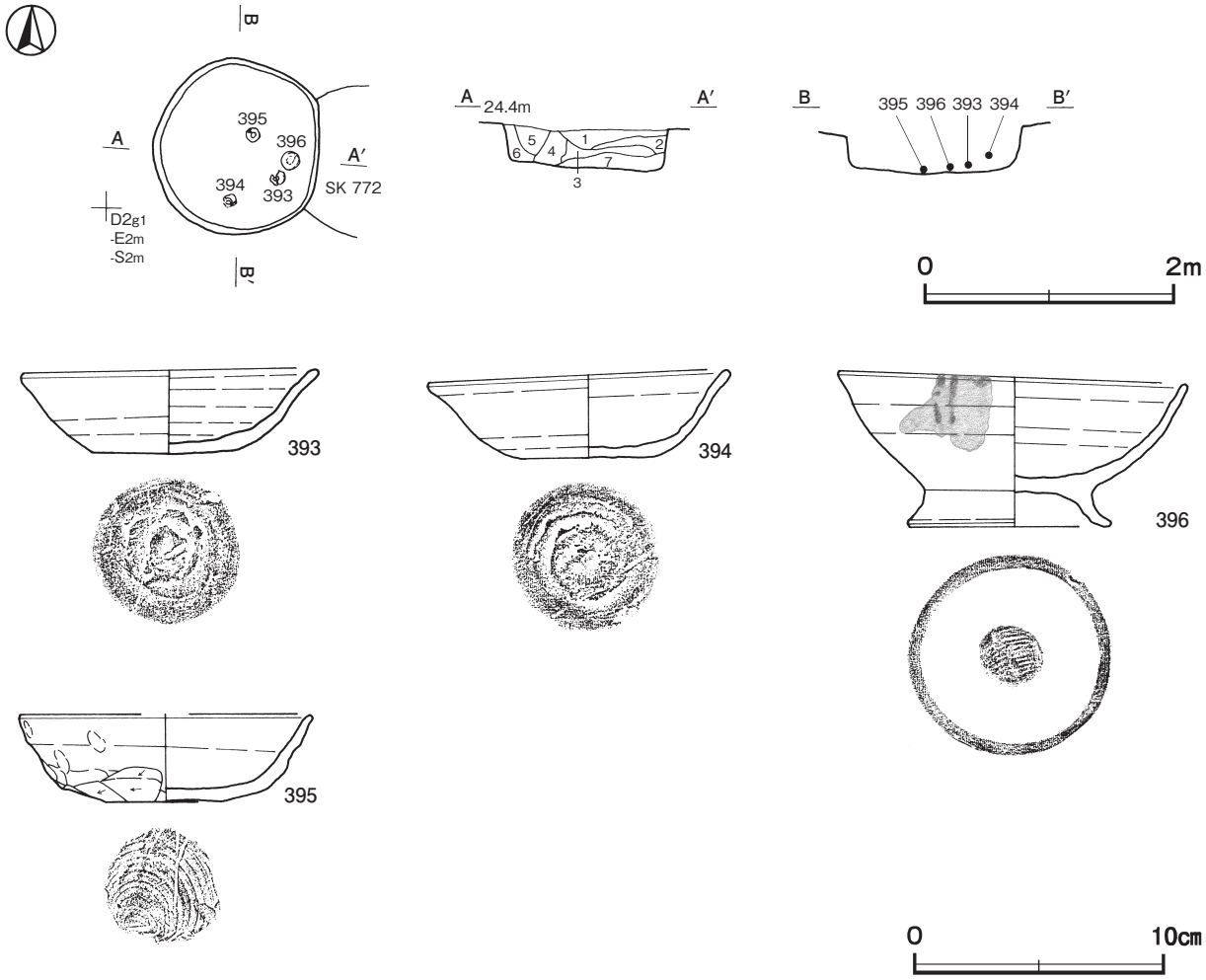
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 83 点（坏 63，高台付椀４，鉢１，甕 14，甑１），須恵器片４点（坏３，甕１）が出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢）も出土している。393・395・396 は東部の覆土下層からまとまってしており，393・395 は正位，396 は斜位の状態で出土している，394 は南部の覆土上層から斜位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。

第 771 号土坑出土遺物観察表（第 190 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
393	土師器	坏	11.7	3.5	5.9	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後，ナデ	下層	95%　PL48
394	土師器	坏	12.1	3.6	5.7	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後，ナデ	上層	70%　PL48
395	土師器	坏	［11.6］	3.6	4.6	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	良好	体部下端手持ちヘラ削り　指頭痕　底部回転糸切り	下層	60%　PL48
396	土師器	高台付椀	13.9	6.2	7.9	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り後，高台貼付　油煙付着	下層	100%　PL48



第 190 図　第 771 号土坑・出土遺物実測図

第 772 号土坑（第 191 図）

位置　調査区中央部のＤ２g2 区，標高 24.3 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 771 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　径 1.20 mの円形である。深さは 42cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。

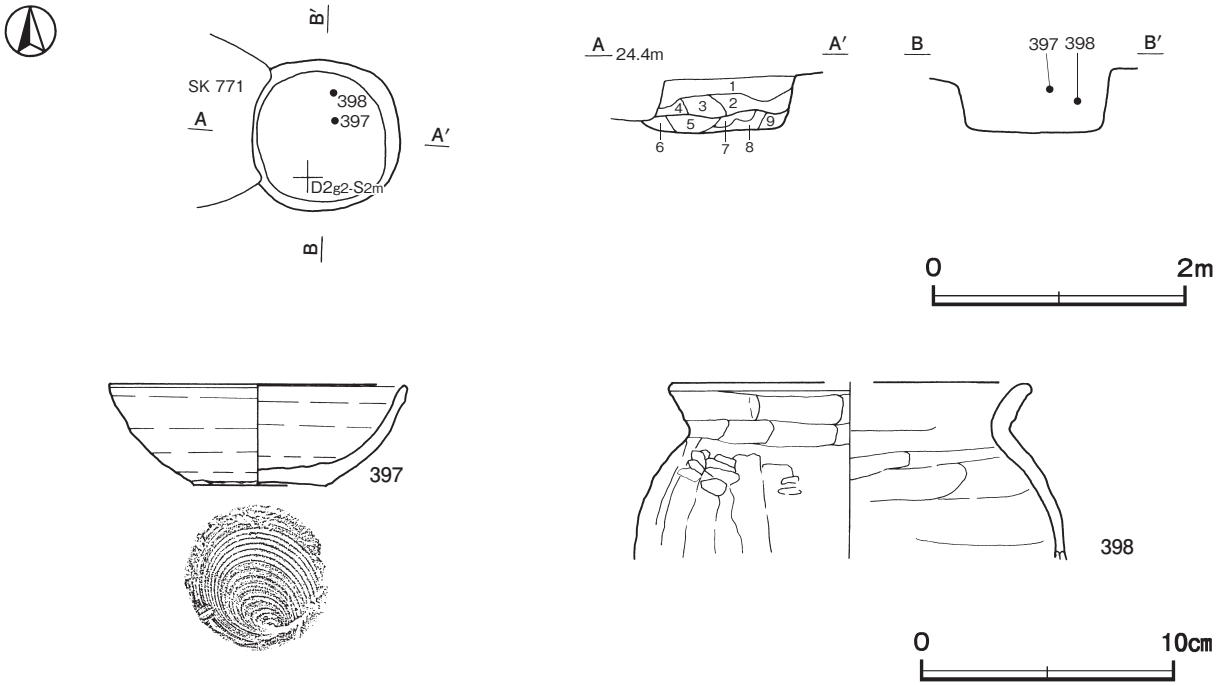
覆土　９層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　灰 黄 褐 色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
8　灰 黄 褐 色　ローム粒子少量
9　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 36 点（坏 33，高台付椀２，甕１）が出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺）も出土している。397・398 は，北部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 191 図　第 772 号土坑・出土遺物実測図

第 772 号土坑出土遺物観察表（第 191 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
397	土師器	坏	12.0	4.0	5.3	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	上層	100%　PL48
398	土師器	甕	[14.2]	(7.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部・体部外・内面ヘラナデ	上層	5 %

第 776 号土坑（第 192・193 図）

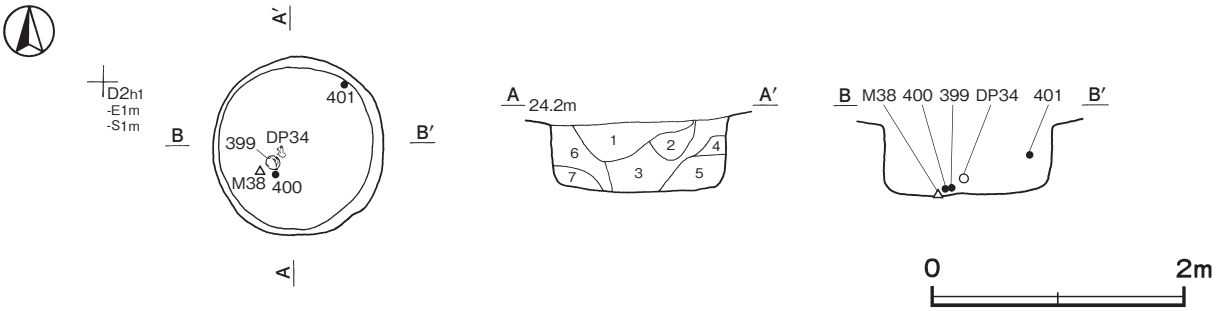
位置　調査区中央部のＤ２h1 区，標高 24.1 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　径 1.35 ～ 1.42 mの円形である。深さは 55cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。

覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

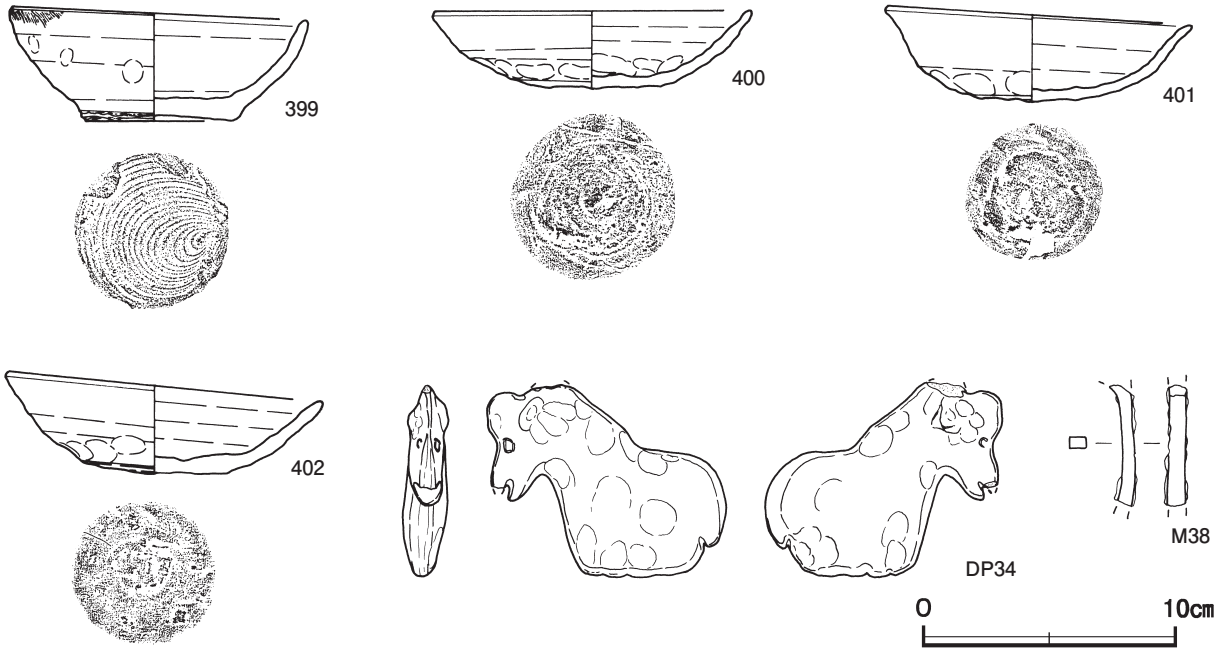
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　灰 黄 価 色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　黒　褐　色　ローム粒子微量



第 192 図　第 776 号土坑実測図

遺物出土状況　土師器片 62 点(坏 42, 高台付椀 1 , 甕 19), 須恵器片 3 点(甕), 土製品 1 点(馬), 鉄製品 1 点(釘)が出土している。また，混入した縄文土器片 2 点（深鉢），弥生土器片 2 点（広口壺）も出土している。399・400・DP34・M 38 は中央部の覆土下層からまとまって出土しており，399・400 は正位で重なった状態で出土している。401 は北東壁際の覆土中層，402 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 193 図　第 776 号土坑出土遺物実測図

第 776 号土坑出土遺物観察表（第 193 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
399	土師器	坏	11.9	4.5	6.0	長石・石英・針状鉱物	黄橙	普通	底部回転糸切り	下層	100%　PL48
400	土師器	坏	12.5	3.0	6.5	長石・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部下端ナデ　底部回転ヘラ切り後ナデ	下層	95%　PL48
401	土師器	坏	12.0	3.7	5.4	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	体部下端ナデ　底部回転ヘラ切り後ナデ	中層	90%　PL48
402	土師器	坏	12.5	4.1	5.8	長石・雲母・針状鉱物	明赤褐	普通	体部下端ナデ　底部回転ヘラ切り後ナデ	上層	80%　PL48

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP34	馬	5.1	6.3	1.3	(26.6)	長石	ナデ　線刻により目を表現	下層	PL53

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 38	釘	(4.9)	(1.0)	0.5	(4.3)	鉄	断面方形　細片のため計測のみ	下層	

第 885 号土坑（第 194 図）

位置　調査区中央部のＣ２i6 区，標高 24.8 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 30 号住居跡，第 31 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 2 号方形竪穴遺構，第 910 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　径 1.42 ～ 1.46 mの円形である。深さは 62cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

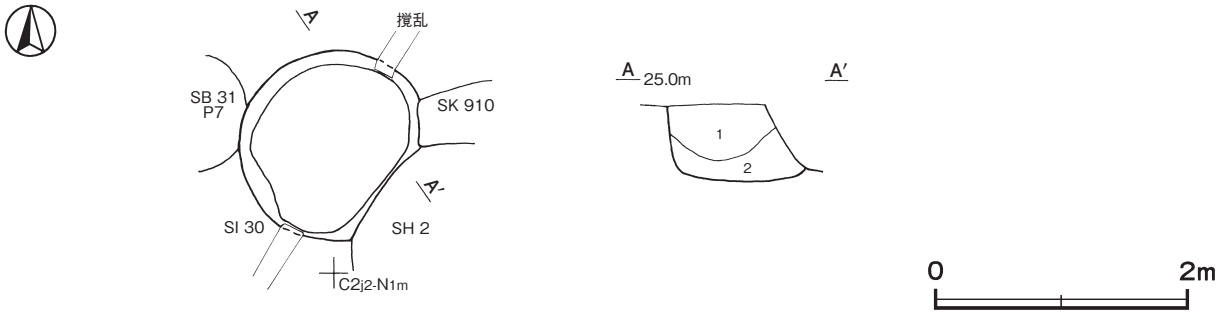
覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 15 点（坏４，甕 11），須恵器片２点（坏）が出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器坏は内面に黒色処理が施されている。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀後半～ 10 世紀代と考えられる。



第 194 図　第 885 号土坑実測図

第 893 号土坑（第 195 図）

位置　調査区中央部のＤ２e7 区，標高 24.4 mの平坦な台地上に位置している。

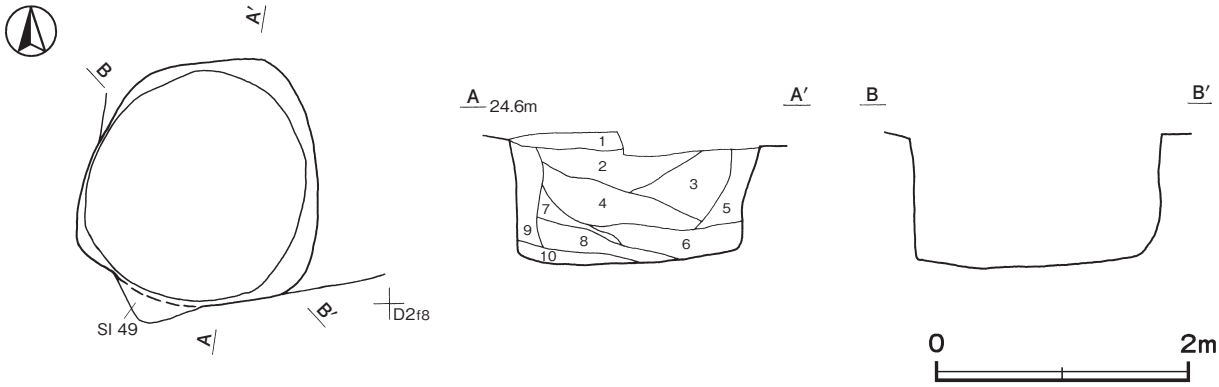
重複関係　第 49 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　径 1.84 ～ 1.98 mの円形である。深さは 102cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。

覆土　10 層に分層できる。各層にロームや焼土の粒子を多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック多量
10　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第 195 図　第 893 号土坑実測図

遺物出土状況　土師器片 219 点（坏 58，高台付椀 21，甕 140），須恵器片 54 点（坏 20，蓋３，鉢１，甕 30）が覆土上層を中心に出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器の供膳具類（坏，高台付椀）は内面に黒色処理が施されており，高台付椀は体部が内彎して立ち上がる形状である。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 10 世紀代と考えられる。

第 1009 号土坑（第 196 図）

位置　調査区中央部のＤ２e4 区，標高 24.4 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 19・28 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.84 m，短径 1.28 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 33°－Ｅである。深さは 40cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。

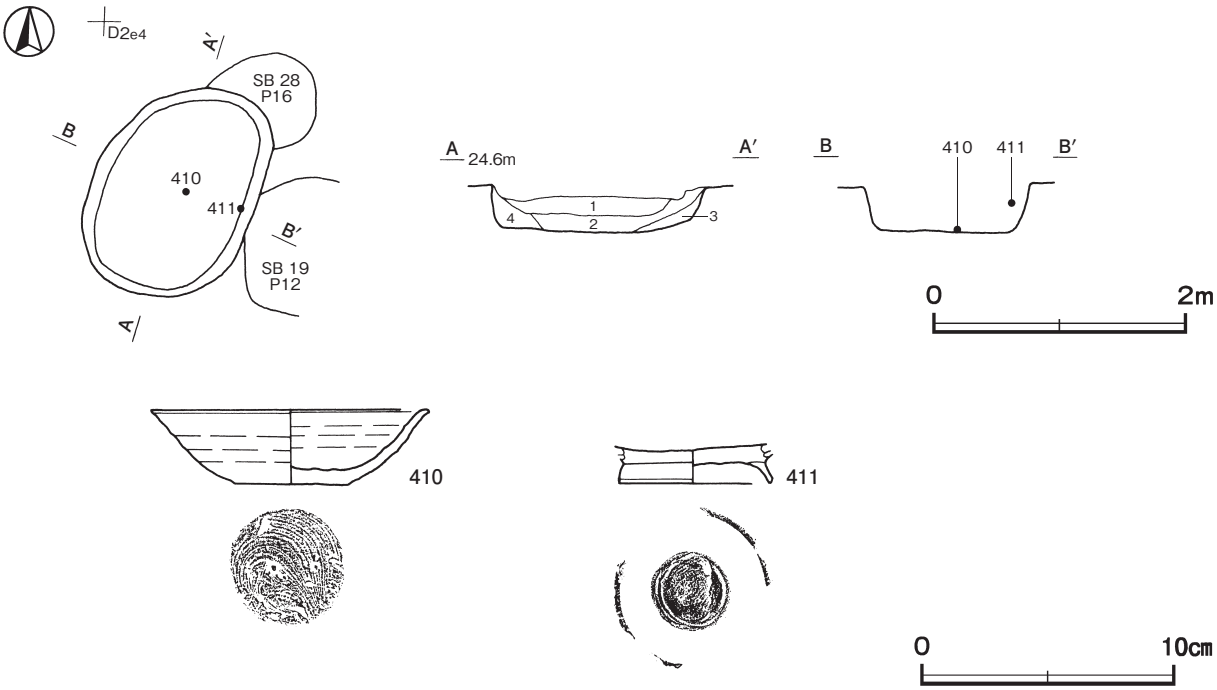
覆土　４層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子少量	3	黒	褐	色	ロームブロック少量
2	黒	褐	色	ロームブロック微量	4	暗	褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 64 点（坏 22，高台付椀２，甕 40），須恵器片 26 点（坏３，甕 23）が出土している。410 は，中央部の底面から正位の状態で，411 は東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 196 図　第 1009 号土坑・出土遺物実測図

第 1009 号土坑出土遺物観察表（第 196 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
410	土師器	坏	10.7	3.0	4.5	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	底面	100%　PL48
411	土師器	高台付椀	－	(1.6)	6.0	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，高台貼付	上層	40%

表 11　平安時代　円筒形土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
242	D３b1	－	円形	1.37 × 1.33	85	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	SI45,SB 7 →本跡
552	D２f9	－	不整円形	1.50 × 1.38	36	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SK1065, P345
561	D２i9	－	円形	1.67 × 1.64	72	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	
565	D２i8	－	円形	1.83 × 1.68	97	平坦	内傾	人為	土師器片，須恵器片， 閂，鉤	SI57,SB25 →本跡
690	D２i7	－	円形	1.55 × 1.45	44	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	
771	D２g1	－	円形	1.42 × 1.33	36	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	SK772 →本跡
772	D２g2	－	円形	1.20 × 1.20	42	平坦	直立	人為	土師器片	本跡→ SK771
776	D２h1	－	円形	1.42 × 1.35	55	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片， 馬形土製品，釘	
885	C２i6	－	円形	1.46 × 1.42	62	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI30，SB31 →本跡 → SH 2，SK910
893	D２e7	－	円形	1.98 × 1.84	102	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	SI49 →本跡
1009	D２e4	N－33°－E	楕円形	1.84 × 1.28	40	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	SB19･28 →本跡

（6）土坑

大形円形土坑，円筒形土坑以外の当時代の土坑は，15 基が確認できた。以下，遺構と遺物の特徴について解説する。

第 247 号土坑（第 197 図）

位置　調査区中央部のＤ３b2 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 45 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.03 m，短径 0.83 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 21 °－Ｗである。深さは 20cmで，底面は凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。各層にロームや焼土のブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量

2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

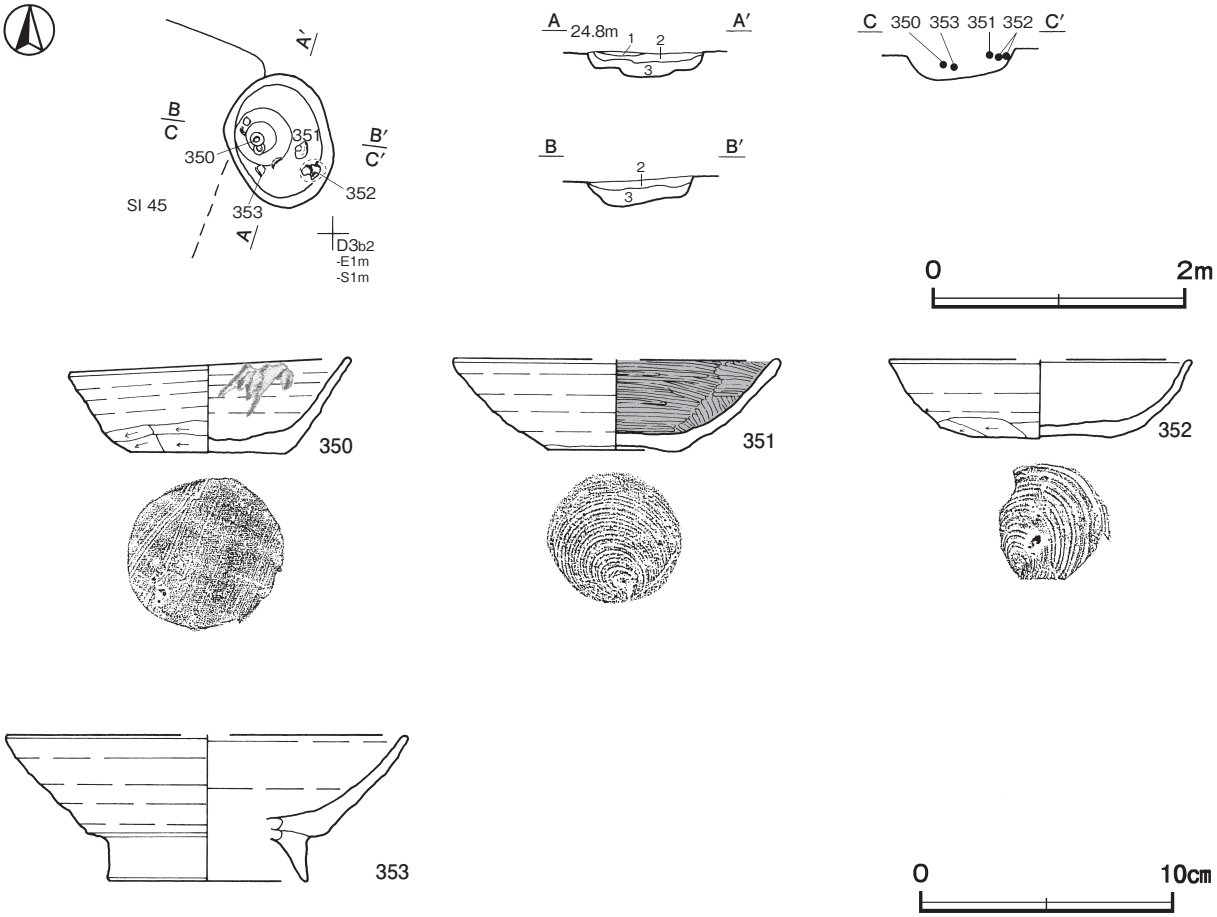
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 21 点（坏８，高台付椀６，甕７），須恵器片３点（坏１，甕２）が出土している。350・353 は中央部，351・352 は南東部の覆土上層からまとまって出土しており，350 は斜位，351・352・353 は逆位の状態でそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。

第 247 号土坑出土遺物観察表（第 197 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
350	土師器	坏	11.0	4.0	6.2	長石・石英・ 針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　油煙付着	上層	95%　PL46
351	土師器	坏	［12.8］	3.6	5.2	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転糸切り	上層	60%　PL46
352	土師器	坏	［11.8］	3.1	4.2	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り	上層	40%
353	土師器	高台付椀	［15.7］	5.8	［7.8］	長石・石英・赤色 粒子・針状鉱物	橙	普通	ロクロナデ	上層	20%



第 197 図　第 247 号土坑・出土遺物実測図

第 324 号土坑（第 198 図）

位置　調査区中央部のＤ２d9 区，標高 24.5 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 2.40 m，短軸 1.60 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 73 °－Ｗである。深さは 15cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　４層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

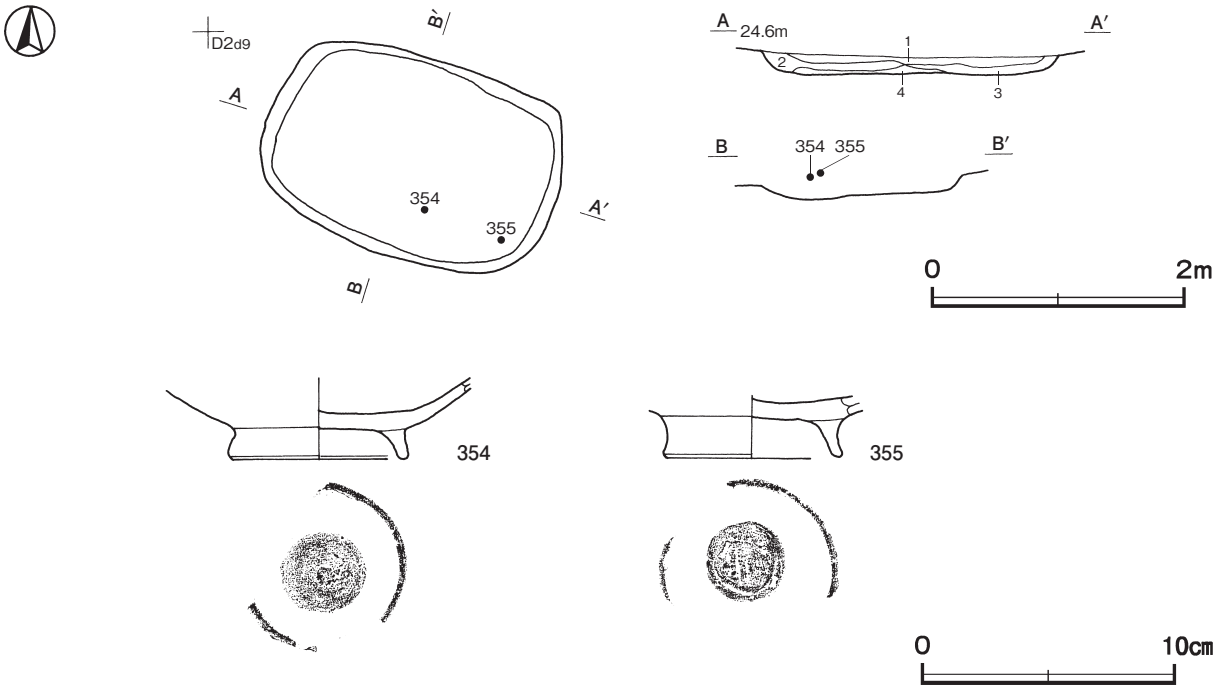
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　ローム粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 31 点（坏 13，高台付椀２，甕類 16），須恵器片４点（甕）が出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢），弥生土器片２点（広口壺）も出土している。354 は中央部，355 は南東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。

第 324 号土坑出土遺物観察表（第 198 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
354	土師器	高台付椀	－	(3.2)	6.8	長石・石英	橙	普通	底部ロクロナデ後，高台貼付	上層	40%
355	土師器	高台付椀	－	(2.4)	6.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，高台貼付	上層	30%



第 198 図　第 324 号土坑・出土遺物実測図

第370号土坑（第199図）

位置　調査区中央部のＤ２b5 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 372 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　径 1.16 ～ 1.23 mの不整円形である。深さは 24㎝で，底面は凹凸があり，壁は直立している。

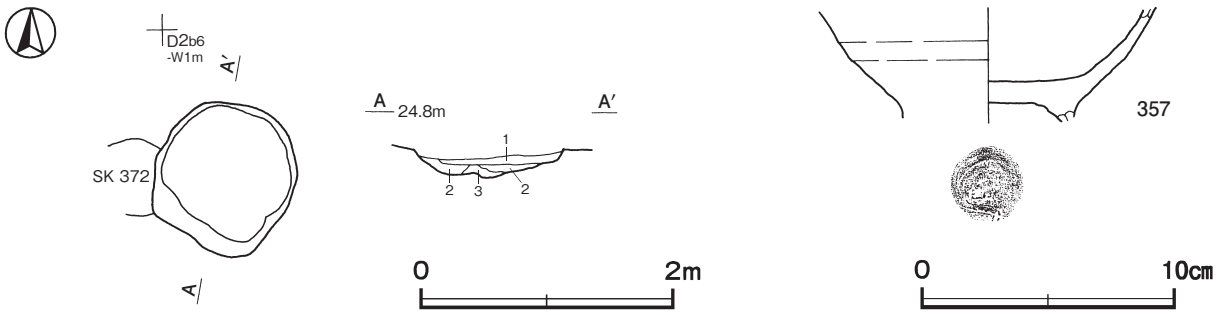
覆土　３層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片６点（坏１，高台付椀２，甕３）が出土している。357 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。



第 199 図　第 370 号土坑・出土遺物実測図

第 370 号土坑出土遺物観察表（第 199 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
357	土師器	高台付椀	－	(4.5)	－	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り後，高台貼付	覆土中	30%

第 372 号土坑（第 200 図）

位置　調査区中央部のＤ２b5 区，標高 24.5 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 30 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 370 号土坑に掘り込まれている。

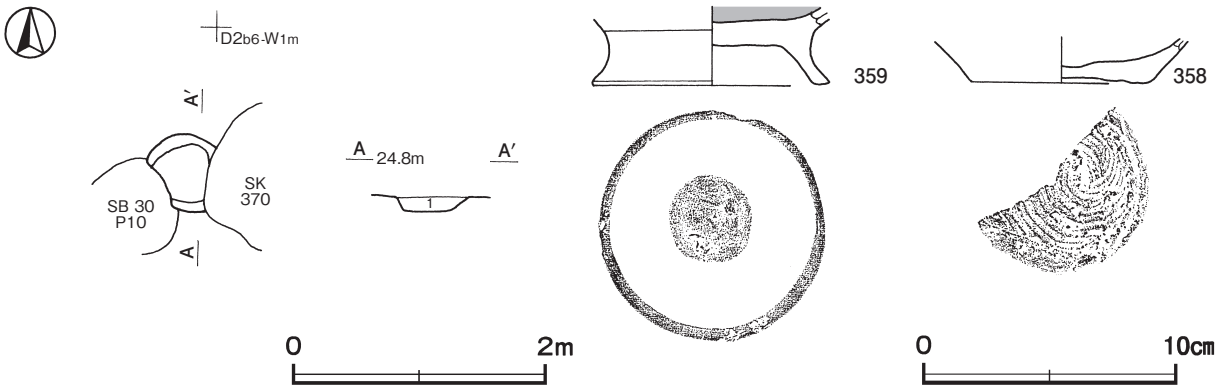
規模と形状　南北径 0.64 mで，東西径は東部を第 370 号土坑に掘り込まれているため 0.50 mしか確認できなかった。平面形は円形と推定できる。深さは 10cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層である。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片３点（坏２，高台付椀１），須恵器片１点（坏）が出土している。358・359 は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 200 図　第 372 号土坑・出土遺物実測図

第 372 号土坑出土遺物観察表（第 200 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
358	須恵器	坏	－	(1.8)	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	20%
359	土師器	高台付椀	－	(3.1)	9.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部ナデ後，高台貼付	覆土中	40%

第 414 号土坑（第 201 図）

位置　調査区中央部のＣ１j0 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 23 号住居跡，第 14 号掘立柱建物跡，第 11 号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.25 mで，中央部が攪乱を受けているため，短軸は 1.10 mしか確認できなかった。平面形は隅丸長方形と推定でき，長軸方向はＮ－ 22°－Ｅである。深さは 75cmで，底面は平坦であり，壁は外傾し

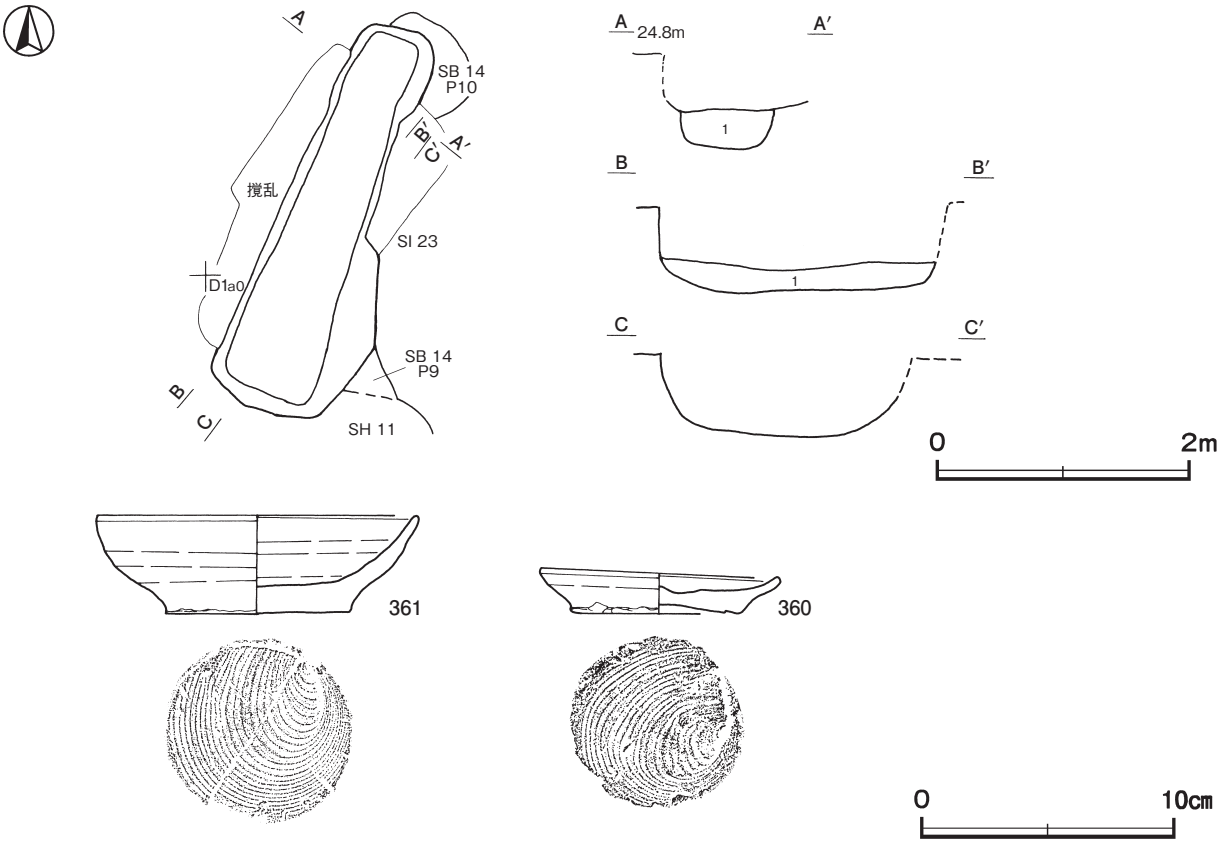
て立ち上がっている。

覆土　上部が撹乱を受けているため，１層しか確認できなかった。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 17 点（坏３，小皿１，甕 13）が出土している。また，混入した弥生土器片１点（広口壺）も出土している。360・361 は，北部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 11 世紀前葉に比定できる。



第 201 図　第 414 号土坑・出土遺物実測図

第 414 号土坑出土遺物観察表（第 201 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
360	土師器	小皿	9.4	1.7	6.7	長石・石英・雲母・針状鉱物	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	100%　PL46
361	土師器	坏	12.8	3.9	7.2	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	70%　PL46

第 490 号土坑（第 202 図）

位置　調査区中央部のＤ２d4 区，標高 24.4 ｍの平坦な台地上に位置している。

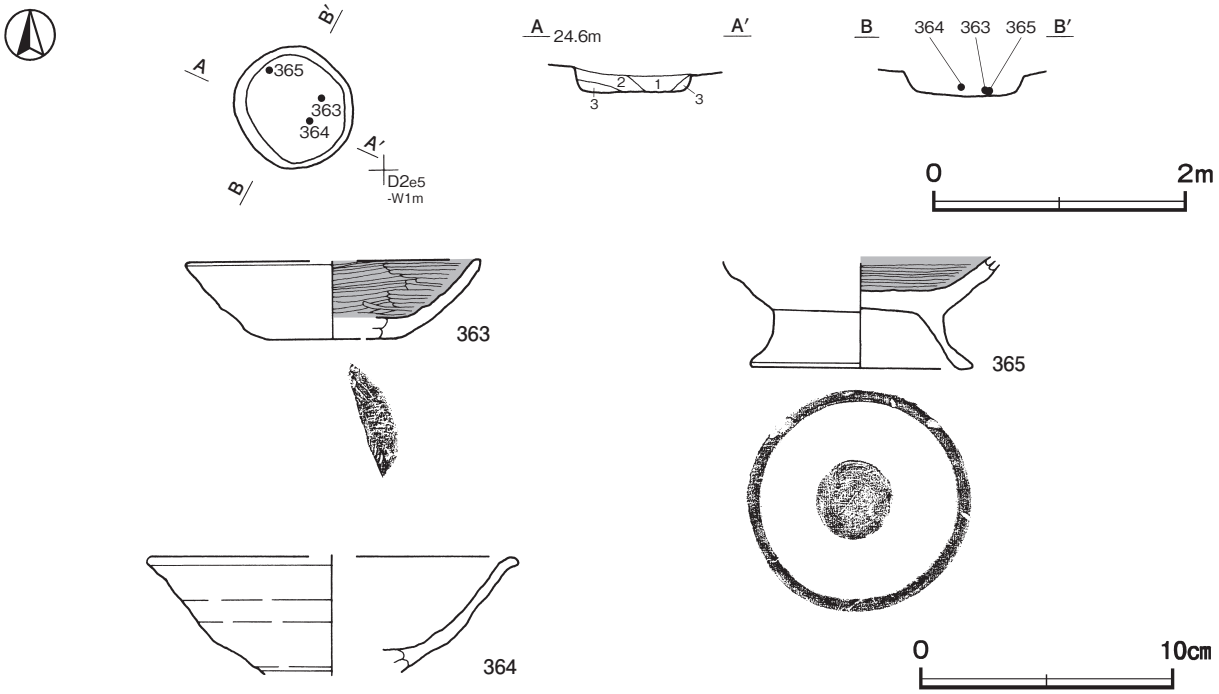
規模と形状　径 96 ～ 100 ｍの円形である。深さは 19㎝で，底面は平坦であり，壁は直立している。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 11 点（坏４，高台付椀２，甕５），須恵器片５点（坏１，甕４）が出土している。363 は北東部，364 は中央部，365 は北壁際の覆土下層から，破片が散在した状態でそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。



第 202 図　第 490 号土坑・出土遺物実測図

第 490 号土坑出土遺物観察表（第 202 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
363	土師器	坏	［11.6］	3.1	［4.9］	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，周縁部不定方向のヘラ削り	下層	20%
364	土師器	高台付椀	［14.4］	（4.6）	－	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	ロクロナデ	下層	10%
365	土師器	高台付椀	－	（4.1）	8.0	石英	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部ナデ後，高台貼付	下層	60%

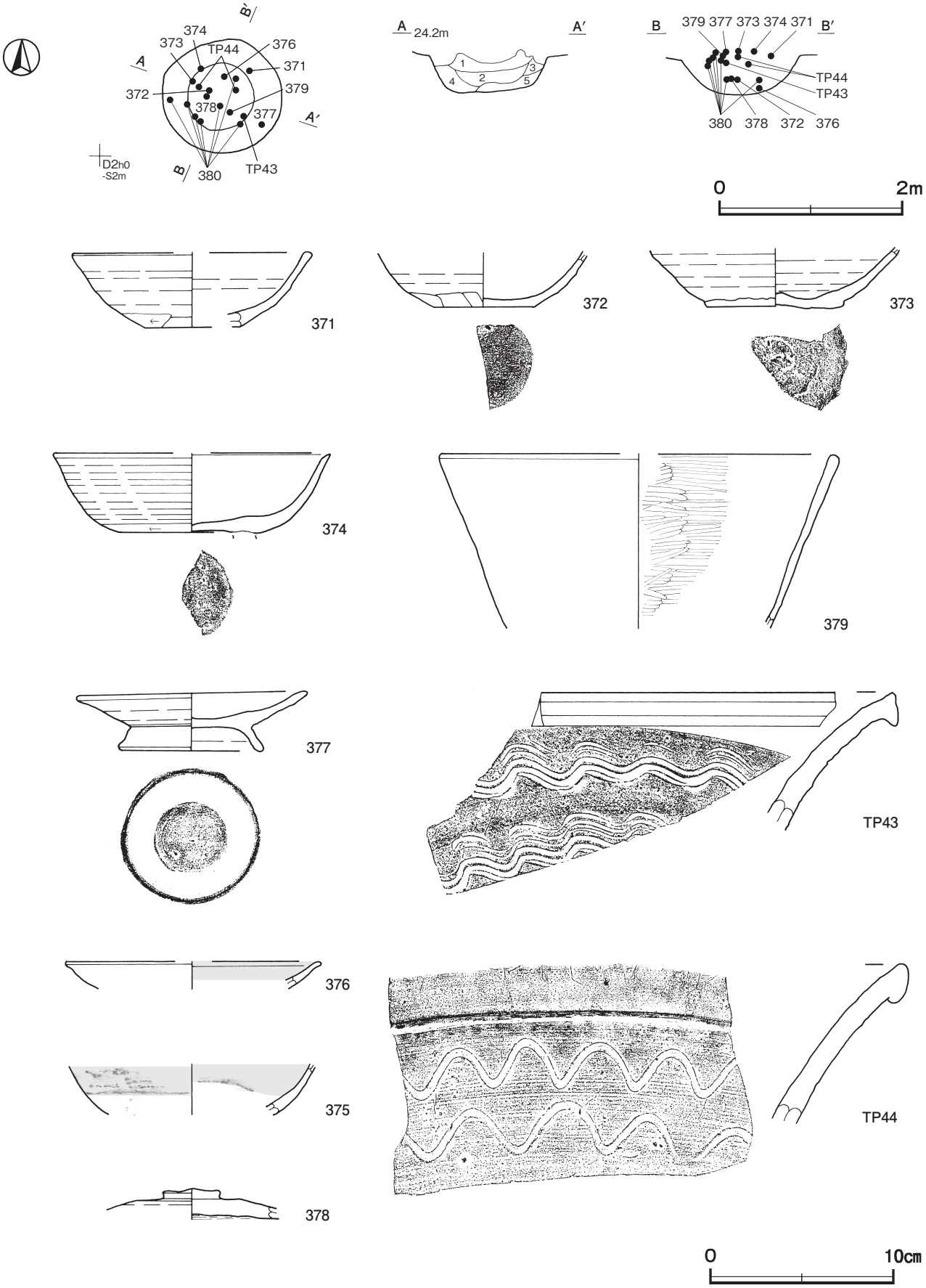
第 559 号土坑（第 203･204 図）

位置　調査区中央部のＤ２h0 区，標高 24.0 ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　径 1.27 ～ 1.33 ｍの円形である。深さは 40㎝で，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　５層に分層できる。各層にロームブロックや炭化粒子を含んでいることから埋め戻されている。

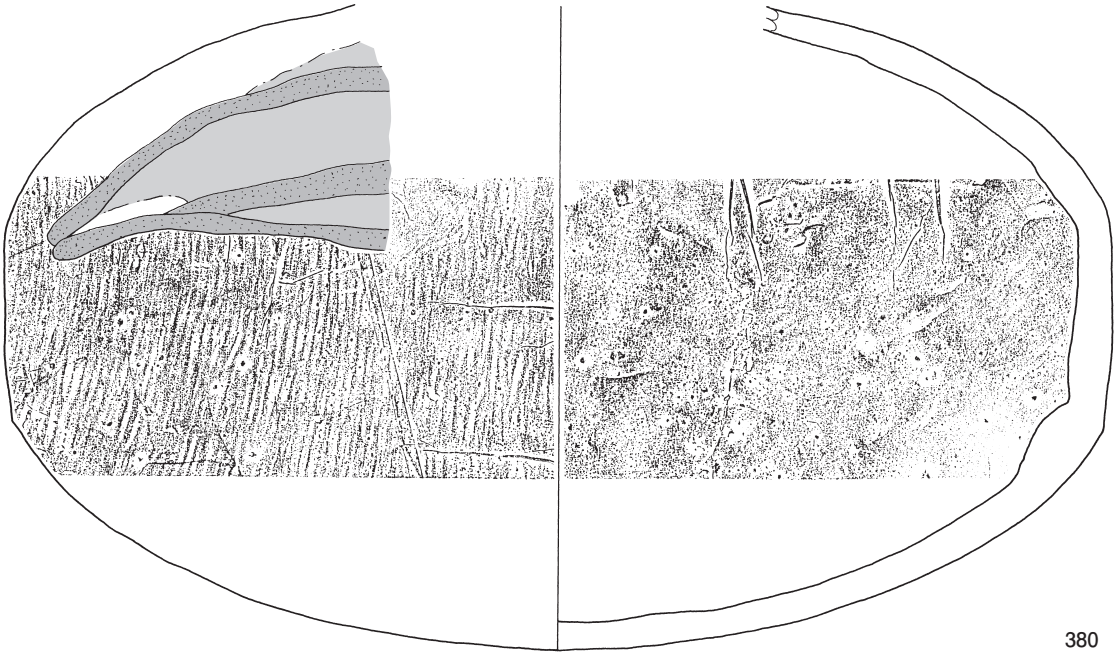
土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量



第 203 図　第 559 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 196 点（坏 98，高台付椀 1，高台付皿 1，甕 96），須恵器片 45 点（坏 14，蓋 1，盤 1，甕 24，大甕 3，鉢 1，甑 1），灰釉陶器片 2 点（皿）が覆土上層からまとまって出土している。376 は北部の底面，372･378 は中央部の覆土下層，380 は南半部の覆土上層から下層にかけて散在した状態で，374 は北部，371 は北東部，377 は北東壁際，379・TP43・TP44 は中央部，373 は北西部の覆土上層，375 は覆土中からそれぞれ出土している。なお，378・380 は奈良時代の遺物であり，埋め戻す際に混入したものとみられる。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 204 図　第 559 号土坑出土遺物実測図

第 559 号土坑出土遺物観察表（第 203・204 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
371	土師器	坏	[13.0]	4.1	[5.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	上層	10%
372	土師器	坏	−	(3.0)	[5.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　墨書「□」	下層	5％
373	須恵器	坏	−	(3.3)	[7.4]	長石・石英・雲母	浅黄	不良	底部回転ヘラ切り後，ナデ	上層	5％
374	土師器	高台付椀	[15.0]	(4.4)	−	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部一方向のヘラ削り後，高台貼付	上層	20%
375	灰釉陶器	皿	−	(2.8)	−	黒色粒子	灰白	良好	外・内面施釉	覆土中	5％　PL58
376	灰釉陶器	皿	[13.8]	(1.5)	−	黒色粒子	灰白	良好	内面施釉	底面	5％　PL58
377	土師器	高台付皿	12.5	3.3	7.4	長石・石英・雲母	橙	普通	底部ナデ後，高台貼付	上層	60%　PL47
378	須恵器	蓋	−	(1.7)	−	長石・石英・雲母・白色粒子	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼付	下層	25%
379	土師器	鉢	[21.8]	(9.6)	−	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き	上層	5％
380	須恵器	横瓶	−	(25.6)	−	長石	灰褐	良好	体部外面横位の平行叩き　内面無文当て具痕後，ナデ	上～下層	40%　PL47

番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP43	須恵器	大甕	長石・石英	暗灰	良好	櫛歯状工具による２条の波状文	上層	PL47
TP44	須恵器	大甕	長石・石英・黒色粒子	暗灰	良好	２段の波状沈線文	上層	PL47

第 576 号土坑（第 205 図）

位置　調査区中央部のＤ２f7 区，標高 24.3 ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　径 1.00 ｍの円形である。深さは 20㎝で，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

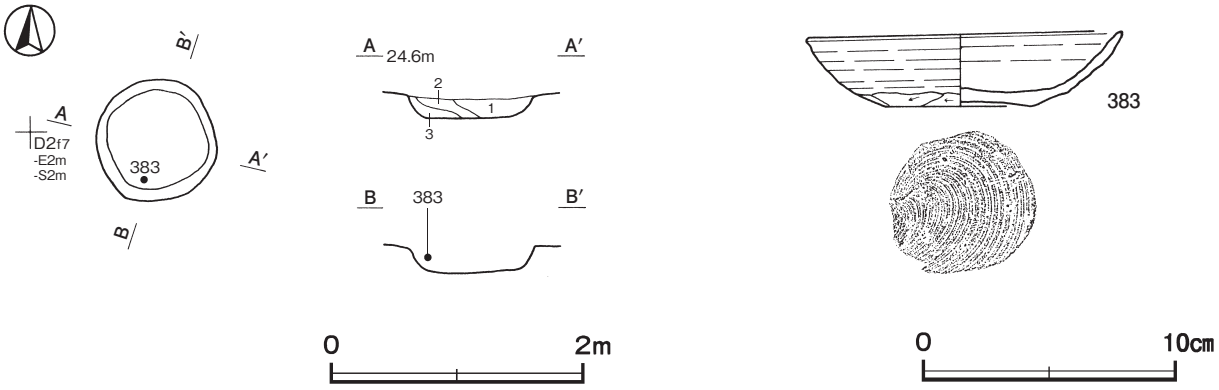
覆土　３層に分層できる。各層にローム粒子を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　灰黄褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　灰黄褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 11 点（坏８，甕３），須恵器片１点（甕）が出土している。383 は，南部の覆土中層から斜位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 205 図　第 576 号土坑・出土遺物実測図

第 576 号土坑出土遺物観察表（第 205 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
383	土師器	坏	12.6	3.0	5.8	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り	中層	100％　PL47

第587号土坑（第206図）

位置　調査区中央部のＤ２f6 区，標高 24.3 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 586 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.50 ｍ，短径 1.08 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 55°－Ｗである。深さは 17㎝で，底面は皿状であり，壁は外傾して立ち上がっている。

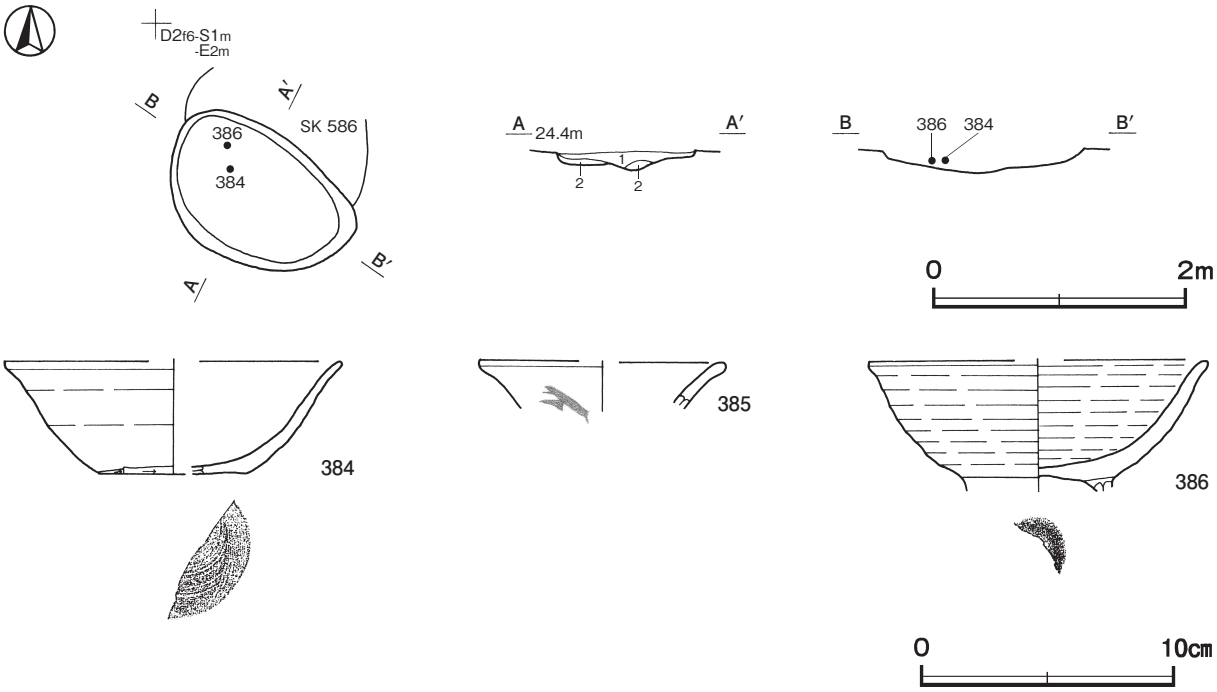
覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 21 点（坏８，高台付椀２，甕 11），須恵器片 13 点（坏７，高台付坏１，盤２，甕３），鉄滓１点(9.3g)が出土している。384 は中央部, 386 は西部の覆土下層, 385 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



第 206 図　第 587 号土坑・出土遺物実測図

第 587 号土坑出土遺物観察表（第 206 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
384	土師器	坏	［13.2］	4.5	［6.0］	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転糸切り後，周縁部不定方向のヘラ削り	下層	45%
385	土師器	坏	［9.6］	(1.9)	－	長石・雲母	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　墨書「□」	覆土中	５%
386	土師器	高台付椀	［13.4］	(5.2)	－	長石・雲母	明赤褐	普通	底部ロクロナデ後，高台貼付	下層	40%

第 777 号土坑（第 207 図）

位置　調査区中央部のＤ２h2 区，標高 24.1 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 0.74 m，短径 0.62 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 37゜－Ｗである。深さは 44cmで，底面は凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。

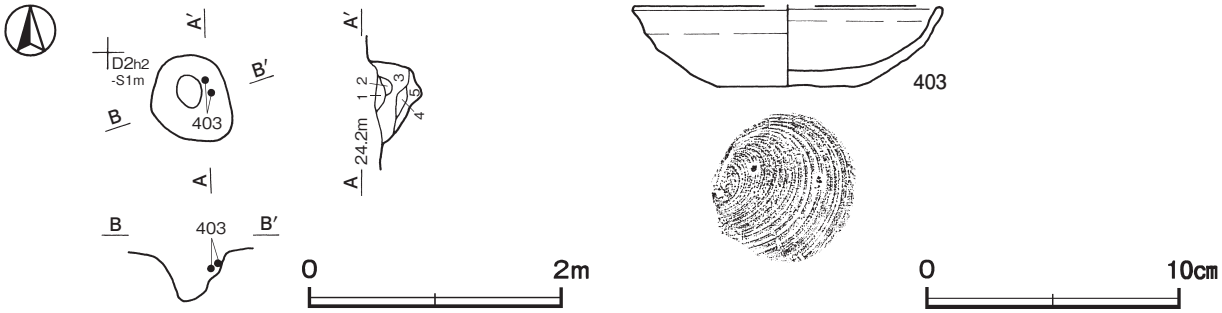
覆土　５層に分層できる。ロームや焼土のブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 11 点（坏 10, 甕１）が出土している。403 は, 北東壁際の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。



第 207 図　第 777 号土坑・出土遺物実測図

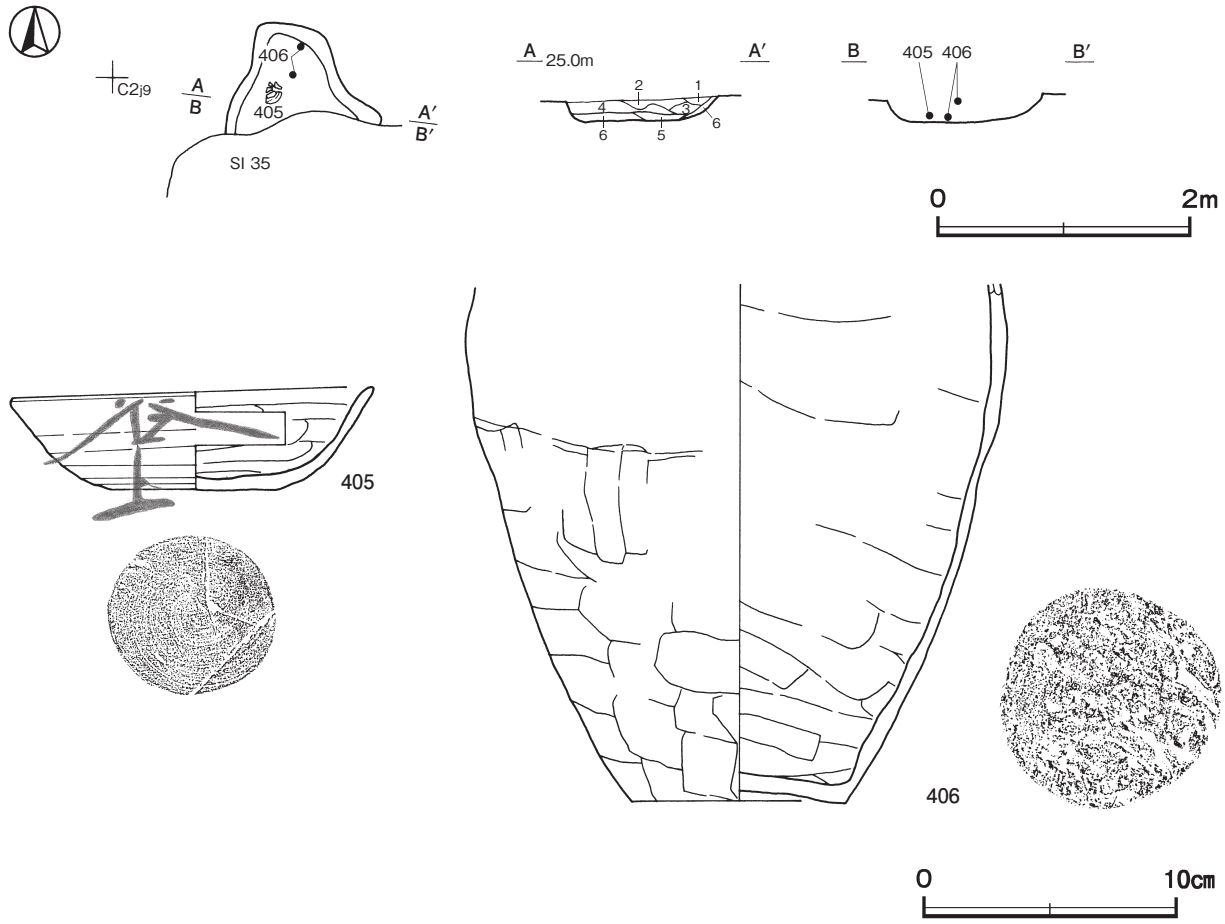
第 777 号土坑出土遺物観察表（第 207 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
403	土師器	坏	［12.3］	3.2	5.5	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	中層	60％

第 884 号土坑（第 208 図）

位置　調査区中央部のＣ２j9 区，標高 24.7 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 35 号住居跡に掘り込まれている。



第 208 図　第 884 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　東西軸 1.22 mで，第 35 号住居跡との重複関係が不鮮明であったため，南北軸は 0.80 mしか確認できなかった。平面形は不定形である。深さは 17㎝で，底面は皿状であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　6 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　灰黄褐色　ローム粒子多量
2　灰黄褐色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・砂少量
4　暗　褐　色　砂多量，ローム粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子多量
6　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器 2 点（坏，甕）が出土している。405 は中央部，406 は北部の覆土下層から出土しており，405 は逆位，406 は散在した状態でそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。

第 884 号土坑出土遺物観察表（第 208 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
405	土師器	坏	14.3	4.1	6.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部ロクロナデ　墨書「谷上」	下層	100% PL48・49
406	土師器	甕	－	(20.5)	8.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	下層	40%

第 980 号土坑（第 209 図）

位置　調査区中央部のＤ２f3 区，標高 24.4 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 19・28 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 7.00 m，短軸 1.52 mの長方形で，長軸方向はＮ－４°－Ｅである。深さは９～ 13㎝で，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層である。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

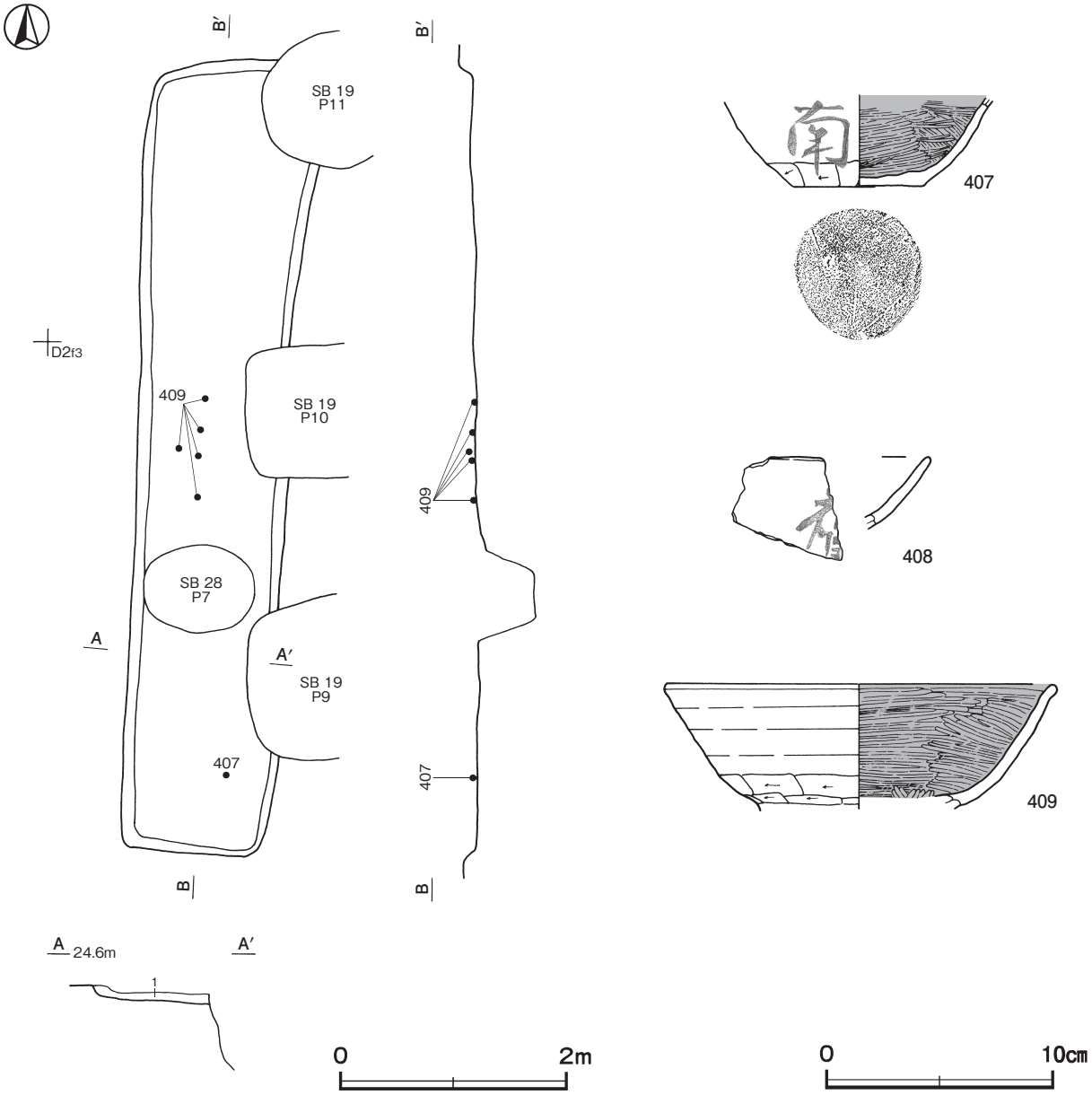
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 45 点（坏 26，高台付椀１，甕 18），須恵器片 19 点（坏８，高台付坏１，甕 10），鉄滓１点（35.4g）が出土している。また，混入した縄文土器片２点（深鉢），古墳時代の土師器片３点（坏）も出土している。407 は南部の底面，409 は中央部の覆土下層から底面にかけて散在した状態でそれぞれ出土している。408 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。

第 980 号土坑出土遺物観察表（第 209 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
407	土師器	坏	－	(3.8)	5.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き 底部不定方向のヘラ削り　墨書「南」	底面	60%　PL50
408	土師器	坏	－	(3.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面ヘラ磨き　墨書「福」	覆土中	５%　PL51
409	土師器	高台付椀	17.2	(5.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き	下層～底面	60%　PL48



第 209 図　第 980 号土坑・出土遺物実測図

第 1010 号土坑（第 210 図）

位置　調査区中央部のＤ２c7 区，標高 24.2 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 41 号住居跡，第 844・892・1069 号土坑を掘り込み，第 77 号住居に掘り込まれている。

規模と形状　径 0.94 mの不整円形である。深さは 18cmで, 底面は皿状であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

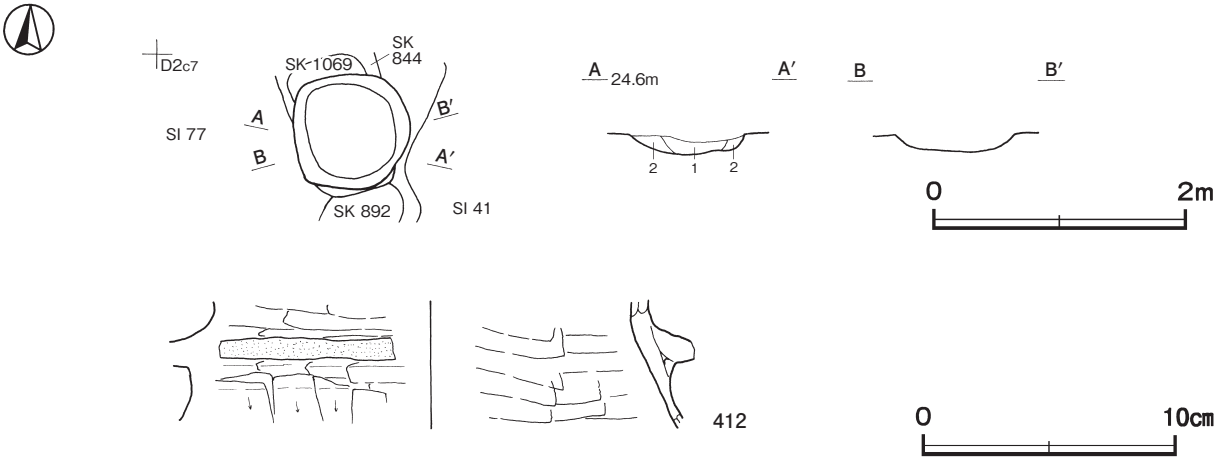
覆土　２層に分層できる。ロームのブロックや粒子を多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量　　2　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 35 点（坏 13，高台付椀１，甕 20，羽釜１），須恵器片４点（坏１，蓋１，甕２）が出土している。また，混入した縄文土器片２点（深鉢），古墳時代の土師器片１点（壺），土製品２点（土玉）も出土している。412 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 11 世紀代と考えられる。



第 210 図　第 1010 号土坑・出土遺物実測図

第 1010 号土坑出土遺物観察表（第 210 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
412	土師器	羽釜	－	(5.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面・鍔部ヘラナデ	覆土中	5％

第 1124 号土坑（第 211 図）

位置　調査区中央部のＤ２c6 区，標高 24.4 mの平坦な台地上に位置している。

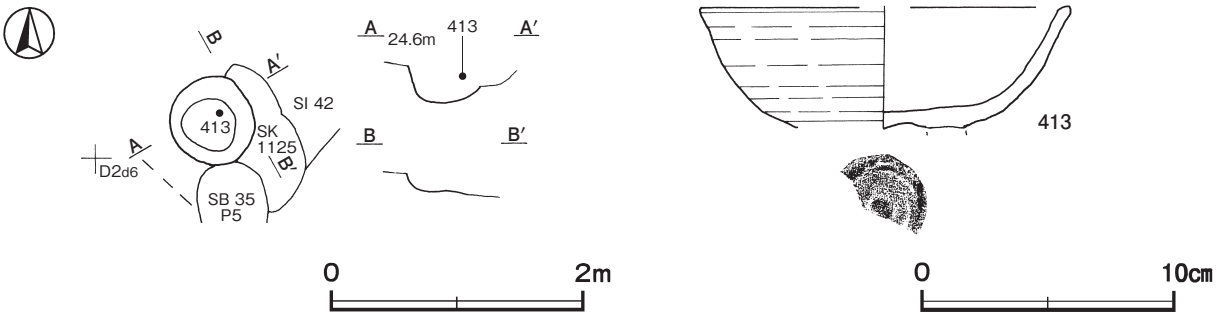
重複関係　第 35 号掘立柱建物跡，第 1125 号土坑を掘り込み，第 42 号住居に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は径 0.70 mの円形である。深さは 29cmで，底面は皿状であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　第 1125 号土坑を掘削している際に本跡を確認したため，堆積状況は不鮮明であった。

遺物出土状況　土師器片 27 点（坏 11, 高台付椀 10, 甕６），須恵器片３点（坏２，甕１）が出土している。413 は，東部の上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀後半と考えられる。



第 211 図　第 1124 号土坑・出土遺物実測図

第 1124 号土坑出土遺物観察表（第 211 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
413	土師器	高台付椀	［14.7］	（4.8）	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ	上層	30%

第 1190 号土坑（第 212・213 図）

位置　調査区中央部東端のＤ３h1 区，標高 23.9 mの平坦な台地上に位置している。

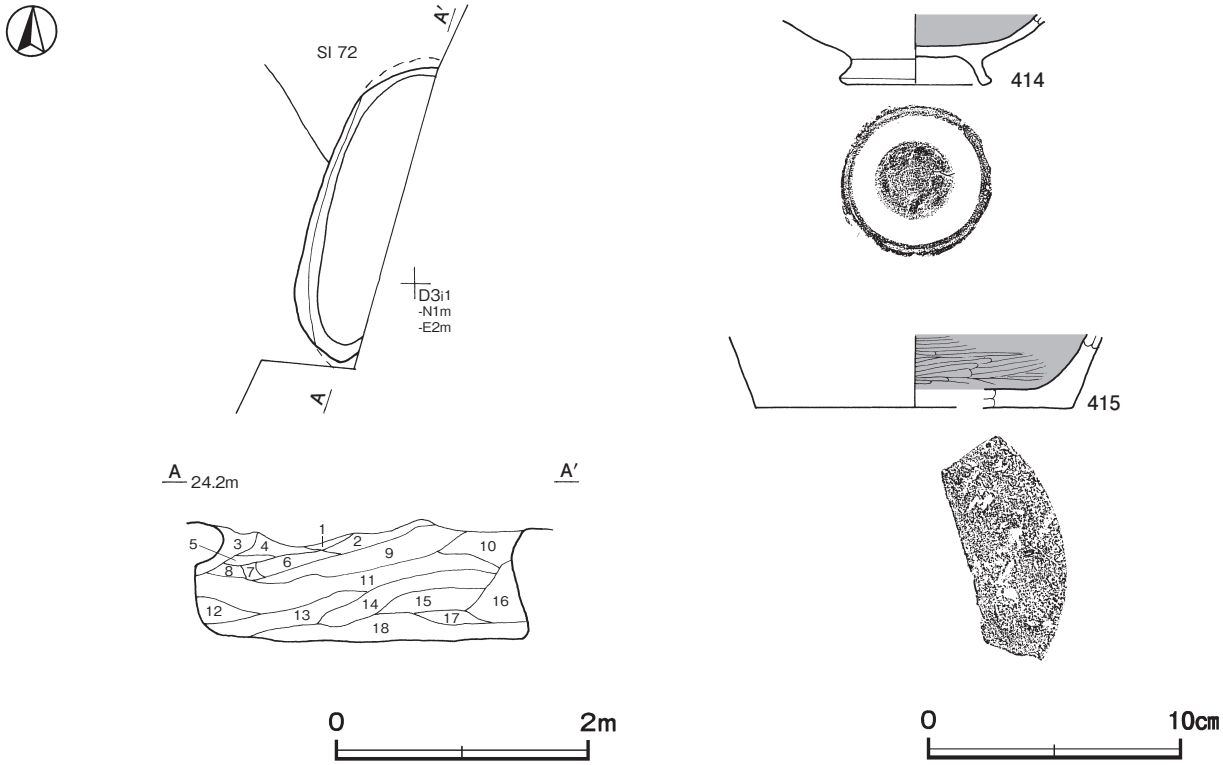
重複関係　第 72 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　東側が調査区域外へ延びているため，南北軸 2.45 m，東西軸 0.65 mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定できる。深さは 87cmで，底面は平坦であり，壁は内傾して立ち上がっている。

覆土　18 層に分層できる。第１～８層は焼土ブロックや炭化粒子，第９層以下はロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

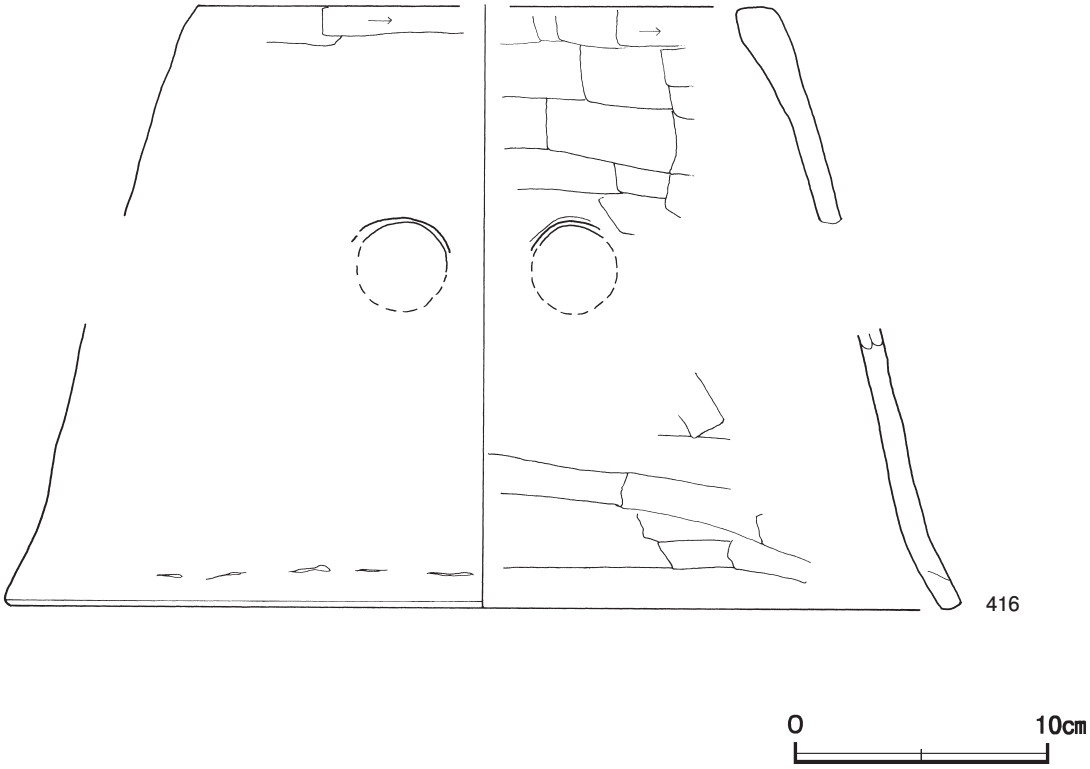
1　黒　　色　砂中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量
3　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
6　黒　　色　炭化粒子多量，焼土ブロック少量
7　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
9　灰 黄 褐 色　ロームブロック多量
10　黒　褐　色　ローム粒子多量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量
12　暗　褐　色　ローム粒子多量
13　黒　褐　色　ロームブロック多量
14　黒　褐　色　ロームブロック中量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量
16　黒　褐　色　ロームブロック少量
17　黒　　色　ロームブロック微量
18　暗　褐　色　ロームブロック多量



第 212 図　第 1190 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 174 点（坏 104，高台付椀 20，鉢 1，甕 48，置き竈 1），須恵器片 31 点（坏 14，蓋 2，甕 15），灰釉陶器片 1 点（瓶）が覆土上層を中心に出土している。414 ～ 416 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。



第 213 図　第 1190 号土坑出土遺物実測図

第 1190 号土坑出土遺物観察表（第 212・213 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
414	土師器	高台付椀	－	(2.6)	5.3	長石・石英	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後，高台貼付	覆土中	60％
415	土師器	鉢	－	(2.9)	[12.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端ヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土中	5％
416	土師器	置き竈	[22.8]	(19.9)	[38.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	掛口部・体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　円孔有り	覆土中	5％

表 12　平安時代　土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平面形	規　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
247	D 3 b2	N － 21° － W	楕円形	1.03 × 0.83	20	凹凸	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI45 →本跡
324	D 2 d9	N － 73° － W	隅丸長方形	2.40 × 1.60	15	平坦	外傾	人為	土師器片	
370	D 2 b5	－	不整円形	1.23 × 1.16	24	凹凸	直立	人為	土師器片	SK372 →本跡
372	D 2 b5	－	［円形］	0.64 ×（0.50）	10	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SB30 →本跡→ SK370
414	C 1 j0	N － 22° － E	［隅丸長方形］	3.25 ×（1.10）	75	平坦	外傾	人為	土師器片	SI23,SB14,SH11 →本跡
490	D 2 d4	－	円形	1.00 × 0.96	19	平坦	直立	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
559	D２h0	－	円形	1.33 × 1.27	40	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片	
576	D２f7	－	円形	1.00 × 1.00	20	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
587	D２f6	N－55°－W	楕円形	1.50 × 1.08	17	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	SK586→本跡
777	D２h2	N－37°－W	楕円形	0.74 × 0.62	44	凹凸	外傾	人為	土師器片	
884	C２j9	－	［不定形］	1.22 ×（0.80）	17	皿状	外傾	人為	土師器片	本跡→SI35
980	D２f3	N－4°－E	長方形	7.00 × 1.52	9～13	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，鉄滓	本跡→SB19･28
1010	D２c7	－	不整円形	0.94 × 0.94	18	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI41，SK844･892･1069→本跡→SI77
1124	D２c6	－	円形	0.70 × 0.70	29	皿状	外傾	－	土師器片	SB35･SK1125→本跡→SI42
1190	D３h1	－	［楕円形］	（2.45 × 0.65）	87	平坦	内傾	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片	SI72→本跡

（7）ピット

当時代のピットは，２か所が確認できた。以下，遺構と遺物の特徴について解説する。

第１号ピット（SK181）（第 214 図）

位置　調査区中央部のＣ２g4 区，標高 24.7 mの平坦な台地上に位置している。

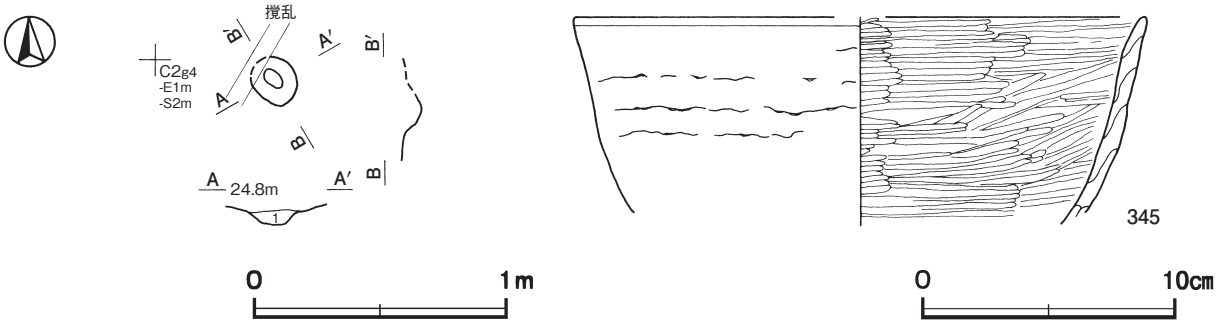
規模と形状　長径 0.40m，短径 0.34 mの楕円形で，長径方向はN－30°－Wである。深さは 14cmである。

覆土　単一層である。均質な黒色土であることから，柱痕跡と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片１点（鉢）が出土している。345 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉と考えられる。単独で存在していることから，構造は不明である。



第 214 図　第１号ピット・出土遺物実測図

第１号ピット（SK181）出土遺物観察表（第 214 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
345	土師器	鉢	［22.8］	（8.2）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面輪積み痕　内面ヘラ磨き	覆土中	20％

第２号ピット（SK778）（第 215 図）

位置　調査区中央部のＤ２h2 区，標高 24.0 ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 0.31m，短径 0.25 の楕円形で，長径方向はＮ－ 77°－Ｗである。深さは 98㎝である。

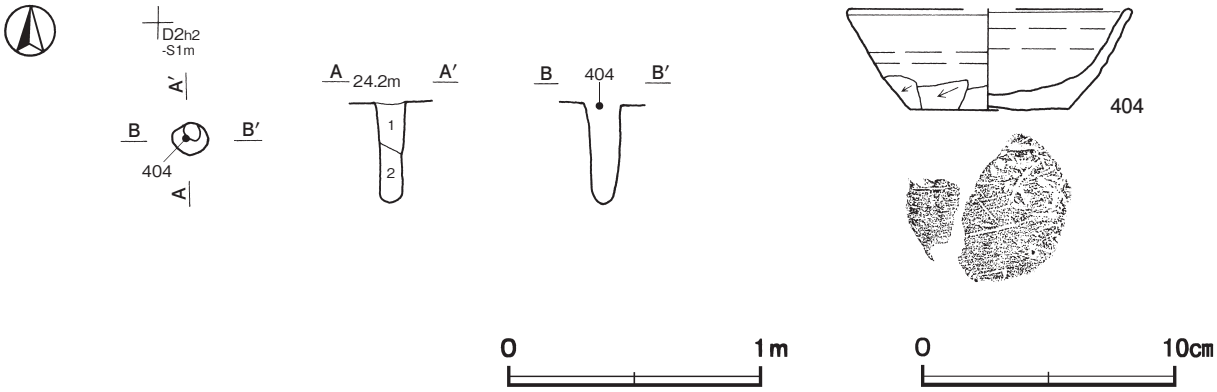
覆土　２層に分層できる。均質な黒褐色土であることから，柱痕跡と考えられる。

土層解説

１　黒　褐　色　ローム粒子微量　　２　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片１点（坏）が出土している。404 は，覆土上層から斜位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。周辺には同時期の第 771・772・776・777 号土坑が位置していることから，関連性がうかがえる。しかし，単独で存在していることから，構造は不明である。



第 215 図　第２号ピット・出土遺物実測図

第２号ピット（SK778）出土遺物観察表（第 215 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
404	土師器	坏	［11.3］	4.0	6.3	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	上層	50%　PL47

表 13　平安時代　ピット一覧表

番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	SK181	Ｃ２g4	Ｎ－ 30°－Ｗ	楕円形	0.40 × 0.34	14	皿状	外傾	自然	土師器片	
2	SK778	Ｄ２h2	Ｎ－ 77°－Ｗ	楕円形	0.31 × 0.25	98	皿状	直立	自然	土師器片	

5　その他の遺構と遺物

今回の調査で，時期や性格が明らかでない竪穴住居跡１軒，掘立柱建物跡７棟，道路跡１条，溜井跡１か所，溝跡 18 条，土坑 160 基，ピット群５か所，ピット 366 か所を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

（1）竪穴住居跡

第 17 号住居跡（第 216 図）

位置　調査区北部のＣ２c1 区，標高 24.9 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 63 号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.33 ｍ，短軸 3.69 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｅである。壁高は６～８㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ７～ 32cm で，主柱穴である。

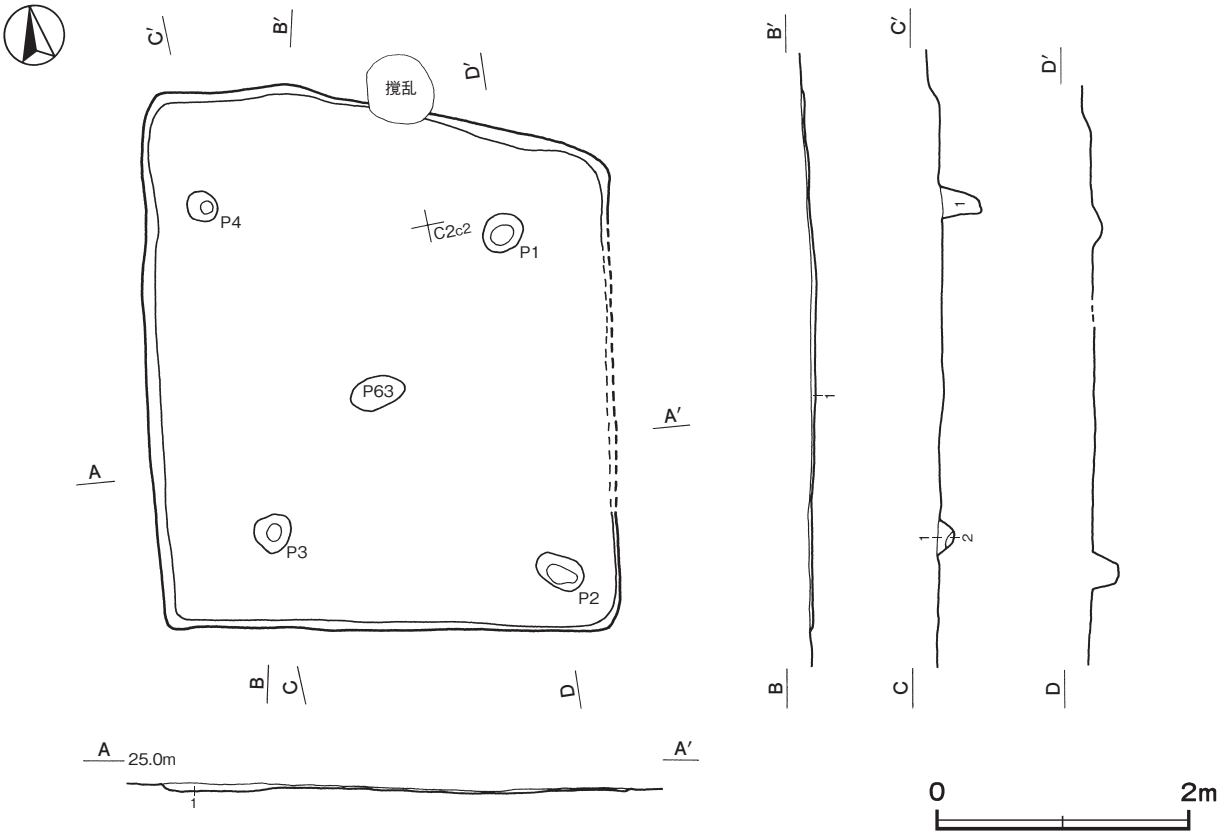
ピット土層解説（各ピット共通）
１　黒　褐　色　ローム粒子少量　　２　暗　褐　色　ロームブロック中量

覆土　単一層である。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説
１　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片３点（甕）が出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢），弥生土器片１点（広口壺）も出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。



第 216 図　第 17 号住居跡実測図

(2) 掘立柱建物跡

第 15 号掘立柱建物跡（第 217 図）

位置　調査区中央部のＣ２h1 ～Ｃ２i3 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 20 号ピットを掘り込んでいる。

規模と構造　桁行４間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向N － 89° －Wの東西棟である。規模は桁行 7.58 m，梁行 1.82 mで，面積は 13.80㎡である。柱間寸法は桁行が西妻から 1.52 m（５尺）･2.27 m（7.5 尺）･2.27 m（7.5 尺）・1.52 m（５尺）で，梁行が 1.82 m（６尺）に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

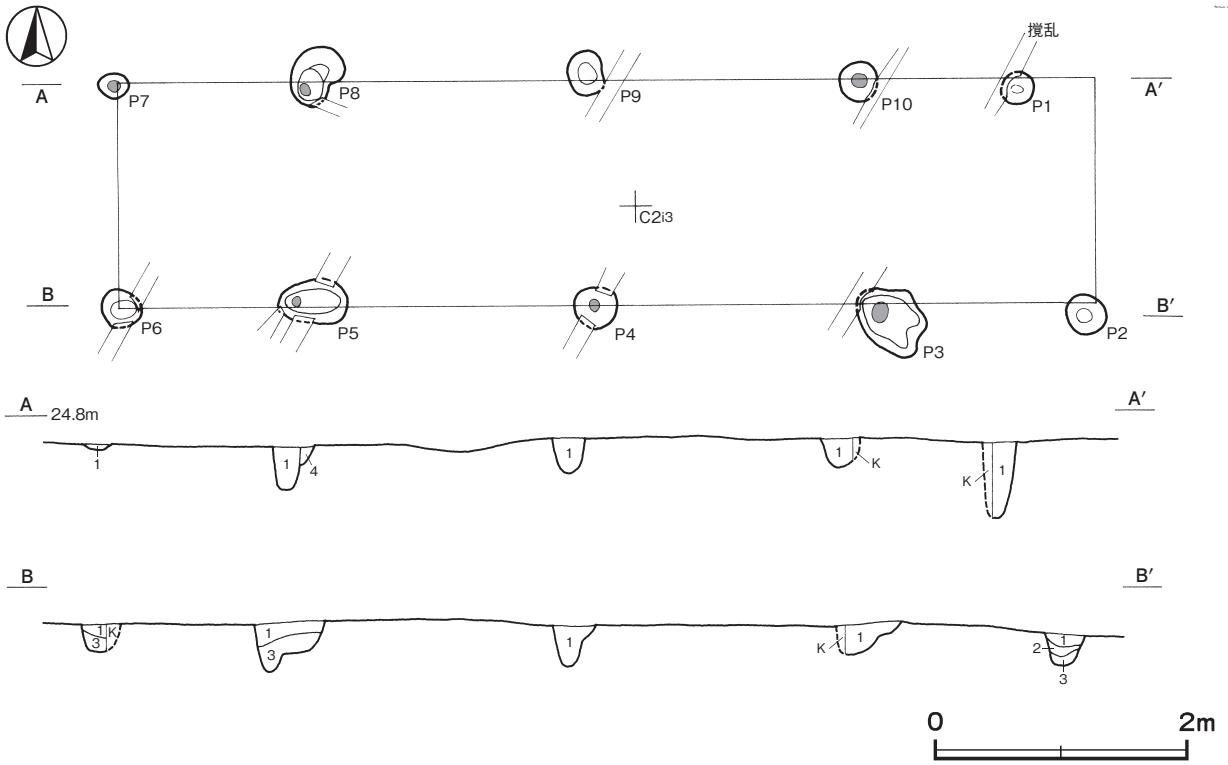
柱穴　10 か所。平面形は円形または楕円形で，長径 24 ～ 62㎝，短径 20 ～ 47㎝である。深さは４～ 59cm で，掘方の断面形はＵ字状である。第１～３層は柱の抜き取り痕である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1	黒	色　ロームブロック少量	3	黒　褐	色　ロームブロック少量
2	黒	色　ローム粒子微量	4	黒	色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢），土師器片７点（坏１，甕５，甑１），須恵器片１点（甕）が各柱穴から出土している。いずれも摩滅した細片のため図示できない。

所見　時期は，時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。



第 217 図　第 15 号掘立柱建物跡実測図

第 16 号掘立柱建物跡（第 218・219 図）

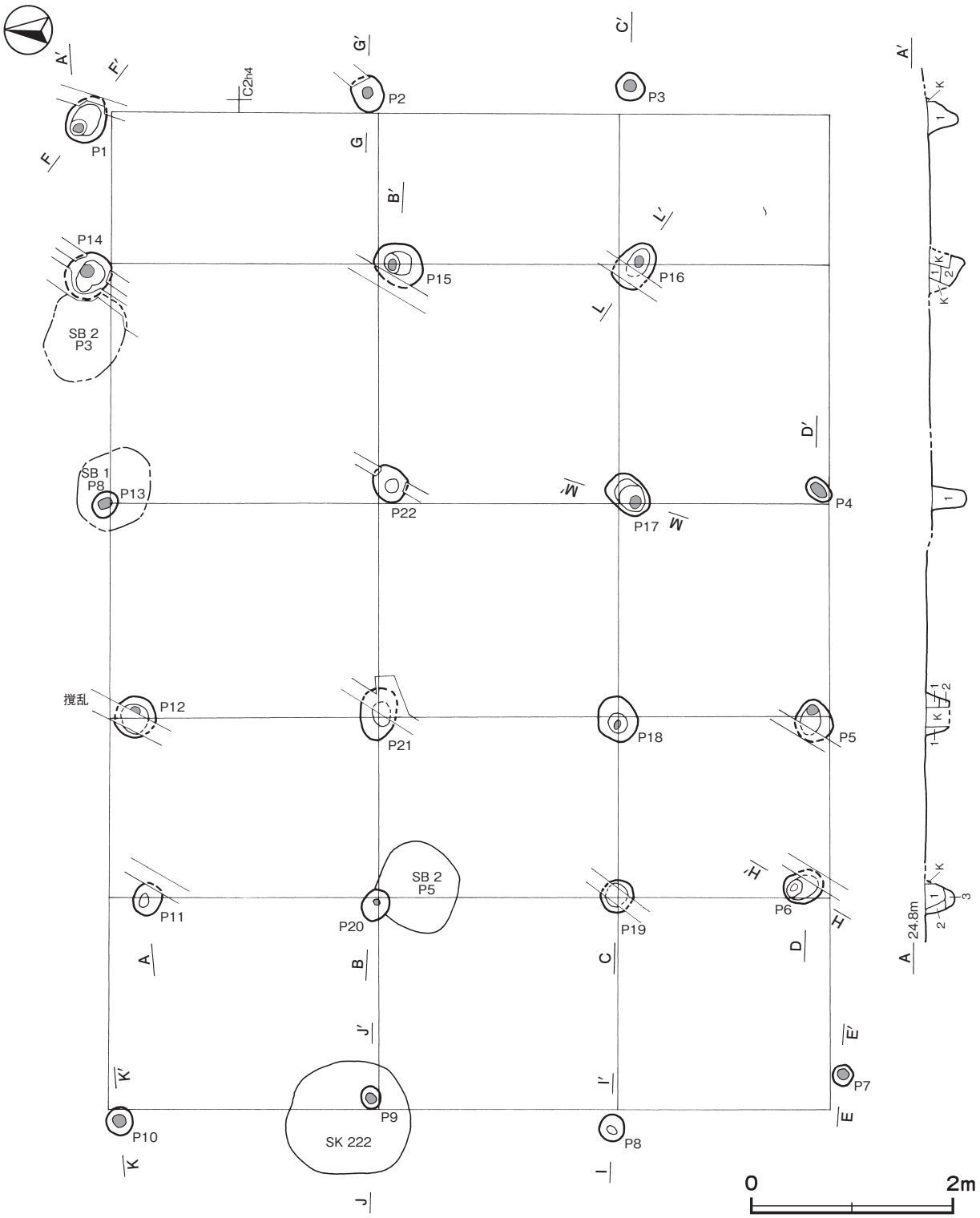
位置　調査区中央部のＣ２g1 ～Ｃ２i4 区，標高 24.6 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第１・２号掘立柱建物跡を掘り込み，第 222 号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行５間，梁行３間の総柱建物跡で，桁行方向N － 89° －Wの東西棟である。規模は桁行 10.0 m，梁行 7.27 mで，面積は 72.70㎡である。柱間寸法は桁行が西妻から 2.12 m（７尺）･1.82 m（６尺）･2.12 m（７尺）･

2.42 m（8尺）・1.52 m（5尺）で，梁行が北平から 2.73 m（9尺）・2.42 m（8尺）・2.12 m（7尺）に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　22 か所。平面形は円形で，長径 21 ～ 50㎝，短径 21 ～ 40㎝である。深さは 10 ～ 58cm で，掘方の断面形はＵ字状である。第１～４層は柱の抜き取り痕である。



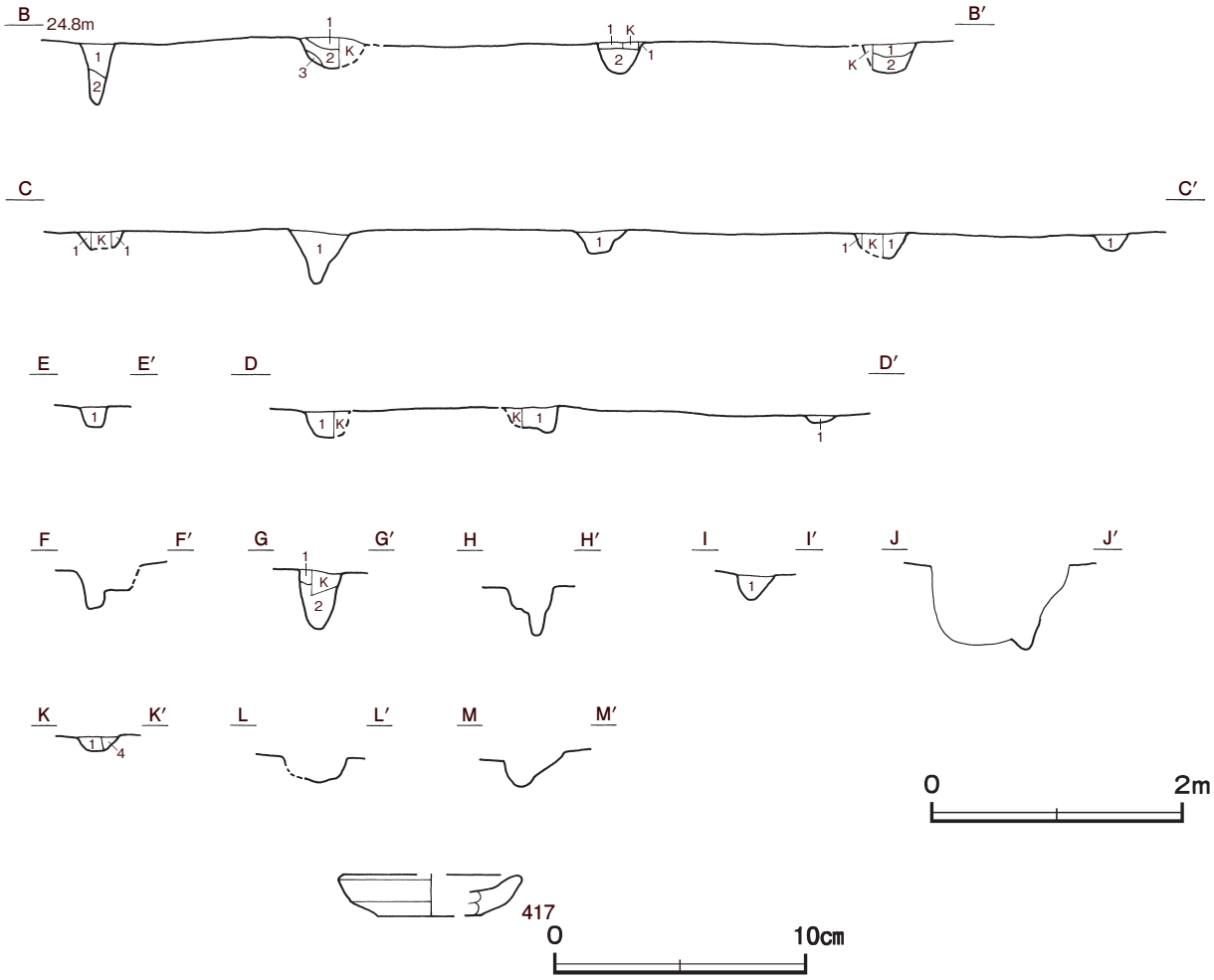
第 218 図　第 16 号掘立柱建物跡実測図

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片１点（小皿）がＰ 12 の柱を抜き取った後の覆土中から出土している。また，混入した縄文土器片２点（深鉢），土師器片 24 点（坏９，甕 15），須恵器片５点（坏２，甕３）も出土している。

所見　時期は，出土土器から中世後半以降と考えられるが，明確な時期は不明である。



第 219 図　第 16 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 16 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 219 図）

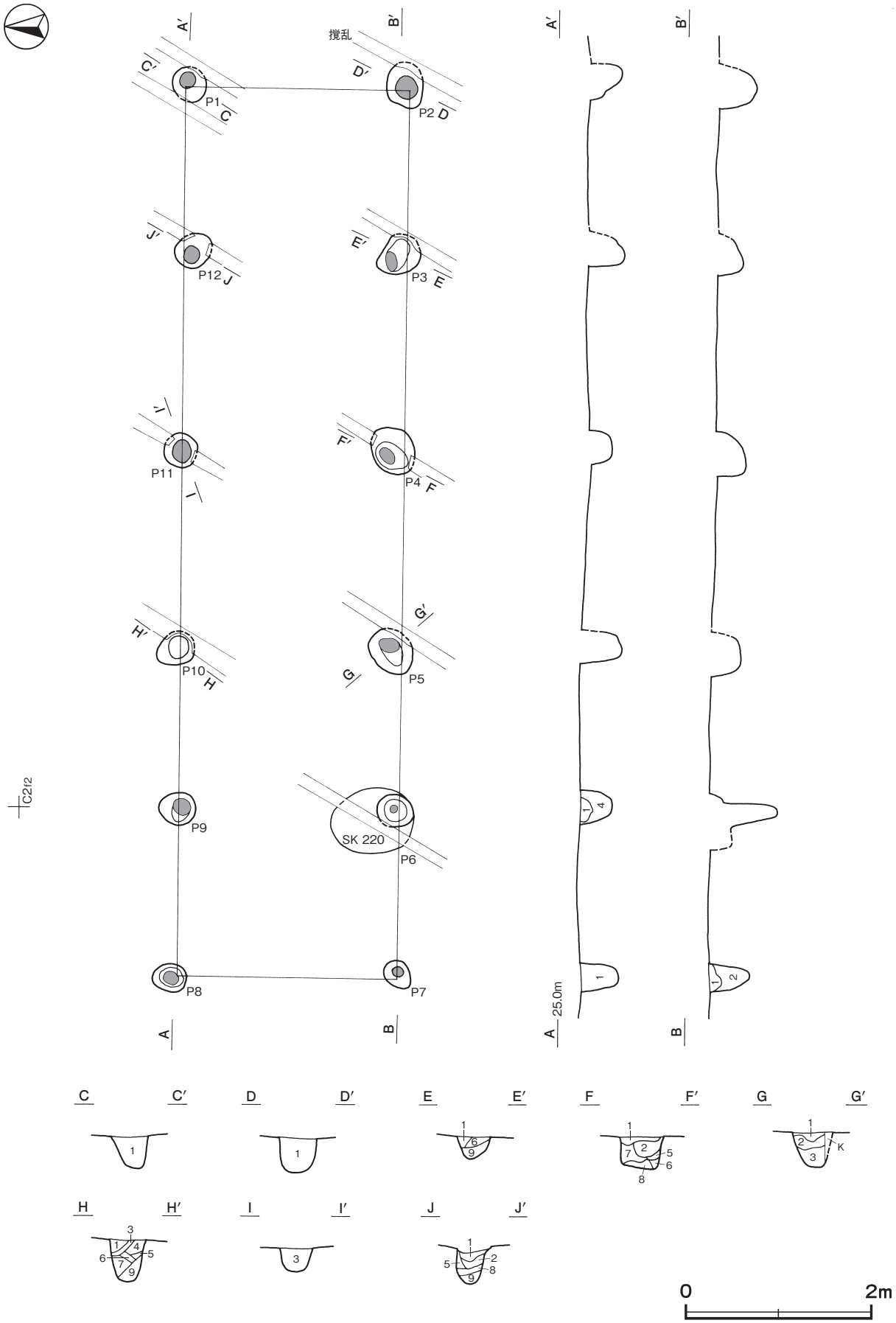
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
417	土師質土器	小皿	［6.9］	1.6	［4.2］	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	Ｐ 12	５％

第 21 号掘立柱建物跡（第 220 図）

位置　調査区中央部のＣ２f1 ～Ｃ２g3 区，標高 24.7 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 220 号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行５間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－ 89°－Ｗの東西棟である。規模は桁行 9.70 ｍ，梁行 2.42 ｍで，面積は 23.47㎡である。柱間寸法は桁行が西妻から 1.82 ｍ（６尺）･1.82 ｍ（６尺）･2.12 ｍ（７尺）・2.12 ｍ（７尺）・1.82 ｍ（６尺），梁行は 2.42 ｍ（８尺）に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。



第 220 図　第 21 号掘立柱建物跡実測図

柱穴　12か所。平面形は円形または楕円形で，長径33～52㎝，短径28～45㎝である。深さは27～73cmで，掘方の断面形はU字状である。第1～9層は柱の抜き取り痕である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　黒　　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　黒　　色　ロームブロック中量
7　黒　　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片1点（深鉢），土師器片24点（坏8，甕16），須恵器片2点（甕）が各柱穴から出土している。いずれも摩滅した細片のため図示できない。

所見　時期は，時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。

第33号掘立柱建物跡（第221図）

位置　調査区中央部のD2h2～D2j5区，標高24.2mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第61号住居跡，第27号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行5間，梁行4間の側柱建物跡で，桁行方向N－87°－Eの東西棟である。規模は桁行9.70m，梁行6.67mで，面積は64.70㎡である。柱間寸法は北桁行が西妻から2.12m（7尺）･1.82m（6尺）･1.82m（6尺）・1.82m（6尺）・2.12m（7尺）で，西梁行が1.82m（6尺）・1.82m（6尺）・1.82m（6尺）・1.21m（4尺）に配置されている。南桁行と東梁行は，遺構の重複や撹乱のため柱穴が確認できなかった。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　13か所。平面形は円形または楕円形で，長径23～62㎝，短径20～48㎝である。深さは8～36cmで，掘方の断面形はU字状である。第1～3層は柱の抜き取り痕，第4層は柱痕跡，第5～8層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ローム粒子中量
3　黒　　色　ロームブロック少量
4　黒　　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　黒　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片1点（甕）がP5の抜き取り痕から出土している。摩滅した細片のため図示できない。

所見　時期は，時期決定の根拠となる遺物が出土していないため不明である。

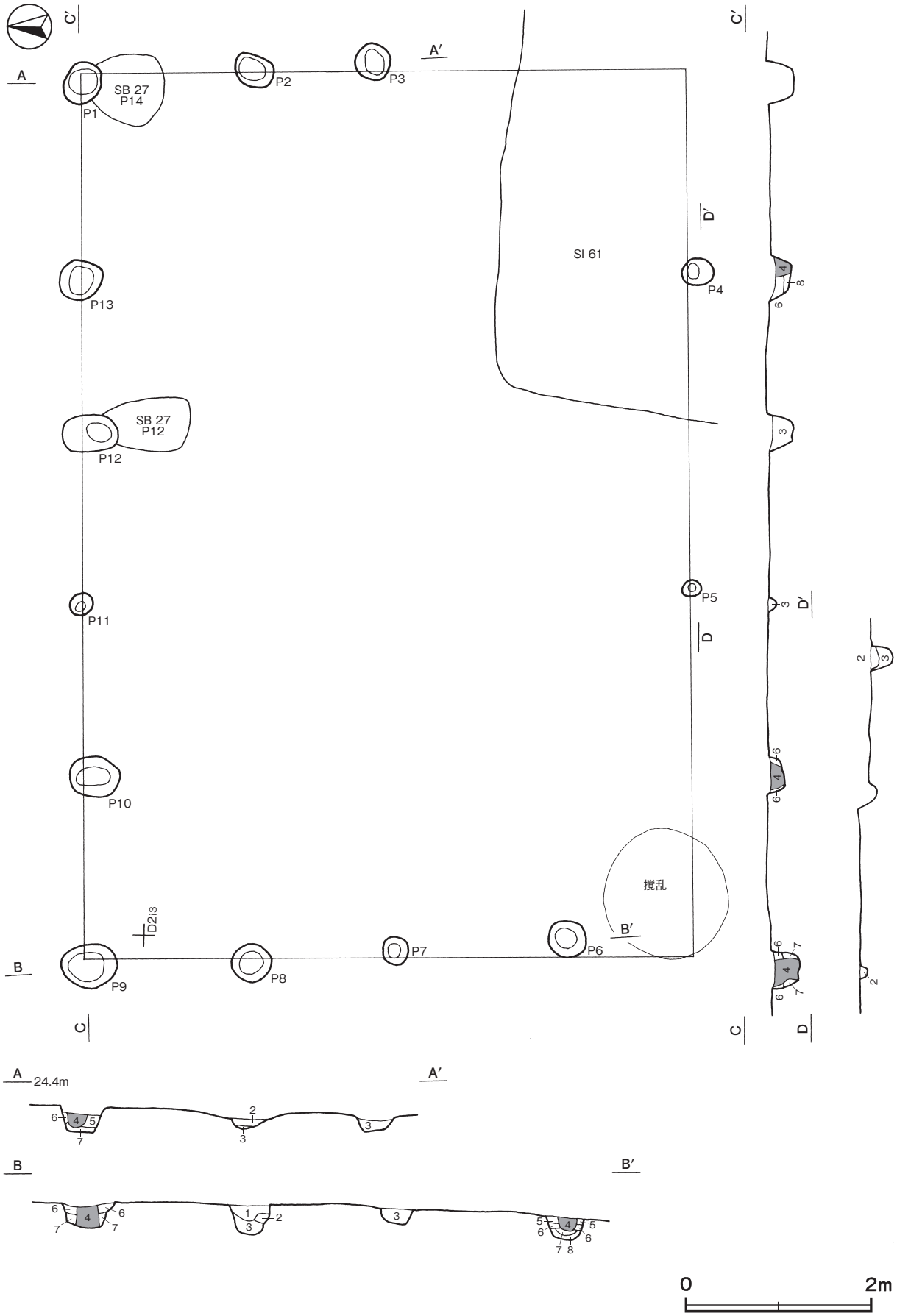
第37号掘立柱建物跡（第222図）

位置　調査区中央部のD1c0～D1d0区，標高24.5mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第6号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N－8°－Eの南北棟である。規模は桁行3.64m，梁行3.64mで，面積は13.25㎡である。柱間寸法は桁行，梁行ともに1.82m（6尺）の均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　8か所。平面形は円形で，径25～36㎝である。深さは17～44cmで，掘方の断面形はU字状である。第1層は柱の抜き取り痕である。

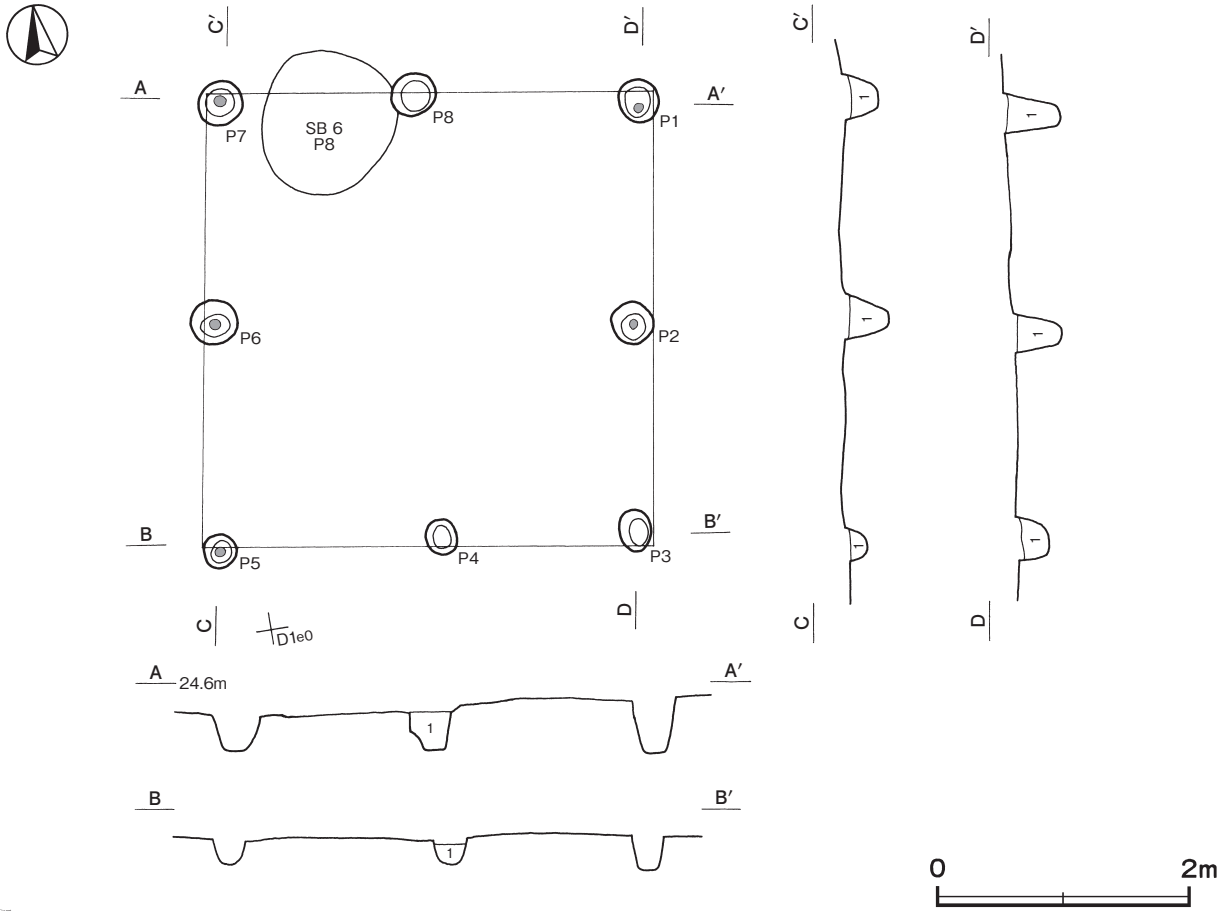


第 221 図　第 33 号掘立柱建物跡実測図

柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師質土器片２点（小皿）と混入した土師器片２点（甕）が，Ｐ３・７から出土している。いずれも摩滅した細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から中世後半以降と考えられるが，明確な時期は不明である。



第 222 図　第 37 号掘立柱建物跡実測図

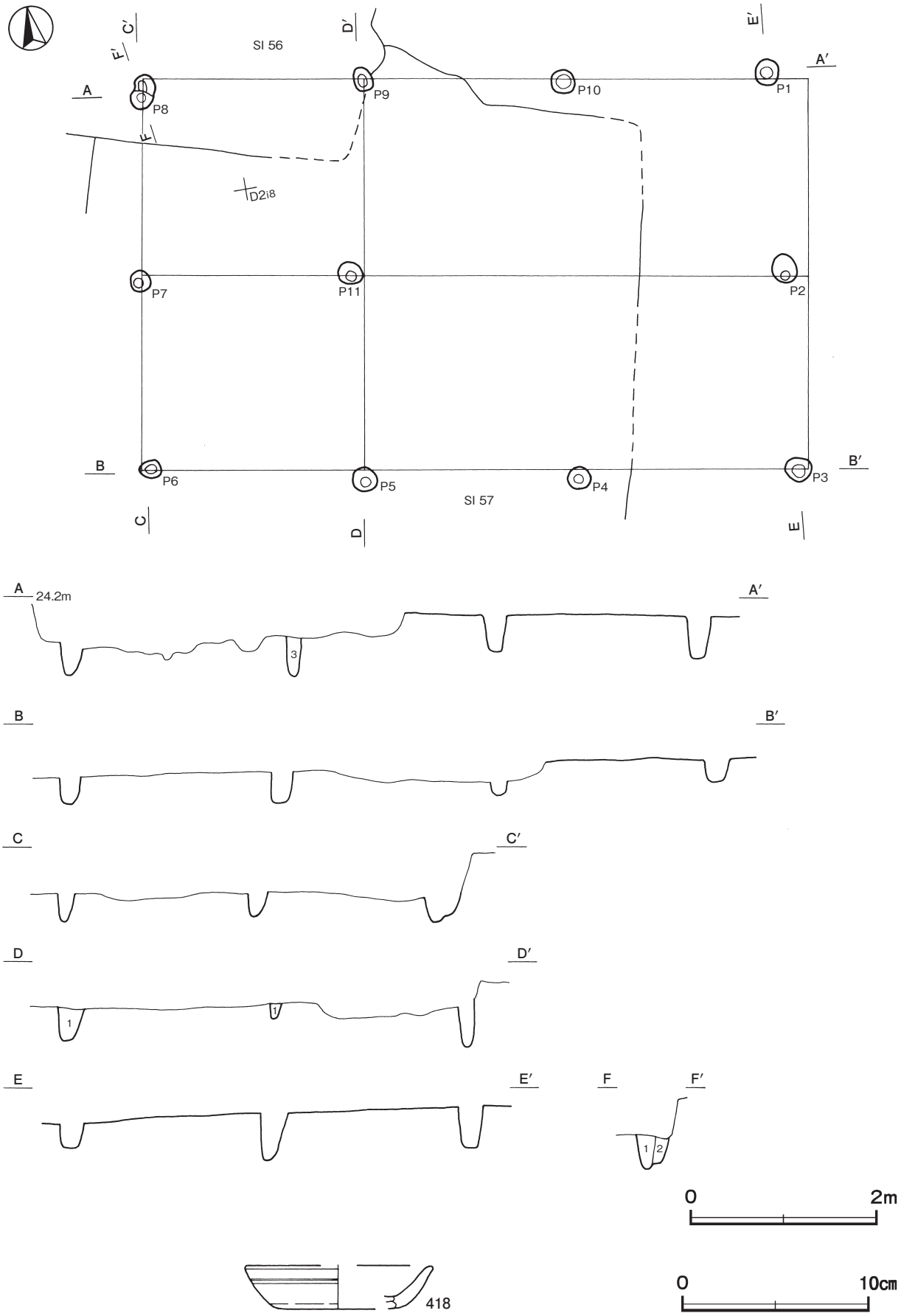
第 38 号掘立柱建物跡（第 223 図）

位置　調査区中央部のＤ２h7 ～Ｄ２j9 区，標高 24.1 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 56・57 号住居跡，第 25・26 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡と推定でき，桁行方向Ｎ－ 85°－Ｗの東西棟である。西妻から１か所目の側柱の柱筋上に間仕切柱穴１か所が配置されている。規模は桁行 7.27 m，梁行 4.54 mで，面積は 33.00㎡である。柱間寸法は北桁行が西妻から 2.42 m（８尺），2.12 m（７尺），2.73 m（９尺）で，南桁行は 2.42 m（８尺），梁行は 2.12 m（７尺）の均等で配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　11 か所。平面形は円形または楕円形で，長径 21 ～ 30㎝，短径 19 ～ 26㎝である。深さは 10 ～ 54cm で，掘方の断面形はＵ字状である。第１～３層は柱の抜き取り痕である。



第 223 図　第 38 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片１点（小皿）と混入した土師器片１点（甕）がＰ９から出土している。418 は，Ｐ９の柱の抜き取り痕から出土している。

所見　時期は，出土土器から中世後半以降と考えられるが，明確な時期は不明である。

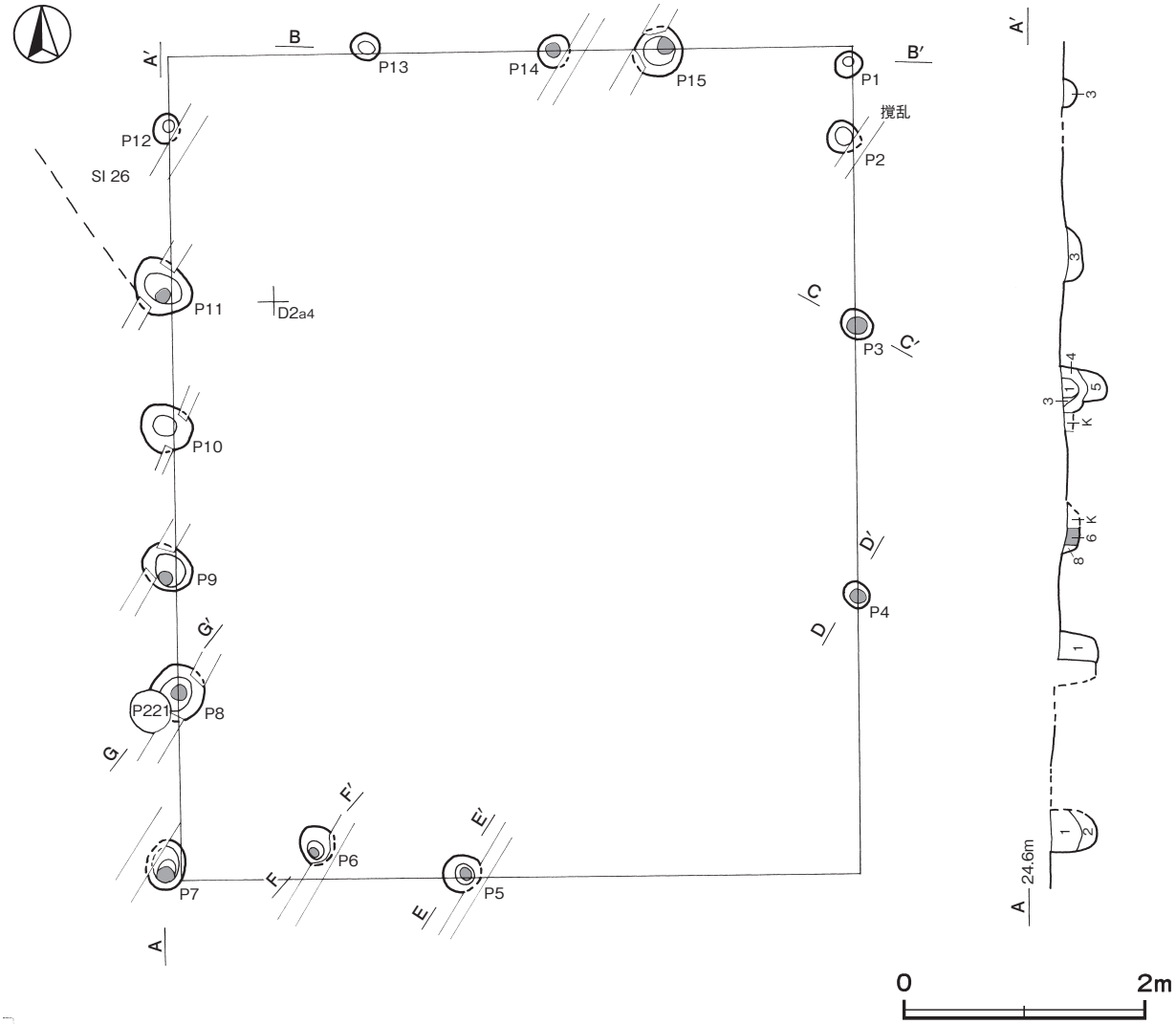
第 38 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 223 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
418	土師質土器	小皿	［10.0］	2.3	［6.4］	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ	Ｐ９	10%

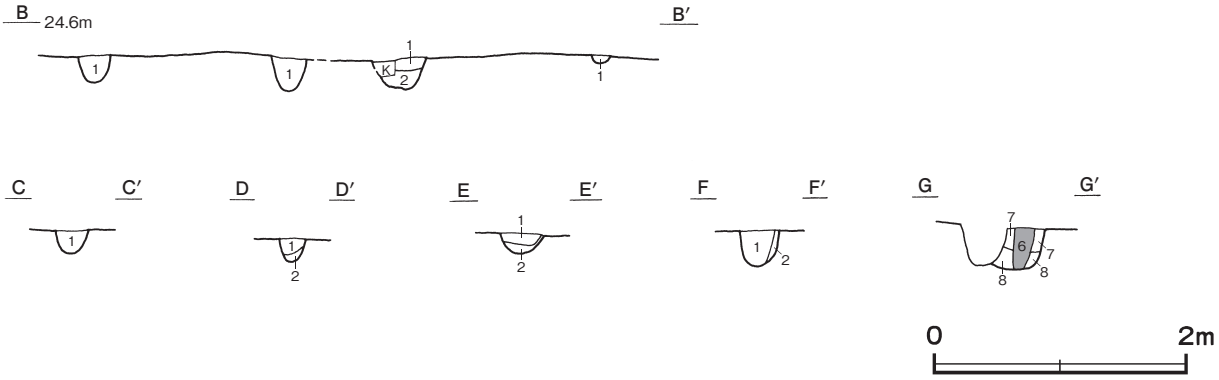
第 40 号掘立柱建物跡（第 224・225 図）

位置　調査区中央部のＣ２j3 ～Ｄ２b4 区，標高 24.4 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 26 号住居跡，第 984 号土坑を掘り込み，第 221 号ピットに掘り込まれている。



第 224 図　第 40 号掘立柱建物跡実測図（1）



第 225 図　第 40 号掘立柱建物跡実測図（2）

規模と構造　桁行６間，梁行４間の側柱建物跡と推定でき，桁行方向Ｎ－１°－Ｗの南北棟である。規模は桁行 6.97 m，梁行 5.76 mで，面積は 40.15㎡である。柱間寸法は桁行が 0.61 m（２尺）～ 2.27 m（7.5 尺），梁行は 1.06 m（3.5 尺）～ 1.67 m（5.5 尺）である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　15 か所。平面形は円形または楕円形で，長径 20 ～ 52㎝，短径 18 ～ 43㎝である。深さは７～ 37cm で，掘方の断面形はＵ字状である。第１～５層は柱の抜き取り痕，第６層は柱痕跡，第７・８層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量

所見　時期は，遺物が出土していないため不明である。

表 14　その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
			桁×梁（間）	桁 × 梁（m）	（㎡）	桁間（m）	梁間（m）	構造	柱穴数	平面形	深さ（㎝）		
15	C 2 h1 ～ C 2 i3	N－89°－W	4 × 1	7.58 × 1.82	13.80	1.52 ～ 2.27	1.82	側柱	10	円形　楕円形	4 ～ 59		P20 →本跡
16	C 2 g1 ～ C 2 i4	N－89°－W	5 × 3	10.00 × 7.27	72.70	1.52 ～ 2.42	2.12 ～ 2.73	総柱	22	円形	10 ～ 58	土師質土器片	SB 1・2 →本跡→ SK222
21	C 2 f1 ～ C 2 g3	N－89°－W	5 × 1	9.70 × 2.42	23.47	1.82 ～ 2.12	2.42	側柱	12	円形　楕円形	27 ～ 73		SK220 →本跡
33	D 2 h2 ～ D 2 j5	N－87°－E	5 × 4	9.70 × 6.67	64.70	1.82 ～ 2.12	1.21 ～ 1.82	側柱	13	円形　楕円形	8 ～ 36		SI61,SB27 →本跡
37	D 1 c0 ～ D 1 d0	N－8°－E	2 × 2	3.64 × 3.64	13.25	1.82	1.82	側柱	8	円形	17 ～ 44	土師質土器片	SB 6 →本跡
38	D 2 h7 ～ D 2 j9	N－85°－W	3 × 2	7.27 × 4.54	33.00	2.12 ～ 2.73	2.12	側柱	11	円形　楕円形	10 ～ 54	土師質土器片	SI56・57,SB25・26 → 本跡
40	C 2 j3 ～ D 2 b4	N－1°－W	6 × 4	6.97 × 5.76	40.15	0.61 ～ 2.27	1.06 ～ 1.67	側柱	15	円形　楕円形	7 ～ 37		SI26,SK984 →本跡 → P221

（3）道路跡

今回の調査で，時期不明の道路跡１条を確認した。規模や形状等については文章で解説し，平面図については遺構全体図で掲載する。

第１号道路跡（第 226 図）

位置　調査区北端部のＢ２b5 区～Ｂ１h0 区，標高 24.7 ｍの平坦な台地上に位置している。

確認状況　現代の農道と重複しており，表土を除去した段階で路面の硬化面が確認できた。

重複関係　第１号溝跡を掘り込み，第９号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北東側と南西側が調査区域外へ延びているため，長さ 30.10 ｍしか確認できなかった。南西部のＢ１h0 区から北東方向（Ｎ－ 33°－Ｅ）に直線的に延び，Ｂ２d2 区で東側（Ｎ－ 60°－Ｅ）に緩やかに屈曲している。硬化面の幅は 1.37 ～ 1.82 ｍである。掘方は溝状で，上幅 1.98 ～ 2.81 ｍ，下幅 0.83 ～ 1.88 ｍ，深さ 10 ～ 13㎝で，断面形は浅い逆台形である。路面はロームブロックを含む暗褐色土を主体とした第２～７層を埋土し，黄灰色土の第１層を突き固めて構築されている。また，掘方の下端に沿って溝跡３条が確認できた。規模は上幅 0.22 ～ 0.61 ｍ，下幅 0.13 ～ 0.38 ｍ，深さ６～ 13㎝で，断面形は浅いＵ字状である。南部では２条が並行しており，位置や形状から道路の側溝と考えられる。

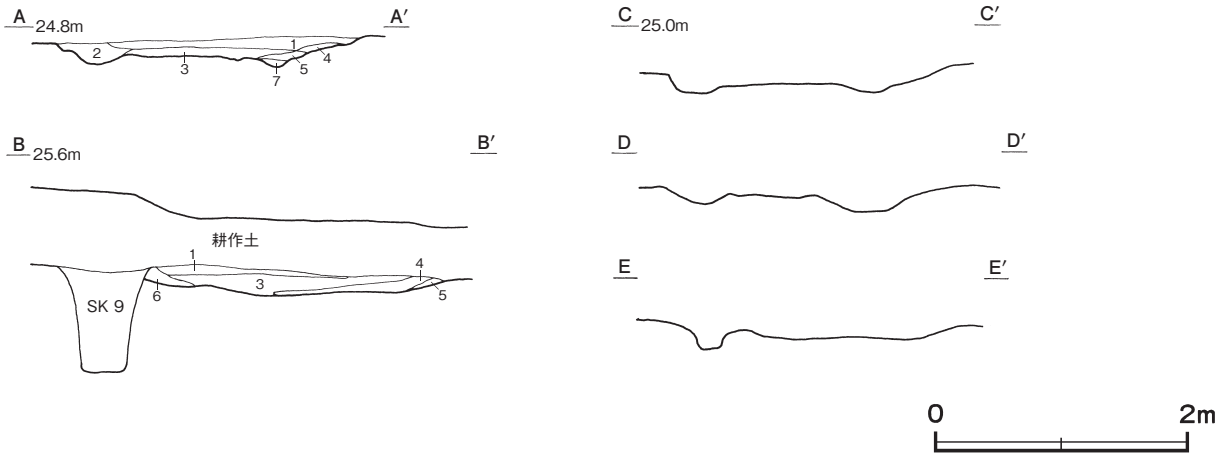
構築土　７層に分層できる。第１層は締まりが強く，上面が硬化している。

土層解説

1　黄　灰　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片６点（碗２，甕４）が路面の構築土中から出土している。また，混入した縄文土器片１点（深鉢），弥生土器片２点（広口壺），土師器片７点（高台付椀１，鉢６），須恵器片２点（坏１，鉢１）も出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　構築時期は，時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。



第 226 図　第１号道路跡実測図

（4）溜井跡

今回の調査で，調査区南部の斜面部において，湧水が認められる落ち込みを確認した。上位から第９・10 Ａ・10 Ｂ・11 Ａ・11 Ｂ号溝が接続し，下位へ第 12・13 号溝が続いていることから，台地部の自然湧水を集めて水温調節を行い，南側の低地部の水田域へ配水するための溜井と考えられる。以下，規模や形状等について文章で解説し，平面図については遺構全体図で掲載する。

第１号溜井跡（ＳＸ１）

位置　調査区南部のＦ１a0 ～ Ｆ２e2 区，標高 15.2 ～ 17.9 ｍの斜面部から低地部かけて位置している。

確認状況　表土除去作業前から湧水が認められ，当初，自然地形の湧水点として調査を開始した。地山の流入土とみられる砂質土を除去したところ，底部付近で青灰色の粘土と杭跡が確認でき，周囲から本跡と接続している溝跡が確認できたことから，溜井跡として調査を行った。しかし，自然湧水が激しく，降雨等による壁部の崩落や土砂の流入があったため，内部の詳細な堆積状況は確認できなかった。

重複関係　第９・10 Ａ・10 Ｂ・11 Ａ・11 Ｂ・12・13 号溝と接続している。

規模と形状　長径 11.68 ～ 16.93 ｍ，短径 7.47 ～ 8.81 ｍの不整楕円形で，長径方向はＮ－ 13 °－Ｅである。深さは 0.30 ～ 2.40㎝である。底面はほぼ平坦で，西部が長径 4.96 ｍ，短径 3.25 ｍ，深さ約 30㎝の不整楕円形に凹んでいる。凹みの周囲には，11 本の杭が打ち込まれている。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　底部に青灰色粘土が堆積しており，常時，水が溜まっていた状況を示している。また，部分的に細粒砂の薄層が認められることから，一時的には流水もあったとみられる。

遺物出土状況　陶器片 18 点（瓶８，甕 10），磁器片２点（碗１，皿１），瓦片４点（平瓦），ガラス片（瓶）が最下層から出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点（深鉢），土師器片 86 点（坏 22，高台付椀７，高台付皿１，小皿２，鉢１，甕 53），須恵器片 63 点（坏 12，蓋３，盤１，鉢１，甕 46），石製品１点（砥石）も出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，接続している第９号溝の出土遺物から，昭和初期頃まで機能していたと考えられる。また，７条の溝跡と接続しており，標高の高い第９・10 Ａ・10 Ｂ・11 Ａ・11 Ｂ溝から自然湧水を集め，第 12・13 号溝から低地部の水田域へ配水していたと考えられる。

(5) 溝跡（第 227・228 図）

今回の調査で，時期不明の溝跡 18 条を確認した。以下，断面図と土層解説，一覧表を掲載し，平面図については遺構全体図で掲載する。

第１号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量

第２号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第３号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第５号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第６号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

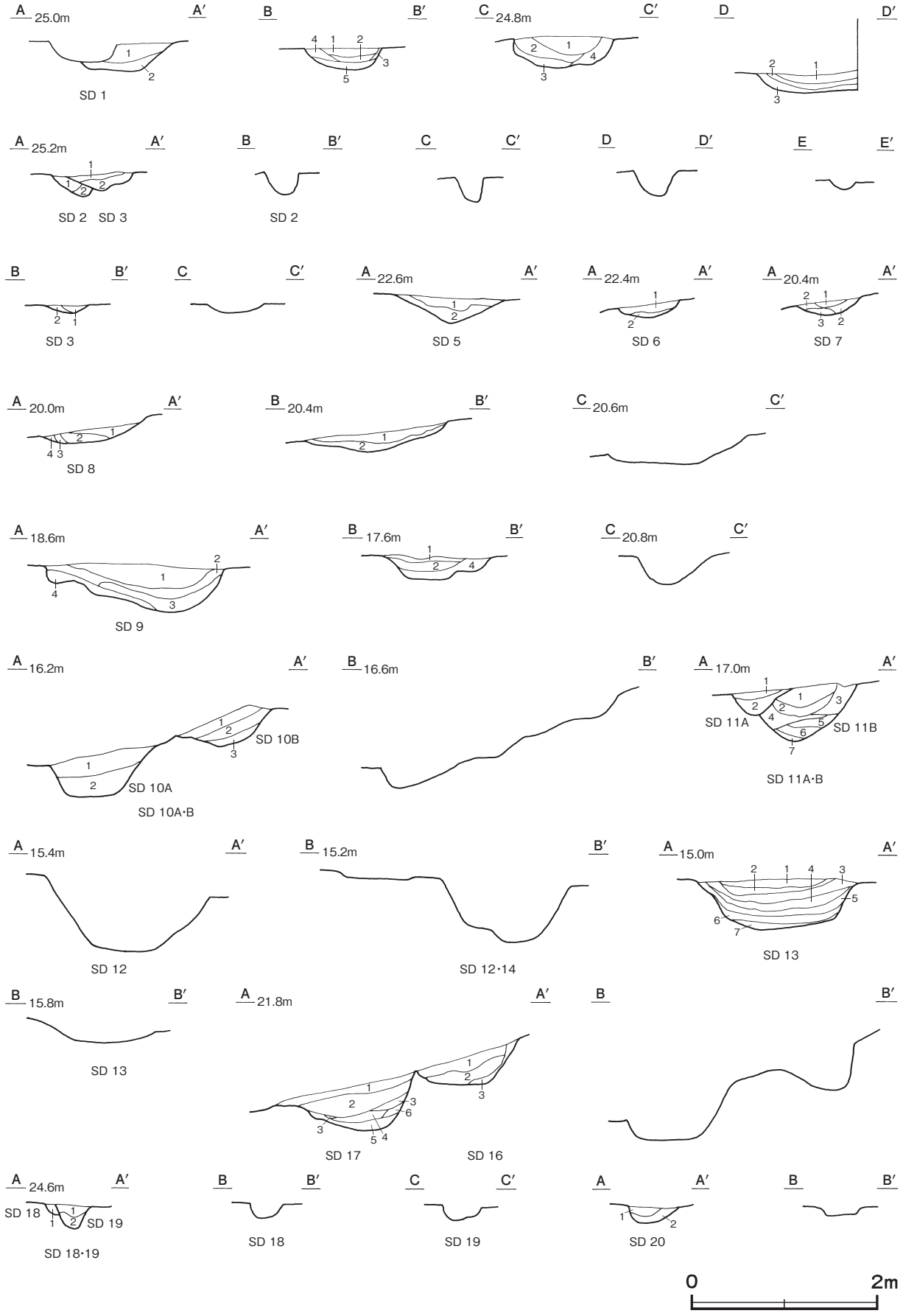
第７号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　砂粒多量，粘土ブロック少量

第８号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・砂粒中量
2　にぶい黄橙色　細粒砂，褐灰色粘土の薄層を挟む
3　灰　褐　色　粘土，細粒砂の薄層を挟む
4　灰　褐　色　粘土ブロック・砂粒多量，ロームブロック微量

第９号溝跡土層解説
1　暗 灰 黄 色　砂粒多量
2　暗オリーブ褐色　砂粒多量
3　暗オリーブ褐色　砂粒中量
4　オリーブ褐色　砂粒多量

第 10 Ａ号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　粘土，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　粘土，砂粒少量

第 10 Ｂ号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　粘土，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　粘土，砂粒少量
3　暗　褐　色　粘土，砂粒中量



第 227 図　その他の溝跡実測図

第 11 A 号溝跡土層解説
1　にぶい黄褐色　砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量

第 11 B 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，砂粒微量
3　黒　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・砂粒微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
5　黒　褐　色　粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
6　黒　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量
7　黄　褐　色　粘土ブロック多量，砂粒中量

第 13 号溝跡土層解説
1　暗オリーブ褐色　細粒砂～粘質土，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　オリーブ褐色　細粒砂，粘土ブロック少量
3　暗 灰 黄 色　粘質土
4　灰　　色　細粒砂
5　暗オリーブ褐色　粘土
6　黒　褐　色　粘土
7　暗 緑 灰 色　粘質土と細粒砂の互層

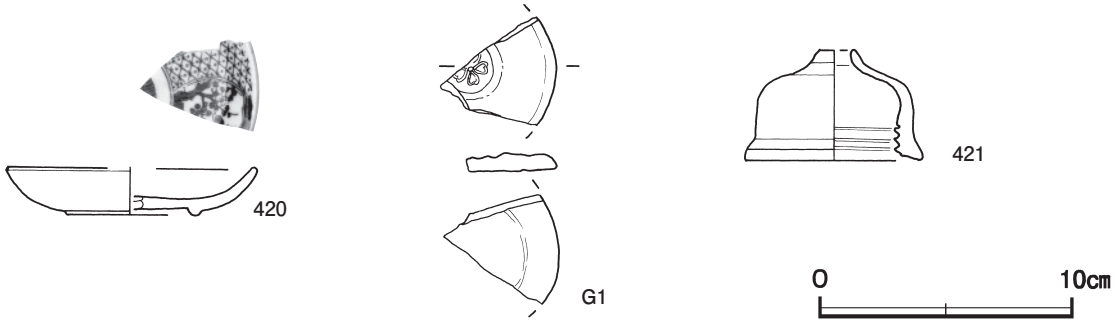
第 16 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　粘土ブロック少量，炭化粒子微量
3　にぶい黄橙色　粘土ブロック多量

第 17 号溝跡土層解説
1　灰 黄 褐 色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　褐　灰　色　粘土ブロック・砂粒中量
3　灰 黄 褐 色　砂粒多量
4　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量
5　にぶい黄色　細粒砂
6　黒　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量

第 18 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 19 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 20 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量



第 228 図　第９号溝跡出土遺物実測図

第９号溝跡出土遺物観察表（第 228 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
420	磁器	小皿	[9.9]	1.9	[5.2]	緻密	灰白	良好	プリント　内面梅花文	覆土中	10%
421	磁器	碍子	1.3	4.4	7.0	緻密	灰白	良好	白色釉	覆土中	95%

番号	器　種	径	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
G 1	おはじき	[6.8]	0.7	(17.0)	ガラス	中央部花文	覆土中	

表 15　その他の溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	形 状	規　　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
				長さ（m）	上幅（m）	下幅（m）	深さ（cm）					
1	A 1j0～C 3c1	S－45°－E	[直線]	(70.72)	0.97～1.28	0.49～0.87	20～32	浅いU字状	緩斜	人為	土師質土器片，有溝土錘	本跡→SF 1,SK 1他
2	B 2i1～C 2b7	N－62°－W	直線	29.26	25～57	9～18	10～27	逆台形	外傾	自然	平瓦片	SI15→本跡→SD 3
3	C 2a4～C 2a6	N－46°－E～S－58°－E	屈曲	8.47	27～68	8～40	8～23	浅いU字状	緩斜	自然	磁器片	SD 2→本跡
5	E 1c8～E 1e7	N－32°－E	[直線]	(8.92)	1.00～1.27	0.29～0.42	32	浅いV字状	緩斜	自然	陶器片，磁器片，平瓦片，鎌，釘	
6	E 1e0～E 2f2	N－71°－W	直線	8.05	0.29～0.73	0.17～0.52	20	浅いU字状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
7	E 1f7～E 1f8	N－89°－E	直線	5.58	0.39～0.63	0.12～0.41	20	逆台形	緩斜	人為	土師器片	

番号	位　置	方　向	形 状	規　　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
				長さ（m）	上幅（m）	下幅（m）	深さ（cm）					
8	E 1h7～E1g0	S－77°－W～ S－50°－W	［直線］	（10.88）	0.72～1.52	0.37～1.30	20～30	浅いU字状	緩斜	自然	土師器片	本跡→ SK807
9	E 2h4～F 2b2	S－25°－W	直線	19.24	0.24～1.62	0.10～0.58	26～50	U字状	外傾	自然	土師質土器片，陶器片， 磁器片，平瓦片，おはじき	本跡＝ SX 1
10 A	F 2d1～F 2e4	N－72°－W	［直線］	（8.32）	1.22～1.82	0.30～0.72	21～39	逆台形 階段状	外傾	自然	陶器片，磁器片，平瓦片，磨製石斧	本跡→ SD10B ＝ SX 1
10 B	F 2d2～F 2e4	N－72°－W	［直線］	（11.63）	0.57～1.32	0.30～0.82	29～52	逆台形	外傾	自然	陶器片，磁器片，平瓦片	SD10A →本跡・ SX 1
11 A	F 1a8～F 1b0	S－65°－E	［直線］	（8.73）	0.30～0.64	0.07～0.18	15～61	浅いU字状	外傾	人為	土師質土器片，陶器片， 磁器片，平瓦片	SI74･75 →本跡 → SD11 B・SX 1
11 B	F 1a8～F 1b0	S－65°－E	［直線］	（10.05）	0.37～0.78	0.12～0.40	8～25	逆台形	外傾	人為	土師質土器片，陶器片， 磁器片，円面硯，土玉	SI74･75･SD11 A →本跡＝ SX 1
12	F 1f9～F 2d1	S－8°－E	直線	7.06	0.68～0.80	0.36～0.54	9	逆台形	外傾	自然	土師質土器片，陶器片， 磁器片	SB10･SD14 →本跡 ＝ SX1 → SK862
13	F 1d0～F 1f9	S－21°－W	［直線］	（7.80）	0.78～1.28	0.52～1.15	23～54	U字状～ 逆台形	外傾	自然	陶器片	SB 8・9,SK861 → 本跡＝ SX 1 → P147
14	F 1e0～F 1g0	S－38°－W	直線	13.07	0.46～1.86	0.25～0.50	18～68	逆台形	外傾	自然	須恵器片	SB10 →本跡 → SD12
16	E 1f0～E 2g1	S－79°－E～ S－46°－E	［直線］	（8.10）	0.61～0.98	0.29～0.36	50	U字状	外傾 緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
17	E 1g9～E 2g1	S－28°－E～ S－87°－E	弧状	6.78	0.64～1.62	0.21～1.26	64	逆台形	外傾	人為	土師器片	本跡→ SK805･806
18	D 2c2	S－51°－E	［直線］	（2.15）	0.38	0.25	13～17	U字状	外傾	人為		本跡→ SD19
19	D 2c2～D 2d3	S－10°－W～ S－35°－E	屈曲	5.29	0.14～0.54	0.12～0.26	19	U字状	外傾	人為		SD18 →本跡
20	D 2b2	N－18°－E	蛇行	2.65	0.31～0.52	0.10～0.33	6～20	浅い逆台形	外傾	人為		

（6）土坑

今回の調査で確認できた時期不明の土坑 160 基のうち，馬歯が出土した第 537 号土坑については文章で解説し，火を用いた痕跡がある土坑８基とその他の土坑 151 基については，それぞれ実測図と土層解説，一覧表で掲載する。

ア　土坑

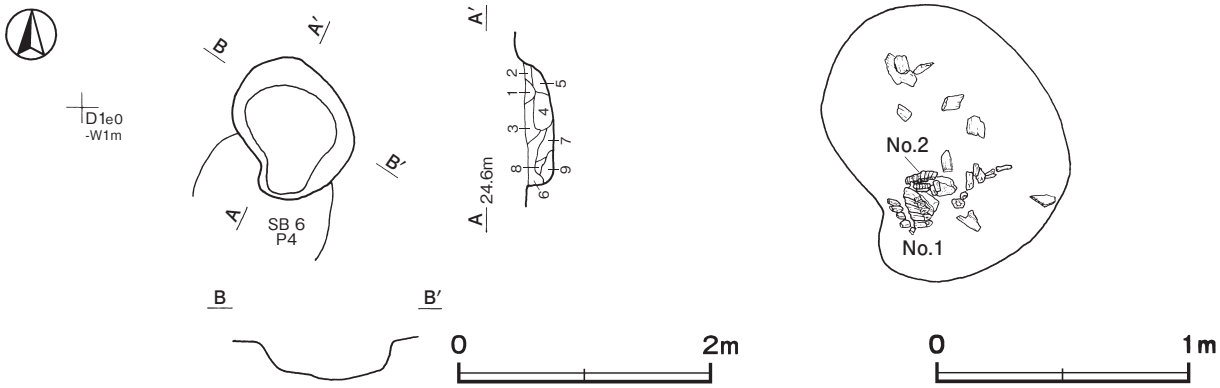
第 537 号土坑（第 229 図）

位置　調査区中央部のＤ１e0 区，標高 24.4 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第６号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.12 m，短径 0.92 mの不整楕円形である。深さは 32cmで，底面は皿状であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　９層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。



第 229 図　第 537 号土坑実測図

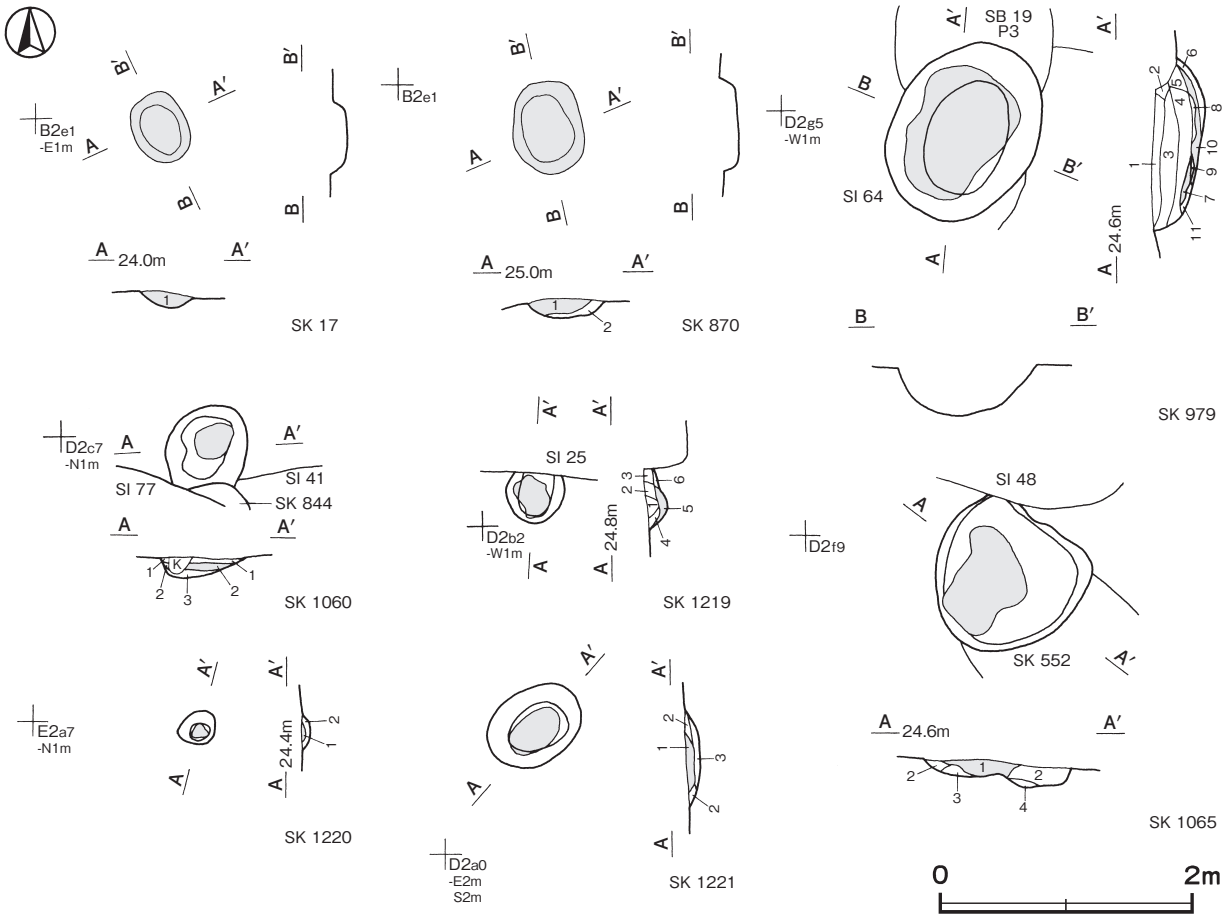
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　灰 黄 褐 色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　黒　　色　ローム粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片６点（坏２，甕４），須恵器片３点（甕），馬歯（２体分）が出土している。土器片はいずれも細片のため図示できないが，土師器坏は内面に黒色処理が施されている。馬歯は，南部の覆土上層からまとまった状態で出土しており，成獣と幼獣の２体分があるとの鑑定結果が得られた（付章参照）。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀後半以降と考えられるが，時期決定の根拠となる土器が出土していないため不明である。

イ　火を用いた痕跡がある土坑



第 230 図　火を用いた痕跡がある土坑実測図

第 17 号土坑土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック・炭化物中量

第 870 号土坑土層解説

1　赤　　色　焼土ブロック多量，炭化物少量
2　赤　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量

第 1060 号土坑土層解説

1　褐　　色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
3　褐　　色　ローム粒子多量

第 979 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
5　暗 赤 褐 色　炭化粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量
7　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量
8　暗 赤 褐 色　炭化粒子多量
9　暗 赤 褐 色　炭化物多量
10　赤　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子多量，炭化物中量
11　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第 1065 号土坑土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量
2　黒　褐　色　焼土ブロック微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量
4　極 暗 褐 色　焼土ブロック中量

第 1219 号土坑土層解説
1　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子中量，ロームブロック微量
2　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量
3　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子中量，ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子少量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック微量

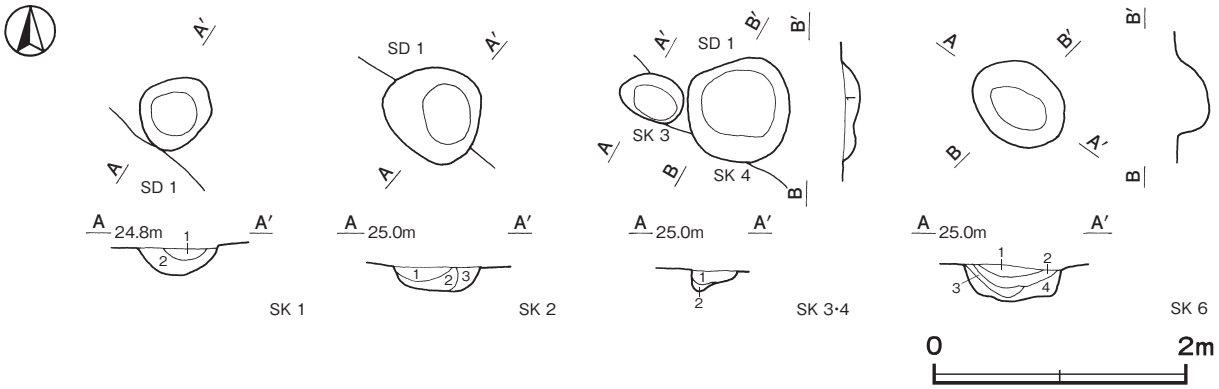
第 1220 号土坑土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 1221 号土坑土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量

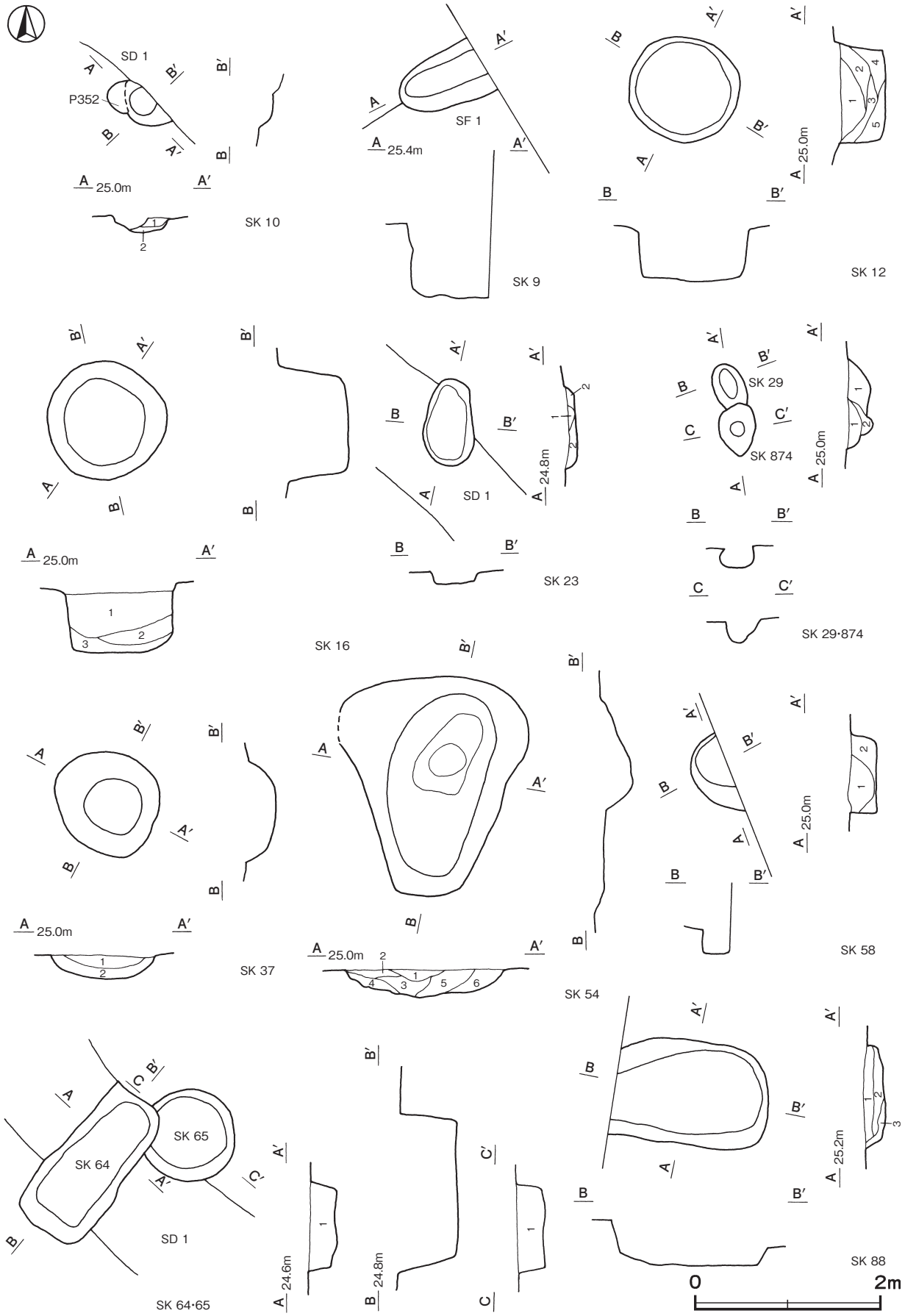
表 16　火を用いた痕跡がある土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平面形	規　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
17	B 2 e1	N － 30° － W	楕円形	0.56 × 0.44	10	平坦	緩斜	人為	土師器片	
870	B 2 e1	N － 12° － W	楕円形	0.74 × 0.58	16	平坦	緩斜	人為		
979	D 2 g5	N － 27° － E	楕円形	0.94 × 0.62	40	皿状	緩斜	人為		SI64,SB19 →本跡
1060	D 2 b7	N － 6 ° － E	［楕円形］	（0.64） × 0.58	16	皿状	外傾・緩斜	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SI41･77, SK844
1065	D 2 f9	N － 90°	［不整楕円形］	1.24 ×（0.64）	20	凹凸	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SK552 →本跡→ SI48
1219	D 2 a1	N － 11° － W	［楕円形］	0.45 ×（0.40）	17	皿状	緩斜	人為		本跡→ SI25
1220	D 2 j7	－	円形	0.28 × 0.28	6	皿状	緩斜	人為		
1221	D 2 a0	N － 55° － E	楕円形	0.78 × 0.57	13	皿状	緩斜	人為		

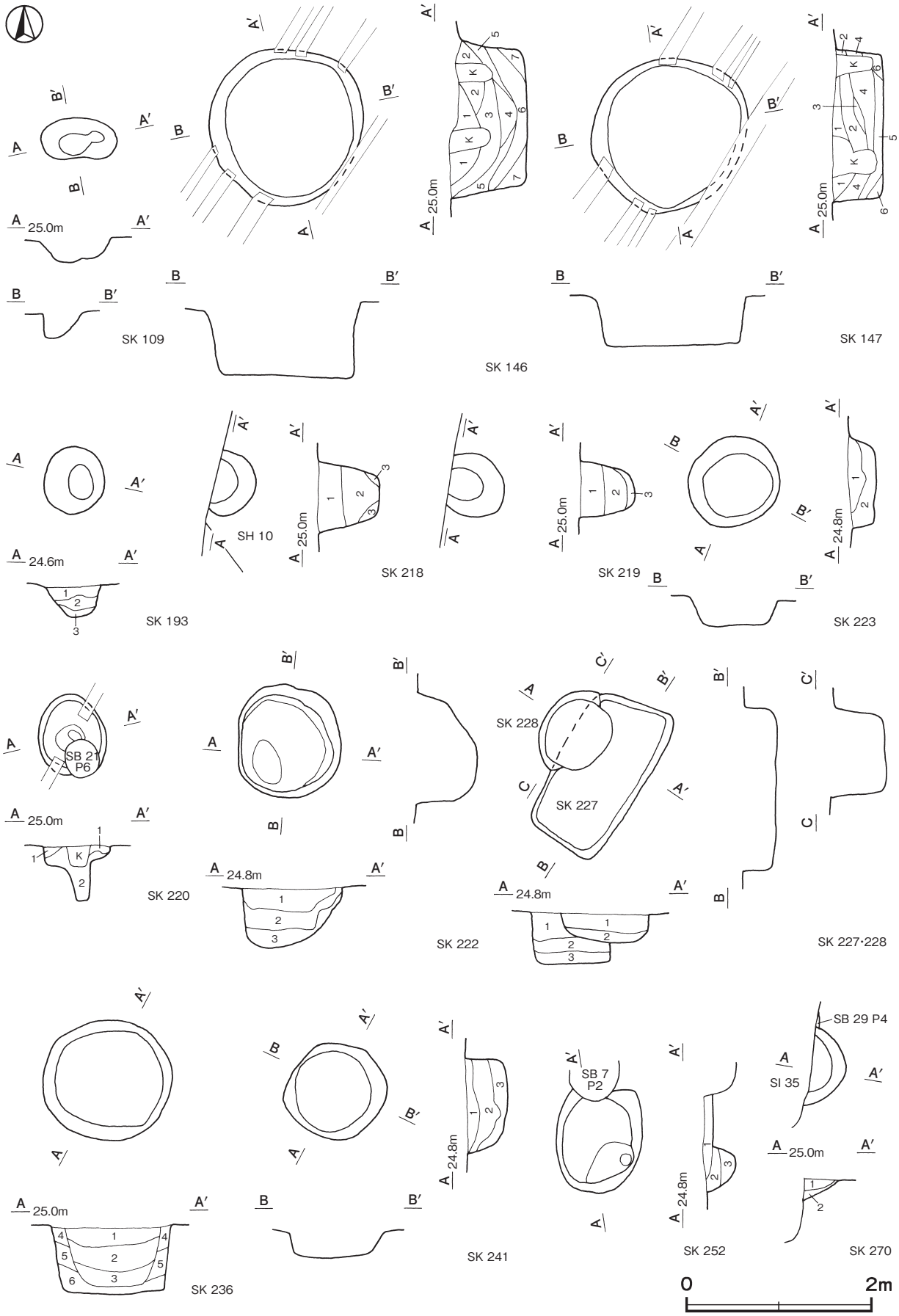
ウ　その他の土坑



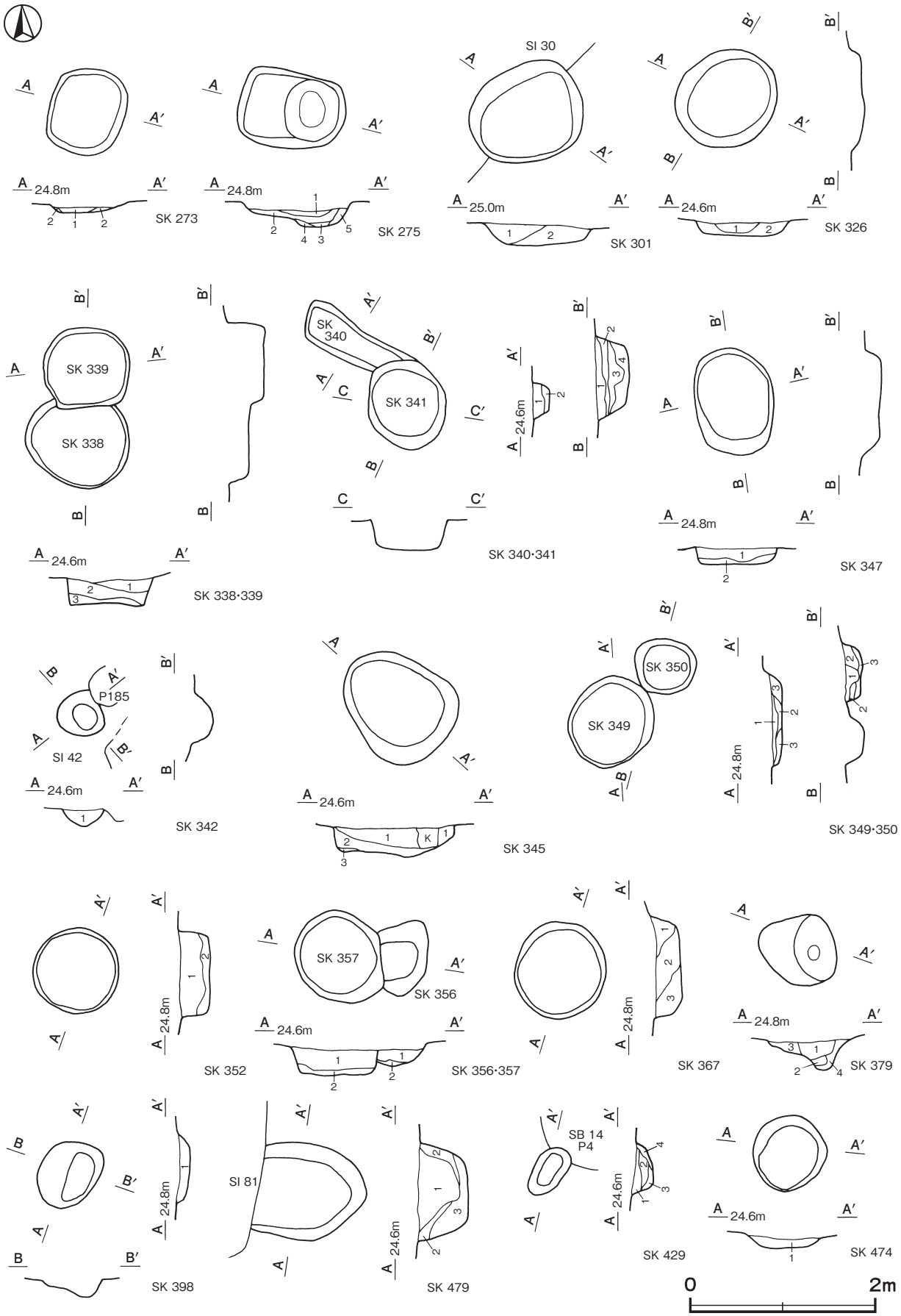
第 231 図　その他の土坑実測図（1）



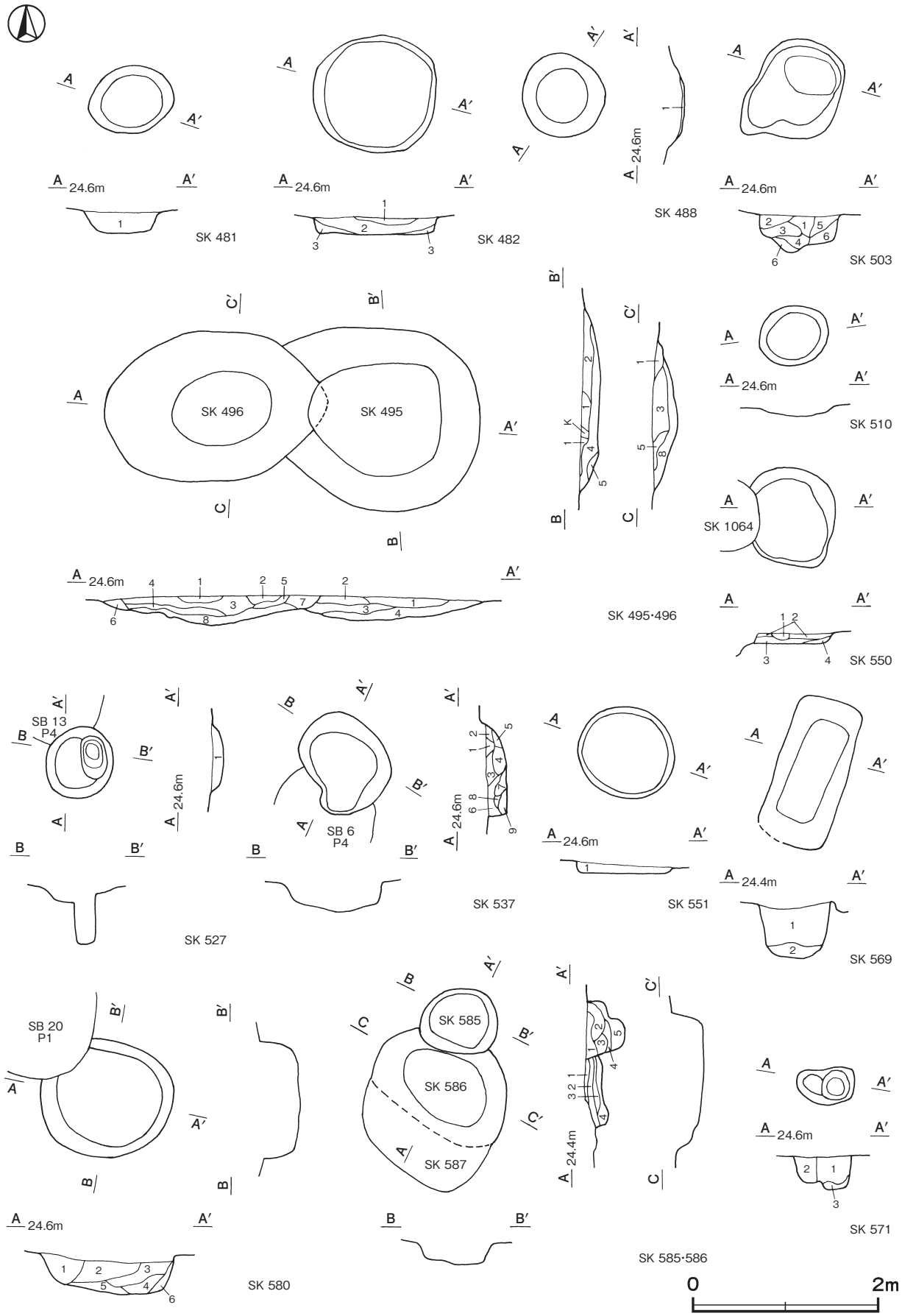
第 232 図　その他の土坑実測図（2）



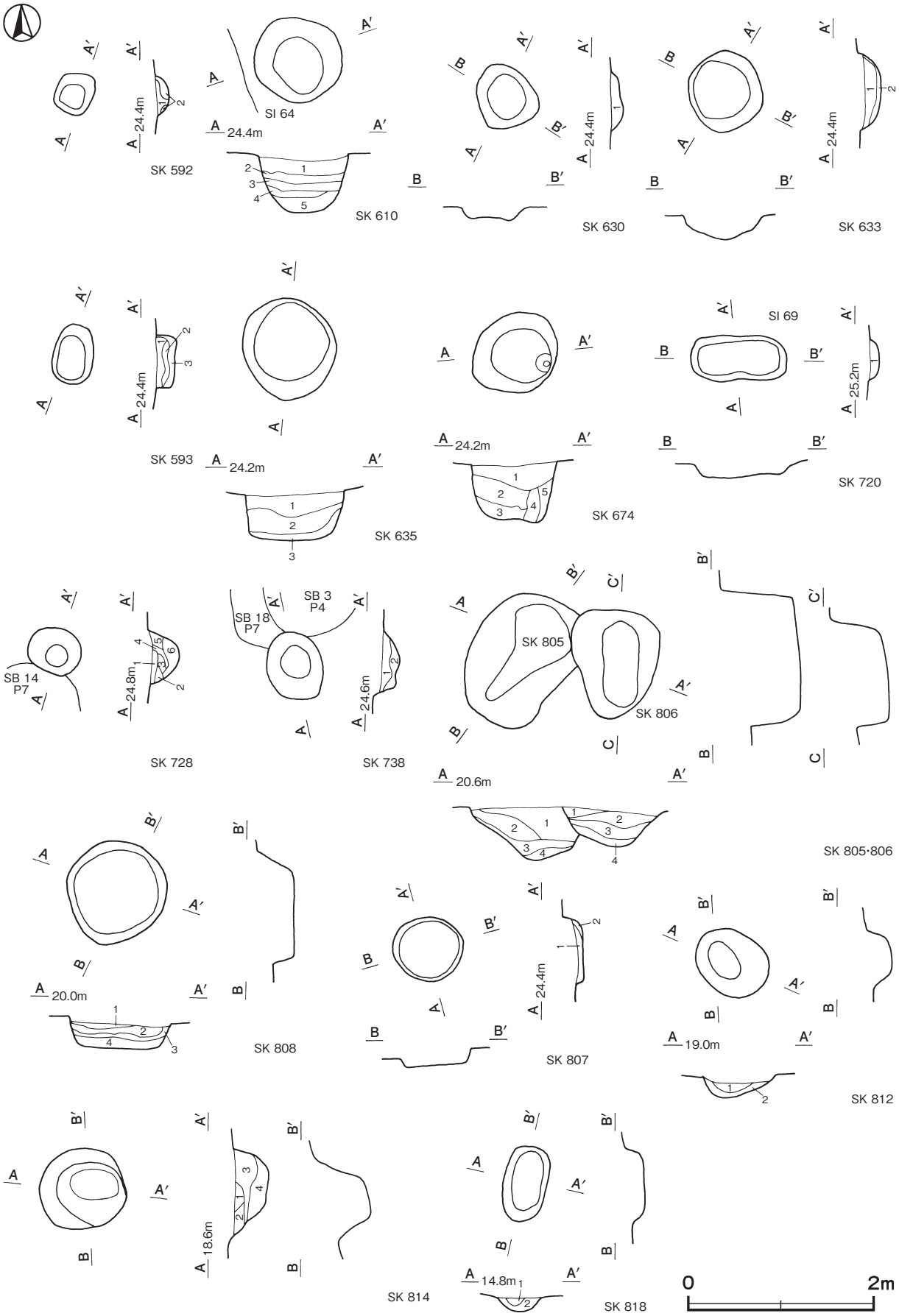
第 233 図　その他の土坑実測図（3）



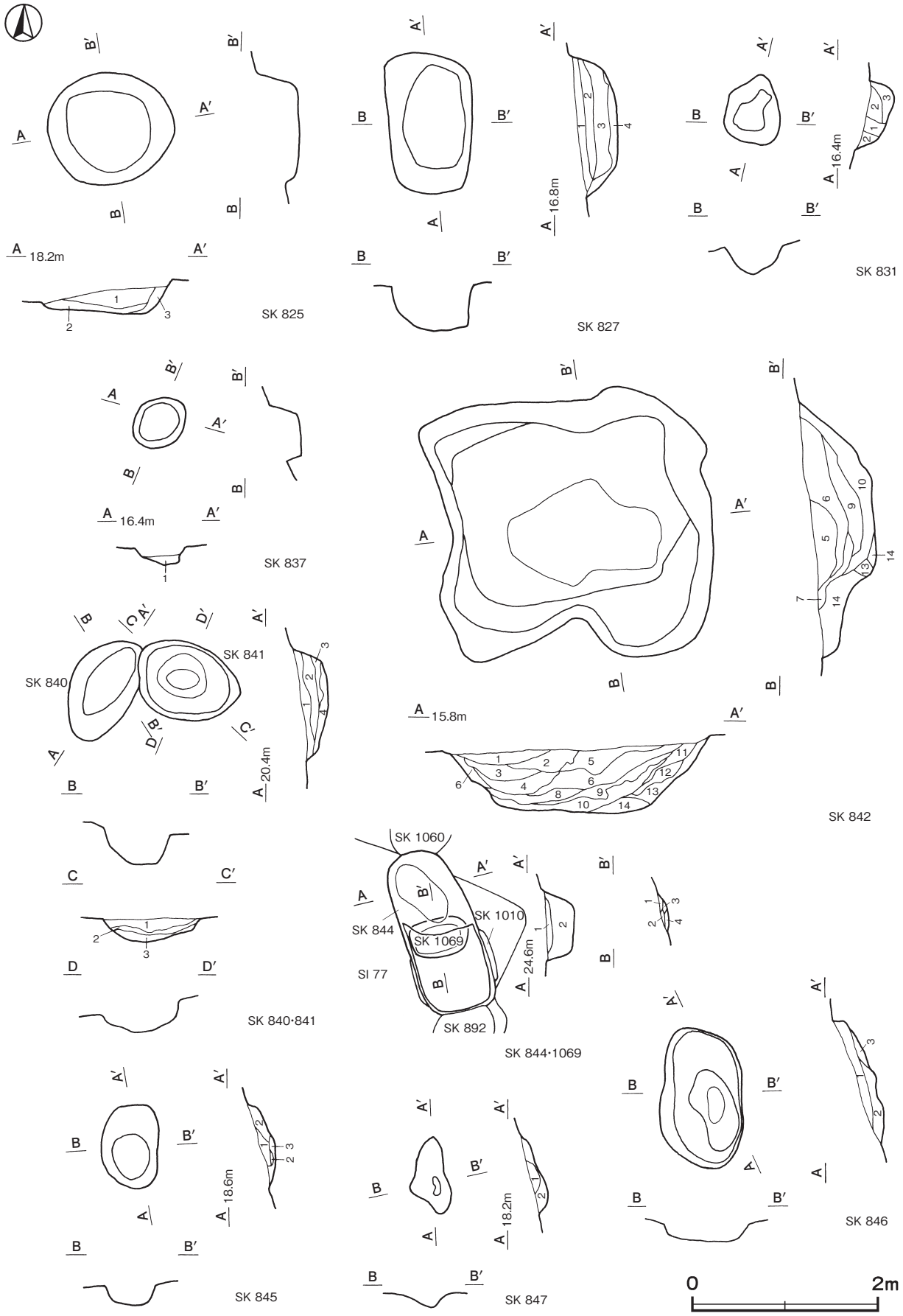
第 234 図　その他の土坑実測図（4）



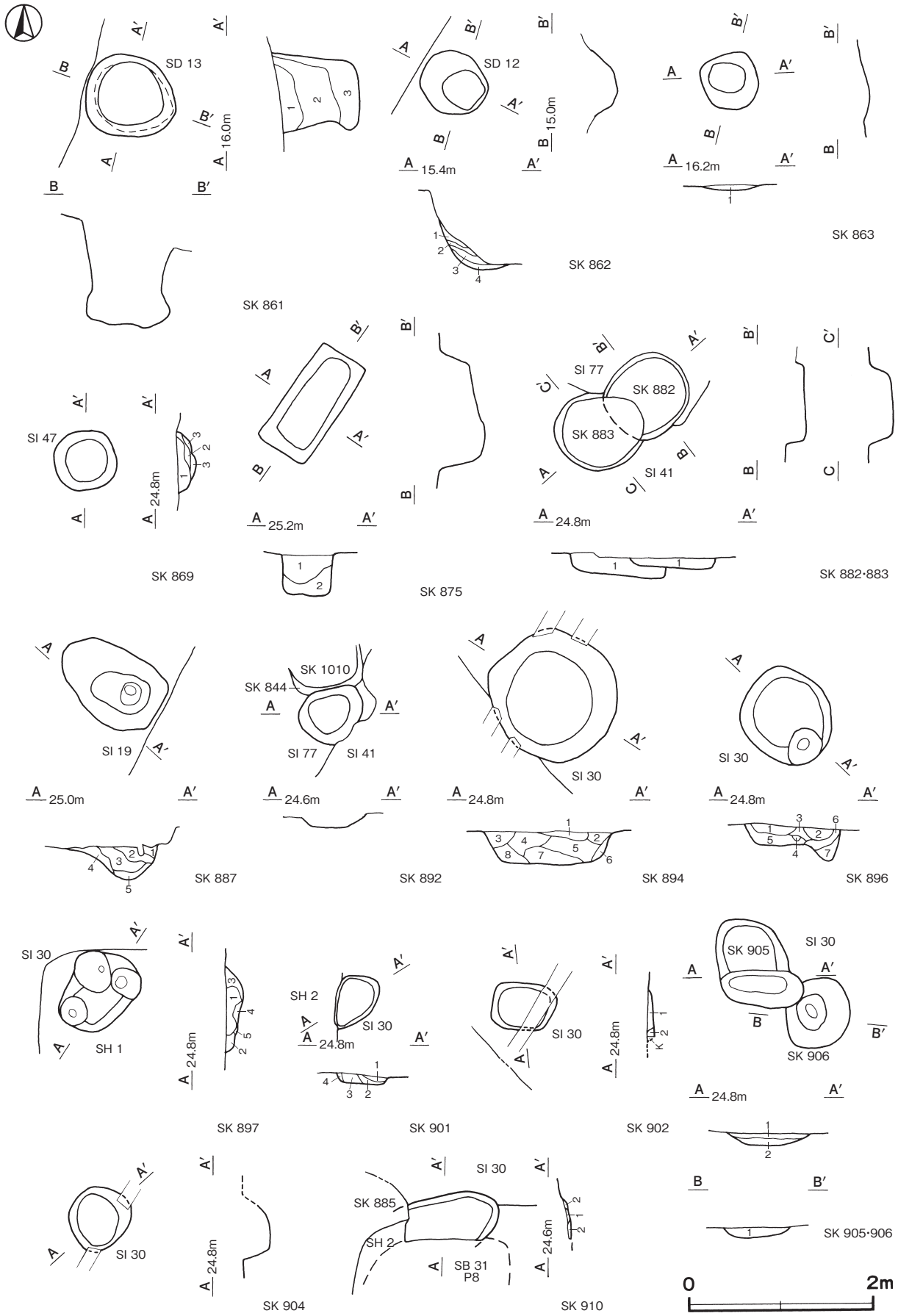
第 235 図　その他の土坑実測図（5）



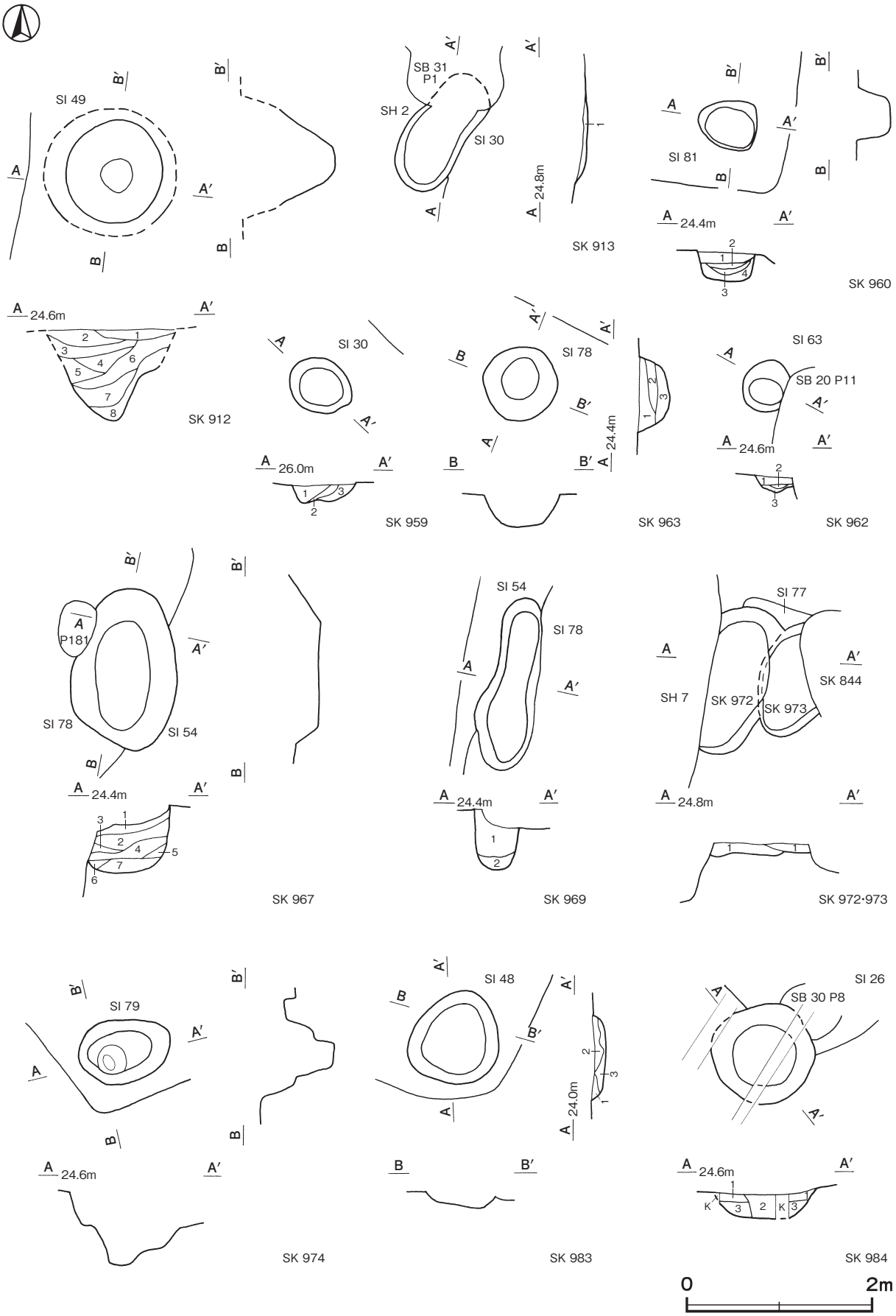
第 236 図　その他の土坑実測図（6）



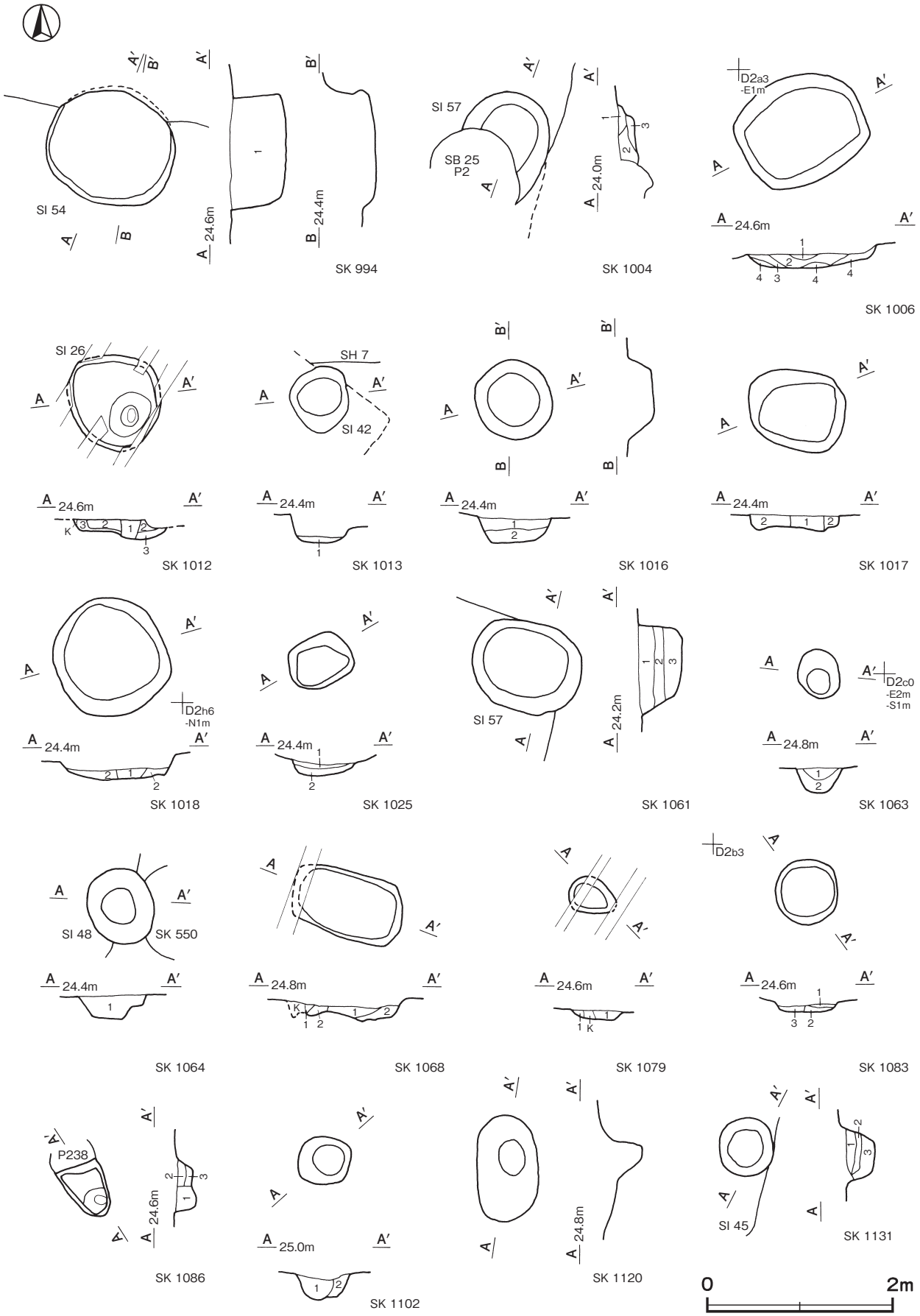
第 237 図　その他の土坑実測図（7）



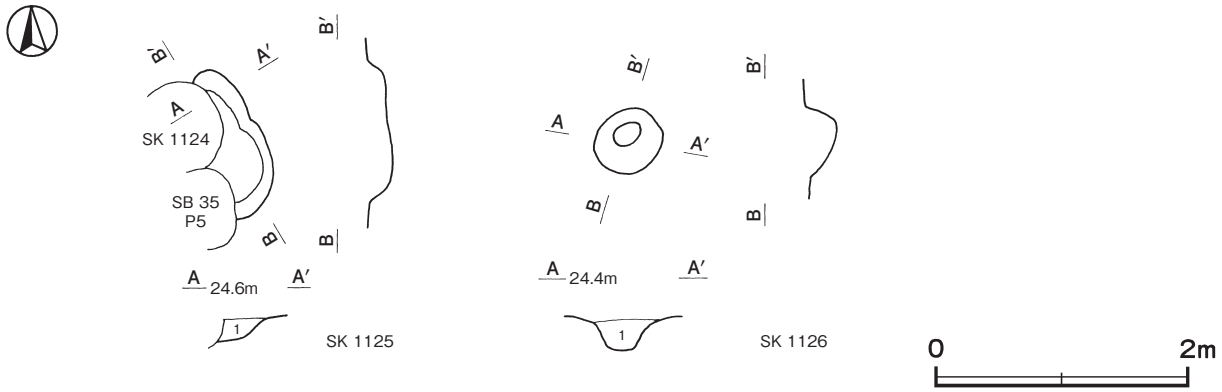
第 238 図　その他の土坑実測図（8）



第 239 図　その他の土坑実測図（9）



第 240 図　その他の土坑実測図（10）



第 241 図　その他の土坑実測図（11）

第 1 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第 2 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 3 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量

第 4 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第 6 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック多量

第 10 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 12 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック多量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　にぶい褐色　ロームブロック多量
4　明　褐　色　ロームブロック多量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック多量

第 16 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 23 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量

第 29 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量

第 37 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量

第 54 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 58 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第 64 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第 65 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 88 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量

第 146 号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 147 号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　黒　褐　色　ローム粒子多量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 193 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 218 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 219 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 220 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子多量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 222 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 223 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　黒　　色　ロームブロック少量

第 227 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 228 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 236 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　極 暗 褐 色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 241 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　灰　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 252 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 270 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 273 号土坑土層解説
1　褐　　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第 275 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　褐　　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子中量
5　褐　　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量

第 301 号土坑土層解説
1　極 暗 褐 色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 326 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 339 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　極 暗 褐 色　ロームブロック微量

第 340 号土坑土層解説
1　極 暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

第 341 号土坑土層解説
1　灰　褐　色　ロームブロック中量
2　灰　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量

第 342 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第 345 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量

第 347 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 349 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 350 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 352 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 356 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量

第 357 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 367 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 379 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子多量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　褐　　色　ローム粒子多量

第 398 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 429 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 474 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量

第 479 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ローム粒子多量
2　黄　褐　色　ローム粒子多量
3　褐　　色　ローム粒子多量

第 481 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 482 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第 488 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量

第 495 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック少量
3　黒　　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 496 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒　　色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量
7　黒　　色　炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 503 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック多量

第 527 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 537 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　灰 黄 褐 色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　黒　　色　ローム粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 550 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量

第 551 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量

第 569 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量

第 571 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量

第 580 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　極 暗 褐 色　ローム粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック多量

第 585 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 586 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　　色　ロームブロック中量
3　黒　　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 592 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 593 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第 610 号土坑土層解説
1　灰 黄 褐 色　粘土ブロック多量，ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
3　灰 黄 褐 色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量
4　黒　　色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 630 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 633 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 635 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 674 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 720 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 728 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 738 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 805 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック多量
2　褐　　色　粘土ブロック多量
3　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量
4　黒　褐　色　粘土ブロック中量

第 806 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　粘土ブロック中量
2　にぶい黄褐色　粘土ブロック・砂粒多量
3　灰 黄 褐 色　粘土ブロック多量
4　黒　褐　色　粘土ブロック中量

第 807 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　砂粒中量
2　暗　褐　色　砂粒中量

第 808 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック・砂粒多量
2　暗　褐　色　粘土ブロック多量
3　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量
4　灰 黄 褐 色　砂粒多量

第 812 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　砂粒少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　砂粒中量

第 814 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　粘質土ブロック中量，炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量
3　黒　褐　色　粘土ブロック多量，炭化粒子中量
4　褐　　色　砂粒少量

第 818 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック多量

第 825 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第 827 号土坑土層解説
1　暗 灰 黄 色　砂粒中量
2　褐　灰　色　粘土ブロック中量
3　オリーブ黒色　粘土ブロック多量
4　灰オリーブ色　粘土ブロック中量

第 831 号土坑土層解説
1　にぶい黄橙色　砂粒中量，炭化粒子少量
2　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量，炭化粒子少量
3　褐　灰　色　粘土ブロック・砂粒多量

第 837 号土坑土層解説
1　灰 黄 褐 色　焼土粒子微量

第 840 号土坑土層解説
1　灰　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量
2　暗 灰 黄 色　粘土ブロック・砂粒少量
3　灰 黄 褐 色　粘土ブロック少量
4　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒多量

第 841 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量
2　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒多量
3　灰 黄 褐 色　粘土ブロック・砂粒少量

第 842 号土坑土層解説
1　オリーブ黒色　砂粒少量
2　褐　灰　色　砂粒微量　鉄分沈着
3　オリーブ黒色　砂粒微量
4　暗　灰　色　砂粒少量
5　にぶい黄褐色　暗褐色土ブロック微量
6　にぶい黄色　暗褐色土ブロック少量
7　灰 黄 褐 色　砂粒中量
8　暗　灰　色　砂粒微量
9　にぶい黄橙色　粘質土ブロック多量
10　暗　灰　色　砂粒中量
11　褐　灰　色　砂粒少量
12　灰 黄 褐 色　暗褐色土ブロック微量
13　にぶい黄褐色　粘質土ブロック多量
14　灰　黄　色　暗褐色土ブロック微量

第 844 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　炭化物・焼土粒子少量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量

第 845 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒少量
2　にぶい黄褐色　粘土ブロック・砂粒微量
3　灰 黄 褐 色　粘土ブロック・砂粒多量

第 846 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　にぶい褐色　砂粒多量

第 847 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　炭化物・焼土粒子・砂粒少量
2　にぶい黄褐色　砂粒多量，炭化粒子少量

第 861 号土坑土層解説
1　にぶい黄色　粘土ブロック・砂粒多量
2　オリーブ黒色　粘土ブロック・砂粒中量
3　にぶい黄褐色　粘土ブロック・砂粒中量

第 862 号土坑土層解説
1　暗　灰　色　粘土ブロック中量
2　緑　灰　色　粘質土ブロック多量
3　暗オリーブ灰色　粘土ブロック少量
4　黒　　色　粘土ブロック中量

第 863 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

第 869 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 874 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 875 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 882 号土坑土層解説
1　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量

第 883 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量

第 887 号土坑土層解説
1　灰 黄 褐 色　ロームブロック多量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック中量

第 894 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量

第 896 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　黄　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量
7　褐　　色　ローム粒子多量

第 897 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 901 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子中量

第 902 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 905 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

第 906 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

第 910 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黄　褐　色　ローム粒子多量

第 912 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　灰 黄 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック中量

第 913 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 959 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子多量

第 960 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 962 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第 963 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 967 号土坑土層解説
1　にぶい赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
6　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 969 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 972 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 973 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 983 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 984 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

第 994 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量

第 1004 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 1006 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 1012 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黄　褐　色　ローム粒子多量

第 1013 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量

第 1016 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 1017 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 1018 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 1025 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 1061 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 1063 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第 1064 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

第 1068 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

第 1069 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ローム粒子多量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　灰 横 褐 色　ロームブロック多量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 1079 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 1083 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

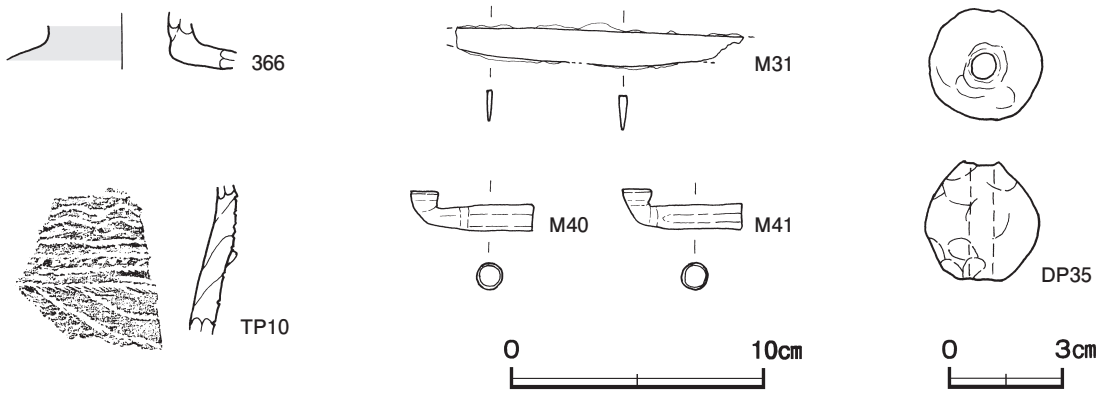
第 1086 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 1102 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第 1125 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 1126 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第 1131 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量



第 242 図　その他の土坑出土遺物実測図

第 222 号土坑出土遺物観察表（第 242 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 31	刀子	(11.6)	1.8	0.3	(14.3)	鉄	U字状　一部彎曲　断面方形	覆土中	PL55

第 228 号土坑出土遺物観察表（第 242 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 40	煙管	4.9	1.4	1.0	9.3	銅	火皿・雁首部	覆土中	PL56

第 357 号土坑出土遺物観察表（第 242 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 41	煙管	4.8	1.8	1.1	9.9	銅	火皿・雁首部	覆土中	PL56

第 496 号土坑出土遺物観察表（第 242 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
366	灰釉陶器	瓶	－	(2.2)	－	黒色粒子	灰オリーブ・灰黄	良好	体部外面施釉	覆土中	5％

第 897 号土坑出土遺物観察表（第 242 図）

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP35	土玉	3.2	3.0	0.6	23.5	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部ナデ	覆土中	PL52

第 1063 号土坑出土遺物観察表（第 242 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	半裁竹管による斜行・波状の平行沈線文　刻みをもつ隆帯貼付	覆土中	

表 17　その他の土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	B 2 a1	N － 58° － E	楕円形	0.68 × 0.48	20	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	SD 1 →本跡
2	B 2 a1	－	不整円形	0.78 × 0.78	18	平坦	緩斜	人為		SD 1 →本跡
3	B 2 a1	N － 90°	楕円形	0.50 × 0.38	18	平坦	緩斜	人為		SD 1 →本跡
4	B 2 a1	－	円形	0.82 × 0.76	14	皿状	緩斜			SD 1 →本跡
6	B 2 b3	N － 56° － W	楕円形	0.82 × 0.62	24	皿状	外傾・緩斜	人為		
9	B 2 b4	N － 67° － E	［楕円形］	(0.94) × 0.70	78	平坦	直立	－		SF 1 →本跡
10	B 2 b2	N － 44° － W	［楕円形］	0.56 × (0.30)	16	平坦	緩斜	人為		本跡→ SD 1 ,P352

番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
12	B 2 d1	－	円形	1.20 × 1.14	58	平坦	直立	人為	土師器片	
16	B 2 d1	－	円形	1.30 × 1.30	72	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
23	B 2 d4	N － 0°	不整楕円形	0.92 × 0.56	14	平坦	外傾	人為		SD 1 →本跡
29	B 2 f3	N － 18° － W	［楕円形］	（0.44） × 0.32	20	皿状	直立	人為		本跡→ SK874
37	B 2 g4	－	円形	1.12 × 1.12	32	皿状	緩斜	人為		
54	B 2 h2	N － 11° － E	不定形	2.46 × 2.10	34	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片， 雲母片岩	
58	B 2 g7	N － 21° － W	［不整楕円形］	0.86 × （0.40）	26	平坦	直立	人為		
64	B 2 g6	N － 40° － E	隅丸長方形	1.78 × 0.88	64	平坦	外傾	人為	土師質土器片	SD 1 ,SK65 →本跡
65	B 2 g7	－	［円形］	0.98 × （0.84）	28	平坦	外傾	人為	土師質土器片	SD 1 →本跡→ SK64
88	C 1 b0	N － 83° － W	［隅丸長方形］	（1.68） × 1.14	42	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
109	C 2 c3	N － 88° － E	楕円形	0.80 × 0.44	22	皿状	緩斜	－		
146	C 2 e5	－	円形	1.68 × 1.68	80	平坦	外傾	人為	土師器片	
147	C 2 e6	－	［円形］	1.68 × ［1.60］	53	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
193	D 2 d3	－	円形	0.69 × 0.63	32	皿状	緩斜・外傾	人為	土師器片，須恵器片	
218	C 1 g9	－	［円形］	0.60 × （0.43）	66	平坦	外傾	人為		SH10 →本跡
219	C 1 g9	N － 55° － W	［楕円形］	（0.65） × 0.63	60	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SH10 →本跡
220	C 2 f2	N － 28° － W	楕円形	0.90 × 0.74	59	凹凸	外傾	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SB21
222	C 2 h1	N － 0°	楕円形	1.23 × 1.10	66	皿状	外傾	人為	土師器片，刀子	本跡→ SB16
223	C 2 h1	－	円形	0.98 × 0.98	31	平坦	緩斜	人為	土師器片	
227	C 1 i0	N － 28° － E	隅丸長方形	1.80 × 0.92	39	平坦	直立	人為		SK228 →本跡
228	C 1 i0	－	［円形］	0.94 × （0.32）	60	平坦	直立	人為	陶器片，平瓦，煙管	本跡→ SK227
236	C 3 g2	－	円形	1.38 × 1.32	71	平坦	直立	人為	陶器片	
241	D 3 b2	－	円形	1.05 × 1.01	30	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI46, SB22 →本跡
252	D 3 c1	N － 0°	［楕円形］	（1.00） × 0.88	34	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SB 7
270	C 2 j9	－	［円形］	0.84 × （0.35）	22	［皿状］	緩斜	人為		SB23･29 →本跡 → SI35
273	C 2 j0	N － 19° － E	楕円形	0.94 × 0.81	6	平坦	緩斜	人為	土師器片	
275	C 2 j0	N － 81° － W	楕円形	1.14 × 0.84	18	凹凸	緩斜	人為		
301	C 2 i8	N － 69° － E	楕円形	1.35 × 1.05	23	平坦	緩斜・外傾	自然	土師器片	SI30 →本跡
326	D 2 c9	N － 62° － E	楕円形	1.16 × 1.00	16	平坦	緩斜	自然	土師器片，須恵器片	
338	D 2 d6	N － 78° － W	［楕円形］	1.12 × （0.90）	24	平坦	外傾	－	陶器片	SI41 →本跡→ SK339
339	D 2 d6	N － 84° － W	楕円形	0.95 × 0.85	43	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI41,SK338 →本跡
340	D 2 c6	N － 61° － W	［不整長方形］	（0.98） × 0.46	28	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI41 →本跡→ SK341
341	D 2 c6	N － 0°	楕円形	0.94 × 0.82	34	平坦	外傾	人為	弥生土器片，土師器片	SI41,SK340 →本跡
342	D 2 c6	－	不整円形	0.48 × 0.46	22	皿状	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SI42,P185
345	D 2 d6	N － 49° － W	不整楕円形	1.30 × 1.08	30	平坦	外傾・緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
347	D 2 b7	N － 0°	楕円形	1.14 × 0.84	18	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI41,SB34,P272 →本跡
349	D 2 b7	－	円形	0.96 × 0.92	20	皿状	直立・緩斜	人為	土師器片	SB34 →本跡
350	D 2 b8	N － 0°	楕円形	0.64 × 0.58	18	凹凸	直立	人為	土師器片	
352	D 2 a8	－	円形	0.90 × 0.90	32	平坦	直立	人為	陶器片	
356	D 2 a7	N － 20° － E	［不整楕円形］	0.82 × （0.58）	24	皿状	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SK357

番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
357	D 2 a7	－	円形	0.96 × 0.90	34	平坦	直立	人為	土師質土器片，煙管	SK356 →本跡
367	D 2 a7	－	円形	1.06 × 0.98	26	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片	
379	D 2 a6	N － 56° － W	不定形	0.94 × 0.72	30	皿状	緩斜・外傾	人為	土師器片，須恵器片	
398	C 1 i0	N － 25° － E	楕円形	0.76 × 0.60	20	皿状	緩斜・外傾	人為	土師器片，須恵器片	
429	D 2 b1	N － 31° － E	楕円形	0.60 × 0.33	10	皿状	外傾	人為		SB14 →本跡
474	D 2 c5	－	円形	0.80 × 0.78	14	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
479	D 2 c4	N － 85° － W	［楕円形］	（1.15） × 1.04	53	皿状	外傾	人為		本跡→ SI81
481	D 2 d5	N － 64° － E	楕円形	0.92 × 0.73	20	平坦	外傾	人為	土師器片	
482	D 2 c5	－	円形	1.35 × 1.30	20	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	
488	D 2 e5	－	円形	0.91 × 0.88	18	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI62 →本跡
495	D 2 d3	－	［楕円形］	1.95 ×（1.95）	26	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SK496
496	D 2 d3	N － 84° － E	［楕円形］	［2.40］ × 1.62	32	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片	SK495 →本跡
503	D 2 e2	N － 50° － E	不整楕円形	1.30 × 1.00	40	傾斜	緩斜・直立	人為	土師器片	
510	D 2 e2	N － 61° － E	楕円形	0.78 × 0.63	10	平坦	緩斜	－	土師器片	
527	D 1 d9	－	円形	0.74 × 0.72	62	皿状	直立	人為		SB13 →本跡
537	D 1 e0	N － 0°	不整楕円形	1.12 × 0.92	32	平坦	緩斜・直立	人為	土師器片，須恵器片，馬歯	SB 6 →本跡
550	D 2 e9	－	円形	1.04 × 1.04	12	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SK1064
551	D 2 e9	－	円形	1.06 × 1.00	9	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	
569	D 2 h7	N － 14° － E	隅丸長方形	1.64 × 0.76	60	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	SB26 →本跡
571	D 2 h7	N － 80° － E	楕円形	0.62 × 0.42	37	凹凸	外傾	人為	土師器片	
580	D 2 f7	N － 72° － W	楕円形	1.42 × 1.26	40	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SB20
585	D 2 f6	N － 68° － W	楕円形	0.82 × 0.72	26	凹凸	直立・外傾	人為		SK586 →本跡
586	D 2 f6	N － 56° － W	［楕円形］	1.54 ×［1.04］	26	平坦	緩斜・外傾	人為	土師器片	SK587 →本跡→ SK585
592	D 2 g6	－	円形	0.45 × 0.42	10	皿状	緩斜	人為		
593	D 2 g6	N － 5° － E	楕円形	0.64 × 0.44	20	平坦	直立	人為		
610	D 2 g4	－	円形	0.92 × 0.92	64	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI64 →本跡
630	D 2 h2	N － 22° － W	不整楕円形	0.70 × 0.62	14	凹凸	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
633	D 2 h3	N － 0°	楕円形	0.88 × 0.78	26	皿状	緩斜	人為		
635	D 2 i2	N － 0°	楕円形	1.70 × 1.00	50	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	
674	D 2 i6	－	円形	0.88 × 0.86	62	凹凸	外傾	人為	土師器片	
720	D 1 g8	N － 90°	隅丸長方形	1.02 × 0.48	16	平坦	緩斜	人為	土師器片	SI69 →本跡
728	D 1 b0	N － 69° － W	楕円形	0.58 × 0.50	36	皿状	緩斜	人為		SB14 →本跡
738	D 2 c1	N － 28° － W	楕円形	0.78 × 0.62	18	凹凸	緩斜	人為	土師器片	SB 3・18 →本跡
805	E 1 g9	N － 30° － E	不整長方形	1.48 × 1.08	76	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	SD17 →本跡→ SK806
806	E 1 g0	－	不定形	1.16 × 0.90	52	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SD17,SK805 →本跡
807	E 1 g9	－	円形	0.74 × 0.70	16	平坦	外傾	人為		SD 8 →本跡
808	E 1 h9	－	円形	1.10 × 1.06	30	平坦	外傾	人為		
812	E 1 j0	N － 51° － W	楕円形	0.84 × 0.66	22	皿状	緩斜	人為		
814	E 1 j0	－	円形	0.92 × 0.88	44	傾斜	外傾	人為		
818	F 2 g3	N － 12° － E	楕円形	0.82 × 0.48	20	平坦	緩斜	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
825	E 1 j7	N－81°－E	楕円形	1.36 × 1.20	38	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
827	F 1 c8	N－0°	隅丸長方形	1.50 × 0.94	50	皿状	外傾	人為		
831	F 1 c8	N－16°－E	不定形	0.76 × 0.60	34	皿状	緩斜	人為	須恵器片	
837	F 1 c7	N－59°－E	楕円形	0.64 × 0.52	26	平坦	外傾	人為		
840	E 2 h1	N－30°－E	［楕円形］	1.20 × 0.70	34	皿状	緩斜	人為		本跡→ SK841
841	E 2 h1	N－70°－W	楕円形	1.16 × 0.82	30	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SK840 →本跡
842	F 1 d7	N－51°－W	不定形	3.72 × 3.48	70	皿状	緩斜	人為 自然		
844	D 2 c7	N－19°－W	隅丸長方形	1.80 × 0.80	34	平坦	外傾	人為		SI41,SK973･1060･1069→ 本跡→ SI77,SK892･1010
845	E 2 j1	N－0°	楕円形	0.90 × 0.60	22	皿状	緩斜	人為	土師器片	
846	E 2 j2	N－0°	不整楕円形	1.48 × 0.88	20	皿状	緩斜	人為	陶器片	
847	F 2 a2	N－0°	不定形	0.82 × 0.40	14	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
861	F 1 c0	N－62°－W	楕円形	1.02 × 0.90	108	凹凸	外傾	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SD13,SX1
862	F 1 e0	－	円形	0.72 × 0.68	34	皿状	緩斜	人為		SD12 →本跡
863	F 1 c8	－	不整円形	0.60 × 0.60	10	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
869	D 3 c2	－	円形	0.66 × 0.66	20	凹凸	緩斜	人為		本跡→ SI47
874	B 2 f3	N－0°	楕円形	0.56 × 0.40	22	皿状	外傾・緩斜	人為		SK29 →本跡
875	C 2 g9	N－34°－E	長方形	1.24 × 0.58	50	凹凸	外傾	人為		
882	D 2 c7	－	円形	0.94 × 0.92	22	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	SK883 →本跡→ SI77
883	D 2 c7	N－49°－E	楕円形	1.00 × 0.90	28	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI41 →本跡 → SK882,SI77
887	C 2 g1	N－56°－W	楕円形	1.02 × 0.80	34	皿状	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SI19
892	D 2 c7	－	［円形］	0.68 ×（0.57）	10	平坦	緩斜	－	土師器片，須恵器片	SI41,SK844 → 本跡→ SI77,SK1010
894	C 2 i6	－	円形	1.42 × 1.34	36	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI30 →本跡
896	C 2 h7	N－20°-W	楕円形	1.08 × 0.96	34	凹凸	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SI30
897	C 2 i8	N－35°－E	楕円形	0.92 × 0.77	16	凹凸	外傾	人為	弥生土器片，土師器片， 土玉	SI30 →本跡→ SH 1
901	C 2 j7	N－32°－E	不整楕円形	0.64 × 0.47	37	平坦	外傾	人為		SI30,SH 2 →本跡
902	C 2 i7	N－90°	楕円形	0.68 × 0.52	8	平坦	緩斜	人為		SI30 →本跡
904	C 2 i6	－	円形	0.68 × 0.66	18	凹凸	緩斜	人為		SI30 →本跡
905	C 2 h7	N－21°－W	不定形	1.03 × 0.75	11	平坦	外傾	人為	土師器片	SK906 →本跡→ SI30
906	C 2 i7	N－29°－E	楕円形	0.74 × 0.66	11	平坦	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SI30,SK905
910	C 2 i7	N－81°－E	［楕円形］	（0.96 × 0.44）	2	皿状	緩斜	人為		SI30,SB31,SH 2， SK885 →本跡
912	D 2 e7	－	円形	1.43 × 1.35	100	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI49 →本跡
913	C 2 i7	N－35°－E	［楕円形］	［1.35］× 0.67	50	平坦	外傾	人為		SI30,SB31･34, SH 2 →本跡
959	C 2 h8	N－56°－W	楕円形	0.71 × 0.59	73	平坦	外傾	人為	土師器片	本跡→ SI30
960	D 2 c3	N－85°－W	不整楕円形	0.63 × 0.52	34	平坦	直立・外傾	人為		SI81 →本跡
962	D 2 f5	N－30°－E	楕円形	0.60 × 0.50	16	凹凸	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SI63,SB20
963	D 2 g8	－	円形	0.78 × 0.78	34	平坦	外傾	人為		SI54･55 →本跡 → SI78
967	D 2 g9	N－3°－E	長楕円形	1.72 × 1.15	57	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI54･55 →本跡 → SI78,P181
969	D 2 g8	N－9°－E	不整楕円形	1.88 × 0.62	64	皿状	直立	人為	土師器片，須恵器片	SI54･55･78 →本跡
972	D 2 c7	N－15°－E	［不整楕円形］	1.54 ×（0.68）	16	凹凸	緩斜	人為	土師器片	SI41,SB30 →本跡→ SI77,SH7,SK973
973	D 2 c7	N－12°－E	［不整楕円形］	1.18 ×（0.58）	12	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI41,SB30,SK972 → 本跡→ SI77,SK844

番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
974	D２c6	N－74°－W	楕円形	1.03 × 0.56	76	凹凸	緩斜	－	土師器片，須恵器片	本跡 → SI42･79,SH 7
983	D２e0	N－22°－E	楕円形	1.02 × 0.92	15	凹凸	緩斜	人為		SI48 →本跡
984	D２b5	－	円形	1.12 × 1.06	25	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI26,SB30→本跡→SB40
994	D２f9	N－90°	楕円形	1.38 × 1.26	60	平坦	直立	人為		SI54 →本跡
1004	D２j8	N－50°－W	［楕円形］	（0.98）× 0.54	18	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI57 →本跡→ SB25
1006	D２e3	N－58°－E	隅丸長方形	1.35 × 1.15	14	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SB28 →本跡
1012	C２j5	－	［円形］	1.02 ×［1.02］	20	凹凸	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI26 →本跡
1013	D２c6	N－8°－E	楕円形	0.72 × 0.62	30	凹凸	緩斜	人為	土師器片	SI41 →本跡→ SI42
1016	D２f1	－	円形	0.86 × 0.84	26	平坦	緩斜	人為	土師器片	
1017	D２g6	N－90°	楕円形	1.00 × 0.86	16	凹凸	直立	人為		
1018	D２g5	N－20°－W	楕円形	1.28 × 1.20	25	平坦	外傾	人為		
1025	D２g4	N－61°－E	不整楕円形	0.68 × 0.54	14	平坦	緩斜	人為	土師器片	SI64,SB19 →本跡
1061	D２i7	－	円形	1.19 × 1.00	48	平坦	緩斜・直立	人為	土師器片，須恵器片	SI57 →本跡
1063	D２c0	N－20°－W	楕円形	0.54 × 0.45	26	皿状	外傾	人為	縄文土器片	
1064	D２e9	N－30°－W	楕円形	0.80 × 0.68	30	皿状	緩斜	人為		SI48,SK550 →本跡
1068	D２a6	N－72°－W	長方形	1.22 × 0.72	28	凹凸	外傾	人為	縄文土器片	P109 →本跡
1069	D２c7	N－82°－E	楕円形	0.62 × 0.42	8	皿状	緩斜	人為		SI41 →本跡→ SI77,SK844･1010
1079	D２b4	N－61°－W	不整楕円形	0.48 × 0.40	9	平坦	外傾	人為	土師器片	
1083	D２b3	－	円形	0.70 × 0.66	8	平坦	外傾	人為		
1086	D２b2	N－33°－W	不定形	0.59 × 0.44	20	凹凸	緩斜	人為		P238 →本跡
1102	C２j6	N－53°－E	楕円形	0.60 × 0.54	22	平坦	外傾	人為		
1120	C２i5	N－0°	楕円形	1.16 × 0.66	44	皿状	緩斜	人為	須恵器片	
1125	D２c6	N－24°－W	［楕円形］	1.14 ×（0.52）	10	平坦	緩斜	人為		SB35 →本跡 → SI42,SK1124
1126	D２h2	N－76°－E	楕円形	0.54 × 0.48	24	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
1131	D３b1	N－0°	楕円形	0.62 × 0.56	32	皿状	外傾	人為	土師器片	本跡→ SI45

（7）ピット群

今回の調査で，円形または楕円形状にピットが並んでいるピット群５か所を確認した。縄文時代の住居跡の可能性が考えられたが，出土土器が極めて少なく，また床面や壁，炉跡などが確認できなかったことから時期不明のピット群とした。以下，遺構と遺物について記述する。

第１号ピット群（第 243 図）

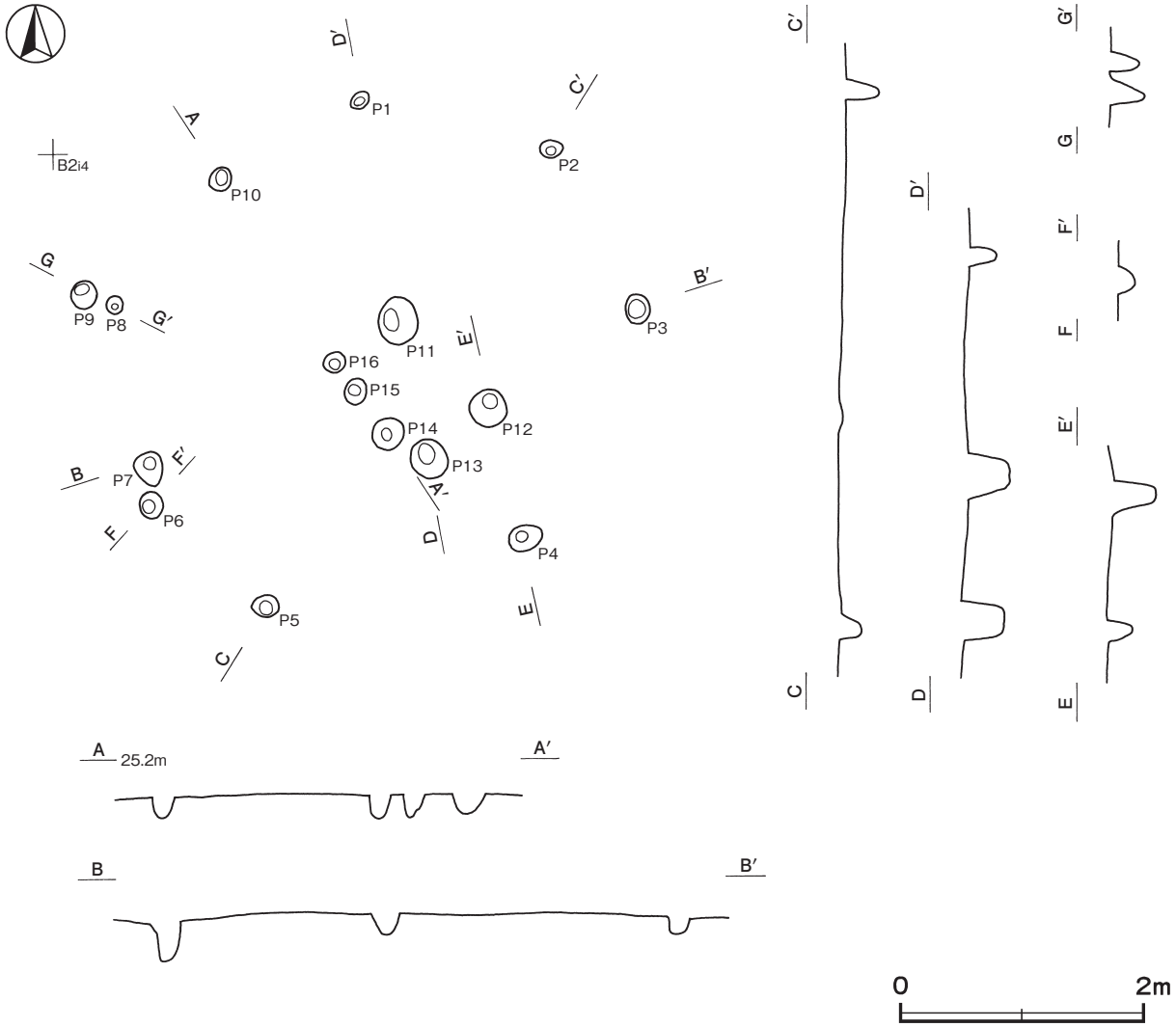
位置　調査区北部のＢ２i4 区，標高 24.9 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　径５mの円形の範囲にピットが並んでいる。

ピット　16 か所。長径 0.18 ～ 0.38 m，短径 0.14 ～ 0.33 mの円形または楕円形で，深さは 12 ～ 35cmである。

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢）がＰ１の覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期前葉の可能性があるが，出土量が少ないため明確でない。



第 243 図　第１号ピット群実測図

第２号ピット群（第 244・245 図）

位置　調査区北部のＢ２h1 区，標高 24.9 ｍの平坦な台地上に位置している。

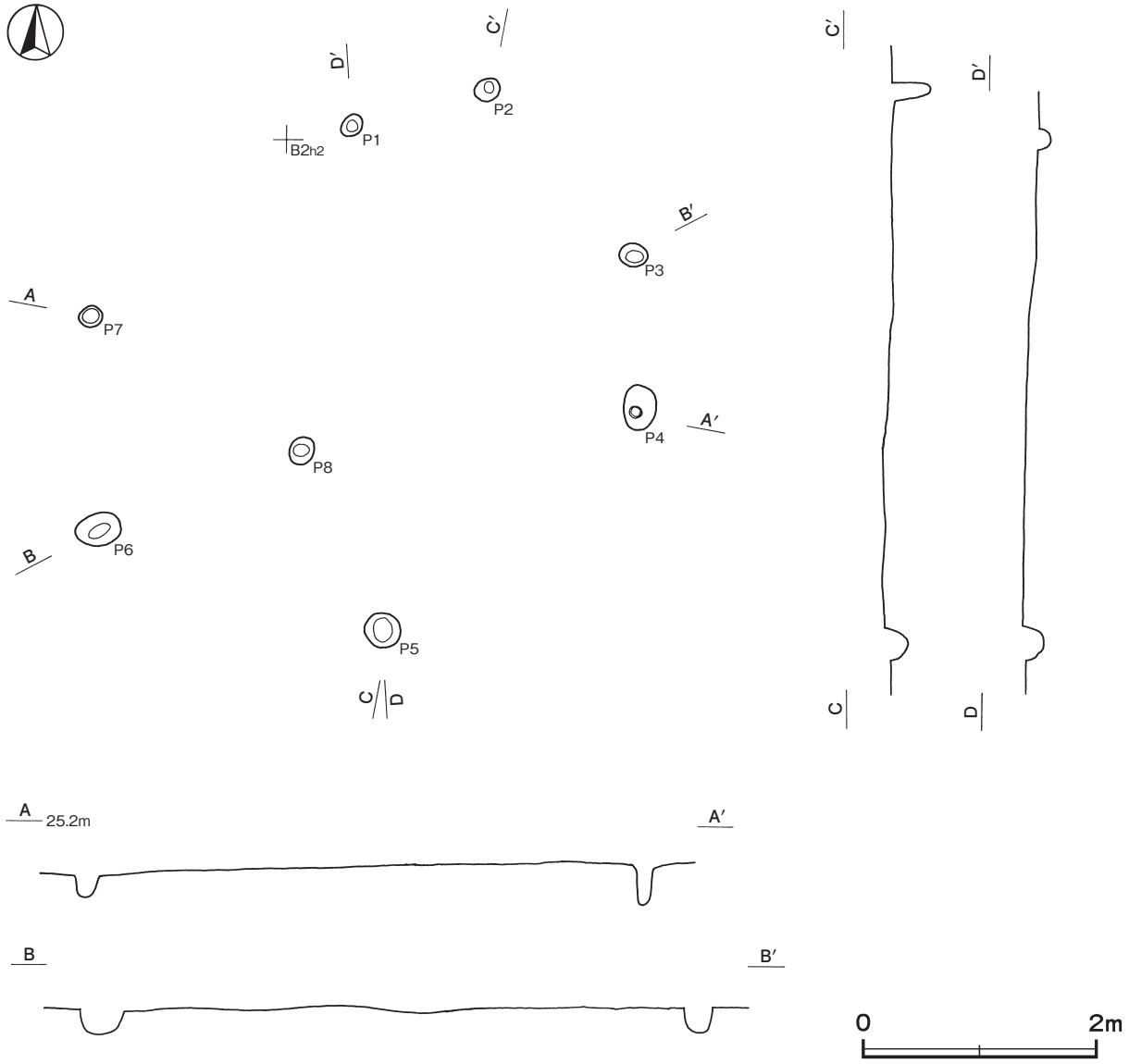
規模と形状　径５ｍの円形の範囲にピットが並んでいる。

ピット　８か所。長径 0.20 ～ 0.40 ｍ，短径 0.18 ～ 0.30 ｍの円形または楕円形で，深さは 10 ～ 35㎝である。

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢）が，Ｐ４から出土している。TP11 はＰ４の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期前葉の可能性があるが，出土量が少ないため明確でない。

第 244 図　第２号ピット群出土遺物実測図



第 245 図　第２号ピット群実測図

第２号ピット群出土遺物観察表（第 244 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部無文帯　縦位の結節文	Ｐ４	

第３号ピット群（第 246・247 図）

位置　調査区北部のＢ２i2 区，標高 24.9 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　径５mの円形の範囲にピットが並んでおり，中央部に長軸 1.83 m，短軸 1.15 の隅丸方形で，深さ 17㎝の土坑（Ｐ 14）が確認できた。

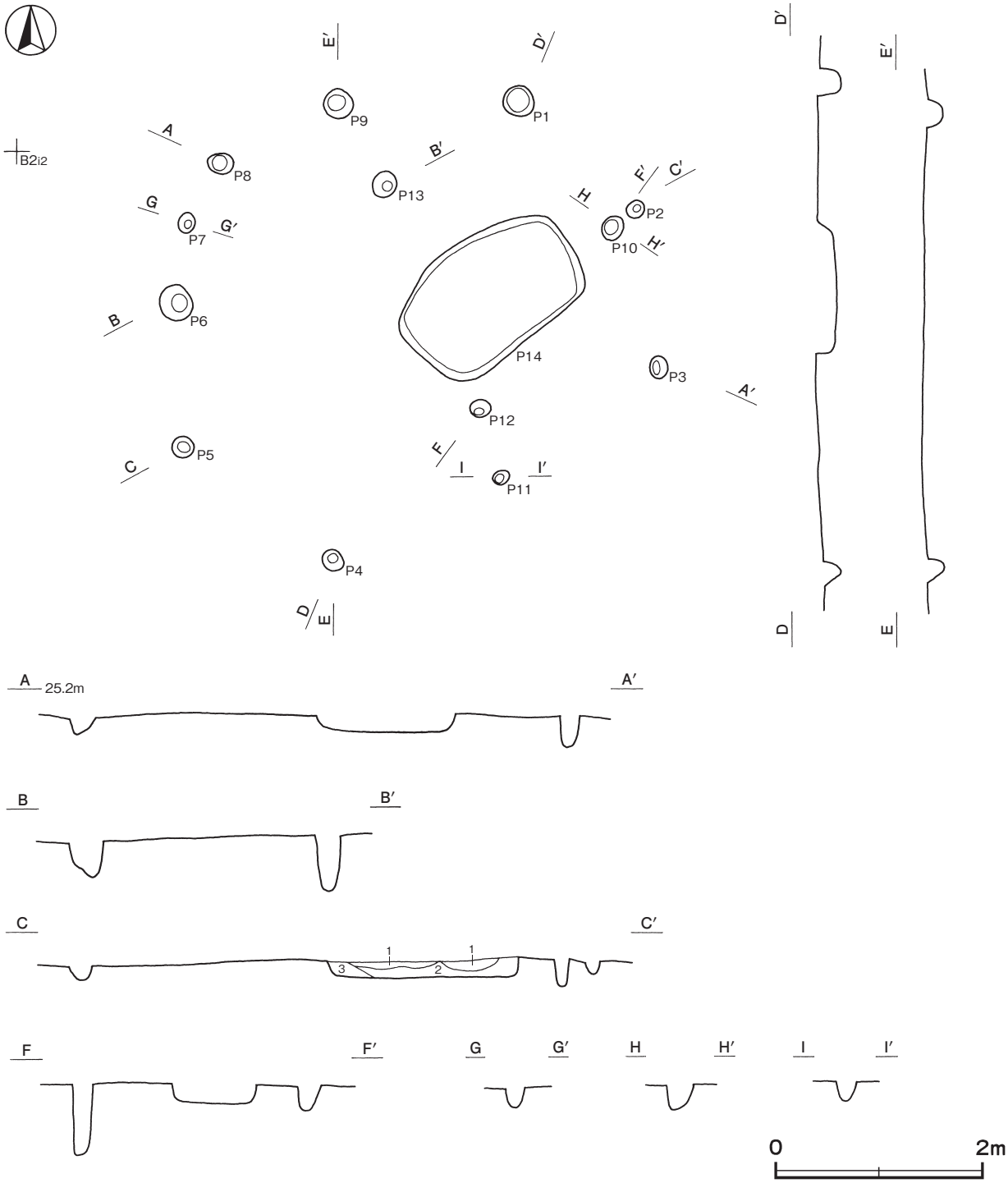
ピット　14 か所。Ｐ１～Ｐ 13 は，長径 0.18 ～ 0.67 m，短径 0.16 ～ 0.67 mの円形または隅丸長方形で，深さは 14 ～ 67㎝である。

ピット土層解説

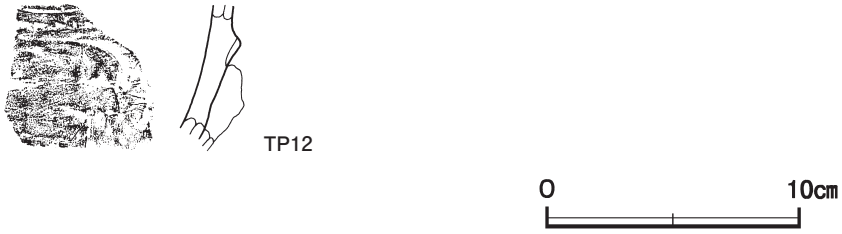
１　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
２　褐　　色　ローム粒子中量
３　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片７点（深鉢）が中央部の土坑から出土している。TP12 は，中央部の土坑（Ｐ 14）の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期前葉の可能性があるが，出土量が少ないため明確でない。



第 246 図　第３号ピット群実測図



第 247 図　第３号ピット群出土遺物実測図

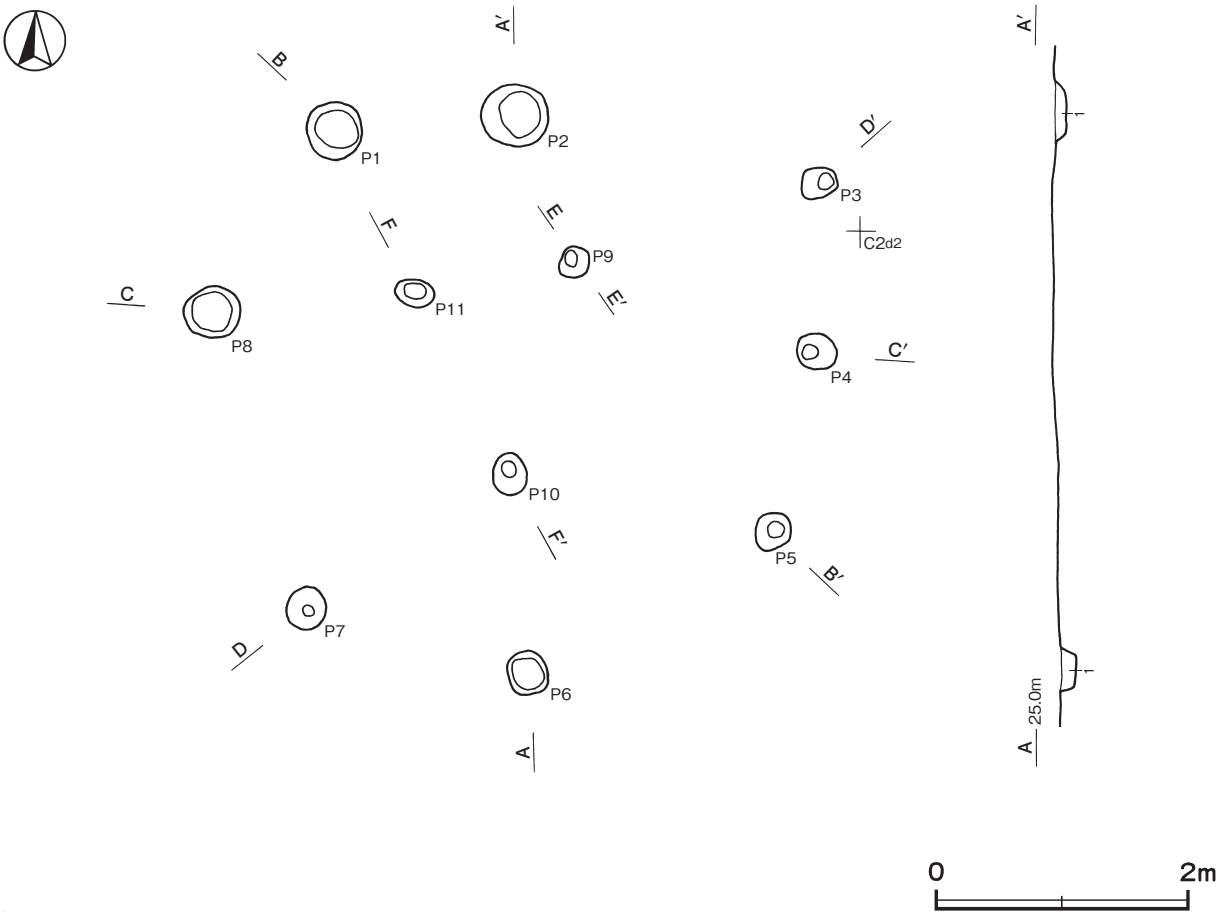
第３号ピット群出土遺物観察表（第 247 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	隆帯による区画文	土坑（P 14）	

第４号ピット群（第 248・249 図）

位置　調査区北部のＣ２d1 区，標高 24.8 ｍの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　南北径５ｍ，東西径６ｍの楕円形の範囲にピットが並んでいる。



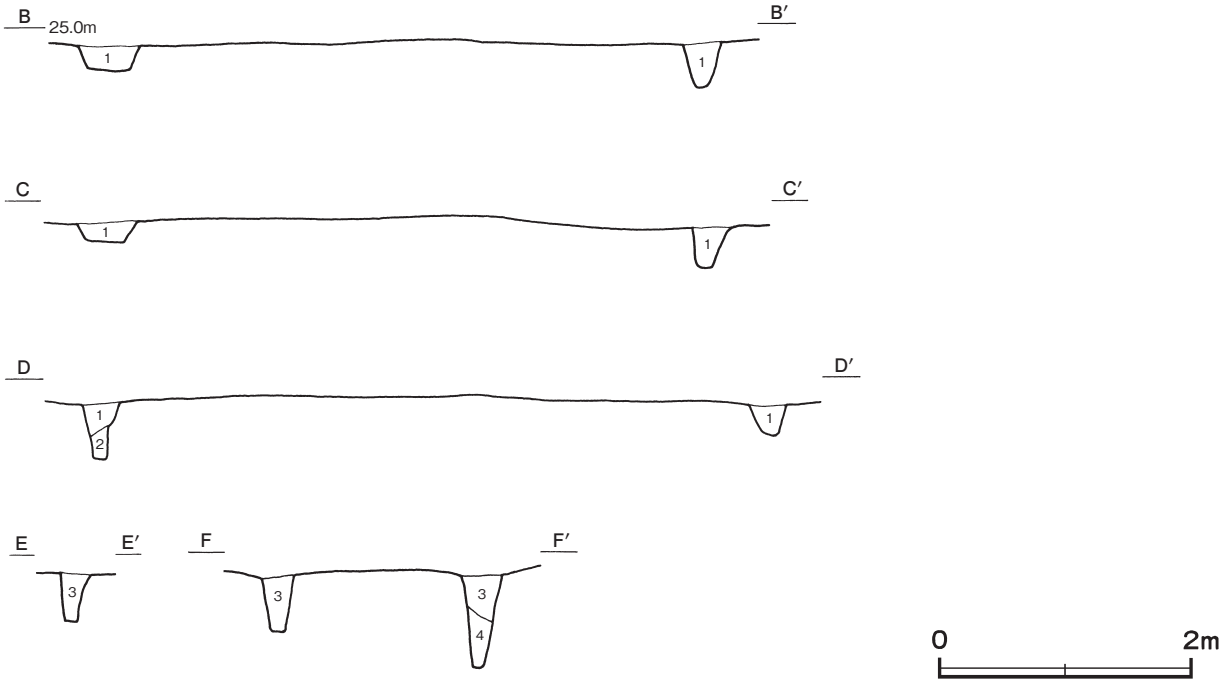
第 248 図　第４号ピット群実測図（1）

ピット　11か所。長径0.26～0.49 m，短径0.21～0.46 mの円形または楕円形で，深さは9～73㎝である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

所見　時期は，遺物が出土していないため不明である。



第249図　第4号ピット群実測図（2）

第5号ピット群（第250図）

位置　調査区中央部のC 2f2区，標高24.7 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　径5 mの円形の範囲にピットが並んでいる。

ピット　7か所。長径0.21～0.40 m，短径0.20～0.34 mの円形または楕円形で，深さは19～135㎝である。

ピット土層解説（各ピット共通）

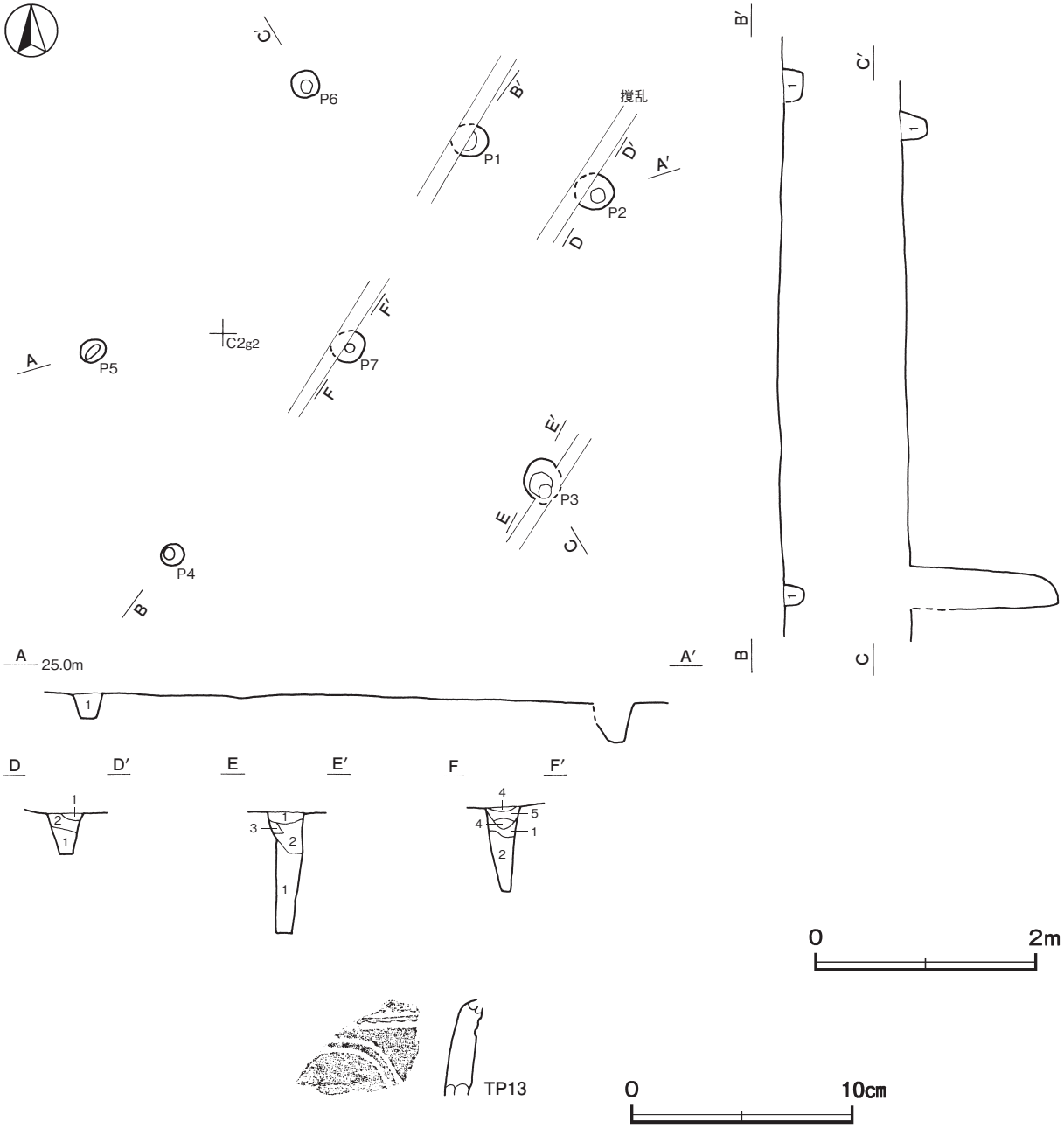
1　暗　褐　色　ローム粒子多量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

遺物出土状況　P 3・5の覆土中から縄文土器片3点（深鉢）が出土している。TP13はP 5の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代中期前葉と考えられるが，出土量が少ないため明確でない。

第5号ピット群出土遺物観察表（第250図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	複列の有節沈線文	P 5	



第250図　第５号ピット群・出土遺物実測図

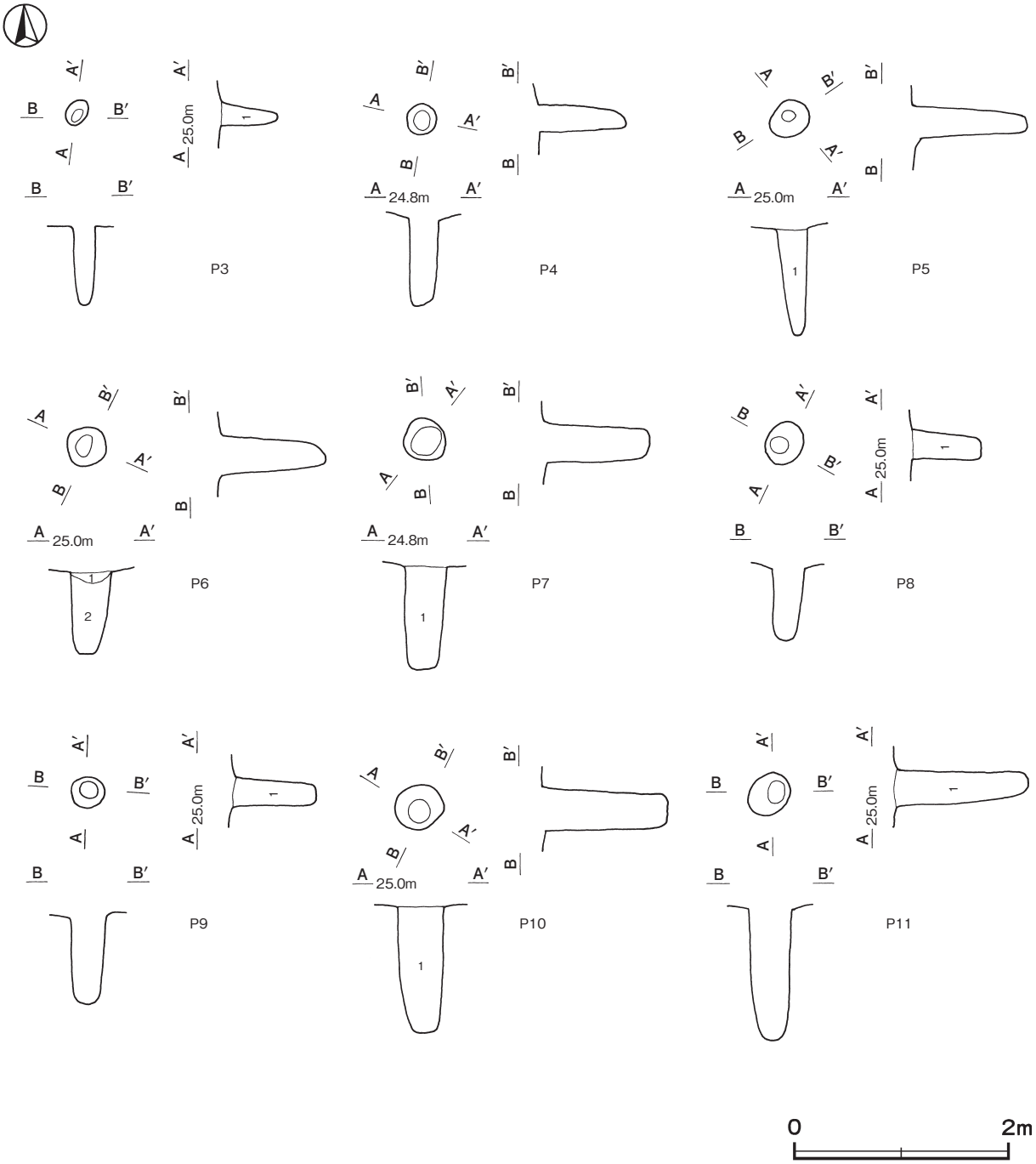
表18　その他のピット群一覧表

番号	位置	形状	範囲（m）	柱穴				主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
				柱穴数	平面形	径（m）	深さ（cm）		
1	B２i4	円形	［５×５］	16	円形　楕円形	0.14～0.38	12～35	縄文土器片	
2	B２h1	円形	［５×５］	8	円形　楕円形	0.18～0.40	10～35	縄文土器片	
3	B２i2	円形	［５×５］	14	円形　隅丸方形	0.16～0.67	14～67	縄文土器片	
4	C２d1	楕円形	［６×５］	11	円形　楕円形	0.21～0.49	9～73		
5	C２f2	円形	［５×５］	7	円形　楕円形	0.20～0.40	19～135	縄文土器片	

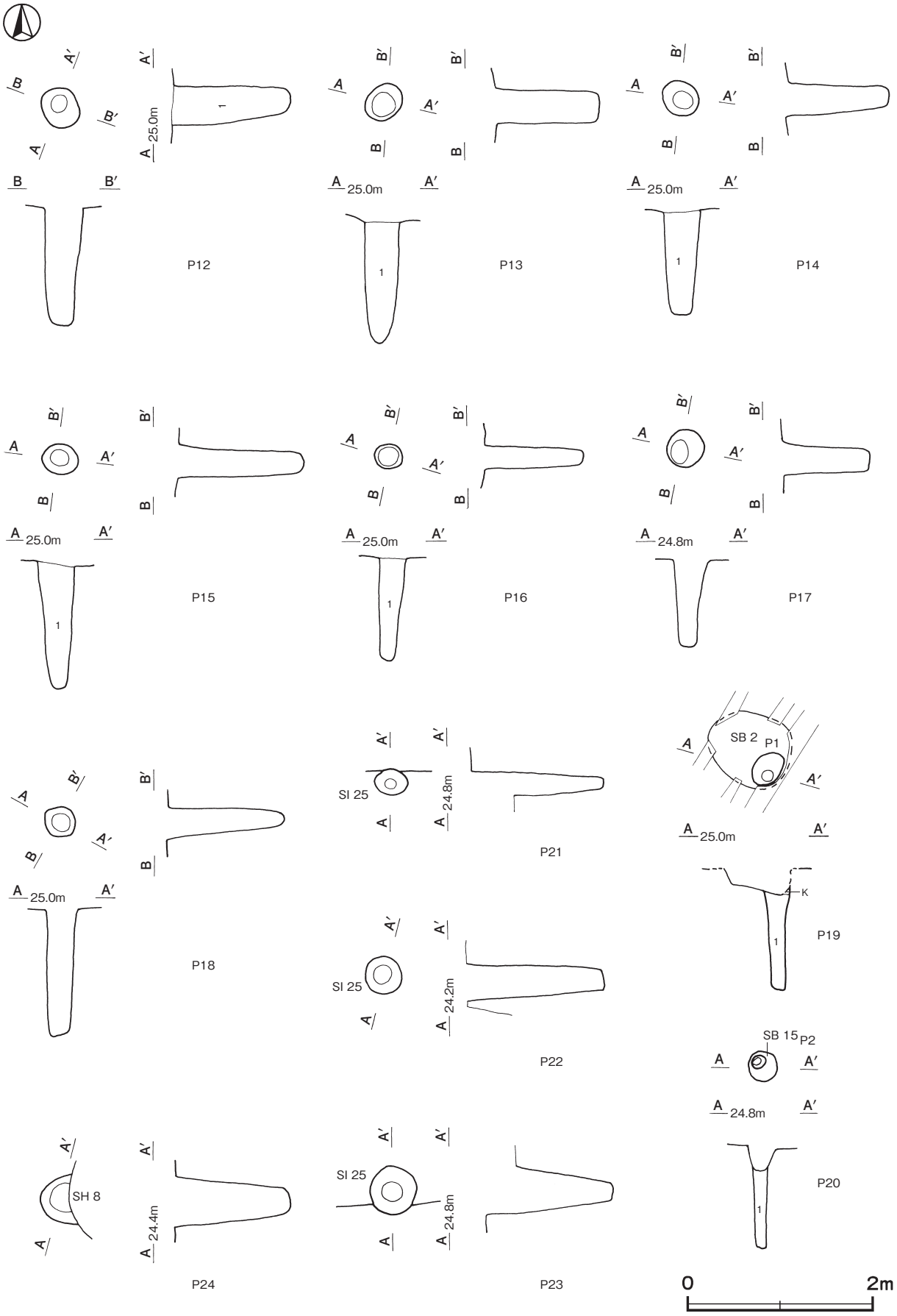
(8) ピット

今回の調査では，径 16 ～ 60cmの円形で，断面形がU字状を呈しているもの，あるいは柱痕跡や柱の当たりが認められたものをピットとし，366 か所を確認した。そのうち，深さ 70cm以上のピット 22 か所については，縄文時代の掘立柱建物跡の柱穴と類似することから，その他のピット 344 か所と区別した。以下，実測図と一覧表で掲載する。

ア　縄文時代の可能性があるピット



第 251 図　縄文時代の可能性があるピット実測図（1）



第 252 図　縄文時代の可能性があるピット実測図（2）

第３号ピット土層解説
1　にぶい褐色　ローム粒子中量

第５号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第６号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第７号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第８号ピット土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第９号ピット土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 10 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 11 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 12 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 13 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第 14 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 15 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 16 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

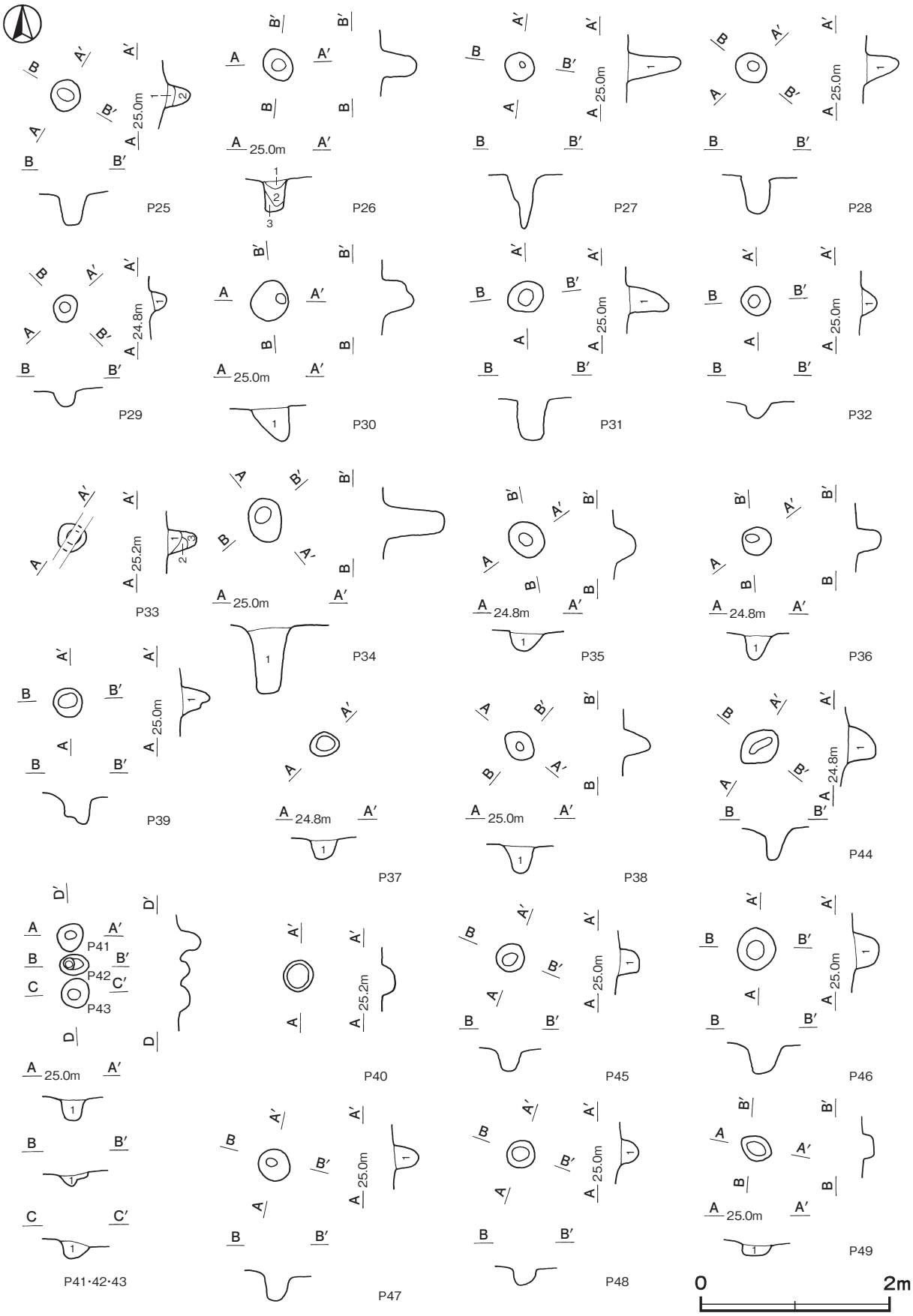
第 19 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 20 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

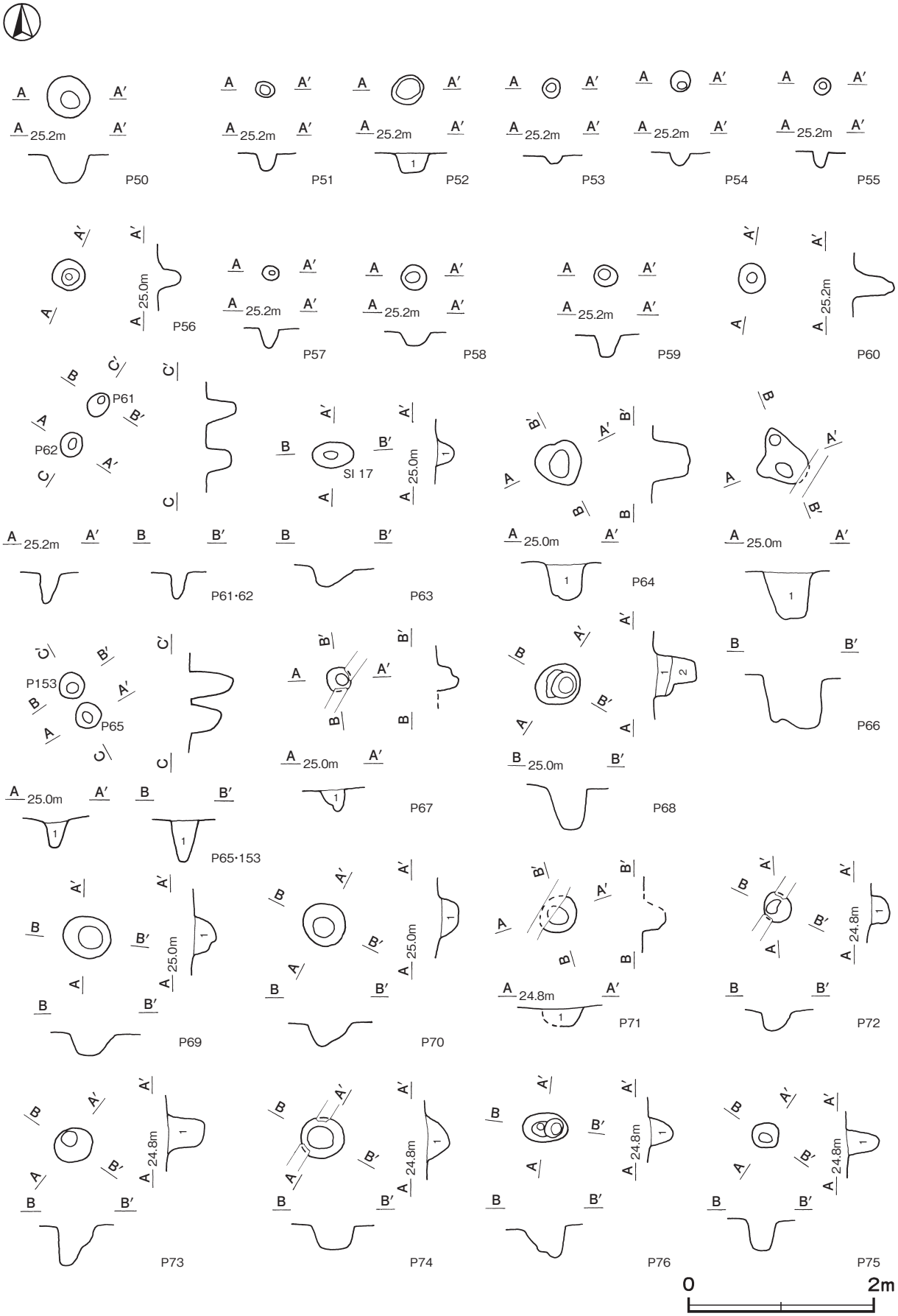
表 19　縄文時代の可能性があるピット一覧表

番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
3	SK11	B 2 c1	N − 39° − E	楕円形	0.24 × 0.18	72	皿状	直立	人為		
4	SK18	B 2 f1	−	円形	0.28 × 0.26	82	皿状	直立	−		
5	SK24	B 2 e3	N − 58° − E	楕円形	0.38 × 0.30	106	皿状	直立	人為	縄文土器片	
6	SK28	B 2 f3	−	円形	0.36 × 0.36	102	皿状	直立	人為		
7	SK30	B 2 e6	−	円形	0.38 × 0.38	98	平坦	直立	人為		
8	SK35	B 2 g2	N − 25° − E	楕円形	0.40 × 0.32	70	皿状	直立	自然		
9	SK40	B 2 g1	N − 90°	楕円形	0.32 × 0.28	80	皿状	直立	自然		
10	SK45	B 2 f4	N − 90°	楕円形	0.44 × 0.40	116	平坦	直立	人為	縄文土器片	
11	SK50	B 2 g3	−	円形	0.38 × 0.38	126	皿状	直立	自然		
12	SK59	B 2 h4	−	円形	0.42 × 0.40	126	皿状	直立	自然		
13	SK60	B 2 g6	−	円形	0.40 × 0.38	112	平坦	直立	人為	縄文土器片	
14	SK69	B 2 h5	N − 56° − W	楕円形	0.42 × 0.34	110	皿状	直立	人為	縄文土器片	
15	SK70	B 2 h6	N − 83° − W	楕円形	0.38 × 0.32	134	皿状	直立	人為	縄文土器片	
16	SK79	B 2 i5	N − 73° − W	楕円形	0.30 × 0.26	108	皿状	直立	自然		
17	SK229	C 2 i1	−	円形	0.40 × 0.40	95	平坦	直立	−	縄文土器片	
18	SK879	B 2 i4	−	円形	0.32 × 0.32	136	傾斜	直立	−		
19	SK1198	C 2 g3	N − 54° − E	楕円形	0.40 × 0.28	130	皿状	直立	人為		本跡→ SB2
20	SK1199	C 2 i3	−	円形	0.32 × 0.32	108	平坦	直立	人為		本跡→ SB15
21	SK1207	C 2 j1	N − 88° − E	楕円形	0.38 × 0.26	144	平坦	直立	−		本跡→ SI25
22	SK1208	D 2 a2	−	円形	0.42 × 0.40	150	平坦	直立	−	縄文土器片	本跡→ SI25
23	SK1210	D 2 a2	−	円形	0.52 × 0.50	136	平坦	外傾	−		本跡→ SI25
24	SK1218	D 2 go	−	［円形］	0.52 ×（0.32）	125	皿状	直立	−		本跡→ SH 8

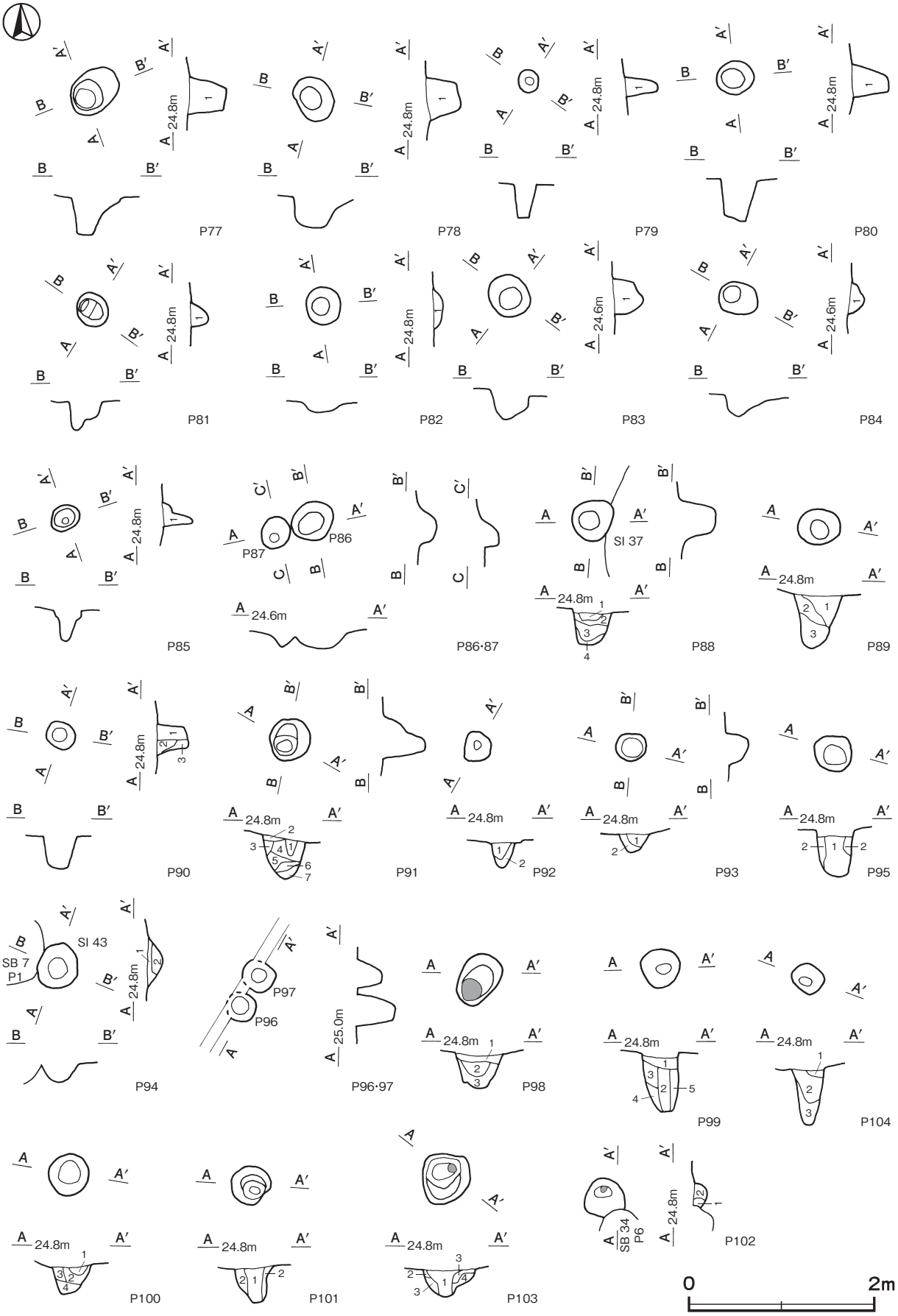
イ　その他のピット



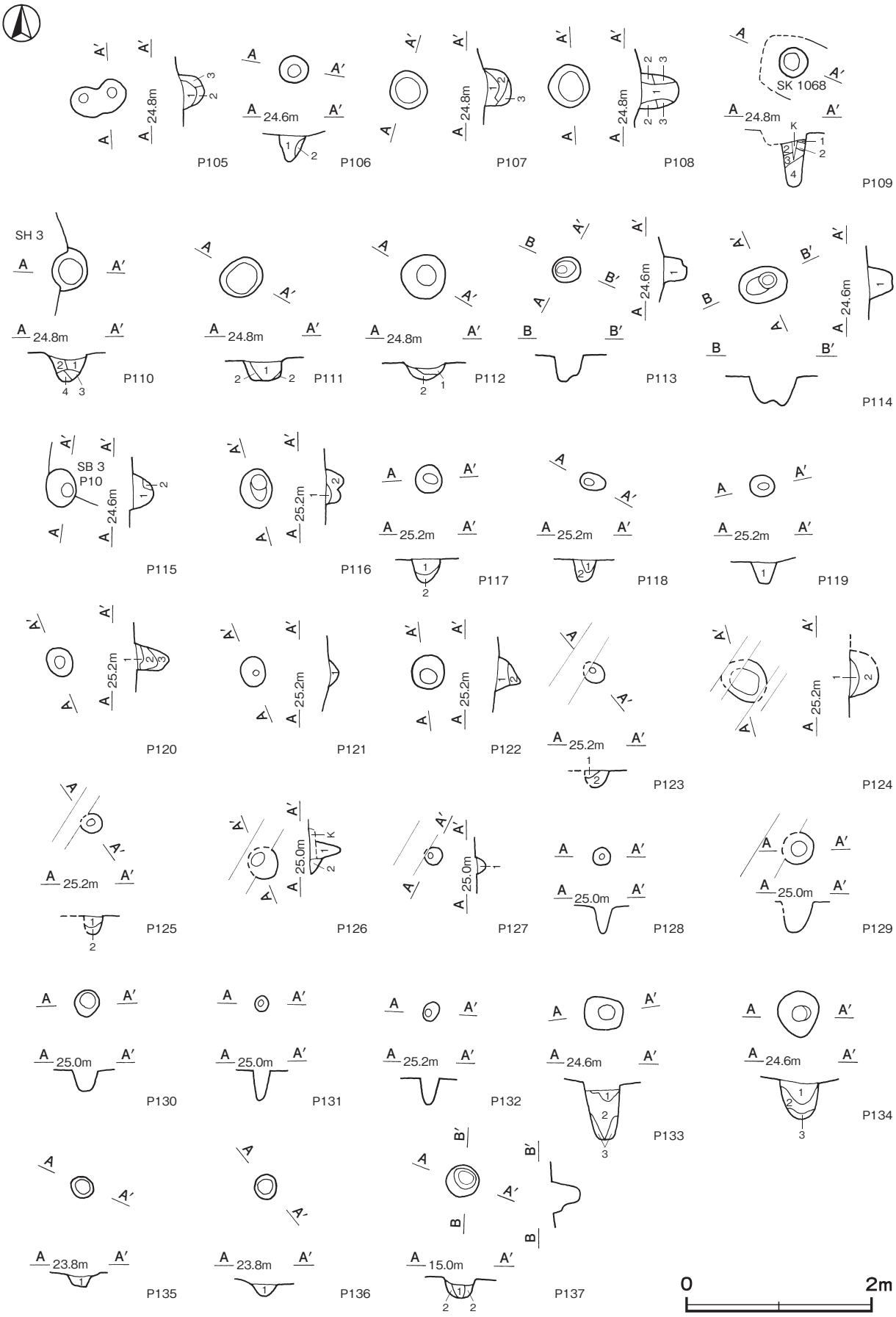
第 253 図　その他のピット実測図（1）



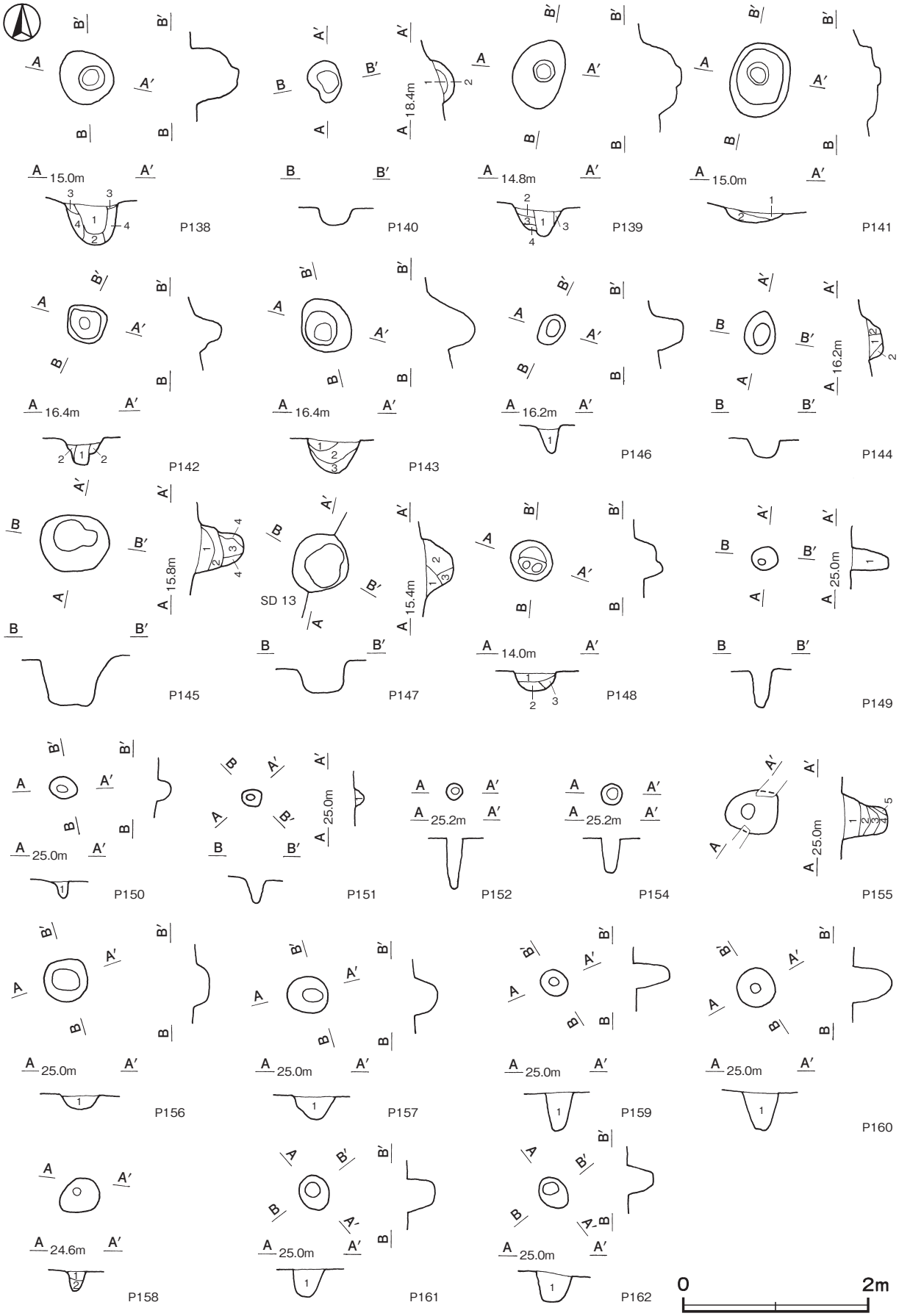
第 254 図　その他のピット実測図（2）



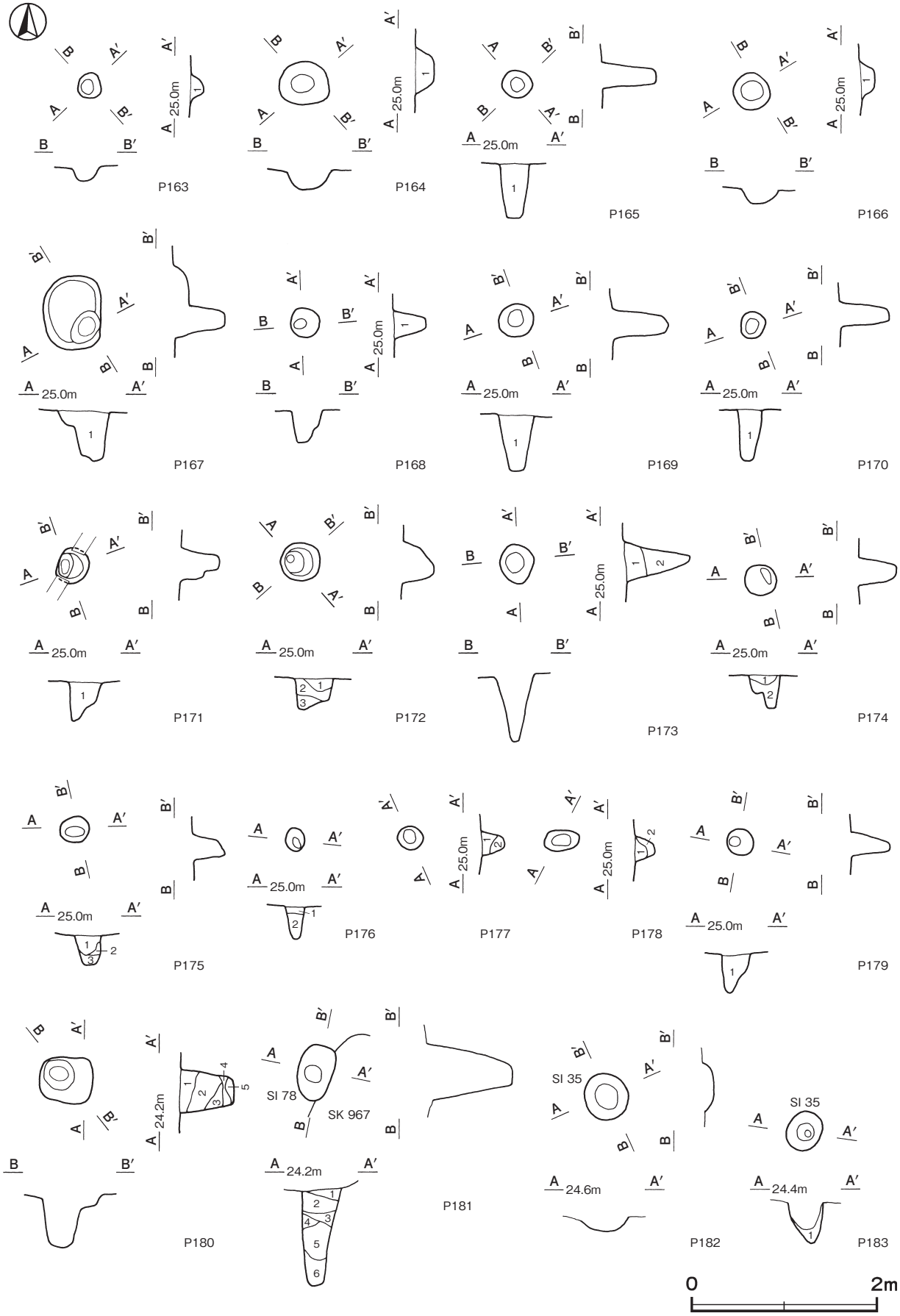
第 255 図　その他のピット実測図（3）



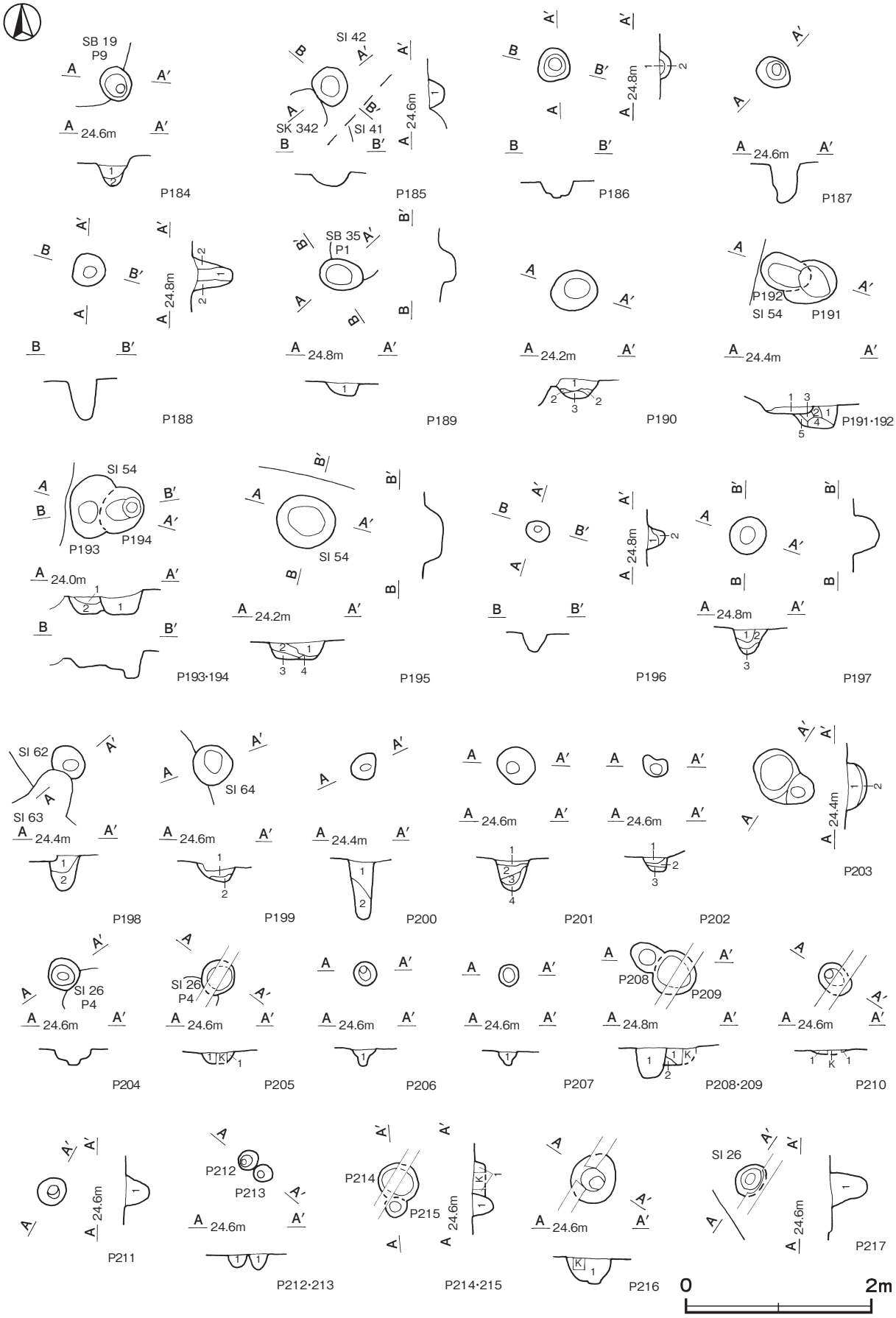
第 256 図　その他のピット実測図（4）



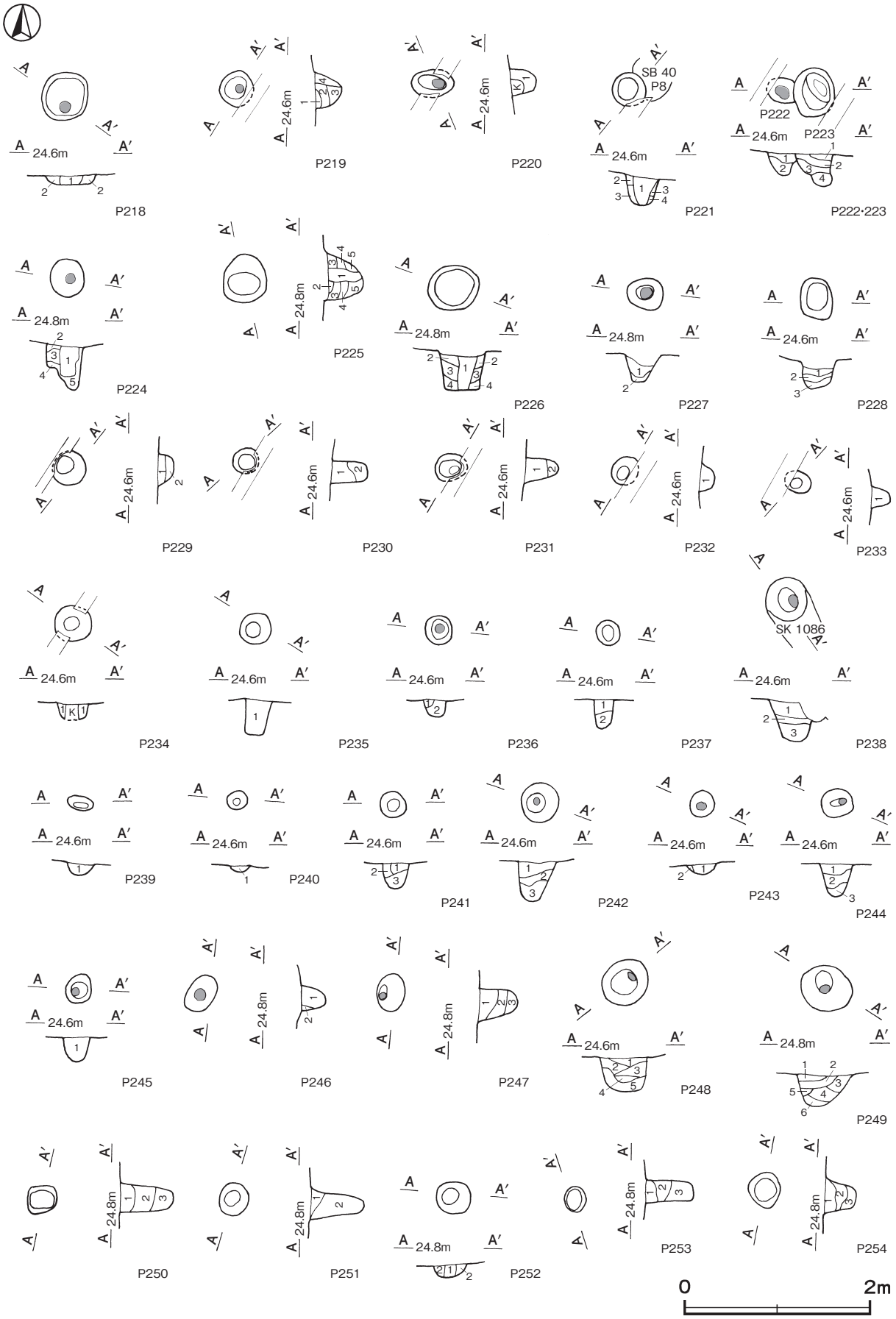
第 257 図　その他のピット実測図（5）



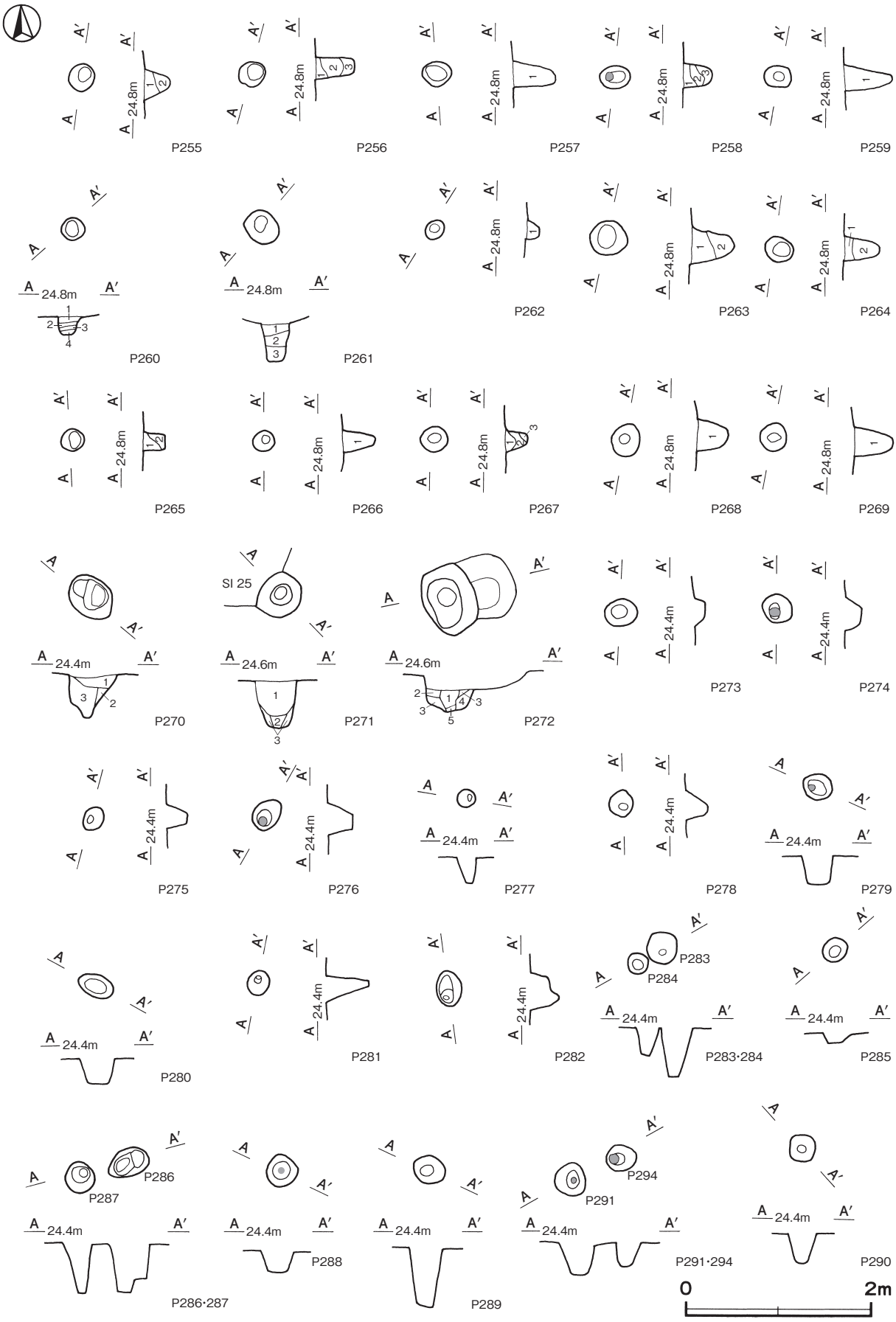
第 258 図　その他のピット実測図（6）



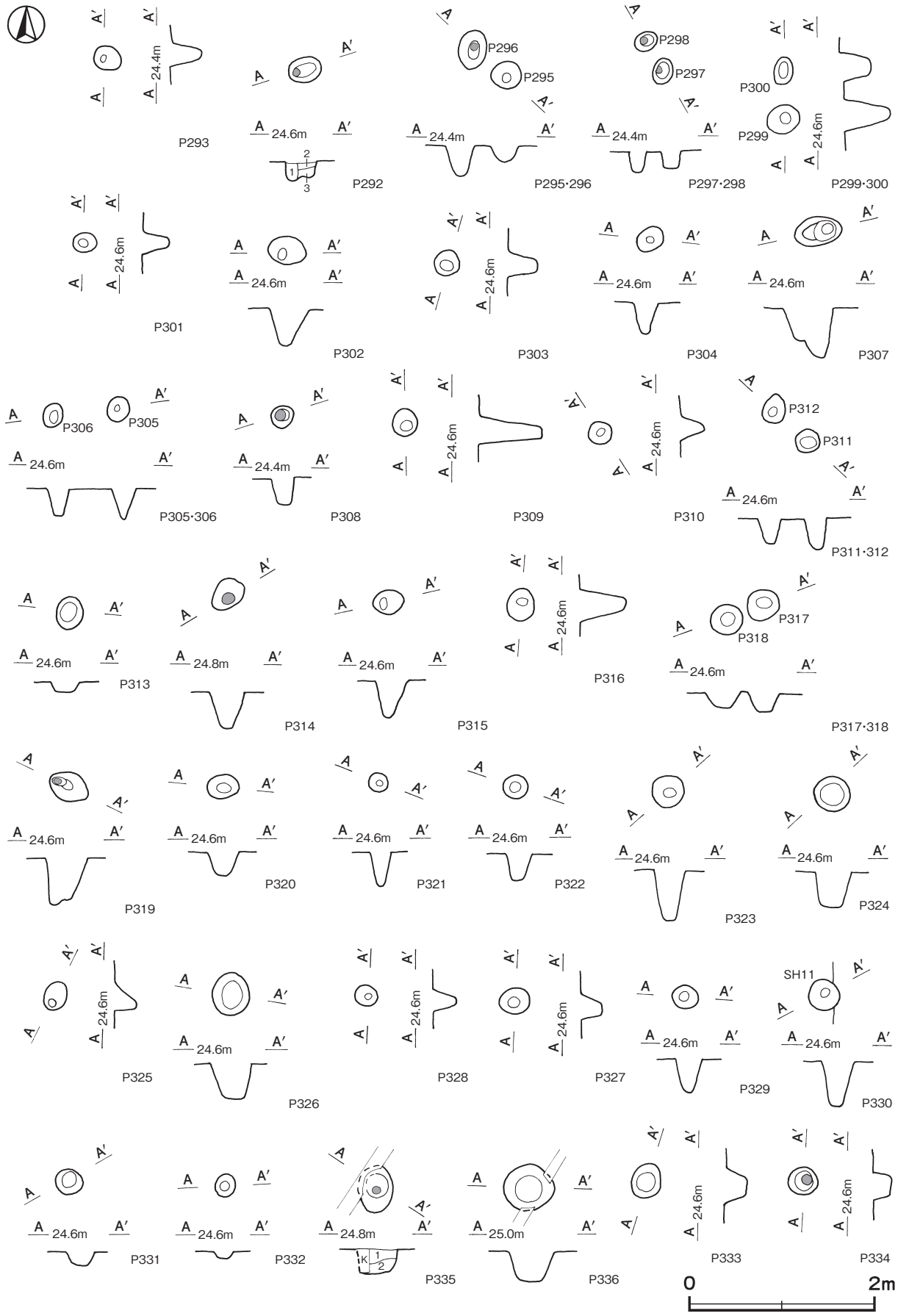
第 259 図　その他のピット実測図（7）



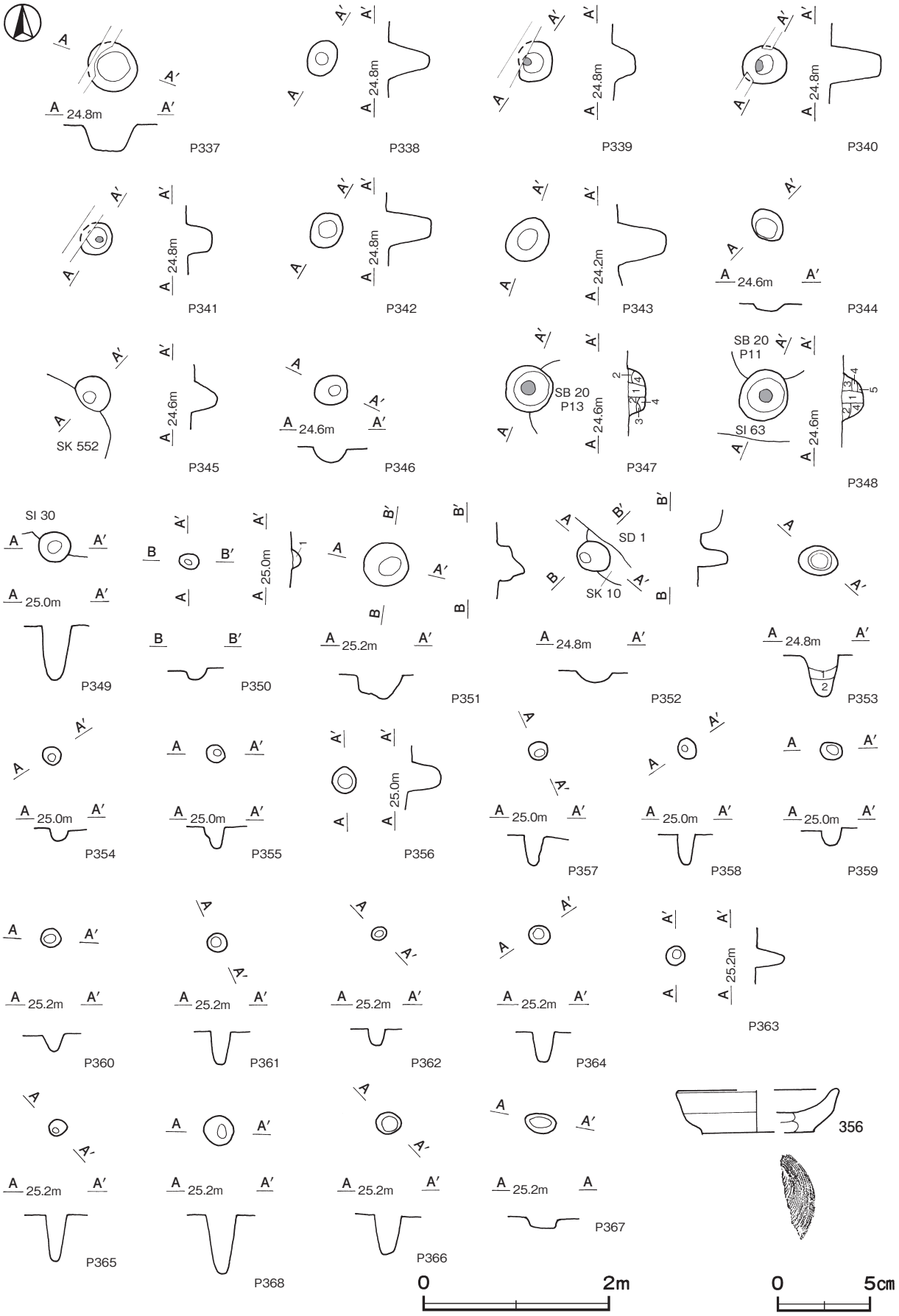
第 260 図　その他のピット実測図（8）



第 261 図　その他のピット実測図（9）



第 262 図　その他のピット実測図（10）



第 263 図　その他のピット・出土遺物実測図

第 25 号ピット土層解説
1　明　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 26 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 27 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第 28 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第 29 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量

第 30 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 31 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量

第 32 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 33 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第 34 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 35 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 36 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 37 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 38 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 39 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 41 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 42 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 43 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 44 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 45 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 46 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 47 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 48 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第 49 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 52 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 63 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 64 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 65 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 66 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第 67 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 68 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 69 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量

第 70 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量

第 71 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量

第 72 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 73 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 74 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 75 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 76 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 77 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 78 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 79 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量

第 80 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 81 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量

第 82 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 83 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 84 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量

第 85 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量

第 88 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ロームブロック多量

第 89 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 90 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 91 号ピット土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　極暗褐色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　灰黄褐色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 92 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 93 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 94 号ピット土層解説
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量

第 95 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 98 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　にぶい褐色　ローム粒子多量

第 99 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子多量
4　黒　褐　色　ロームブロック多量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 100 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子多量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 101 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量

第 102 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　黄　褐　色　ローム粒子多量

第 103 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子多量

第 104 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 105 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　灰黄褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量

第 106 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 107 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　灰黄褐色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子多量

第 108 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 109 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 110 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　灰黄褐色　ロームブロック少量

第 111 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子多量
2　にぶい黄褐色　炭化粒子中量

第 112 号ピット土層解説
1　灰黄褐色　ローム粒子中量
2　黒　　色　ローム粒子多量

第 113 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 114 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 115 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 116 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第 117 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 118 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第 119 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 120 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第 121 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第 122 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 123 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 124 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子中量

第 125 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 126 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 127 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量

第 133 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 134 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子中量

第 135 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 136 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 137 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 138 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
2　褐　　色　粘土ブロック多量
3　暗　褐　色　粘土ブロック中量
4　褐　　色　粘土粒子多量

第 139 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量
2　黒　褐　色　粘土ブロック微量
3　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量
4　褐　　色　粘土ブロック多量

第 140 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
2　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量

第 141 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　砂粒少量
2　暗　褐　色　粘土ブロック少量

第 142 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　砂粒少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量

第 143 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子・砂粒微量
2　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
3　黒　　色　粘土ブロック多量，焼土粒子少量，砂粒微量

第 144 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック・砂粒少量
2　にぶい黄橙色　粘土ブロック・砂粒多量

第 145 号ピット土層解説
1　灰　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2　黒　褐　色　砂粒少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　砂粒少量
4　にぶい黄橙色　粘土ブロック・砂粒多量

第 146 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック少量，炭化粒子微量

第 147 号ピット土層解説
1　褐　灰　色　砂粒中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　砂粒少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　砂粒中量，炭化粒子微量

第 148 号ピット土層解説
1　褐　灰　色　粘土ブロック・砂粒中量
2　褐　灰　色　粘土ブロック・砂粒微量
3　にぶい黄褐色　粘土ブロック・砂粒多量

第 149 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 150 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 151 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 155 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　　色　ローム粒子微量

第 156 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 157 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 158 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 159 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 160 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 161 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 162 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 163 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 164 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 165 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量

第 166 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 167 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 168 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 169 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 170 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 171 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 172 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 173 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 174 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 175 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 176 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 177 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　　色　ロームブロック中量

第 178 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 179 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 180 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 181 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黄　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 183 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 184 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 185 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 186 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 188 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 189 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第 190 号ピット土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 191 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
5　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 192 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第 193 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 194 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 195 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　炭化粒子・ローム粒子少量

第 196 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 197 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子多量

第 198 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 199 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 200 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 201 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 202 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 203 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック微量

第 205 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 206 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 207 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 208 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 209 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 210 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 211 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 212 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 213 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 214 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 215 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 216 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 217 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 218 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 219 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　　色　ローム粒子少量

第 220 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 221 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　　色　ロームブロック少量

第 222 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量

第 223 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 224 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子多量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量

第 225 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　にぶい褐色　ロームブロック多量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 226 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量

第 227 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量

第 228 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 229 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 230 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 231 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 232 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量

第 233 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量

第 234 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量

第 235 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 236 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック中量

第 237 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 238 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 239 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック多量

第 240 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 241 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 242 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 243 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 244 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 245 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量

第 246 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 247 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 248 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 249 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 250 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 251 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ローム粒子少量

第 252 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 253 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 254 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 255 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 256 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 257 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量

第 258 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 259 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量

第 260 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　　色　ロームブロック微量

第 261 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 262 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 263 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 264 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 265 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 266 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量

第 267 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 268 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 269 号ピット土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量

第 270 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 271 号ピット土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 272 号ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子多量
5　褐　　色　ローム粒子多量

第 292 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　　色　ロームブロック少量

第 335 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック微量

第 347 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 348 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 350 号ピット土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第 353 号ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 353 号ピット（SK360）出土遺物観察表（第 263 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
356	土師質土器	小皿	[8.6]	2.3	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り		30%

表 20　その他のピット一覧表

番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
25	SK 5	B 2 a1	N－39°－E	楕円形	0.34 × 0.30	34	皿状	外傾	人為		
26	SK 7	B 1 c0	N－46°－W	楕円形	0.34 × 0.26	38	平坦	直立	人為		
27	SK13	B 2 c1	－	円形	0.30 × 0.30	58	皿状	外傾	人為		
28	SK14	B 2 d1	－	円形	0.32 × 0.30	40	皿状	外傾	人為		
29	SK15	B 2 d1	N－5°－E	楕円形	0.28 × 0.24	18	皿状	外傾	人為		
30	SK19	B 1 e0	－	不整円形	0.42 × 0.40	32	凹凸	外傾	人為		
31	SK20	B 2 e1	N－90°	楕円形	0.36 × 0.32	48	皿状	直立	人為		
32	SK21	B 2 e1	－	円形	0.30 × 0.30	16	皿状	外傾・緩斜	人為	土師器片	

番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
33	SK22	C 2 b5	－	円形	0.28 × 0.28	32	皿状	外傾	人為		
34	SK25	B 2 e5	N － 64° － E	楕円形	0.46 × 0.36	60	平坦	直立	自然		
35	SK26	B 2 e6	N － 70° － W	楕円形	0.40 × 0.32	20	皿状	外傾	人為		
36	SK27	B 2 e6	N － 90°	楕円形	0.32 × 0.28	26	皿状	外傾・直立	人為		
37	SK32	B 2 e6	N － 79° － E	楕円形	0.30 × 0.24	20	皿状	外傾	人為		
38	SK38	B 2 f5	N － 52° － W	楕円形	0.36 × 0.26	30	皿状	外傾	人為		
39	SK39	B 2 g2	－	円形	0.30 × 0.30	28	凹凸	直立	人為		
40	SK41	B 2 h1	－	円形	0.32 × 0.32	12	平坦	緩斜	－		
41	SK42	B 2 g2	N － 5 ° － E	楕円形	0.30 × 0.26	24	皿状	外傾	人為		
42	SK43	B 2 g2	N － 88° － E	楕円形	0.28 × 0.20	12	皿状	緩斜	人為		
43	SK44	B 2 g2	N － 0 °	楕円形	0.32 × 0.28	10	平坦	緩斜	人為		
44	SK46	B 2 f5	N － 50° － E	楕円形	0.46 × 0.36	30	皿状	外傾	人為		
45	SK47	B 2 g3	－	円形	0.30 × 0.28	22	皿状	外傾	人為		
46	SK52	B 2 g4	N － 0 °	楕円形	0.44 × 0.40	30	皿状	外傾	人為		
47	SK57	B 2 g5	－	円形	0.32 × 0.32	26	平坦	外傾	人為		
48	SK62	B 2 h5	－	円形	0.30 × 0.30	20	皿状	外傾	人為		
49	SK63	B 2 h6	N － 62° － W	楕円形	0.34 × 0.24	12	平坦	外傾	人為		
50	SK73	B 2 i1	－	円形	0.44 × 0.44	32	皿状	外傾	－		
51	SK74	B 2 i1	－	円形	0.18 × 0.18	20	皿状	外傾	－		
52	SK75	B 2 i1	－	円形	0.32 × 0.30	20	平坦	外傾	人為		
53	SK76	B 2 i5	N － 0 °	楕円形	0.22 × 0.16	10	皿状	外傾	－		
54	SK77	B 2 i5	－	円形	0.22 × 0.22	12	皿状	外傾	－		
55	SK78	B 2 i5	N － 0 °	楕円形	0.18 × 0.16	20	皿状	外傾	－		
56	SK80	B 2 j1	－	円形	0.34 × 0.34	24	皿状	外傾	－		
57	SK81	B 2 j4	－	円形	0.16 × 0.16	22	皿状	外傾	－		
58	SK82	B 2 j4	－	円形	0.28 × 0.26	16	平坦	外傾	－		
59	SK84	B 2 j4	－	円形	0.26 × 0.24	26	平坦	外傾	－		
60	SK92	C 2 b1	N － 0 °	楕円形	0.32 × 0.28	44	皿状	外傾	－		
61	SK93	C 2 b1	N － 48° － E	楕円形	0.28 × 0.20	34	平坦	外傾・直立	－		
62	SK94	C 2 b1	－	円形	0.26 × 0.24	26	平坦	外傾・直立	－		
63	SK96	C 2 c1	N － 86° － W	楕円形	0.46 × 0.28	24	皿状	外傾・緩斜	人為		SI17 →本跡
64	SK97	C 2 e2	－	円形	0.50 × 0.46	40	凹凸	外傾	人為	土師器片	
65	SK115	C 2 d2	－	円形	0.30 × 0.28	46	平坦	外傾	人為		
66	SK131	C 2 d2	N － 24° － W	不定形	0.64 × 0.54	52	皿状	直立	人為	土師器片，鉄滓	
67	SK135	C 2 e3	－	円形	0.26 × 0.26	22	皿状	直立	自然	土師器片，須恵器片	
68	SK138	C 2 e1	N － 68° － E	楕円形	0.50 × 0.40	48	皿状	外傾・直立	人為	須恵器片	
69	SK139	C 2 e2	N － 81° － W	楕円形	0.50 × 0.44	24	平坦	緩斜	自然	須恵器片	
70	SK143	C 2 f2	－	円形	0.48 × 0.46	26	皿状	緩斜	自然		
71	SK154	C 2 f3	－	［円形］	［0.40］ × 0.38	26	平坦	外傾	人為	土師器片	
72	SK157	C 2 f4	－	円形	0.30 × 0.30	20	皿状	外傾	自然	土師器片	
73	SK165	C 1 f4	N － 0 °	楕円形	0.40 × 0.34	42	皿状	直立・緩斜	人為	土師質土器片	
74	SK168	C 2 g4	－	円形	0.48 × 0.44	26	平坦	外傾・直立	人為		

番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
75	SK169	C 2 f4	－	円形	0.28 × 0.26	34	皿状	外傾	人為		
76	SK183	C 2 g4	N － 83° － W	楕円形	0.48 × 0.32	32	皿状	緩斜・外傾	人為	土師器片	
77	SK184	C 2 h4	N － 53° － E	楕円形	0.60 × 0.44	40	平坦	直立・緩斜	人為	土師器片	
78	SK185	C 2 h4	N － 37° － W	楕円形	0.50 × 0.40	32	皿状	直立・外傾	人為		
79	SK186	C 2 h4	－	円形	0.24 × 0.22	34	平坦	外傾	人為	須恵器片	
80	SK187	C 2 h4	N － 90°	楕円形	0.40 × 0.36	46	皿状	直立・外傾	人為	土師器片	
81	SK189	C 2 h4	N － 52° － W	楕円形	0.38 × 0.34	30	皿状	外傾	人為	土師器片	
82	SK192	C 2 i2	－	円形	0.40 × 0.37	10	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	
83	SK194	C 2 i3	N － 61° － W	楕円形	0.50 × 0.44	28	皿状	外傾	人為	須恵器片	
84	SK195	C 2 i3	N － 61° － W	楕円形	0.46 × 0.34	20	皿状	直立・緩斜	人為	土師器片	
85	SK196	B 2 f7	N － 57° － E	楕円形	0.34 × 0.26	32	皿状	直立・外傾	人為		
86	SK197	B 2 h7	－	円形	0.42 × 0.40	18	皿状	外傾・緩斜	－		
87	SK198	B 2 h7	－	円形	0.32 × 0.32	16	皿状	直立・緩斜	－		
88	SK243	C 3 j2	N － 35° － E	円形	0.46 × 0.45	37	平坦	外傾	人為		SI37 →本跡
89	SK272	D 2 a9	N － 89° － W	楕円形	0.46 × 0.38	56	皿状	外傾	人為		
90	SK279	D 2 a0	－	円形	0.32 × 0.30	35	平坦	外傾・緩斜	人為	土師器片	SI43 →本跡
91	SK281	D 2 b0	N － 14° － E	楕円形	0.44 × 0.37	18	皿状	緩斜	人為		SI43 →本跡
92	SK284	D 2 b9	－	円形	0.30 × 0.28	27	皿状	外傾・緩斜	人為		
93	SK288	D 2 b9	－	円形	0.33 × 0.32	23	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI43 →本跡
94	SK289	D 2 a0	－	［円形］	0.46 ×（0.40）	14	皿状	緩斜	人為	土師器片	SI43 →本跡→ SB 7
95	SK294	D 2 a9	－	円形	0.38 × 0.38	44	皿状	外傾・直立	人為	土師器片	
96	SK297	C 2 e5	－	円形	0.32 × 0.32	42	皿状	外傾	－	土師器片，須恵器片	
97	SK298	C 2 e5	－	円形	0.34 × 0.32	26	皿状	外傾・緩斜	－		
98	SK308	D 2 a8	N － 36° － E	楕円形	0.56 × 0.38	38	皿状	外傾	人為	土師器片	
99	SK309	D 2 a8	－	円形	0.42 × 0.40	64	皿状	外傾	人為	土師器片	
100	SK311	D 2 b8	－	円形	0.44 × 0.42	32	傾斜	外傾	人為	土師器片	
101	SK313	D 2 d8	－	円形	0.42 × 0.42	38	皿状	外傾	人為		
102	SK318	D 2 b9	－	［不整円形］	0.42 × 0.42	12	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SB34
103	SK320	D 2 c9	－	不整円形	0.54 × 0.52	28	皿状	緩斜	人為		
104	SK328	D 2 c8	－	円形	0.36 × 0.34	58	皿状	直立	人為	土師器片	
105	SK330	D 2 c8	N － 74° － E	不定形	0.62 × 0.34	26	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
106	SK332	D 2 d8	－	円形	0.30 × 0.28	28	皿状	外傾	人為	土師器片	
107	SK351	D 2 b8	－	円形	0.42 × 0.40	26	皿状	直立	人為	土師器片	
108	SK358	D 2 a7	－	円形	0.46 × 0.46	38	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
109	SK364	D 2 a6	－	円形	0.32 × 0.30	66	皿状	直立	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SK1068
110	SK368	D 2 g7	N － 5 ° － W	楕円形	0.48 × 0.39	28	平坦	外傾	人為		SH 3 →本跡
111	SK374	D 2 a6	－	円形	0.46 × 0.42	22	皿状	緩斜	人為		
112	SK375	D 2 a6	－	円形	0.46 × 0.46	20	皿状	外傾	人為	土師器片	
113	SK388	C 2 j4	－	円形	0.28 × 0.26	30	皿状	直立	人為	土師器片，須恵器片	
114	SK389	C 2 j3	N － 67° － E	楕円形	0.54 × 0.38	32	凹凸	外傾	人為	土師器片	
115	SK424	D 1 b0	N － 5 ° － W	楕円形	0.40 × 0.32	11	皿状	外傾	人為		SB 3 →本跡
116	SK430	B 2 j4	N － 0 °	楕円形	0.44 × 0.34	19	凹凸	外傾・緩斜	人為		

番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
117	SK431	B 2 j4	－	円形	0.29 × 0.28	26	皿状	外傾	人為		
118	SK432	B 2 j5	N － 79° － W	楕円形	0.28 × 0.16	24	皿状	直立	人為		
119	SK433	B 2 j5	－	円形	0.26 × 0.25	22	皿状	直立	人為		
120	SK434	B 2 j5	－	円形	0.28 × 0.28	30	皿状	直立・緩斜	人為		
121	SK435	B 2 j5	N － 0°	楕円形	0.32 × 0.26	20	皿状	外傾・緩斜	人為		
122	SK436	B 2 j5	－	円形	0.36 × 0.34	24	傾斜	直立・緩斜	人為		
123	SK437	B 2 j5	N － 41° － W	［楕円形］	［0.26］ × 0.20	19	皿状	外傾	人為		
124	SK438	B 2 j6	N － 65° － W	［楕円形］	［0.49］ × 0.44	32	皿状	外傾	人為	土師器片	
125	SK439	B 2 j6	－	円形	0.22 × 0.20	18	皿状	外傾	人為		
126	SK440	C 2 a6	－	［円形］	［0.34］ × 0.32	43	皿状	直立	人為		
127	SK441	C 2 b6	－	円形	0.20 × 0.19	14	皿状	緩斜	人為		
128	SK442	C 2 c5	N － 0°	楕円形	0.19 × 0.17	32	皿状	外傾	－		
129	SK443	C 2 c4	－	［円形］	0.34 × ［0.34］	34	平坦	外傾	－		
130	SK444	C 2 b4	－	円形	0.28 × 0.26	24	皿状	緩斜・外傾	－		
131	SK445	C 2 a4	－	円形	0.17 × 0.16	34	皿状	外傾・直立	－		
132	SK446	C 2 a4	N － 28° － E	楕円形	0.21 × 0.18	29	皿状	外傾	－		
133	SK473	D 2 c5	N － 90°	隅丸長方形	0.40 × 0.34	56	皿状	外傾・直立	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SI42
134	SK480	D 2 c4	－	円形	0.49 × 0.46	40	皿状	外傾	人為	弥生土器片	
135	SK695	E 2 a7	N － 57° － W	楕円形	0.37 × 0.22	15	平坦	外傾	自然	土師器片	
136	SK697	E 2 a7	－	円形	0.26 × 0.24	14	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
137	SK809	F 2 f3	－	円形	0.34 × 0.34	28	皿状	外傾	人為		
138	SK810	F 2 f3	－	円形	0.58 × 0.58	46	凹凸	外傾	人為		
139	SK813	F 2 g3	N － 16° － E	不整楕円形	0.72 × 0.54	34	凹凸	緩斜	人為	土師器片	
140	SK817	E 1 j0	N － 40° － W	不整楕円形	0.42 × 0.34	20	皿状	外傾	自然		
141	SK824	F 2 f3	N － 16° － E	楕円形	0.80 × 0.64	16	凹凸	緩斜	人為		
142	SK828	F 1 c7	N － 77° － W	隅丸長方形	0.42 × 0.38	24	皿状	外傾	人為		
143	SK829	F 1 c8	－	円形	0.54 × 0.52	38	皿状	外傾・緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
144	SK832	F 1 d8	N － 8° － E	楕円形	0.46 × 0.34	22	皿状	外傾	人為		
145	SK834	F 1 d8	N － 90°	楕円形	0.74 × 0.58	26	平坦	外傾	人為	土師器片	
146	SK836	F 1 c7	N － 25° － E	楕円形	0.34 × 0.26	34	平坦	外傾	人為		
147	SK839	F 1 e0	N － 25° － E	楕円形	0.66 × 0.58	32	平坦	外傾	人為	土師器片	SD13 →本跡
148	SK860	F 1 g8	－	円形	0.46 × 0.44	31	凹凸	外傾	人為	土師器片	
149	SK868	B 2 h3	N － 90°	楕円形	0.28 × 0.24	42	平坦	直立	人為		
150	SK872	B 2 c2	N － 90°	楕円形	0.26 × 0.22	14	皿状	緩斜	人為		
151	SK873	B 2 c2	N － 90°	楕円形	0.20 × 0.18	24	皿状	外傾	人為		
152	SK879	B 2 j4	N － 0°	楕円形	0.16 × 0.14	52	皿状	直立	－		
153	SK880	C 2 c2	－	円形	0.28 × 0.28	34	皿状	外傾	人為		
154	SK881	B 2 j1	－	円形	0.20 × 0.20	36	平坦	直立	－	土師器片，須恵器片	
155	SK888	C 2 e2	N － 90°	楕円形	0.55 × 0.46	48	皿状	外傾	人為	土師器片	
156	SK889	C 2 e2	－	円形	0.46 × 0.42	14	平坦	外傾・緩斜	自然		
157	SK890	C 2 e2	－	円形	0.46 × 0.42	25	皿状	外傾	自然		
158	SK907	C 2 i7	N － 63° － E	不整楕円形	0.42 × 0.34	22	皿状	外傾	人為		SI30 →本跡

番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
159	SK929	C 2 e2	N − 43° − W	楕円形	0.30 × 0.24	38	皿状	直立	人為		
160	SK930	C 2 e2	−	円形	0.40 × 0.40	44	皿状	直立	人為		
161	SK931	C 2 e1	N − 0°	楕円形	0.36 × 0.32	30	皿状	直立	人為		
162	SK932	C 2 e1	−	円形	0.32 × 0.30	28	皿状	外傾・直立	人為		
163	SK933	C 2 e1	−	円形	0.26 × 0.24	14	皿状	外傾	人為	土師器片	
164	SK934	C 1 e0	N − 90°	楕円形	0.56 × 0.46	20	平坦	外傾	人為	須恵器片	
165	SK935	C 2 e1	N − 90°	楕円形	0.32 × 0.28	60	皿状	直立	人為		
166	SK936	C 2 e2	−	円形	0.38 × 0.36	14	平坦	緩斜	人為		
167	SK937	C 2 d1	N − 0°	不整楕円形	0.80 × 0.60	46	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
168	SK939	C 2 d2	−	円形	0.30 × 0.30	32	皿状	外傾	人為	土師器片	
169	SK940	C 2 d2	−	円形	0.38 × 0.36	60	皿状	外傾	人為		
170	SK941	C 2 d2	−	円形	0.26 × 0.26	52	皿状	直立	人為	土師器片	
171	SK942	C 2 d2	N − 30° − E	楕円形	0.36 × 0.32	42	皿状	外傾・緩斜	人為		
172	SK946	C 2 g2	−	円形	0.42 × 0.40	34	皿状	外傾・緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
173	SK947	C 2 g1	N − 0°	楕円形	0.42 × 0.34	72	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
174	SK948	C 2 f1	−	円形	0.34 × 0.32	40	皿状	外傾	人為		
175	SK950	C 2 f1	N − 85° − E	楕円形	0.31 × 0.27	34	皿状	外傾	人為		
176	SK953	C 2 e2	N − 0°	楕円形	0.23 × 0.20	34	皿状	外傾	人為		
177	SK954	C 2 e1	−	円形	0.26 × 0.26	24	皿状	外傾	人為	土師器片	
178	SK956	C 2 e2	N − 90°	楕円形	0.38 × 0.20	20	皿状	外傾	人為		
179	SK961	C 2 g1	−	円形	0.30 × 0.28	40	皿状	外傾	人為		
180	SK966	D 2 f9	N − 80° − W	隅丸長方形	0.58 × 0.48	56	皿状	緩斜・外傾	人為		SI54・55 →本跡
181	SK971	D 2 g8	N − 12° − E	楕円形	0.60 × 0.39	90	皿状	外傾	人為	須恵器片	SI54・55,SK967 →本跡 → SI78
182	SK976	C 2 j9	−	円形	0.50 × 0.48	12	皿状	緩斜	−		本跡→ SI35
183	SK978	C 2 j9	N − 21° − E	楕円形	0.42 × 0.34	45	皿状	外傾・緩斜	人為		本跡→ SI35
184	SK986	D 2 f3	−	円形	0.34 × 0.34	24	凹凸	外傾	人為		SB19 →本跡
185	SK987	D 1 c6	−	円形	0.40 × 0.38	12	皿状	緩斜	人為		SI41,SK342 →本跡 → SI42
186	SK988	D 2 c8	−	円形	0.34 × 0.34	16	凹凸	外傾	人為	土師器片	SI40 →本跡
187	SK989	D 2 c8	−	円形	0.37 × 0.34	40	凹凸	直立	−	土師器片	SI40 →本跡
188	SK990	D 2 c8	−	円形	0.36 × 0.34	42	皿状	直立	人為	土師器片	SI40 →本跡
189	SK991	D 2 c7	N − 90°	楕円形	0.48 × 0.32	16	平坦	外傾	人為		SI40,SB35 →本跡
190	SK995	D 2 g9	N − 90°	楕円形	0.52 × 0.44	20	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	本跡→ SI54
191	SK997	C 2 i8	N − 75° − W	［楕円形］	［0.55］× 0.46	24	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI55 →本跡 → SI54・78,P192
192	SK998	D 2 g8	N − 75° − W	楕円形	0.54 × 0.38	8	平坦	外傾	人為	土師器片	SI55,P191 →本跡 → SI54・78
193	SK999	D 2 g8	N − 18° − E	［楕円形］	0.68 ×（0.33）	17	平坦	緩斜	人為		SI55 →本跡 → SI54・78,P194
194	SK1000	D 2 g8	−	円形	0.48 × 0.46	16	皿状	外傾	人為		SI55,P193 →本跡 → SI54・78
195	SK1001	D 2 f8	−	円形	0.62 × 0.56	20	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI55 →本跡→ SI54
196	SK1002	D 2 b9	−	円形	0.22 × 0.22	20	皿状	外傾	人為	縄文土器片	SI43 →本跡
197	SK1003	D 2 b9	−	円形	0.40 × 0.38	28	皿状	外傾	人為	縄文土器片	SI43 →本跡
198	SK1014	D 2 e5	−	円形	0.34 × 0.34	38	皿状	外傾	人為		本跡→ SI62・63
199	SK1019	D 2 f3	−	円形	0.44 × 0.42	14	皿状	緩斜	人為		SI64 →本跡
200	SK1020	D 2 f4	−	不整円形	0.24 × 0.24	60	平坦	直立	人為	土師器片	SI64 →本跡

番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
201	SK1023	D２g4	N－48°－W	楕円形	0.40 × 0.35	30	平坦	外傾・緩斜	人為	弥生土器片	SI64 →本跡
202	SK1024	D２g4	N－90°	不定形	0.24 × 0.20	14	平坦	緩斜・外傾	人為		SI64 →本跡
203	SK1026	D２g6	N－1°－E	不整円形	0.58 × 0.56	22	凹凸	外傾	人為		
204	SK1027	C２i4	－	円形	0.32 × 0.32	18	凹凸	外傾	－		SI26 →本跡
205	SK1028	C２j4	N－0°	楕円形	0.38 × 0.34	12	皿状	緩斜	人為		SI26 →本跡
206	SK1029	C２j4	－	円形	0.26 × 0.26	18	皿状	外傾	人為		SI26 →本跡
207	SK1034	C２j5	N－21°－E	楕円形	0.28 × 0.20	30	平坦	緩斜	人為		SI26 →本跡
208	SK1035	C２j5	N－57°－W	楕円形	0.36 × 0.32	32	平坦	外傾	人為		P209 →本跡
209	SK1036	C２j5	－	円形	0.46 × 0.46	18	平坦	緩斜	人為	土師器片	本跡→ P208
210	SK1037	C２j4	N－49°－W	楕円形	0.36 × 0.26	4	平坦	緩斜	人為		SI26 →本跡
211	SK1040	D２a4	－	円形	0.32 × 0.30	25	皿状	外傾	人為		SI26 →本跡
212	SK1041	D２a4	－	円形	0.20 × 0.20	14	皿状	外傾	人為		SI26 →本跡
213	SK1042	D２a4	N－50°－W	楕円形	0.20 × 0.18	18	皿状	外傾	人為		SI26 →本跡
214	SK1043	D２a4	N－64°－W	［楕円形］	0.50 ×［0.38］	12	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI26,SB40 →本跡 → P215
215	SK1044	D２a4	－	円形	0.24 × 0.22	22	皿状	外傾	人為		SI26,SB40,P214 →本跡
216	SK1045	D２a4	N－33°－E	楕円形	0.57 × 0.49	24	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI26 →本跡
217	SK1046	D２a4	N－38°－E	［楕円形］	0.34 ×［0.28］	36	皿状	外傾	人為		SI26 →本跡
218	SK1047	D２b4	－	円形	0.50 × 0.50	8	平坦	緩斜	人為		
219	SK1048	D２a4	－	円形	0.38 × 0.36	28	皿状	外傾	人為	土師器片	SI26 →本跡
220	SK1050	C２j4	N－90°	［楕円形］	0.46 ×［0.28］	28	皿状	外傾	人為	土師器片	SI26 →本跡
221	SK1057	D２a3	－	円形	0.36 × 0.36	30	平坦	外傾	人為		SB40 →本跡
222	SK1058	D２a3	N－90°	［楕円形］	［0.30］× 0.24	22	皿状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ P223
223	SK1059	D２a3	N－17°－E	楕円形	0.52 × 0.44	34	凹凸	外傾	人為		P222 →本跡
224	SK1062	D２c9	N－0°	楕円形	0.40 × 0.36	48	皿状	外傾	人為	土師器片	
225	SK1066	D２b8	－	円形	0.52 × 0.48	38	皿状	外傾・緩斜	人為	土師器片	
226	SK1067	D２a7	N－68°－E	楕円形	0.57 × 0.49	36	平坦	直立	人為		
227	SK1070	D２b9	－	円形	0.37 × 0.37	30	皿状	直立	人為	土師器片	
228	SK1071	D２c5	N－27°－W	楕円形	0.46 × 0.34	33	凹凸	外傾	人為	土師器片	
229	SK1073	C２j3	－	円形	0.36 × 0.36	26	平坦	直立	人為		
230	SK1074	D２a3	－	円形	0.28 × 0.27	40	皿状	直立	人為	土師器片	
231	SK1075	D２a4	N－90°	楕円形	0.34 × 0.29	34	皿状	外傾	人為	土師器片	
232	SK1076	D２a4	－	円形	0.30 × 0.28	14	皿状	外傾	人為		
233	SK1078	D２b4	－	円形	0.24 × 0.23	22	皿状	外傾	人為	須恵器片	
234	SK1081	D２b4	－	円形	0.38 × 0.38	16	平坦	緩斜・外傾	人為		
235	SK1082	D２b3	－	円形	0.34 × 0.33	38	平坦	直立	人為		
236	SK1084	D２b3	N－90°	楕円形	0.33 × 0.24	18	皿状	緩斜・直立	人為		
237	SK1085	D２b2	－	円形	0.28 × 0.25	31	皿状	直立	人為		
238	SK1087	D２b2	－	円形	0.46 × 0.44	40	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SK1086
239	SK1088	D２b2	N－90°	楕円形	0.26 × 0.14	12	皿状	緩斜	人為		
240	SK1089	D２b2	－	円形	0.22 × 0.20	6	皿状	緩斜	人為		
241	SK1090	D２b2	－	円形	0.30 × 0.30	28	皿状	外傾	人為		
242	SK1091	D２b2	－	円形	0.40 × 0.40	40	皿状	直立・緩斜	人為		

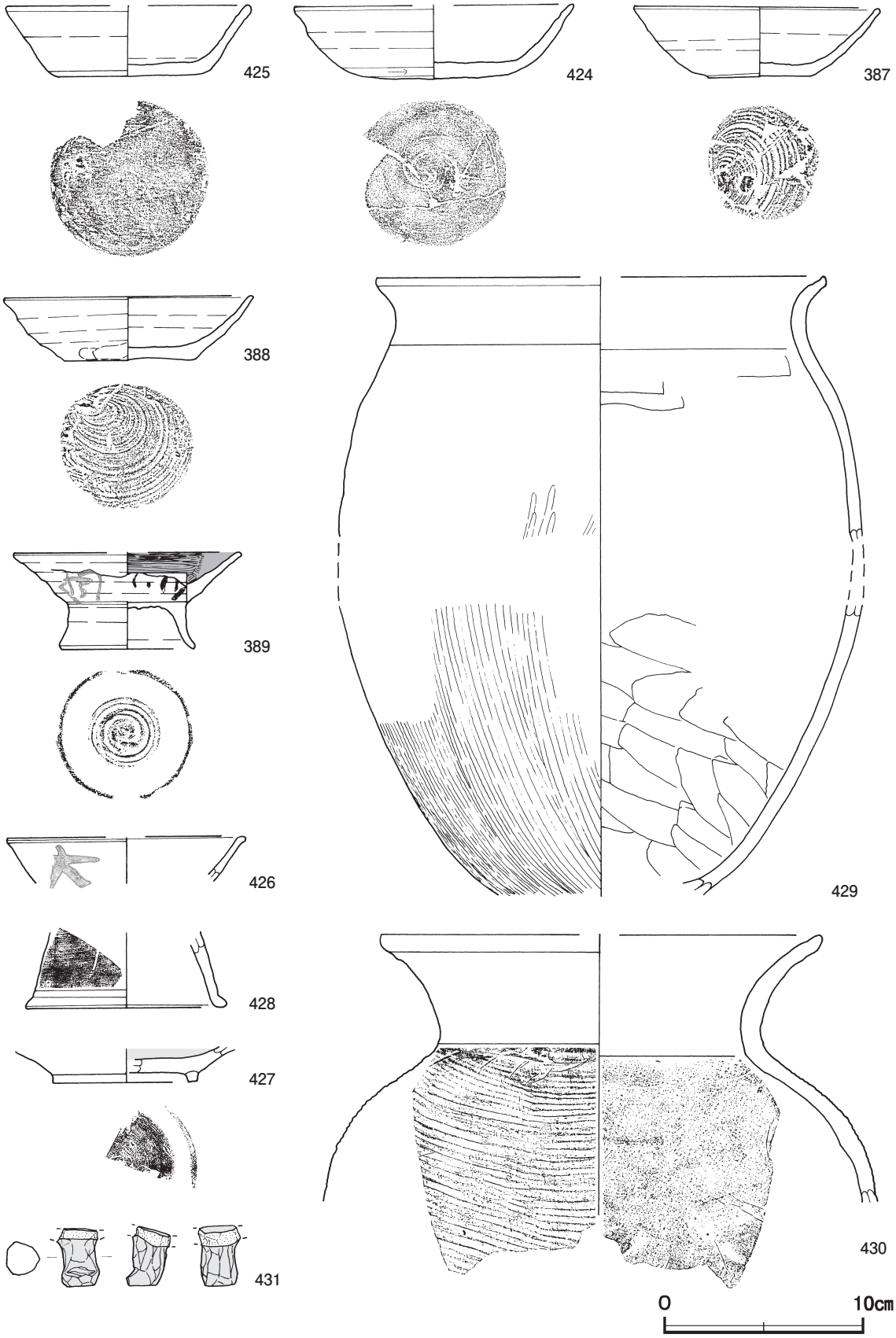
番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
243	SK1092	D 2 b1	－	円形	0.28 × 0.26	13	皿状	緩斜	人為		
244	SK1093	D 2 b1	N － 90°	楕円形	0.34 × 0.30	35	皿状	緩斜	人為		
245	SK1094	D 2 b1	－	円形	0.30 × 0.28	25	平坦	外傾	人為		
246	SK1095	D 1 c0	N － 26° － E	楕円形	0.44 × 0.30	32	皿状	緩斜	人為		
247	SK1096	D 1 b0	N － 0°	楕円形	0.40 × 0.28	43	皿状	緩斜	人為		
248	SK1097	D 1 b9	－	円形	0.48 × 0.48	36	平坦	外傾・直立	人為		
249	SK1098	D 1 b9	N － 60° － W	不整楕円形	0.58 × 0.50	37	皿状	緩斜	人為	土師器片	
250	SK1099	C 1 h0	N － 48° － E	不整楕円形	0.37 × 0.32	58	皿状	直立	人為	土師器片	
251	SK1100	C 1 h0	N － 0°	楕円形	0.36 × 0.30	58	皿状	外傾	人為	土師器片	
252	SK1101	D 2 b9	－	円形	0.36 × 0.34	12	皿状	緩斜	人為	土師器片	
253	SK1103	C 1 i0	N － 0°	楕円形	0.28 × 0.24	50	平坦	直立	人為		
254	SK1104	C 1 h0	N － 0°	楕円形	0.38 × 0.34	32	平坦	外傾	人為		
255	SK1105	C 1 h0	N － 20° － E	楕円形	0.32 × 0.28	26	皿状	緩斜・外傾	人為		
256	SK1106	C 1 i0	－	円形	0.28 × 0.28	42	平坦	外傾・直立	人為		
257	SK1107	C 1 i0	N － 72° － W	楕円形	0.32 × 0.28	46	皿状	直立・外傾	人為		
258	SK1108	C 1 j0	N － 90°	楕円形	0.34 × 0.26	30	皿状	直立	人為	土師器片，須恵器片	
259	SK1109	C 1 j0	N － 90°	隅丸長方形	0.28 × 0.24	52	皿状	外傾	人為		
260	SK1110	C 2 i1	－	円形	0.26 × 0.26	18	皿状	直立	人為		
261	SK1111	C 2 j1	N － 61° － W	楕円形	0.40 × 0.32	40	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
262	SK1112	C 2 j1	－	円形	0.20 × 0.20	14	皿状	外傾	人為		
263	SK1113	C 1 h0	N － 90°	楕円形	0.42 × 0.38	44	皿状	外傾	人為		
264	SK1114	C 1 h0	N － 59° － W	楕円形	0.32 × 0.26	36	皿状	外傾	人為		
265	SK1115	C 1 h0	－	円形	0.26 × 0.24	22	平坦	直立	人為		
266	SK1116	C 1 h0	－	円形	0.22 × 0.22	32	平坦	外傾	人為		
267	SK1117	C 1 h0	－	円形	0.28 × 0.28	24	平坦	外傾	人為		
268	SK1118	C 1 i9	N － 11° － E	楕円形	0.36 × 0.30	24	皿状	外傾	人為		
269	SK1119	C 1 i0	N － 18° － E	楕円形	0.32 × 0.28	40	皿状	外傾	人為		
270	SK1127	D 2 f5	N － 50° － W	楕円形	0.54 × 0.40	42	凹凸	緩斜	人為		
271	SK1129	D 2 b3	N － 35° － E	不定形	0.48 × 0.40	50	皿状	外傾	人為	陶器片	SI25 →本跡
272	SK1130	D 2 b7	N － 17° － W	不整長方形	1.00 × 0.76	38	皿状	緩斜	人為		本跡→ SK347
273	SK1132	D 1 g0	N － 90°	楕円形	0.34 × 0.30	12	平坦	緩斜・外傾	－		
274	SK1133	D 1 f0	－	円形	0.32 × 0.30	18	皿状	緩斜	－		
275	SK1134	D 1 f9	－	円形	0.24 × 0.24	22	皿状	外傾	－		
276	SK1135	D 1 f0	N － 47° － E	楕円形	0.36 × 0.28	26	平坦	外傾	－		
277	SK1136	D 1 f0	－	円形	0.18 × 0.18	28	皿状	外傾・直立	－		
278	SK1137	D 1 f0	－	円形	0.28 × 0.26	24	皿状	緩斜	－		
279	SK1138	D 2 f1	N － 67° － W	楕円形	0.34 × 0.28	28	平坦	外傾	－	土師器片，須恵器片	
280	SK1139	D 2 f1	N － 60° － W	楕円形	0.40 × 0.26	26	平坦	外傾	－	土師器片	
281	SK1140	D 2 f1	N － 13° － E	楕円形	0.28 × 0.24	46	平坦	外傾	－		
282	SK1141	D 1 f0	N － 10° － W	楕円形	0.38 × 0.28	32	凹凸	外傾	－		
283	SK1142	D 1 f0	－	円形	0.34 × 0.32	52	平坦	外傾	－		
284	SK1143	D 1 f0	－	円形	0.22 × 0.22	30	平坦	外傾	－		

番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
285	SK1144	D 1 f0	N－66°－E	楕円形	0.44 × 0.30	50	凹凸	外傾・直立	－		
286	SK1145	D 1 f0	－	円形	0.32 × 0.32	52	平坦	外傾・直立	－	土師器片	
287	SK1146	D 1 f0	N－51°－E	楕円形	0.28 × 0.24	10	平坦	緩斜	－	土師器片	
288	SK1147	D 1 f9	－	円形	0.34 × 0.34	22	皿状	外傾	－		
289	SK1148	D 1 f9	N－64°－W	楕円形	0.36 × 0.30	62	皿状	直立	－		
290	SK1149	D 1 e0	－	円形	0.28 × 0.28	32	皿状	外傾	－	土師器片	
291	SK1150	D 1 e9	N－0°	楕円形	0.36 × 0.32	32	皿状	外傾	－		
292	SK1151	D 1 e0	N－75°－E	楕円形	0.36 × 0.32	20	凹凸	直立	人為	灰釉陶器片	
293	SK1153	D 1 e9	－	円形	0.28 × 0.26	32	皿状	外傾	－		
294	SK1154	D 1 e9	N－90°	楕円形	0.32 × 0.28	26	皿状	外傾	－		
295	SK1155	D 1 e0	N－90°	楕円形	0.32 × 0.28	18	皿状	緩斜	－		
296	SK1156	D 1 e0	N－15°－E	楕円形	0.40 × 0.30	32	皿状	外傾	－		
297	SK1157	D 1 e0	N－14°－E	楕円形	0.28 × 0.22	24	平坦	外傾	－		
298	SK1158	D 1 e9	N－69°－E	楕円形	0.24 × 0.18	20	平坦	直立	－		
299	SK1159	D 1 e0	N－77°－E	楕円形	0.36 × 0.30	52	皿状	外傾	－	土師器片	
300	SK1160	D 2 b9	N－6°－E	楕円形	0.30 × 0.20	30	平坦	外傾	－		
301	SK1161	D 1 e0	－	円形	0.24 × 0.22	30	平坦	外傾	－		
302	SK1162	D 1 e0	N－83°－W	楕円形	0.42 × 0.30	40	平坦	外傾	－		
303	SK1163	D 2 e1	－	円形	0.28 × 0.26	32	平坦	外傾	－		
304	SK1164	D 1 e0	N－40°－E	楕円形	0.32 × 0.22	32	平坦	外傾	－		
305	SK1165	D 1 d0	－	円形	0.26 × 0.26	32	平坦	外傾	－		
306	SK1166	D 1 d0	N－22°－E	楕円形	0.28 × 0.22	28	平坦	外傾・直立	－		
307	SK1167	D 1 d9	N－80°－E	楕円形	0.52 × 0.33	51	凹凸	外傾・直立	－		
308	SK1168	D 1 d9	－	円形	0.24 × 0.24	28	平坦	外傾・直立	－		
309	SK1169	D 1 d9	N－0°	楕円形	0.30 × 0.26	68	平坦	直立	－		
310	SK1170	D 1 c9	－	円形	0.24 × 0.22	26	皿状	外傾	－		
311	SK1171	D 1 c0	N－0°	楕円形	0.30 × 0.22	35	平坦	外傾	－		
312	SK1172	D 1 c0	－	円形	0.26 × 0.26	30	平坦	外傾	－		
313	SK1174	D 2 d1	N－0°	楕円形	0.34 × 0.30	14	平坦	緩斜	－		
314	SK1175	D 2 d1	N－52°－E	楕円形	0.40 × 0.29	42	平坦	外傾	－	土師器片	
315	SK1176	D 1 c0	N－16°－W	楕円形	0.34 × 0.26	40	皿状	外傾	－		
316	SK1177	D 1 c9	N－0°	楕円形	0.33 × 0.28	50	平坦	外傾	－		
317	SK1178	D 1 c9	－	円形	0.35 × 0.32	22	平坦	外傾・直立	－	土師器片	
318	SK1179	D 1 c9	－	円形	0.34 × 0.33	20	平坦	緩斜	－		
319	SK1180	D 1 b9	N－69°－W	楕円形	0.44 × 0.30	50	凹凸	直立・外傾	－		
320	SK1181	D 1 c0	N－90°	楕円形	0.33 × 0.24	26	平坦	外傾	－		
321	SK1182	D 1 c0	－	円形	0.20 × 0.19	38	皿状	外傾	－	土師器片	
322	SK1183	D 1 b0	－	円形	0.25 × 0.25	30	平坦	外傾	－	須恵器片	
323	SK1184	D 2 c1	－	円形	0.34 × 0.34	56	平坦	外傾	－		
324	SK1185	D 2 c1	－	円形	0.39 × 0.38	40	平坦	外傾	－		
325	SK1186	D 1 b0	N－26°－E	楕円形	0.32 × 0.23	24	平坦	直立・緩斜	－		
326	SK1187	D 1 b9	N－0°	楕円形	0.46 × 0.40	39	平坦	外傾	－	縄文土器片	

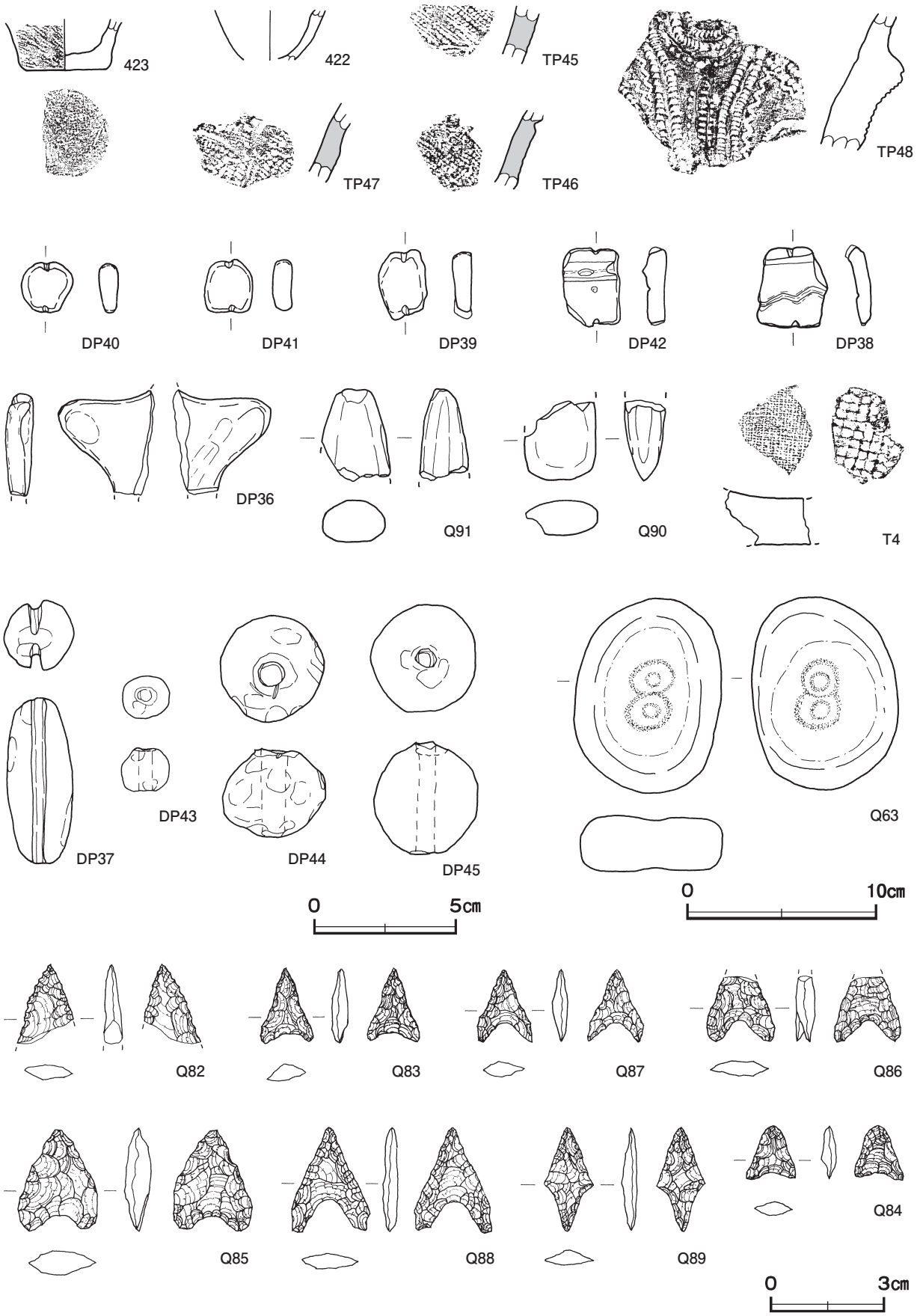
番号	旧番号	位 置	長径方向	平面形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					長径×短径（m）	深さ（cm）					
327	SK1188	D 1 b0	N － 90°	楕円形	0.33 × 0.296	24	平坦	外傾	－		
328	SK1189	D 1 b0	－	円形	0.22 × 0.22	24	平坦	外傾	－		
329	SK1191	D 1 b0	－	円形	0.25 × 0.24	36	平坦	外傾	－		
330	SK1192	D 1 a0	－	円形	0.34 × 0.32	49	平坦	外傾	－		SH11 →本跡
331	SK1193	D 1 a0	N － 76° －W	楕円形	0.30 × 0.25	14	平坦	緩斜	－	土師器片	
332	SK1194	D 2 a1	N － 15° － E	楕円形	0.25 × 0.20	10	平坦	緩斜	－		
333	SK1195	D 2 b2	N － 22° － E	楕円形	0.40 × 0.30	24	平坦	外傾	－	土師器片	
334	SK1196	D 2 b1	－	円形	0.30 × 0.30	20	平坦	外傾	－		
335	SK1197	C 2 f3	N － 6 ° － E	［楕円形］	（0.40） × 0.34	28	皿状	直立・外傾	人為		
336	SK1200	C 2 e3	N － 90° － E	楕円形	0.54 × 0.48	32	平坦	緩斜	－	縄文土器片	
337	SK1201	C 2 e3	－	円形	0.53 × 0.53	29	平坦	緩斜	－		
338	SK1202	C 2 g4	N － 33° － E	楕円形	0.40 × 0.30	44	皿状	緩斜	－	土師器片	
339	SK1203	C 2 g4	N － 29° － E	［不定形］	0.46 × （0.30）	27	平坦	緩斜	－		
340	SK1204	C 2 h4	－	円形	0.44 × 0.40	56	平坦	外傾	－		
341	SK1205	C 2 h4	－	円形	0.34 × 0.34	25	平坦	外傾	－		
342	SK1206	C 2 h3	N － 30° － E	楕円形	0.42 × 0.34	50	平坦	外傾	－	土師器片，鉄滓	
343	SK1209	D 2 a2	N － 34° － E	楕円形	0.52 × 0.43	53	平坦	外傾	－		SI25 →本跡→ SI63
344	SK1211	D 2 f0	N － 48° －W	楕円形	0.38 × 0.30	10	皿状	外傾・緩斜	－	縄文土器片	
345	SK1212	D 2 f9	N － 44° － E	楕円形	0.38 × 0.32	29	皿状	外傾・緩斜	－		SK552 →本跡
346	SK1213	D 2 i4	N － 44° － E	楕円形	0.37 × 0.33	16	皿状	緩斜	－	土師器片	
347	SK1214	D 2 e5	－	円形	0.50 × 0.49	16	皿状	緩斜	人為		SI62,SB20 →本跡
348	SK1216	D 2 f5	N － 26° － E	楕円形	0.56 × 0.50	23	皿状	緩斜	人為		SB20 →本跡→ SI63
349	SK1217	C 2 j8	－	円形	0.33 × 0.32	58	皿状	外傾	－		SI30 →本跡
350	SK8	B 2 c1	N － 90°	楕円形	0.20 × 0.14	10	平坦	外傾	人為		
351	SK87	C 2 b1	－	円形	0.46 × 0.46	26	凹凸	外傾	－	縄文土器片	
352	SK871	B 2 c2	N － 0 °	［楕円形］	0.22 × （0.18）	30	皿状	直立	－		SK10 →本跡
353	SK360	D 2 j7	N － 90°	楕円形	0.46 × 0.32	46	皿状	外傾	人為	土師質土器片	
354	PG 6 P 1	B 2 i4	－	円形	0.19 × 0.18	12	皿状	直立	－		
355	PG 6 P 2	B 2 i4	－	円形	0.19 × 0.18	22	皿状	外傾・直立	－		
356	PG 6 P 3	B 2 a3	N － 90°	楕円形	0.30 × 0.25	33	皿状	直立	－		
357	PG 6 P 4	B 2 a3	－	円形	0.20 × 0.20	31	皿状	直立	－		
358	PG 6 P 5	B 2 j2	N － 90°	楕円形	0.22 × 0.18	32	皿状	直立	－		
359	PG 6 P 6	B 2 j2	－	楕円形	0.23 × 0.19	16	平坦	直立	－		
360	PG 6 P 7	B 2 j2	－	円形	0.21 × 0.20	19	皿状	外傾・直立	－		
361	PG 6 P 8	B 2 j2	－	円形	0.21 × 0.20	34	皿状	直立	－		
362	PG 6 P 9	B 2 i3	N － 45°	楕円形	0.16 × 0.14	18	皿状	直立	－		
363	PG 6 P10	B 2 i3	－	円形	0.21 × 0.19	32	皿状	直立	－		
364	PG 6 P11	B 2 j3	－	円形	0.23 × 0.21	34	皿状	直立	－		
365	PG 6 P12	B 2 j3	－	円形	0.20 × 0.19	46	皿状	直立	－		
366	PG 6 P13	B 2 j3	N － 90°	楕円形	0.25 × 0.20	40	皿状	直立	－		
367	PG 6 P14	B 2 j3	N － 78° －W	楕円形	0.34 × 0.21	24	平坦	直立	－		
368	PG 6 P15	B 2 j3	－	円形	0.33 × 0.31	63	皿状	直立	－		

(9) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について，実測図と観察表を掲載する。



第 264 図　遺構外出土遺物実測図（1）



第 265 図　遺構外出土遺物実測図（2）

遺構外出土遺物観察表（第 264・265 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
422	縄文土器	深鉢	－	(2.6)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	尖底土器底部	SI34	5 %
423	弥生土器	広口壺	－	(2.7)	4.7	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	付加条１種縄文	SK1010	5 %
424	須恵器	坏	[14.0]	3.7	7.4	長石・石英	灰黄褐	良好	底部回転ヘラ削り	SI30 上層	50%
425	須恵器	坏	[12.3]	3.6	8.0	長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	表土	50%
426	土師器	坏	[11.8]	(2.3)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	墨書「大」	SI41	5 %
387	土師器	坏	12.5	3.4	5.4	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	E 2 a3	55%
388	土師器	坏	12.4	3.3	6.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	底部回転糸切り	E 2 a3	40%
389	土師器	高台付皿	[11.4]	4.9	6.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　墨書「□・□」	E 2 a3	50%　PL50
427	灰釉陶器	皿	－	(1.8)	[7.3]	緻密	灰白	良好	内面全体施釉　底部露胎	D 1 e0	10%
428	須恵器	円面硯	－	(3.9)	10.1	長石・石英	灰白	良好	透孔	SD11	5 %
429	土師器	甕	[22.6]	(27.8)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ	SI30 上層	40%
430	須恵器	甕	[22.2]	(13.2)	－	長石・石英	灰	普通	体部横位の平行叩き	表採	20%
431	灰釉陶器	香炉	－	(3.0)	－	緻密	灰黄	良好	脚部片　ヘラナデ	SD5	5 %

番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP45	縄文土器	深鉢	長石・繊維	にぶい橙	普通	付加条１種縄文	SI56	
TP46	縄文土器	深鉢	長石・繊維	にぶい橙	普通	単節縄文 RL	SH 3	
TP47	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	単節縄文 RL・LR　羽状構成	SH 4	
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	刺突文・キザミをもつ隆帯　隆帯脇複列・波状の有節沈線文	第１号大形円形土坑	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP36	土偶	(5.5)	(5.1)	1.6	(31.7)	長石・石英・雲母・赤色粒子	右腕部片　ナデ	SI54	PL54
DP37	有溝土錘	5.9	2.4	2.4	33.6	赤色粒子	ナデ　ヘラ状工具による溝２か所	SD1	PL54
DP38	土器片錘	4.4	3.8	1.3	16.1	長石・石英	波状沈線文	SI25	PL54
DP39	土器片錘	3.7	2.6	1.0	9.3	長石・石英	ナデ	SI25	PL54
DP40	土器片錘	2.8	2.7	1.1	7.7	赤色粒子	ナデ	SI25	PL54
DP41	土器片錘	2.8	2.6	1.1	7.8	長石・石英	ナデ	SI25	PL54
DP42	土器片錘	4.2	3.1	1.2	14.7	長石・石英	刻みをもつ隆帯	SB25 P2	PL54

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP43	土玉	1.5	1.7	0.5	4.0	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部ヘラ削り	SD11	PL52
DP44	土玉	3.2	3.7	0.9	37.0	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部摩滅　紐擦れ痕有り	SK1010	PL52
DP45	土玉	4.0	3.8	0.8	52.0	長石・石英	一方向からの穿孔　孔端部ナデ	SK1010	PL52

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
T 4	平瓦	(5.5)	(4.0)	(2.9)	(61.0)	長石・赤色粒子	凹面布目痕　凸面格子状叩き	SI30	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 82	鏃	(2.1)	(1.5)	(0.5)	(1.0)	黒曜石	基部欠損　両面押圧剥離	SI25	PL54
Q 83	鏃	2.0	1.4	0.5	0.8	チャート	両面押圧剥離　凹基無茎鏃	SI54	PL54
Q 84	鏃	1.5	1.3	0.4	0.7	チャート	両面押圧剥離　凹基無茎鏃	SI62	PL54
Q 85	鏃	2.7	2.1	0.7	3.3	黒曜石	両面押圧剥離　凹基無茎鏃	SI71	PL54
Q 86	鏃	(1.7)	1.8	0.5	(1.3)	黒曜石	先端部欠損　両面押圧剥離　凹基無茎鏃	SI83	PL54
Q 87	鏃	1.9	1.5	0.4	0.6	チャート	両面押圧剥離　凹基無茎鏃	SB20 P10	PL54
Q 88	鏃	2.7	2.1	0.4	1.7	チャート	両面押圧剥離　凹基無茎鏃	第１号大形円形土坑	PL54
Q 89	鏃	2.8	1.3	0.4	0.9	チャート	両面押圧剥離　凸基有茎鏃	表土	PL54
Q 90	磨製石斧	(4.1)	(3.9)	(2.3)	(44.0)	凝灰岩	刃部片　全面研磨	SD10	PL54
Q 91	磨製石斧	(4.9)	(3.5)	(2.6)	(56.7)	凝灰岩	基部片　全面研磨	表土	PL54
Q 63	磨石	10.3	7.8	3.1	418.4	安山岩	凹痕表２，裏２か所　両面摩痕	C 2 e1	PL54

第４節　ま　　と　　め

1　はじめに

小作遺跡は，稲敷郡阿見町の北東部，霞ヶ浦の南方約２㎞に位置し，清明川左岸の稲敷台地の軸部から北東方向へ延びるやせ尾根状の台地上に広がっている。今回の調査区は，その東端部の標高 14 ～ 25m の斜面部から台地上にかけて立地している。周辺地形は，南北に清明川支流の沖積低地があり，東西にも浅い開析谷が入り込んだ小丘状を呈しており，台地上の平坦部は，東西 130 m，南北 110 mの範囲である。

調査の結果，竪穴住居跡 49 軒，掘立柱建物跡 39 棟，方形竪穴遺構 11 基，陥し穴６基，大形円形土坑１基などが確認でき，縄文時代，古墳時代，奈良時代から平安時代にかけての集落跡であることが判明した。

本節では，各時代の出土土器や集落の様相を概観し，遺跡の性格について若干の考察を加えて，まとめとしたい。

2　縄文時代（第 266 図）

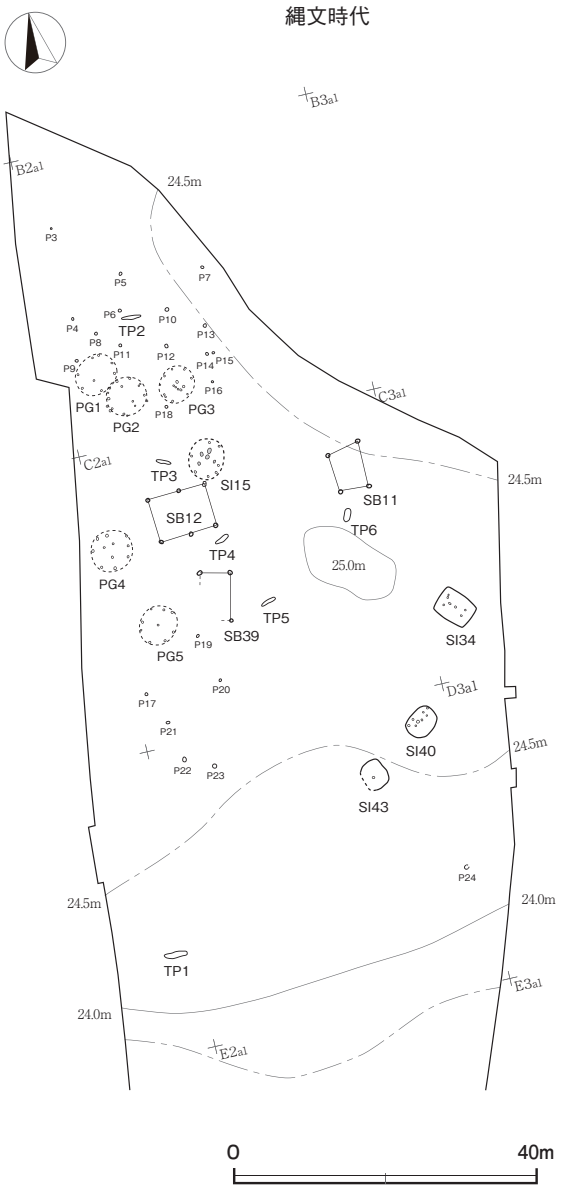
縄文時代の遺構は，調査区北部，標高 24.5 ～ 25 m の台地頂部付近に集中しており，竪穴住居跡４軒（第 15・34・40・43 号住居跡），掘立柱建物跡３棟（第 11・12・39 号掘立柱建物跡），陥し穴６基（第１～６号陥し穴）が確認できた。また，時代不明としたピット群５か所（第１～５号ピット群），ピット 22 か所（第３～ 24 号ピット）も覆土や形状から当時代に帰属する可能性がある。

竪穴住居跡は，隅丸長方形で４か所の主柱穴が規則的に配置されたもの，不整円形または不整楕円形で主柱穴が不鮮明なもの，ピットが円形に並び，中央部に炉をもつものがある。また，ピット群も柱穴が円形に並んでおり，住居跡の可能性がある。

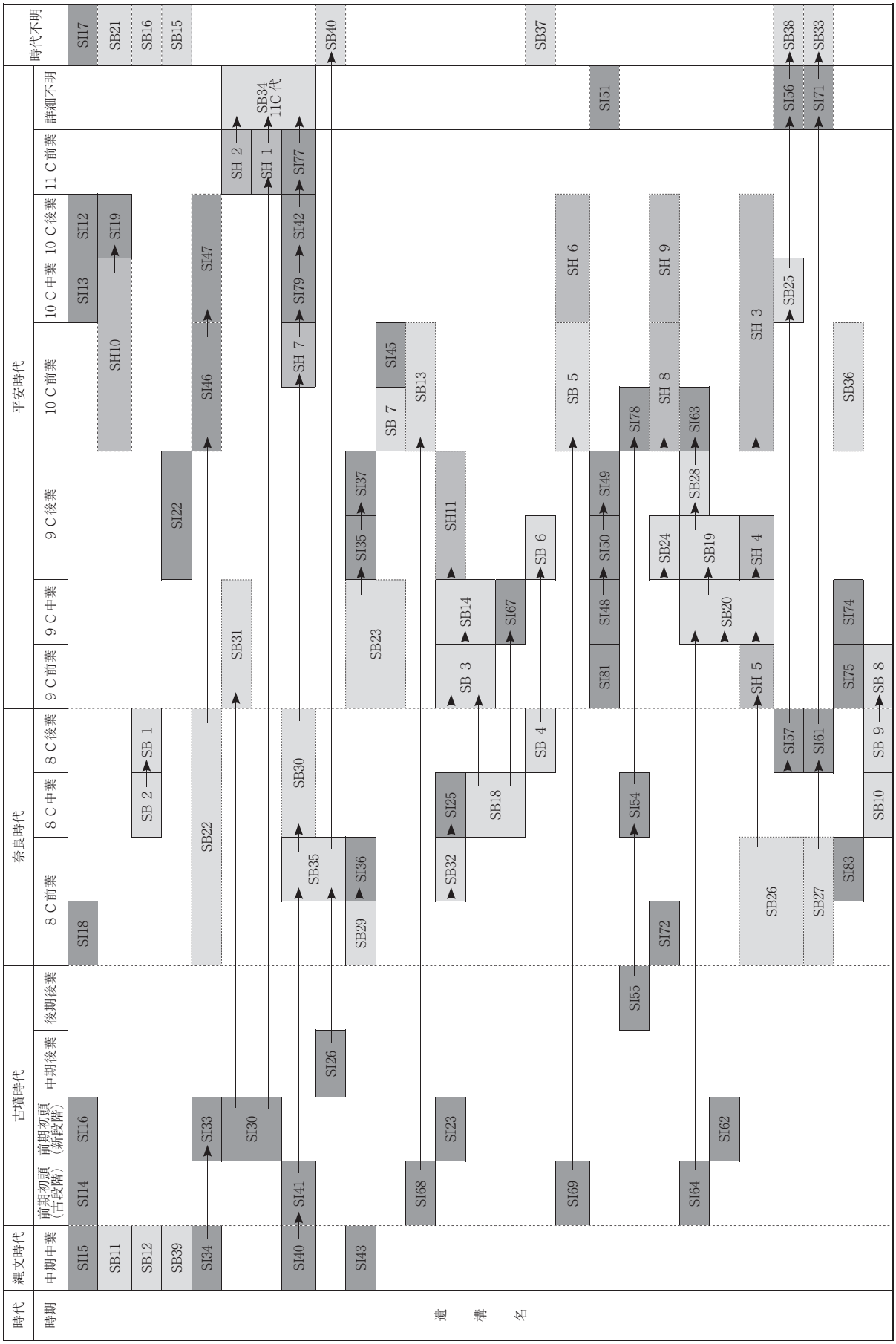
掘立柱建物跡とピットは，平面形が径 40㎝前後の円形で，深さが 70㎝以上と深く，150㎝を超えるものもみられる。第 12 号掘立柱建物跡は，Ｐ３から縄文土器深鉢の胴部が正位の状態で出土している。

これらの遺構から出土した縄文土器[1)]は，地文が無く，隆帯に沿って複列の有節沈線文が施されている阿玉台Ⅱ式期のものが中心である。

陥し穴は，長径 1.7 ～ 2.8 m，短径 0.4 ～ 0.8 mの楕円形で，深さ 30 ～ 80㎝であり，断面逆台形である。第２～５号陥し穴は，台地の頂上部付近に位置し，10 ～ 20 mの間隔で連続的に配置されている。時期は，出土遺物が無いため不明である。



第 266 図　小作遺跡遺構配置図①



第 267 図　小作遺跡主要遺構重複関係一覧表

3　古墳時代（第 268・269 図）

古墳時代の遺構は，調査区中央部の平坦な台地上に分布しており，竪穴住居跡 12 軒，土坑 1 基が確認できた。住居跡の時期別の内訳は，前期初頭（第 14・16・23・30・33・41・62・64・68・69 号住居跡）が 10 軒で，中期後葉（第 26 号住居跡）と後期中葉（第 55 号住居跡）がそれぞれ 1 軒である。ここでは，前期初頭の出土土器と竪穴住居跡の特徴についてふれ，集落の様相について述べる。

(1) 出土土器について（第 268 図）

器種は，高坏・器台・壺・甕・ミニチュア土器・手捏土器が出土している。

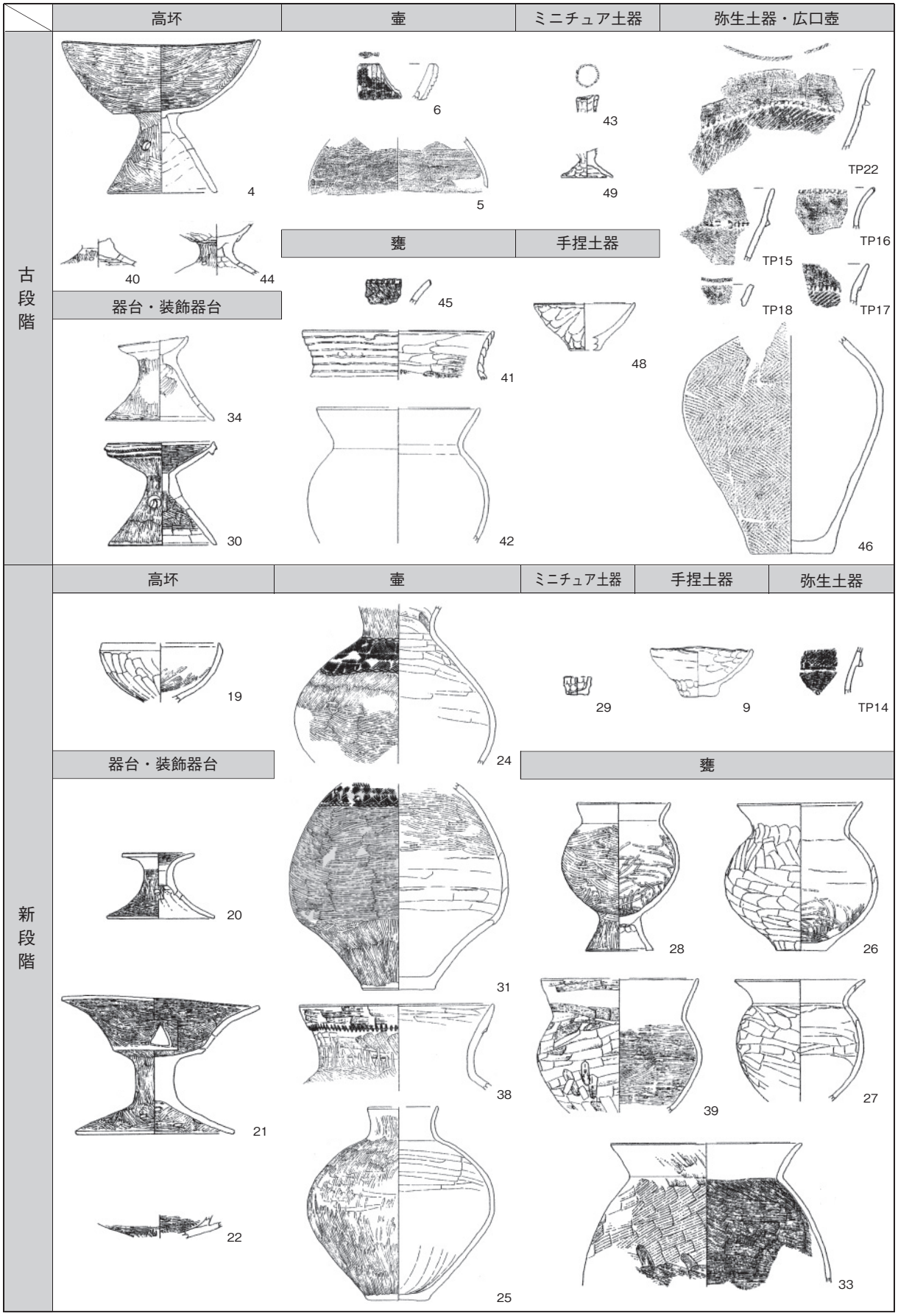
高坏（４）は，坏部に稜をもち，坏部が深く，脚部がわずかに内彎する東海地方の元屋敷系高坏の古い様相（廻間Ⅱ式前半[2)]）を示している。ただし，坏部のヘラ磨きがやや粗雑であり，調整方向が横位で，器形に均整を欠く点に在地的な要素が認められる。小形の開脚高坏（19・40・44）は，坏部が下端に稜をもつものと椀形のものがある。小形器台（20・30・34）は，単口縁のものと口縁部下端にキザミをもつ隆帯が付加されたものがみられる。大形の装飾器台（21）は，坏部に三角形の透かし孔が４か所，脚部に円孔が12か所穿たれている。中実柱状脚の高坏が祖形と考えられるが，出自は不明である。装飾壺（５・６・24・31）は，折り返し口縁で，口縁部に斜縄文が施され，キザミをもつ棒状浮文が貼り付けられたもの，肩部に１条のＳ字状結節文が施されたもの，羽状構成の縄文帯の上下をＳ字状結節文で区画したものがみられる。これらは，東京湾岸地域に分布するものである。その他，折り返し口縁の下端に刺突列が施された広口壺（38）や無文の直口壺（25）もある。甕は，口縁部にキザミをもち，ハケ調整が施された武蔵地方のもの（45），口縁部に７段以上の輪積み痕を残す上総地方のもの（41），平底で，ヘラナデ調整が施された東京湾東岸地域のもの（26・27・39・42），くの字状口縁で，外・内面にヘラ磨き調整が施された台付甕（28），ハケ調整の甕（33）が出土している。ミニチュア土器は，壺形（43），高坏形（49）のものが出土している。壺形は，頸部に輪積み痕を残し，口唇部にキザミを有している。

周辺地域の編年との併行関係については，元屋敷系高坏や縄文帯をもつ装飾壺，多段の輪積み口縁甕などが出土しており，平底甕がヘラナデ調整を主体としていることから，加藤修司氏の草刈編年Ⅰ段階後半[3)]，大村直氏の中台２－２式[4)]，比田井克仁氏の南関東Ⅰ段階新相前半の様相[5)]を示しており，実年代は概ね３世紀後半とすることができよう。

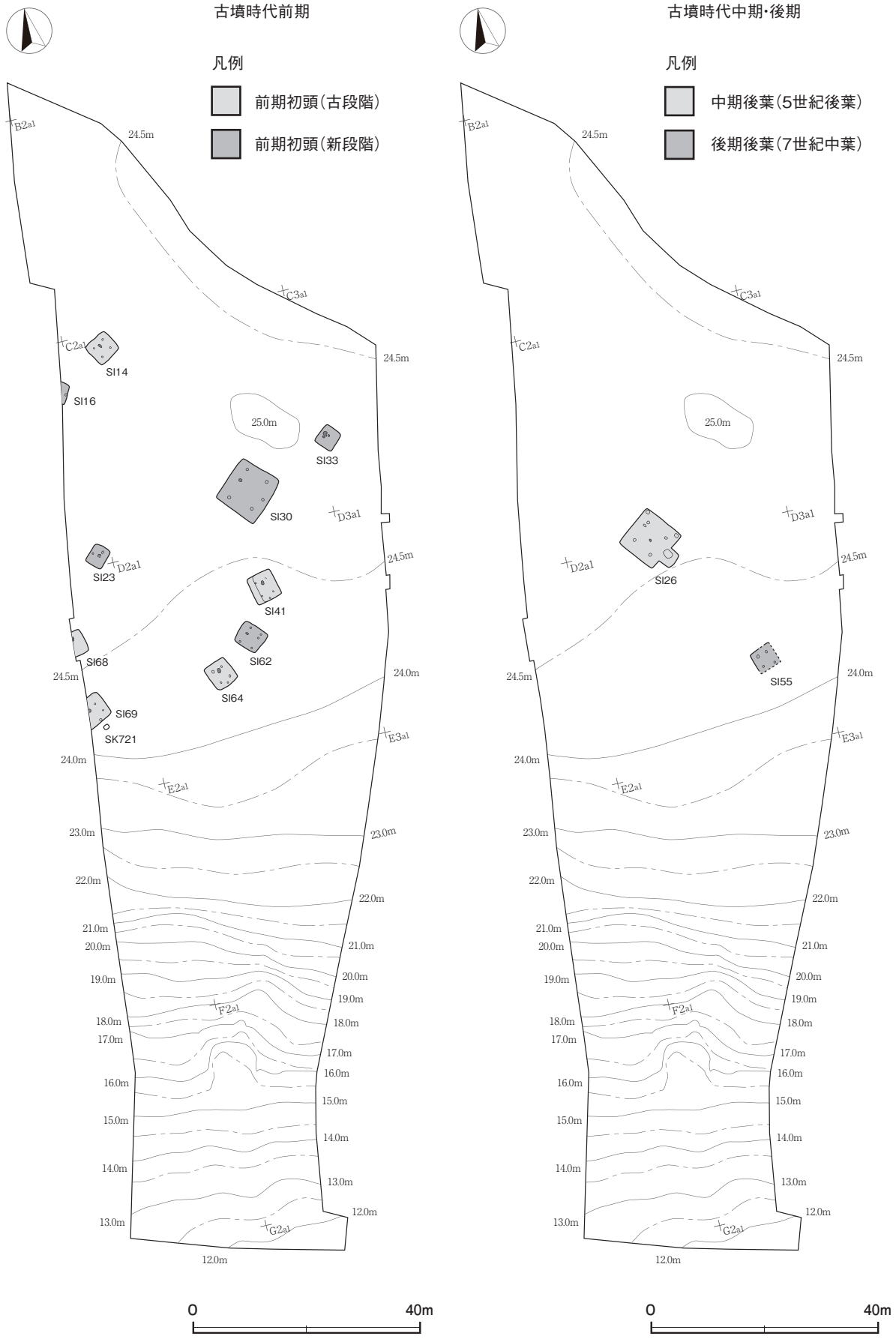
(2) 竪穴住居跡について（第 269 図）

前期初頭の竪穴住居跡の住居形態は，主軸方向が北西へ約 20 度振れるものと北西へ約 50 度振れるものに大別でき，形状や構造から次のＡ～Ｄ類に細分できる。

Ａ類（第 14・41・64・69 号住居跡）は，長軸約５ｍの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 13 ～ 32°－Ｗである。主柱穴は４か所で，炉は北西側の主柱穴を結んだラインより内側の中央に位置している。Ｂ類（第 68 号住居跡）は，長軸約５ｍの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 17°－Ｗである。主柱穴は無く，炉は北部の中央に位置している。Ｃ類（第 30・62 号住居跡）は，隅丸方形で，第 30 号住居跡が一辺約９ｍ，第 62 号住居跡が一辺約５ｍである。主軸方向はＮ－ 46 ～ 48°－Ｗである。主柱穴は４か所で，炉は北西側の主柱穴を結んだライン上の中央に位置している。Ｄ類（第 23・33 号住居跡）は，一辺約４ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 46°－Ｗである。主柱穴は無く，炉は中央部や北部の中央に位置している。



第 268 図　小作遺跡古墳時代前期出土土器（S= 1 / 6　壺（5 を除く））：S= 1 / 8）



第 269 図　小作遺跡遺構配置図②

(3) 集落の様相

今回の調査では，東海地方や東京湾岸地域の影響を受けた外来系土器が多数出土している。住居形態の類型ごとに出土土器の特徴をみると，Ａ・Ｂ類の住居跡群から出土した土器は，東海地方の元屋敷系高坏やハケ調整が施された武蔵地方の甕，口縁部に多段の輪積み痕を残す上総地方の甕などで，それぞれの出自の特徴が色濃く残っている。一方，Ｃ・Ｄ類の住居跡群から出土した土器は，肩部に縄文帯がめぐる装飾壺や平底のヘラナデ調整の甕など，東京湾東岸地域，特に上総地方の要素が強い。住居跡群の時期差は，一括資料や形状の変化を比較できる器種が少ないため明確でない。しかし，住居跡群は分布域が重複しているため，集団の違いとは考えにくい。また，弥生時代後期後半の上稲吉式の弥生土器片がＡ・Ｂ類の住居跡群（第 14・41・69 号住居跡）から多く出土していることから，Ａ・Ｂ類からＣ・Ｄ類への変遷が推測できる。したがって，当集落の構成員は，様々な地域を出自とする人々の混交集団であり，そのなかでも上総地方の人々が主導的な役割を果たしたと推測できる。集落が定着した新段階に出現した大形の第 30 号住居跡は，その中心的な有力者の住居と考えられる。また，上稲吉式の弥生土器片が一定量出土していることは，遺跡周辺の弥生文化圏の集落と接触があった可能性を示唆している。

4　奈良時代・平安時代（第 270 ～ 279 図　表 21）

奈良時代・平安時代の遺構は，調査区中央部の平坦な台地上の南半部に集中しており，一部，南部の斜面部から低地部への傾斜変換点付近にも分布している。奈良時代の遺構は竪穴住居跡８軒，掘立柱建物跡 13 棟，平安時代の遺構は竪穴住居跡 24 軒，掘立柱建物跡 16 棟，方形竪穴遺構 11 基，大形円形土坑１基，円筒形土坑 11 基，その他の形状の土坑 15 基，ピット２か所が確認でき，８世紀から 11 世紀にかけて継続して営まれた集落跡であることが判明した。以下，出土土器の様相を分類し，各時期の集落の様相について述べる。また，文字資料，特に草仮名文字の墨書土器についてふれ，当遺跡の性格についても言及したい。

(1) 出土土器について（第 270 ～ 274 図）

10 時期（第Ⅰ～Ⅹ期）に分類し，各期の器種組成や器形，手法の特徴について述べる。

第Ⅰ期　第 18･72･36 号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器[6] 坏･椀･皿･甕，須恵器坏･高台付坏･蓋が出土している。土師器坏は，扁平な丸底で，口縁部が外傾するもの（52）と内彎するもの（63・64）がある。椀（71）は，丁寧なヘラ磨き調整で，口縁部外面に沈線，見込み部に渦状の暗文が施されている。銅椀を模倣した畿内系土師器の影響が認められるが，胎土や色調，ヘラ磨きの幅，施文方法の稚拙さから在地産と考えられる。皿（50）は器壁が薄く，赤色に発色する粘土で作られており，南関東でみられる盤状坏[7] の影響が認められる。甕（73）は，常総型甕[8] である。口縁端部はつまみ上げが明瞭でなく，体部は下半に膨らみをもち，ヘラ磨きが施されている。須恵器は，胎土に粗粒の長石・石英や雲母を多く含む新治窯産[9] の製品で，一町田段階から一町田に後続する段階（X_2段階）のものである。坏（51・65 ～ 69・97）は，底部外周に回転ヘラ削りが施された丸底気味のものが主体である。高台付坏（72）は，小形で，底部の外縁部に細く短い高台が付いている。蓋（98）は，退化した小さいかえりが付いている。

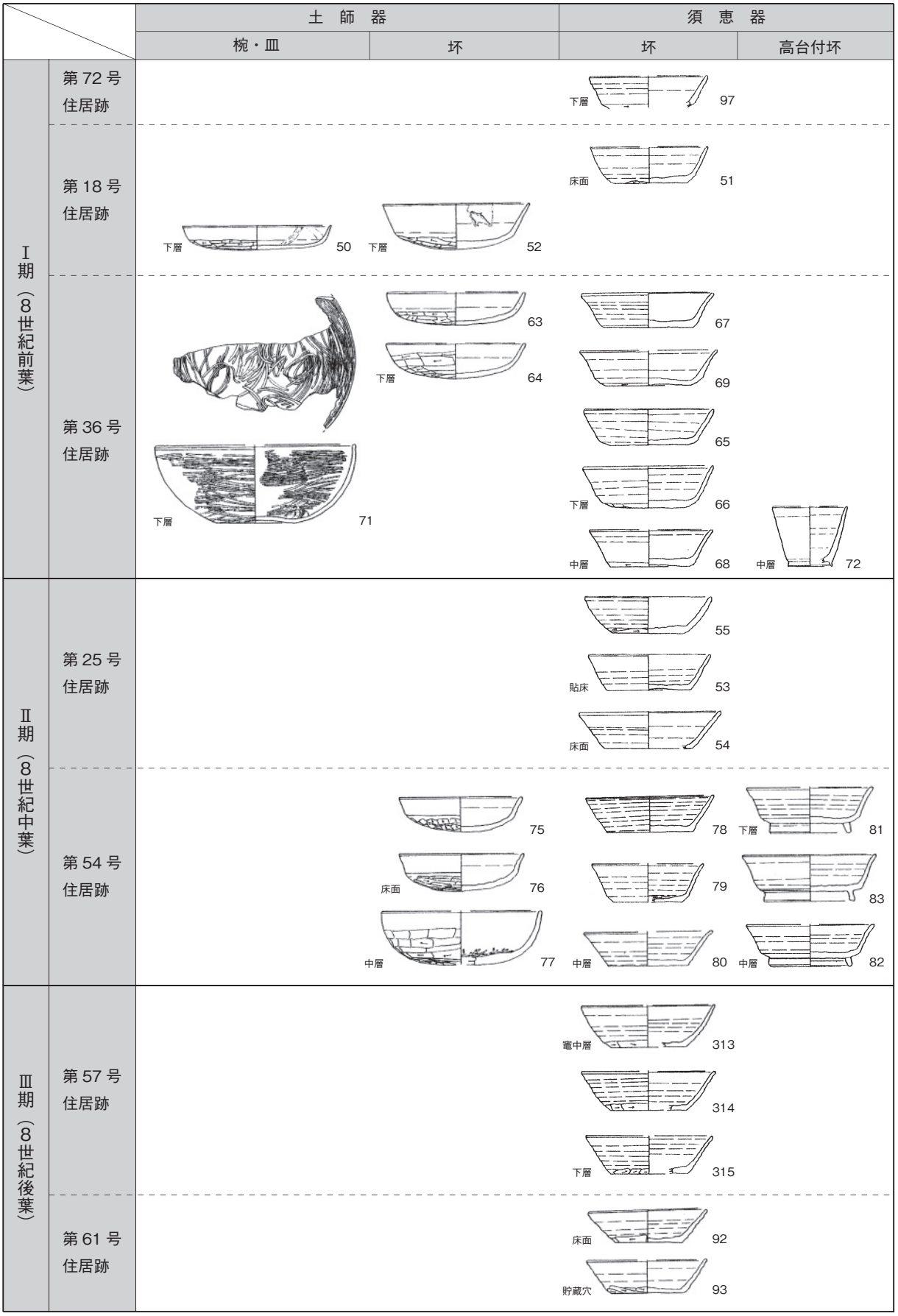
第Ⅱ期　第 25･54 号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器坏･甕･甑，須恵器坏･高台付坏･蓋･盤･無台盤・甑が出土している。土師器の供膳具類は本期をもって消滅し，須恵器の供膳具類には有台器種が一定量認められるようになる。土師器坏（75・76）は，扁平な丸底で，口縁部と底部の境に稜をもっている。底部のヘラ削りは粗く，器壁も厚い。また，半球形状で，内面に放射状のヘラ磨きが施された

大形品（77）もみられる。甕は，大形の常総型甕（90）と小形で体部にヘラ削り調整が施されたもの（61）がある。常総型甕は，口縁部が受け口状につまみ上げられており，体部が底部から直線的に立ち上がり，上位に最大径をもつ形状である。甑（62）は，口縁部が上方へ短く屈曲し，体部は砲弾形を呈している。須恵器は，新治窯産の東城寺寄居前Ａ段階から東城寺段階の製品に加え，胎土に針状鉱物と細粒の長石・石英・雲母を微量含んでいる稲敷産の製品が認められる。稲敷産の製品は，高台付坏（81 ～ 83）・蓋（87 ～ 89）・無台盤（85）などの供膳具類が中心である。坏（53 ～ 55・78 ～ 80）は，平底で，体部下端に回転ヘラ削りもしくは底部外周までロクロナデが施されている。高台付坏（81 ～ 83）・盤（86）は，底径が広く，短くしっかりとした高台が付いている。蓋（87 ～ 89）は，口縁端部が下方へ屈曲し，擬宝珠状で頂部が突出したつまみが付いている。大・中・小の差が認められ，それぞれ盤・高台付坏・瓶類（短頸壺ヵ）に伴うものである。無台盤（85）は，当期のみにみられる器種である。丸底気味の底部で，一方向のヘラ削りが施されている。甑（91）は，口縁端部が断面三角形状につまみ上げられており，体部外面に斜位の平行叩きが施されている。

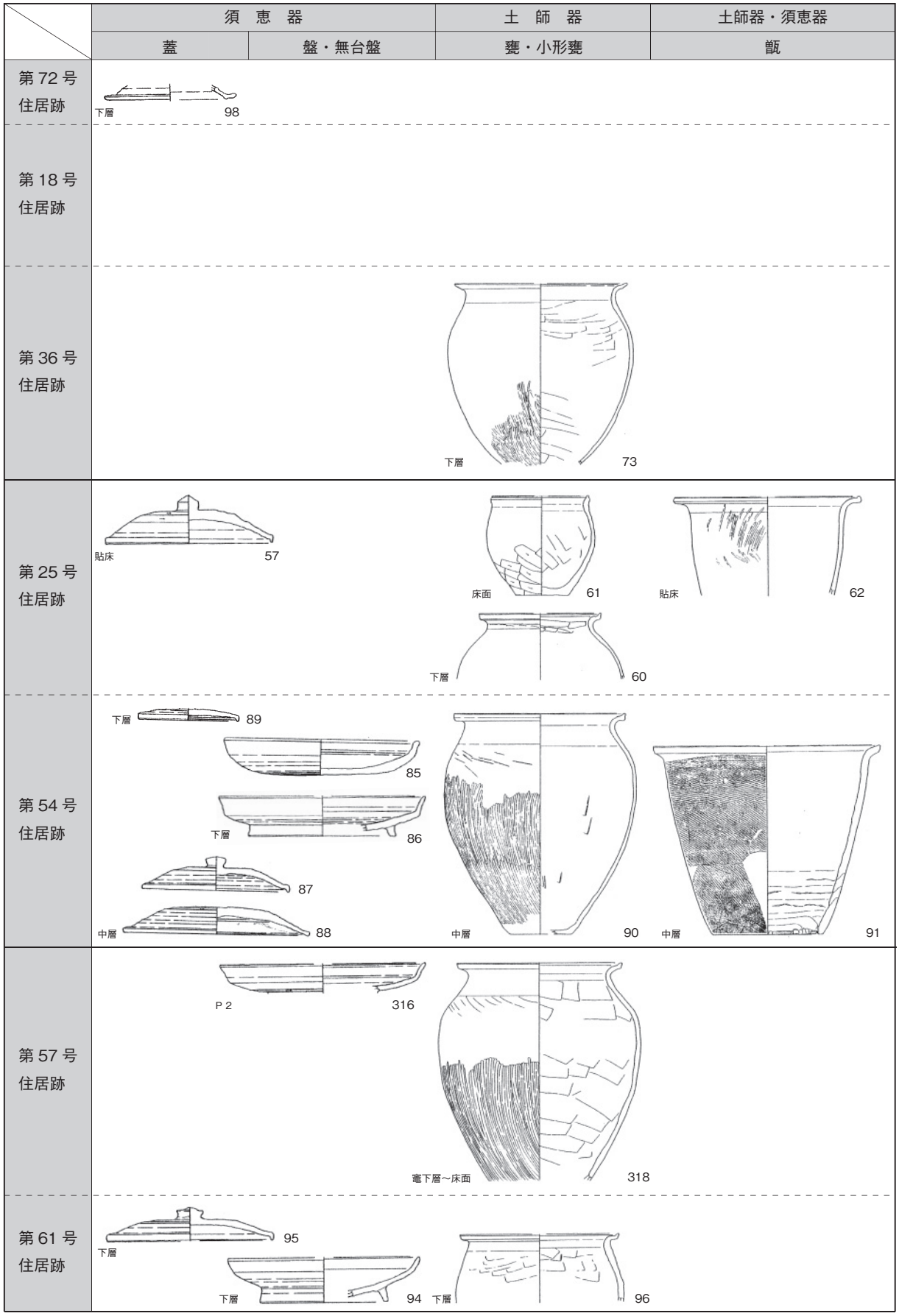
第Ⅲ期　第 57・61 号住居跡の土器群が該当する。器種は土師器甕，須恵器坏・蓋・盤が出土しており，供膳具類は須恵器が主体となる。土師器甕（96・318）は，常総型甕で，肩の張りがやや弱いが，前段階と大きな変化はない。須恵器は，新治窯産の東城寺桑木段階の製品（93・95・313 ～ 316）と稲敷産の製品（92･94）がみられる。坏（92･93･313 ～ 315）は，体部下端に手持ちヘラ削りが施されており，口径･底径が小さくなり，器高が高くなっている。蓋（95）は扁平化，盤（94）は丸底化の傾向がみられる。

第Ⅳ期　第 81 号住居跡の土器群が該当する。器種は土師器甕，須恵器坏・盤が出土している。土師器甕（268･269）は，常総型甕で，頸部の屈曲が強くなり，体部が長胴化して，肩部付近に最大径をもっている。口縁部のつまみ上げが顕著になり，外面が沈線状に凹むものもみられる。また，色調が前段階までの明るい橙色から暗い灰黄褐色を呈するようになっている。須恵器は，新治窯産の小高村内段階の製品である。坏（265）は，体部下端のヘラ削りの幅が広くなり，底径が口径の約２分の１に縮小化している。盤（267）は，口縁部が外方に開き，体部との境の屈曲が弱くなっている。

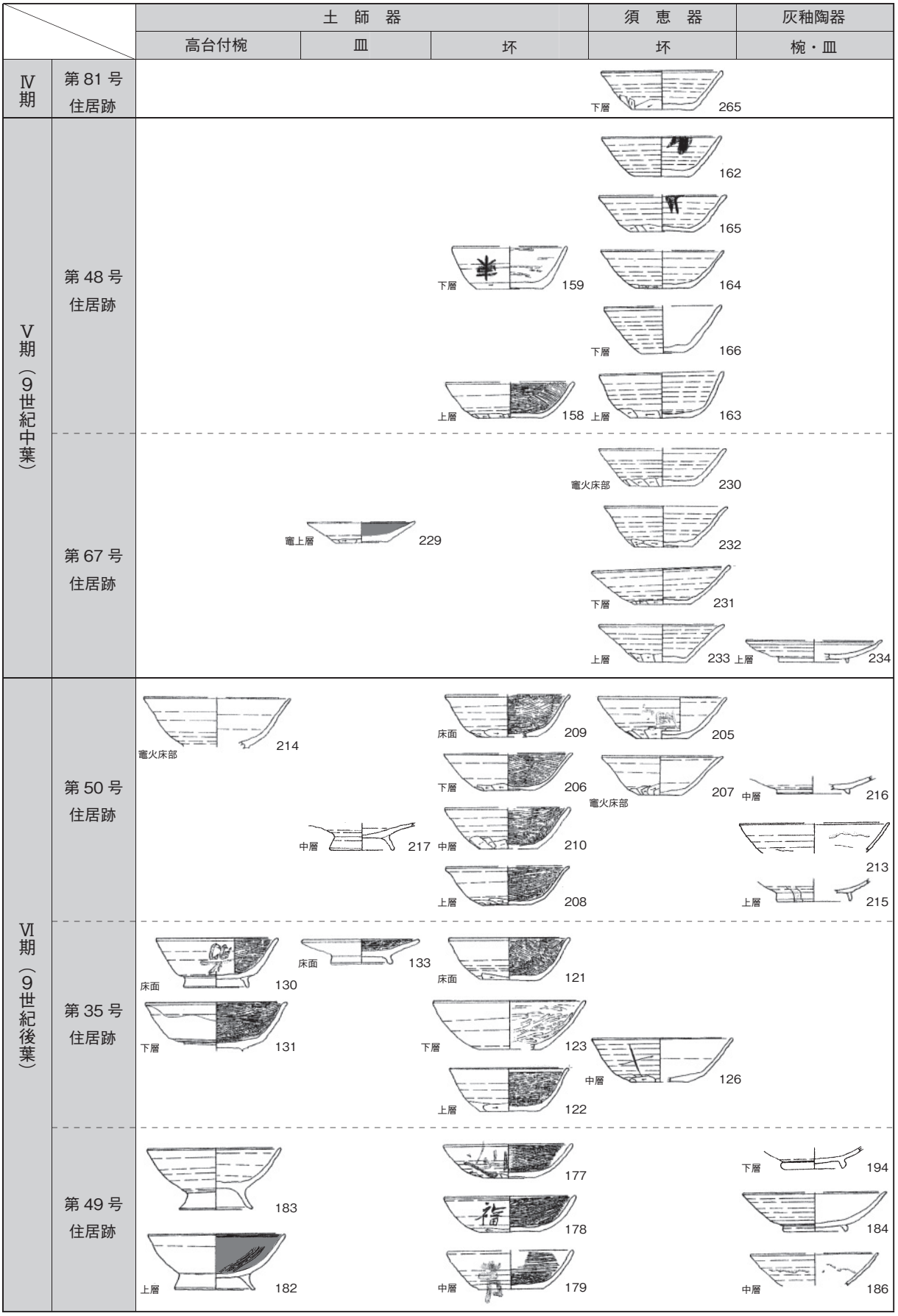
第Ⅴ期　第 48・67 号住居跡の土器群が該当する。器種は土師器坏・皿・甕，須恵器坏・盤・甕・鉢，灰釉陶器皿・耳皿（SI48-168）が出土している。本期からロクロ成形の土師器が供膳具類に加わるようになる。坏（158･159）･皿（229）は，内面にヘラ磨き調整と黒色処理が施されており，底部に回転糸切り後，周縁部にヘラ削りが施されたものもみられる。いずれも胎土に針状鉱物を含む稲敷産の製品である。甕は，常総型甕とヘラ削り調整が施された小形甕がある。常総型甕は，体部が寸胴になり，ヘラ磨きの範囲が体部下半に下がっている。器面には成形時のヘラナデやヘラ削り調整が残るなど，粗雑化の傾向がみられる。また，口縁部は，従来の端部をつまみ上げる方法から，粘土紐を付加する方法へ変化しており，断面形がＳ字状を呈するようになる。須恵器は，新治窯産の東城寺寄居前Ｂ段階（165・230 ～ 233）と稲敷産の製品（162 ～ 164・166）があり，いずれも焼成不良のものが目立つようになる。器形は底径の縮小化が進み，体部の外傾度が強い。底部の調整は，一方向または不定方向のヘラ削りが施されているものが多く，稲敷産の製品（162）には回転糸切り後，不調整のものがある。盤は，成形方法が口縁部を体部から屈曲させる方法から，外反する口縁部を体部に付加する方法へ変化している。甕・鉢（173・175・176）は，口縁端部が上方と下方につまみ出された形状で，体部には縦位の平行叩きや格子状の叩きが施されている。灰釉陶器[10]は黒笹 14 号窯式期の製品である。皿（234）は，直線的に開き，口縁部がわずかに外反する器形で，短い角高台が付いている。釉は刷毛塗りで，内面全体に施されている。



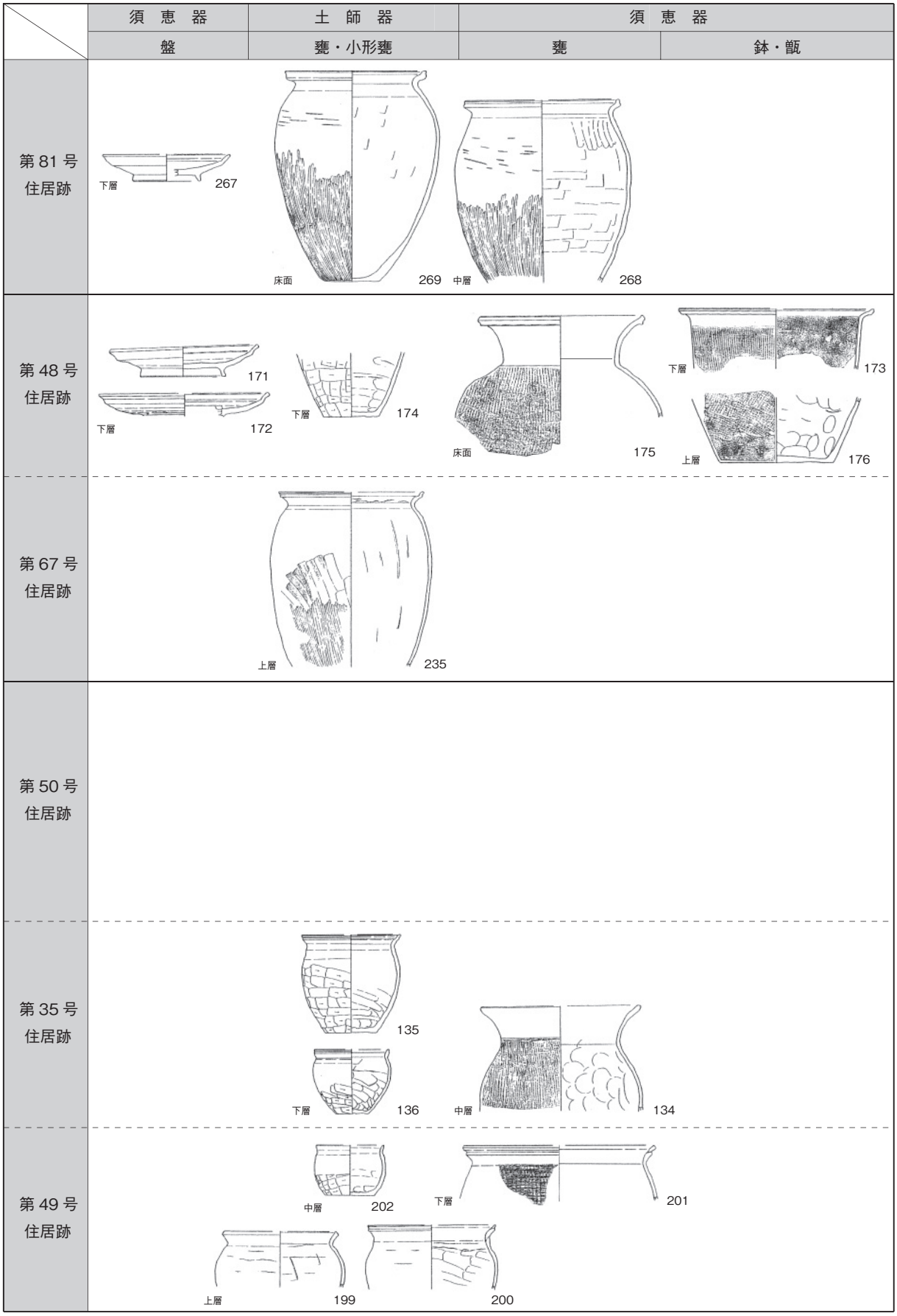
第270図　小作遺跡奈良時代出土土器①（S= 1 / 6）



第 271 図　小作遺跡奈良時代出土土器②（蓋・盤：S= 1 / 6　甕・小形甕・甑：S= 1 / 8）



第272図　小作遺跡平安時代出土土器①（S= 1 / 6）

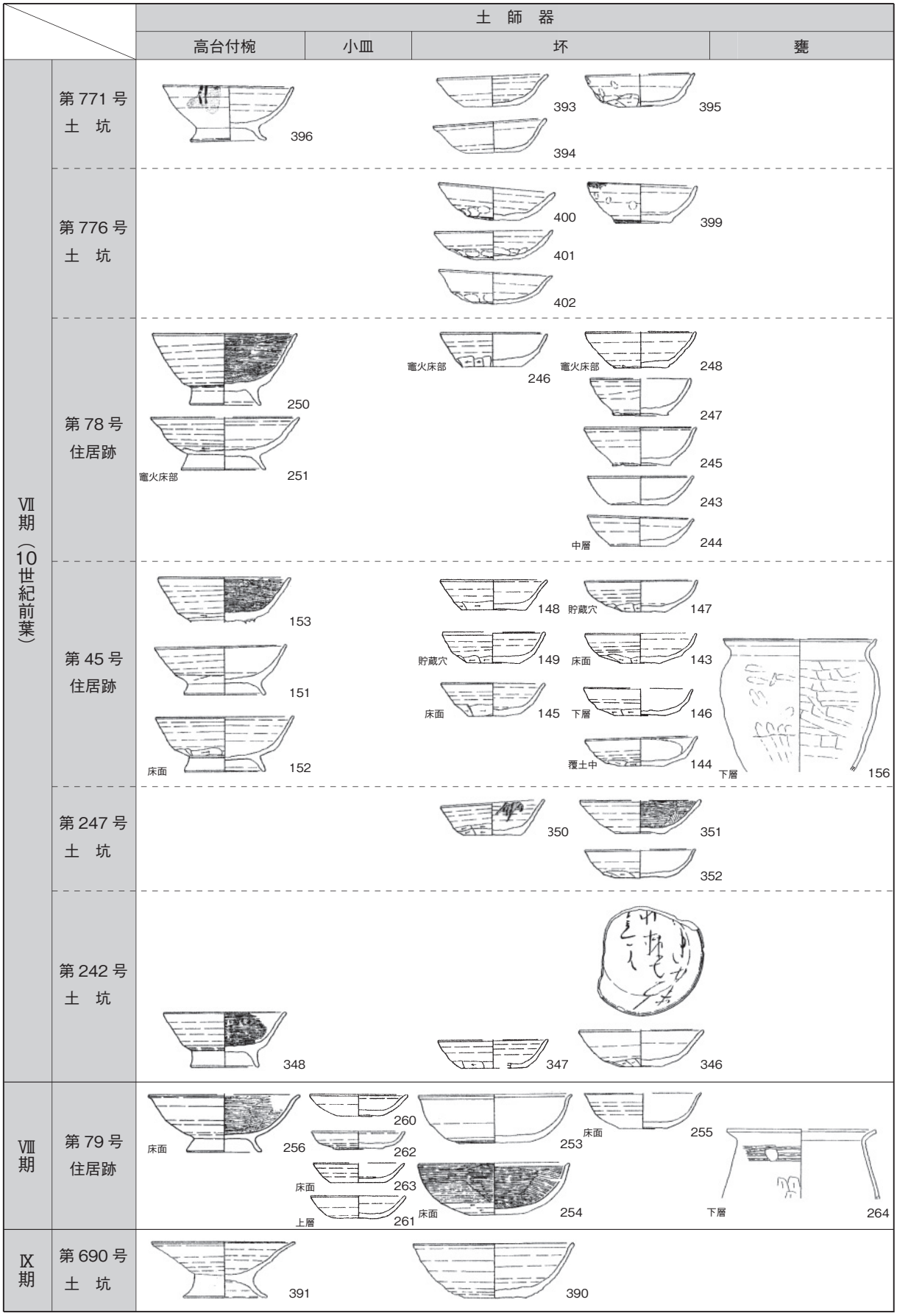


第 273 図　小作遺跡平安時代出土土器②（盤：S= 1 / 6　甕・小形甕・鉢・甑：S= 1 / 8）

第Ⅵ期　第35・49・50号住居跡の土器群が該当する。器種は土師器坏・高台付椀・高台付皿・鉢・羽釜・甕，須恵器坏・甕，灰釉陶器椀・皿・長頸瓶が出土している。供膳具類は，ロクロ成形の土師器が主体となり，有台器種が伴うようになる。土師器は，供膳具類の８割近くが胎土に針状鉱物が認められる稲敷産の製品で，おおむね体部内面にヘラ磨きと黒色処理が施されている。坏（121 ～ 123・177 ～ 179・208 ～ 210）は，口縁端部が外反するものや体部が彎曲気味に立ち上がるものがみられ，底部調整は，一方向または不定方向のヘラ削りが施されたものが多い。甕（135・136・199・200・202）は，体部にヘラ削りや輪積み痕の残る粗いナデ調整が施された小形甕が多くなる。口縁端部はつまみ上げが顕著なものや断面が角形のものがみられる。須恵器は，新治窯産の小野１号窯やそれに後続する段階（Ｘ^{3}段階）の製品（126）と稲敷産の製品（205・207）である。いずれも色調が明赤褐色や橙色で，焼成不良である。坏は，体部下端のヘラ削りの幅が広くなり，底径がさらに小さくなっている。甕は，体部に縦位の平行叩きや格子状叩きが施されており，口縁端部を肥厚させたもの（134）や粘土紐を付加した断面Ｓ字状のもの（201）がある。また，猿投産の大甕片（SI35-TP26・SI50-218）が出土しており，外面に赤褐色に発色する鉄釉，内面に刷毛塗りによる黄土釉が施されている。灰釉陶器は，黒笹90窯式期の製品である。椀・皿（184・186・194・213・215・216）は，高台端部が尖り，接地部が小さくなるものや断面三日月形のものがみられ，見込み部や底部周辺に灰釉が施されていないものが多い。

第Ⅶ期　第45・78号住居跡，円筒形土坑に分類した第242・771・776号土坑，その他の土坑の第247号土坑の土器群が該当する。器種は土師器坏・高台付椀・甕，緑釉陶器椀・皿が出土している。土師器坏は，器形にバラエティーがあり，次の①～④が出現する。①（393・394・400 ～ 402）は，丸底気味の器形である。底部はナデ調整が施され，体部下半に指頭痕が残っている。色調はにぶい黄橙色や明赤褐色である。②（243 ～ 245・247・248・395・399）は，体部が内彎気味に立ち上がり，丁寧なロクロナデで仕上げられている。底部は不調整で，切り離し技法は回転糸切りである。色調は浅黄橙色である。③（145・148・149・246・347・350）は，断面逆台形状の器形である。体部下端に手持ちヘラ削りが施され，底部調整は回転糸切り後，一方向の手持ちヘラ削りである。色調は明るい橙色である。④（143・144・146・147）は，扁平な半球形状で，底部が小さい多角形状を呈している。体部下端に幅広の粗い手持ちヘラ削りが施されている。底部は不調整で，切り離し技法は回転糸切りである。色調はやや暗い橙色である。①～④は，いずれも胎土に針状鉱物を含む稲敷産の製品である。高台付椀（151 ～ 153・250・251・396）は，内面のヘラ磨きや黒色処理が施されていないものが多い。甕（156）は，常総型甕が退化したものである。口縁端部は上方へのつまみ出しが小さく，体部は輪積み痕を残す粗いナデ調整である。

第Ⅷ期　第79号住居跡の土器群が該当し，円筒形土坑の第565号土坑からも該期の土器が出土している。器種は土師器坏・高台付椀・足高高台付椀・小皿・甕，緑釉陶器椀・皿が出土している。土師器坏（253 ～ 255）は，体部が彎曲して立ち上がり，口縁部がわずかに外反する器形で，大・小の二つとなる。底部は不調整で，切り離し技法は回転糸切りである。高台付椀（256）は，体部が内彎し，高台が前段階よりも内側に付けられている。内面にヘラ磨きが施されているが，黒色処理は施されていない。足高高台付椀・小皿は，本期から出現する器種である。足高高台付椀（SK565-382）は，体部下端に稜をもち，直線的に開く角高台が付いている。小皿（260 ～ 263）は，底部の切り離し技法が回転糸切りで，体部が彎曲気味に立ち上がっている。甕（264）は，撫で肩の器形であり，口縁部がくの字状で，断面が角形を呈している。緑釉陶器椀（SI79-257 ～ 259）は，口縁部がわずかに外反しており，釉は漬け掛けによる釉溜まりや色斑が認められる。折戸53号～東山72号窯式期の製品と考えられる。



第 274 図　小作遺跡平安時代出土土器③（高台付椀・小皿・坏：S= 1 / 6　甕：S= 1 / 8）

第Ⅸ期　円筒形土坑の第690号土坑の土器群が該当し，第19号住居跡からも当期の土器が出土している。器種は，土師器坏・高台付坏・足高高台付椀・置き竈が出土している。土師器坏（390・SI19-119）は，前段階と同様に大・小の二つがみられ，黒色処理は施されていない。高台付坏（SI19-120）は，底径が小さくなり，低く短い高台が付いている。足高高台付椀は，体部が外方へ直線的にのびる形状で，外反する高台が付いている。

第Ⅹ期　第２号方形竪穴遺構，その他の土坑の第414号土坑から土師器坏・小皿が出土している。土師器坏（SK414-361）は，底径が広く，体部の膨らみが弱くなり，器壁も厚くなっている。小皿（SH２-310･311，SK414-360）は，底部の切り離し技法が回転糸切りで，体部が短く，外傾して立ち上がっている。

以上のことから，小作遺跡の奈良・平安時代の土器は，10時期の変遷が認められる。各期の年代的位置づけは，新治窯産の須恵器や施釉陶器の年代観から，第Ⅰ期が８世紀前葉，第Ⅱ期が８世紀中葉，第Ⅲ期が８世紀後葉，第Ⅳ期が９世紀前葉，第Ⅴ期が９世紀中葉，第Ⅵ期が９世紀後葉，第Ⅶ期が10世紀前葉，第Ⅷ期が10世紀中葉，第Ⅸ期が10世紀後葉，第Ⅹ期が11世紀前葉に比定できる。

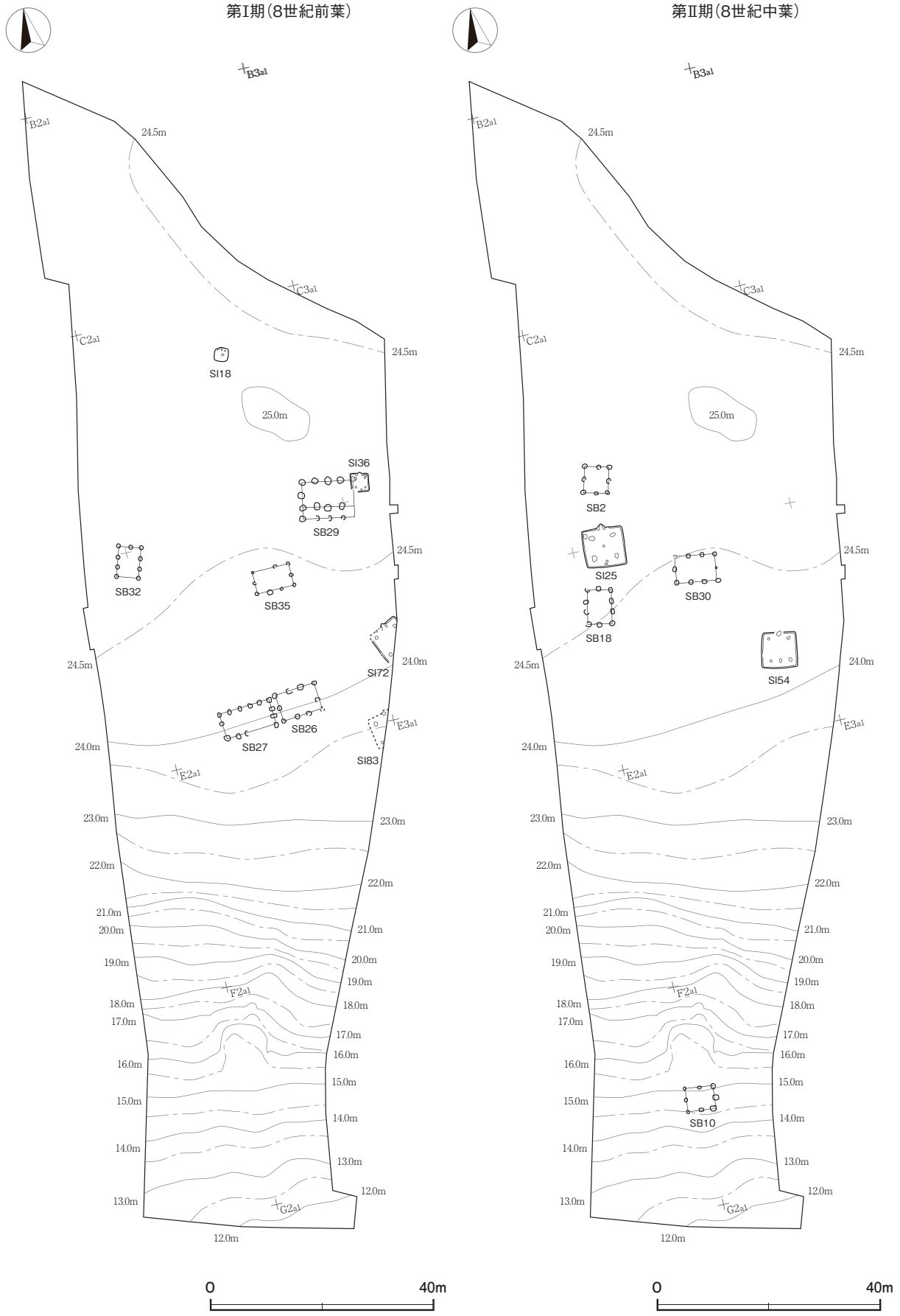
(2) 集落の変遷（第275～279図）

前項の時期区分に従って，集落の変遷について述べる。なお，竪穴住居跡と掘立柱建物跡の規模については，床面積が21㎡未満のものを小形，21㎡以上，40㎡未満のものを中形，40㎡以上のものを大形とし，庇付の掘立柱建物跡は庇部分を含めて面積を算出した。

第Ⅰ期　第18・36・72・83号住居跡，第26・27・29・32・35号掘立柱建物跡が該当する。台地上の平坦部全域に分布しており，南北の軸方向の違いから北群と南群に分けられる。北群は，南北の軸方向がＮ－７～13°－Ｅで，２軒の小形住居と４間×２間の身舎で，南面に庇が付く大形建物，３間×２間の小形建物がある。南群は，南北の軸方向がＮ－１～28°－Ｗで，大形住居２軒と５間×３間の大形建物１棟，３間×２間の中形建物２棟からなる。これらの遺構群は重複関係や近接した位置関係から新旧二時期に分けられ，調査区域内においては，大・小２軒の竪穴住居と規模の異なる２～３棟の掘立柱建物で集落が構成されていたと推測できる。また，軸方向の差異は，単位集団の違いを示していると考えられる。特徴的な遺物は，畿内系土師器の影響がみられる銅椀模倣の土師器椀，盤状坏に類似した土師器皿や油煙付着の土師器坏が出土している。大形の住居や建物を中心とした遺構配置や出土土器の性格から，当集落が，開発当初から社会的・経済的に優位な立場にあったことがわかる。

第Ⅱ期　第25・54号住居跡，第２・10・18号掘立柱建物跡が該当し，主軸方向から第30号掘立柱建物跡も当期に帰属すると考えられる。遺構群は，台地上の南半部に大形住居が２軒，３間×２間の中形建物が２棟，２間×２間の小形建物が１棟位置し，南部の斜面部から低地部への傾斜変換点付近に２間×２間の小形建物が出現している。南部の建物は，南側の沖積低地部における水田開発に関連した倉庫や管理棟のような機能が考えられる。南北の軸方向はＮ－６～17°－Ｅで，いずれも北からわずかに東へ振る方向になる。出土遺物は，朱墨が付着した須恵器坏や硯に転用された須恵器高台付坏・蓋，「酒坏ヵ」と墨書された須恵器坏が出土しており，識字階級の存在を示している。その他，雁又鏃や袋状鉄斧などの鉄製品が出土している。また，当期以降，須恵器の供膳具類に稲敷産の製品が認められることから，当遺跡が属する信太郡域において本格的な須恵器生産が始まったと考えられる。

第Ⅲ期　第57・61号住居跡，第１・４・９号掘立柱建物跡が該当し，主軸方向から第22号掘立柱建物跡も当期に帰属すると考えられる。台地上に大・中形の住居が２軒，規模の異なる掘立柱建物が３棟，



第 275 図　小作遺跡遺構配置図③

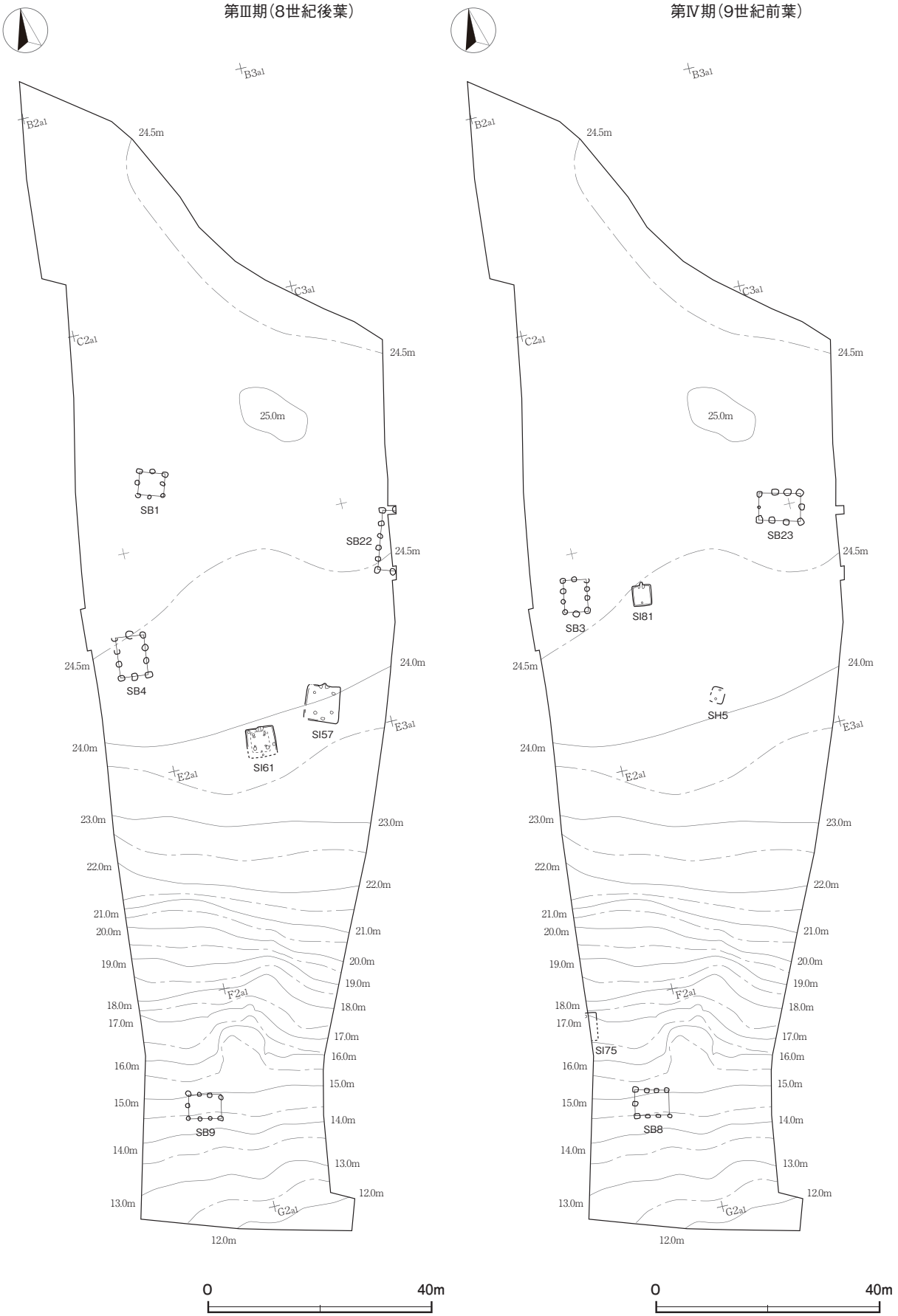
南部に小形建物が１棟位置している。南北の軸方向はＮ－５～18°－Ｅで，前段階と同様である。特徴的な遺物としては平瓦片があり，遺跡周辺に８世紀後半以前の瓦葺建物が存在した可能性を示している。

第Ⅳ期　第75・81号住居跡，第３・８号掘立柱建物跡が該当し，主軸方向や重複関係から第23号掘立柱建物跡，第５号方形竪穴遺構も当期に帰属すると考えられる。住居跡は，当期以降，大形のものがみられなくなり，縮小化する傾向にある。また，主柱穴が北壁寄りに２か所配置されるものや出入口施設に伴うピットのみのもの，柱穴が確認できないものなどが現れる。遺構群は，台地上に小形住居が１軒，３間×２間の中形建物が２棟，方形竪穴遺構が１基，南部に中形の住居１軒と建物１棟がそれぞれ位置している。台地上の住居跡と掘立柱建物跡の南北軸方向はＮ－８～12°－Ｅで，ほぼ一致している。

第Ⅴ期　第48・67・74号住居跡，第14・20号掘立柱建物跡が該当し，主軸方向から第31号掘立柱建物跡も当期に帰属すると考えられる。台地上の南縁辺部に４間×３間の第20号掘立柱建物跡，西部に４間×２間の第14号掘立柱建物跡の２棟の大形建物が出現し，その周囲に一辺４ｍ前後の小形住居が２軒，２間×２間の中形建物が１棟位置している。第20号掘立柱建物跡は，後出する三面庇付建物の前身となる大形建物で，集落の中心的な施設と考えられる。廃絶時期から当期に位置づけたが，柱穴の土層や柱の当たりの状況から建て替えが行われており，前段階の第Ⅳ期から機能していた可能性も考えられる。南北の軸方向は，第20号掘立柱建物跡がＮ－４°－Ｅで，その他はＮ－13～17°－Ｅとほぼ一致している。また，南部の斜面部から低地部への傾斜変換点付近には，第Ⅱ期から継続して小規模な施設が存在していたが，当期の小形住居１軒を最後に姿を消している。特徴的な遺物としては，黒笹14窯式期の灰釉陶器の椀，皿，耳皿，「主」「東」「南」「前」「木前」「十」などの墨書土器，猿投産や県内の新治窯・木葉下窯産の須恵器大甕片，油煙が付着した須恵器坏などが出土している。

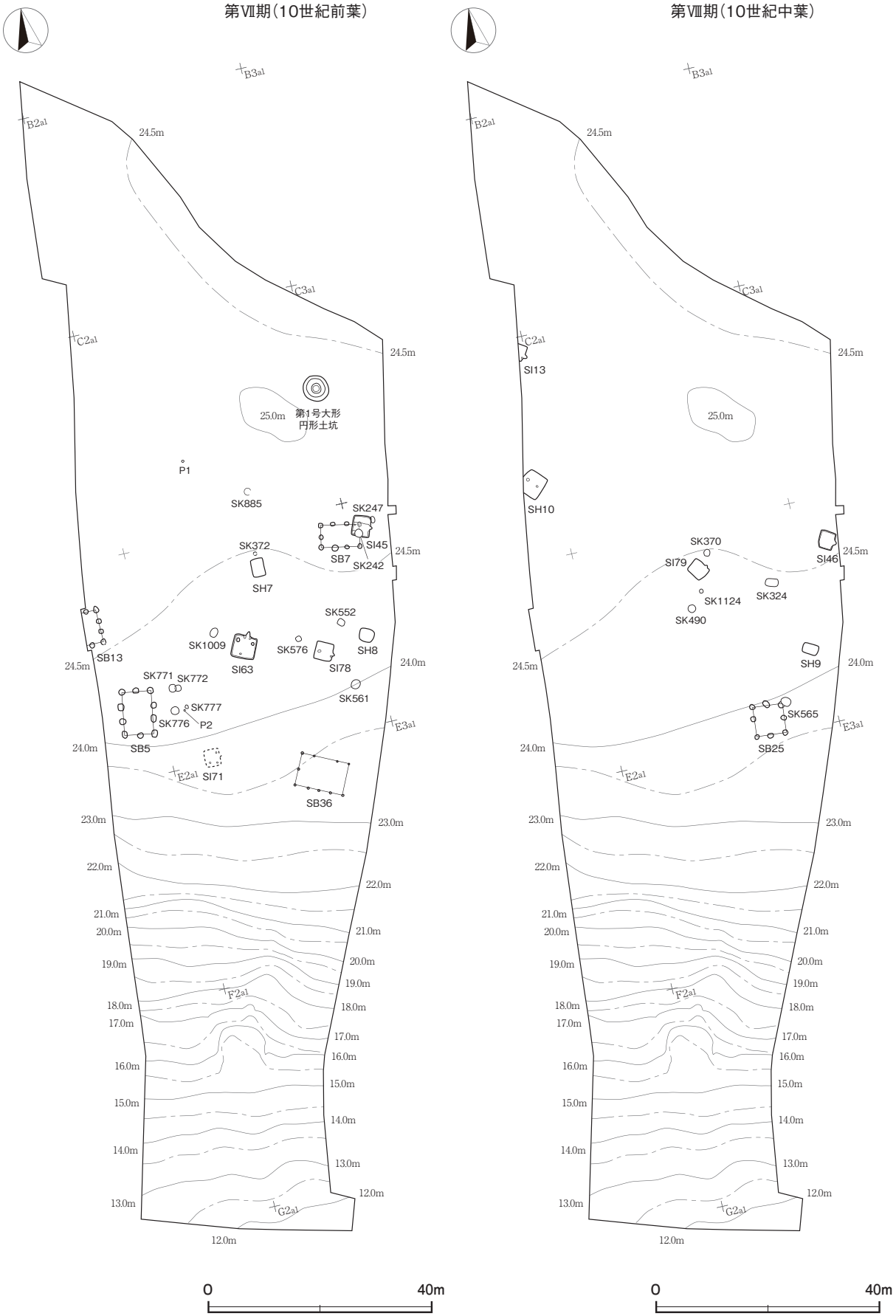
第Ⅵ期　第22・35・37・49・50号住居跡，第６・19・24・28号掘立柱建物跡，第４・11号方形竪穴遺構，形状の異なる第559・587・884・980号土坑が該当する。台地上の南縁辺部には三面庇付建物の第19号掘立柱建物跡[11]と第28号掘立柱建物跡の２棟の大形建物が位置し，東側には中・小形住居の第49・50号住居跡が隣接している。それぞれ前段階からの重複関係があり，第Ⅴ期の第48号住居跡・第20号掘立柱建物跡から第50号住居跡・第19号掘立柱建物跡，第49号住居跡・第28号掘立柱建物跡への変遷が認められる。その周囲には３間×２間の中形建物と２間×２間の小形建物がそれぞれ１棟，小形住居が３軒，方形竪穴遺構が２基位置している。また，大形建物の北面は空閑地となっていることから，中心施設を機能が異なる遺構群が取り囲む集落構造がみえる。なお，先述の重複関係から，当期は新旧二時期に細分できるが，南北の軸方向がＮ－21°－ＥからＮ－15°－Ｗまでバラつきがあり，同時併存する遺構群は識別できなかった。土坑は当期から出現し，第559・587・884号土坑は供膳具類や甕類がまとまって出土していることから，廃棄土坑と考えられる。当期は出土遺物も豊富で，黒笹90窯式期の灰釉陶器の椀・皿・瓶類，「南」「谷上」「小里」「福」「加」などの墨書土器，猿投産や県内産の須恵器大甕片のほか，漆が付着した須恵器高台付坏や紡錘車などの集落内における手工業生産に関連する遺物，鎌や釘，鬥などの鉄製品が出土している。

第Ⅶ期　第45・63・71・78号住居跡，第５・７・13・36号掘立柱建物跡，第７・８号方形竪穴遺構，第１号大形円形土坑，円筒形土坑の第242・552・561・771・772・776・885・1009号土坑，その他の形状の第247・372・576・777号土坑，第１・２号ピットが該当する。台地上の南半部に小形住居４軒，４間×３間の大形建物１棟と３間×２間の中形建物３棟，方形竪穴遺構２基が位置し，これらと重複または隣接する位置に土坑群が分布している。住居跡は，当期から東壁に竈が付設されたものが出現する。大

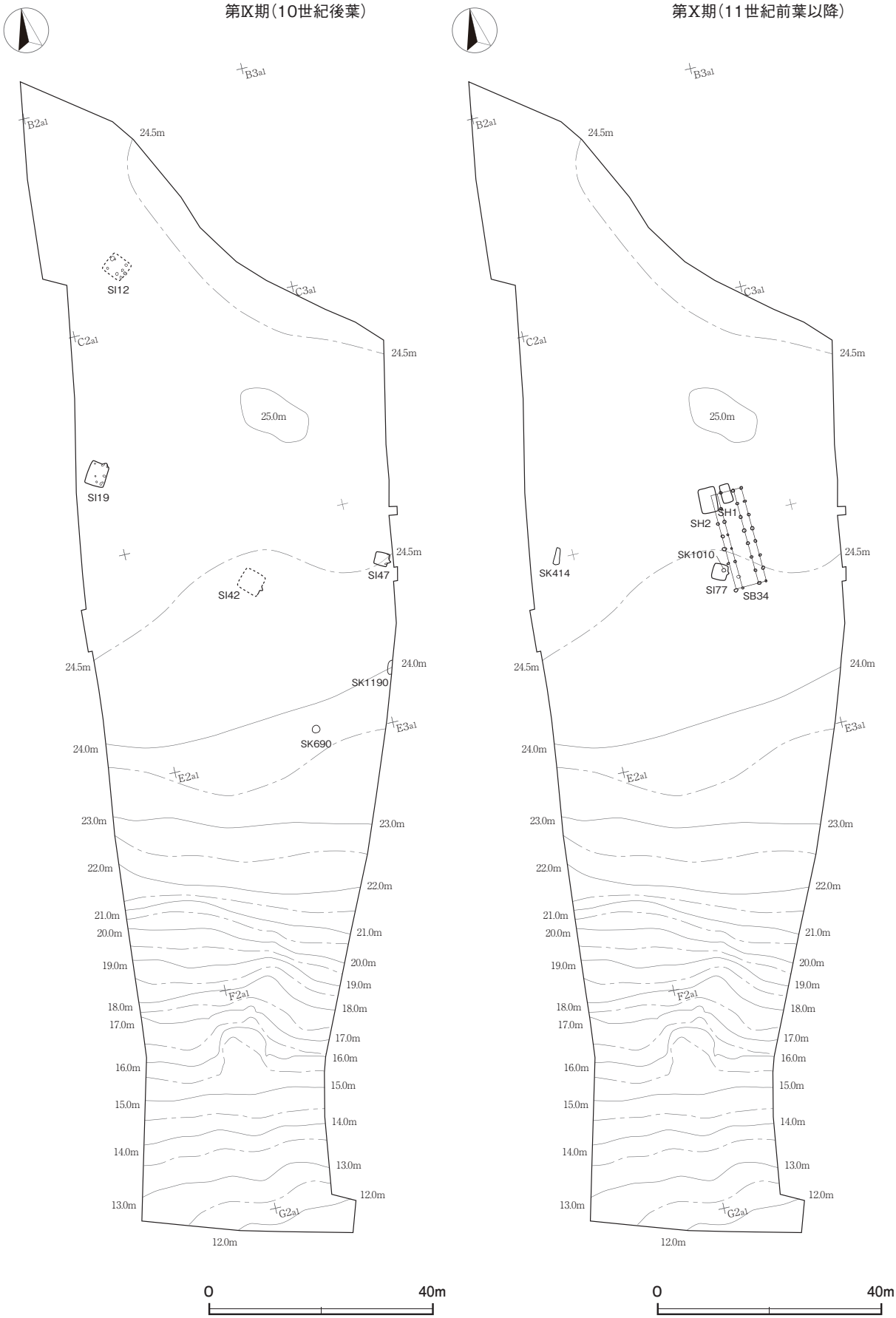


第 276 図　小作遺跡遺構配置図④

第 277 図　小作遺跡遺構配置図⑤



第 278 図　小作遺跡遺構配置図⑥



第 279 図　小作遺跡遺構配置図⑦

形円形土坑は，北部のやや離れた場所に位置し，径 4.7 m，深さ 2.8m の逆円錐台状で，底面の中央に小穴を有している。覆土は下層が人為堆積，中層以上が自然堆積で，中層から供膳具類や須恵器大甕片がまとまって出土している。遺構の性格については，氷室や貯蔵施設，井戸などの諸説があり，官衙遺跡や官衙関連遺跡及びその周辺集落での確認例が多いことから，有力者層の催す饗宴などとの関連性が指摘されている。円筒形土坑は，径 1.2 m前後，深さ 30cm以上の円筒形に掘り込まれた土坑で，今回の調査で確認した 11 基中８基が当期に集中している。出土遺物も豊富で，残存率が高く，器面や破断面の摩滅が少ない土師器坏や草仮名文字や「寺」などの墨書土器，油煙付着土器，祭祀具の土馬などが出土していることから，饗宴や儀礼行為で使用された器物が廃棄されたと考えられる。

第Ⅷ期　第 13・79 号住居跡，第 25 号掘立柱建物跡，円筒形土坑の第 565 号土坑，その他の形状の第 324・370・490・1124 号土坑が該当し，主軸方向や重複関係から第 46 号住居跡，第９・10 号方形竪穴遺構も当期に帰属すると考えられる。住居跡や方形竪穴遺構は，台地上の北西部から南東部にかけて分布するようになる。住居跡はいずれも小形で，竈が南東壁の中央部や北東壁の東寄りに付設されている。掘立柱建物跡は，台地の南縁辺部に２間×２間の中形建物が位置している。円筒形土坑は，底面から焼土塊や炭化材，鉄製品の閂や鉤が出土している。また，特徴的な遺物としては，第 79 号住居跡の床面や貼床構築土から折戸 53 号～東山 72 号窯式期の緑釉陶器椀の細片が出土している。当期における経済活動の一端を示す資料である。

第Ⅸ期　第 12・19・42 号住居跡，円筒形土坑の第 690 号土坑，楕円形状の第 1190 号土坑が該当し，主軸方向から第 47 号住居跡も当期に帰属すると考えられる。住居跡は，前段階の遺構群と位置や規模が類似しており，建て替えによる連続性がうかがえる。竈は南東壁の中央部や北東コーナー部に付設されている。また，置き竈が出現するようになり，煮炊き方法の変化を示唆している。

第Ⅹ期　第 77 号住居跡，第１・２号方形竪穴遺構，長方形や不整円形を呈する第 414･1010 号土坑が該当し，第 34 号掘立柱建物跡も出土土器から 11 世紀代と考えられる。住居跡は１軒に減少している。東壁に竈が付設された小形住居で，前段階の第 42 号住居跡から建て替えられている。掘立柱建物跡は，７間×３間の長屋風の大形建物で，内部には間仕切りあるいは床束と考えられる柱穴が配置されている。単一棟で存在しているため，性格は不明である。

(3) 文字資料（表 21）

文字資料は，墨書 43 点，箆書１点，刻書１点で，竪穴住居跡８軒（24 点），掘立柱建物跡６棟（７点），方形竪穴遺構２基（３点），土坑６基（９点）から出土している。いずれも土器の供膳具類に書かれており，内訳は土師器 40 点（坏 32，高台付皿・皿４，高台付椀・椀４），須恵器５点（坏４，高台付坏１）である。判読できた文字は，建物を示す「寺」，場所や位置を示す「小里」「谷上」「上」「木前」「前」「南」「東」「在」，人物を示す「主」，吉祥語の「福」「大」「十」，その他「加」「酒坏ヵ」「□有□」「□全」「□原」「ゐ（箆書）」などがあげられる。また，特筆できるものとしては，第 242 号土坑から 11 字の草仮名文字が墨書された土師器坏が出土している。第 242 号土坑は，径 1.33 ～ 1.37 m，深さ 85cmの円筒形土坑で，時期は 10 世紀前葉（第Ⅶ期）に比定できる。土師器坏は，胎土に針状鉱物を含む稲敷産の製品である。大きさは，口径が 13.6cmに復元でき，器高 4.0cm，底径 4.6cmである。ロクロ成形で，体部下端に幅広の手持ちヘラ削りが施されており，底部切り離し技法は回転糸切りで，不調整である。

表 21　小作遺跡出土墨書土器一覧

番号	遺構名	釈文	種別	材質	器種	部位	方向	時期	備考
80	SI54	酒坏カ	墨書	須恵器	坏	底部	－	８Ｃ中	
125	SI35	□	墨書	土師器	坏	体部	不明	９Ｃ後	
126		十	刻書	須恵器	坏	体部	正位	９Ｃ後	
127		□有□	墨書	土師器	坏	体部	倒位	９Ｃ後	
128		□	墨書	土師器	坏	体部	正位カ	９Ｃ後	
129		十カ	墨書	土師器	坏	体部	正位カ	９Ｃ後	
130		前	墨書	土師器	高台付椀	体部	倒位	９Ｃ後	
159	SI48	東	墨書	土師器	坏	体部	倒位	９Ｃ中	
160		前	墨書	土師器	坏	体部	倒位	９Ｃ中	
161		□	墨書	土師器	坏	体部	倒位カ	９Ｃ中	
164		主	墨書	須恵器	坏	底部	－	９Ｃ中	
169		南	墨書	土師器	高台付皿	体部	右横位	９Ｃ中	
177	SI49	谷上	墨書	土師器	坏	体部	左横位	９Ｃ末	
178		福	墨書	土師器	坏	体部	正位	９Ｃ末	
179		加	墨書	土師器	坏	体部	右横位	９Ｃ末	
180		福カ	墨書	土師器	坏	体部	正位カ	９Ｃ末	
181		□	墨書	土師器	坏	体部	不明	９Ｃ末	
195		上	墨書	土師器	高台付皿	体部	正位	９Ｃ末	
205	SI50	小里	墨書	須恵器	坏	体部	左横位	９Ｃ後	
211		□	墨書	土師器	坏	体部	倒位カ	９Ｃ後	
212		□全	墨書	土師器	坏	体部	正位	９Ｃ後	
229	SI67	木前	墨書	土師器	皿	底部	－	９Ｃ中	
237	SI74	十	墨書	土師器	高台付椀	体部	正位	９Ｃ中	
256	SI79	ゐ	箆書	土師器	高台付椀	見込み部	－	10Ｃ前	
273	SB 6	□原	墨書	土師器	坏	体部	正位	９Ｃ後半	
279	SB14	在	墨書	須恵器	高台付坏	底部	－	９Ｃ中	
362	SB19	福	墨書	土師器	坏	体部	正位	９Ｃ後	
293	SB24	□	墨書	土師器	坏	体部	正位	９Ｃ後	
295		小里カ	墨書	土師器	坏	体部	右横位	９Ｃ後	
300	SB25	上カ	墨書	土師器	坏	体部	正位	10Ｃ中	混入カ
302	SB28	□	墨書	土師器	坏	体部	左横位	９Ｃ後	
222	SH 4	□	墨書	土師器	坏	体部	正位カ	９Ｃ後	
223		□	墨書	土師器	坏	体部	右横位カ	９Ｃ後	
329	SH 8	井カ	墨書	土師器	椀	体部	正位	10Ｃ前	
346	SK242	□き見末 □和奈カ毛毛比 □□无（耳）	墨書	土師器	坏	内面	－	10Ｃ前	仮名文字
367	SK552	寺	墨書	土師器	坏	底部	－	９Ｃ後	
368		□□	墨書	土師器	坏	体部	左横位	９Ｃ後	
369		□	墨書	土師器	坏	体部	不明	９Ｃ後	
372	SK559	□	墨書	土師器	坏	体部	不明	９Ｃ後	
385	SK587	□	墨書	土師器	坏	体部	右横位	９Ｃ後	
405	SK884	谷上	墨書	土師器	坏	体部	正位	９Ｃ後	
407	SK980	南	墨書	土師器	坏	体部	正位	９Ｃ後	
408		福	墨書	土師器	坏	体部	正位	９Ｃ後	
389	遺構外	□□	墨書	土師器	高台付皿	体部	倒位カ	９Ｃ後	
426		大	墨書	土師器	坏	体部	正位	不明	

記された文字の内容については，国立歴史民俗博物館館長の平川南氏に鑑定を依頼し，鈴木景二氏，土橋誠氏の釈文案とそれらについての所見を頂いた。鑑定の結果は以下の通りである。

【鈴木景二氏案】

・
□ き（幾） 見（み） 末（ま）
□ 和（わ）（or 利（り））奈（なか） 毛（も） 比（ひ）
□ □（天カ志カ） 无（む）（or 耳（に））

【土橋誠氏案】

・
□ 幾（き） 也（や） 末（ま）
・ 利（り） □（梓カ） 毛（も） 千（ち）
□
□

【両者の案で一致したもの】

・
□ 5
□ 6
毛（も） 7
□ 8
・ 9
□ 10
□ 11
□ 1
幾（き） 2
□ 3
末（ま） 4

釈文　２文字目・４文字目・７文字目については，それぞれ「幾（き）」「末（ま）」「毛（も）」で問題ないように思われる。他の字画については，それぞれ別の文字をあててはいるが，５文字目は「利（り）」，８文字目は「比（ひ）」の可能性が高い。鈴木氏によれば，この墨書土器は文字が上手ではなく，書き慣れていない人が書いた可能性が高いものの，習書や試筆ではなく，何らかの目的を持って書いたものと考えられるという。

所見　文字の確定が困難なため，全体として何を意味しているのかつかみにくい。和歌であるとすれば，第１句・第２句，もしくは長歌の一部であろう。同じような草仮名文字の事例としては，鹿児島県薩摩川内市薩摩国府跡，鹿児島県霧島市大隅国府跡・気色の杜遺跡，福岡県筑紫野市太宰府右郭八条十坊付近，富山県射水市赤田Ⅰ遺跡で出土している。いずれも国府近辺もしくは国府と何らかの関連がある施設から出土していること，歌ないし饗宴に関わる内容が書かれていることといった共通点がある。鈴木氏は，赤田Ⅰ遺跡出土墨書土器について考察するなかで，中央派遣官である国司により，饗宴の場における詠歌，また，仮名による書記が地方に広がったと推定している[12)]。

小作遺跡の草仮名墨書土器が，こうした国司の饗宴･和歌に関するものであるのかどうかについては，決定的な根拠材料に乏しいが，地方社会における草仮名の普及という点で貴重な資料といえる。

(4) 遺跡の性格について

上記の出土土器や集落変遷から明らかになった集落の特徴と遺跡の性格について述べる。

当遺跡は，稲敷台地の軸部から北東方向へ延びるやせ尾根状の台地上に広がっており，今回の調査区は，その東端部に位置している。確認できた集落跡は，周囲を沖積低地や開析谷に囲まれた狭小な台地上を中心に立地しており，自然地形を境界として，他の集落から離れて存在した集落と捉えることができる。

住居跡と掘立柱建物跡は，主軸方向や配置に規則性が無く，漸移的に建て替えが行われたと推測できる。調査区域内においては，８・９世紀代は住居跡２，３軒と掘立柱建物跡２，３棟，10 世紀以降は住居跡２～４軒，掘立柱建物跡１，２棟が同時期に機能しており，各時期を通じて５棟前後の建物で集落が構成されている。住居跡の特徴は，８世紀は一辺６～７ｍ大形住居が中心で，９世紀以降は一辺４ｍ以下の小形住居が主体である。掘立柱建物跡は，いずれも側柱建物である。８世紀前葉（第Ⅰ期）から屋とみられる大形建物と倉庫と考えられる３間×２間や２間×２間の中･小形建物が並立しており，９世紀後葉（第Ⅵ期）には，三面庇付建物（第 19 号掘立柱建物跡）が出現している。

遺物は，８世紀前半（第Ⅰ・Ⅱ期）から銅椀模倣の土師器椀や盤状坏に類似する土師器皿，転用硯や朱墨付着土器，灯明皿（油煙付着土器）などが出土しており，集落の社会的・経済的な優位性や識字階

級の存在を示している。9世紀中葉～10世紀前葉（第Ⅴ～Ⅶ期）には，搬入品の灰釉陶器や須恵器大甕，草仮名文字や「寺」などの多数の墨書土器，祭祀具の土馬など様々な遺物が出土している。当該期には三面庇付建物に代表される大形建物や大形円形土坑，円筒形土坑などの特徴的な遺構群も存在しており，有力者層が主催する饗宴や儀礼行為が執り行われていたことを示している。

以上，小作遺跡は，地理的，社会的に一般的な集落から隔絶した位置にあった集落とみることができる。一方，集落は小規模で，限られた世帯数で構成されていた様相がうかがえる。したがって，当遺跡の性格は，有力者層の私的な邸宅地と考えられる。

5　おわりに

今回の調査から，小作遺跡は，縄文時代，古墳時代，奈良時代から平安時代にかけての集落跡であることが判明した。古墳時代前期初頭の集落は，３世紀後半段階の外来系土器が出土しており，本県における古墳文化の流入を考える上で貴重な調査例である。また，奈良時代・平安時代の集落は，信太郡子方郷における有力者層の邸宅地と考えられ，当地域の古代史を解明する上で重要な成果があげられた。特に，11字の草仮名文字が書かれた墨書土器は，中央から遠く離れた東国の地で歌詠の宴が執り行われていた情景を想い出させるものであり，古代常陸国における雅やかな文化の一側面を現在に伝える希少な歴史資料といえよう。今回の調査成果が，本県ならびに当地域における歴史解明の一助となれば幸いである。

註

1）小林達夫編　『総覧　縄文土器』アム・プロポーション　2007年12月
2）赤塚次郎　『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集　1990年３月
3）加藤修司　「房総半島における前期古墳の展開－重要遺跡確認調査の成果と課題－　第１章　土器編年案」『千葉県文化財センター研究紀要』21　2000年９月
4）大村直　「南中台遺跡と周辺遺跡の土器編年」『市原市南中台遺跡・荒久遺跡Ａ地点』上総国分寺台遺跡調査報告ＸＸ・市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集　2009年３月
5）比田井克仁　『関東における古墳時代出現期の変革』雄山閣　2001年７月
6）佐々木義則　「常陸におけるロクロ成形土師器坏の展開－古代久慈・那賀・信太の三郡を中心として－」『婆良岐考古』第20号　婆良岐考古同人会　1998年５月
白田正子他　「中根･金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ　中原遺跡３」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集　2001年３月
稲田義弘　「熊の山遺跡　島名･福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集　2002年３月
成島一也他　「薬師後遺跡　一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第308集　2009年３月
7）市立市川考古博物館　『シンポジウム資料　房総半島における奈良・平安時代の土器』史館同人　1983年10月
8）樫村宣行　「「常総型甕」編年小考－茨城県南部を中心として－」『列島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会　1998年２月
9）赤井博之　「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究（１）」『婆良岐考古』第20号　婆良岐考古同人会　1998年５月
10）齋藤孝正　『日本の美術409　越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器』至文堂　2000年６月
また，産地同定については，豊橋市美術立博物館の贄元洋氏，菊池直哉氏より御教示を得た。
11）市立市川考古博物館の山路直充氏より「村落内寺院」，大成エンジニアリング株式会社の河野一也氏より「別荘地」との御教示を得た。ここで提示し，今後の検討課題としたい。
12）鈴木景二　「赤田Ⅰ遺跡出土の草仮名墨書土器」『射水市内遺跡発掘調査報告Ⅰ　赤田Ⅰ遺跡本発掘調査・串田地区試掘調査』富山県射水市教育委員会　2008年３月

参考文献

・独立行政法人 国立文化財機構　奈良文化財研究所　『古代の官衙遺跡　Ⅰ 遺構編』　2003年３月
・独立行政法人 国立文化財機構　奈良文化財研究所　『古代豪族居宅の構造と機能』　2007年12月

付　　章

小作遺跡第537号土坑出土のウマについて

西本豊弘

1　はじめに

小作遺跡の第537号土坑からウマの歯が２頭分出土した。１体はほぼ成獣であり，もう１体は幼獣であった。それらについて観察所見を述べる。

2　試料１

試料１は，上下の歯が一括して出土したものである。第３後臼歯の部分が乱れており，右側下顎第３後臼歯が欠損しているが，ほぼ１個体分である。出土状況をみると，頭蓋部が下にあり，下顎骨が上にある状態で埋葬されていた。土坑の大きさと，頭部が土坑の片側にあることと，ウマの四肢骨の破片が少量残っていることから，１個体分の骨が一括して埋葬されていたと推測される。解体されていたかどうかは不明である。

このウマの歯は，全てが永久歯であったが，歯根が長く，摩耗は進んでいない。同一個体と思われる切歯は摩耗が少なく萌出直後と思われることから，成獣になる頃の３歳前後で死亡したと推測される。ウマの歯の計測表を表に示したが，若い個体であることを考慮すると比較的小さい。おそらく体高約110～120cmの小形馬であろう。雌雄は不明である。

3　試料２

試料２は，出土状況をみると，片側の上下の乳歯３個と第１後臼歯が伴っている。乳歯の下にあるはずの永久歯は形成途中であるため，歯質が弱く消滅したのであろう。採集されていた歯は８個体分以上であったが，すべて破損しており歯種の同定は困難であった。乳歯は少し摩耗していることから，生後数ヶ月程度の幼獣と推測される。この個体の近くで頭蓋骨の内部の岩様骨（耳骨の一部）が認められたので，頭蓋骨全体が埋葬されたと思われる。おそらく四肢骨を含む全身が埋葬されていたのであろう。試料１との関係は分からない。

表１　第537号土坑出土ウマの歯計測値

歯種	最大長	最大幅		歯根長
		前（中）	後	
上顎第２前臼歯	33.3	23.4		56.3
上顎第３前臼歯	27.8	22.8		72.8
上顎第４前臼歯	24.2	21.4		76.6
上顎第１後臼歯	25.5	－		72.1
上顎第２後臼歯	24.4	21.3		79.1
上顎第３後臼歯	－	－		－
下顎第２前臼歯	30.0	－	12.7	47.6
下顎第３前臼歯	25.2	11.1	10.6	70.6
下顎第４前臼歯	28.8	13.4	13.6	73.7
下顎第１後臼歯	26.7	12.5	11.7	72.5
下顎第２後臼歯	27.0	11.6	10.5	76.3
下顎第３後臼歯	－	－	－	－

* 左右は上顎・下顎ともに左側である。単位はmmである。
** 最大幅は上顎は中央で、下顎は前・後で測った数字である。

写真１　小作遺跡出土のウマの歯

（上段は上顎，下段は下顎，左側が前方である。上顎・下顎ともに左側の外側である）

写　真　図　版

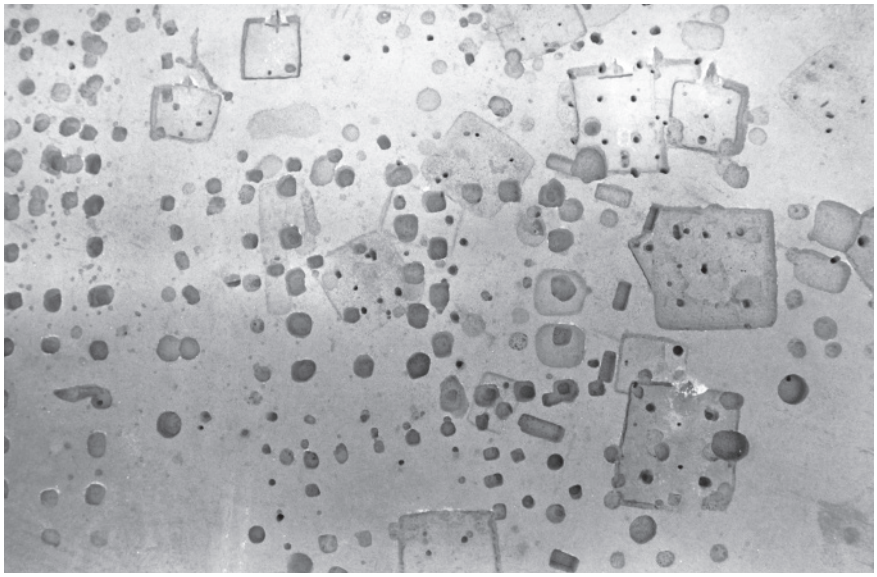
古墳時代前期土師器

小作遺跡　調査区全景（南東から）

小作遺跡　調査区全景（北東から）

小作遺跡
調査区全景
（東上空から）

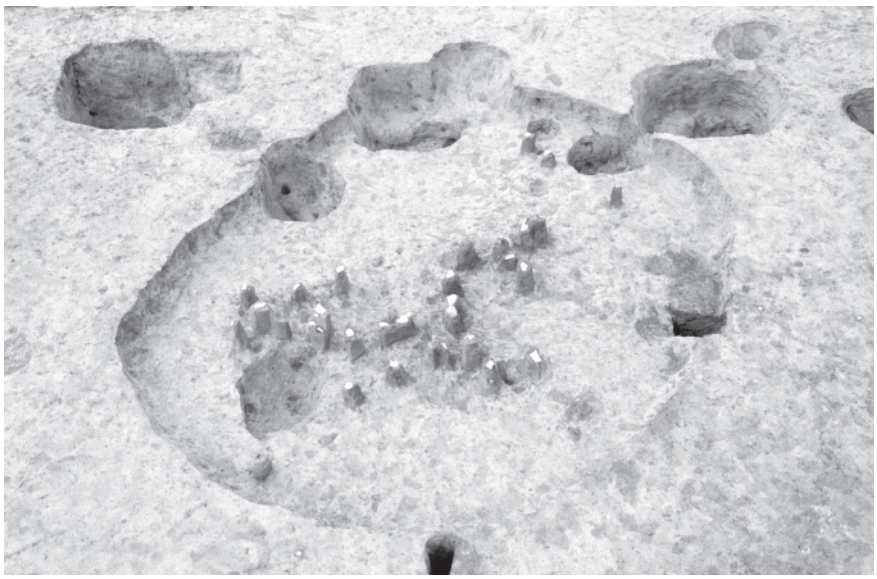
小作遺跡
調査区全景
（南から）



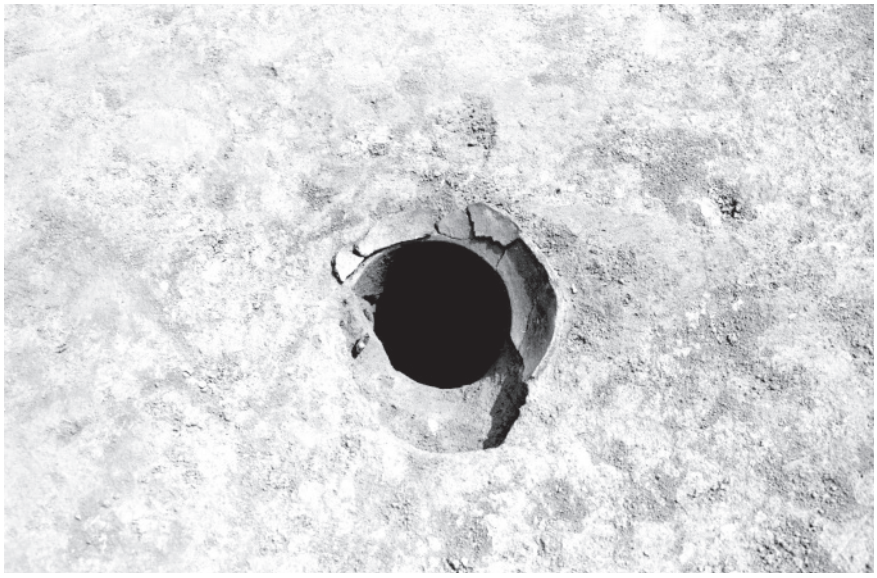
小作遺跡
ＳＢ１９・２０周辺

第34号住居跡
完掘状況

第40号住居跡
完掘状況



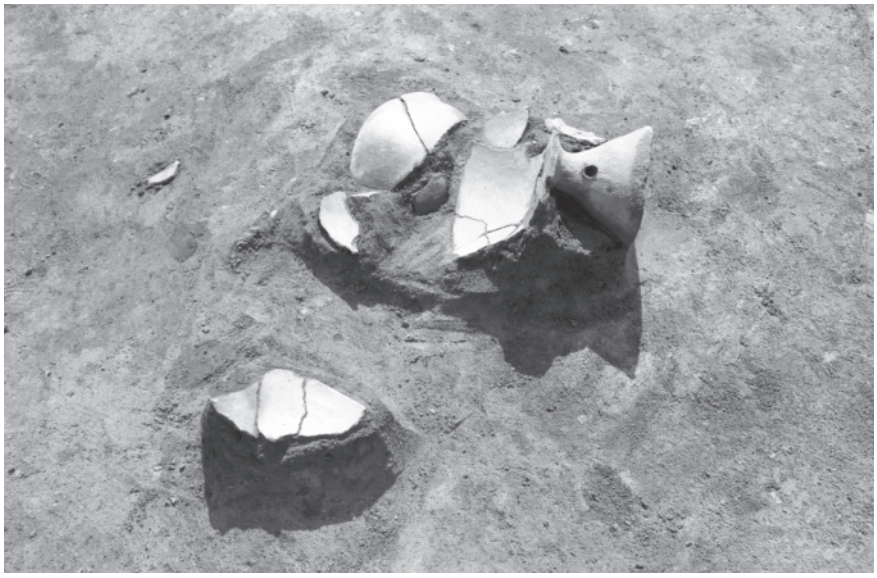
第43号住居跡
遺物出土状況



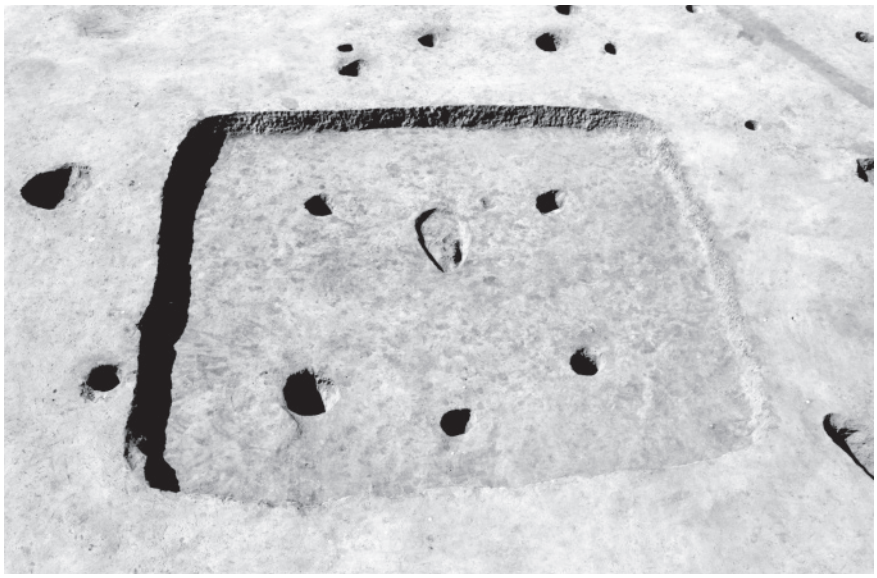
第12号掘立柱建物跡
遺物出土状況

第４号陥し穴
完掘状況

第５号陥し穴
完掘状況

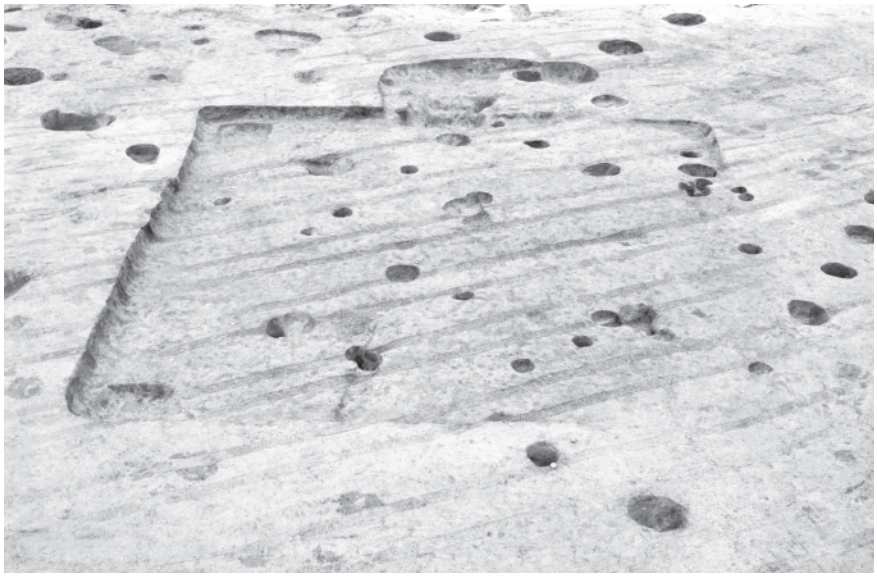


第14号住居跡
遺物出土状況



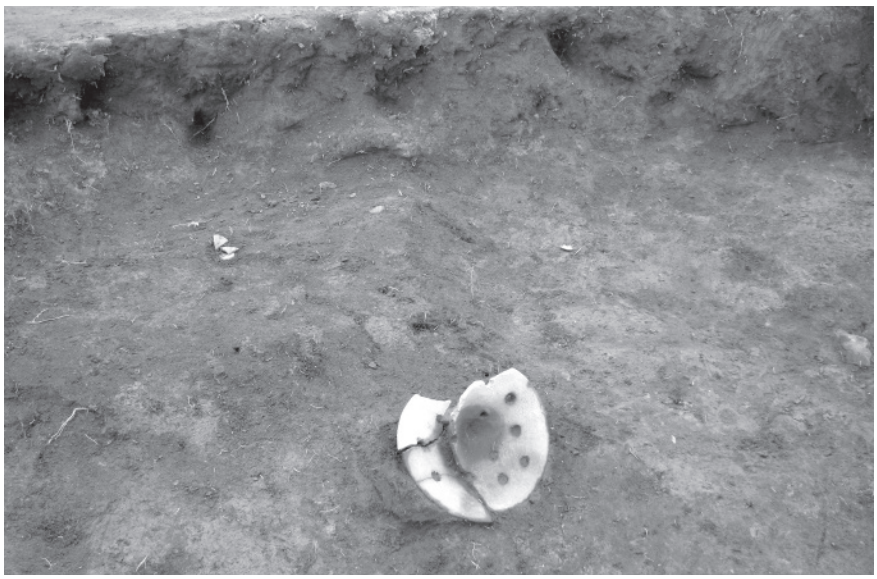
第14号住居跡
完掘状況

第26号住居跡
貯蔵穴1
遺物出土状況



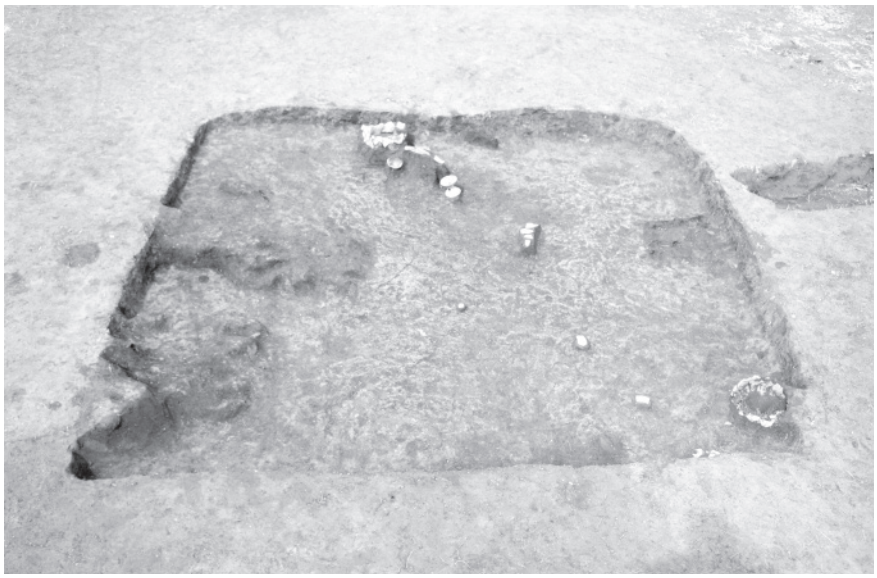
第26号住居跡
完掘状況

第30号住居跡
遺物出土状況①

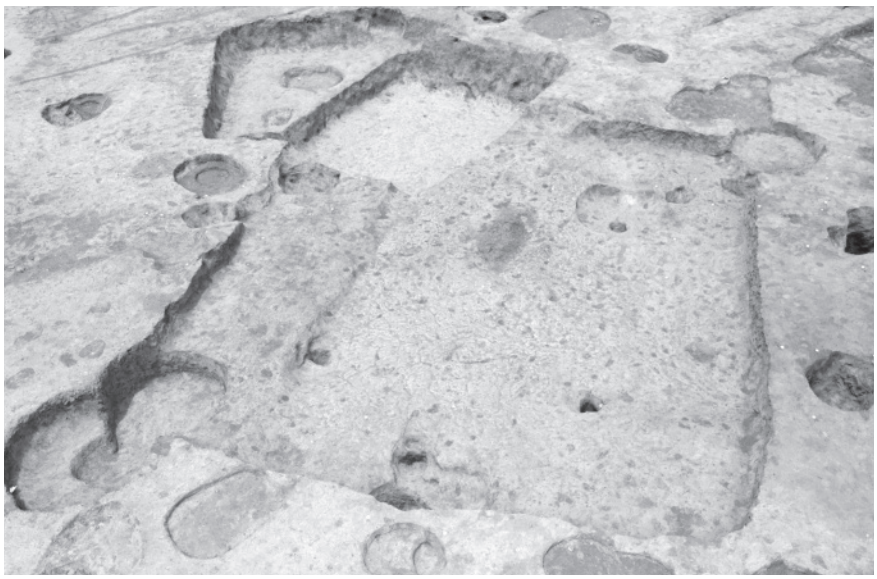


第30号住居跡
遺物出土状況②

第30号住居跡
完掘状況

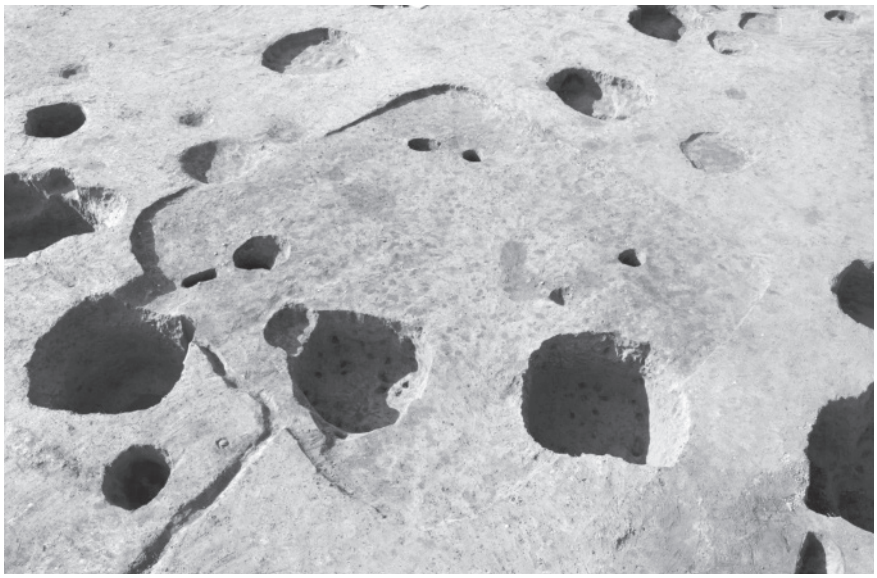


第33号住居跡
遺物出土状況



第41号住居跡
完掘状況

第62号住居跡
遺物出土状況



第62号住居跡
完掘状況

第69号住居跡
遺物出土状況

第18号住居跡
完掘状況

第25号住居跡
完掘状況

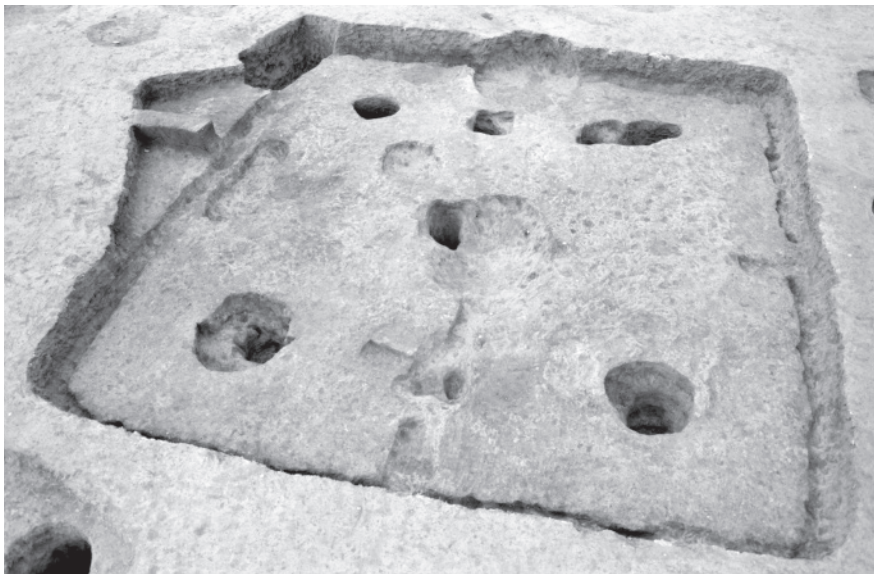
第25号住居跡
掘方
遺物出土状況

第36号住居跡
遺物出土状況

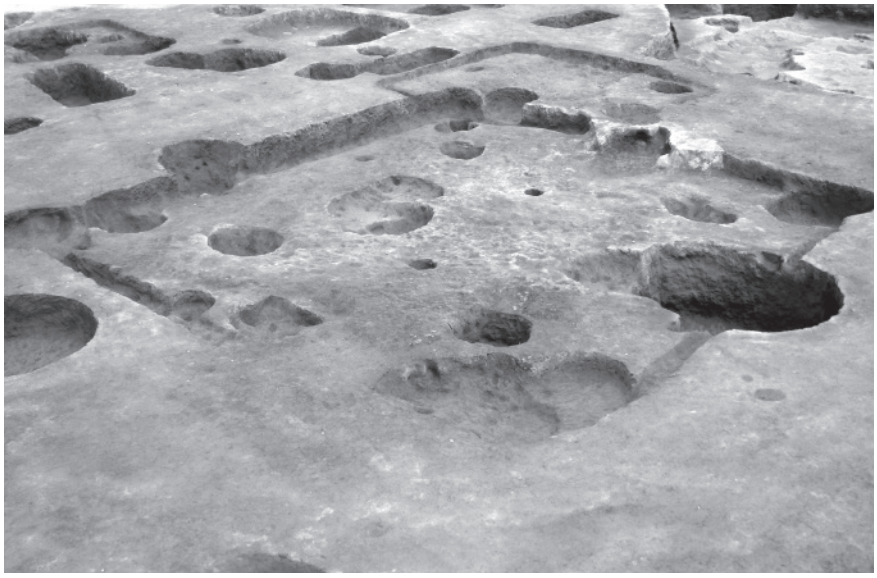
第36号住居跡
完掘状況

第61号住居跡
完掘状況

第54号住居跡
遺物出土状況



第54号住居跡
完掘状況



第57号住居跡
完掘状況

第72号住居跡
完掘状況

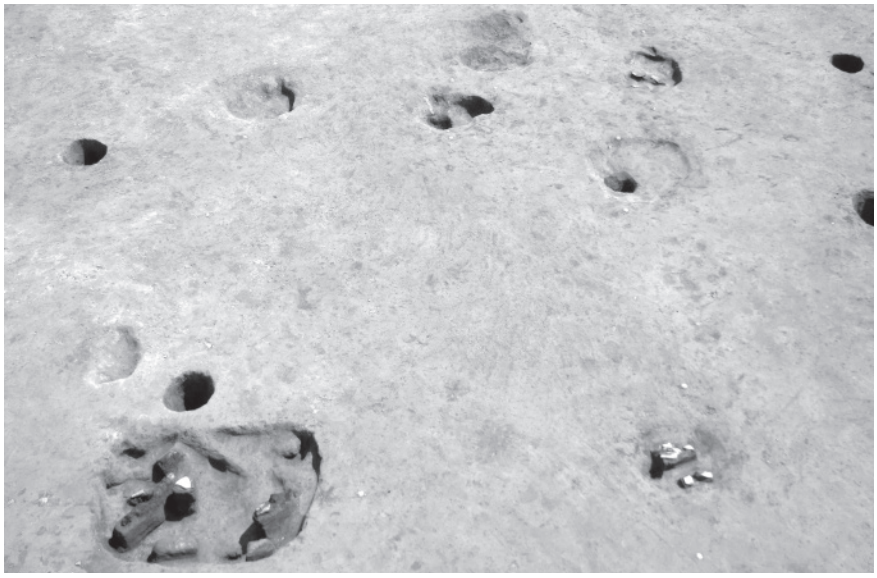
第2号掘立柱建物跡
完掘状況

第4号掘立柱建物跡
確認状況

第10号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

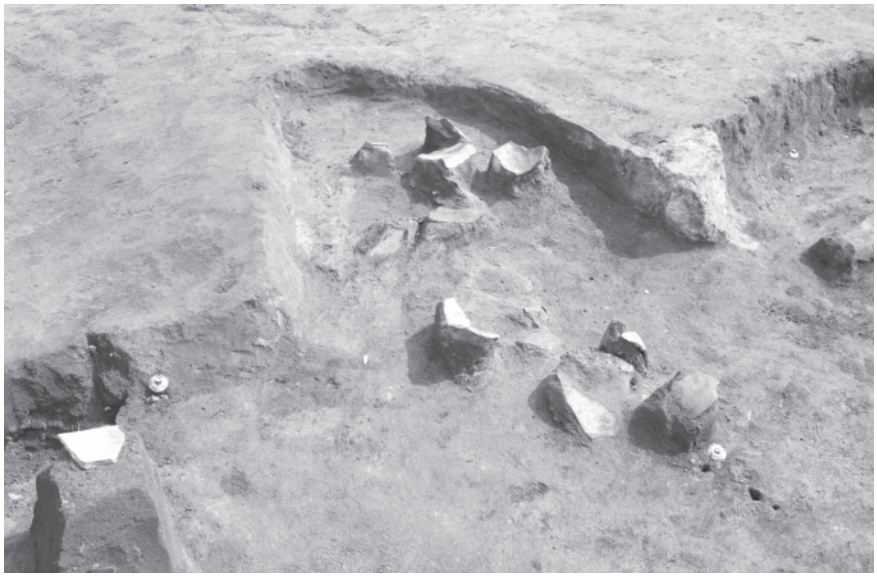
第22号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第27号掘立柱建物跡
完　掘　状　況



第12号住居跡
遺物出土状況

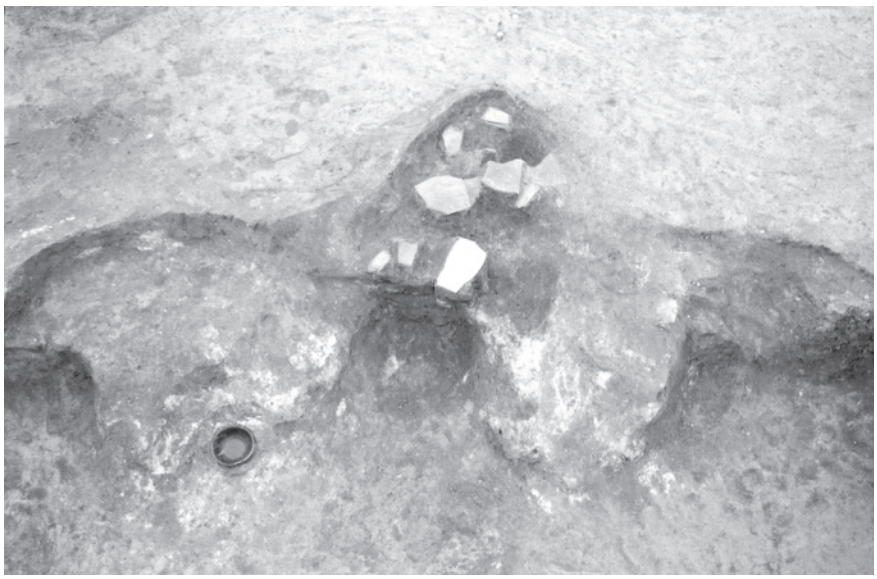
第12号住居跡
貯蔵穴
遺物出土状況



第13号住居跡
竈遺物出土状況

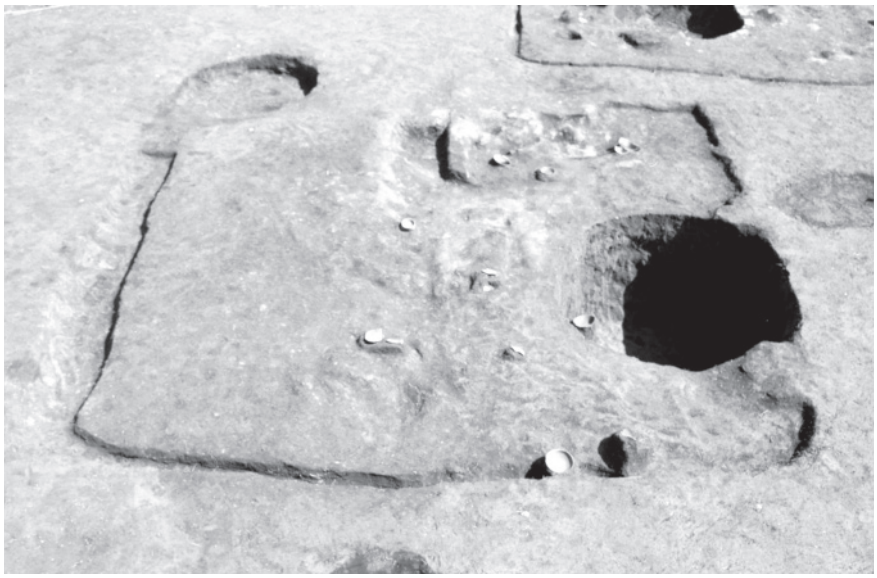
第13号住居跡
完掘状況

第35号住居跡
遺物出土状況



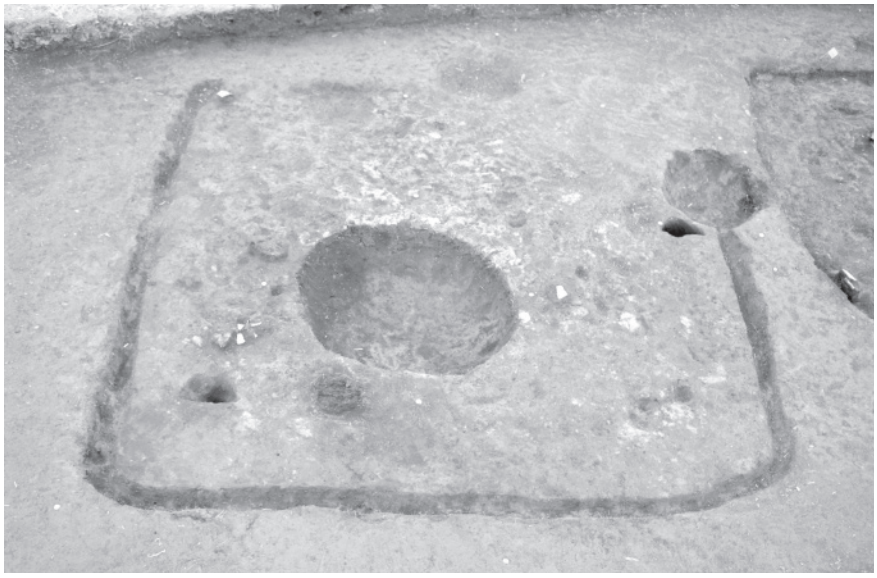
第35号住居跡
竈遺物出土状況

第35号住居跡
完掘状況

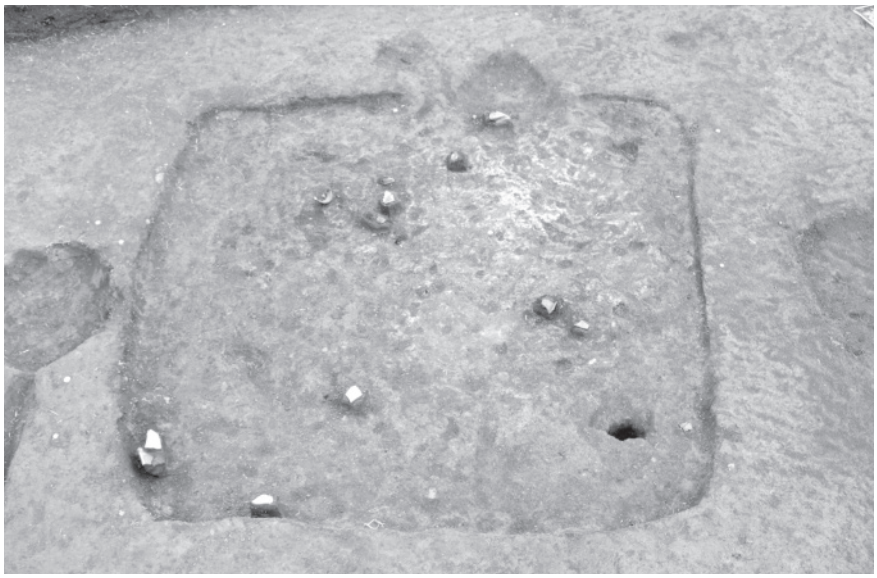


第45号住居跡
遺物出土状況

第45号住居跡
貯蔵穴
遺物出土状況



第46号住居跡
遺物出土状況



第47号住居跡
遺物出土状況

第48号住居跡
竈遺物出土状況

第48号住居跡
完掘状況

第49号住居跡
遺物出土状況

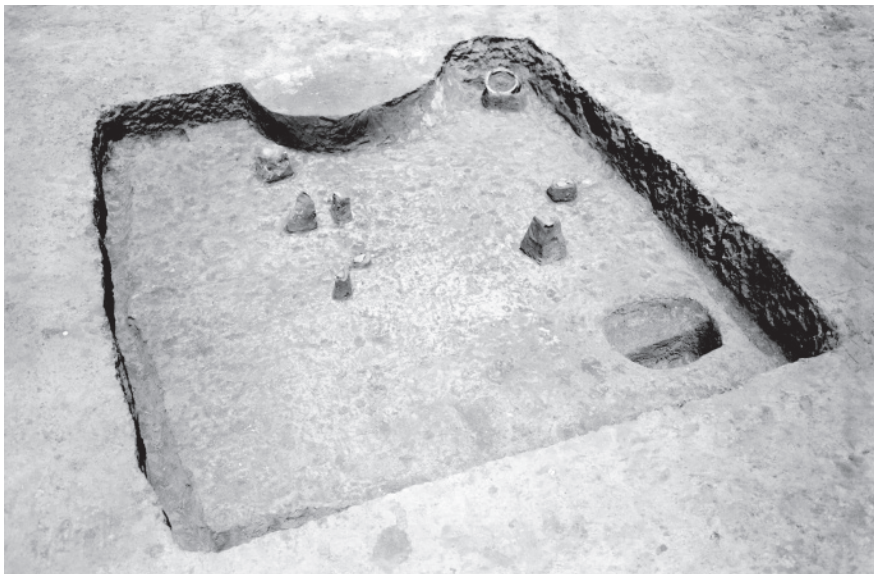
第49号住居跡
完掘状況

第50号住居跡
竈遺物出土状況

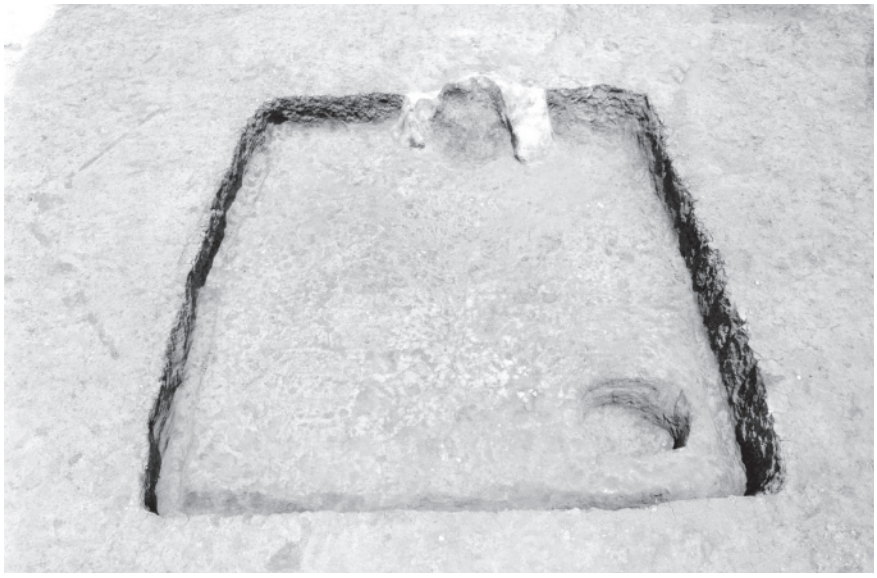
第67号住居跡
遺物出土状況

第67号住居跡
完掘状況

第78号住居跡
竈遺物出土状況



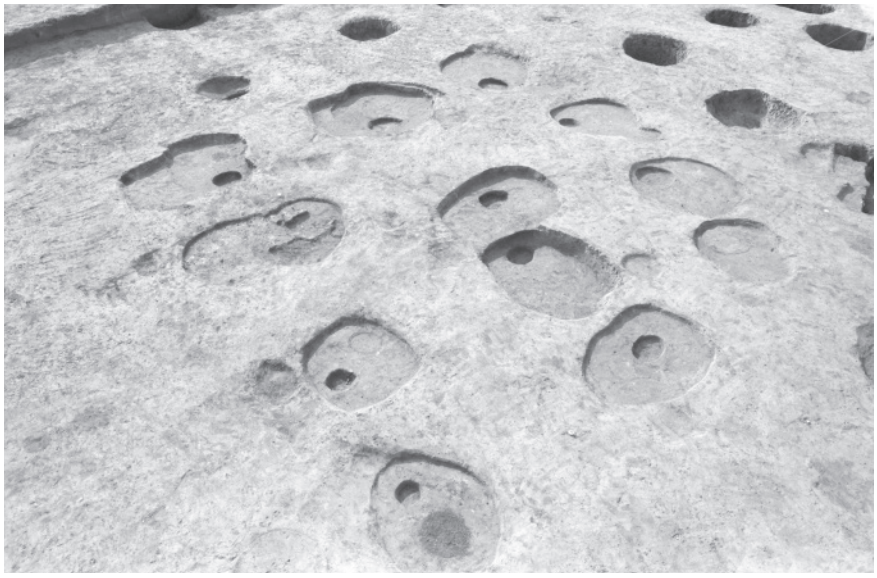
第81号住居跡
遺物出土状況



第81号住居跡
完掘状況

第3号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第5号掘立柱建物跡
完　掘　状　況



第6号掘立柱建物跡
確　認　状　況

第7号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

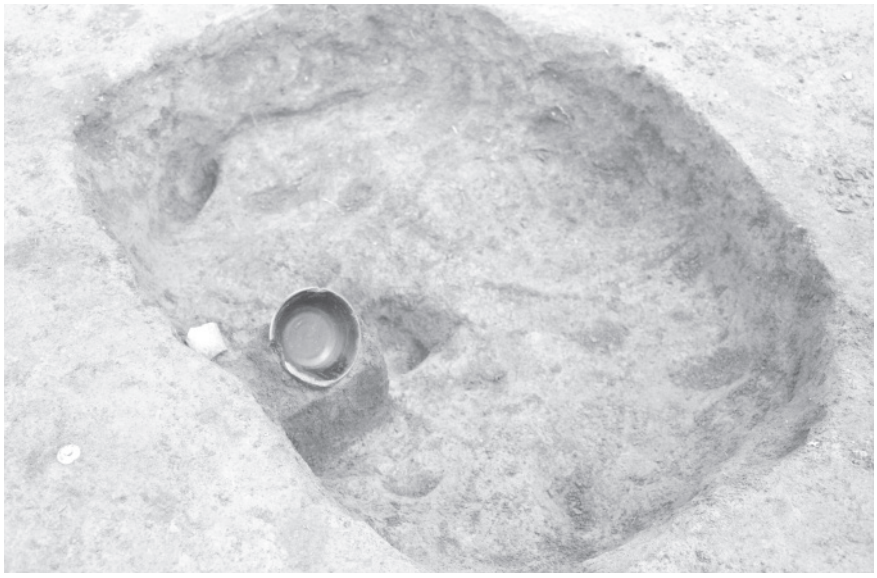
第8・9号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第19号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

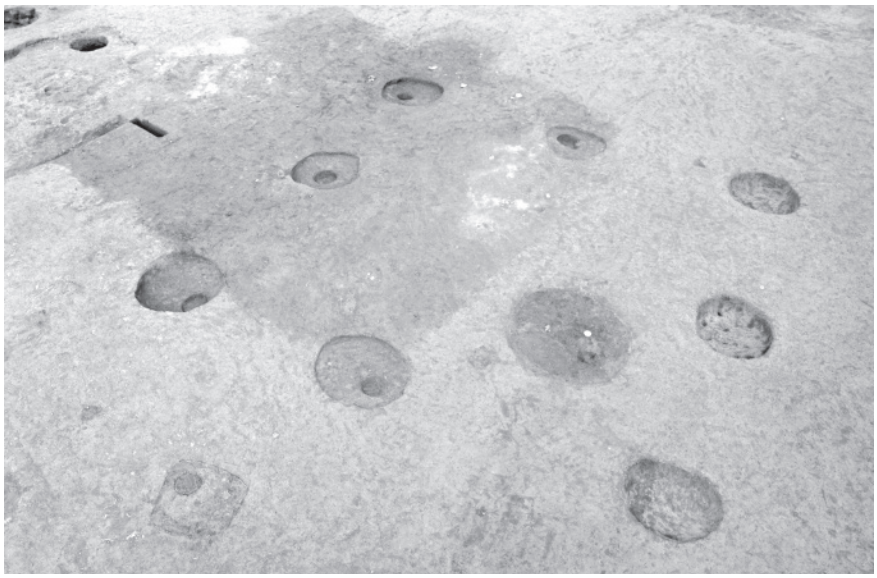
第20号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第23号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第24号掘立柱建物跡
確　認　状　況



第24号掘立柱建物跡
遺 物 出 土 状 況

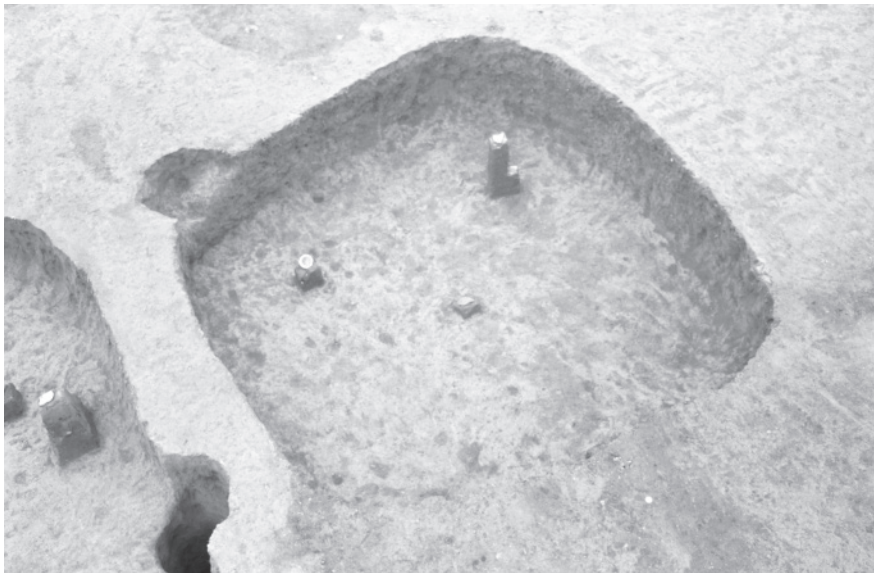


第25号掘立柱建物跡
確　認　状　況

第3号方形竪穴遺構
完　掘　状　況

第4号方形竪穴遺構
遺 物 出 土 状 況

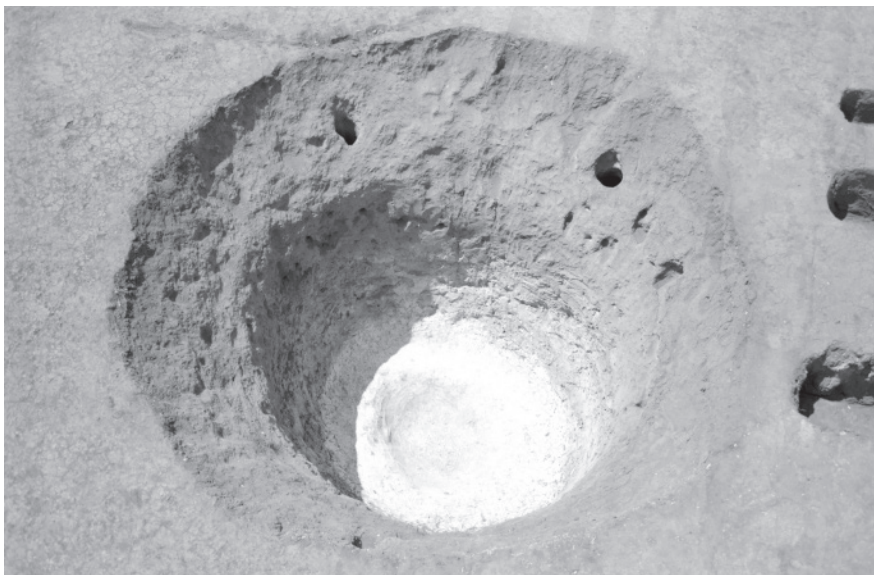
第7号方形竪穴遺構
遺 物 出 土 状 況



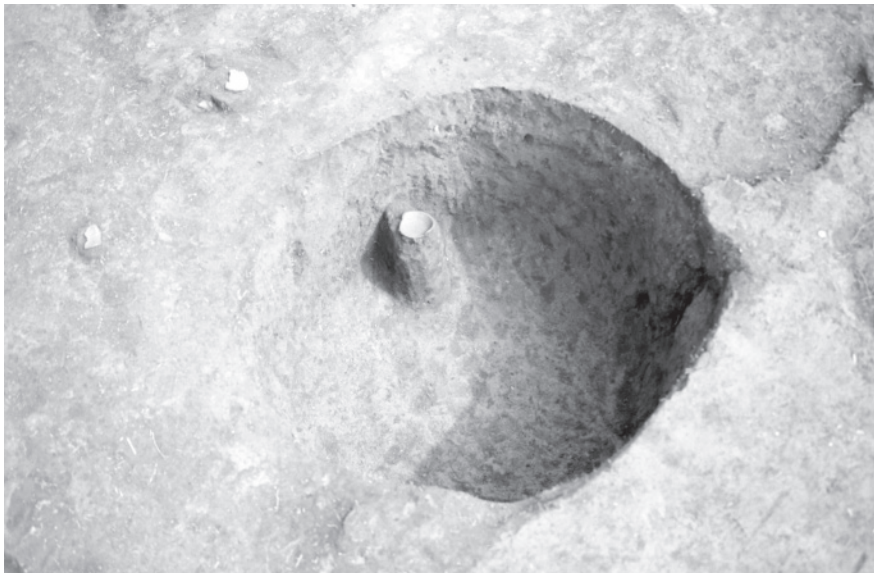
第8号方形竪穴遺構
遺 物 出 土 状 況

第9号方形竪穴遺構
遺 物 出 土 状 況

第1号大形円形土坑
遺 物 出 土 状 況



第1号大形円形土坑
完 掘 状 況

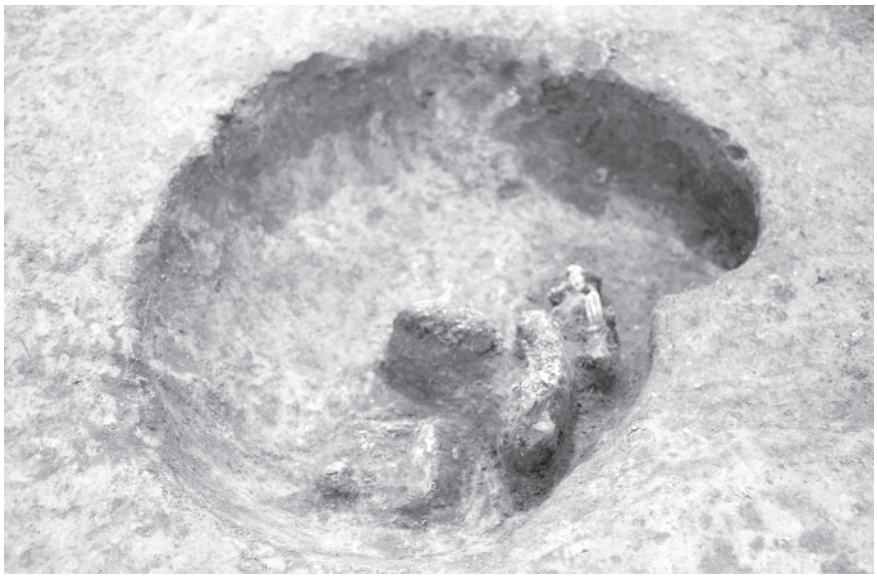


第 242 号　土　坑
遺物出土状況①

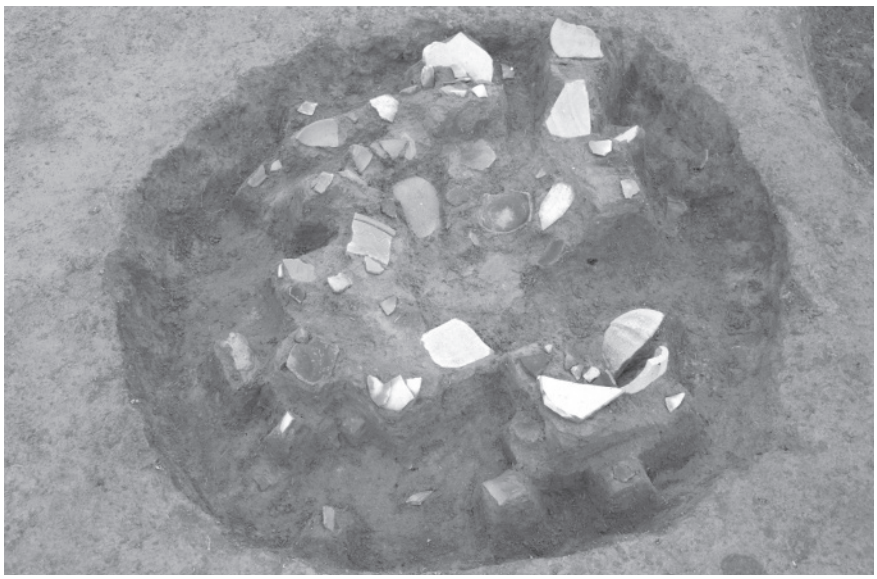
第 242 号　土　坑
遺物出土状況②

第 247 号　土　坑
遺物出土状況

第 537 号　土　坑
遺物出土状況①



第 537 号　土　坑
遺物出土状況②



第 559 号　土　坑
遺物出土状況

第 576 号　土　坑
遺 物 出 土 状 況

第 690 号　土　坑
遺 物 出 土 状 況

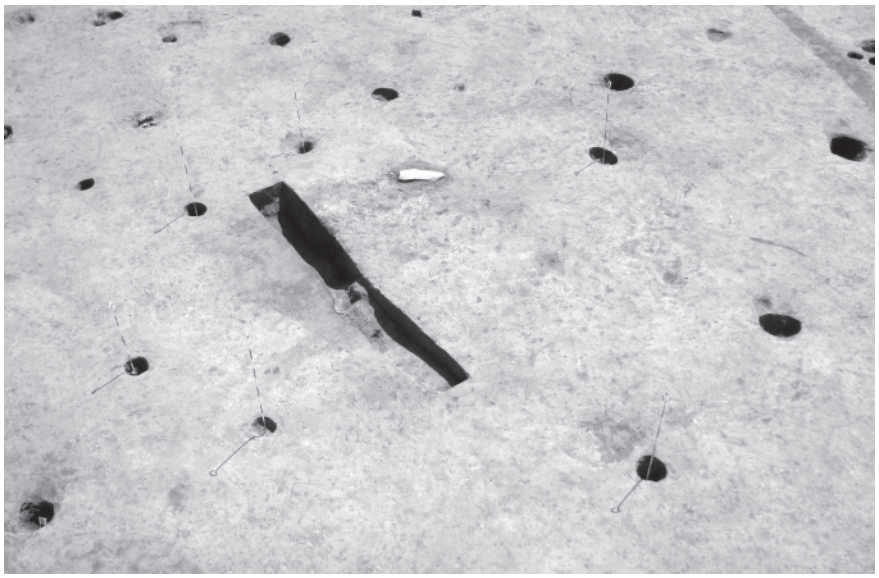
第771・772号土坑
遺 物 出 土 状 況

第 776 号　土　坑
遺物出土状況①

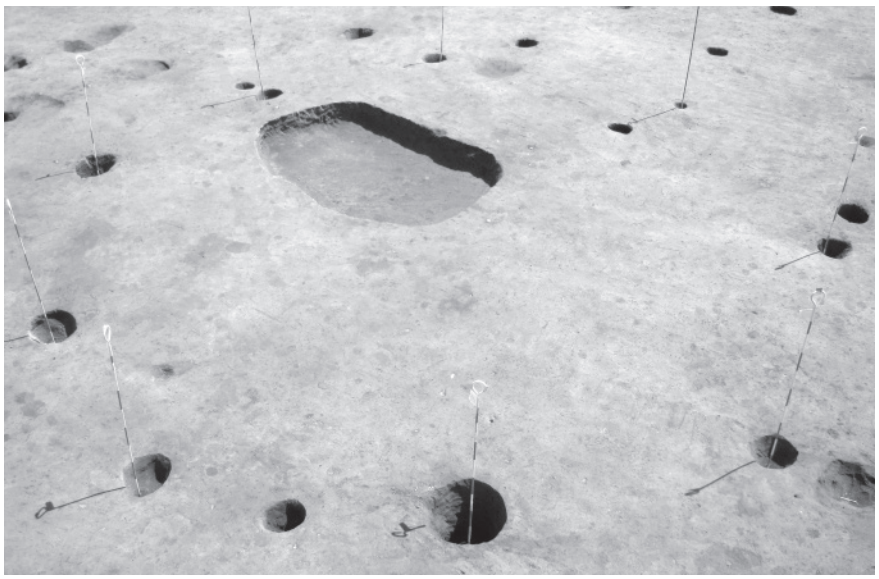
第 776 号　土　坑
遺物出土状況②

第 490 号　土　坑
遺物出土状況

第１号ピット群
完　掘　状　況



第２号ピット群
完　掘　状　況

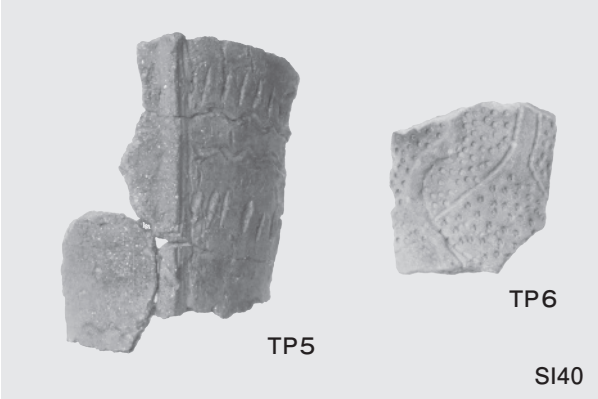


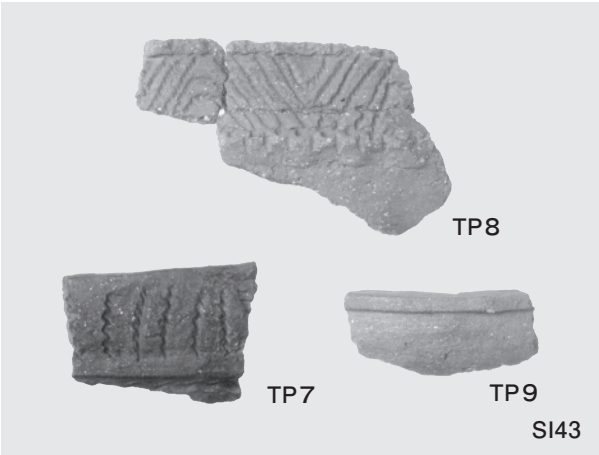
第３号ピット群
完　掘　状　況

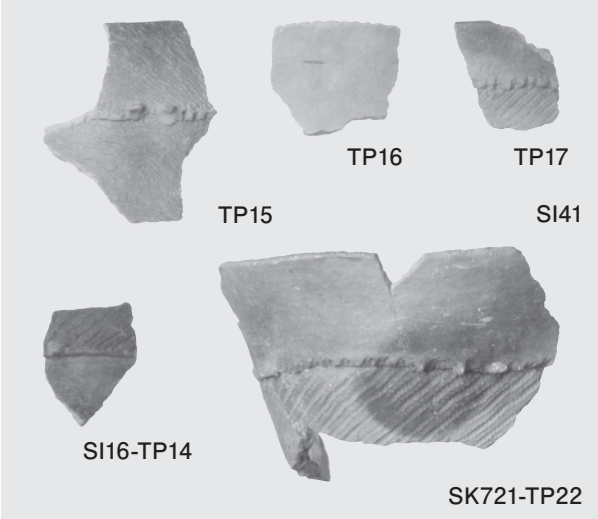
第 1 号 道 路 跡
完 掘 状 況

第 1 号 溜 井 跡
完 掘 状 況

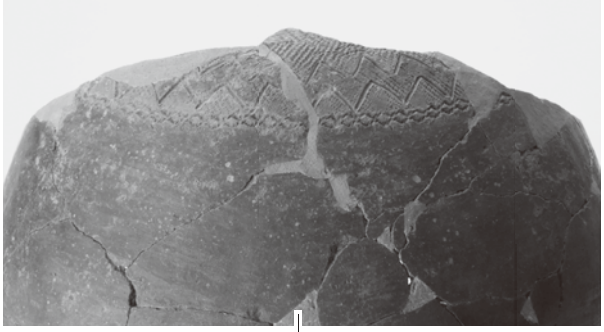
第 1 号 溝 跡
完 掘 状 況

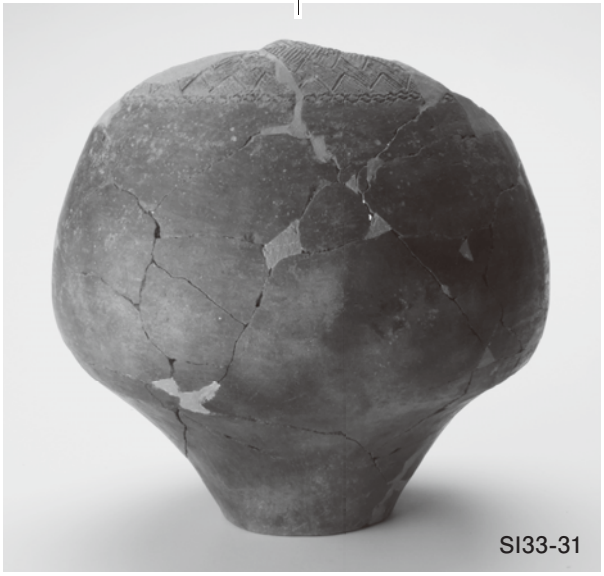






第 16・34・40・41・43・69 号住居跡，第 11・12 号掘立柱建物跡，第 721 号土坑出土土器





第 14・23・33・41・62・64・69 号住居跡出土土器

第 30 号住居跡出土土器

第 26・55 号住居跡出土土器

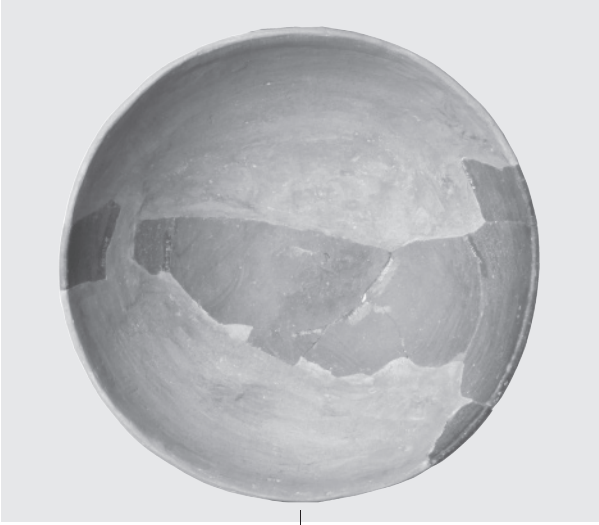
SI18-50

SI25-57

SI18-51

SI25-61

SI25-53



SI25-54

SI36-67

SI36-71

第 18・25・36 号住居跡出土土器

SI36-65

SI36-66

SI36-63

SI54-81

SI54-77

SI54-89

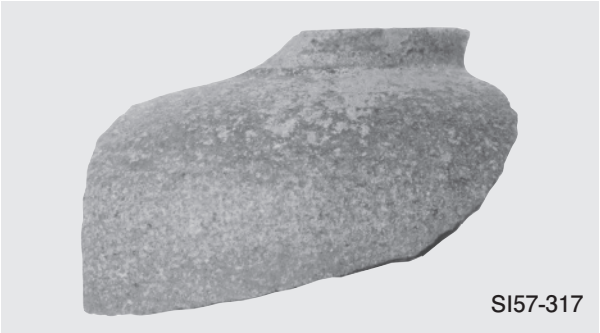
SI54-87

SI54-75

SI54-78

SI54-90

第 36・54 号住居跡出土土器


SI57-317

SI35-126

SI57-318

SI35-130

SI35-131

SI35-132

SI35-133

SI35-136

SI35-135

第57・35号住居跡出土土器

SI35-121

SI35-122

SI35-123

SI45-143

SI45-144

SI45-145

SI45-147

SI45-148

SI45-149

SI45-151

第35・45号住居跡出土土器

SI45-152

SI45-153

SI48-158

SI48-159

SI48-162

SI48-171

SI48-163

SI48-175

SI48-165

第45・48号住居跡出土土器

SI49-177

SI50-205

SI49-178

SI50-206

SI49-182

SI50-207

SI49-183

SI50-208

SI49-184

SI67-234

第49・50・67号住居跡出土土器

SI67-229

SI78-243

SI67-230

SI78-244

SI67-231

SI78-245

SI67-232

SI78-246

SI67-233

SI78-247

第67・78号住居跡出土土器

SI78-248

S I79-260

SI78-250

SI79-261

SI78-251

SI79-262

SI79-253

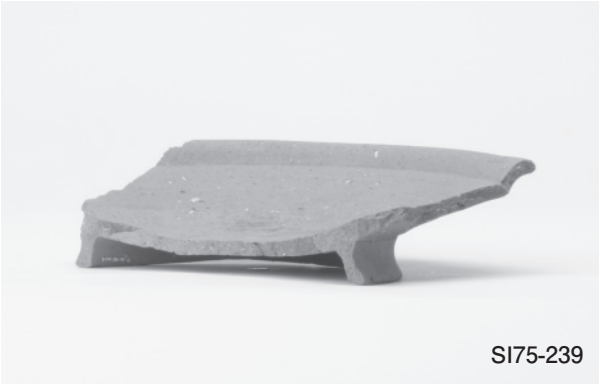
SI79-254

SI79-255

SI79-256

第78・79号住居跡出土土器

SI74-237


SI75-239

SI81-265

SI81-268

SB24-293

SH８-330

SK242-346

SK242-348

SK242-349

第74・75・81号住居跡，第24号掘立柱建物跡，第８号方形竪穴遺構，第242号土坑出土土器

第１号大形円形土坑-334

第１号大形円形土坑-335

第１号大形円形土坑-336

第１号大形円形土坑-337

第１号大形円形土坑-333

第１号大形円形土坑-342

SK247-350

SK247-351

SK414-360

SK414-361

第１号大形円形土坑，第247・414号土坑出土土器

第２号ピット-404

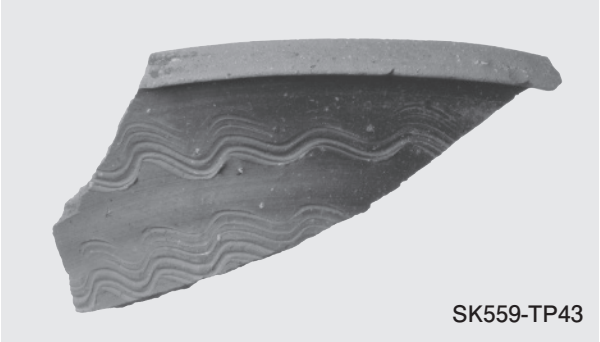
SK565-382

SK576-383

SK690-390

SK559-377

SK690-391


SK559-TP43

SK559-TP44

SK559-380

第559・565・576・690号土坑，第２号ピット出土土器

SK771-393

SK771-394

SK771-395

SK771-396

SK772-397

SK776-399

SK776-400

SK776-401

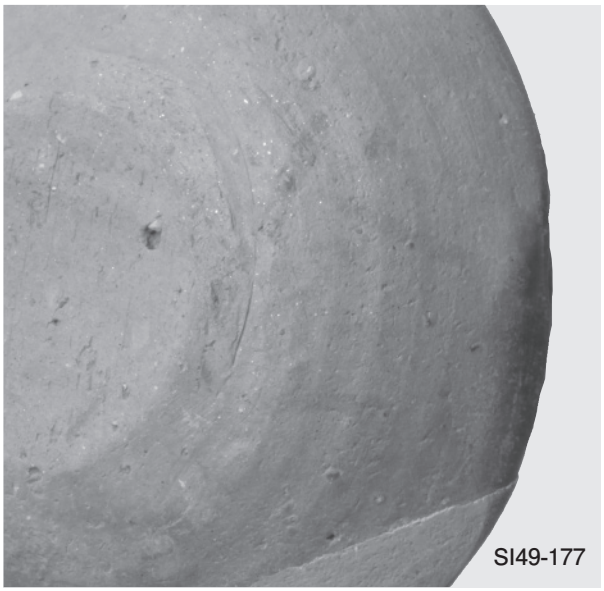
SK776-402

SK884-405

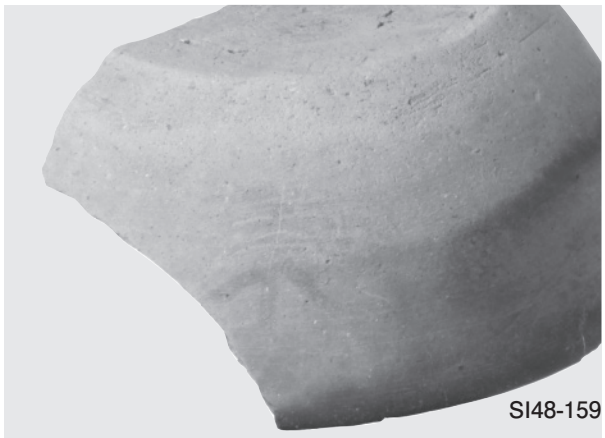
SK980-409

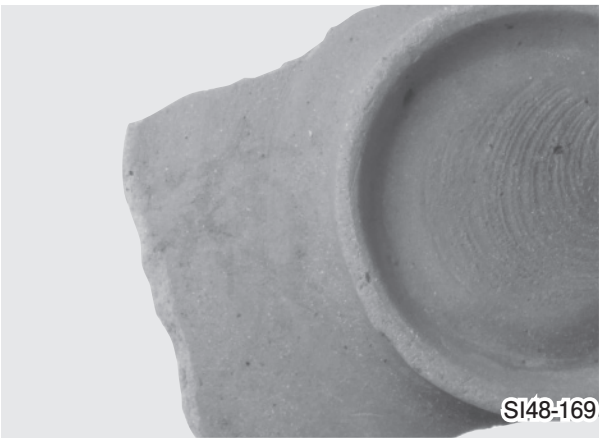
SK1009-410

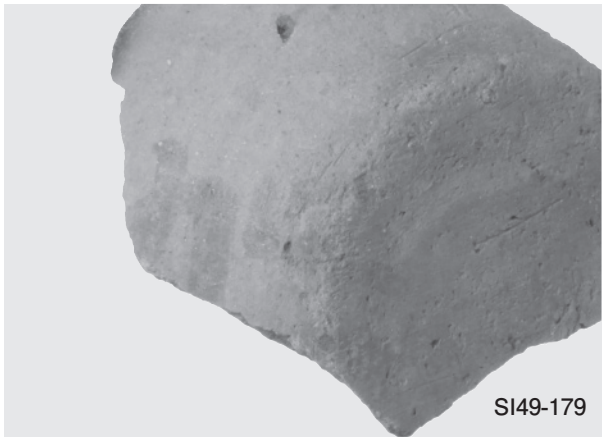
第771・772・776・884・980・1009号土坑出土土器

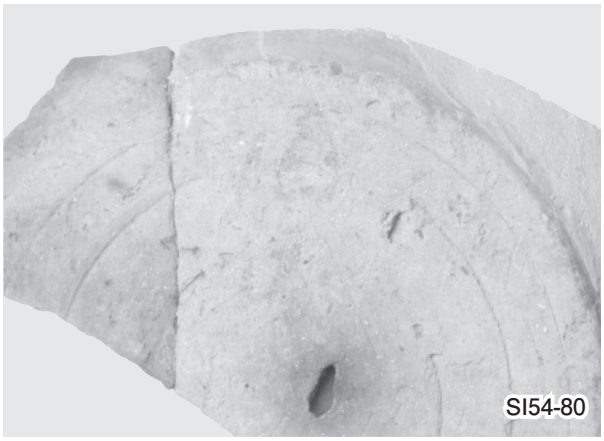


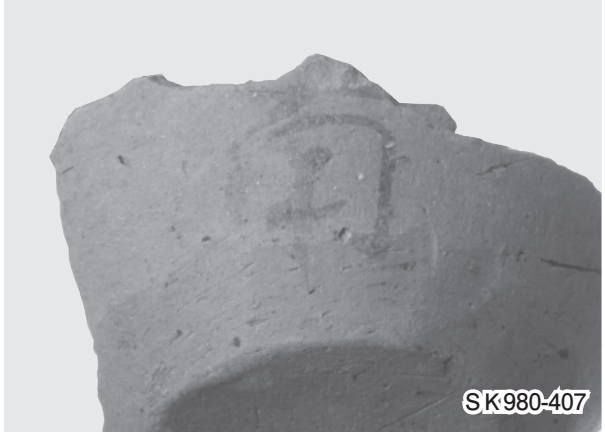
第35・49・74・79号住居跡，第884号土坑出土墨書・篦書土器

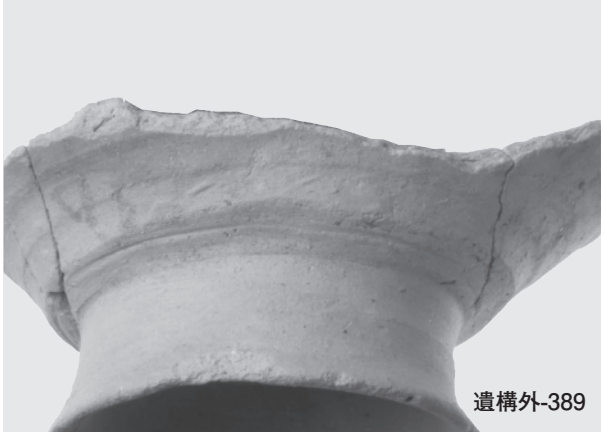












第48・49・54・67号住居跡，第24号掘立柱建物跡，第980号土坑，遺構外出土墨書土器

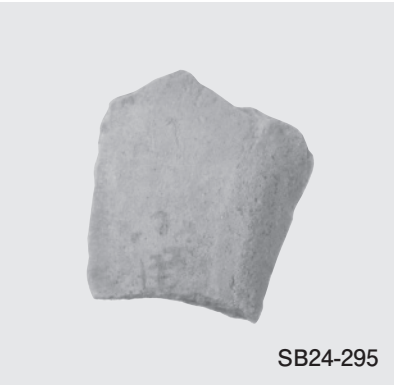
SI35-127

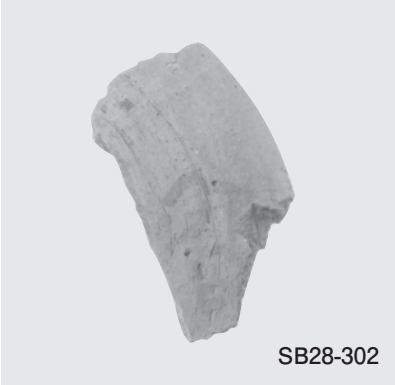
SI48-160

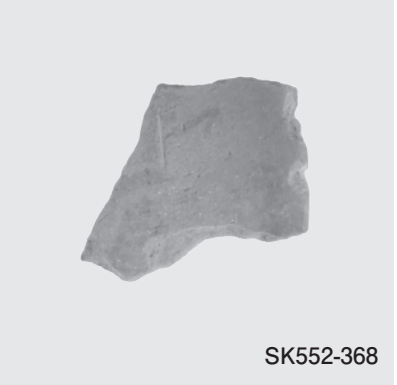
SI50-212

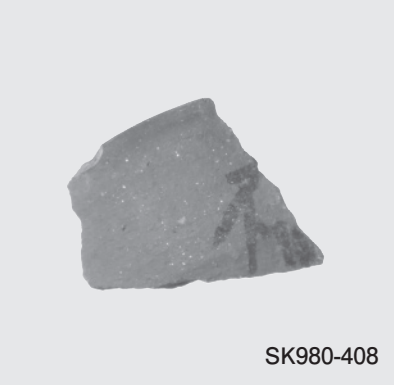
SB6-273

SB19-362


SB24-295


SB28-302

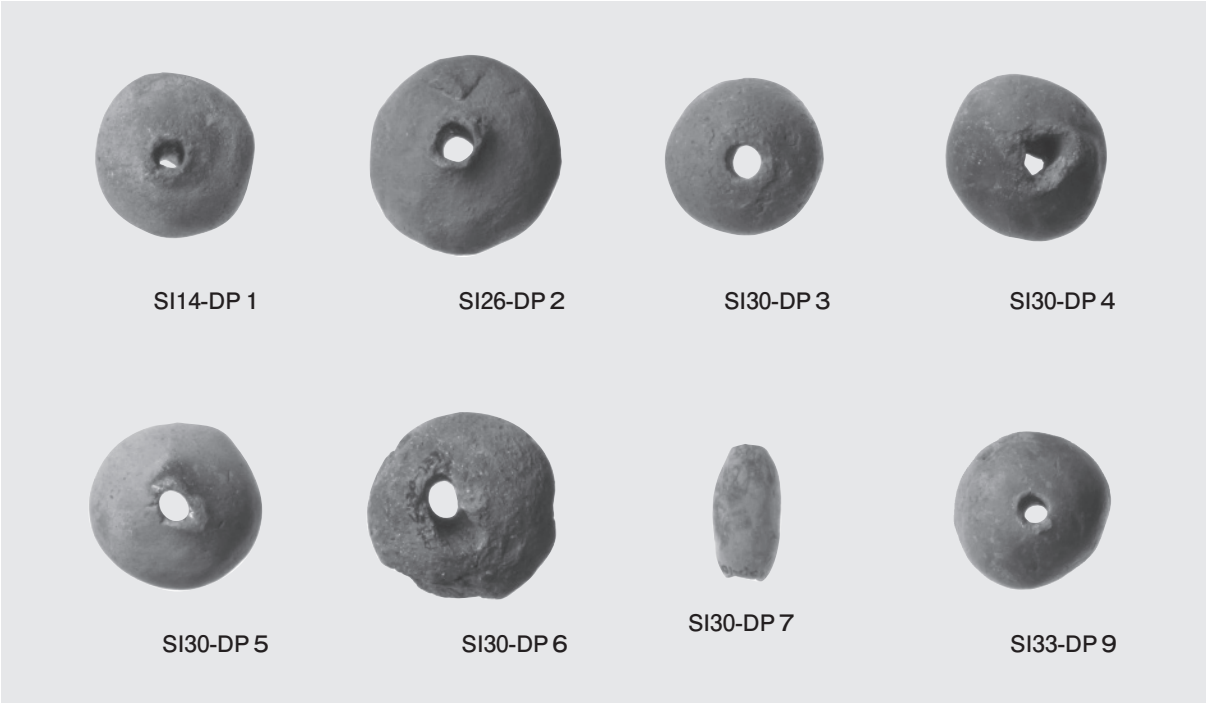

SK552-368


SK980-408

SK242-346

SK552-367

第35・48・50号住居跡，第６・19・24・28号掘立柱建物跡，第242・552・980号土坑出土墨書土器



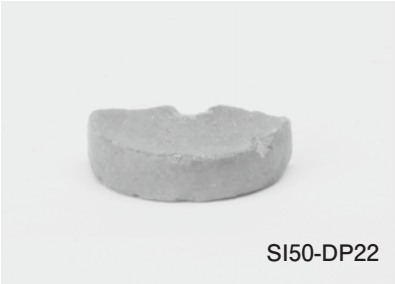
第12・14・25・26・30・33・45・54・67・72・79号住居跡，第19・36号掘立柱建物跡，第２号方形竪穴遺構，第897号土坑，遺構外出土土製品

SI48-DP21

SI50-DP23

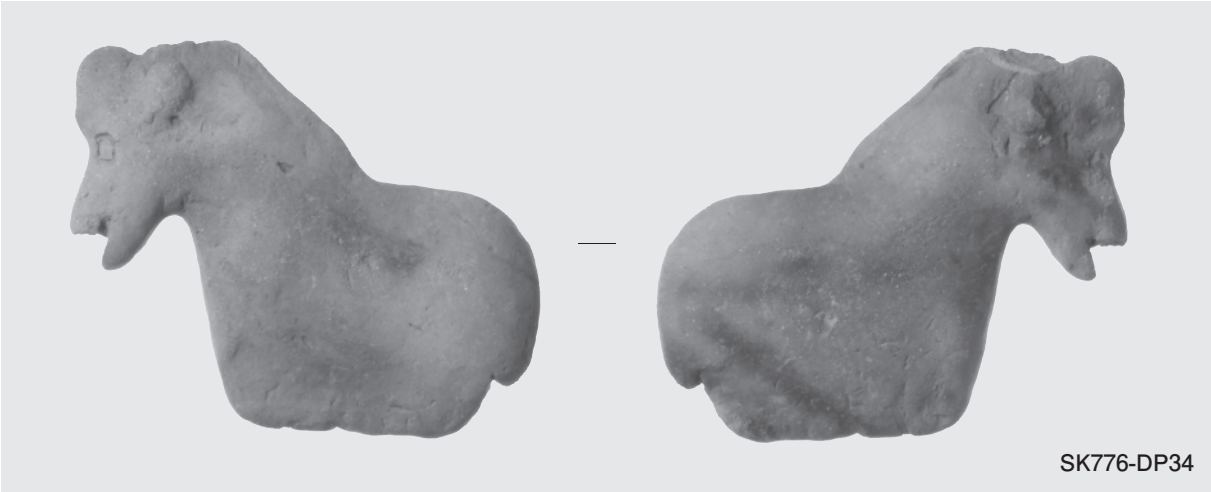
SI67-DP25

SI81-DP27

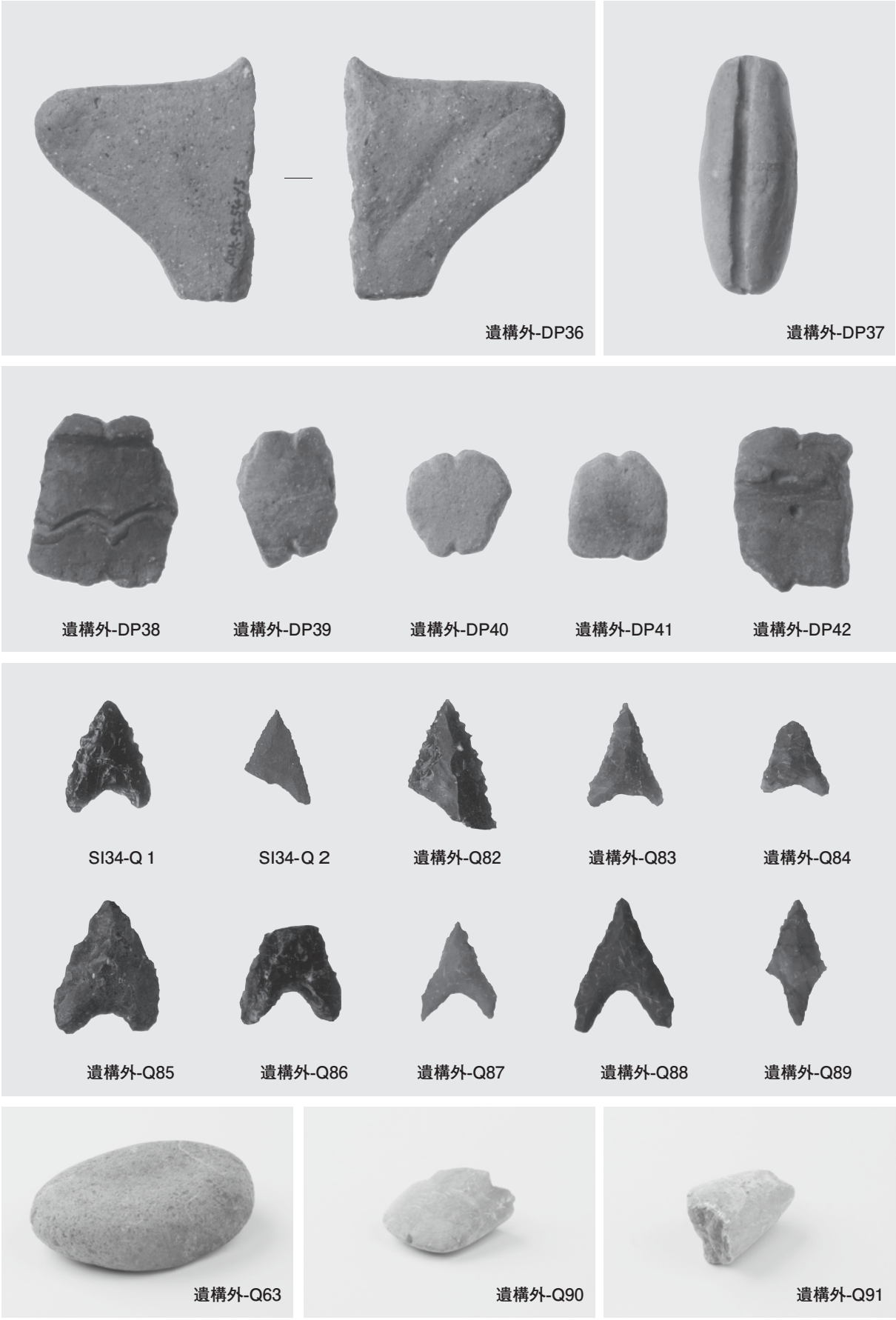

SI50-DP22

SB19-DP30

SB19-DP31

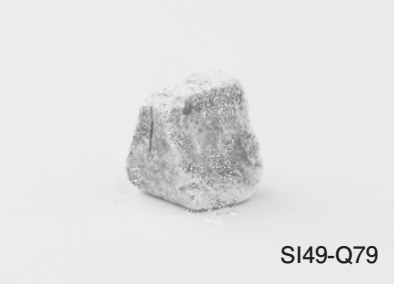

SK776-DP34

第48・50・67・81号住居跡，第19号掘立柱建物跡，第776号土坑出土土製品



第34号住居跡，遺構外出土土製品・石器

SI12-Q78


SI49-Q79

SB19-Q81

SI72-Q77

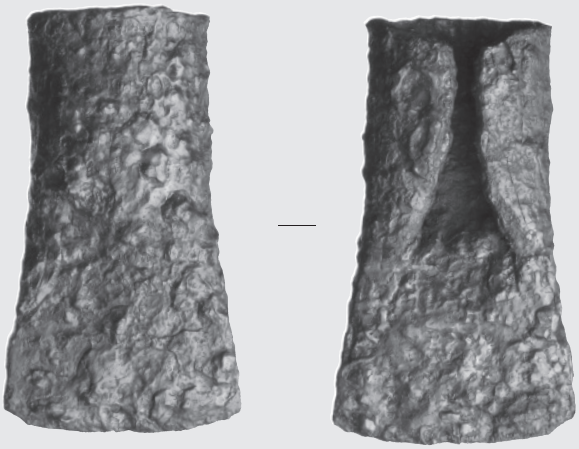
SI36-M 1

SI67-M14

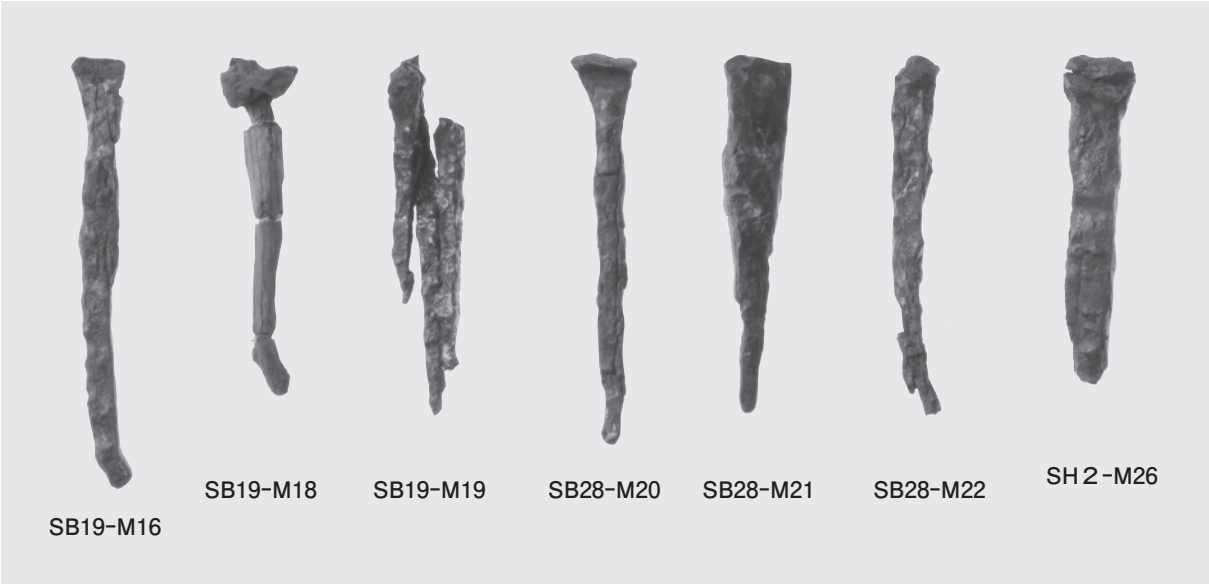
SB２-M７

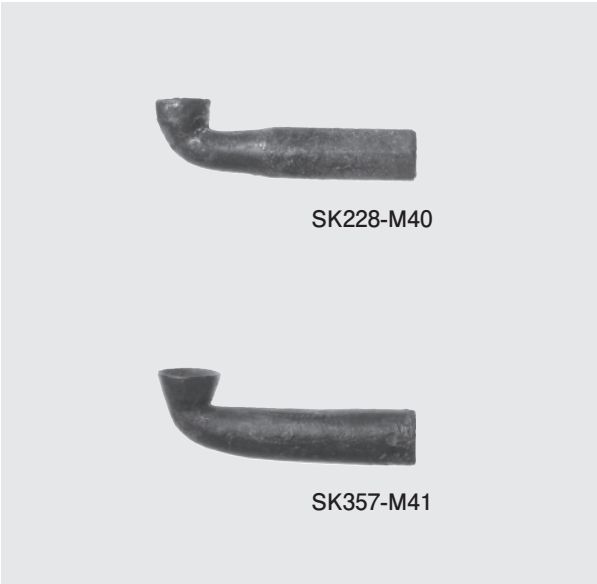
SI78-M15

SK222-M31


SI54-M４

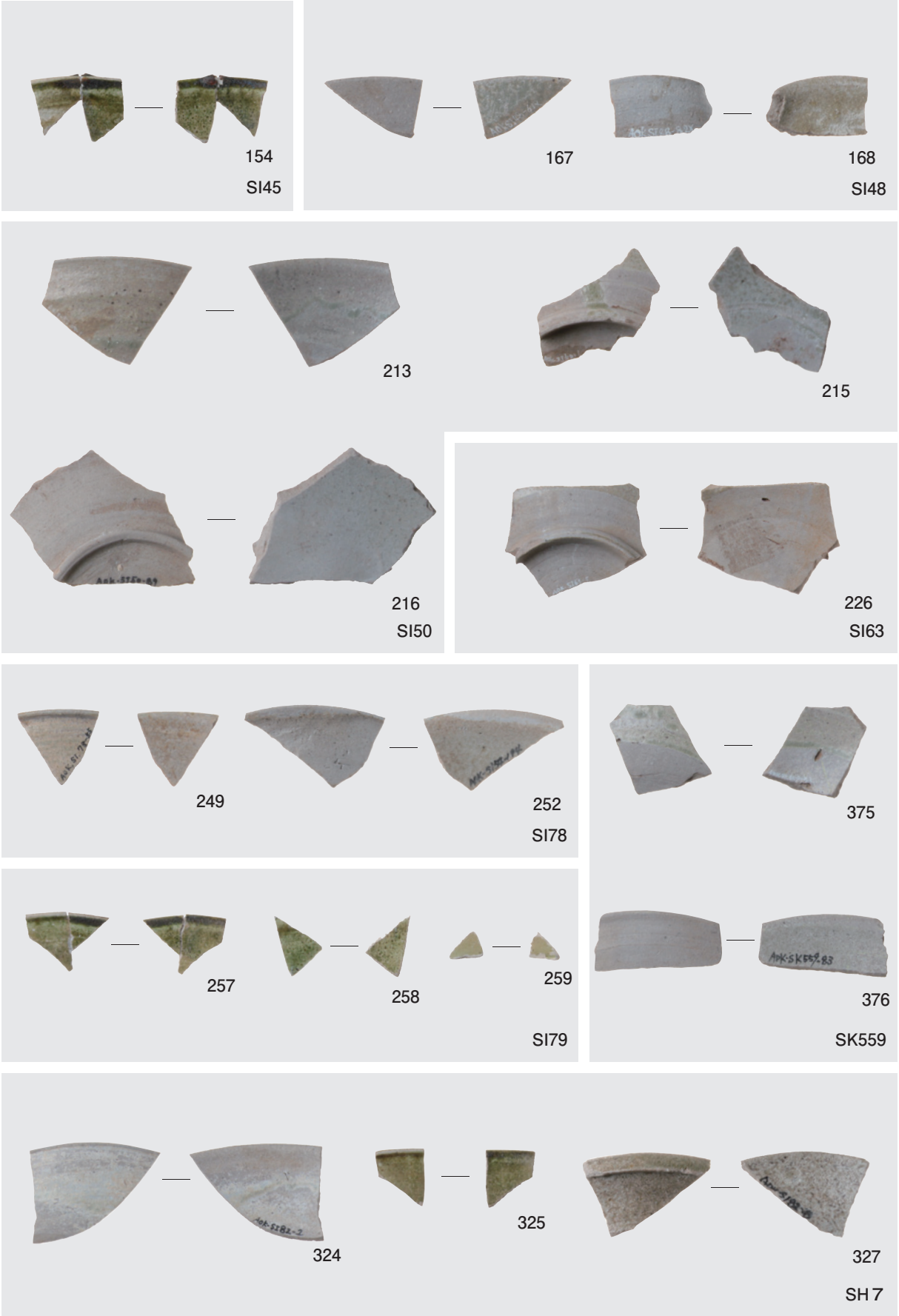
第12・36・49・54・67・72・78号住居跡，第２・19号掘立柱建物跡，第222号土坑出土石製品・鉄製品





第49・56号住居跡，第19・28号掘立柱建物跡，第２号方形竪穴遺構,第228・357・565号土坑出土金属製品

第37・49号住居跡出土灰釉陶器・緑釉陶器



第45・48・50・63・78・79号住居跡，第７号方形竪穴遺構，第559号土坑出土灰釉陶器・緑釉陶器

抄　　録

ふりがな	こさくいせき
書名	小作遺跡
副書名	主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	Ⅳ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第346集
著者名	清水　哲　　舟橋　理
編集機関	財団法人茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　ＴＥＬ 029－225－6587
発行日	2011（平成23）年3月23日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
小作遺跡（こさくいせき）	茨城県稲敷郡阿見町大字追原字道地台1970番地ほか（いばらきけんいなしきぐんあみまちおおあざおっぱらあざどうち だい ばんち）	08443－179	36度1分9秒	140度15分21秒	14～25 m	20090201～20090717	9,476 ㎡	主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小作遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡　4軒 掘立柱建物跡　3棟	縄文土器，石器（鏃・磨製石斧）	古墳時代前期は，東海系や南関東系の古式土師器，奈良時代は銅鋺を模倣した畿内系の暗文土師器，平安時代は11字の仮名文字が墨書された土師器坏や施釉陶器，土馬などが出土しており，各時代を通じて他地域との文化的・経済的交流が認められる。
		古墳	竪穴住居跡　12軒 土坑　1基	弥生土器，土師器，須恵器，土製品（土玉・管状土錘）	
		奈良	竪穴住居跡　8軒 掘立柱建物跡　13棟	弥生土器，土師器，須恵器，土製品（土玉），石製品（砥石），金属製品（鏃・鎌・斧），瓦（平瓦）	
		平安	竪穴住居跡　24軒 掘立柱建物跡　16棟 方形竪穴遺構　11基 大型円形土坑　1基 土坑　26基 ピット　2か所	土師器，須恵器，灰釉陶器，緑釉陶器，土製品（土玉・管状土錘・紡錘車・土馬・支脚），石製品（砥石），金属製品（鎌・刀子・閂・鉤・釘）	
		不明	竪穴住居跡　1軒 掘立柱建物跡　7棟 ピット群　5か所 ピット　366か所		
	その他	縄文	陥し穴　6基		
		不明	道路跡　1条 溜井跡　1か所 溝跡　18条 土坑　160基	陶器，磁器，金属製品（煙管）	

要約	縄文時代中期，古墳時代前期，奈良時代から平安時代にかけての集落跡を確認した。特に，平安時代には三面庇付きの大形の掘立柱建物跡が出現し，仮名文字が書かれた墨書土器をはじめ，饗宴に用いられたとみられる供膳具類や大甕，施釉陶器などが多数出土していることから，古代の信太郡小方郷における有力豪族の居宅と考えられる。

印　刷　仕　様

編　　集	ＯＳ	Microsoft Windows XP
		Professional Version2002.ServicePack3
	編集	Adobe Indesign CS３
	図版作成	Adobe Illustorator CS３
	写真調整	Adobe Photoshop CS４
	Scanning	６×７film　Nikon SUPER COOLSCAN9000
		図面類　EPSON GT-X750
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写　　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　　刷	印刷所へは，Adobe Indesign CS３でレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第346集

小　作　遺　跡

主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

平成23（2011）年　３月17日　印刷
平成23（2011）年　３月23日　発行

発行　財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
ＴＥＬ　029－225－6587
Ｈ　Ｐ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　株式会社高野高速印刷
〒310－0853　水戸市平須町1822－122
ＴＥＬ　029－305－5588